

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成18年6月

弓削商船高等専門学校

目 次

対象高等専門学校の現況及び特徴	1
目的	2
基準ごとの自己評価	
基準 1 高等専門学校の目的	4
基準 2 教育組織（実施体制）	27
基準 3 教員及び教育支援者	77
基準 4 学生の受入	121
基準 5 教育内容及び方法	143
基準 6 教育の成果	297
基準 7 学生支援等	339
基準 8 施設・設備	455
基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	478
基準 10 財務	526
基準 11 管理運営	536
選択的評価事項に係る目的	567
選択的評価事項 A 研究活動の状況	569
選択的評価事項 B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	604

対象高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

弓削商船高等専門学校

(2) 所在地

愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000

(3) 学科等構成

学 科：商船学科，電子機械工学科，情報工学科

専攻科：海上輸送システム工学専攻，

生産システム工学専攻

(4) 学生数及び教員数

(平成18年5月1日現在)

学生数：学 科618名

専攻科 26名

教員数：54名

2 特徴

(1) 沿革概要

本校は、明治34年に学校組合立の弓削海員学校として設立された。以後、組合立甲種商船学校、県立商船学校、国立商船学校、国立商船高等学校と幾多の変遷を経て、昭和42年に国立弓削商船高等専門学校となった。高等専門学校昇格時は航海学科と機関学科の2学科であったが、海運界の好況を受けて昭和44年に機関学科1学級が増設された。しかし、オイルショックによる海運界の衰退と経営状態の変化により、船舶職員の求人数が大幅減となったため、陸上企業への進出を計って、昭和60年に機関学科1学級が電子機械工学科に改組された。さらに、昭和63年には、情報技術者の需要急増に応えるべく航海学科及び機関学科が商船学科(N・Eコース)と情報工学科に改組された。このようにして、3学科体制(商船学科、電子機械工学科、情報工学科)となり、平成17年4月には専攻科の海上輸送システム工学専攻と生産システム工学専攻が設置され、現在に至っている。

(2) 目的の背景

本校は長く、専門分野の基礎的な学理と技術者に必要な能力を身につけさせ、我が国および国際社会に貢献できる実践的技術者の育成を教育方針に掲げてきた。しかし、科学技術の急速な高度化・複合化、グローバル化に

伴って、技術者に対して豊かな創造性、国際感覚・倫理観が強く求められていることを考慮し、平成14年度より、時代に沿った教育方針(目的に掲載)を掲げている。以下に、本校教育の主な特徴を挙げつつ、それぞれに若干の説明を加える。

まず、本校の有する練習船「弓削丸」を商船学科だけでなく、工業系2学科の実習や卒業研究等に活用している。この狙いは、専攻している分野だけでなく広く他の分野(海洋科学、船の知識、船内人間工学等)にも好奇心を抱かせ、複眼的素養を身に付けさせようとする点にある。また、専門的な知識を深めることだけでなく、バランスのとれた人格の形成を目指してクラブ活動、ロボコン、プロコン、ソーラーボート大会等への積極的な参加を呼びかけている。特に、プロコンは毎年優秀な成績を収めている。このような教育に適した優秀な人材確保のためには、全教員による中学校訪問、オープンカレッジ、体験入学、地域のイベントへの開催・参加、各種アンケートの実施等の活動を積極的に展開している。

次に、本校は瀬戸内海島嶼部に位置し、且つ海事関連産業により繁栄している「しまなみ海道」地域唯一の高等教育機関である。このような環境の下で、本校が果たすべき役割の一つとして、学生寮の充実がある。生活の便だけでなく、団体生活を通して責任と規律ある基本的な生活習慣を育成することを目指している。全教員による宿直体制は、中学校卒業年代の多感な寮生の指導を重視し、寮生の生活指導および学習指導を教員の重要業務として位置付けている。もう一つは、地域社会との連携にある。平成14年度には、地域社会との連携を図るために地域共同研究推進センターを設置し、技術相談窓口を明確化した。また、平成18年度には研究の活性、技術の提供、研究基金の獲得を目指して技術振興会を発足させる予定である。

学校運営に関しては、学外有識者による運営諮問会議の開催や教育に関する各種アンケートを実施して、学内外からのニーズに対応している。また、高専機構本部の中期計画で「大学・高専等との連携」の推進が盛り込まれている。これを受けて、本校も海洋に関する得意な分野を中心に高専間の連携の強化を図っている。

目的

1. 弓削商船高等専門学校の使命

本校は、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること（学校教育法第70条の2）」に基づき、商船及び工業に関する実践的中堅技術者を養成して、わが国の産業の発展に寄与することを使命としている。

2. 教育目標

高専は5年一貫制(商船系は5年6か月)、少人数、実験・実習を効果的に生かした複線型の高等教育機関で、卒業生は大学卒業生と同等の技術力を有すると評価されている。専門の学芸、つまり学問と技術を教授することを主眼としており、研究機関としての機能は有していないが、教育内容を学術の進展に即応させるため、研究能力のある教員を多数採用し、研究活動も活発に行われている。

本校では、実践的技術者の養成を目指して、高度化する海技技術者養成への対応、実験・実習の重視による「ものづくり」ができる実践的技術者の養成、教授陣容を磐石にするために優れた教員の確保に努めてきている。これらに加えて、学生の評価による授業の改善、補習授業の奨励、教員による教育研究集会の実施等を全校的に推進して、教育の充実を目指している。

また、平成17年度に設置された専攻科は、最先端の知識の教授のみならず、工学の基本的知識を縦横に応用でき、問題提起能力、解析能力及び問題解決能力を高めるような教育を行うことを目的としている。

3. 教育研究活動等を実施するための基本方針

(教育方針)

本校の教育方針は、科学技術の急速な高度化・複合化、豊かな創造性の涵養、グローバル化の進展を視野に入れて国際感覚と豊かな人間性の育成を目指して、次のように定めている。

自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。

身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、創造性のある人材の育成。

日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものが見られ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

(学科ごとの養成すべき人材像)

沿革にも示されたように、本校では商船学科、電子機械工学科、情報工学科の3学科制であり、これに校内措置で作った総合教育科が加わる。各学科の養成すべき人材像は以下の通りである。

(1) 商船学科

豊かな教養と高度な専門技術を身につけた船舶職員を育てることを目的にした学科で、卒業後、口述試験に合格すれば三級海技士免許が取得できる。このような教育課程に加えて、基礎工学・実験実習・卒業研究等を卒業要件に取り入れることで、内航・外航船舶の近代化に対応している。この他、海洋に関する選択科目の導入、「船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約」への対応など、不断の改革がなされてきている。これを踏まえて、本校の中期計画において、養成すべき人材像を「船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成」と明記している。

(2) 電子機械工学科

基本的な工学(機械・電気・電子・情報・システム・制御)を複合させた、いわゆるメカトロニクス時代に対応できる教育を教授する学科であり、専門知識を持ち、かつ技術の対象をトータルシステムとして捉える広い視野を備えた技術者の育成を目的としている。中期計画において、養成すべき人材像を「ものづくりのできる実践的な技術者 - 計画・設計から生産・保守運用までできる技術者 - の育成」と定めている。

(3) 情報工学科

ソフトウェア技術者の養成、情報処理及びその利用技術に関する専門知識を教授することで、幅広い見識と創造力を持った実践的情報技術者を育成している。また、立地環境を生かして、海洋関連の授業を導入し、海洋系情報の知識も習得できるのが特徴である。養成すべき人材像を「情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成」と定めている。

(4) 専攻科

海上輸送システム工学専攻と生産システム工学専攻の2つの専攻を設置している。海上輸送システム工学専攻は、商船学科を基盤とし、それを発展させた高度な海技技術者と船舶管理技術者の育成を目指している。生産システム工学専攻は、電子機械工学科と情報工学科を基盤にした複合学科で、IT化されたものづくりのトータル技術者の育成を目指している。両専攻に共通の養成すべき人材像は、中期計画において「実際のシステムの運用・管理や開発能力、ものづくりに必要な基礎理論の応用力を身に付けた技術者の育成」と定めている。

4. 運営方針

高専の目的及び社会的使命を達成するため、自己点検評価委員会('92)を発足させ、教育研究・管理運営等の学校の活動について点検・評価し、自己点検評価報告書にまとめてきた。また、大学、中学校、地域社会、近隣企業など学外の有識者よりなる運営諮問会議を毎年開催して、意見を学校運営に反映させている。

5. 大学・高専等との連携

海洋や船に関することをテーマにした連携であること、本校が事業の中心になって推進できることを念頭においている。例えば、四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」と題して、海洋と環境に関する講義と練習船「弓削丸」を活用した実習を継続して実施している。また、商船高専連携によるe-操船支援システムプロジェクトを実施することで、若者の持つ創造力を開眼させようとしている。

6. 就職指導

就職状況については、これまでに経験した不況の外、今日の社会的な構造の変化に伴う、各企業ともに求人が厳しい状況下でも、就職指導委員会や就職担当主任を中心とする不断の努力によって、本校における求人倍率および就職率は、ともに高い水準を保っている。

7. 施設・設備

本校には、練習船「弓削丸」、情報処理教育センター、図書館及び地域共同研究推進センターが設置されている。これらの設備の有効活用や、設備の拡充を審議するため、委員会を設置して円滑な運用を図ってきている。特に、練習船「弓削丸」は、航海実習、研究航海、公開講座、高専間交流事業、地域への協力、「一日船長」等に幅広く活用されている。

8. 留学生

本校は、在校生への異文化の紹介や語学力向上のための支援を兼ねて、外国人留学生の受入を積極的に行っている。平成16年度までの受入数は、平成3年度のマレーシアからの留学生を皮切りに、商船学科6名、電子機械工学科14名、情報工学科12名、合計32名である。

9. 中期計画

教育の高度化、活性化、創造性及び個性化を推進するために、以下の取り組みを重点的に行っている。高度化に対しては専攻科の設置と地域共同研究推進センターの活用、活性化に対しては教育内容の改善と地域に貢献できる研究の奨励と実施、創造性に対しては創造力・開発能力の涵養、個性化に対しては練習船「弓削丸」の活用である。さらに、創造性に関しては、プロコン・ロボコン・ソーラーボートに代表される各種コンテストやインターンシップへの積極的な参加および本科の創造教育の具体化の検討を行っている。また個性化に関しては、本校の教育を特徴づける重要な課題であり、全学を挙げて継続的に取り組むべき事項と認識している。

基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1 - 1 - : 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校の目的は、創設時に明確に定め、学則に掲げている(資料 1 - 1 - - 1)。百余年の長期にわたる商船教育に加えて、工業系 2 学科(電子機械工学科、情報工学科)が改組により設置されたものの、基本的には本校の目的は変わらない。

また、平成 14 年度には、学校として養成したい人材像及び学科ごとの養成したい人材像を定めることで、卒業時に習得すべき資質と学力をより具体的に示し、本校の中期計画、学校要覧、ホームページに掲載している。

(教育方針)

自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。

身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成。

日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものが見られ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

(養成したい人材像)

教 養 教 育：幅広い視野に立った総合的な判断力、斬新な創造力を備えた実践的技術者養成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指す。

商 船 学 科：船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成。

電子機械工学科：ものづくりのできる実践的な技術者 - 計画・設計から生産・保守運用までできる技術者 - の育成。

情 報 工 学 科：情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成。

専 攻 科：実際のシステムの運用・管理や開発能力、「ものづくり」に必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成。

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は、高等専門学校の使命を明確に定めている。また、目的に基づいて学校及び学科ごとの教育方針として、養成すべき人材像を具体的に定めている。

以上のことから、本校は、高等専門学校としての目的を明確に定めているといえる。

資料 1 - 1 - - 1

弓削商船高等専門学校学則

制 定 昭和44年 1月 1日

最終改正 平成18年 2月 16日

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第 2 章 修業年限、学年、学期、休業日及び授業終始の時刻

(修業年限)

第 2 条 修業年限は、商船に関する学科については5年6月とし、工業に関する学科については5年とする。

2 商船に関する学科の修業年限のうち、4年6月を席上課程とし、1年を練習船による実習課程とする。

(学年)

第 3 条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。ただし、商船に関する学科の卒業年次にあつては、4月1日に始まり、翌年9月30日に終わる。

(学期)

第 4 条 学年を分けて、次の2学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第 5 条 休業日は、次のとおりとする。ただし、特別の必要があるときは、校長は、これらの休業日を授業日に振り替えることがある。

(1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(2) 日曜日及び土曜日

(3) 創立記念日 1月11日

(4) 春季休業 4月1日から4月7日まで

(5) 夏季休業 7月21日から8月31日まで

(6) 冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで

(7) 学年末休業 3月20日から3月31日まで

2 前項に規定する休業日のほか、臨時の休業日は、校長がその都度定める。

(授業終始の時刻)

第 6 条 授業終始の時刻は、校長が別に定める。

第 3 章 学科、学級数、入学定員及び職員組織

(学科、学級数及び入学定員)

第 7 条 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

出典：弓削商船高等専門学校学則

観点 1 - 1 - 1 : 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものではないか。

(観点に係る状況)

本校の教育方針は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的である「深く専門の学芸を教授」「職業に必要な能力の育成」を踏まえて、定められたものである(資料 1 - 1 - 1 - 1)。平成 16 年度の独立行政法人化を機に、有識者による外部評価を実施し、本校の教育目的、方針を含む学校運営に関する自己点検評価報告書を作成することで諮問を受けている(資料 1 - 1 - 1 - 2)。

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的を踏まえて策定されている。また、有識者による外部評価を実施することで諮問を受けている。さらに、学科ごとの教育方針として、養成すべき人材像も具体的に定めている。

以上のことから、本校の目的は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものではないといえる。

資料 1 - 1 - - 1

高専の教育目的と本校の教育方針との整合性

高専の教育目的	本校の教育方針
深く学芸を教授	自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
職業に必要な能力の育成	身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

出典：自己点検評価委員会

資料 1 - 1 - - 2

2-2. 本校の教育目的・方針

本校の教育目的は、学則第一条に次の通り定められている(昭和44年)。すなわち、教育基本法(S22年法律第25号)及び学校教育法(S22年法律第26号、第5章の2)に基づいて、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」。これは高専の設置目的と一致している。また、教育方針として、「専門の基礎的な学理と職業に必要な能力を身につけさせ、国家社会に貢献できる人材の育成」が掲げられてきた。教育方針については平成14年度に見直され、科学技術の急速な高度化・複合化、豊かな創造性の涵養、グローバル化の進展を視野に入れて国際感覚と豊かな人間性の育成を目標として、以下のように改められた。

- ①自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。
- ②身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、創造性のある人材の育成。
- ③日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものが見られ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

出典：平成16年度自己点検評価報告書

観点 1 - 2 - : 目的が、学校構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育目的は、ホームページ及び刊行物等により学校構成員（教職員及び学生）に掲載されている。

本校の目的は、学内専用ホームページ（資料 1 - 2 - - 1）による一般的な周知のほか、学生には学生便覧（規則等の項目）にて周知している。

教育方針（養成すべき人材像等）は、本校ホームページ（資料 1 - 2 - - 2）による一般的な周知のほか、学生には、学生便覧（資料 1 - 2 - - 3）及びシラバス（資料 1 - 2 - - 4）により周知している。教職員には、学科ごとの教育方針を明記した中期計画書（資料 1 - 2 - - 5）、学級担任の手引き（資料 1 - 2 - - 6）及び新任教員手引き（資料 1 - 2 - - 7）を配布することにより周知している。

上述した刊行物等の配布に加えて、本校の目的及び教育方針は、各教室・各課事務室に、養成すべき人材像を明記したパネルの掲示、新入生オリエンテーション、新任教員オリエンテーションで刊行物を活用して教務主事が説明することで周知している（資料 1 - 2 - - 8）。

（分析結果とその根拠理由）

本校は、教職員及び学生に対して、ホームページや刊行物等によって目的及び教育方針の周知を図っている。以上のことから、目的が、学校構成員（教職員及び学生）に周知されているといえる。

資料 1 - 2 - - 1

2006年6月16日(金) 三村 秀樹さん 在席

更新 ログアウト

管理者設定 ヘルプ

マイWeb Portal Office

検索 検索オプション

ライブラリ

フォルダ

- 規則集 [133]
- 校報 [3]
- 校長 [0]
- 事務部 事務部長 [0]
- 庶務課 [24]
- 会計課 [21]
- 学生課 [6]
- 商船学科 [0]
- 電子機械工学科 [0]
- 情報工学科 [0]
- 総合教育科 [0]
- 練習船弓削丸 [0]

サムネイル表示

一覧表示	見出し	サイズ	拡張子	最終更新日
詳細	規則一覽表	50KB	xls	2006年6月16日
詳細	1-1 弓削商船高等専門学校 学校学則	579KB	doc	2006年8月24日
詳細	2-1 弓削商船高等専門学校 学校運営委員会規則	23KB	doc	2006年8月24日
詳細	2-2 弓削商船高等専門学校 学校自己点検評価委員会規則	24KB	doc	2006年8月24日
詳細	2-3 弓削商船高等専門学校 学校人事委員会規則	23KB	doc	2006年8月24日
詳細	2-4 弓削商船高等専門学校 学校人事委員会専門委員会設置要項	22KB	doc	2006年8月24日
詳細	2-5 弓削商船高等専門学校	23KB	doc	2006年8月24日

スタート

ライブラリ - MyWe...

送信済みアイテム...

認証評価(平成1...

標準1 - Microso...

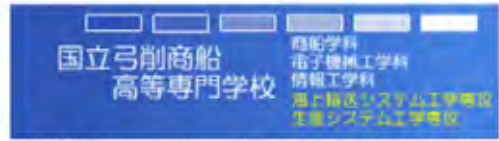
インターネット

17:35

出典：学内専用ホームページ

資料 1 - 2 - - 2

弓削商船高等専門学校 - Yuge National College of Maritime Technology 1/1 ページ



- [HOME](#)
- [ニュース](#)
- [お問い合わせ](#)
- [リンク集](#)
- [サイトマップ](#)

弓削商船高等専門学校 ◆

☐ **メインメニュー**

- [ホーム](#)
- [ニュース](#)
- [学校案内](#)
- [本校の環境への取り組み](#)
- [入試情報・アドミッションポリシー](#)
- [シラバス](#)
- [学事予定表](#)
- [FAQ](#)
- [ダウンロード](#)
- [リンク集](#)
- [本校へのアクセス](#)
- [お問い合わせ](#)

☐ **学内WWWサーバ**

- [情報処理教育センター](#)
- [図書館](#)
- [白砂寮](#)
- [同窓会](#)
- [WebMail](#)
- [MyWeb\(学内ポータル\)](#)
- [文書公開サーバ](#)

☐ **学生向け情報**

- [学生連絡](#)
- [授業変更](#)

☐ **訪問者数**

今日	369
昨日	995
総数	648232

☐ **検索**

高度な検索

☐ **弓削商船高等専門学校**

〒794-2593愛媛県越智郡
上島町弓削下弓削1000
TEL 0897-77-3000

☐ **本校の教育方針**



- 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。
- 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成。
- 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

☐ **最新ニュース**

- 2006-3-24 機関別認証評価に係る訪問説明会
- 2006-2-24 弓削商船高等専門学校で公開授業
- 2006-2-24 弓削商船高専で就職講演会を開催
- 2006-2-22 岩城村イベントにロボット展示
- 2006-2-15 第27回四国地区高等専門学校駅伝で優勝
- 2006-2-10 キャンパスベンチャーグランプリ四国にて特別賞、努力賞
- 2006-2-7 校内マラソン大会を実施
- 2006-1-19 第2回e-Learning創造性教育セミナーのインターネット中継のご案内
- 2005-12-16 弓削商船高専で学生研究発表会
- 2005-12-16 教員対象のカウンセリング教育に関する講演会を実施

☐ **新着記事**

- 商船学科5年 Eコース (2006-4-25)
- 商船学科5年 Nコース (2006-4-25)
- 商船学科4年 Eコース (2006-4-25)
- 商船学科4年 Nコース (2006-4-25)
- 商船学科3年 (2006-4-25)

☐ **今後の予定**

- ▶ 5月20日 瀬戸内2校定期戦
- ▶ 5月22日 追認試験(第2回)
- ▶ 5月24日 M1航海実習

☐ **授業時間変更**

予定なし

☐ **新着ダウンロード**

- 専攻科だより 第6号 (2006-5-8)
- 専攻科だより 第4号 (2006-4-10)
- 専攻科だより 第5号 (2006-4-10)
- 紀要 第28号 平成18年2月 (2006-3-24)
- 図書館だより 2003 (2006-3-24)

Copyright (c) Y.N.M.C.T 2005. All rights reserved.
This page is Link free

出典：本校ホームページ

資料 1 - 2 - - 3

教 育 方 針

- 1 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。
- 2 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成。
- 3 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

教 育 目 標

- 1 教養教育
幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育のための基礎的能力の涵養と教養の育成
- 2 専門教育
 - 商船学科
船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
 - 電子機械工学科
ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成
 - 情報工学科
情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成



出典：平成 18 年度学生便覧

資料 1 - 2 - - 4

本校の教育理念

- * 長所を伸ばし、短所を自然淘汰させる。
- * 好奇心を旺盛にし、自発的な思考力・探究心を培う。
- * 実践的に五感を磨き、豊かな感性と創造力を培う。
- * 人間性に富み、高い倫理観を有する人格を育てる。

本校の教育方針

- (1) 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
- (2) 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
- (3) 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

出典：平成 18 年度シラバス

資料 1 - 2 - - 5

弓削商船高等専門学校中期計画書

I 国立高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果に関して達成すべき内容・水準(徳育、創造性教育を含む)

① 教養教育

- 実践的技術者として備えるべき人文・社会系、体育ならびに理数系を含む教養教育や外国語能力の内容・水準

幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指す。

② 専門教育

- 実践的技術者として備えるべき内容・水準

商船学科

船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成

電子機械工学科

ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成

情報工学科

情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成

③ 専攻科教育

- 高度な実践的技術者として備えるべき内容・水準

海上輸送システム工学専攻・生産システム工学専攻

実際にシステムの運用・管理や開発能力、「ものづくり」に必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成

(2) 目標に掲げる内容・水準を達成するための教育指導等

① 入学者選抜

- 国立高等専門学校にふさわしい者を選抜するための入試方法に関する具体的方策

- ア 社会的ニーズや地域特性の変化に対応したアドミッションポリシーの定期的な見直し
- イ 新入生実力テストの実施と評価
 - ・ 年1回の実施と報告書の作成を行う。
- ウ 選抜方法の検討
 - ・ 入学生の追跡調査を行い、選抜方法についての検討を行う。
- エ 学校PRの拡充強化
- オ 商船学科4年生への編入学
 - ・ 教育課程の改善を行い、編入学生と第一種養成施設との整合性を検討する。

出典：弓削商船高等専門学校中期計画書

資料 1 - 2 - - 6

本校の教育方針

- 1 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
- 2 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
- 3 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

学科としての人材育成目標

- S 船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
 - M ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成
 - I 情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成
 - G 幅広い視野に立った総合的な判断力、斬新な創造力を備えた実践的技術者養成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指す
- 専 実際のシステムの運用・管理や開発能力、「ものづくり」に必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成

出典：学級担任の手引き

資料 1 - 2 - - 7

I. 教育一般に関して

1. 本校教育の現状と課題（自己点検評価報告書参照）

2. 本校の教育方針

本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目標とする」ことを教育の理念としている。

教育の理念を維持しつつも科学技術の発展や国際化など時代の要請に順応させるために次のような教育方針を掲げる。

- ①自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。
- ②身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成。
- ③日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

(1) 教養教育目標

幅広い視野に立った総合的な判断力、斬新な創造力を備えた実践的技術者養成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指す。

(2) 商船学科教育目標

船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成。

(3) 電子機械工学科教育目標

ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成。

(4) 情報工学科教育目標

情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成。

(5) 専攻科教育目標

実際のシステムの運用・管理や開発能力、「ものづくり」に必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成。

3. 本校教員としての心構えと勤務

(服装・勤務、社会人としての自覚、望ましい教師像)

別途説明会が実施されます。

出典：平成 18 年度新任教員の手引き

資料 1 - 2 - - 8

平成18年度

新任教員手引き

教務関係

弓削商船高等専門学校

出典：平成18年新任教員手引き

平成18年度新入生オリエンテーション日程表

4月7日(金)

時 間	内 容	担当教員	場 所
8:40 ~ 9:30	HR(日程説明、自己紹介) ※学生便覧配付	クラス担任	各教室
9:40 ~ 10:05	教務関係説明会	教務主事	アセンブリホール
10:05 ~ 10:30	学生関係説明会	学生主事	
10:40 ~ 11:30	学校施設紹介(図書館、情報処理教育センター、実習工場等)	クラス担任	校内
11:40 ~ 12:30	校外施設紹介(銀行、役場、郵便局、港等、学校棧橋の説明)	クラス担任	町内
12:30 ~ 13:20	昼食休憩		
13:20 ~ 14:10	国歌、校歌指導 集団行動等 ※体育館シューズを持参すること	学生主事 岡野郁子	第二体育館
14:20 ~ 15:10	級長、副級長決定	クラス担任	各教室
15:20 ~ 16:10	自転車登録 通学生(学生課前) 寮生(学寮)	クラス担任 教務主事・主事補	

出典：平成 18 年度新入生オリエンテーション実施要領

観点 1 - 2 - : 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育方針は、ホームページ(資料 1 - 2 - - 2)と学校要覧(資料 1 - 2 - - 1)に掲載することによって、社会に対して公表している。

また、主として中学生を対象とした学校案内(資料 1 - 2 - - 2)にも、教育方針と学科ごとの養成したい人材像を記載し、年 1 回実施しているオープンカレッジで全参加者に対して配布している(資料 1 - 2 - - 3)。

さらに、「しまなみ海道」(広島県尾道市と愛媛県今治市を架橋によって結ぶルート)を中心とした中四国地区の中学校に PR 活動を展開しており、入学案内を配布するとともに、学校の目的の説明を行っている(資料 1 - 2 - - 4)。

(分析結果とその根拠理由)

本校は、目的、教育方針、学科ごとの養成したい人材像をホームページに全て掲載している。また、中学生向けの学校案内には、教育方針、学科ごとの養成したい人材像を掲載しており、オープンカレッジや中学校訪問時に積極的に説明している。

以上のことから、目的が、社会に広く公表されているといえる。

資料 1 - 2 - - 1



校 長
President
西 垣 和
NISHIGAKI Kazu

教 育 方 針 Mission of College

1. 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、
高度化かつ多様化してゆく科学技術に
柔軟に対応できる人材の育成。

To educate students to acquire fundamental faculties of natural science and techniques of their special fields and to be able to keep up with new technology which is getting heigher and more various.

2. 身の回りの諸現象，特に海をとりまく
自然・文化・歴史に好奇心を抱き、
多角的に考えたり調べたりできる、
独創力のある人材の育成。

To educate students to be curious about phenomena around, especially nature, culture and histories related to the sea and to be able to consider and research them from various points of view.

3. 日本および世界の文化や社会に関心をもち、
国際的視野でものがみられ、
しかも人間として、技術者として
高い倫理観をもった人材の育成。

To educate students to be interested in the cultures and societies of Japan and overseas and to have international perspective and high morality as a human being and as an engineer.

出典：平成 18 年度学校要覧

資料 1 - 2 - - 2

平成 18 年度

国立 弓削商船高等専門学校

Yuge National College of
Maritime Technology

学 校 案 内

商船学科・電子機械工学科・情報工学科



出典：平成 18 年度学校案内

資料 1 - 2 - - 3

平成 17 年度オープンカレッジ実施要項
(体験入学・学校見学)

目的 近隣の中学校生徒に対して、本校での体験入学・学校見学等、身をもって体験してもらうことにより、本校の教育の一端を理解し、生徒が進路を考える上での情報を提供することを目的とする。

期 日 8月4日(木)・5日(金) 9:00~15:10

対 象 中学生・保護者・教員

参加費 無料

実施場所 弓削商船高等専門学校

日 程 両日とも実施内容は同じ。
9:00~受付 アセンブリホール前
9:30~校長挨拶・概要の説明
9:50~班分け
10:00~体験授業・実験・見学・体験航海
~15:10 (50分授業形式により各班ごとに実施。10分の休憩時アセンブリホールに集合し、次の希望授業等へ出発する。)

時間	コース	参加希望区分	学科等別の催し等
1時間目 10:00~ 10:50	体験授業	商船	ディーゼルエンジンを動かしてみよう・(定員8名程度)
		電子	ものづくりにとって大切なことは何だろう? [ものを切る, ものを壊してみる, ものの変形をシミュレーションする]
		情報1	プログラムでレーシングカーを走らそう・(定員20名程度) (2時間連続)
		情報2	タートルグラフィックスでプログラムを体験しよう・(定員20名程度) (2時間連続)
		総合	ドイツ語1日入門
	施設見学	見学1	商船学科の施設・設備・体験授業見学・PR
		見学2	電子機械工学科の施設・設備・体験授業見学・PR
見学3		情報工学科の施設・設備・体験授業見学・PR	
2時間目 11:00~ 11:50	体験授業	商船	シミュレーターで船を動かそう・(定員8名程度)
		電子	電気のおもしろさ
		情報1	1時間目からの連続
		情報2	1時間目からの連続
		総合	冷凍庫を使わずにアイスクリームを作ろう・(定員30名程度)
	施設見学	見学1	商船学科の施設・設備・体験授業見学・PR *学寮見学(希望者)
		見学2	電子機械工学科の施設・設備・体験授業見学・PR *学寮見学(希望者)
見学3		情報工学科の施設・設備・体験授業見学・PR *学寮見学(希望者)	
昼休憩 (パンとジュースを用意します。アセンブリホール)			
3時間目 13:20~ 14:10	体験授業	商船	おもしろいエンジンを組み立ててみよう・(定員8名程度)
		電子	ひとの動きについて
		情報1	科学の原理に親しもう(ミニ博物館) (定員20名)
		情報2	写真処理技術で銅版に絵を描いてみよう・(定員8名) (2時間連続)
		総合	クラブ活動紹介(将棋講座) (2時間連続)
	航海	本校練習船「弓削丸」の体験航海(2時間連続) (集合13:00:学校棧橋へ移動)	
4時間目 14:20~ 15:10	体験授業	商船	自動車ボディーの構造と材料・(定員20名程度)
		電子	コンピュータを使って遊ぼう
		情報1	ホームページを作ってみよう(定員10名)
		情報2	3時間目からの連続
		総合	3時間目からの連続
	航海	3時間目からの連続	

※区分欄の「総合」とは総合教育科のことで一般科目です。

その他 イ・定員のあるテーマもあります。申込多数の場合は第2, 第3希望にまわっていただくこともありますので、あらかじめご了承ください。
・2時間連続のテーマへは途中参加はできません。

申込方法 別紙のオープンカレッジ参加申込書に記入し、各学校で取りまとめの上、7月22日(金)までに郵送又はFAXで学生課教務係へお申込みください。

申込み・問い合わせ先

〒794-2593

愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地

弓削商船高等専門学校学生課教務係

TEL 0897-77-4620

FAX 0897-77-4693

出典：平成 17 年度オープンカレッジ実施要項

オープンカレッジ参加者数

2日間の合計参加人数

	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目
	人数	人数	人数	人数
商船	16	18	14	6
電子	40	11	30	55
情報1	26	26	33	16
情報2	9	9	12	12
総合	30	56	11	11
見学1	34	22		
見学2	0	19		
見学3	18	12		
航海			69	69
計	173	173	169	169

8月4日	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目
	人数	人数	人数	人数
商船	8	10	12	3
電子	31	10	21	39
情報1	11	11	15	6
情報2	5	5	6	6
総合	19	30	8	8
見学1	22	19		
見学2	0	9		
見学3	7	9		
航海			41	41
計	103	103	103	103

8月5日	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目
	人数	人数	人数	人数
商船	8	8	2	3
電子	9	1	9	16
情報1	15	15	18	10
情報2	4	4	6	6
総合	11	26	3	3
見学1	12	3		
見学2	0	10		
見学3	11	3		
航海			28	28
計	70	70	66	66

出典：学生課

資料 1 - 2 - - 4

平成 17 年度弓削商船高等専門学校「学校説明会」実施要領

- 1 日 時 平成 17 年 10 月 6 日 (木) 14:00～15:30
- 2 場 所 第 1 会議室
- 3 出席者
本校側 校長, 教務主事, 学生主事, 寮務主事, 商船学科長, 電子機械工学科長,
情報工学科長, 総合教育科長, 専攻科長, 事務部長, 学生課長, 教務係長

中学校側 別紙 1 により通知 (昨年度は 17 校より 17 名参加)
- 4 次 第
 - (1) 開会のことば
 - (2) 職員紹介
 - (3) 校長挨拶
 - (4) 学校概要説明
 - ① 教務概要 (教務主事)
 - ② 学生活動・就職状況 (学生主事)
 - ③ 学寮状況 (寮務主事)
 - ④ 入試関連事項 (教務主事)
 - ⑤ 各学科並びに総合教育科紹介 (各学科長及び総合教育科長)
 - ⑥ 専攻科紹介 (専攻科長)
 - (5) 質疑応答
 - (6) 閉会のことば

※ 希望者は施設, 設備見学 案内 (教務主事, 各学科長)
- 5 主要施設・設備案内の経路
図書館 → 情報処理教育センター → 情報工学科棟 → 電子機械工学科棟 →
実習工場 → 荒天航泊実験室 → 会議室

出典：平成 17 年度学校説明会実施要項

平成17年度学校説明会参加中学校

	市郡名	中学校名	校長	教頭	教諭	計
1	越智郡	弓削			1	1
2		生名			1	1
3		岩城			1	1
4		魚島				
5	今治市	吉海	1			1
6		宮窪				
7		西伯方				
8		伯方			1	1
9		大三島				
10		上浦				
11		美須賀				
12		日吉			1	1
13		近見				
14		立花				
15		桜井				
16		南				
17		西				
18		北郷	1			1
19	因島市	土生			1	1
20		三庄			1	1
21		因北			1	1
22		重井			1	1
23		田熊			1	1
24	尾道市	向島			1	1
25	豊田郡	瀬戸田				
26		生口			1	1
27	尾道市	久保				
28		長江				
29		栗原			1	1
30		日比崎				
31		吉和			1	1
32		美木				
33		高西				
34		浦崎			1	1
35		向東				
36		原田				
37		百島				
	計		2	0	15	17

参加校

17

出典：学生課

(2) 優れた点及び改善する点

(優れた点)

本校の目的等については、本校ホームページや刊行物により学生及び教職員に周知している。また、オープンカレッジや学校説明会などの参加者の多い行事には教育方針が記載された刊行物の配布と説明により社会に広く公表されている。

(改善する点)

該当なし

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校の目的は、学校及び学科ごとの教育方針として、養成すべき人材像を具体的に定めている。また、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものではない。

本校は、教職員及び学生に対して、ホームページや刊行物等によって目的及び教育方針の周知を図っている。以上のことから、目的が、学校構成員（教職員及び学生）に周知されているといえる。社会に対しては、本校の教育方針、学科ごとの養成したい人材像をホームページに全て掲載して公表している。また、中学生向けの学校案内には、教育方針、学科ごとの養成したい人材像を掲載しており、オープンカレッジや中学校訪問時に積極的に説明している。

基準 2 教育組織

(1) 観点ごとの分析

観点 2 - 1 - : 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点到係る状況)

本校は、発展する高度な科学技術、創造性、国際感覚、豊かな人間性に対応できる実践的技術者に加えて、海運・造船業などの海事関連産業により繁栄している「しまなみ海道」地域でも専門的知識が発揮できる実践的技術者を養成するために、商船学科、電子機械工学科、情報工学科の3つの学科を置いている(資料 2 - 1 - - 1)。これらの学科で養成したい人材像は、教養教育で培われる能力を含め、総合的な判断力、創造力、船員教育を基盤にした海事総合科学技術者、ものづくりの実践的技術者、問題分析と解決能力を備えた情報システム技術者の項目で構成されており、その内容は本校の教育方針を反映したものである(資料 2 - 1 - - 2, 資料 2 - 1 - - 3)。

(分析結果とその根拠理由)

学科の構成及び内容が教育の目的と本校の教育方針に適合している。また、地域のニーズに応えることができる海事関連学科、ものづくりおよび情報システム技術を基盤にした工業系学科の2学科でバランスよく構成されている。

以上のことから、学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているといえる。

資料 2 - 1 - - 1

第 7 条 学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

学	科	学 級 数	入学定員
商船に関する学科	商 船 学 科	1	40 人
工業に関する学科	電子機械工学科	1	40 人
	情 報 工 学 科	1	40 人

出典：弓削商船高等専門学校学則

資料 2 - 1 - - 2

組織 Organization

組織図

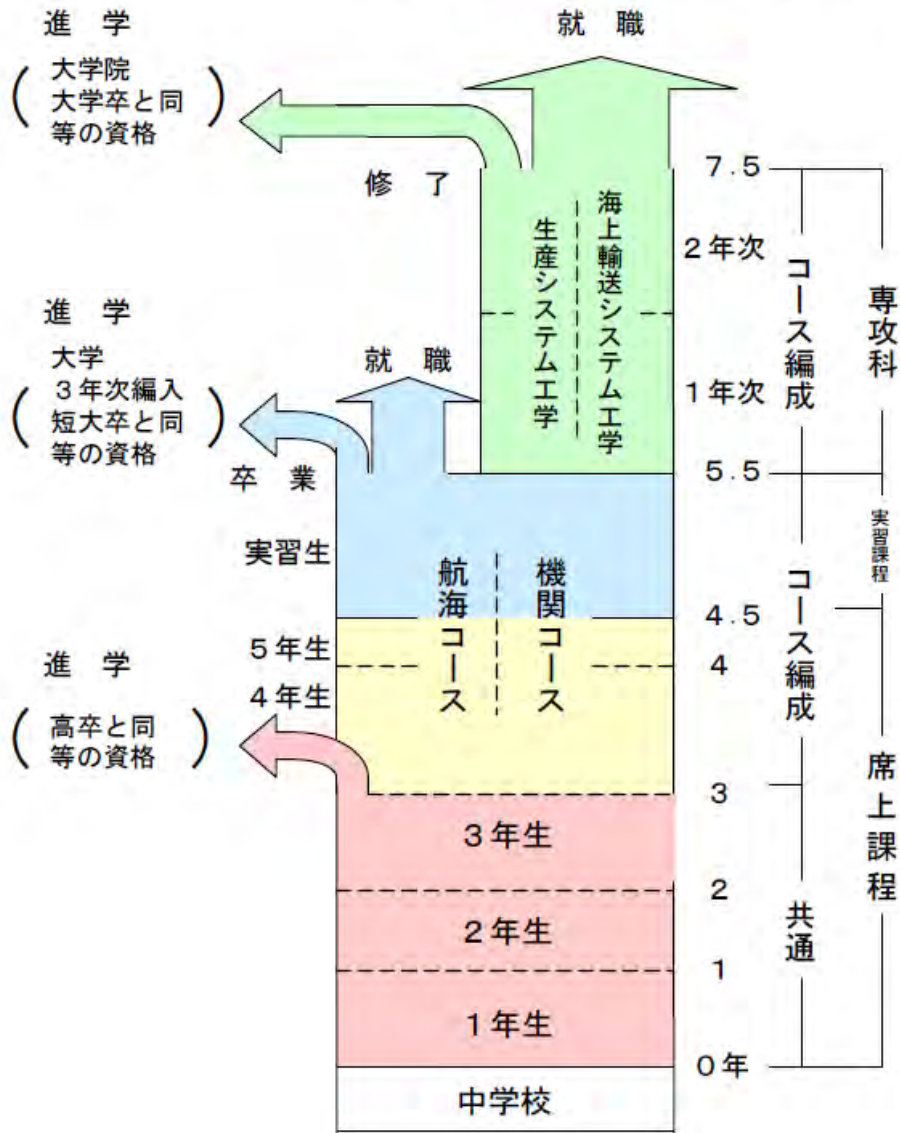
Organization Chart



出典：平成 18 年度学校要覧

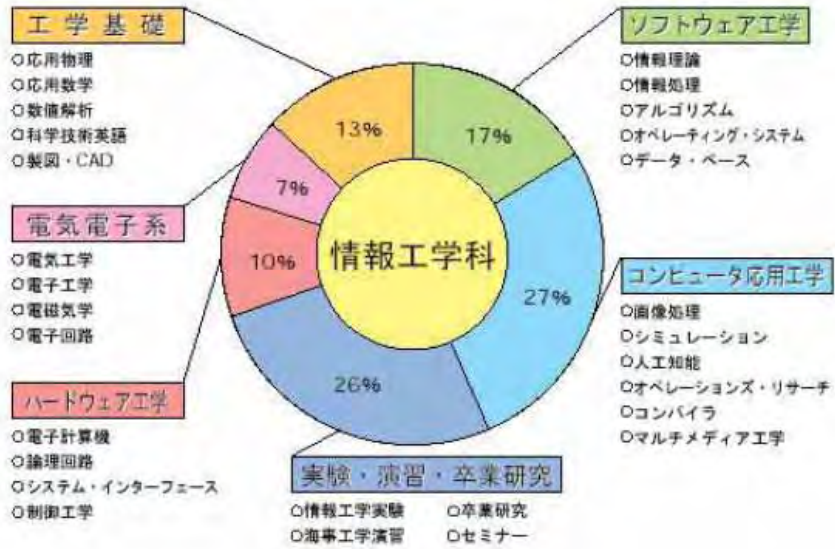
資料 2 - 1 - - 3

商船学科の教育課程と進路



出典：平成 18 年度学校案内

情報工学科の専門科目



出典：平成 18 年度学校案内

観点2 - 1 - : 専攻科が設置されている場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校は、学校教育法70条の6に基づき、学則(資料2 - 1 - - 1)で示すように、海上輸送システム工学専攻と生産システム工学専攻の2つの専攻を設置している。海上輸送システム工学専攻は、商船学科を基盤とし、それを発展させた高度な海技技術者と船舶管理技術者の育成を目指している。生産システム工学専攻は、電子機械工学科と情報工学科を基盤にした複合学科で、IT化されたものづくりのトータル技術者の育成を目指している(資料2 - 1 - - 2, 資料2 - 1 - - 2)。

(分析結果とその根拠理由)

2専攻とも基礎となる学科の上積み課程であることを踏まえて構築されており、教育の目的と本校の教育方針に適合している。以上のことから、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているといえる。

資料2 - 1 - - 1

第43条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

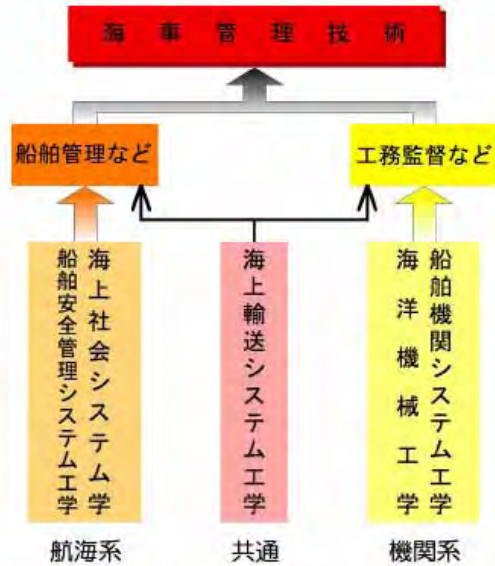
専 攻	入学定員
海上輸送システム工学専攻	4人
生産システム工学専攻	8人

出典：弓削商船高等専門学校学則

資料 2 - 1 - - 2

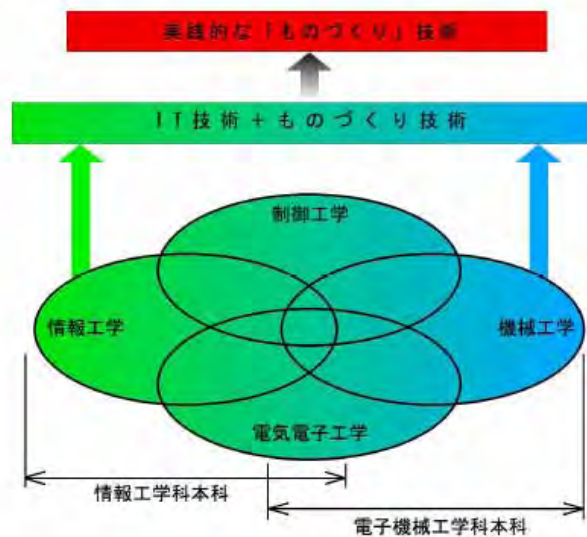
専攻科の概要

[海上輸送システム工学専攻]



グローバル化している海上輸送システムに対応できる技術者を目指します

[生産システム工学専攻]



情報技術とものづくり技術の融合を図ります

出典：庶務課

観点 2 - 1 - : 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校は全学生が共通で活用できる施設として、1) 校内練習船、2) 情報処理教育センター、3) 地域共同研究推進センター、4) 実習工場を設置している(資料 2 - 1 - - 1)。

校内練習船「弓削丸」及び実習船「はまかぜ」(校舎地区より西 1 km に位置する練習船係留場に係留)は、航海実習と海洋教育支援のための全学的な施設である。学生の航海実習、公開講座、洋上講座、四国地区 6 高専共同事業、体験航海等に幅広く活用している(資料 2 - 1 - - 2)。また、練習船係留場には、技術系職員 3 名が配置され教育と船舶の管理運営の支援を行っている。

情報処理教育センターは、学生の教育研究活動(資料 2 - 1 - - 3)、情報ネットワークの管理運営(資料 2 - 1 - - 4)、校内 LAN の構築と運用(資料 2 - 1 - - 5)、情報セキュリティー(資料 2 - 1 - - 6)などに関する業務を行っている。本センターは、センター長、センター主任、技術系職員 1 名が配置され、これに加えて学科等からの代表者若干名で構成されたセンター委員会にて運営されている。

地域共同研究推進センターは、平成 14 年度に本校の持つ専門知識と施設を地域で活用してもらうことを目的にして設置された。本センターでは、しまなみ海道沿線の関係諸機関に利用してもらうために刊行物(資料 2 - 1 - - 7)を作成・配布し、共同研究、技術支援等を実施している(資料 2 - 1 - - 8)。なお、平成 18 年度には技術振興会の発足を予定している(資料 2 - 1 - - 9)。

実習工場は、実験実習、卒業研究および理工系イベント教育などのための全学的な施設である。実習工場には、各種工作機械、商船学科実験設備、ロボコン制作室などが設置され、係る設備の運用には、担当教員に加えて技術系職員 6 名が配置され、教育支援を充実させている(資料 2 - 1 - - 10)。

(分析結果とその根拠理由)

上記の施設は、授業(講義、実習、演習、卒業研究)で使用されるばかりでなく、地域との連携、共同研究などにも活用され、本校の教育を遂行するために不可欠の施設となっている。

以上のことから、本校に設置されているセンター等は、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているといえる。

資料 2 - 1 - - 1

○弓削商船高等専門学校練習船運航委員会規則

制 定 昭和45年11月 1 日

最終改正 平成17年 2 月21日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第15条第 2 項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校練習船運航委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 練習船の年間運航計画に関する事項
- (2) 練習船の臨時運航計画に関する事項
- (3) 練習船の維持保全に関する事項
- (4) 練習船の予算に関する事項
- (5) その他、練習船の運航に関する事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科長及び総合教育科長
- (3) 弓削丸船長及び機関長
- (4) 地域共同研究推進センター長
- (5) 各課長

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、前条第 1 号及び第 2 号の委員のうち、校長が指名する商船学科所属の者をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第 6 条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則の定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が定める。

附 則

この規程は、昭和45年11月 1 日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

○弓削商船高等専門学校情報処理教育センター規則

制 定 平成6年2月4日

最終改正 平成17年2月21日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）内部組織規則第3条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校情報処理教育センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(業務)

第2条 センターは、本校の共同利用施設として、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教職員及び学生の教育研究活動に関する事項
- (2) 電子計算機システム及び情報ネットワークの管理運営に関する事項
- (3) 校内LANの構築及び運用に関する事項
- (4) センターを利用した社会人教育に関する事項
- (5) 情報セキュリティポリシー策定及び情報セキュリティ対策に関する事項
- (6) その他センター長が必要と認めた事項

(組織)

第3条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
 - (2) センター主任 1名
 - (3) その他必要な職員（以下「その他の職員」という。）
- 2 センター長は、本校の教授又は助教授の中から校長が任命する。
- 3 センター主任は、本校の教授又は助教授の中からセンター長の推薦により、校長が任命する。
- 4 センター長及びセンター主任の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 センター長は、センターの管理運営に関し総括する。
- 6 センター主任は、センター長を補佐する。
- 7 その他の職員は、センター長の命を受けセンターの業務に従事する。

(委員会)

第4条 センターの運営に関し、第2条に掲げる事項を審議するため、センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

○弓削商船高等専門学校地域共同研究推進
センター運営委員会規則

制 定 平成14年10月18日

最終改正 平成17年 2月21日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター規則第6条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター運営委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理運営の基本方針に関する事項
- (2) センターの事業計画に関する事項
- (3) 研究組織に関する事項
- (4) 研究テーマに関する事項
- (5) その他センターの運営に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センター主任
- (3) 各学科長、総合教育科長及び専攻科長
- (4) 事務部長
- (5) 各学科及び総合教育科から選出された教員各1名

2 前項第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 2 - 1 - - 2

運航月日	平成 17年 8月 24日 (水) ~ 月 日 ()						
運航名目	四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」			運航類系	1	運航日数	1
航海時間	3-00	航海距離	33	燃料消費	564	運航代表者	友田
対象者及び員数	学生32名、スタッフ1名、乗組員9名						
運 航 ス ケ ジ ュ ー ル							
8月24日	13:35	弓削発 弓削島周辺海域でマイルポスト計測実験					
	16:35	弓削着					
運航の内容 (実習・実験・研修・行事等) の概要							
講座の目的	<p>四国地区高専間の連携・交流を推進するため、本校練習船を活用し、科学技術・共同生活及び海の世界等について特別講義を行い、広い視野を持った技術者の養成又、即戦力を備えた技術者の育成を目的とする。</p> <p>練習船弓削丸での「特別講義」 「海の世界とエネルギーに関連して」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船内施設説明・船内見学 ・ 操船と舵 ・ 船用機関システムについての演習を実施 <p>マイルポスト間を航走し、実験データを採取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロペラピッチ角度を変化させることによる、船速、燃料消費、排気温度等の変化 ・ 操舵技量の良否による上記データの変化 ・ 採取データの解析 						
運 航 に 関 す る ま と め							
<p>自船の波により船酔いを起こす学生もいたが、珍しい環境での演習、テーマに、興味を持って臨んでいた。今後、環境問題にも前向きに対処できるものと思われる。</p>							
備 考							
<p>乗組員：豊田、松永、永本、渡部、金子、山下、辻、中根、中瀬 教職員：村上</p>							

出典：弓削丸年報（平成17年度）

資料 2 - 1 - - 3

	月曜日								火曜日								水曜日							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
センター	I4	I4	I4	I4	I4	I4	M4	M3	I4	I3	I3	I3	I2	S2	S2	M4	M4	I5	I3	M4	M4	M4	M4	
情報演習室	I2	I4	I4	I4	I4	田原・高木・長尾・藤井(温)	田原・高木・長尾・藤井(温)	中山	長尾	長尾・峯脇	長尾・峯脇	長尾・峯脇	奇高	多田光	多田光	鶴・中山	鶴・中山	峯脇	長尾・峯脇	I2	I2	I4	I4	
製図室																								
実習工場			M2	M2						M3	M3													

2006.3.30(11:00)版

	木曜日								金曜日							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
センター	M3	M3	S1	S1	M1	M1		I5	I2	I2	I2	I2	I3	専1	専1	
情報演習室	I3	I3	I3	I3	I1	I1		峯脇	I4	I2	I2	I2	I1	I1	I1	
製図室			S4E	S4E				田房								
実習工場	I3	I3	I3					大石		S2	S2	S4	S4	S4	S4	

出典：特別教室使用予定一覧表

資料 2 - 1 - - 4

○弓削商船高等専門学校情報ネットワーク管理専門部会規則

制 定 平成 8 年 2 月 1 日

最終改正 平成 17 年 2 月 21 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校情報処理教育センター規則第 5 条第 2 項に基づき、弓削商船高等専門学校情報ネットワーク管理専門部会（以下「専門部会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 専門部会は、情報ネットワーク等に関し、次の各号に掲げる専門的事項について審議する。

- (1) 情報ネットワークの維持及び運用に関する事項
- (2) 外部情報ネットワークとの連絡調整に関する事項
- (3) その他情報ネットワークの利用に関する事項
- (4) 情報セキュリティポリシー策定及び改定に関する事項
- (5) その他センター長が必要と認めた事項

(組織)

第 3 条 専門部会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 情報処理教育センター主任
- (2) 各学科及び総合教育科から選出された教員各 1 名
- (3) 練習船、学生寮、図書館のネットワークを担当する教員各 1 名
- (4) 事務部の職員のうち事務部長が指名した者
- (5) その他センター長が特に必要と認めた者

2 前項第 2 号から第 5 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 専門部会に委員長を置き、前条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、専門部会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

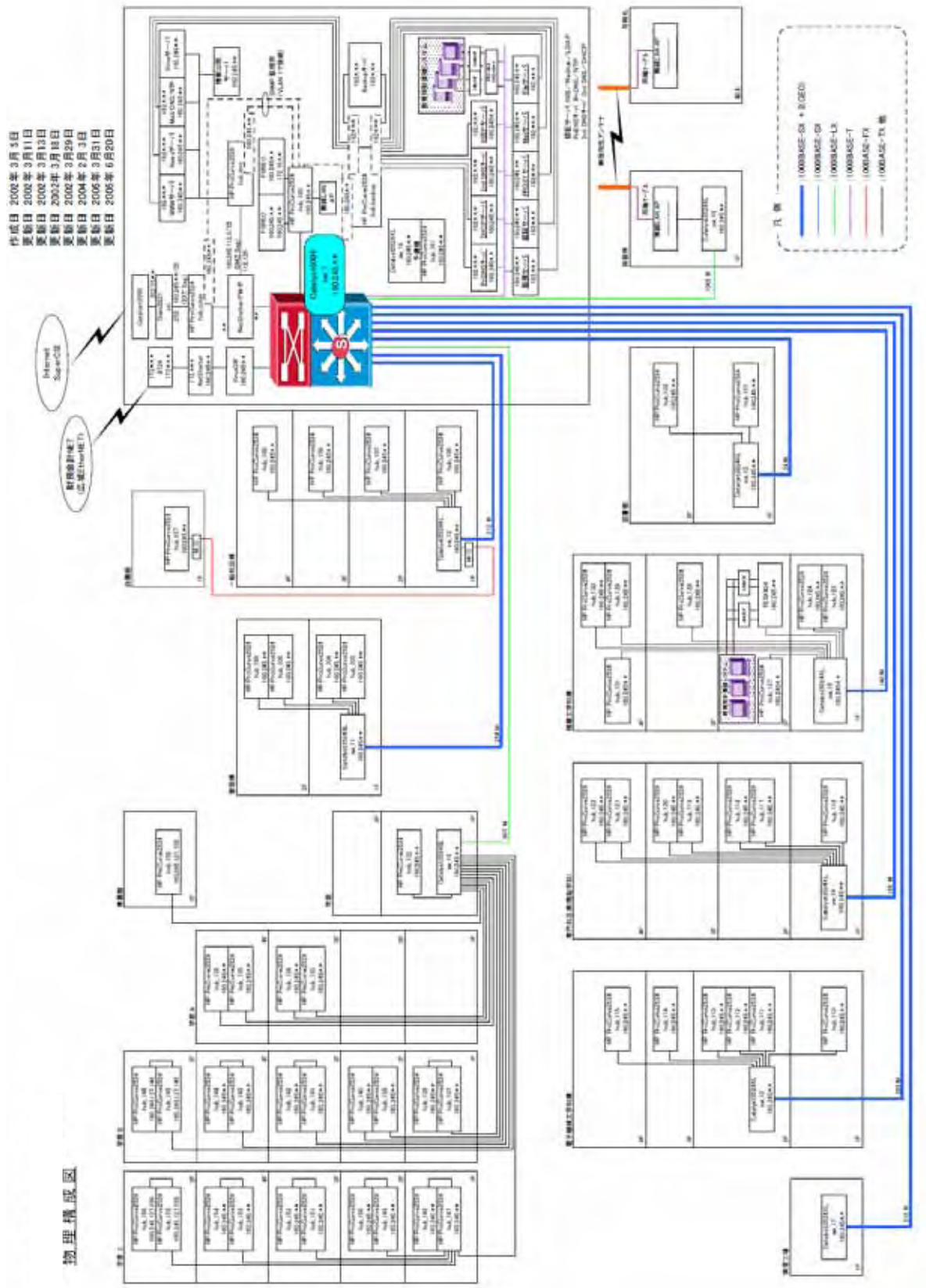
第 6 条 専門部会の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、専門部会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 2 - 1 - - 5



出典：情報処理教育センター

資料 2 - 1 - - 6

○弓削商船高等専門学校情報セキュリティ委員会規則

制 定 平成14年10月18日

最終改正 平成17年3月1日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校情報セキュリティ規則第7条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校情報セキュリティ委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 情報セキュリティポリシーに関する重要な事項
- (2) 情報セキュリティ対策に関する重要な事項
- (3) その他情報セキュリティに関する重要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 各主事
- (3) 各学科長、総合教育科長及び専攻科長
- (4) 図書館長
- (5) 情報処理教育センター長及び地域共同研究推進センター長
- (6) 弓削丸船長
- (7) 事務部長

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、各課長をもって充てる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 2 - 1 - - 7



地域共同研究推進センター

弓削商船高等専門学校

出典：地域共同研究推進センターパンフレット

弓削商船高等専門学校

パネルフォーラム



地域共同研究推進センター

平成17年11月12日, 13日

白雲館

出典：パネルフォーラムパンフレット

資料 2 - 1 - - 8

2. 受託・共同研究等

2-1. 共同研究

研究者氏名	共同研究機関名	期間
高尾健一	高知工科大学	平成13年度
研究題目 AZ92Aマグネシウム合金の疲労き裂発生挙動と切欠き感度		
発表論文 楠川量啓、高尾健一：AZ92Aマグネシウム合金の疲労き裂発生挙動と切欠き感度。日本機械学会論文集 68A 671 1092-1097 (2002)		

研究者氏名	共同研究機関名	期間
高尾健一	高知工科大学	平成13年度
研究題目 圧電セラミックス(PZT)の静疲労き裂伝ば挙動に及ぼす電界負荷の影響		
発表論文 Kazuhiro KUSUKAWA and Ken-ichi TAKAO. "Crack Initiation Behavior of PZT Ceramics under Cyclic Deformation due to Electric Field". Proceedings of International Conference on Fracture and Damage of Advanced Materials-FDAM2004.209-215(2004)		

研究者氏名	共同研究機関名	期間
中哲夫	ひろしま産業振興機構	平成14年～15年
研究題目 難成形材加工		
発表論文 (1) 中哲夫他：自動車軽量化を目的とした難成形材加工の半凝固・塑性加工法の開発とその最適プロセス設計の研究。(財)ひろしま産業振興機構。平成15年3月 (2) 中哲夫他：自動車軽量化を目的とした難成形材加工の半凝固・塑性加工法の開発とその最適プロセス設計の研究。(財)ひろしま産業振興機構。平成16年3月		

研究者氏名	共同研究機関名	期間
中哲夫	広島大学大学院工学研究科	平成14年度
研究題目 局部加熱インクレメンタルフォーミングに関する研究		
発表論文 中哲夫他：局部加熱インクレメンタルフォーミングに関する研究：(財)中国技術振興センター、23～26。2003/7		

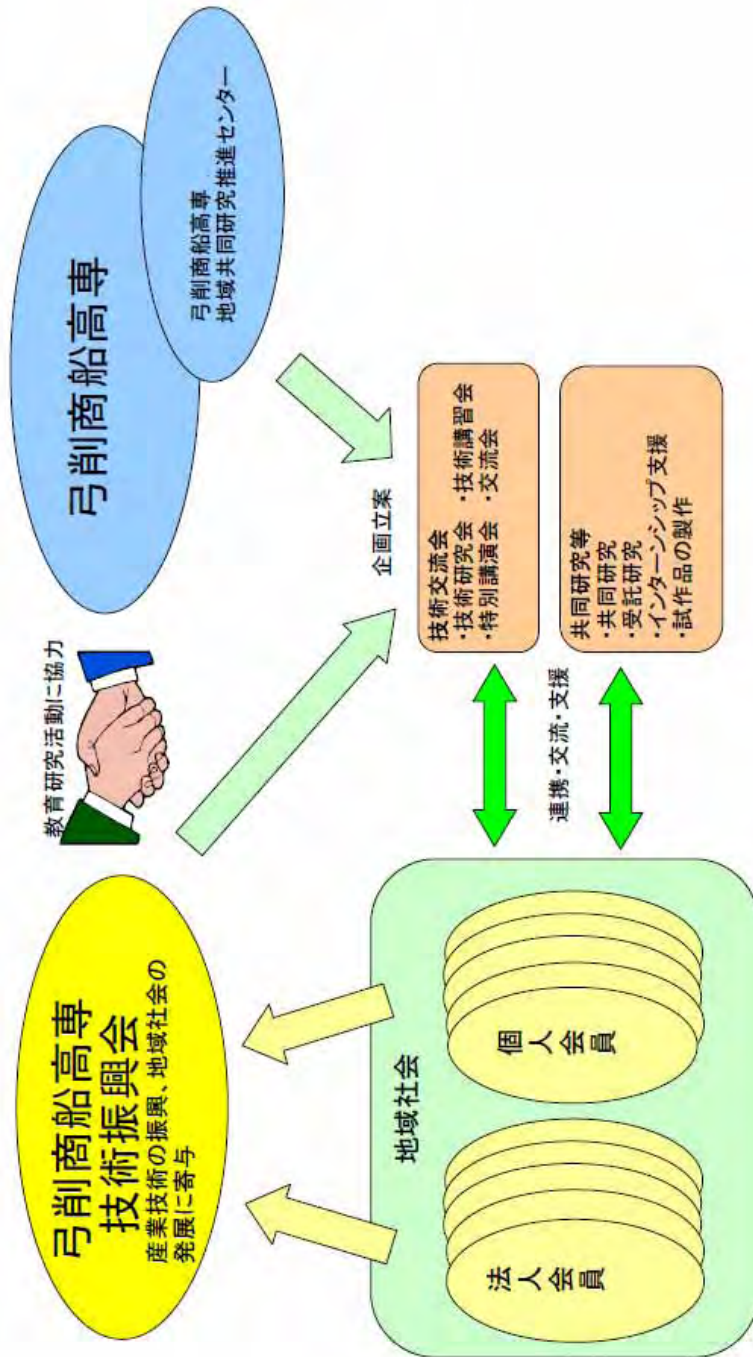
研究者氏名	共同研究の機関名	期間
大石健司	日立粉末冶金（株）	平成16年度
研究題目 焼結金属の被削性に関する研究		
研究結果 難削材の一種として知られている焼結金属の被削性改善の一方法として、樹脂含浸のこうかを確認し、合わせて、手軽が含浸塗料を用いてその改善効果を確認した。浸透シーラ剤を刷毛塗りする方法でも切削抵抗の低減が可能であり、刷毛塗り回数あるいは浸漬時間が多いと低減効果も大きいことがわかった。		

研究者氏名	共同研究の機関名	期間
大石健司	木村鑄造(株)	平成16年度
研究題目 発泡スチロールの切削加工の研究		
研究結果 消失鑄型模型として使用されている発泡スチロールは、軟質低強度であるため、削り出しが難しい。切削抵抗が加わるとカケやムシレを発生し、仕上げ面が劣化するためである。そこで、良好な仕上げ面を得るための工具形状を検討した。すくい角、傾斜角、および引き率をかえてせつさくし、必要条件を明らかにした。		

出典：パネルフォーラムパンフレット

資料 2 - 1 - - 9

弓削商船高専 技術振興会の概念図



出典：弓削商船高等専門学校技術振興会概念図

観点 2 - 2 - : 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議されるなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

教育課程全般にわたる重要な課題は、校長が委員長を務める運営委員会と自己点検・評価委員会で審議、または報告されている(資料 2 - 1 - - 2, 資料 2 - 2 - - 1, 資料 2 - 2 - - 2)。教育の細部については、教務委員会、厚生補導委員会、寮務委員会、専攻科委員会で審議しており、その結果は運営委員会及び校長に報告している(資料 2 - 2 - - 3)。また、これらの委員会の下にワーキンググループを必要に応じて設置し、委員会に機敏性を持たせている。教務委員会は教育課程の編成及び実務等に関する事項を審議(資料 2 - 2 - - 4)、厚生補導委員会と寮務委員会は学生の厚生補導及び寮生活の全体に関する事項を審議している(資料 2 - 2 - - 5, 資料 2 - 2 - - 6)。専攻科委員会は専攻科学生の教務, 厚生補導, 寮務に関する事項を審議している(資料 2 - 2 - - 7)。この他、教育内容検討委員会、教員組織検討委員会、成績評価協議会を中期計画に基づき設置して活用しつつある(資料 2 - 2 - - 8)。

(分析結果とその根拠理由)

教育に必要な事項は、教務委員会、厚生補導委員会、寮務委員会、専攻科委員会で審議し、審議結果は運営委員会で検討・報告がされ学内に周知している。また、逆に教育の将来展望などの大枠を運営委員会で検討し、教務委員会等の下部委員会でさらに細部を検討するなどして、係る事項に対して柔軟に対応している。

以上のことから、教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議されるなどの必要な活動を行っているといえる。

資料 2 - 2 - - 1

○弓削商船高等専門学校運営委員会規則

制 定 平成16年12月27日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第13条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じて、次の各号に掲げる重要事項について審議する。

- (1) 学則その他諸規則の制定改廃に関する事項
- (2) 予算に関する事項
- (3) 施設及び設備に関する事項
- (4) その他管理運営に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 各主事
- (3) 各学科長，総合教育科長及び専攻科長
- (4) 図書館長
- (5) 情報処理教育センター長及び地域共同研究推進センター長
- (6) 各学科及び総合教育科から選出された教員各1名
- (7) 事務部長

2 前項第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号に掲げる委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、各課長をもって充てる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 2 - 2 - - 2

○弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会規則

制 定 平成 4 年 5 月 14 日

最終改正 平成 16 年 12 月 27 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）内部組織規則第 15 条第 2 項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、本校の教育水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成することを目的とする。

- (1) 自己点検評価の実施方法等に関する事項
- (2) 自己点検評価の項目の設定に関する事項
- (3) 自己点検評価の結果の活用に関する事項
- (4) その他自己点検評価の実施に関する事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 各主事
- (3) 各学科長、総合教育科長及び専攻科長
- (4) 図書館長
- (5) 情報処理教育センター長及び地域共同研究推進センター長
- (6) 各学科及び総合教育科から選出された教官各 1 名
- (7) 事務部長

2 前項第 6 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、前条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事)

第 6 条 委員会に幹事を置き、各課長をもって充てる。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 2 - 2 - - 3

第 10 回運営委員会議事概要

日 時 平成 18 年 1 月 18 日 (水) 16:23～17:35
 場 所 第 2 会議室
 出 席 者 14 名 (別紙のとおり)

(審議事項)

1. 規則の制定等について

- ① 「弓削商船高等専門学校放射線障害防止管理規則の一部改正 議題資料 1-1
- ② 「弓削商船高等専門学校に勤務する職員の勤務時間に関する規則」「弓削商船高等専門学校宿日直規程」「弓削商船高等専門学校宿日直勤務心得」「弓削商船高等専門学校事務連絡会内規」「弓削商船高等専門学校健康管理規則」「弓削商船高等専門学校事務系職員研修実施要項」を廃止する規則の制定

議題資料 1-2

庶務課長から、議題資料 1-1・1-2 に基づき、一部改正の主な改正点等について説明があり、規則の一部改正及び廃止規則の制定が了承された。

2. 兼業について (1 件)

議題資料 2 により、塚本秀史の兼業について庶務課長から説明し、了承された。

3. 平成 17 年度電子機械工学科・情報工学科卒業式について

庶務課長から、議題資料 3 に基づき、平成 17 年度電子機械工学科・情報工学科卒業式の式次第、進行次第等について要点の説明があり、原案どおり了承された。

(報告事項)

1. 上島町との懇談会について

校長から、平成 17 年 12 月 8 日に実施された上島町との懇談会について報告があった。報告資料 1 に基づき、協議事項、要望事項、報告事項について各担当者から詳しい説明がなされた。

2. 公開講座について

教務主事が欠席のため、事務部長から公開講座に関する報告があった。報告資料 2 の内容でパソコン教室が公開講座として開催される旨の報告があった。内容については上島町から要望がでていた内容で実施するとのことである。

3. 技術振興会発起人について

地域共同研究推進センター長から、第 7 回運営委員会で了承されていた技術振興会発足の件で発起人が決定したことについて報告資料 3 のとおり報告があった。発起人については予定していた発起人に一部変更があり、変更理由等について報告された。スケジュールについても多少遅れ気味であり、設立総会は平成 18 年 6 月から 7 月頃になる予定であるとの報告があった。

また、各教員に個人会員の発起人として参加協力することと、各教員が研究等で関係がある企業に入会をお願いしたいため、紹介してほしいとの協力要請があった。

- 1 -

出典:平成 17 年度第 10 回運営委員会議事概要

4. 学校看板の設置について

事務部長から、白雲館北側に学校名を設置したことの報告があった。台風のためグラウンド東側に設置していた看板が破損して以降、新たな設置場所を検討していたが今回広報委員会において白雲館の北側がベストではないかとの結論になり、設置に至ったことの経緯が報告された。

5. アスベスト状況の在校生保護者宛文書の送付について

会計課長から 1月10日付けで「本校におけるアスベストの調査結果について」の件名で保護者宛文書を郵送しており、保護者よりこの件で問い合わせはないとの報告があった。

6. 平成17年度の予算執行について

報告資料4に基づき会計課長から、1月10日現在の教育研究経費等の予算執行率が報告された。

また、旅費については1月19日までに、物品関係については2月10日までに使用する内容を会計課に知らせてほしいとの要請がなされた。使用する予定がない場合は残額として引き上げ学校全体で執行することになる旨の報告があった。

7. その他

推薦入試の志願者状況が学生課長から報告があった。商船学科23名、電子機械工学科24名、情報工学科33名であり、昨年との増減は商船学科△26名、電子機械工学科△6名、情報工学科1名であることが報告された。

商船学科棟の内部改修について会計課長から、業者が決定していないので日程が決まっていないが、決まり次第報告する旨の説明があった。

改修工事に際しての各委員からの粉塵対策等について要望があった。竣工した耐震工事において粉塵対策の不備が多少あり、竣工後に工事個所以外の部分について教員が清掃等の作業をしたとのことが報告された。会計課長より今後の内部改修工事の粉塵対策については対処できるところは検討する旨の返答があった。

出典:平成17年度第10回運営委員会議事概要

資料 2 - 2 - - 4

○弓削商船高等専門学校教務委員会規則

制 定 昭和58年9月20日

最終改正 平成17年3月1日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第15条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育計画の立案に関する事項
- (2) 進級及び卒業等に関する事項
- (3) 進学に関する事項
- (4) その他教務に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科長及び総合教育科長
- (3) 教務主事補
- (4) 学生課長

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、昭和58年9月20日より施行する。
- 2 この規則施行の際、現に従前の教務委員会委員長及び委員である者は、この規則により任命されたものとみなす。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

平成17年度第6回教務委員会議事概要

日 時 平成17年10月3日(月) 13:30～15:12

場 所 第2会議室

出席者 別紙のとおり

議 題

(審議事項)

1. 後期時間割について

- ・ 委員長から資料に基づき説明があり、承認された。また、本科の時間割について、今後は、スリム化する方向で検討していく旨の提案があった。

2. 前回の継続審議分について

- ・ 委員長から四国地区共通試験の参加について、校長は参加の意向であるとの報告があり、審議した結果全学科参加することで承認された。また、参加する試験教科については、総合教育科で検討することとなった。

3. その他

- ・ 委員長から J A B E E 対応のため、カリキュラムの改正、60点合格を今後検討していく必要がある旨の提案があった。

(報告事項)

- ・ 委員長から、来年度の年間授業計画を非常勤講師の雇用計画の兼ね合いもあるので、12月中に出して欲しい旨の依頼があった。

出典：平成17年度第6回教務委員会議事概要

資料 2 - 2 - - 5

○弓削商船高等専門学校厚生補導委員会規則

制 定 昭和58年 9 月 20 日

最終改正 平成17年 2 月 21 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第15条第 2 項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校厚生補導委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 生活指導に関する事項
- (2) 課外活動に関する事項
- (3) 補導及び懲戒に関する事項
- (4) 入学金、授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関する事項
- (5) その他福祉厚生に関する事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 各主事
- (2) 各主事補
- (3) 各学級担任
- (4) 学生課長

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、学生主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第 6 条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

1 この規則は、昭和58年 9 月 20 日から施行する。

2 この規則施行の際、現に従前の厚生補導委員会委員長及び委員である者は、この規則により任命されたものとみなす。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 2 - 2 - - 6

○弓削商船高等専門学校寮務委員会規則

制 定 昭和63年3月28日

最終改正 平成17年2月21日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校学寮管理運営規則第6条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校寮務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 寮生の生活指導に関する事項
- (2) 学寮内の規律保持に関する事項
- (3) 寮生の入寮及び退寮に関する事項
- (4) 寮生の離寮措置に関する事項
- (5) 学寮内諸行事の指導に関する事項
- (6) 学寮内の環境整備に関する事項
- (7) 寮生の健康及び安全管理に関する事項
- (8) その他寮生の指導に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 寮務主事及び学生主事
- (2) 寮務主事補及び学生主事補
- (3) 各学科及び総合教育科から選出された教員各1名
- (4) 学生課長

2 前項第3号の委員の任期は1年とし、再任は妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、寮務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 2 - 2 - - 7

○弓削商船高等専門学校専攻科委員会規則

制 定 平成16年12月20日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第15条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成及び実施に関する事項
- (2) 教育計画及び授業時間の編成に関する事項
- (3) 入学者選抜に関する事項
- (4) 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関する事項
- (5) 試験及び学業成績に関する事項
- (6) 学生の進学及び就職に関する事項
- (7) 学生の厚生補導に関する事項
- (8) 専攻科における授業担当教員の資格に関する事項（人事委員会に係るものを除く。）
- (9) その他専攻科の運営に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 専攻科長
- (2) 各主事
- (3) 専攻主任
- (4) 専攻科を担当する教員の中から校長が指名する者若干名
- (5) その他校長が必要と認めた者

2 前項第4号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 2 - 2 - - 8

○弓削商船高等専門学校教育内容検討委員会規則

制 定 平成16年12月27日

(設置)

第1条 弓削商船高等専門学校に、教育内容・水準を達成するための具体的方策を検討するため、弓削商船高等専門学校教育内容検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、教育内容の向上に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学科の構成の在り方に関する事項
- (2) 学級の編成に関する事項
- (3) その他教育内容等の向上に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科長及び総合教育科長
- (3) 各学科及び総合教育科から選出された学級担任代表者各1名

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成16年12月27日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

○弓削商船高等専門学校成績評価協議会規則

制 定 平成16年12月27日

(設置)

第1条 弓削商船高等専門学校に、学生の成績評価の具体的な方策及び改善を行うため、弓削商船高等専門学校成績評価協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 協議会は、学生の成績評価に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 成績評価の方策に関する事項
- (2) 成績評価方法の検証と改善に関する事項
- (3) その他成績評価に関する事項

(組織)

第3条 協議会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 総合教育科（理系，文系，実技系）から選出された教員3名
- (3) 各学科から選出された教員各2名

2 前項第2号及び第3号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 協議会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、協議会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年12月27日から施行する。

2 この規則施行後最初に任命される第3条第1項第2号及び第3号の委員の任期は、同条第2項本文の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

○弓削商船高等専門学校教育研究組織検討委員会規則

制 定 平成16年12月27日

(設置)

第1条 弓削商船高等専門学校に、柔軟かつ機動的な教育研究の組織を検討するため、弓削商船高等専門学校教育研究組織検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、教育研究組織に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育研究組織の見直しに関する事項
- (2) 施設のセンター化に関する事項
- (3) その他教育研究組織に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科長及び総合教育科長
- (3) 練習船弓削丸船長
- (4) 情報処理教育センター長
- (5) 地域共同研究推進センター長

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成16年12月27日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

平成17年度第1回教育内容検討委員会議事概要

日 時 平成17年9月29日(木) 15:40～16:43

場 所 第2会議室

出席者 別紙のとおり

議 題

(審議事項)

- (1) 平成16年度「学生による授業評価アンケート」の取扱いについて
- ・ 委員長から、平成16年度学生による授業評価の今後の取扱いについては、教育内容検討委員会で検討するよう校長から指示があった旨、発言があった。
 - ・ 委員長から、平成16年度学生による授業評価(案)について、昨年度は科目を中心に、本年度は教員を主体に行った旨、報告があった。引き続き、原案精査について審議願いたい旨、発言があり、審議の結果、各委員が持ち帰り、意見等を10月5日(水)までに委員長に報告することとなった。なお、授業評価(案)の取扱いは十分注意願いたい旨、依頼があった。
 - ・ 委員長から、他高専の公表方法が次のとおり述べられた。
 - ・ 都城高専：各高専に配布
 - ・ 高松高専：学内だけであるが全てオープン
 - ・ 本校：昨年は教員に名前をふせたものを配布
 - ・ 成績の悪い教員には授業プランの提出を求めている。
 - ・ 以上の発言により、審議に入り次のとおり意見がなされた。
 - ・ 学生には、全体を集約(個人名をふせたもの)したものを配布する。
 - ・ 原案(まとめを付けたもの)を教員に配布する。(名前があるもの)
 - ・ 委員長から、教育に還元されたかどうかの検証をどのようにするか、審議願いたい旨、発言があり、審議入り次のとおり意見がなされた。
 - ・ 次回のアンケート調査を実施するとすれば問題点を洗い出す必要があるのではないか。
 - ・ 前回と今回の結果を対比する必要があるのではないか。
 - ・ 改善点の多い事項について検証する必要があるのではないか。(全体像、分析結果を踏まえて学生に問う)
 - ・ アンケート(各委員から出てきた事項に基づき)改善事項(意見が多い)の目標を定める。
 - ・ 委員長から、重点項目(実施項目)を教員会議で報告する旨、発言があった。

出典：平成17年度第1回教育内容検討委員会議事概要

観点 2 - 2 - : 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

一般科目と専門科目を総合教育科と学科とで範囲を分けて教授しており、組織や制度で教員間の連携が行われた経緯はない。教育課程全般にわたる大切な課題は、教務主事及び教務委員会が中心になって、各学科長・総合教育科長等と検討し連携を図っている。例として、練習船利用研修(資料 2 - 2 - - 1)、数学における一般科目及び専門科目教員間の連携(資料 2 - 2 - - 2)、四国地区共通試験の補習授業(資料 2 - 2 - - 3)等がある。また、図書館長が中心になって実施している教員研究懇談会は、平成 17 年度で 42 回の開催を重ね、この間、教員の F D や研究などの発表を行い、一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携を深めている。(資料 2 - 2 - - 4)。

(分析結果とその根拠理由)

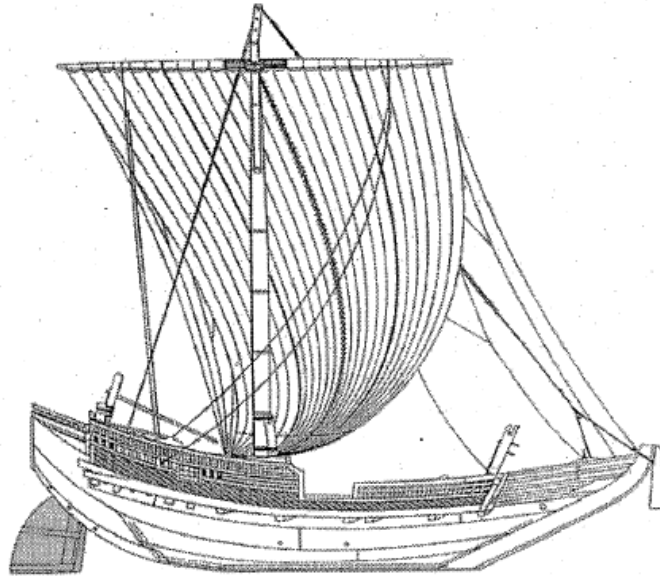
教育研究組織検討委員会を設置して、組織としての体制を整える緒についたところである。

しかし、実務面では一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携を、教務主事や教務委員会を中心に対応しており、一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているといえる。

資料 2 - 2 - - 1

平成 17 年度

弓削丸利用説明資料



期 日 平成 17 年 6 月 10 日 (金)

場 所 練習船 弓 削 丸

出典：弓削丸利用説明資料（平成 17 年度）

資料 2 - 2 - - 2

専門科目との連携表(商船学科)

学年	科目	1年		2年		3年			4年
		数学1	数学2	数学1	数学2	数学1	数特	応数1	応数2
1年	情報処理1	●	●						
	航海学概論								
	機関学概論								
2年	情報処理2								
	電磁気学	●	●						
	船舶工学1	●	●						
	海事法規1								
	図学								
	機械工作法								
3年	材料力学1	●	●						
	熱力学1	●	●			●			
	水力学	●	●	●		●			
	電気回路	●	●						
	電気機器1	●	●	●		●			
	計測工学1	●	●		●				
	制御工学1	●	●						
	船舶工学2	●	●	●		●			
	船舶安全工学1								
	海事法規2								
4年	電子工学1	●	●						
	計測工学2	●	●						
	船舶安全工学2								
	航海学1	●	●						●
	航海計測学	●	●	●		●			
	天文測位学	●	●	●		●			
	電波測位学								
	操船学								
	船体運動力学	●	●	●		●			
	載貨論	●	●						
	運送管理学1	●	●						
	海上交通法1								
	海事法規3								
	海洋気象学								
	専門英語1								
	海運経済論	●	●						
	材料力学2	●	●						●
材料学1									
電気機器2	●	●	●		●				
制御工学2	●	●	●		●				
内燃機関学2	●	●							
蒸気工学2	●	●							
蒸気工学3	●	●							
設計製図									
水力機械学	●	●	●		●				
冷熱工学	●	●	●		●				
潤滑工学									
推進論	●	●							
5年	航海学2	●	●		●				●
	運送管理学2	●	●						
	海上交通法2								
	海上交通工学								
	海運論								
	海洋環境論								
	専門英語2								
	航海学演習	●	●	●		●			
	商船学セミナー								
	材料学2								
	電気機器3	●	●	●		●			●
電子工学2	●	●	●		●				
内燃機関学3	●	●							
油圧工学	●	●	●		●				
機関学演習	●	●	●		●				

専門科目との連携表(電子機械工学科)

学年	科目	1年		2年		3年		4年	5年
		数学1	数学2	数学1	数学2	数学1	数特	応数1	応数2
1年	基礎機械制御工学	●	●						
	設計製図1	●	●						
	電子計算機1	●	●						
	工作実習1	●	●						
	工業力学	●	●						
2年	設計製図2	●	●						
	計測工学1	●	●						
	シーケンス制御	●	●						
	電気磁気学	●	●	●					
	電子計算機2	●	●						
	工作実習2	●	●						
3年	情報処理	●	●					●	●
	材料力学1	●	●	●				●	●
	材料学	●	●						
	機械工作法	●	●						
	設計製図3	●	●	●				●	
	計測工学2	●	●		●				
	電気回路	●	●	●				●	●
4年	電子工学	●	●	●				●	●
	工作実習3	●	●						
	応用物理1	●	●	●				●	●
	機構学	●	●	●	●			●	●
	材料力学2	●	●	●				●	●
	流体力学	●	●	●				●	●
	熱力学								
	設計製図4	●	●		●			●	●
	制御工学	●	●	●				●	●
	電子回路	●	●	●				●	●
工学実験1	●	●	●				●	●	
5年	情報処理特論	●	●	●					●
	振動工学	●	●	●				●	●
	表面工学	●	●	●				●	●
	工作機械								
	電気電子機器	●	●					●	●
	特別講義1								●
	特別講義2	●	●	●				●	●
	応用物理2	●	●	●				●	●
	設計製図5	●	●					●	●
	計算機制御	●	●						
	工学実験2	●	●	●				●	●
	数値解析	●	●					●	●
	エネルギー工学	●	●	●					
デジタル制御工学	●	●					●	●	
制御工学特論	●	●	●				●	●	
システム工学	●	●					●	●	
ロボット工学			●				●	●	
パワーエレクトロニクス	●	●	●				●	●	
電子回路特論	●	●	●				●	●	
特別講義3								●	
特別講義4								●	

出典：総合教育科

専門科目との連携表(情報工学科)

学年		1年	2年	3年	4年	5年
科目		数学1 数学2	数学1 数学2	数学1 数特	応数1 応数2	
1年	情報工学概論	●	●			
	情報処理1	●				
	情報工学実験1	●	●			
2年	電磁気学1	●	●			
	電子計算機	●	●	●		
	情報処理2	●	●			
	製図・CAD			●		
	情報工学実験2	●	●	●		
	セミナー1			●		
3年	電気工学	●	●	●		
	電子工学	●	●			
	情報理論			●		
	論理回路	●	●			
	通信工学	●	●			
	情報処理3	●	●			
	アルゴリズム			●		
	システム工学1	●	●	●		
	情報工学実験3			●		●
	セミナー2				●	●
4年	応用物理	●	●	●	●	
	科学技術英語					●
	電子回路	●	●	●		●
	データ・ベース	●	●		●	
	オペレーティング・システム					●
	システムインターフェイス					●
	オペレーションズ・リサーチ	●	●		●	
	数値解析	●	●		●	●
	計測工学	●	●	●	●	●
	制御工学	●	●	●	●	●
	情報工学実験4	●	●		●	●
	セミナー3	●	●	●		
	画像処理1	●	●	●	●	●
コンパイラ	●	●			●	
プログラミング特論	●	●			●	
海事工学					●	
5年	画像処理2	●	●	●	●	●
	人工知能			●		●
	マルチメディア	●	●	●	●	●
	制御工学特論	●	●	●	●	●
	電磁気学2	●	●	●	●	●
	システム工学2	●	●	●		●
	オペレーションズ・リサーチ	●	●	●		●
	情報機器	●	●	●		●
	機械工学	●	●		●	●
	プラント工学	●	●	●	●	●
環境工学	●	●	●	●	●	
海事工学演習					●	
特別講義					●	

出典：総合教育科

資料 2 - 2 - - 3

友田教務主事殿

山尾徳雄

3年生の補習について

平成17年11月16日

1、分担計画

成績上位の学生については、数学、英語の先生がまとめて指導し、成績下位の学生について少人数をその他の教員で分け持つ。

後者の個別型指導については、各学科の先生にお願いするのですが、総合教育科教員もこれに協力します。

個別型指導対象学生の中で、比較的点数が高い学生の場合は、1教員当たりの人数を多く、低い学生については少なくすることが有効かと思えます。

その観点から見ますと（現在英語の成績をもらっております）、電子機械工学科については、個別型指導対象者が15名、内、20点台が7名です。

商船学科は、個別型指導対象者13名、内、20点台6名ですが、教員数が多いので対応可能かと思えます。

情報工学科は、個別型指導対象者14名、内、20点台2名です。

総合教育科教員は主に電子機械工学科の学生の指導の手伝いということになろうかと思えます。

原案ですが、総合教育科教員の内、理科の先生は数学、その他の先生は英語担当でどうかと考えております。

2、補習の時間帯と補習回数

数学、英語とも週1回、8限目、まだ曜日は現在未確定。

ただ、担当学生が決まりますと、教員と学生の相談で、曜日は変更してもよいかと思っております。

後期中間試験期間を除きますと年内2回、共通試験日が決まっていますが、1月に何回かということになると思えます。

3、その他

数学の補習についても英語に準じる。

なお、ラグビー部については11月23日までは試合のための練習を優先したいと思います。

以下は、総合教育科教員に当てたものです。
(ご多忙であることはよく承知しておりますが、社会状況の変化に対応せざるを得ない時期に来ているのではないかと思います。よろしく申し上げます。)

出典：教務主事

資料 2 - 2 - - 4

平成 17 年 11 月 日

教 職 員 各 位

図 書 館 長

第 41 回教員研究懇談会の開催について

このことについて、今回は、情報工学科の長尾和彦先生、及び商船学科の野々山和宏先生により下記のとおり行います。

多数ご出席下さいますよう、ご協力願います。

記

1. 日 時 平成 17 年 12 月 6 日 (火) 13:30～15:30
2. 場 所 弓削商船高等専門学校アセンブリホール
3. 演題及び講演者

「プログラミングコンテストを通じた創造性教育の実践」

長尾 和彦

「経済学の体系と国土計画研究について」

野々山 和宏

(担 当)

庶務課図書係 東

内 線 4608

出典：第 41 回教員研究懇談会開催通知

観点 2 - 2 - : 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

本校は教育活動支援の最も重要な位置づけとして学級担任を重視している。学級担任は学級担任委員会、厚生補導委員会の委員に指名するなどして、学生に関する情報が周知できるように努めている。また、学級担任の手引きを配布して、担任業務や3主事及び学科長等の学級担任への協力を明記している(資料 2 - 2 - - 1)。

課外活動の中心になるクラブ活動は、全教員が文科系と体育系のいずれかの顧問に配置され、その活動及び指導が円滑に実施されるように配慮している(資料 2 - 2 - - 2)。

全学科で取り入れている練習船実習には、正規の乗組員の他、商船学科教員及び非常勤乗組員を配置し、本校で最も得意とする海洋教育に力を入れている(資料 2 - 2 - - 3)。

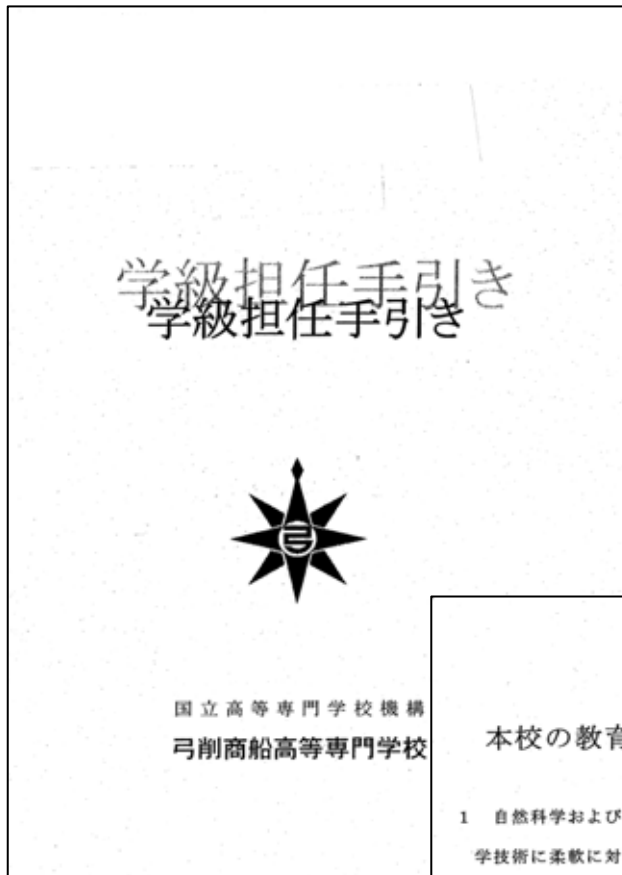
事務部では、学生課を中心に、教育活動全般の支援に加えて、校内練習船実習(5 名)、実験実習(6 名)、海洋実習(3 名)、情報処理演習(1 名)等の授業の支援を実施している。

(分析結果とその根拠理由)

教育活動を円滑に実施するため、学級担任制度の活用、課外活動の円滑な実施、練習船教育の充実などの支援を行っている。また、事務部では、学生課を主体として、校内練習船実習、工作実習、情報処理演習等の授業の支援を実施している。

以上のことから、教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているといえる。

資料 2 - 2 - - 1



本校の教育方針

- 1 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成
- 2 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成
- 3 日本および世界の文化や社会に関心を持ち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成

学科としての人材育成目標

- S 船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
- M ものづくりのできる実践的な技術者—計画・設計から生産・保守運用までできる技術者—の育成
- I 情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成
- G 幅広い視野に立った総合的な判断力、斬新な創造力を備えた実践的技術者養成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指す
- 専 実際のシステムの運用・管理や開発能力、「ものづくり」に必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成

出典：学級担任の手引き

資料 2 - 2 - - 2

平成 18 年度クラブ・同好会顧問等名簿

平成 18 年 4 月 1 日現在

部 局	顧 問 教 員	学 生 代 表
1. 総 局	上岡	
2. 体 育 局	益崎・水崎	
陸 上 部	※村上(知)・友田・高尾	※
男子バレー部	※秋葉・瀬濤	※
女子バレー部	※中家・峯脇	※
ソフトテニス部	※久保・勘久保・加藤	※
卓 球 部	※藤井(清)・大石・坂内	※
サ ッ カ ー 部	※永本・堀口	※
男子バスケット部	※水崎・徳田	※
女子バスケット部	※多田(光)・松下・藤井温	※
柔 道 部	※葛目・松永	※
剣 道 部	※田房・山尾・岡本	※
野 球 部	※中山・多田(勝) 児玉・伊藤(芳)	※ ※
水 泳 部	※藤本・石橋	※
テ ニ ス 部	※濱中・益崎・鶴	※
ラ ク ビ ー 部	※中・渡部・伊藤(武)・上岡	※
カ ッ タ ー 部	※高岡・豊田・柳沢	※
ヨ ッ ト 部	※二村・野々山・高木・土井	※
パドミントン部	※岩本・上江・田原	※
3. 文 化 局	田原・猪川	
学 芸 部	※多田(光)	※
美 術 部	※塚本	※
茶 道 部	※勘久保	※
吹 奏 楽 部	※日下・土井・峯脇	※
軽 音 楽 部	※伊藤(芳)・伊藤(武)	※
写 真 部	※田原	※
無 線 部	※田頭	※
書 道 部	※猪川	※
マ イ コ ン 部	※長尾・徳田	※
ロボット製作部	※中山・瀬濤・田頭	※
天 文 ・ 気 象	※二村	※
将 棋 部	※神谷・土井	※
囲 碁 部	※多田(光)・児玉	※
ソーラーボート部	※松下・塚本	※
4. 同 好 会		
ゴ ル フ	※	※
イラスト・漫画	※藤本	※
マリンスポーツ	※田房	※
フィッシング	※	※
異 文 化 交 流	※	※
I T 研 究 会	※塚本・田房	※
フ ッ ト サ ル	※	※

※印は代表顧問(学生は主将)

出典：平成 18 年度クラブ・同好会等顧問名簿

平成17年度第2回クラブ顧問会議議事概要

日 時	平成17年6月27日（月） 16:22～17:05
場 所	第1会議室
出席者	26名（別紙のとおり）
議 題	1. 平成17年9月卒業予定者の体育・文化功労賞について 2. クラブ活動時間について 3. その他

議 事

1. 平成17年9月卒業予定者の体育・文化功労賞について

学生主事から、議題資料1に基づき、各クラブ顧問から推薦のあった平成17年9月卒業予定者（商船学科）の体育功労賞（文化功労賞の候補者なし）の候補者11名について説明があり、審議した結果、全員を厚生補導委員会に推薦することで了承された。また、卒業式における受賞者代表は、「早柏 ちひろ」を推薦することとなった。

2. クラブ活動時間について

学生主事から、クラブ活動時間について、遅くまで練習している場合の学生の事故に対する対応、顧問教員の指導時間及び学寮の日課など生活面等について説明があり、審議した結果、原則として20時を限度とすることとし、20時を超える特殊なクラブについては顧問教員が指導することで了承された。また、ロボットコンテストに出場するための活動時間についても、計画的に実施し、遅くならないように協力依頼があった。

なお、クラブ活動施設は、クラブ単位で使用することとし、クラブ以外のグループでの使用は、顧問教員等の指導者もないことから使用させないこととなった。

活動時間が20時を超えるクラブ

- 天文・気象部 天体観測等は早い時間では実施できない。
- 茶道部（週1回） 運動クラブと掛け持ちの学生もいるため、2部制で活動している。 通学生 16:30～18:00
寮生 19:30～21:00

3. その他

(1) 学外者によるクラブ指導謝金について

学生主事から、4月25日（月）開催の本会議で予算化を要望することとしていたクラブ指導謝金について、会計課と折衝をしたが、現状の予算では配分できない状況であり、学生指導関係経費の追加予算があれば検討したいとのことである旨の報告があった。

出典：平成17年度第2回クラブ顧問会議議事概要

(2) 事務系職員の副顧問制について

学生主事から、4月25日（月）開催の本会議で要望することとしていた事務系職員の副顧問制について、事務部で検討した結果、事務系職員等の学生指導業務命令は困難であり、業務担当係の行う大会運営業務補助として、学校行事の大会で地区大会以上の大会に限り認める旨の報告があった。

(3) クラブ活動中の事故における救急救命対策について

学生主事から、昨年、四国地区の高専で野球部の学生が死亡した事故があり、各高専では、心停止した状態で救急車がくるまでの救急救命措置として、半自動除細動器が整備されてきている。本校においても学生の生命に関わることから、予算化して2台購入する予定であり、購入後は取扱要領も兼ねて、上島町消防本部に依頼し救急救命講習会を開催する予定である旨の報告があった。

(4) 後援会総会等に伴う体育館使用について

学生主事から、7月3日（日）に第2体育館において後援会総会及び前期保護者全体懇談会が開催される予定であり、会場設営の7月1日（金）から3日（日）まで第2体育館が使用できないので、四国地区体育大会目前ではあるが、その間の第2体育館使用クラブに対し協力依頼があった。

(5) 壮行会について

学生主事から、7月14日（木）に全校集会及び壮行会等があるが、当日は第2体育館で全校集会後に、夏季休業中における学生生活に関する講演会を実施予定であり、講演会終了後に壮行会を行う計画である旨の報告があった。

(6) 学生会予算について

顧問教員から、学生会予算について、本年度から各クラブの部費が見直しされ旅費に充当できないこととされているが、「はまかぜ」を利用した場合の燃料費は支出してはいけないかとの質疑があった。これに対し学生主事から、練習試合は個人負担であることの確認がされ、「はまかぜ」の燃料費については学生会に相談する旨の発言があった。また、予算に関連し、体育・文化活動後援会における各種全国大会等の学生旅費補助は減額しないように依頼があり、学生主事から本年度については従来どおりの補助とする旨の回答があった。

以 上

出典：平成17年度第2回クラブ顧問会議議事概要

資料 2 - 2 - - 3

氏 名 (ふりがな)	異 動 内 容	備 考
現 職		
	技務補佐員（弓削商船高等専門学校学生課実験実習第一係 練習船弓削丸二等航海士）に採用する 雇用期間は平成17年4月28日までとする 1時間1,464円を給する	
個人番号		
68400851		
	技務補佐員（弓削商船高等専門学校学生課実験実習第一係 練習船弓削丸二等機関士）に採用する 雇用期間は平成17年4月28日までとする 1時間1,464円を給する	
個人番号		
68400861		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">以下余白</div>	

出典：庶務課

職員採用公募要領

下記により職員を公募いたします。

記

1. 職種・人員 航海士・機関士 各1名
2. 勤務場所 弓削商船高等専門学校練習船「弓削丸」(240トン)
3. 勤務内容 航海士 甲板部航海当直業務, 航海実習補助業務, その他
機関士 機関部航海当直業務, 航海実習補助業務, その他
4. 勤務時間 1日8時間
勤務日数 商船学科学生の泊を伴う航海実習時(平成17年度実績で30日程度)
その他必要と認める航海
5. 給 与 経験年数に応じて, 1時間あたり900円程度から1,400円程度の給与を支給(時給制)
6. 応募資格 次のいずれにも該当する者
1) 年齢が60歳程度までの者
2) 航海当直業務の経験を有する者
3) 海技士(航海士は航海, 機関士は機関)三級以上の免許を取得している者が望ましい
7. 採用予定日 平成18年6月13日
8. 選考方法 書類選考, 面接試験
平成18年3月中旬実施予定
(試験日時は, 後日通知します。なお, 試験の際の旅費等は自己負担となります。)
9. 応募書類 1) 履歴書(市販のもので可。写真添付のこと。)
2) 職務に関連する資格・免許等の写し
10. 応募締切 平成18年3月10日(金)(必着)
11. 書類提出先 〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地
及び 弓削商船高等専門学校 庶務課人事係
問合せ先 電話 (0897) 77-4607
(※応募書類は, 封筒の表に「航海士(若しくは機関士)応募書類在中」と
朱書きのうえ, 簡易書留で郵送すること。)

出典：職員採用公募要領(平成18年3月)

(2) 優れた点及び改善する点

(優れた点)

教育支援施設である校内練習船は、商船学科のみならず、工業系 2 学科の海洋教育、地域との連携、共同研究などに全学的な施設として広く活用し、学内・外における海洋教育に貢献している。

(改善する点)

教員間の連携は組織として体制を整える緒に至ったところである。教育内容検討委員会や教育研究組織検討委員会を活用することで充実させたい。

(3) 基準 2 の自己評価の概要

学科の構成及び内容は教育方針を踏まえて、地域のニーズに応えることができる海事関連学科と、ものづくりを基盤にした工業系学科の 2 学科でバランスよく構成されている。

専攻科は、基礎となる学科の上積み課程であることを踏まえて構築されており、教育の目的と本校の教育方針に適合している。

校内練習船、情報処理教育センターの教育支援施設は、授業（講義、実習、演習、卒業研究）で使用されるばかりでなく、地域との連携、共同研究などにも活用され、本校の教育を遂行するために不可欠の施設となっている。

教育課程全体についての企画調整・運営・検討は、運営委員会を中心にして、教務委員会、厚生補導委員会、寮務委員会、専攻科委員会の各種委員会と連携して、係る事項に対して柔軟に対応している。

一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携は、組織として行われた経緯は少ないが、教務主事や教務委員会を中心に対応しており、機能的に行われているといえる。

教育活動を円滑に実施するため、学級担任制度の活用、課外活動の円滑な実施、練習船教育の充実などの支援を行っている。また、事務部では、学生課を主体として、校内練習船実習、工作実習、情報処理演習等の授業の支援を実施している。

基準 3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点 3 - 1 - : 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

一般科目を担当する総合教育科の常勤及び非常勤の名簿を示す(資料 3 - 1 - - 1)。幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指すために担当する教員を配置している。本校の島嶼部という立地条件から、海に関する教養として生物概論を商船学科のみならず電子機械工学科及び情報工学科にも選択必修とし、海と生命の結びつきなどを学ぶことによって幅広い教養を身につけさせている(資料 3 - 1 - - 2)。また、国際化に対応できるような実用的英語力の向上のために、ネイティブの英語教員を昭和 50 年から非常勤として配置している(資料 3 - 1 - - 3)。特に商船学科においては以前より外航船への就職などの関係からネイティブ教員による外国語教育が大変重要視されている。

(分析結果とその根拠理由)

幅広い教養科目や専門科目に関連した科目を担当する教員を配置している。また昨今の国際化に対応するため、昭和 50 年からネイティブスピーカーによる英語教育に取り組んでいる。

以上のことから、教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているといえる。

資料 3 - 1 - - 1

Department and Curriculum 学科と教育課程

教員組織 (総合教育科)

Educational Staff (General Education)

職名 Rank 学位	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects	備考 Note	職名 Rank	氏名 Name	担当科目 Teaching Subjects
教授 Professor 教育学士	上岡 範雄 UEDA Norio	保健, 体育 Health and Physical Education	学生主事(校長補佐) Dean of Student Affairs (Assistant President)	非常勤講師 P/T Lect.	龜山 和磨 KAMEYAMA Kazumaro	書道 Calligraphy
教授 Professor 法学修士	山尾 徳雄 YAMAO Tokuo	政治・経済, 法学, ※海事国際法 Politics/Economics/Law ※Maritime/International Law	総合教育科長 Head of General Education	非常勤講師 P/T Lect.	田中 昌俊 TANAKA Masatoshi	日本語 Japanese
教授 Professor 博士(工学)	濱中 俊一 HAMANAKA Shunichi	物理, ※物理学特論 Physics, ※Advanced Physics	S1担任 Home Room Teacher (S1)	非常勤講師 P/T Lect.	甲光 徹 KOHMITSU Toru	経済学 Economics
教授 Professor 文学修士	神谷 正彦 KAMIYA Masahiko	国語 Japanese	M2担任 Home Room Teacher (M2)	非常勤講師 P/T Lect.	河野 哲弘 KOHNO Tetsuhiko	倫理・社会 Ethics and Social Studies
教授 Professor 文学修士	上江 憲治 KAME Kenji	英語, ドイツ語, ※技術英語1 English/German, ※Technological English 1	寮務主事補, M1担任 Assistant Dean of Dormitory Home Room Teacher (M1)	非常勤講師 P/T Lect.	村上 隆夫 MURAKAMI Takao	数学特論 S/Lon Mathematics
教授 Professor 博士(理学)	藤井 清治 FUJII Seiji	数学, ※数理工学 Mathematics, ※Mathematical Engineering	寮務主事(校長補佐) Dean of Dormitory (Assistant President)	非常勤講師 P/T Lect.	新名 孝子 SHINMYO Takako	体育 Physical Education
助教授 Associate Professor 理学修士	久保 康幸 KUGO Yasuyuki	数学 Mathematics	教務主事補 Assistant Dean of Academic Affairs	非常勤講師 P/T Lect.	岡野 郁子 OKANO Ikuko	音楽 Music
助教授 Associate Professor 文学修士	日下(潤) 佳春 KUSAKA Yoshio (KUSANO)	世界史, 日本史 World History, Japanese History		非常勤講師 P/T Lect.	松木 崇 MATSUKI Takashi	美術 Fine Arts
助教授 Associate Professor 博士(理学)	岩本 豊 IWAMOTO Yutaka	数学, 数学特論, ※離散数学 Mathematics, S/Lon Mathematics, Discrete Mathematics	学生主事補 Assistant Dean of Student Affairs	非常勤講師 P/T Lect.	天方 博昭 AMAGATA Hiroaki	英語, 英語読読 English, English Reading
助教授 Associate Professor 博士(文学)	猪川 優子 KAWA Yuko	国語, ※文書表現論 Japanese, ※Style of Writing in Japanese	学生主事補 Assistant Dean of Student Affairs	非常勤講師 P/T Lect.	村上 健二 MURAKAMI Kenji	英語 English
講師 Instructor 修士(文学)	坂内 宏行 SAKAUCHI Hiroyuki	英語, 英語読読, ※技術英語2 English, English Reading, ※Technological English 2	寮務主事補, I2担任 Assistant Dean of Dormitory Home Room Teacher (I2)	非常勤講師 P/T Lect.	小倉 恵実 OGURA Megumi	英語 English
講師 Instructor 博士(理学)	堀口 正之 HORISUCHI Masayuki	数学 Mathematics	寮務主事補 Assistant Dean of Dormitory	非常勤講師 P/T Lect.	山岡 賢次 YAMADAKA Kenji	英語 English
講師 Instructor 修士(教育学)	水崎 一良 MIZUSAKI Kazuyoshi	保健, 体育 Health and Physical Education	学生主事補 Assistant Dean of Student Affairs	非常勤講師 P/T Lect.	丸山 義照 MARUYAMA Yoshiteru	英語 English
講師 Instructor 博士(工学)	伊藤 武志 ITO Takeishi	化学, ※環境化学概論 Chemistry, Introduction to Environmental Chemistry	寮務主事補 Assistant Dean of Dormitory	非常勤講師 P/T Lect.	Winfred Matthew Travis	英語 English
				非常勤講師 P/T Lect.	沖増 英治 OKMASU Eiji	生物概論 Biology

[S] は船舶学科, [M] は電子機械工学科, [I] は情報工学科, 数字は学年を表す, ※は専攻科科目を表す。

総合教育科
General Education

出典：平成 18 年度学校要覧

資料 3 - 1 - - 2

学科と教育課程 Department and Curriculum

総合教育科
General Education

一般科目教育課程表 (商船学科)							
授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別配当 Credits by Grade					備考 Note
		1年	2年	3年	4年	5年	
		1st year	2nd year	3rd year	4th year	5th year	
国語 Japanese	9	3	3	2	1		
政治・経済 Politics & Economics	2	2					
倫理・社会 Ethics & Social Studies	2			2			
日本史 Japanese History	2	2					
世界史 World History	2		2				
経済学 Economics	2				2		
法学 Laws	2				2		
哲学 Philosophy	1					1 いずれか1科目(1単位)を選択必修	
生物概論 Introduction to Biology	1					1	
数学 1 Mathematics 1	12	4	4	4			
数学 2 Mathematics 2	4	2	2				
化学 Chemistry	4	2	2				
物理 Physics	4	2	2				
保健 Health	1	1					
体育 Physical Education	9	2	3	2	1	1	
音楽 Music		2					
美術 Fine Arts	2	2					
書道 Calligraphy		2					
英語 English	15	6	5	3	1		
英語講読 English Reading	3				2	1	
ドイツ語 German	2			2			
科目単位数計 Total	78	28	23	15	9	3	

特別活動：1～3年において毎週1単位時間(標準50分)以上実施する。

一般科目教育課程表 (電子機械工学科・情報工学科共通)							
授業科目 Subjects	単位数 Credits	学年別配当 Credits by Grade					備考 Note
		1年	2年	3年	4年	5年	
		1st year	2nd year	3rd year	4th year	5th year	
国語 Japanese	9	3	3	2	1		
政治・経済 Politics & Economics	2	2					
倫理・社会 Ethics & Social Studies	2			2			
日本史 Japanese History	2	2					
世界史 World History	2		2				
経済学 Economics	2				2		
法学 Laws	2					2	
哲学 Philosophy	1					1 いずれか1科目(1単位)を選択必修	
生物概論 Introduction to Biology	1					1	
数学 1 Mathematics 1	12	4	4	4			
数学 2 Mathematics 2	4	2	2				
数学特論 Special Lecture	(2)			(2)		選択必修	
化学 Chemistry	4	2	2				
物理 Physics	4	2	2				
保健 Health	1	1					
体育 Physical Education	9	2	3	2	1	1	
音楽 Music		2					
美術 Fine Arts	2	2					
書道 Calligraphy		2					
英語 English	15	6	5	3	1		
英語講読 English Reading	3				1	2	
ドイツ語 German	3			2	1		
科目単位数計 Total	81	28	23	17	7	6	

特別活動：1～3年において毎週1単位時間(標準50分)以上実施する。

資料3 - 1 - - 3

区分	職名	担当授業科目名	氏名	在任期間												備考		
				62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11	12
旧 職 員	非常勤講師	国語	村上 巖	-														63.2.1~63.3.31
	〃		古江 昭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	55.5.29~8.3.31
		地理	西本文三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	57.4.12~元.3.31
		経済学	喜田栄次郎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	62.4.11~12.3.31
		物理	青影章夫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.4.1~9.3.31
		数学	北川幸吉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	53.4.2~元.3.31
		〃	岡野 照	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	元.4.1~12.3.31
		体育(柔道)	矢野憲治郎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	45.11.2~7.3.31
		〃	廣瀬 淳一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7.4.1~9.3.31
		〃	馬越晴通	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.4.1~12.3.31
		体育(剣道)	小川壽久	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	59.10.1~12.3.31
		美術	青木廣光	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	57.4.12~4.3.31
		〃	穂積英昭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.4.1~7.9.14
		〃	砂原 久	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7.10.18~8.3.31
		〃	瀬島勝興	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.4.1~11.3.31
		書道	岡本 馨	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	55.6.18~3.3.31
		〃	梶井真介	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.4.1~11.3.31
		英語	上江憲治	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	61.6.25~63.3.31
		〃	A・F・マッカーティ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.4.2~3.5.1
		〃	畠中和生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.4.11~3.3.31
		〃	池辺 寧	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.4.1~6.3.31
		〃	村若 修	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.6.21~4.3.31
		ドイツ語	西嶋義憲	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	61.4.8~2.3.31
		〃	小田智敏	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.4.11~6.3.31
		〃	香田芳樹	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6.4.1~8.3.31
		〃	西根文子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8.4.1~12.3.31
		中国語	田原逸司	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	61.7.5~元.9.19
		倫理・社会	山尾弘雄	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	56.4.11~2.3.31
		地学	吉平和民	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	元.4.11~4.3.31
		日本史	村上 貢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.4.11~6.3.31

観点3 - 1 - : 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校は、商船系(商船学科)及び工業系(電子機械工学科, 情報工学科)の学科を有しているため、専門科目教員が担当すべき分野は多岐にわたっている。商船学科は船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成のため、航海系及び機関係を担当する教員をバランス良く配置している(資料3 - 1 - - 1)。電子機械工学科はものづくりのできる実践的な技術者 - 計画・設計から生産・保守運用までできる技術者の育成のため、電子系と機械系を担当する教員をバランス良く配置している(資料3 - 1 - - 2)。情報工学科は情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成のために、ソフト系及びハード系を担当する教員をバランス良く配置している(資料3 - 1 - - 3)。また練習船を保有しているため、船長、機関長、一等航海士、及び一等機関士を専任教員として配置している(資料3 - 1 - - 1)。さらに練習船を用いた泊を伴う航海実習においては、二等航海士及び二等機関士を非常勤で配置している(資料3 - 1 - - 4)。航海実習では、さらに商船学科の教員がインストラクターとして乗り込み、より高い安全航海と質の高い学生実習を可能にしている。その結果として最終学年では、運航計画、運航準備、及び運航のすべてを学生自身で行う実習を取り入れている(資料3 - 1 - - 5)。

(分析結果とその根拠理由)

専門学科では、幅広い専門科目を教授するために担当する教員を各学科ともバランス良く配置している。さらに練習船弓削丸では、専任教員の他に泊を伴う航海実習には非常勤教員を配置し、安全航海を実現すると共に学生の航海実習を充実させている。

以上のことから教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているといえる。

資料 3 - 1 - - 1

教員組織 (商船学科)

Educational Staff (Maritime Technology Department)

職名 Rank 学位	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects	備考 Note
教授 Professor 工学博士	石橋 洋二 ISHIBASHI Yoji	内燃機関学, 応用数学, ※エネルギー変換学 Internal Combustion Engine Science, Applied Mathematics, ※Theory of Energy Conversion	図書館長 Director of Library
教授 Professor 商船学士	多田 勝 TADA Masaru	設計製図, 蒸気工学, ※危機管理学 Design and Drawing, Steam Engineering, ※Theory of Risk Management	
教授 Professor 商船学士	中家 修 NAKAIIE Osamu	海運論, 海事法規, ※海洋環境法規 Marine Transportation Theory, Maritime Law, ※Marine Environment Laws	
教授 Professor 博士(工学)	松下 邦幸 MATSUSHITA Kuniyuki	電磁気学, 電気機器, ※商船システム概論 Electromagnetics, Electrical Instrument, ※Introduction to Merchant Ship Systems	
教授 Professor 博士(工学)	友田 進 TOMODA Susumu	材料学, ※機械加工学 Material Science, ※Theory of Machining	教務主事(副校長), 中期計画推進室長 Dean of Academic Affairs, Director of Middle plan Promotion Section
教授 Professor 博士(工学)	中 哲 夫 NAKA Tetsuo	材料力学, 水力機械学, ※弾塑性学 Material Mechanics, Hydro-Machine Science, ※Theory of Elasto-Plasticity	商船学科長, 専攻科長 Head of Maritime Technology Department, Head of Advanced Engineering Course
教授 Professor 博士(情報工学)	多田 光男 TADA Mitsuo	航海学, 船舶安全工学, ※船舶安全工学特論 Navigation, Stowage, ※Advanced Maritime Safety Engineering	地域共同研究推進センター主任, S2担任 The chief of Research Center for Regional Collaboration, Home Room Teacher. (S2)
助教授 Associate Professor 商船学士	児玉 敬一 KODAMA Keiichi	操船学, 専門英語, 載貨論, ※運送管理学特論 Seamanship, Technical English, Stowage, ※Advanced Transportation Management	S5担任, S5実習生担任, 進路指導主任, 寮務主事補 Home Room Teacher, (S5 Trainee Students) Course Guidance Chief, Assistant Dean of Dormitory
助教授 Associate Professor 博士(工学)	高岡 俊輔 TAKAKA Shunsuke	航海計測学, 電波測位学, ※海事シミュレーション Nautical Instrument, Radio Wave Position Measurement Science, ※Maritime Simulation Engineering	海上輸送システム工学専攻主任, 教務主事補, S4担任 Chief of Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course, Assistant Dean of Academic Affairs, Home Room Teacher. (S4)
助教授 Associate Professor 博士(工学)	湯田 紀男 YUDA Norio	在外研究員(韓国釜山大学で研究中) Studying Overseas as a Research Scholar	
助教授 Associate Professor 博士(工学)	村上 知弘 MURAKAMI Tomohiro	熱力学, ※材料学特論 Thermodynamics, ※Advanced Material Science	教務主事補, S3担任 Assistant Dean of Academic Affairs, Home Room Teacher. (S3)
講師 Instructor 博士(工学)	柳沢 修実 YANAGISAWA Osami	電子工学 Electronics	
講師 Instructor 博士(工学)	二村 彰 FUTAMURA Akira	海洋気象学, 天文測位学, ※海事科学演習 Oceanography, Astronomical Position Measurement Science, ※Maritime Scientific Seminar	
助手 Research Associate 博士(工学)	土井 正好 DOI Masayoshi	計測工学 Instrumentation Engineering	学生主事補 Assistant Dean of Student Affairs
助手 Research Associate 工学修士	秋葉 貞洋 AKIIBA Sadahiro	機械工作法, 内燃機関学 Machining, Internal Combustion Engine Science	
助手 Research Associate 修士(経済学)	野々山 和宏 NONOYAMA Kazuhiro	内地研究員(東北大学で研究中) Studying Domestically as a Research Scholar	
非常勤講師 P/T Lect.	元 廣 孝志 MOTOHIRO Takashi	航海学セミナー, 機関学セミナー Navigation Seminar, Engines Science Seminar	
非常勤講師 P/T Lect.	加賀 正人 KAGA Masato	船舶工学 Ship Engineering	

※は専攻科目を表す。

[S] は商船学科、数字は学年を表す。

教員組織 (練習船)

Educational Staff (Teaching Staff of Training Ship)

職名 Rank 学位	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects	備考 Note
助教授 Associate Professor	豊田 利彦 TOYOTA Toshiniko	海上交通法 Marine Transport Laws	弓削丸船長 Captain of College Training Ship
助教授 Associate Professor 学士(工学)	松永 直也 MATSUNAGA Naoya	機関学概論, 内燃機関学 Introduction to Engine Science, Internal Combustion Engine Science	弓削丸機関長, 寮務主事補 Chief Engineer, Assistant Dean of Dormitory
助手 Assistant 准商船学士	永本 和寿 NAGAMOTO Kazuhisa	操艇・通信 Boatsmanship and Signalling	弓削丸一等航海士 Chief Officer
助手 Assistant 准商船学士	渡部 和美 WATANABE Kazuyoshi	実験実習 Experiment and Practice	弓削丸一等機関士, 学生主事補 First Engineer, Assistant Dean of Student Affairs

出典：平成 18 年度学校要覧

資料 3 - 1 - - 2

教員組織 (電子機械工学科)			
Educational Staff (Electronic Mechanical Engineering Department)			
職名 Rank 学位	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects	備考 Note
教授 Professor 工学博士	高尾 健一 TAKAO Kenichi	材料力学, 流体力学, ※材料強度学 Strength of Materials, Hydrodynamics, ※Theory of Material Strength	M4担任 Home Room Teacher. (M4)
教授 Professor 博士(工学)	勘久保 広一 KANKUBO Kouichi	制御工学, デジタル制御工学, ※感性工学 Control Engineering, Digital Control Engineering, ※Sensibility Engineering	地域共同研究推進センター長, M5担任, 進路指導主任 The Manager of Research Center for Regional Collaboration, Home Room Teacher. (M5), Course Guidance Chief
教授 Professor 博士(工学)	大石 健司 OISHI Kenji	設計製図, 計測工学2, 機械工作法, ※精密加工学 Design and Drawing, Instrumentation Engineering2, Manufacturing Technology, ※Theory of Precision Machining	電子機械工学科長 Head of Electronic Mechanical Engineering Department
教授 Professor 工学博士	鶴 秀登 TSURU Hideto	工業力学, 設計製図, 基礎機械制御工学, ※設計工学 Engineering Mechanics, Design and Drawing, Basic Machinery & Control, ※Design Engineering	
助教授 Associate Professor 工学修士	益崎 真治 MASUZAKI Shinji	情報処理, 電子計算機, ※計算機制御システム Information Processing, Electric Computers, ※Computer Control System	学生主事補 Assistant Dean of Student Affairs
助教授 Associate Professor 博士(工学)	藤本 隆士 FUJIMOTO Takashi	電子工学, 応用物理1・2, ※トライボロジー Electronics, Applied Physics1・2, ※Tribology	教務主事補, M3担任 Assistant Dean of Academic Affairs Home Room Teacher. (M3)
助教授 Associate Professor 博士(工学)	中山 恭秀 NAKAYAMA Yasuhide	機構学, 設計製図, ※CAD/CAM Mechanism, Design and Drawing, ※CAD/CAM	教務主事補 Assistant Dean of Academic Affairs
助教授 Associate Professor 博士(工学)	瀬瀨 喜信 SETOU Yoshinobu	電気回路, 電子回路, 電気磁気学, ※電子回路応用 Electric Circuits, Electronic Circuits, Electromagnetics, ※Applied Electronic Circuits	
助手 Research Associate	田頭 章司 TAGASHIRA Syoji	シーケンス制御, 基礎機械制御工学, 電気電子機器 Sequence Control, Basic Machinery & Control, Electrical & Electronic Apparatus	
助手 Research Associate 博士(工学)	加藤 茂 KATO Shigeru	工作実習, 電子回路, 電子回路特論 Workshop Practice, Electronics, Advanced Electronics	寮務主事補 Assistant Dean of Dormitory
非常勤講師 P/T Lect.	八木 秀次 YAGI Hidetsugu	機械工作法, 工作機械 Manufacturing Technology, Machine Tools	
非常勤講師 P/T Lect.	天方 博昭 AMAGATA Hiroaki	工業英語 Technical English	
非常勤講師 P/T Lect.	寄高 政史 YORITAKA Masashi	設計製図, 計測工学1, システム工学 Design and Drawing, Instrumentation Engineering1, System Engineering	
非常勤講師 P/T Lect.	高橋 一洋 TAKAHASHI Kazuhiro	計算機制御, 電気電子機器, ロボット工学 Computer Control, Electrical & Electronic Apparatus, Robotics	

※は専攻科目を表す。

〔M〕は電子機械工学科、数字は学年を表す。

出典：平成 18 年度学校要覧

資料 3 - 1 - - 3

教員組織 (情報工学科)			
Educational Staff (Information Science and Technology Department)			
職名 Rank 学位	氏名 Name	主な担当科目 Teaching Subjects	備考 Note
教授 Professor 商船学士	田原 正信 TAHARA Masanobu	論理回路, システム・インターフェース, ※情報機器特論 Logical Circuit, System Interface, ※Advanced Information Instruments	学生主事補, I4担任 Assistant Dean of Student Affairs, Home Room Teacher. (14)
教授 Professor 博士(工学)	岡本 太志 OKAMOTO Futoshi	計測工学, システム工学 Instrumentation Engineering, System Engineering	
教授 Professor 博士(工学)	塚本 秀史 TSUKAMOTO Hideshi	画像処理, システム工学, ※環境マネージメントシステム Image Processing, System Engineering, ※Environmental Management System	情報工学科長 Head of Information Science
教授 Professor 博士(理学)	葛目 幸一 KUZUME Kouichi	電気工学, マルチメディア工学, ※信号処理論 Electric Engineering, Multimedia Engineering, ※Theory of Digital Signal Processing	生産システム工学専攻主任, I5担任, 進路指導主任 Chief of Advanced Production Systems Engineering Course, Home Room Teacher. (15), Course Guidance Chief
助教授 Associate Professor 商船学修士	高木 洋 TAKAGI Hiroshi	通信工学, オペレーティング・システム, ※ソフトウェア工学特論 Communication Engineering, Operating System, ※Advanced Software Engineering	教務主事補 Assistant Dean of Academic Affairs
助教授 Associate Professor 博士(工学)	長尾 和彦 NAGAO Kazuhiko	アルゴリズム, コンパイラ, ※データ構造 Algorithm, Compiler, ※Data Structures and Algorithms	情報処理教育センター長, 教務主事補, I1担任 Director of Computer Education Center, Assistant Dean of Dormitory, Home Room Teacher. (11)
助教授 Associate Professor 博士(工学)	伊藤 芳浩 ITOU Yoshihiro	電子回路, 電磁気学 Electronic Circuits, Electro Magnetics	
助教授 Associate Professor 博士(工学)	田房 友典 TABUSA Tomonori	情報処理, データベース, ※画像応用システム工学 Information Processing, Data Base, ※Image Application Systems Engineering	情報処理教育センター主任, 教務主事補, I3担任 Sub Director of Computer Education Center, Assistant Dean of Academic Affairs, Home Room Teacher. (13)
講師 Instructor 博士(学術)	徳田 誠 TOKUDA Makoto	情報理論, 制御工学, ※マルチメディア特論 Information Theory, Control Engineering, ※Advanced Multimedia	寮務主事補 Assistant Dean of Dormitory
助手 Research Associate 工学士	藤井 温子 FUJII Haruko	情報処理, 情報工学実験 Information Processing, Information Engineering Experiments	寮務主事補 Assistant Dean of Dormitory
助手 Research Associate 修士(工学)	峯脇 さやか MINEWAKI Sayaka	人工知能, 情報工学実験 Artificial Intelligence, Information Engineering Experiments	寮務主事補 Assistant Dean of Dormitory
非常勤講師 P/T Lect.	住本 哲宏 SUMIMOTO Tetsuhiro	応用数学 Applied Mathematics	
非常勤講師 P/T Lect.	清水 光 SHIMIZU Hikaru	電子工学, オペレーションズ・リサーチ Electronics, Simulation, Operations Research	
非常勤講師 P/T Lect.	寄高 政史 YORITAKA Masashi	システム工学, 製図・CAD System Engineering, Drawing and CAD	

※は専攻科目を表す。

[I] は情報工学科、数字は学年を表す。

出典：平成 18 年度学校要覧

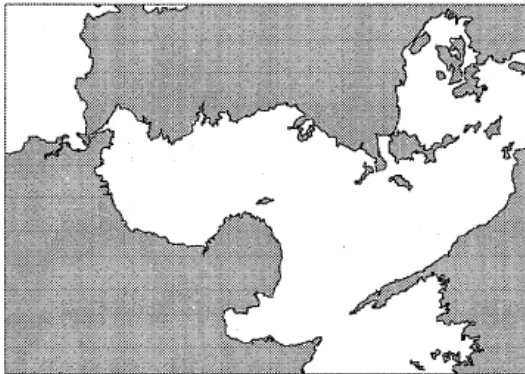
資料3 - 1 - - 4

平成17年度

商船学科第5学年練習船実習

平成17年6月13日(月)～15日(水)

(弓削～西大分～門司～弓削)



指導教職員

豊田、永本、堀
松永、渡部、岩堀
金子、辻、中瀬
山下、中根

生活指導、インストラクター

高岡、松下、野々山

弓削丸船舶電話

090-3022-5190

実習船係留場(昼間)

実験実習第一係

0897-77-3007

学生課学生係(昼間)

0897-77-4621

警備員携帯電話(夜間)

090-1177-1859

商船学科第5学年

氏名 _____

出典：練習船「弓削丸」

資料 3 - 1 - - 5

1. メインテーマ

船舶は一旦災害に遭遇した場合、迅速にまた容易に陸上の救助を求めることができないので、自分の手で適切な処置をとらねばならない状態におかれている。したがって今回の弓削丸実習を通じて、将来、外航船舶の運航士として要求される自己完結性の精神を意識し、いかなる非常事態や緊急事態が発生しても、常に平常心を保ちながらリーダーシップをとり、冷静に状況を判断して行動する能力を養うことにある。

過去4年間、5回の航海実習で修得した知識を活かし、この最後の航海を、実りあるものにできるよう、意欲を持ち、積極的に臨んでもらいたい。

2. 実習に臨むにあたって

少ない実習時間を有意義にするために、前以て「航海実習の手引き」に記載してある実習内容、前回までの実習ノート、教科書等により予習をしておくことが望ましい。

3. 弓削丸船内規範

安全な航海をするために、下記事項を是非守って欲しい

1. 災害防止のために

- 1) ポケットハンドをしない
- 2) 室外では常に帽子を着用する
- 3) 職務上の命令にたいしては、
指示されたとおりを明確に復唱してから、作業に掛かる
- 4) 緊急時以外は、船内をみだりに走らない
- 5) 作業時には、安全帽・安全靴等の安全具を着用する

2. 船内秩序維持のために(船員法第21条参照)

- 1) 上長の職務上に命令に従うこと
- 2) 船長の指定する時まで船内に乗り込むこと(5分前精神)
- 3) 許可無しで船内を去らないこと
- 4) 他の乗組員の職務を妨げないこと
- 5) 船内において、闘争・その他粗暴な行為をしないこと
- 6) 清水を無駄遣いしないこと
- 7) 危険物を持ち込まないこと
- 8) その他、船内の秩序を乱すような行為をしないこと

3. 保健衛生および国際的慣習適応のため

- 1) 常に寝具の整頓、居住区の清掃を心掛けること
- 2) 海上では船舶から油、ゴミ、その他の廃棄物を捨てないこと
- 3) 国旗に対しては、自国・他国の区別無しに敬意を忘れないこと

4. その他

- 1) 船内では挨拶を忘れないで、且つ、意欲的に実習を行ない、
少しでも何かを身につけてくれることを期待する

出典：平成17年度商船学科第5学年練習船実習の手引き

観点3 - 1 - : 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専攻科は海上輸送システム工学専攻及び生産システム工学専攻から構成される。各専攻の常勤名簿を示す(資料3 - 1 - - 1)。専攻科では実際のシステムの運用・管理や開発能力、ものづくりに必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成のため、システムの運用系及びものづくり系を担当する教員をバランス良く配置している。専攻科の基礎教育担当教員には5名の博士(理・文学)が在籍しており、応用力を引き伸ばすための基礎理論を強化している。また専攻科担当教員には、博士(工・理・情報工)のみならず企業経験者で技術士、第1種情報処理技術者及び一級海技士など幅広い人材を有しており、理論ばかりでなく実践教育にも対応している(資料3 - 1 - - 2)。

(分析結果とその根拠理由)

海上輸送システム工学専攻及び生産システム工学専攻からなる専攻科の授業科目は、教員の研究業績に応じて科目担当を決定した後、教員組織に関する審査を一昨年受審し、要件を満たすとの評価を得ている。担当教員は、基礎教育及び専門教育に対応するべく、バランス良く配置されている。

以上のことから、専攻科の教育目的を達成するために必要な授業科目担当が適切に配置されているといえる。

資料 3 - 1 - - 1

〈海上輸送システム工学専攻〉

職名	ふりがな氏名	担当授業科目			
教授	石橋 洋二	エネルギー変換学			
		熱機関工学			
		特別研究			
		海事科学演習			
教授	多田 勝	危機管理学			
		中家 修	海洋環境法規		
			海運経済特論		
			海上労働論		
教授	松下 邦幸	海事科学実験			
		商船システム概論			
		機関システム工学			
		特別研究			
教授	友田 進	海事科学実験			
		機械加工学			
		制御特論			
		特別研究			
教授	多田 光男	船舶安全工学特論			
		海上交通工学特論			
		海難論			
		特別研究			
教授	中 哲夫	弾塑性学			
		海事科学演習			
		特別研究			
		助教授	泥玉 敬一	運送管理学特論	
海上労働論					
海上輸送工学					
助教授	高岡 俊輔			海事シミュレーション工学	
		海上輸送工学			
		航海システム論			
		特別研究			
助教授	湯田 紀男 (19年度開講)	船舶工学特論			
		船舶運動力学特論			
		推進特論			
		助教授	村上 知弘	材料学特論	
教授	田原 正信			緑船環境論	
	教授			勳久保 広一	制御特論
	教授			山岸 徳雄	海事国際法
教授	濱中 俊一	物理学特論			
		教授	上江 寛治	技術英語1	
教授	塚本 秀史	環境マネージメントシステム			
教授	藤井 清治	数理工学			
助教授	藤本 隆士	澄清工学特論			
助教授	中山 恭秀	コンピュータ機械設計			
助教授	田房 友典	情報処理特論			
助教授	猪川 優子	文書表現論			
講師	二村 彰	海事科学演習			
講師	坂内 宏行	技術英語2			
講師	伊藤 武志	環境化学概論			

〈生産システム工学専攻〉

職名	ふりがな氏名	担当授業科目		
教授	高尾 健一	材料強度学		
		生産システム工学実験		
教授	田原 正信	情報機器特論		
		教授	勳久保 広一	ロボティクス
感性工学				
生産システム工学実験				
教授	鶴 秀登	特別研究		
		設計工学		
		数値解析特論		
		特別研究		
教授	大石 健司	精密加工学		
教授	濱中 俊一	物理学特論		
教授	塚本 秀史	環境マネージメントシステム		
		特別研究		
		生産システム工学実験		
		教授	萬目 幸一	システムLSI設計
信号処理論				
センシング論				
特別研究				
助教授	高木 洋	生産システム工学実験		
		ソフトウェア工学特論		
		技術文献ゼミ		
		助教授	益崎 真治	計算機制御システム
助教授	藤本 隆士			トライボロジー
	技術文献ゼミ			
助教授	長尾 和彦			情報処理応用論
		人工知能特論		
		データ構造		
		生産システム工学演習		
助教授	中山 靖秀	CAD/CAM		
		生産システム工学演習		
助教授	瀬溝 喜信	電子回路応用		
		生産システム工学演習		
		生産システム工学実験		
		特別研究		
助教授	田房 友典	画像応用システム工学		
		マルチメディア特論		
		コンピュータネットワーク		
		生産システム工学演習		
教授	石橋 洋二	エネルギー変換学		
		教授	上江 寛治	技術英語1
教授	藤井 清治	数理工学		
教授	中 哲夫	弾塑性学		
助教授	岩本 豊	離散数学		
助教授	村上 知弘	材料学特論		
助教授	猪川 優子	文書表現論		
講師	徳田 隆	マルチメディア特論		
講師	坂内 宏行	技術英語2		
講師	伊藤 武志	環境化学概論		

出典：庶務課

資料 3 - 1 - - 2

教員の資格・免許等取得 一覧

学科等	資格・免許等	人数	
商船学科	1級海技士(航海)	2	
	1級海技士(機関)	1	
	2級海技士(航海)	1	
	2級海技士(機関)	1	
	3級海技士(航海)	3	
	3級海技士(機関)	2	
	甲種2等航海士(3級海技士(航海)相当)	1	
	甲種2等機関士(3級海技士(機関)相当)	1	
	1級小型船舶操縦士	2	
	4級小型船舶操縦士	1	
	船橋当直3級海技士(航海)	1	
	第1級海上特殊無線技士	1	
	第3級海上無線通信士	1	
	特殊無線技士(レーダー)	1	
	特殊無線技士(無線電話甲)	1	
	1級ボイラ技士免許	1	
	熱管理士免状	1	
	救命艇手適任証書	1	
	エックス線 労働安全衛生法による免許証	1	
	高等学校教諭2級普通免許状(商船)	2	
	学士(教養)	1	
	学士(工学)	1	
	工学修士	1	
	工学博士	1	
	修士(経済学)	1	
	修士(工学)	4	
	修士(商船学)	2	
	博士(工学)	9	
	博士(情報工学)	1	
	電子機械工学科	第1種情報処理技術者	1
		第1種電気工事士免状	1
第3種電気主任技術者免状		1	
電気工事士免状		1	
日本語文書処理技能(ワープロ技能)検定試験3級		1	
技術士		1	
3級海技士(機関)		1	
1級小型船舶操縦士		1	
高等学校教諭(普通2級免許)工業実習		1	
工学修士		1	
工学博士		2	
修士(工学)		5	
博士(工学)		6	
情報工学科		第1種情報処理技術者	1
	第2種情報処理技術者	2	
	情報処理技術者試験合格	1	
	特殊無線技士(レーダー)	1	
	1級小型船舶操縦士	1	
	船舶衛生管理者	1	
	MICROSOFT OFFICE USER SPECIALIST Microsoft Excel version 2002 (Microsoft Office XP)	1	
	MICROSOFT OFFICE USER SPECIALIST Microsoft Word version 2002 (Microsoft Office XP)	1	
	工学修士	3	
	修士(工学)	2	
	修士(商船学)	1	
	修士(情報工学)	1	
	博士(工学)	3	
博士(理学)	1		
博士(学術)	1		

出典：庶務課

総合教育科	Test of English for International Communication SCALED SCORES TOTAL 940	1
	中学校教諭 1級普通免許(社会)	1
	中学校教諭 1級普通免許(保健体育)	2
	中学校教諭(専修免許状)	1
	中学校教諭(普通1級免許)	1
	高等学校教諭 1級普通免許(社会)	1
	高等学校教諭 1級普通免許状(理科)	1
	高等学校教諭 2級普通免許(保健体育)	2
	高等学校教諭(専修免許状)	1
	高等学校教諭(普通1級免許)	1
	実用英語技能検定1級	1
	文学修士	3
	法学修士	1
	理学修士	2
	修士(文学)	3
	修士(理学)	1
	修士(地球環境科学)	1
	博士(工学)	1
	博士(文学)	1
	博士(理学)	3
弓削丸	1級海技士(航海)	1
	1級海技士(機関)	2
	2級海技士(機関)	1
	3級海技士(航海)	2
	1級小型船舶操縦士	2
	第3級海上無線通信士	1
	特殊無線技士(レーダー)	1
	特殊無線技士(国際無線電話)	1
	エネルギー管理士(熱)	1
	ボイラ技士免許(特級)	1
	玉掛技能講習修了	1
	クレーン運転の業務特別教育修了	1
	甲種危険物取扱者免状	1
	衛生管理者免許	1
	中学校教諭(2種免許状)(職業)	2
	高等学校教諭(1種免許状)(商船)	1
	学士(工学)(大学評価・学位授与機構)	1

出典：庶務課

観点3 - 1 - : 学校の目的に応じて、教員の活動をより活発化するために適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校教員の年齢構成及び男女構成を教員全体及び各学科別に示す（資料3 - 1 - - 1）。教員全体の年齢構成は、ほぼ均衡が取れている。学科別に見ると電子機械工学科において高齢者が若干多い構成となっている。また、教員の採用前の経歴を示す（資料3 - 1 - - 2）。その表から本校教員には多様な経歴者が多く在籍していることがわかる。また、商船学科では、一級海技士（航海・機関）、電子工学科では技術士、情報工学科では第一種情報処理技術者など各学科に高度な専門資格を有する教員が在籍している（資料3 - 1 - - 2）。さらに女性教員が一般科目に1名、情報学科に2名合計3名在籍し、情報工学科に多く在籍する女子学生等に対応している。これらの女性教員は女子寮の当直にあたり、女子学生の女子寮での教育にも対応している。

（分析結果とその根拠理由）

年齢構成は、教員全体では均衡ある構成となっている。電子機械工学科において若干高齢者が多い構成となっているが、特別に突出している構成とは言えない。また、各学科に高度な専門資格を有する教員が在籍しており、基礎理論ばかりでなく実践教育に対応できている。特に本校は三級海技士第一種養成施設であるため、商船学科には弓削丸教員を含め企業経験のある教員が多数在籍しており、実践教育に対応している。さらに女性教員3名により、女子学生の教育も適切に行える。

以上のことから、学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発にするための適切な配置が講じられているといえる。

資料 3 - 1 - - 1

平成18年5月17日現在

年齢(年度末)	所属	性別
63	商船学科	男
63	商船学科	男
61	商船学科	男
60	商船学科	男
59	練習船弓削丸	男
56	商船学科	男
56	商船学科	男
54	商船学科	男
49	商船学科	男
46	商船学科	男
45	練習船弓削丸	男
43	練習船弓削丸	男
40	商船学科	男
40	練習船弓削丸	男
37	商船学科	男
37	商船学科	男
35	商船学科	男
32	商船学科	男
32	商船学科	男
32	商船学科	男
61	電子機械工学科	男
59	電子機械工学科	男
58	電子機械工学科	男
58	電子機械工学科	男
57	電子機械工学科	男
46	電子機械工学科	男
44	電子機械工学科	男
38	電子機械工学科	男
37	電子機械工学科	男
29	電子機械工学科	男
59	情報工学科	男
56	情報工学科	男
51	情報工学科	男
49	情報工学科	男
47	情報工学科	男
42	情報工学科	男
37	情報工学科	男
33	情報工学科	男
30	情報工学科	女
30	情報工学科	男
28	情報工学科	女
58	総合教育科	男
58	総合教育科	男
53	総合教育科	男
52	総合教育科	男
51	総合教育科	男
47	総合教育科	男
44	総合教育科	男
43	総合教育科	男
38	総合教育科	男
33	総合教育科	女
32	総合教育科	男
32	総合教育科	男
29	総合教育科	男
29	総合教育科	男

計 55人(校長を除く)

年齢別割合(全教員)

年齢	人数	割合
20～24	0	0
25～29	4	7.27%
30～34	9	16.36%
35～39	7	12.73%
40～44	7	12.73%
45～49	7	12.73%
50～54	5	9.09%
55～59	11	20.00%
60以上	5	9.09%

平均年齢 45.2歳

男女比率(全教員)

性別	人数	割合
男	52	94.55%
女	3	5.45%

年齢別割合(商船学科及び弓削丸)

年齢	人数	割合
20～24	0	0.00%
25～29	0	0.00%
30～34	3	15.00%
35～39	3	15.00%
40～44	3	15.00%
45～49	3	15.00%
50～54	1	5.00%
55～59	3	15.00%
60以上	4	20.00%

平均年齢 47.0歳

男女比率(商船学科及び弓削丸)

性別	人数	割合
男	20	100%
女	0	0.00%

計20人

年齢別割合(電子機械工学科)

年齢	人数	割合
20～24	0	0.00%
25～29	1	10.00%
30～34	0	0.00%
35～39	2	20.00%
40～44	1	10.00%
45～49	1	10.00%
50～54	0	0.00%
55～59	4	40.00%
60以上	1	10.00%

平均年齢 48.7歳

男女比率(電子機械工学科)

性別	人数	割合
男	10	100%
女	0	0.00%

計10人

年齢別割合(情報工学科)

年齢	人数	割合
20～24	0	0.00%
25～29	1	9.09%
30～34	3	27.27%
35～39	1	9.09%
40～44	1	9.09%
45～49	2	18.18%
50～54	1	9.09%
55～59	2	18.18%
60以上	0	0.00%

平均年齢 42.0歳

男女比率(情報工学科)

性別	人数	割合
男	9	81.82%
女	2	18.18%

計11人

年齢別割合(総合教育科)

年齢	人数	割合
20～24	0	0.00%
25～29	2	14.29%
30～34	3	21.43%
35～39	1	7.14%
40～44	2	14.29%
45～49	1	7.14%
50～54	3	21.43%
55～59	2	14.29%
60以上	0	0.00%

平均年齢 42.8歳

男女比率(総合教育科)

性別	人数	割合
男	13	92.86%
女	1	7.14%

計14人

出典：庶務課

資料3 - 1 - - 2

平成17年12月1日現在

1 教員の採用前の経歴

① 教育職員本給表適用者

区分	所属人数	民間企業	大学・ 研究機関	他高専	高校	学生 その他
商船学科 情報工学科 電子機械工学科	} 35	9	4	0	1	21
うち、教授・助教授						

② 海事職員(一)本給表適用者

区分	所属人数	民間企業	大学・ 研究機関	他高専	高校	学生 その他
全体	4	2	0	0	0	2
うち、教授・助教授	2	1	0	0	0	1

③ ①+②

区分	所属人数	民間企業	大学・ 研究機関	他高専	高校	学生 その他
商船学科 情報工学科 電子機械工学科 海事職員(一)	} 39	11	4	0	1	23
うち、教授・助教授						

出典：庶務課

観点 3 - 2 - : 教員の採用や昇格に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

採用については原則公募とし、公開情報をホームページに掲載し、情報公開している(資料 3 - 2 - - 1)。選考に関しては、高専設置基準・教員の資格(第 11 条から第 14 条)(資料 3 - 2 - - 2)に加えて弓削商船高等専門学校教員選考規則(資料 3 - 2 - - 3)に基づいて行っている。昇格に関しても教員選考規則に従っておこなわれ、人事委員会の審査を経て校長が決定している(資料 3 - 2 - - 4)。

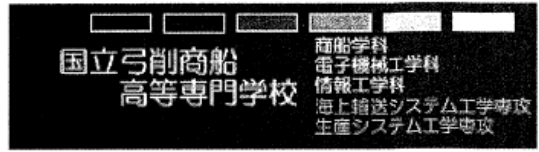
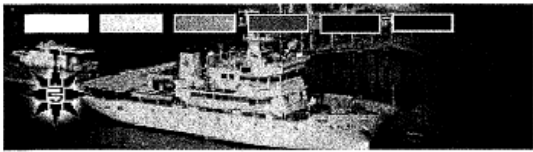
適用事例に関しては、個人情報が含まれているため、本報告書には記載せず訪問調査の際に閲覧資料とさせていただく。

(分析結果とその根拠理由)

採用に関しては、原則公募としており、採用昇格の選考は教員選考規則に従って人事委員会での審査の後、校長が決定している。

以上により、教員採用や昇格に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用されているといえる。

資料3 - 2 - - 1



- [HOME](#)
- [ニュース](#)
- [お問い合わせ](#)
- [リンク集](#)
- [サイトマップ](#)

弓削商船高等専門学校 ◆

☐ **メインメニュー**

- ホーム
- ニュース
- 学校案内
- 本校の環境への取り組み
- 入試情報・アドミッションポリシー
- シラバス
- 学事予定表
- FAQ
- ダウンロード
- リンク集
- 本校へのアクセス
- お問い合わせ

事務連絡: 教員の公募について

国立弓削商船高専教員の公募について

本校では、下記のとおり教員を募集します。詳細につきましては、各々の詳細欄をクリック願います。

また、「履歴書」以外に必要な提出書類につきましては、テンプレートファイルよりダウンロードして利用願います。

>>> 提出書類テンプレートファイル

- PDF形式
- WORD形式

○航海士・機関士 各1名
(平成18年3月10日(金)必着)

webmaster(2005/9/22)



前ページへ戻る

☐ **学内WWWサーバ**

- 情報処理教育センター
- 図書館
- 白砂寮
- 同窓会
- WebMail
- MyWeb(学内ポータル)
- 文書公開サーバ

☐ **学生向け情報**

- 学生連絡
- 授業変更

☐ **検索**

検索

高度な検索

Copyright (c) Y.N.M.C.T 2005 . All rights reserved.
This page is Link free

出典：本校ホームページ

資料 3 - 2 - - 2

第三章 教員の資格

(教授の資格)

第十一条 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 博士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者
- 二 学位規則(昭和二十八年文部省令第九号)第五條の二に規定する専門職学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者
- 三 大学(短期大学を含む。以下同じ。)又は高等専門学校において教授、助教授又は専任の講師の経歴(外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。)のある者
- 四 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者
- 五 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者
- 六 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(助教授の資格)

第十二条 助教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 前条各号のいずれかに該当する者
- 二 大学又は高等専門学校において助手又はこれに準ずる職員としての経歴(外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。)のある者
- 三 修士の学位又は学位規則第五條の二に規定する専門職学位(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。)を有する者
- 四 特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者
- 五 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(講師の資格)

第十三条 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 第十一条又は前条に規定する教授又は助教授となることのできる者
- 二 高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者
- 三 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(助手の資格)

第十四条 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 学士若しくは短期大学士の学位(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。)又は準学士の称号(外国におけるこれに相当する称号を含む。)を有する者
- 二 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

出典：高等専門学校設置基準

資料 3 - 2 - - 3

弓削商船高等専門学校教員選考規則

制 定 平成 14 年 10 月 18 日

最終改正 平成 17 年 12 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 弓削商船高等専門学校における教授、助教授、講師及び助手（以下「教員」という。）の採用及び昇任（以下「採用等」という。）の選考は、高等専門学校設置基準（昭和 36 年文部省令第 23 号）第 11 条から第 14 条までに規定する教員の資格に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(選考及び選考基準)

第 2 条 教員の選考は、人事委員会（以下「委員会」という。）の審議を経て、校長が行う。

2 教員の選考は、原則として公募によるものとする。ただし、昇任については、本校内に候補適任者がいる場合は、公募によらないことができる。

3 教員の選考基準は別に定める。

(採用等の発議)

第 3 条 校長は、学科長、総合教育科長又は専攻科長（以下「学科長等」という。）から教員選考の申出があったときには、委員会を開催するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、校長が必要と認めたときは委員会を開催することができる。

(選考手続)

第 4 条 委員会は、常勤の教員の選考にあつては、その都度、選考方針を策定し、教員選考基準に基づき候補者の審査を行う。

2 委員会は、必要に応じて専門委員会を設置し、審査を付託することができる。

3 専門委員会は、前項により付託された審査を行い、その結果を人事委員会委員長（以下「委員長」という。）に報告するものとする。なお、専門委員会委員長は、必要がある場合には、審査において委員長の出席を要請することができる。

4 委員会は、前項に規定する審査の報告に基づき、候補者の選考に係る審議を行う。

5 非常勤講師の選考にあつては、「弓削商船高等専門学校非常勤講師選考内規」の定めによる。

(細目)

第 5 条 この規則に定めるもののほか、教員の選考に関し必要な細目は、別に定める。

附 則

この規則は、平成 14 年 10 月 18 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 17 年 12 月 1 日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

弓削商船高等専門学校教員選考細則

制 定 平成 14 年 10 月 18 日

最終改正 平成 17 年 12 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この細則は、弓削商船高等専門学校教員選考規則（以下「規則」という。）第 5 条の規定に基づき、教員の選考に関し必要な事項を定める。

(選考の申出)

第 2 条 規則第 3 条第 1 項に規定する教員選考の申出は、教員選考申出書（別紙 1）により行う。

(審査の書類等)

第 3 条 委員会は、常勤の教員の選考にあつては、候補者から次の各号に掲げる書類を提出させる。

- (1) 履歴書
- (2) 著書・論文等一覧（口頭発表も含む。）（別紙様式 1）
- (3) 主要著書・論文等の概要（別紙様式 2）
- (4) 前号に規定する論文の別刷
- (5) 教育業績一覧（別紙様式 3）
- (6) 企業等における業績一覧（別紙様式 4）
- (7) 高等専門学校での教育と研究に関する抱負（別紙様式 5）
- (8) 推薦書
- (9) その他委員会が必要と認めた書類

2 専門委員会は、前項に規定する書類に基づき、候補者の選考に係る審議を行う。なお、専門委員会が必要と認めたときは、候補者の面接を行うことができる。

3 規則第 4 条第 3 項に規定する審査の報告は、教員選考審査報告書（別紙 2）により候補者全員について推薦順位を付して行う。

(審議)

第 4 条 委員会は、前条第 1 項及び同条第 3 項に規定する書類に基づき、候補者の選考に係る審議を行う。

2 委員会が必要と認めたときは、候補者の面接を行うことができる。

附 則

この細則は、平成 14 年 10 月 18 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 17 年 12 月 1 日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 3 - 2 - - 4

弓削商船高等専門学校人事委員会規則

制 定 平成14年10月18日

最終改正 平成17年 3月 1日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第15条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校人事委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教員人事の基本方針及び基準に関する事項
- (2) 教員の選考に関する事項
- (3) その他教員の人事に関する重要事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 各主事
- (3) 各学科長，総合教育科長及び専攻科長
- (4) 教授及び助教授の中から校長が指名する者若干名

2 前項第4号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(専門委員会)

第5条 委員会に専門委員会を置く。

2 専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成14年10月18日から施行する。

2 この規則施行後最初に任命される第3条第1項第4号の委員の任期は、同条第2項本文の規定にかかわらず、平成15年3月31日までとする。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

観点3 - 2 - : 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

(観点に係る状況)

平成 16 年に本校の教育内容・水準を達成するための具体的方策を検討するため、教育内容検討委員会を設置した(資料3 - 2 - - 1)。また教員の教育活動に関する評価を行うために、平成9年度から定期的に学生による授業評価をアンケート形式で行っている。調査結果は、冊子にまとめられ教員に配布し、その後の授業改善に反映させている(資料3 - 2 - - 2)。また、定期的に本校教員同士による公開授業等を行っている(資料3 - 2 - - 3)。さらに平成17年からは、近隣の中学及び高校の教員に対しても公開授業を行っている(資料3 - 2 - - 4)。

(分析結果とその根拠理由)

教育内容・水準を達成するための具体的方策を検討するため、教育内容検討委員会を設置した。また、定期的に学生による授業評価を行っており、その調査結果は冊子としてまとめて公開し、その後の授業改善に反映させている。一方、公開授業等も学内のみならず、学外に対しても行っている。

以上のことから、教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているといえる。

資料 3 - 2 - - 1

弓削商船高等専門学校教育内容検討委員会規則

制 定 平成16年12月27日

(設置)

第1条 弓削商船高等専門学校に、教育内容・水準を達成するための具体的方策を検討するため、弓削商船高等専門学校教育内容検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、教育内容の向上に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学科の構成の在り方に関する事項
- (2) 学級の編成に関する事項
- (3) その他教育内容等の向上に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科長及び総合教育科長
- (3) 各学科及び総合教育科から選出された学級担任代表者各1名

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成16年12月27日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料3 - 2 - - 2

取扱注意

学生による授業評価

報告書

平成16年度

平成17年10月

弓削商船高等専門学校

出典：学生による授業評価報告書

資料3 - 2 - - 3

総合教育科 公開授業

- 1、日時 平成17年10月24日(金) 3限目
- 2、対象クラス 情報工学科1年(37名)
- 3、担当科目 国語(猪川優子)
- 4、資料 学習指導案、教材コピー(宮沢賢治年表、詩)
- 5、参観教員(敬称略) 16名
- | | |
|---------|-------------------------|
| 総合教育科 | 上岡、山尾、濱中、神谷、藤井、久保、鈴木、坂内 |
| 商船学科 | 多田勝、友田、中、高岡、野々山 |
| 電子機会工学科 | 益崎、加藤 |
| 情報工学科 | 葛目 |

6、感想(参加教員)

ア、授業準備について

資料の準備等十分にできていた。

地図、写真等いろいろ準備されていて学生の興味を引き付ける工夫が感じられた。後部席からはやや見づらかった。

黒板に掲示した地図や写真は後席からは見えなかった。

イ、板書

見やすかった

整っていて読みやすい。

ていねいに書かれていて読みやすかった。

ウ、展開

話し方は適切であった。

声の大きさ、速さともよい。

声も大きく、落ち着いており、初問も適切であった。

「雨ニモ負ケズ」を学生全員に朗読させたのは意義がある。

学生を積極的に参加させようとする展開は高く評価できる。

年表の空欄に記入させる作業は学生の参加意識を高めていると感じられた。

学生の挙手が多かった事はすばらしかった。

重要なポイントの強調に仕方についてはもう少しメリハリが欲しい。

学生にとって説明を要する用語はていねいに扱う必要がある。

(質屋、古着商、搾取、絶筆、賢治の農民への思い、凶作、日露戦争)

篤農家の賢治と深い関係にある岩手県の風土は時間をかけて説明する必要がある。

出典：教務主事

資料3 - 2 - - 4

公開授業実施要領

- 目 的 教育研究活動の高度化、活性化、個性化及び地域との連携強化を目指し、特に本年度は、地域社会との連携強化（社会に開かれた高専）の一環として地域の教職員の方々を対象に公開授業を行う。
- 日 時 平成17年5月16日（月） 10:00～12:30
- 場 所 弓削商船高等専門学校第一会議室及び学校棧橋
- 参加対象 中学・高校教職員
- 公開授業 操艇・通信
- 授業内容 カッター訓練の初歩を授業参観（体験も可能）
- そ の 他 上級者によるカッター訓練の見学も可能（課外活動）
- 申込方法 別紙、公開授業参加申込書にご記入の上、5月11日（水）までに学生課教務係へお申込みください。

申込及び問い合わせ先

〒 794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地
弓削商船高等専門学校学生課教務係
TEL 0897-77-4620 FAX 0897-77-4693
E-mail kyoumu@office.yuge.ac.jp

出典：公開授業実施要領

別 紙

平成 年 月 日

弓削商船高等専門学校長 殿

学 校 名

学校長氏名

職印

公 開 授 業 参 加 申 込 書

職 名	氏 名	担 当 教 科	備 考

到着予定時刻

(1) 弓 削 港 時 分 着

当日は、本校職員が到着予定時刻に迎えにあがります。

(2) その他の方法 ()

時 分 頃

直接お越しの方は、本校管理棟 2 階第一会議室へお越し下さい。

- 1 -

出典：公開授業実施要領

平成17年4月 日

各学校長 殿

弓削商船高等専門学校校長 西垣和

公開授業の実施について(ご案内)

新緑の候、貴校におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校の教育発展のため、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本校は、独立行政法人化2年目を迎え、教育研究活動の高度化、活性化、個性化及び地域社会との連携強化を目指し、鋭意努力しているところです。

高度化の一環としましては、本年度から専攻科を設置しました。また、個性化では練習船「弓削丸」を随所に活用した教育を展開しています。活性化については、四国地区の高等専門学校と連携協力して「特別講義」を実施し、高く評価を頂きましたので、今後も継続して実施していく予定です。

本年度は、地域社会との連携強化(社会に開かれた高専)の一環として、地域の教職員の方々を対象に公開授業を企画いたしました。主旨は、本校の屋台骨である海洋関係の授業に参加していただくことにより、皆様に海洋教育の良さを知っていただくことと、参観者からのご意見に基づき、より良い授業を構築することです。

校長先生におかれましては、貴校教職員のご参加をいただきますよう、ご配慮頂くと共にご案内申し上げます。

出典：公開授業実施要領

観点3-3- : 学校において教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

円滑な教育課程を展開するために事務部に学生課を設置し，授業，試験等の教務事務，課外活動，及び就学等の学生支援を行っている(資料3-3--1, 3-3--2)。また，技術系職員は工業系職員と船舶に関する職員で構成されている。船舶系職員は本校弓削丸の運行保守及び学生の実習を担当し，工業系職員は各学科の実験実習を担当し，両者とも円滑な学生支援を行っている(資料3-3--3, 3-3--4)。図書館には専任の司書を含む3名が配置され，学生の調査・閲覧を支援している。情報処理センターにも専属の技術職員を配置し，学生の教育支援を行っている(資料3-3--2)。

(分析結果とその根拠理由)

学生課の業務については，事務組織規則により，適切に役割を分担し，効果的に機能している。また，技術系事務員に関しては，船舶系と工業系事務員で構成され，それぞれ役割分担がなされ円滑な学生支援を行っている。また，図書館及び情報処理教育センターにも専属の技術職員を配置し，学生の教育支援を行っている。

以上のことから，教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援が適切に配置されているといえる。

資料 3 - 3 - - 1

弓削商船高等専門学校事務組織規程

制 定 昭和48年4月1日

最終改正 平成18年3月22日

(目的)

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第5条及び独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第9条の規定に基づき、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び所掌事務の範囲を定めることを目的とする。

(事務組織)

第2条 本校に事務部を置く。

第3条 事務部に庶務課、会計課及び学生課を置く。

第4条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を処理する。

第5条 庶務課、会計課及び学生課にそれぞれ課長を置く。

2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

第6条 課に課長補佐を置くことができる。

2 課長補佐は、課長の職務を補佐する。

第7条 庶務課、会計課及び学生課に専門員及び専門職員を置くことができる。

2 専門員は、上司の命を受け、高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を処理するとともに専門的見地から課長を補佐する。

3 専門職員は、上司の命を受け、専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を処理する。

第8条 学生課に技術専門職員を置く。

2 技術専門職員は、高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行う。

第9条 庶務課、会計課及び学生課に係を置く。

2 係にそれぞれ係長を置く。

3 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

4 係に主任を置くことができる。

5 主任は、係長の職務を助ける。

(所掌事務)

第10条 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

(1) 本校の事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。

(2) 機密に関すること。

(3) 儀式その他諸行事及び会議に関すること。

(4) 学則その他諸規程等の制定及び改廃に関すること。

(5) 学校の将来構想についての企画・立案の事務に関すること。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

- (6) 中期計画及び年度計画に関する事。
 - (7) 学校運営の点検評価に関する事。
 - (8) 組織の設置及び改廃に関する事。
 - (9) 地域との連携並びに学術交流及び研究協力の推進に関する事。
 - (10) 事務機構の改善に係る企画・立案及び連絡調整に関する事。
 - (11) 事務の情報化の推進に関する事。
 - (12) 情報公開に関する事。
 - (13) 個人情報の保護に関する事。
 - (14) 渉外に関する事。
 - (15) 公文書類の接受，發送，編集及び保管に関する事。
 - (16) 公印の管守に関する事。
 - (17) 教職員の任免，解雇，懲戒及び服務等に関する事。
 - (18) 教職員の給与に関する事。
 - (19) 教職員の定員に関する事。
 - (20) 教職員の研修及び勤務評定に関する事。
 - (21) 教職員の健康管理，福祉及び災害補償に関する事。
 - (22) 退職者の退職手当及び共済組合の長期給付に関する事。
 - (23) 栄典及び表彰に関する事。
 - (24) 人事記録に関する事。
 - (25) 図書館の管理運営に関する事。
 - (26) 図書館資料の受入れ並びに整理及び保存等に関する事。
 - (27) 図書館資料の閲覧及び貸出し等利用に関する事。
 - (28) 図書館における参考奉仕（検索指導及び読書相談等）に関する事。
 - (29) 調査統計その他諸報告に関する事。
 - (30) 校内警備取締りに関する事。
 - (31) その他他の課の所掌に属しない事務を処理する事。
- 第11条 会計課においては，次の事務をつかさどる。
- (1) 予算及び決算に関する事。
 - (2) 財務諸表に関する事。
 - (3) 債権の管理に関する事。
 - (4) 物品の管理に関する事。
 - (5) 会計の監査に関する事。
 - (6) 支出契約決議及び契約に関する事。
 - (7) 収入，支出に関する事。
 - (8) 現金及び有価証券に関する事。
 - (9) 所得税等の徴収に関する事。
 - (10) 不動産の管理及び処分に関する事。
 - (11) 土地及び建物の借入れに関する事。
 - (12) 宿舎に関する事。
 - (13) 科学研究費補助金等の経理に関する事。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

- (14) 寄附金経理事務に関する事。
 - (15) 共済組合の短期給付に関する事。
 - (16) 会計諸規程に関する事。
 - (17) 会計機関の公印の管守に関する事。
 - (18) 土地、建物及び工作物の整備復旧に関する事。
 - (19) 土地、建物及び工作物の維持保全に関する事。
 - (20) 学校環境の整備保全に関する事。
 - (21) その他会計経理及び営繕に関する事務を処理する事。
- 第12条 学生課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関する事。
 - (2) 学生の修学指導に関する事。
 - (3) 専攻科に関する事。
 - (4) 外国人留学生に関する事。
 - (5) 教育課程の編成及び授業に関する事。
 - (6) 学生の学業成績の整理及び記録に関する事。
 - (7) 学生の学籍に関する事。
 - (8) 学生の実習に関する事。
 - (9) 学生の課外活動に関する事。
 - (10) 学生の補導及び相談に関する事。
 - (11) 学生団体に関する事。
 - (12) 学生の入学料、授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料免除に関する事。
 - (13) 学生の奨学金に関する事。
 - (14) 学生の厚生補導施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
 - (15) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関する事。
 - (16) 学生の進路指導に関する事。
 - (17) 学生の乗車（船）運賃割引証に関する事。
 - (18) 学寮の管理運営に関する事。
 - (19) 学生の入退寮に関する事。
 - (20) 寮生の生活指導及び生活相談に関する事。
 - (21) その他教務、厚生補導及び寮務に関する事務を処理する事。
- (事務分掌)
- 第13条 事務分掌及び係の名称については、校長が別に定める。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

○弓削商船高等専門学校事務分掌規則

制 定 昭和48年 4 月 1 日

最終改正 平成18年 3 月 22日

(趣旨)

第1条 弓削商船高等専門学校事務組織規程第13条の規定に基づく事務分掌及び係の名称については、この規則の定めるところによる。

(庶務課)

第2条 専門職員(企画調査担当)は、次の事務をつかさどる。

- (1) 学校の将来構想についての企画・立案の事務に関する事。
- (2) 組織の設置及び改廃に関する事。
- (3) 地域との連携並びに学术交流及び研究協力の推進に関する事。
- (4) 中期計画及び年度計画に関する事。
- (5) 広報に関する事。
- (6) 学校運営の点検評価に関する事。
- (7) 事務機構に関する事。
- (8) 事務の合理化、省力化及び減量化に関し、企画立案し、及び連絡調整すること。

第3条 専門職員(情報システム相当)は、次の事務(他の課及び係が所掌するものを除く。)をつかさどる。

- (1) 事務の情報化の推進に係る企画及び連絡調整に関する事。
- (2) 事務用サーバの運用管理に関する事。
- (3) 事務の情報システムの整備に係る専門的事項に関する事。
- (4) 事務用電子計算機その他情報機器利用に必要な知識の普及に関する事。

第4条 庶務課に次の係を置く。

庶務係

人事係

図書係

2 庶務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 事務部の所掌事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
- (2) 機密に関する事。
- (3) 学則その他諸規程の制定及び改廃に関する事。
- (4) 公印の管守に関する事。
- (5) 儀式その他諸行事に関する事。
- (6) 会議(各課所掌の会議を除く。)に関する事。
- (7) 公文書の接受、発送、編集及び整理保存に関する事。
- (8) 沿革史その他諸記録の編さん及び保存に関する事。
- (9) 情報公開に関する事。

- (10) 個人情報保護に関すること。
 - (11) 教職員の労働時間に関すること。
 - (12) 教職員の休暇及び振替休日に関すること。
 - (13) 教職員の出張命令に関すること。
 - (14) 宿日直に関すること。
 - (15) 校内の警備取締りに関すること。
 - (16) 渉外に関すること。
 - (17) 所管物品の管理等に関すること。
 - (18) 所掌事務の調査統計報告に関すること。
 - (19) その他他の課又は係に属しない事務に関すること。
- 3 人事係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 教職員の定員に関すること。
 - (2) 教職員の任免、解雇、懲戒及び服務に関すること。
 - (3) 級別定数に関すること。
 - (4) 教職員の給与及び諸手当の決定に関すること。
 - (5) 人事記録に関すること。
 - (6) 教職員の研修に関すること。
 - (7) 教職員の健康管理及び福利厚生に関すること。
 - (8) 教職員の勤務評定に関すること。
 - (9) 教員の資格審査に関すること。
 - (10) 栄典及び表彰に関すること。
 - (11) 共済組合の長期給付に関すること。
 - (12) 退職手当に関すること。
 - (13) 教職員の業務等の災害補償に関すること。
 - (14) 労働組合に関すること。
 - (15) 教職員の諸証明に関すること。
 - (16) 所掌事務の調査及び統計報告に関すること。
 - (17) その他人事に関する事務を処理すること。
- 4 図書係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 図書館の施設、設備、環境の整備及び管理運営に関すること。
 - (2) 図書館資料（以下「図書等」という。）の受入れに関すること。
 - (3) 図書等の支出契約決議及び契約に関すること。
 - (4) 図書等の登録、分類及び目録に関すること。
 - (5) 図書等の保管に関すること。
 - (6) 図書等の閲覧及び貸出しに関すること。
 - (7) 図書室及び図書等の利用についての指導に関すること。
 - (8) 図書等の収集及び広報に関すること。
 - (9) 文献の収集及び交換に関すること。
 - (10) 紀要に関すること。
 - (11) 所管物品の管理等に関すること。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

(12) 所掌事務の調査及び統計報告に関すること。

(13) その他図書に関する事務を処理すること。

(会計課)

第5条 専門員(財務企画担当)は、次の事務をつかさどる。

(1) 会計事務に係る専門的事項に関すること。

(2) 会計事務の企画に関すること。

(3) 予算の配分に関すること。

(4) 会計事務全般に係る指導助言に関すること。

第6条 会計課に次の係を置く。

総務係

出納係

用度係

施設係

2 総務係においては、次の事務をつかさどる。

(1) 会計事務の企画及び連絡調整に関すること。

(2) 会計諸規程に関すること。

(3) 出納員の異動に関すること。

(4) 概算及び予算の要求に関すること。

(5) 予算の配分、調整に関すること。

(6) 予算の執行計画に関すること。

(7) 財務諸表に関すること。

(8) 支出契約決議案及び支払決議案の監査に関すること。

(9) 支出契約決議の確認に関すること。

(10) 会計の検査及び監査に関すること。

(11) 会計機関の公印の管守に関すること。

(12) 共済組合の短期給付及び福祉事業に関すること。

(13) 所掌事務の調査及び統計報告に関すること。

(14) 青雲館の事務に関すること。

(15) 科学研究費補助金の申請に関すること。

(16) 共同研究及び受託研究の契約に関すること。

(17) その他会計課の他の係に属しない事務に関すること。

3 出納係においては、次の事務をつかさどる。

(1) 債権の管理に関すること。

(2) 収入及び支出に関すること。

(3) 現金現在高及び預金現在高に関すること。

(4) 預金通帳及び小切手等の保管に関すること。

(5) 人件費、旅費及び謝金の支出契約決議に関すること。

(6) 給与の支給に関すること。

(7) 現金及び有価証券の保管に関すること。

(8) 科学研究費補助金等の経理に関すること。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

- (9) 寄附金経理事務に関する事。
 - (10) 収入支出の決算に関する事。
 - (11) 所掌事務の調査及び統計報告に関する事。
 - (12) その他出納に関する事務を処理する事。
- 4 用度係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 物品の調達及び売払い等に関する事。
 - (2) 物品の管理等に関する事。
 - (3) 物件費（物品及び役務）の支出契約決議及び契約に関する事。
 - (4) 光熱水料及び電話料の経理に関する事。
 - (5) 物品の検収に関する事。
 - (6) 物品の寄附受入れに関する事。
 - (7) 自動車等の運行及び維持管理に関する事。
 - (8) 暖冷房に関する事。
 - (9) 校内の清掃及び契約に関する事。
 - (10) 所掌事務の調査及び統計報告に関する事。
 - (11) その他用度に関する事務を処理する事。
- 5 施設係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 営繕工事の企画設計に関する事。
 - (2) 営繕工事契約、施行、監督及び検査に関する事。
 - (3) 営繕関係の予算資料作成に関する事。
 - (4) 営繕工事の支出契約決議に関する事。
 - (5) 不動産の管理及び受入れ並びに処分に関する事。
 - (6) 宿舎の管理運営に関する事。
 - (7) 防火及び防災に関する事。
 - (8) 電気、水道、ガス、電話及び暖冷房等施設の維持管理に関する事。
 - (9) 教職員の安全管理に関する事。
 - (10) 所掌事務の調査及び統計報告に関する事。
 - (11) その他施設に関する事務を処理する事。

（学生課）

第7条 学生課に次の係を置く。

教務係

学生係

寮務係

実験実習第一係

実験実習第二係

- 2 教務係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 教務に関し連絡調整する事。
 - (2) 学科、学級及び学生定員に関する事。
 - (3) 専攻科に関する事。
 - (4) 外国人留学生に関する事。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

- (5) 教育課程及び授業に関すること。
 - (6) 学生募集及び入学者の選抜に関すること。
 - (7) 進級及び卒業の認定に関すること。
 - (8) 学生の入学，編入学，転科，休学，復学，退学，留学及び卒業に関すること。
 - (9) 学生の試験及び成績に関すること。
 - (10) 学生の欠課及び欠席に関すること。
 - (11) 学籍簿の整理保存に関すること。
 - (12) 教科書及び補助教材に関すること。
 - (13) 学生の在学，卒業及び成績の証明等に関すること。
 - (14) 学生の大学編入学等に関すること。
 - (15) 学生の校外実習及び見学に関すること。
 - (16) 海技試験に関すること。
 - (17) 学生の住所変更，転籍及び保証人変更等の諸届に関すること。
 - (18) 教室の管理に関すること。
 - (19) 広報に関すること（庶務係の所掌に係るものを除く。）。
 - (20) 所管物品の管理等に関すること。
 - (21) 所掌事務の調査及び統計報告に関すること。
 - (22) その他教務に関する事務を処理すること。
- 3 学生係においては，次の事務をつかさどる。
- (1) 学生の補導及び相談に関すること。
 - (2) 学生団体に関すること。
 - (3) 学生の集会，掲示及び印刷物に関すること。
 - (4) 学生の課外活動に関すること。
 - (5) 学生の規律及び賞罰に関すること。
 - (6) 学生の奨学金に関すること。
 - (7) 学生の入学料，授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料免除に関すること。
 - (8) 学生の就職に関すること。
 - (9) 学生の安全管理及び保健衛生に関すること。
 - (10) 独立行政法人日本スポーツ振興センター災害給付制度に関すること。
 - (11) 学生の貸与物品に関すること。
 - (12) 学生便覧の編さんに関すること。
 - (13) 学生の通学証明書及び乗車（船）運賃割引証に関すること。
 - (14) 課外活動施設，厚生補導施設及び保健室の管理運用に関すること。
 - (15) 所管物品の管理等に関すること。
 - (16) 所掌事務の調査及び統計報告に関すること。
 - (17) その他学生の厚生補導に関する事務を処理すること。
- 4 寮務係においては，次の事務をつかさどる。
- (1) 学寮の施設，設備，環境の整備及び管理運営に関すること。
 - (2) 寮生の入退寮に関すること。
 - (3) 寮生の生活指導及び生活相談に関すること。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

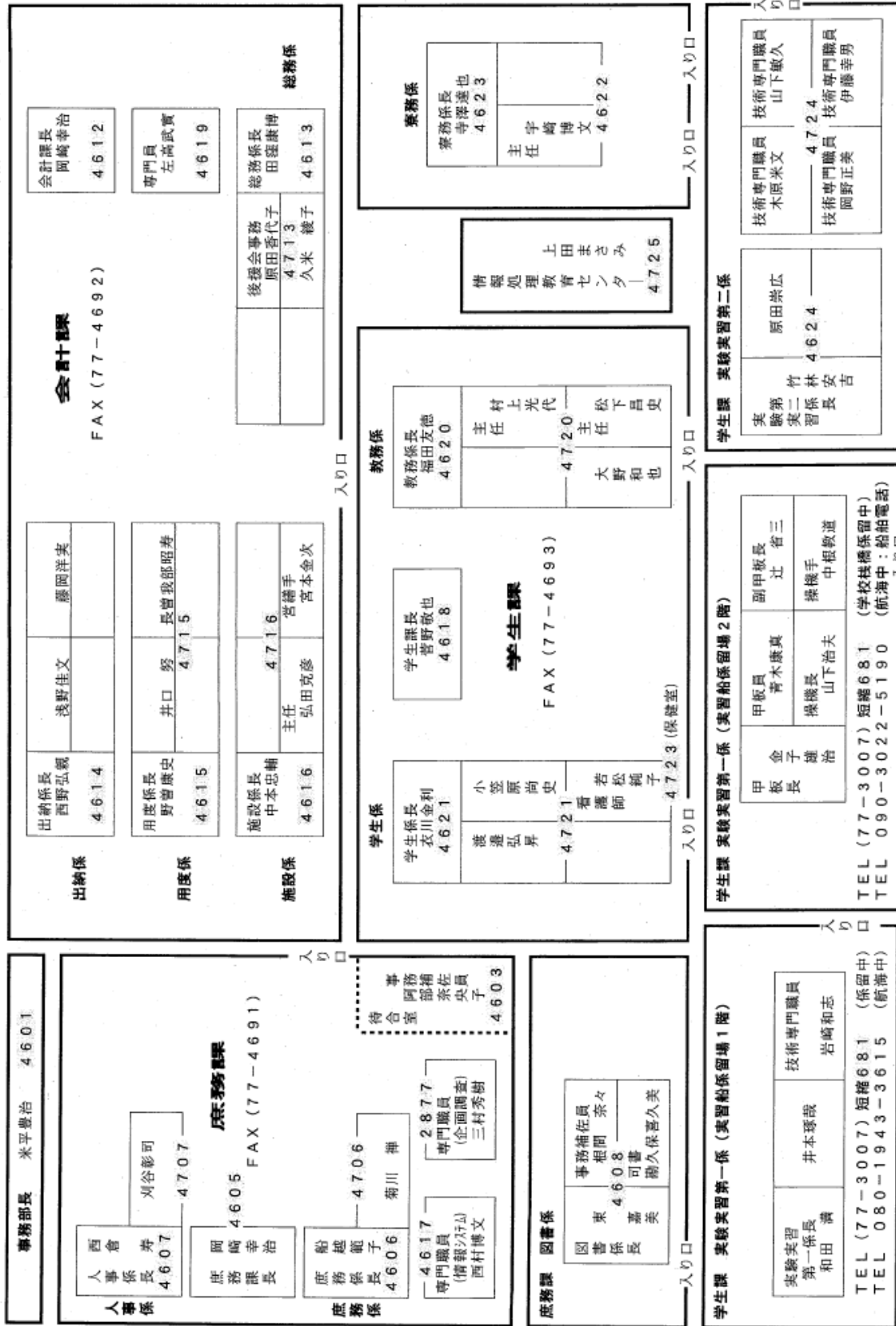
- (4) 寮生の集会、催し物、掲示及び印刷物に関すること。
 - (5) 寮生の給食に関すること。
 - (6) 寮生の健康管理及び衛生に関すること。
 - (7) 生活指導等当直に関すること。
 - (8) 学寮の防火及び防災に関すること。
 - (9) 所管物品の管理等に関すること。
 - (10) 所掌事務の調査及び統計報告に関すること。
 - (11) その他寮務に関する事務を処理すること。
- 5 実験実習第一係においては、次の事務（技術専門職員の所掌に属するものを除く。）をつかさどる。
- (1) 練習船等における実験実習及び運航の計画作成等に関すること。
 - (2) 実験実習及び卒業研究の指導補助に関すること。
 - (3) 所管実験実習用器材の整備・保全に関すること。
 - (4) 船舶及び実習船係留場等における施設・設備の管理・保全に関すること。
 - (5) 所管物品の管理等に関すること。
 - (6) 所掌事務の調査及び統計報告に関すること。
 - (7) その他練習船等の実験実習等に関する事務を処理すること。
 - (8) その他教育研究に関わる技術に関する事務を処理すること。
- 6 実験実習第二係においては、次の事務（技術専門職員の所掌に属するものを除く。）をつかさどる。
- (1) 実験実習の計画作成等に関すること（前項第一号の所掌に係るものを除く。）
 - (2) 実験実習及び卒業研究の指導補助に関すること。
 - (3) 所管実験実習用器材の整備・保全に関すること（前項第三号の所掌に係るものを除く。）
 - (4) 実習工場等における施設・設備の管理・保全に関すること。
 - (5) 所管物品の管理等に関すること。
 - (6) 所掌事務の調査及び統計報告に関すること。
 - (7) その他実験実習に関する事務を処理すること。
- 7 技術専門職員は、次の事務をつかさどる。
- (1) 実験実習の計画作成等に関すること。
 - (2) 実験実習及び卒業研究の技術指導に関すること。
 - (3) 教育研究に関わる技術開発及び技術業務に関すること。
 - (4) その他の研究実験室、実習工場等の環境の技術的保全と安全防災の技術的支援に関すること。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 3 - 3 - - 2

事務部 座席図

平成18年4月1日 現在



出典：庶務課

資料3 - 3 - - 3

平成17年度

商船学科第5学年練習船実習

平成17年6月13日(月)～15日(水)
(弓削～西大分～門司～弓削)



指導教職員

豊田、永本、堀
松永、渡部、岩堀
金子、辻、中瀬
山下、中根

生活指導、インストラクター

高岡、松下、野々山

弓削丸船舶電話

090-3022-5190

実習船係留場(昼間)

実験実習第一係

0897-77-3007

学生課学生係(昼間)

0897-77-4621

警備員携帯電話(夜間)

090-1177-1859

商船学科第5学年

氏名 _____

出典：練習船「弓削丸」

資料 3 - 3 - - 4

平成17年度 S4E 工学実験

毎週金曜日 5～7 限

4月8日 機関学総合実験

第 一 期	実験項目	実験室	指導教官・技官	実 験 班			
	内燃機関1 材料学	内燃機関実験室 材料学実験室	石橋・秋葉・伊藤 友田・木原	1班	2班	3班	4班
材料力学	材料力学実験室	中・渡部	2班	3班	4班	1班	
電子工学	工業材料実験室	村上	3班	4班	1班	2班	
電気工学	電気工学実験室	松下・山下・原田	4班	1班	2班	3班	
			4月15日	5月13日	5月27日	6月24日	
			4月22日	5月20日	6月3日	7月1日	

7月8日 機関学総合実験

第 二 期	実験項目	実験室	指導教官・技官	実 験 班			
	冷熱工学	実習工場実験室	中・渡部	1班	2班	3班	4班
制御工学	制御システム室	柳沢・原田	2班	3班	4班	1班	
内燃機関2	内燃機関実験室	石橋・秋葉・伊藤	3班	4班	1班	2班	
蒸気工学1	実習工場実験室	多田勝・木原	4班	1班	2班	3班	
実 験 予 定 日			9月2日	9月16日	10月14日	10月28日	
			9月9日	10月7日	10月21日	11月4日	

11月18日 機関学総合実験

第 三 期	実験項目	実験室	指導教官・技官	実 験 班	
	弓削丸実験	弓削丸	松永・渡部	1班・2班	3班・4班
蒸気工学2	実習工場実験室	多田勝・木原	3班・4班	1班・2班	
実 験 予 定 日			11月25日	1月13日	
			12月2日	1月20日	
			12月16日	1月27日	

2月3日・2月10日・2月17日・2月24日

機関学総合実験

「班編成」

- 1班: 荒木愉記朗・植川陽介・甲斐毅
 2班: 川口博史・桑原亮斗・瀧本朋樹
 3班: 谷本誠滋・中橋勇貴・中元竜也
 4班: 濱本桂太・原田康平・村上詳・森光勇介

出典：商船学科

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

練習船を用いた航海実習においては、弓削丸専属教員の他、二等航海士及び二等機関士を非常勤で配置している。さらに商船学科の教員が1-2名補佐として乗り込み、より高い安全航海と質の高い学生実習を可能にしている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準3の自己評価の概要

幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成を目指すために担当する教員を配置している。さらに商船学科は船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成のため、電子機械工学科はものづくりのできる実践的な技術者・計画・設計から生産・保守運用までできる技術者の育成のため、情報工学科は情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成のために、専攻科では実際のシステムの運用・管理や開発能力、ものづくりに必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成のため、それぞれの専門教科の教員を配置している。練習船を用いた航海実習においては、弓削丸専属教員の他、二等航海士及び二等機関士を非常勤で配置している。さらに、商船学科の教員が1-2名補佐として乗り組み、より高い安全航海と質の高い学生実習を可能にしている。また、女性教員が総合教育科に1名、情報工学科に2名、合計3名が在籍し、情報工学科に多く在籍する女子学生の生活指導に対応している。一方、教員の年齢構成は、教員全体では均衡ある構成となっている。

教員の採用に関しては、原則公募としており、採用昇格の選考は教員選考規則に従って人事委員会での審査の後、校長が決定している。

本校の教育内容・水準を達成するための具体的方策を検討するため、教育内容検討委員会を設置し、教員の教育活動に関する評価を行うために定期的に学生による授業評価を行っている。その調査結果はその後の授業改善に反映させている。また、公開授業を行い、本校教職員だけでなく、学外からも見学に訪れている。

円滑な教育課程を展開するために事務部に学生課を設置し、技術系職員は工業系職員と船舶に関する職員で構成されている。船舶系職員は本校弓削丸の運行保守及び学生の実習を担当し、工業系職員は各学科の実験実習を担当し、両者とも円滑な学生支援を行っている。情報処理教育センターにも専属の技術職員を配置し、学生の教育支援を行っている。

基準 4 学生の受け入れ

(1) 観点ごとの分析

観点 4 - 1 - : 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜(例えば、準学士課程入学者選抜、編入学学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる)の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

(観点に係る状況)

平成 17 年度に本校全体及び各学科の教育の目的に沿って入試委員会、運営委員会を経て教員会議にてアドミッション・ポリシーを作成し、本校教職員には、教員会議で報告するとともに本校ホームページに記載することで周知している(資料 4 - 1 - - 1, 資料 4 - 1 - - 2)。また対外的にも将来の学生を含め社会に対してアドミッション・ポリシーを本校ホームページに記載することで周知している。

また、アドミッション・ポリシーは入試委員会において年度ごとに精査・見直しすることができる(資料 4 - 1 - - 3)。見直されたアドミッション・ポリシーは運営委員会を経て教員会議にて決定される。

(分析結果とその根拠理由)

本校教職員には、教員会議で報告するとともに本校ホームページに記載することで周知している。対外的にも将来の学生を含め社会に対してアドミッション・ポリシーを本校ホームページに記載することで周知している

以上のことから、教育の目的に沿って、アドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員及び将来の学生を含め社会に公表されているといえる。

資料 4 - 1 - - 1

(報告事項)**1. 現代的教育ニーズ取組支援プログラムに申請する「自立型地方都市再生のための人材育成支援」について**

校長から、報告資料 1 に基づき報告があった。

2. 現代的教育ニーズ取組支援プログラムに共同申請する「創造性豊かな実践的技術者育成コースの開発」について

校長から、報告資料 2 に基づき報告があった。

3. 平成 17 年度春の叙勲受章について

校長から、報告資料 3 に基づき元校長黒澤昭氏が瑞宝中綬章を受章されたことの報告があった。

4. 弓削商船高等専門学校アドミッション・ポリシーについて

校長から、報告資料 4 に基づき本校のアドミッション・ポリシーについて説明があった。

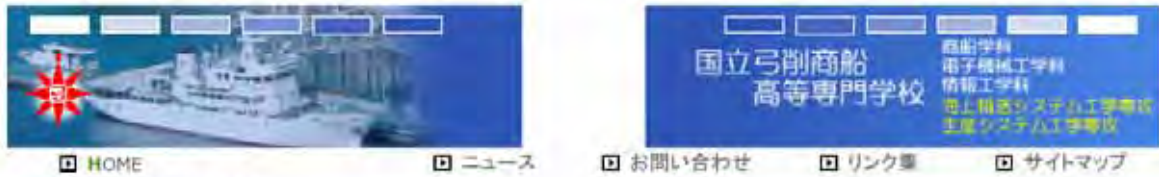
5. その他

校長より報告

- ・学寮の改修工事の見通しが予算的に決まったことの報告があった。
- ・専攻科棟の概算要求のヒアリングが始まっている。本校も機構のヒアリングが済んだ。十分説明して平成 18 年度に付くよう努力したい。
- ・四国地区校長・事務部長会議において、教員の人事交流についての決定事項について報告があった。2 年前から検討していた四国地区高専間独自の教員人事交流については、四国高専独自の教員人事交流では予算の裏付けがないため、内容について多少違いはあるが、当面、機構本部の教員人事交流に乗ってスタートし、様子をみる方向で決定した。

出典：運営委員会議事概要（平成 17 年 5 月）

資料 4 - 1 - - 2



弓削商船高等専門学校 ◆

☐ メインメニュー

- ホーム
- ニュース
- 学校案内
- 本校の環境への取り組み
- 入試情報・アドミッションポリシー
- シラバス
- 学事予定表
- FAQ
- ダウンロード
- リンク集
- 本校へのアクセス
- お問い合わせ

☐ 学内WWWサーバ

- 情報処理教育センター
- 図書館
- 白砂寮
- 同窓会
- WebMail
- MyWeb(学内ポータル)
- 文書公開サーバ

☐ 学生向け情報

- 学生連絡
- 授業変更

☐ 検索

高度な検索

ホーム・入試情報・アドミッションポリシー

本校は求めています。このような入学生を!

弓削商船高専は、104年の伝統を生かし、一貫したカリキュラムによって専門的知識を有し実践力と研究力を備え育成します。特に「国際海運技術」「ものづくり技術」「IT・情報関連技術」を中心に、将来の科学技術社会を担う輩出します。
また、海の自然の中で、豊かな人間性と創造力を備えた技術者を育成し、地域社会に貢献することも、本校の大きな使命です。
従って、次のような“学生のみなさん”を歓迎します。

学生募集関係の資料はこちら



■ 商船学科



船や海に強い興味を持っている人
好奇心や探究心が強い人
自立心が強く根気力のある人

■ 電子機械工学科



機械いじり・ものづくりに興味がある人
電気・電子工作に興味がある人
コンピュータを使った「もの」の操作に興味がある人

■ 情報工学科



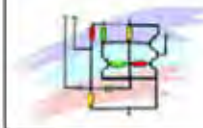
コンピュータを使いこなしたい人
コンピュータのしくみに興味がある人
コンピュータで何かをやろうと考えている人

■ 海上輸送システム工学専攻



工学的素養を身につけ海事関係分野で活躍したい人
海上輸送管理技術を身につけ社会で活躍したい人

■ 生産システム工学専攻



手と頭脳が同時に働く実践的技術者を目指す人
コミュニケーション能力と国際感覚を備えたい人

出典：本校ホームページ

弓削商船高等専門学校中期計画書

専 事	項	平成 16 年度 計画 内容	平成 16 年度 実施 状況	対応委員会
1 国立高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 目標に掲げる内容・水準を達成するための教育指導等 ① 入学者選抜 ○ 国立高等専門学校にふさわしい者を選抜するための入試方法に関する具体的な方策 ア 社会的ニーズや地域特性の変化に対応したアドミッションポリシーの定期的な見直し	アドミッションポリシーの精査、見直し 情報収集と意見の集約	本校のアドミッションポリシーの原案を作成した。各種委員会にてさらに精査し、H17年度にHP等に掲載することになった。	新入生実力テストを実施し、報告書を作成した。また、入試委員会にて報告書の概略を説明し、18年度の入試に活用した。	入試委員会
イ 新入生実力テストの実施と評価 ・ 年1回の実施と報告書の作成を行う。	新入生実力テストの実施と評価 絶対評価に関する進捗調査	推薦入学者の進捗調査を行い報告書を作成した。報告書に基づいて平成18年度の選抜方法の検討を行った。	推薦入学者の進捗調査を行い報告書を作成した。報告書に基づいて平成18年度の入試に活用した。	入試委員会
ウ 選抜方法の検討 ・ 入学生の進捗調査を行い、選抜方法についての検討を行う。	選抜方法の検討 進捗調査	情報収集及びPR拠点の精査	高松地区を重点地区に指定して、同窓会との連携で応募者増加に結び付けた。	入試委員会 校務委員会
エ 学校PRの拡充強化	情報収集及びPR拠点の精査	編入学生と第一種養成施設との整合性を検討	編入学生と第一種養成施設との整合性を検討した。その結果、高松から商船学科への編入が可能であることがわかった。	入試委員会 校務委員会 入試委員会
オ 商船学科4年生への編入学 ・ 教育課程の改善を行い、編入学生と第一種養成施設との整合性を検討する。	編入学生と第一種養成施設との整合性を検討			

出典：本校中期計画

観点 4 - 2 - : アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

本科 1 年生の入学者の選抜は、推薦選抜と学力選抜に分けられる。推薦入試では、本校推薦選抜の基本方針に基づきアドミッション・ポリシーに沿って受験者の適性を厳正に審査している(資料 4 - 2 - - 1)。一方学力選抜では、全国立高等専門学校で共通の問題(資料 4 - 2 - - 2)を使用して英語、国語、数学の 3 科目行われている。また、学力選抜でも推薦選抜と同様に面接が行われ、各学科のアドミッション・ポリシーに沿って受験者の適性を厳正に審査している(資料 4 - 2 - - 3)。

編入学及び専攻科学生の入学者選抜でも同様にアドミッション・ポリシーに沿って受験者の適性を厳正に審査している(資料 4 - 2 - - 4, 資料 4 - 2 - - 5)。

(分析結果とその根拠理由)

本科生、編入学生及び専攻科生についていずれも面接試験を行うことにより、アドミッション・ポリシーに沿って受験者の適性を厳正に審査している。

以上のことから、アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているといえる。

資料 4 - 2 - - 1

会議終了後回収

取扱注意

平成 1 8 年度
入学者選抜実施要領
推薦選抜

弓削商船高等専門学校

出典：平成 18 年度入学者選抜実施要項（推薦）

資料 4 - 2 - - 2

平成 17 年度入学者選抜学力検査問題

英 語

(注 意)

- 1 問題用紙は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題用紙は 1 ページから 11 ページまでである。
・検査開始の合図のあとで確かめること。
- 3 答えは、すべて解答用紙に記入すること。
- 4 解答用紙の総得点欄および得点欄には記入しないこと。

OM1077-10

平成十七年度入学者選抜学力検査問題

国 語

(注 意)

- 1 問題用紙は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題用紙は 1 ページから十四ページまでである。
・検査開始の合図のあとで確かめること。
- 3 答えは、すべて解答用紙に記入すること。
・特に指示がない限り、答えは現代仮名遣いによるものとする。
- 4 解答用紙の総得点欄および得点欄には記入しないこと。

OM1077-11

平成 17 年度入学者選抜学力検査問題

数 学

(注 意)

- 1 問題用紙は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題用紙は 1 ページから 10 ページまでである。
・検査開始の合図のあとで確かめること。
- 3 解答用紙の総得点欄および得点欄には記入しないこと。
- 4 答えは、すべて解答用紙に記入し、答えが円周率 π や根号を含む数になったときは、小数に直さず答えること。
- 5 定規、コンパス、ものさし、分度器および計算機は用いないこと。

OM1077-10

出典：平成 17 年度入学者選抜学力検査問題

資料 4 - 2 - - 3

取扱注意

平成 18 年度
入学者選抜実施要領
学力選抜

弓削商船高等専門学校

出典：平成 18 年度入学者選抜実施要項（学力）

資料 4 - 2 - - 4

取扱注意

平成 18 年度

編 入 学 試 験 実 施 要 領

弓削商船高等専門学校入学試験委員会

出典：平成 18 年度編入学試験実施要

資料 4 - 2 - - 5

平成18年度 弓削商船高等専門学校専攻科学生募集要項

I 募集人員

専攻名	募集人員
生産システム工学専攻	8名

II 選抜方法

選抜は、「推薦による選抜」、「学力検査による選抜」及び「社会人特別選抜」の三つの方法で行います。

推薦による選抜

1. 選抜の実施方法

推薦書、調査書、健康診断証明書並びに本校で実施する口頭試問(プレゼンテーションを含む)及び面接の結果を総合して行います。

2. 出願資格

(1) 次のいずれかに該当する者とし、在学又は出身の学校長の推薦を得た者としします。

- ・高等専門学校を卒業した者(平成18年3月卒業見込みの者を含む。)
- ・短期大学を卒業した者(平成18年3月卒業見込みの者を含む。)
- ・専修学校の専門課程を修了した者又は平成18年3月修了見込みの者のうち、学校教育法第82条の10の規定により大学に編入学することができる者。

(2) 人物が優れ、本校入学の意志が堅い者

3. 口頭試問及び面接の日時、場所

- (1) 日 時 平成17年6月10日(金) 午前10時30分～
 (2) 場 所 弓削商船高等専門学校

4. 健康診断

提出された健康診断証明書について、本校が特に必要と認める者には改めて健康診断を行います。

5. 身体基準

修学に支障がないこと。

学力検査による選抜

1. 選抜の実施方法

本校が実施する学力検査(専門科目)の成績、調査書、健康診断証明書及び面接(英語、数学の口頭試問を含む)の結果を総合して行います。

2. 出願資格

出典：平成18年度弓削商船高等専門学校専攻科学生募集要項

観点 4 - 2 - : アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点に係る状況)

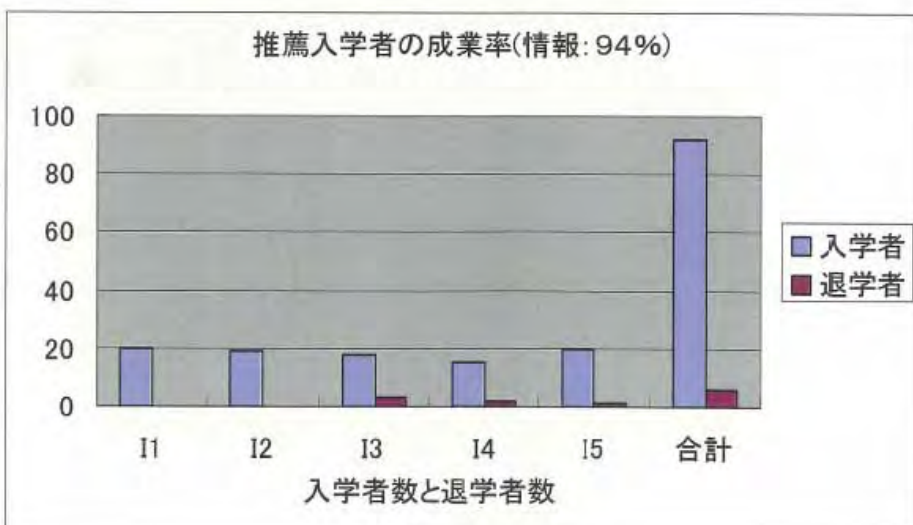
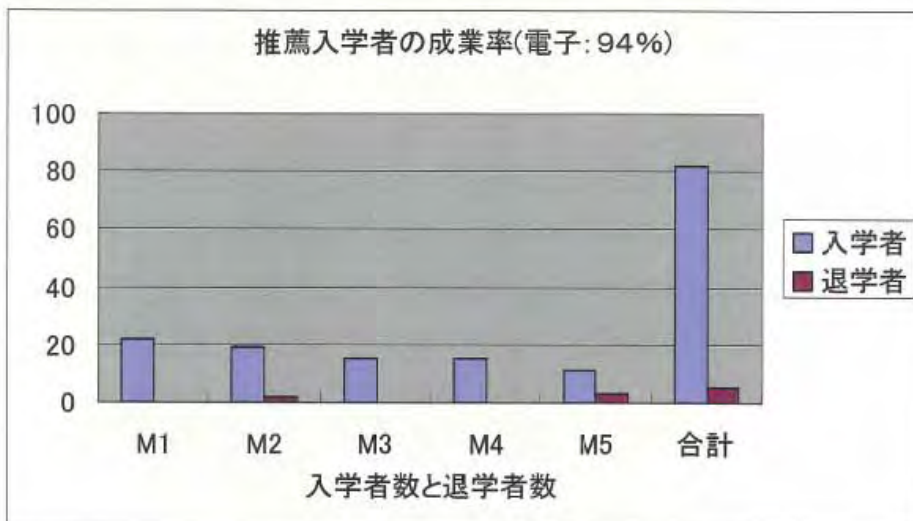
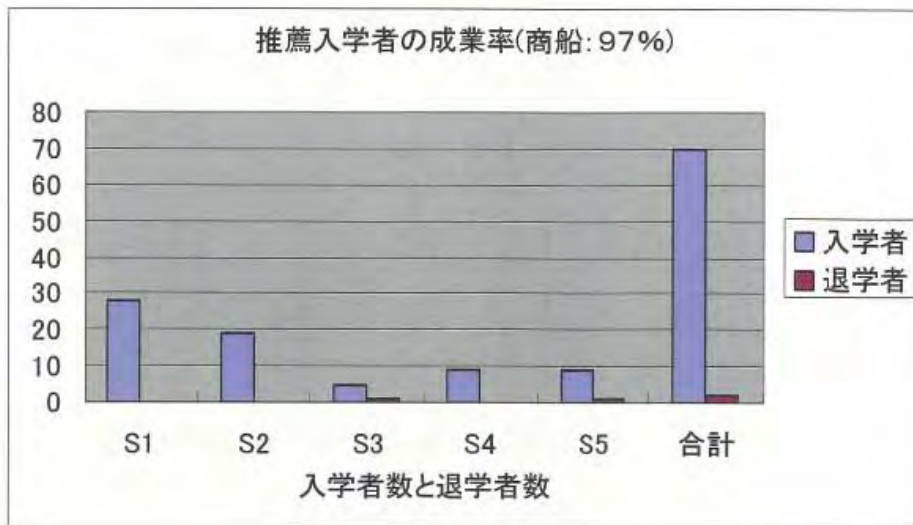
各学科において、アドミッション・ポリシーに沿った学生が入学しているかを検討し、さらに入試委員会において検討している。平成 16 年度に推薦及び学力試験での入学者に対して、それぞれ成績に対する追跡調査を実施した(資料 4 - 2 - - 1)。その結果から推薦での入学者に対しては、成業率が学力試験入学者よりも高いことが明らかとなった。その結果を基に平成 17 年度入試委員会において審議し、従来よりも推薦入学者を多くすることとした。これに伴いアドミッション・ポリシーに沿った学生を入学させるために面接方法及び評価に関して改善を行った。平成 18 年度入試は、前年度より面接評価を改善して行った(資料 4 - 2 - - 2)。

(分析結果とその根拠理由)

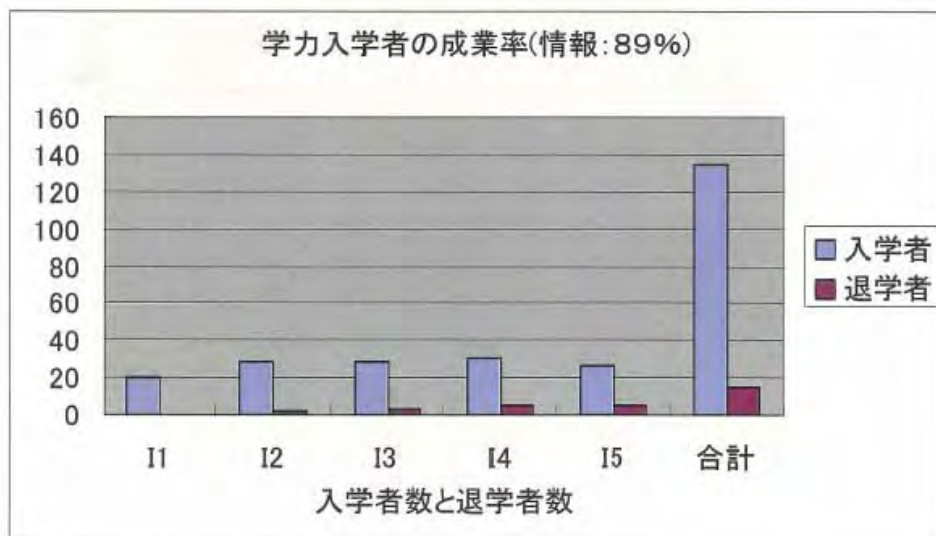
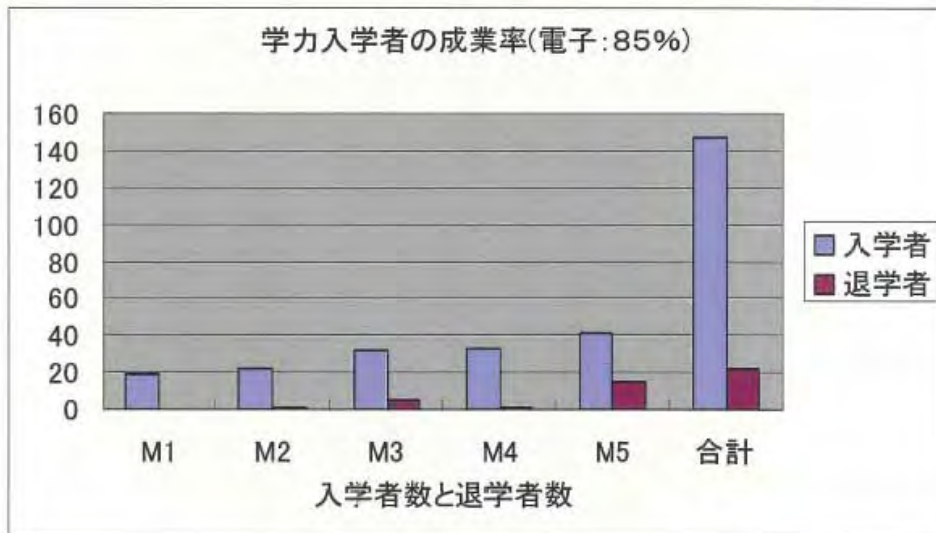
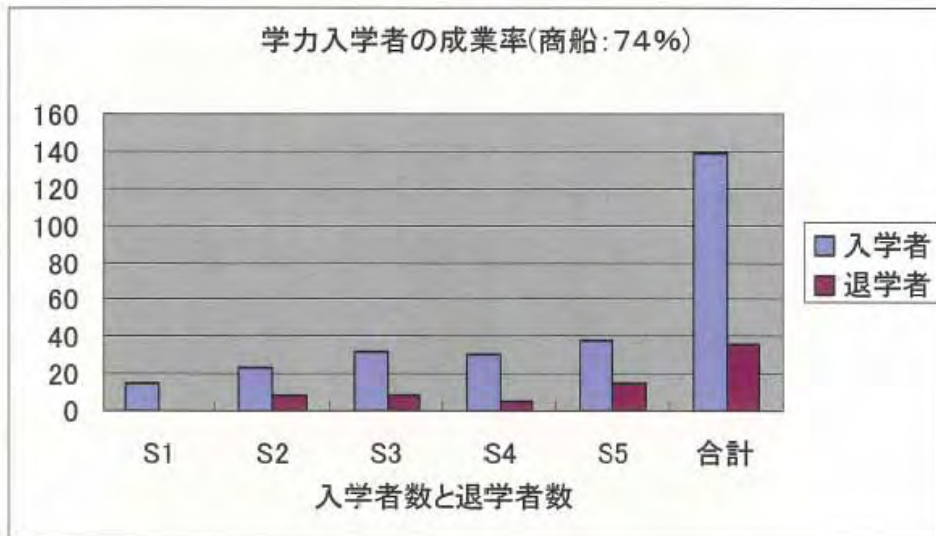
推薦及び学力試験での入学者に対して、それぞれ成績に対する追跡調査を実施した。その結果を基に入試委員会において審議し、従来よりも推薦入学者を多くすることとした。これに伴いアドミッション・ポリシーに沿った学生を入学させるために面接方法及び評価に関して改善を行った

以上のことから、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているといえる。

資料4 - 2 - - 1



出典：在校生追跡調査



出典：在校生追跡調査

資料4 - 2 - - 2

平成18年度面接記録書

検査地

検査員氏名

受験番号	受験者氏名	評 定 の ポ イ ン ト					総合 評点
		態 度	理解力	積極性	創造性	アドミッションポリシーの適合性	
		面接中の応答ぶりや態度の観察を通して、はじめに応答しているか、表情や動作に落ち着きがあるか、身なりが整っているかなどについて評定を行う。	質問を理解し的確に答えているか、筋道よく、要点を簡潔に話すことが出来るかなどについて評定を行う。	率先してやろうとする意欲があるか、意見や考えを進んで述べるか、中学生らしい活気があるかなどについて評定を行う。	不慣れな課題でも興味を示し、自ら考え、解決しようとする態度を備えているかについて評定を行う。	各学科のアドミッションポリシーに適合しているかについて評定を行う。	5 4 3 2 1
特 記 事 項		評 定 項 目					2
		態 度	理解力	積極性	創造性	アドミッションポリシーの適合性	1
		5	5	5	5	5	
		4	4	4	4	4	
		3	3	3	3	3	
		2	2	2	2	2	
		1	1	1	1	1	

出典：平成18年度面接記録書

観点 4 - 3 - : 実入学者が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。
また、その場合には、これを改善するための取り組みが行われているなど、入学定員と実入学数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

本校では、学力試験においては受験生の選択の幅を広くするため、県立高校の合格発表を待つ形式で入学の手続きを行っている。このため入学試験の合格者は定員以上に出している。従って年により入学定員と実入学者が異なるが、過去 5 年においては、学校全体の定員 120 名に対し、多くても 128 名であり、定員に対する超過は 10%以下となっている。また、過去 5 年において定員以下となったことはない(資料 4 - 3 - - 1, 資料 4 - 3 - - 2)。

入学定員と実入学者の大幅な相異を避けるための方策として、入試委員会、専攻科委員会および P R 委員会により適正な実入学者の確保を目指し、毎年検討を重ねている。これら委員会の成果として、これまで、推薦選抜において各学科とも実入学者の 50%程度確保した(資料 4 - 3 - - 1)。他にも受験生の在籍する中学校へ入学意思の聞き取り調査を実施し、過去のデータを使用して合格者数を算出している。

また、専攻科海上輸送システム専攻においては、定員の 2 倍の学生を入学させているが、施設及び教員も十分対応している。

さらに本校は商船学科という特異な学科から全国各地から入学者がおり(資料 4 - 3 - - 3)、中学校 P R にも力を入れている。中四国及び関西の中学校を中心に約 270 校を訪問している(資料 4 - 3 - - 4)。他にも近隣中学校の進路説明会にも参加している(資料 4 - 3 - - 5)。

(分析結果とその根拠理由)

入試委員会、P R 委員会を中心に適正な実入学者の確保に関する検討を毎年行い、入学者数の適正化を図っている。その結果、入学定員 120 名に対する超過は、過去 5 年間 10%以下になっている。

以上のことから、実入学者が入学定員を大幅に超える状況となっておらず、入学定員と実入学数との関係の適正化が図られているといえる。

資料4 - 3 - - 1

事項 年度	学 科 名 Department	入学定員 Authorized students	全志願者数 Applicants	推薦志願者数内数 Applicants of Recommendation	志願倍率 Magnification	受験者数 examinees	合格者数 Successful Applicants	入学者数 Incoming students		
								学 力 Achievement	推 薦 Recommendation	計 Total
平成17年度	商 船 学 科 Maritime Technology Department	40名	79(7)名	49(6)名	2.0倍	78(7)名	48(3)名	12(0)名	30(3)名	42(3)名
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	40	55(3)	30(2)	1.4	55(3)	53(4)	19(1)	22(2)	41(3)
	情報工学科 Information Science and Technology Department	40	83(28)	32(13)	2.1	80(26)	69(22)	19(7)	18(9)	37(16)
	計 Total	120	217(38)	111(21)	1.8	213(36)	170(29)	50(8)	70(14)	120(22)
平成16年度	商 船 学 科 Maritime Technology Department	40	55(1)	35(1)	1.4	54(1)	47(1)	15(0)	28(1)	43(1)
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	40	62(6)	28(1)	1.6	60(6)	54(6)	19(1)	22(1)	41(2)
	情報工学科 Information Science and Technology Department	40	98(39)	43(16)	2.5	96(37)	73(29)	20(6)	20(10)	40(16)
	計 Total	120	215(46)	106(18)	1.8	210(44)	174(36)	54(7)	70(12)	124(19)
平成15年度	商 船 学 科 Maritime Technology Department	40	61(8)	19(2)	1.5	60(8)	51(7)	21(2)	19(2)	40(4)
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	40	69(5)	25(0)	1.7	69(5)	56(4)	22(2)	19(0)	41(2)
	情報工学科 Information Science and Technology Department	40	87(35)	31(11)	2.2	84(33)	76(28)	28(8)	18(6)	46(14)
	計 Total	120	217(48)	75(13)	1.8	213(46)	183(39)	71(12)	56(8)	127(20)

※ () 内は、女子で内数を示す。

出典：平成 17 年度学校要覧

資料4 - 3 - - 2

事項 年度	学 科 名 Department	入学定員 Authorized students	全志願者数 Applicants	推薦志願者数内数 Applicants of Recommendation	志願倍率 Magnification	受験者数 examinees	合格者数 Successful Applicants	入学者数 Incoming students		
								学 力 Achievement	推 薦 Recommendation	計 Total
平成14年度 2002	商 船 学 科 Maritime Technology Department	40名	40(2)名	4(0)名	1.0倍	40(2)名	40(2)名	29(1)名	4(0)名	33(1)名
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	40	69(4)	15(0)	1.7	67(4)	61(4)	32(4)	15(0)	47(4)
	情報工学科 Information Science and Technology Department	40	93(49)	27(14)	2.3	91(47)	85(45)	28(15)	18(10)	46(25)
	計 Total	120	202(55)	46(14)	1.7	198(53)	186(51)	89(20)	37(10)	126(30)
平成13年度 2001	商 船 学 科 Maritime Technology Department	40	52(7)	9(0)	1.3	51(7)	41(6)	29(6)	9(0)	38(6)
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	40	73(4)	18(2)	1.8	72(4)	54(4)	29(1)	15(2)	44(3)
	情報工学科 Information Science and Technology Department	40	102(38)	20(11)	2.6	99(36)	82(29)	31(12)	15(9)	46(21)
	計 Total	120	227(49)	47(13)	1.9	222(47)	177(39)	89(19)	39(11)	128(30)
平成12年度 2000	商 船 学 科 Maritime Technology Department	40	49(4)	9(1)	1.2	49(4)	47(4)	34(3)	9(1)	43(4)
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	40	72(7)	11(1)	1.8	72(7)	65(3)	30(4)	11(1)	41(5)
	情報工学科 Information Science and Technology Department	40	121(69)	41(23)	3.0	118(67)	72(41)	24(15)	20(12)	44(27)
	計 Total	120	242(80)	61(25)	2.0	239(78)	184(48)	88(22)	40(14)	128(36)

※ () 内は、女子で内数を示す。

The figures in parentheses are women's students, included in the figures below.

出典：平成 14 年度学校要覧

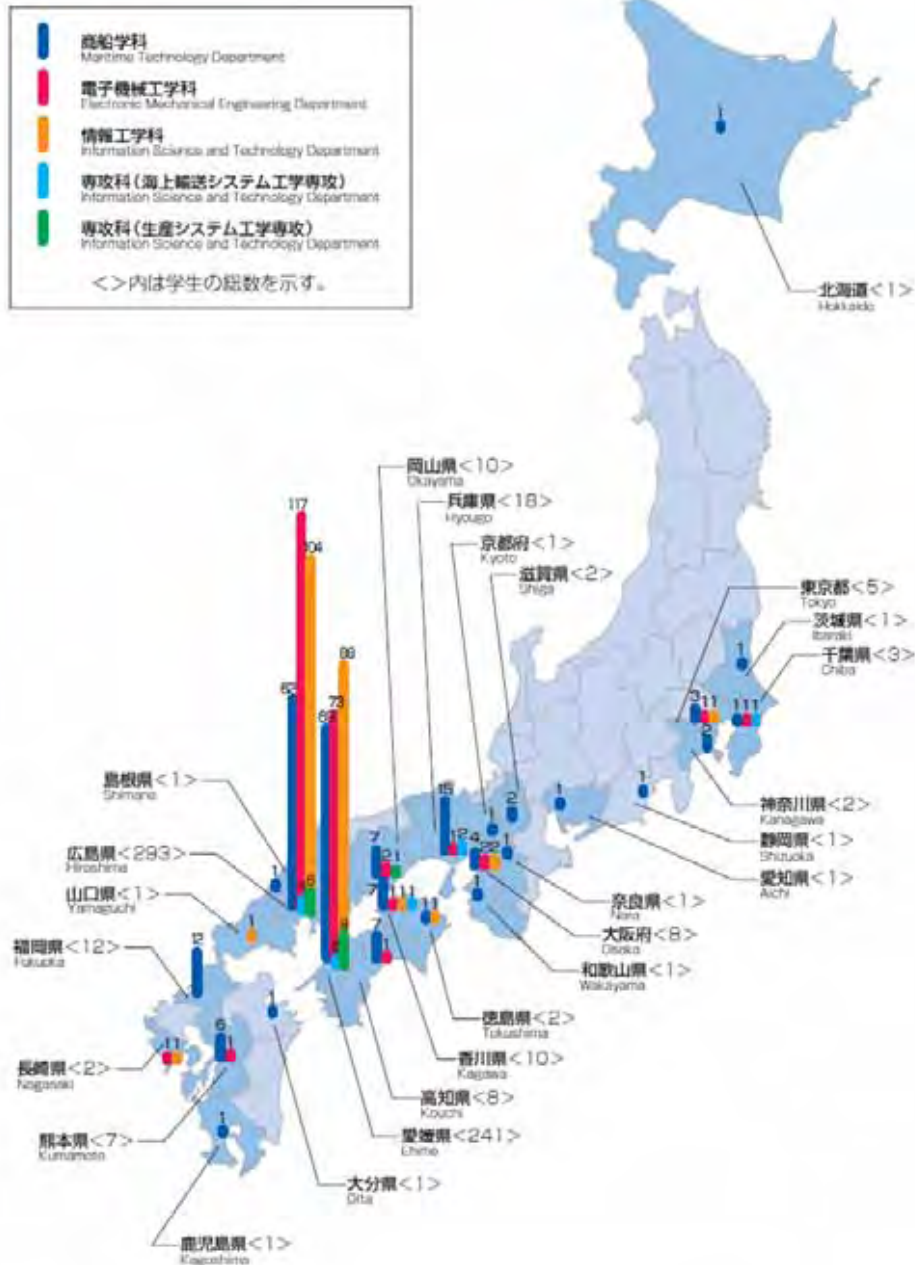
資料 4 - 3 - - 3

General Situation of Students 学生の概況

出身学校都道府県別学生数

(平成18年5月1日現在)
As of May 1, 2006

Home Address



Copyright ©Compass 2006

23

出典：平成 18 年度学校要覧

資料 4 - 3 - - 4

2. 平成16年度のPR活動

1. PR訪問

- (1) 中学校： 愛媛県、香川県、高知県、広島県、岡山県、兵庫県、瀬戸内海東部島嶼部
(平成16年度追加地域) 島根県北部一帯、瀬戸内海西部島嶼部、高知県東部沿岸および北部山間部
約300校
- (2) 高校(主として工業高校)： 愛媛県、広島県、岡山県西部(倉敷、笠岡) 約15校
- (3) 学習塾： 尾道、三原、福山、今治 約50塾

2. 入学御礼訪問および説明会参加

中学校：越智郡島嶼部、因島、尾道、向島、今治 (御礼訪問：33校、説明会参加：25校)

3. PR資料送付

- (1) 中学校： 京都以西の西日本3575校
(平成16年度追加地域) 横浜市沿岸3区内、横須賀市(東京湾西岸一帯) 約60校
- (2) 高校： 中国、四国、九州 約200校
- (3) 学習塾： 尾道、三原、福山、今治、高松、松江 約685塾
- (4) 海洋少年団連盟： 全国50箇所
- (5) ボーイスカウト： 約50箇所
- (6) 海員会館： 約40箇所
- (7) 船員保養所： 約50箇所

4. その他のPR活動

練習船弓削丸体験航海での本校PR(まなびピア2004愛媛、1日船長、教員研修航海、商船祭)
弓削丸実習航海寄港地でのPR資料配布
学生の夏休み帰省時の出身中学校訪問(1~2年生)
ロボコン、プロコン、ソーラーボートへの積極的参加
本校外国人留学生の近隣中学校への異文化交流派遣
オープンカレッジ(学校見学、体験入学)
共同事業(山口県徳地少年自然の家と)
ホームページの刷新と本校学事のリアルタイム紹介
各種公開講座の実施(洋上講座、子供水泳講座、子供絵画教室など)

5. PR資料展示・掲示場所の確保

近島の港務所・港待合室、近隣航路の定期船室内
公共施設(近隣市町村役場、観光案内所、しまなみ交流館、国民宿舎弓削ロッジなど)

6. マスメディア等の活用(学校行事、入試関連)

近隣市町村自治体広報誌、新聞、ケーブルテレビなど

7. PR資料の作成

学校案内冊子、学生募集ポスター、学校リーフレット、商船学科リーフレット、学寮リーフレット、本校概要紹介チラシ、商船だより、航空写真(校舎、学寮)、学科紹介CD(商船学科)、その他

出典：平成16年度自己点検評価報告書

資料 4 - 3 - - 5

平成 16 年度中学校等 PR 訪問実施状況 (H16. 9. 30 現在)

(1) 中学校訪問

① 入学御礼訪問 (6 月 - 7 月)

濱中	伯方、大島、大三島	1 日×1 人
村上ケ	弓削、生名、岩城	3 日×1 人
横田	今治とその周辺	3 日×1 人
友田、小川	因島、生口島	1 日×2 人
松下	尾道	1 日×1 人
藤本	向島	1 日×1 人
豊田	沼隈千年中、福山内海中	1 日×1 人
小川	広島	1 日×1 人

② 説明会参加 (秋)

濱中、藤井、多田ミ	伯方、大島、大三島	5 日×2 人
村上ケ、田房	弓削、岩城、生名	3 日×2 人
横田、友田、高岡、中山、他	今治市内とその周辺	10 日×2 人
友田、小川、多田マ、藤本、他	因島市 (6 月土生、三庄)	5 日×2 人
小川、高岡	尾道市、向島	2 日×1 人
多田マ、中	南宇和 (城辺、御荘)	1 泊 2 日×2 人

③ PR 出張訪問 (夏 - 秋)

濱中	越智郡島嶼部	1 日×1 人
横田	松山、北条、伊予	10 日×1 人
渡部	松山東部 (重信、川内、他)	1 泊 2 日×1 人
多田ミ	東予、丹原、小松、西条	1 日×1 人
中家	新居浜、伊予三島、川之江	1 泊 2 日×1 人
多田マ	愛媛県南予	2 泊 3 日×1 人
多田マ	高知県西部	2 泊 3 日×1 人
葛目	高知県北部、安芸市～室戸市	2 泊 3 日×1 人
勘久保	香川県東部	2 泊 3 日×1 人
児玉	観音寺、多度津、丸亀、坂出	2 泊 3 日×1 人
中、他	瀬戸内西部諸島 (はまかぜ利用)	1 泊 2 日×3 人
松下、他	笠岡諸島、家島、他 (はまかぜ利用)	2 泊 3 日×3 人
田頭	因島市	1 日×1 人
松下	尾道市	1 日×1 人
藤本	向島	1 日×1 人
神谷	三原市	1 日×1 人
勘久保	広島県御調郡、世羅郡、賀茂郡	1 日×1 人
山尾	福山市北部、神辺	1 日×1 人
塚本	福山市中央部	1 日×1 人
豊田	福山市西部、沼隈郡、他	2 日×1 人
小川	府中市、芦品郡、福山の一部	1 日×1 人
中山	井原、矢掛、真備、総社市	1 日×1 人
葛目	笠岡、里庄、鴨方、金光、玉島	1 日×1 人
松下	倉敷市、玉野市、岡山市の一部	1 泊 2 日×1 人
松下	備前市、邑久郡、和気郡	1 泊 2 日×1 人
松永	赤穂市、相生市、姫路市、揖保郡	3 泊 4 日×1 人
松永	淡路島	3 泊 4 日×1 人
村上ト	西宮市、芦屋市、尼崎市、宝塚市、他	2 泊 3 日×1 人
石橋	島根県北部一円	3 泊 4 日×1 人
上江	鹿児島市	3 泊 4 日×1 人

出典：平成 16 年度第 3 回広報委員会資料

(2) 学習塾訪問 (夏-秋)

豊田	福山市西部	1日×1人
小川	福山市北部	1日×1人
山尾	福山市中央部北	1日×1人
高岡	尾道市、三原市	2日×1人
多田ミ	今治市	1日×1人

(3) 高等学校編入学PR訪問 (春-夏)

勘久保	愛媛県東部	1日×1人
横田	愛媛県西部	1日×1人
田頭	広島県、岡山県	3日×1人

(4) 在校生の出身中学校訪問 (夏休み中)

1～2年生全員

(5) その他

①電話での御礼と近況報告

多田マ

兵庫県山崎南中 (初めて2名受験全員合格)

(備考) 場合により、本校元教師・非常勤講師・卒業生・同窓会支部のPR活動への協力要請を行う。

出典：平成16年度第3回広報委員会資料

中学校説明会開催予定日と担当者

10月6日現在

- (1) 因島市 (友田、小川、多田マ、藤本、他)
- | | | | |
|-----|-----------|-------------|------------|
| 土生中 | 6/16 (水) | | 友田、小川 |
| 三庄中 | 7/14 (木) | | 友田 |
| 因北中 | 10/26 (火) | 13:50-14:05 | (13:30校長室) |
| 重井中 | 11/10 (水) | | |
| 田熊中 | 11/19 (金) | 14:35-14:55 | |
- (2) 弓削、岩城、生名 (村上ケ、田房)
- | | | | |
|-----|-----------|-------------|--------|
| 生名中 | 9/24 (金) | 11:20-11:35 | 村上ケ、田房 |
| 岩城中 | 10/18 (月) | 14:45-15:00 | 村上ケ、田房 |
| 弓削中 | | | 田房 |
- (3) 伯方、大島、大三島 (濱中、藤井、多田ミ)
- | | | | |
|------|-----------|-------------|----------|
| 宮窪中 | 10/14 (木) | 13:30-13:45 | 多田ミ (濱中) |
| 伯方中 | | | 藤井セ |
| 西伯方中 | | | 藤井セ |
| 大三島中 | | | 濱中 |
| 上浦中 | | | 濱中 |
- (4) 今治市内とその周辺 (横田、友田、高岡、中山、他)
- | | | | |
|------|-----------|-------------|--|
| 桜井中 | 10/13 (水) | 14:25-14:45 | |
| 今西中 | 10/22 (金) | 14:15-14:35 | |
| 北郷中 | 10/22 (金) | 14:45-15:00 | |
| 立花中 | 10/28 (木) | 14:50-15:10 | |
| 美須賀中 | 11/4 (木) | 14:30-14:45 | |
| 朝倉中 | 11/5 (金) | | |
| 玉川中 | 11/15 (月) | 午後 | |
| 近見中 | | | |
| 南中 | | | |
| 日吉中 | | | |
- (5) 尾道市、向島 (小川、高岡)
- | | | | |
|------|-----------|-------------|-------|
| 百島中 | 10/12 (火) | 15:10-15:30 | 小川 |
| 向東中 | 10/19 (火) | 14:25-14:40 | 小川 |
| 日比崎中 | | | 高岡、小川 |
- (6) 南宇和 (多田マ、中)
- | | | | |
|-----|----------|--|-----|
| 城辺中 | 7/5 (月) | | 多田マ |
| 御荘中 | 7/12 (月) | | 中 |
- (7) その他

出典：平成16年度第3回広報委員会資料

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

過去5年においては、学校全体の定員120名に対し、多くても128名であり、定員に対する超過は10%以下となっている。また、過去5年において定員以下となったことはない。

推薦選抜において商船学科及び電子機械工学科において実入学者の50%程度確保し、よりアドミッション・ポリシーに沿った学生を確保している。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準4の自己評価の概要

平成17年度に本校全体及び各学科の教育の目的に沿って入試委員会、運営委員会を経て教員会議にてアドミッション・ポリシーを作成し、本校教職員には、教員会議で報告するとともに本校ホームページに記載することで周知している。本科1年生の入学者の選抜は、推薦選抜と学力選抜に分けられる。推薦入試では、本校推薦選抜の基本方針に基づきアドミッション・ポリシーに沿って受験者の適性を厳正に審査している。一方学力選抜では、全国立高等専門学校で共通の問題を使用して英語、国語、数学の3科目行われている。また、学力選抜でも推薦選抜と同様に面接が行われ、各学科のアドミッション・ポリシーに沿って受験者の適正を厳正に審査している。

編入学及び専攻科学生の入学者選抜でも同様にアドミッション・ポリシーに沿って受験者の適正を厳正に審査している。

平成16年度に推薦及び学力試験での入学者に対して、それぞれ成績に対する追跡調査を実施した。その結果から推薦での入学者に対しては、成業率が学力試験入学者よりも高いことが明らかとなった。その結果を基に平成17年度入試委員会において審議し、従来よりも推薦入学者を多くすることとした。これに伴いアドミッション・ポリシーに沿った学生を入学させるために面接方法及び評価に関して改善を行った。

本校では、受験生の選択の幅を広くするため、県立高校の合格発表を待つ形式で入学の手続きを行っている。このため入学試験の合格者は定員以上に出している。従って年により入学定員と実入学者が異なるが、過去5年においては、学校全体の定員120名に対し、多くても128名であり、定員に対する超過は10%以下となっている。また、過去5年において定員以下となったことはない。

入学定員と実入学者の大幅な相異を避けるための方策として、入試委員会、専攻科委員会およびPR委員会により適正な実入学者の確保を目指し、毎年検討を重ねている。これら委員会の成果として、これまで、推薦選抜において各学科とも実入学者の50%程度確保した。他にも受験生の在籍する中学校へ入学意思の聞き取り調査を実施し、過去のデータを使用して合格者数を算出している。

また、専攻科海上輸送システム専攻においては、定員の2倍の学生を入学させているが、施設及び教員も十分対応している。

さらに本校は商船学科という特異な学科から全国各地から入学者があり、中学校PRにも力を入れている。中四国及び関西の中学校を中心に約270校を訪問している。他にも近隣中学校の進路説明会にも参加している。

基準 5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

準学士課程

観点 5 - 1 - 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点到に係る状況)

本校の準学士課程の教育課程は、資料 5 - 1 - 1 - (1) ~ (5) に示すように学科ごとに、低学年では一般科目が多く、高学年になるに従って専門科目が増えるようにバランスが取れたくさび型のカリキュラムとなっており、資料 1 - 1 - 1 及び資料 1 - 1 - 1 ~ 2 で示した教育目標を達成できるように授業科目を編成している。

専門科目は、学科ごとの教育目標達成のために、授業科目系統図に沿って必修科目と選択科目を体系的に配置している。商船学科は、「船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者育成」のため、4 学年から航海コースと機関コースに分かれ、共通専門科目の上に各コースの船舶職員として必須の専門科目及び海事関連科目を配置した教育課程の編成としている(資料 5 - 1 - 2 - (1))。電子機械工学科は、「ものづくりのできる実践的な技術者の育成」のため、電子・電気系、機械系、情報系の科目を適切に配置している(資料 5 - 1 - 2 - (2))。情報工学科は、「情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成」のため、ソフトウェア系、ハードウェア系、電気電子系、システム系、応用系の各分野の科目を系統的に配置している(資料 5 - 1 - 2 - (3))。各学科とも、主に講義を通して専門基礎力を身につけ、全学年に配置している実験・実習を中心とした科目を通して職業に必要な能力を身につけ、卒業研究などを通して創造力を身につけた実践的技術者の育成を図っている(資料 5 - 2 - 1 - (1) ~ (3))。また、商船学科だけでなく電子機械工学科・情報工学科においても、練習船「弓削丸」を活用した実習・授業を実施し(資料 5 - 1 - 5 ~ 7)、システムとして完結した対象物に柔軟に対応できる資質を養っている。

一般科目の中では、「自然科学の基礎を身につける」ための理科系科目を主に低学年に配置し、「社会や文化に理解を深め、技術者としての倫理観を持った人材育成」のために人文社会系の科目を全般的に配置している(資料 5 - 1 - 2 - (4))。また、「国際的視野育成」の観点から、英語によるコミュニケーション能力の基礎力育成をより早い段階で効果的に行うために、1 学年の英語授業においては各クラスを 3 分割して少人数教育を実施している(資料 5 - 2 - 5)。

平成 15 年度から、本校の教育方針の特徴である「身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を持たせ、多角的に考える能力を育成する」ために、本校の環境を活かした授業を各学科において展開している(資料 5 - 2 - 6)。

各授業について、教育課程の編成の趣旨に沿って、科目ごとに学習目標、授業の進め方、学習項目、学習到達目標などの授業内容を具体的にシラバスに明示している(資料 5 - 2 - 2)。

授業時間割編成に当たっては、教育目標・学習目標達成のため全体的に偏りが生じないように、学科からの要望を踏まえて教務委員会で総括している(資料 5 - 1 - 3 ~ 4)。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の教育課程では、教育目標達成のため、一般科目及び専門科目の教育課程が楔型に編成されバランスが保たれており、必修科目、選択科目が学年ごとに適切に配置されている。授業科目系統図から、実践的技術者育成のための教育課程の体系性が確保されており、各学科の専門科目が系統的に配置されていることが確認できる。また、授業内容は、教育の目的を達成するために、教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスに明確に記載されている。

以上のことから、本校の準学士課程では、教育の目標に照らして、授業科目が学科・学年ごとに適切に配置され、教育課程の体系性・系統性が確保されている。また、授業科目の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっている。

資料5 - 1 - - 1 - (1)

一般科目教育課程表

(商船学科)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国 語	9	3	3	2	1		
政 治・経 済	2	2					
倫 理・社 会	2			2			
日 本 史	2	2					
世 界 史	2		2				
経 済 学	2				2		
法 学	2				2		
哲 学	1					1	いずれか1科目(1単位) を選択必修
生 物 概 論						1	
数 学 1	1 2	4	4	4			
数 学 2	4	2	2				
化 学	4	2	2				
物 理	4	2	2				
保 健	1	1					
体 育	9	2	3	2	1	1	
音 楽	2	2					いずれか1科目(2単位) を選択必修
美 術		2					
書 道		2					
英 語	1 5	6	5	3	1		
英 語 講 読	3				2	1	
ド イ ツ 語	2			2			
科目開設単位数計	7 8	2 8	2 3	1 5	9	3	

特別活動：1～3年において毎週1単位時間(標準50分)以上実施する。

出典：平成18年度学生便覧

資料5 - 1 - - 1 - (2)

専 門 科 目 教 育 課 程 表

(商船学科)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必 修 目 科 目	応用数学 1	1			1		
	応用数学 2	1				1	
	基礎力学	1		1			
	材料力学 1	1			1		
	熱力学 1	1			1		
	水力学	2			2		
	情報処理 1	2	2				
	情報処理 2	2		2			
	電磁気学	2		2			
	電気回路	2			2		
	電気機器 1	1			1		
	電子工学 1	2				2	
	計測工学 1	1			1		
	計測工学 2	1				1	
	制御工学 1	1			1		
	航海学概論	1	1				
	機関学概論	1	1				
	船舶工学 1	1		1			
	船舶工学 2	1			1		
	船舶安全工学 1	1			1		
	船舶安全工学 2	1				1	
	海事法規 1	1		1			
	海事法規 2	1			1		
	内燃機関学 1	1			1		
	蒸気工学 1	1			1		
	図学	1		1			
	機械工作法	1		1			
	通信工学	1			1		
	通信法規	1			1		
	操艇・通信	2	2				
	実験実習 1	2		2			
	実験実習 2	2			2		
校内練習船実習	5	1	1	1	1	1	
小 計	46	7	12	20	6	1	
集中授業							
航	航海学 1	2			2		
	航海学 2	1				1	
	航海計測学	2			2		
	天文測位学	1			1		
	電波測位学	1			1		
	操船学	2			2		
	船体運動力学	1			1		

出典：平成 18 年度学生便覧

海 コ ス	載 貨 論	1				1		
	運 送 管 理 学 1	2				2		
	運 送 管 理 学 2	1					1	
	海 上 交 通 法 1	2				2		
	海 上 交 通 法 2	1					1	
	海 事 法 規 3	1				1		
	海 上 交 通 工 学	1					1	
	海 運 論	1					1	
	海 洋 気 象 学	1				1		
	海 洋 環 境 論	1					1	
	専 門 英 語 1	1				1		
	専 門 英 語 2	1					1	
	海 運 経 済 論	1				1		
	航 海 学 演 習	2					2	
	航 海 学 実 験	3				3		
	卒 業 研 究	4					4	
	小 計	34				21	13	
	機 関 コ ス	材 料 力 学 2	1				1	
熱 力 学 2		2				2		
材 料 学 1		1				1		
材 料 学 2		1					1	
電 気 機 器 2		1				1		
電 気 機 器 3		1					1	
制 御 工 学 2		2				2		
電 子 工 学 2		1					1	
内 燃 機 関 学 2		2				2		
内 燃 機 関 学 3		2					2	
蒸 気 工 学 2		1				1		
蒸 気 工 学 3		1				1		
設 計 製 図		2				2		
水 力 機 械 学		1				1		
冷 熱 工 学		1				1		
油 圧 工 学		1					1	
潤 滑 工 学		1				1		
推 進 論		1				1		
専 門 英 語 1	1				1			
専 門 英 語 2	1					1		
機 関 学 演 習	2					2		
工 学 実 験	3				3			
卒 業 研 究	4					4		
小 計	34				21	13		
選 択 科 目	商 船 学 セ ミ ナ ー	1				1	選 択	
専 門 科 目 開 設 単 位 数 計		81	7	12	20	27	15	80以上修得
一 般 科 目 と の 開 設 単 位 数 計		159	35	35	35	36	18	158以上修得
大 型 練 習 船 実 習	上 記 単 位 数 以 外 で 1 2 月 実 施 する							

出典：平成 18 年度学生便覧

資料5 - 1 - - 1 - (3)

一般科目教育課程表

(電子機械工学科・情報工学科)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国 語	9	3	3	2	1		
政 治・経 済	2	2					
倫 理・社 会	2			2			
日 本 史	2	2					
世 界 史	2		2				
経 済 学	2				2		
法 学	2					2	
哲 学	1					1	いずれか1科目(1単位) を選択必修
生 物 概 論						1	
数 学 1	1 2	4	4	4			選 択
数 学 2	4	2	2				
数 学 特 論	(2)			(2)			
化 学	4	2	2				
物 理	4	2	2				
保 健 体 育	9	1					
音 楽		2					いずれか1科目(2単位) を選択必修
美 術	2	2					
書 道		2					
英 語	1 5	6	5	3	1		
英 語 講 読	3				1	2	
ド イ ツ 語	3			2	1		
科目開設単位数計	8 1	2 8	2 3	1 7	7	6	7 9 以上修得

特別活動：1～3年において毎週1単位時間(標準50分)以上実施する。

出典：平成18年度学生便覧

資料5 - 1 - - 1 - (4)

専 門 科 目 教 育 課 程 表

(電子機械工学科)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必 修	応 用 数 学 1	2				2	
	応 用 数 学 2	2					2
	応 用 物 理 1	2				2	
	応 用 物 理 2	2					2
	情 報 処 理	2			2		
	基礎機械制御工学	1	1				
	機 構 学	2				2	
	工 業 力 学	2		2			
	材 料 力 学 1	2			2		
	材 料 力 学 2	2				2	
	流 体 力 学	2				2	
	熱 力 学	2				2	
修 科	材 料 学	2			2		
	機 械 工 作 法	2			2		
	設 計 製 図 1	1	1				
	設 計 製 図 2	2		2			
	設 計 製 図 3	1			1		
	設 計 製 図 4	2				2	
	設 計 製 図 5	2					2
	計 測 工 学 1	1		1			
	計 測 工 学 2	2			2		
	制 御 工 学	2				2	
	シ ー ケ ン ス 制 御	1		1			
	計 算 機 制 御	2					2
目	電 気 磁 気 学	2		2			
	電 気 回 路	2			2		
	電 子 工 学	2			2		
	電 子 回 路	2				2	
	電 子 計 算 機 1	2	2				
	電 子 計 算 機 2	1		1			
	工 作 実 習 1	2	2				
	工 作 実 習 2	2		2			
	工 作 実 習 3	2			2		
	工 学 実 験 1	3				3	
	工 学 実 験 2	3					3
	卒 業 研 究	8					8
必 修 科 目 単 位 計	74	6	11	17	21	19	

出典：平成 18 年度学生便覧

選 択 科 目	数 値 解 析	1					1	
	情 報 処 理 特 論	1				1		
	エ ネ ル ギ ー 工 学	1					1	
	振 動 工 学	1				1		
	表 面 工 学	1				1		
	工 作 機 械	1				1		
	デ ィ ジ タ ル 制 御 工 学	1					1	
	制 御 工 学 特 論	1					1	
	シ ス テ ム 工 学	1					1	
	ロ ボ ッ ト 工 学	1					1	
	電 気 電 子 機 器	2				2		
	パ ワ ー エ レ ク ト ロ ニ ク ス	1					1	
	電 子 回 路 特 論	1					1	
	工 業 英 語	2						2
	特 別 講 義 1	1				1		
	特 別 講 義 2	1				1		
	特 別 講 義 3	1					1	
	特 別 講 義 4	1					1	
	選 択 科 目 開 設 単 位 数 計	20				8	12	15以上修得
	専 門 科 目 開 設 単 位 数 計	94	6	11	17	29	31	89以上修得
一 般 科 目 と の 開 設 単 位 数 計	175	34	34	34	36	37	168以上修得	

※ 4年次においては、別表第1の数学特論（2単位）を修得した者は3単位以上、修得していない者は5単位以上、選択科目を修得すること。

数学特論（2単位）を修得した者については、専門科目89単位以上を87単位以上とする。

出典：平成18年度学生便覧

資料5 - 1 - - 1 - (5)

専 門 科 目 教 育 課 程 表

(情報工学科)

授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必 修	応 用 数 学 1	2				2	
	応 用 物 理	2				2	
	科 学 技 術 英 語	2				2	
	電 磁 気 学 1	1		1			
	電 気 工 学	2			2		
	電 子 工 学	1			1		
	電 子 回 路	1				1	
	情 報 理 論	1			1		
	情 報 工 学 概 論	1	1				
	電 子 計 算 機	2		2			
科 目	論 理 回 路	2			2		
	通 信 工 学	1			1		
	情 報 処 理 1	2	2				
	情 報 処 理 2	3		3			
	情 報 処 理 3	3			3		
	ア ルゴ リズ ム	1			1		
	デ ー タ ・ ペ ー ス	2				2	
	オペレーティング・システム	2				2	
	システム・インターフェース	2				2	
	システム工学1	2			2		
目	オペレーションズ・リサーチ1	2				2	
	数 値 解 析	2				2	
	計 測 工 学	1				1	
	制 御 工 学	2				2	
	製 図 ・ C A D	1		1			
	情 報 工 学 実 験 1	3	3				
	情 報 工 学 実 験 2	3		3			
	情 報 工 学 実 験 3	3			3		
	情 報 工 学 実 験 4	3				3	
	セ ミ ナ ー 1	1		1			
セ ミ ナ ー 2	1			1			
セ ミ ナ ー 3	1				1		
卒 業 研 究	8					8	
必 修 科 目 単 位 計	66	6	11	17	24	8	

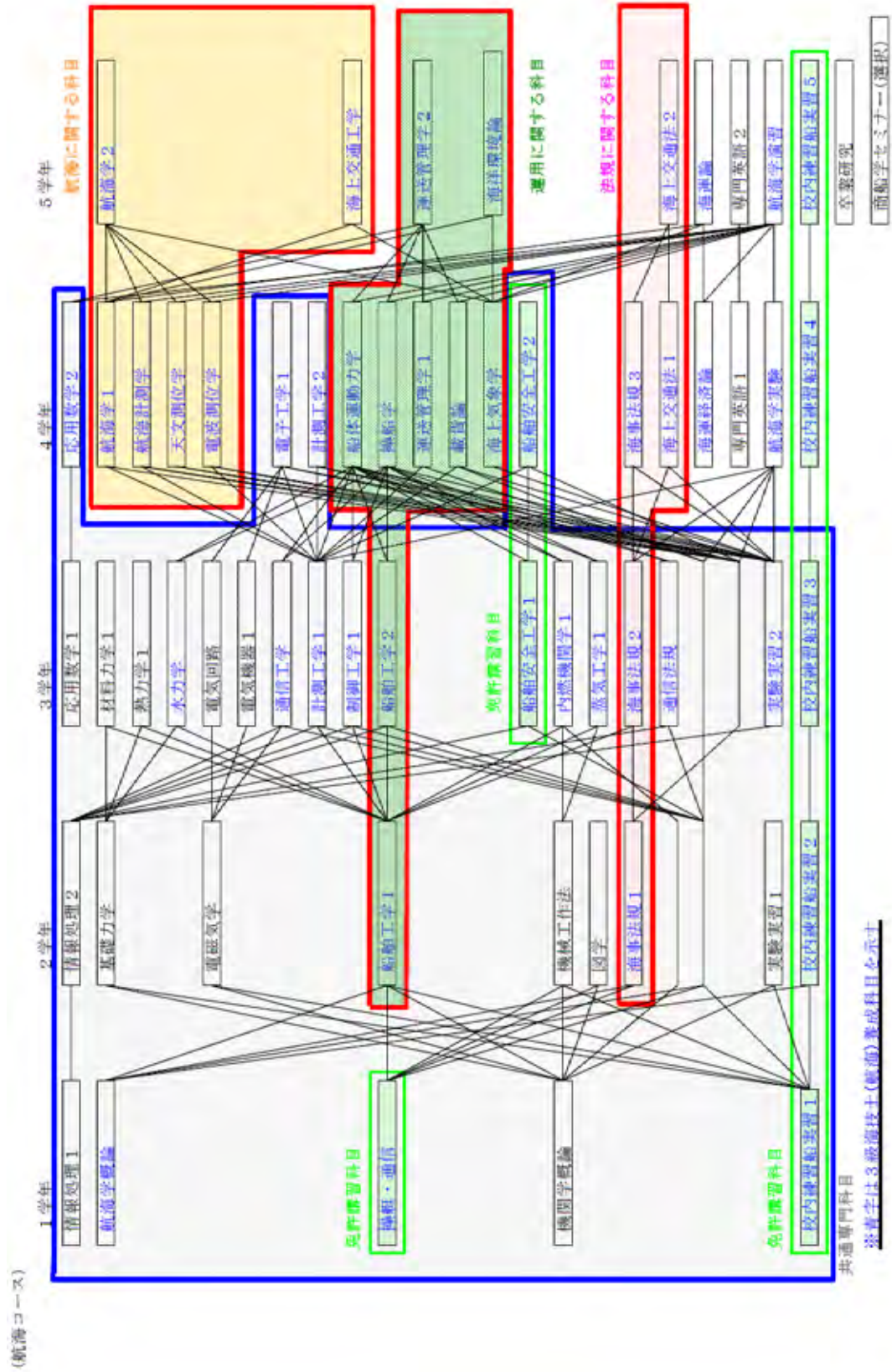
出典：平成 18 年度学生便覧

選 択 科 目	応用数学 2	2					2	
	画像処理 1	2				2		
	画像処理 2	1					1	
	人工知能	2					2	
	マルチメディア工学	2					2	
	コンパイラ	2				2		
	プログラミング特論	1				1		
	制御工学特論	2					2	
	電磁気学 2	1					1	
	システム工学 2	2					2	
	オペレーションズ・リサーチ 2	2					2	
	情報機器	2					2	
	機械工学	2					2	
	プラント工学	2					2	
	環境工学	2					2	
	海事工学	2				2		
	海事工学演習	2					2	
	特別講義	2					2	
	選択科目開設単位数計	33				7	26	22以上修得
専門科目開設単位数計	99	6	11	17	31	34	88以上修得	
一般科目との開設単位数計	180	34	34	34	38	40	167以上修得	

※ 別表第1の数学特論(2単位)を修得した者については、選択科目22単位以上を20単位以上、専門科目88単位以上を86単位以上とする。

出典：平成18年度学生便覧

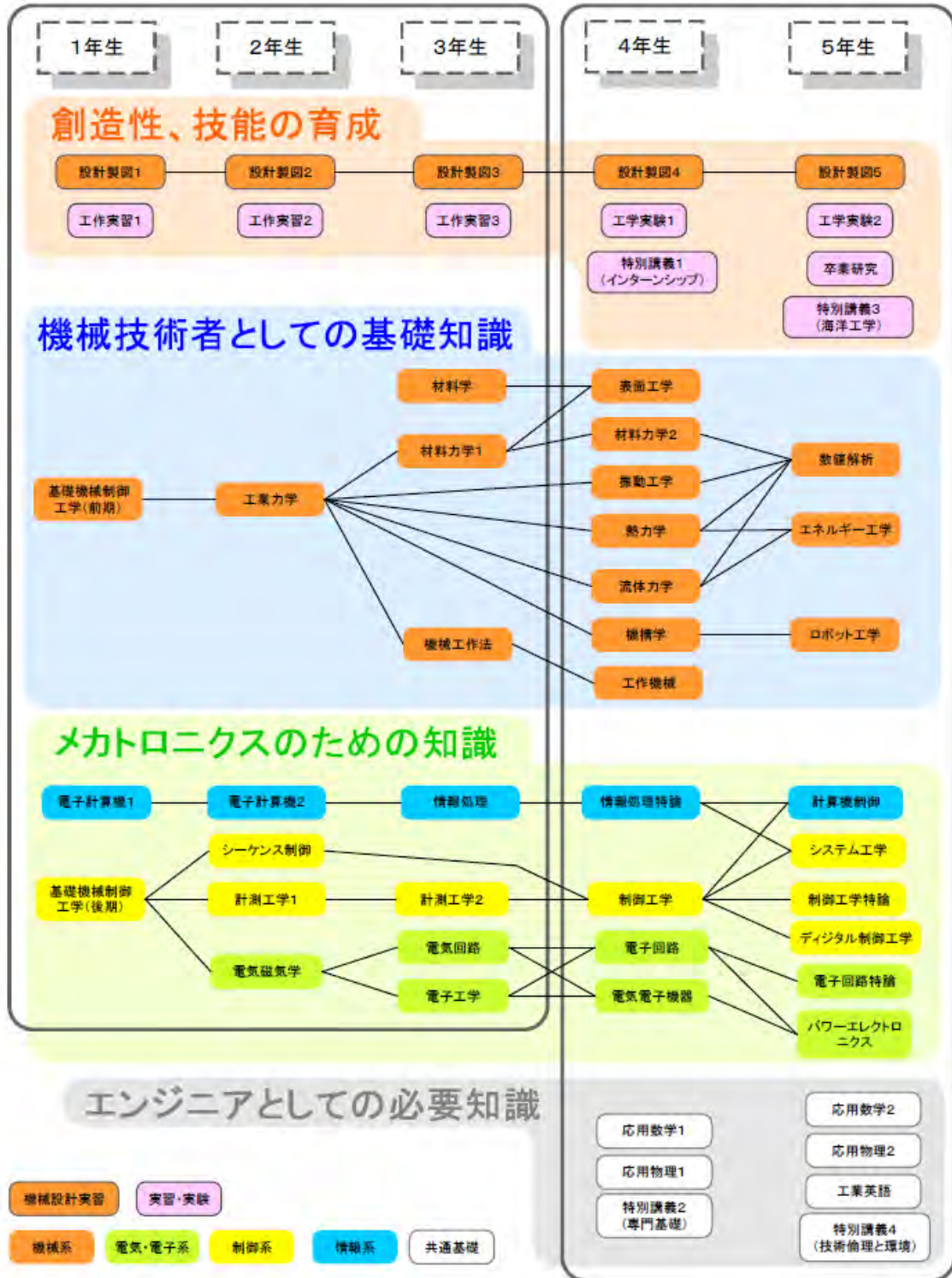
資料5 - 1 - - 2 - (1)



出典：商船学科

資料 5 - 1 - - 2 - (2)

電子機械工学科専門課程の流れ図



出典：電子機械工学科

資料 5 - 1 - - 2 - (3)

情報工学科系統図

	1年	2年	3年	4年	5年
基礎科目	情報概論 1 情報処理1 2	電子計算機 2 情報処理2 3	情報理論 1 情報処理3 3 アルゴリズム 1	応用数学1 2 応用物理 2 数値解析 2 科学技術英語 2 データベース 2 オペレーティングシステム 2 コンパイラ 2 プログラミング持論 1 システムインターフェイス 2 計測工学 1 制御工学 2	応用数学2 2 機械工学 2 人工知能 2 情報機器 2 制御工学持論 2 電磁気学2 1 マルチメディア工学 2
		電磁気学1 1	電気工学 2 電子工学 1 通信工学 1 システム工学1 2	電子回路 1 OR1 2 画像処理1 2	システム工学2 2 OR2 2 画像処理2 1
実験演習	実験1 3	セミナー1 1 実験2 3 海事工学演習	セミナー2 1 実験3 3 →	セミナー3 1 実験4 3 海事工学演習 特別講義	卒業研究 8 → 2 → 2
総合科目				海事工学 2	プラント工学 2 環境工学 2

比典：情報工学科

資料5 - 1 - - 3

H17. 9. 8 教務委員会で決定

授業時間割り作成フローチャート

1. 教務委員会において、時間割り作成の全体方針、留意事項について検討し決定する。
2. 各科長（または科長が指名した者）が窓口となり、時間割作成担当者（教務主事補）へ要望を提出する。
 - ・各科の特殊要望事項のみを吸い上げ、個人的な要望は受け付けない。
 - ・教務主事と時間割作成担当者で要望事項を検討する。場合によっては差し戻すこともある。
3. 時間割作成担当者が初期案を作成する。
4. 初期案を各科、実習係および教務係へ配布し、間違いや不適切な部分がないかを確認する。
 - ・各科長（または科長が指名した者）が窓口となる。
5. 時間割作成担当者が修正案を作成し、各科、実習係および教務係へ配布する。
 - ・やむを得ない理由による変更がある場合、関係者の調整を済ませた上で、科長を経由して、時間割作成担当者へ申し出る。
6. 時間割作成担当者が最終案を作成する。
7. 教務委員会において、最終決定する。
8. 全教員、実習係へ決定した時間割を教務係から配布する。

出典：教務委員会

観点 5 - 1 - 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他学科の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施，専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

本校以外の教育施設等における学修に関する規則を定め（資料 5 - 1 - - 1 ），他の高等教育機関での学修で単位認定が可能になっている。また，転科に関する規則が整備され（資料 5 - 1 - - 2 ），1 学年修了時での転科実績がある（資料 5 - 1 - - 3 ）。商船学科は，航海コース及び機関コースの各コースにおいて，第 1 種船舶職員養成施設として必要な科目を各学年に適切に配置している（資料 5 - 2 - - 1 - （1））。資格試験については，情報工学科で基本情報技術者試験合格者の単位認定を行っている（資料 5 - 1 - - 4 ）。電子機械工学科及び情報工学科では，インターンシップによる単位認定も行っており，多くの学生が単位を修得している（資料 5 - 2 - - 8 ）。また，練習船「弓削丸」を活用した実習は，商船学科では全学年で実施し単位化しており（資料 5 - 1 - - 5 ），電子機械工学科及び情報工学科においても航海実習による単位認定を行っている（資料 5 - 1 - - 6 ~ 7 ）。一般科目の中では社会的な視野を広げ，環境面に理解を深めさせるため，平成 16 年度から「生物概論」（資料 5 - 1 - - 8 ）を開講している（資料 5 - 1 - - 8 ）。専攻科生による TA は，生産システム専攻において実施されており，準学士課程学生との連携を図っている（資料 5 - 1 - - 9 ）。

中途入学者への対応として，留学生に対しては「日本語」及び「日本事情」の科目を設ける特別カリキュラムを編成している（資料 7 - 1 - - 5 ~ 7 ）。（編入学生に対する補充教育は，授業科目に組み込んでないため，基準 7 で述べる。）

学術や社会の動向に広く対応するため，平成 16 年度から四国地区 6 高専で連携した特別講義を本校が中心になって実施している（資料 5 - 1 - - 10 ）。また，本年度実施した本科卒業生，就職先企業へのアンケートの結果（資料 9 - 1 - - 2 ~ 3 ）やこれまでに 2 回実施した外部評価機関である運営諮問会議の提言（資料 5 - 1 - - 11 ）を反映した教育課程の編成を検討している。

（分析結果とその根拠理由）

本校以外の教育施設等における学修に関する規則，転科に関する規則が整備され，転科実績がある。資格試験の単位認定，インターンシップによる単位認定，全学科において練習船「弓削丸」を活用した実習での単位認定，留学生への特別のカリキュラム編成などで学生のニーズに対応している。また，広く学術や社会の動向を捉えて，四国地区高専で連携した特別講義が実施されている。

以上のことから，本校の準学士課程は，学生のニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対して，教育課程の編成が配慮されている。

資料 5 - 1 - - 1

○弓削商船高等専門学校以外の教育施設等における
学修等に対する単位の認定に関する規則

制 定 平成 6 年 2 月 4 日

最終改正 平成 12 年 3 月 29 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校学則第 13 条の 4 の規定に基づき、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）以外の教育施設等における学修等に対する手続き及び単位の認定に関し必要な事項を定める。

(本校以外の教育施設等における学修)

第 2 条 本校以外の教育施設等における学修とは、次の各号に掲げる学修をいう。

- 一 高等専門学校における学修
- 二 大学又は短期大学及び放送大学における学修
- 三 その他文部大臣が別に定める学修

(学修手続)

第 3 条 学生は、前条第 1 号及び第 2 号に規定する教育施設において学修しようとするときは、次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

- 一 本校以外の教育施設等における学修許可願（様式 1）
- 二 学科長の推薦書
- 三 当該教育施設等の案内及び授業科目履修要項等
- 四 学業成績証明書
- 五 健康診断書
- 六 その他必要な書類

2 前項の申請があったときは、校長は、教育上有益と認めるときは科目担当教官を加えた教務委員会の議を経て許可することができる。

(単位認定申請)

第 4 条 学生は、第 2 条各号に規定する教育施設等における学修を行い、単位認定を受けようとするときは、本校以外の教育施設等における学修単位認定申請書（様式 2）に単位修得証明書、成績証明書を添えて校長に申請するものとする。

(単位の認定)

第 5 条 前条の規定により申請のあった学修に関する単位の認定は、30 単位を超えない範囲で科目担当教官を加えた教務委員会の議を経て校長が行う。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 5 - 1 - - 2

第 6 章 教務，学生（弓削商船高等専門学校転科に関する規則）

○弓削商船高等専門学校転科に関する規則

制 定 平成 6 年 2 月 4 日

最終改正 平成 18 年 3 月 22 日

（趣旨）

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校学則第 21 条第 2 項の規定に基づき、転科について必要な事項を定めるものとする。

（転科の受入れ要件）

第 2 条 各学科において次の各号に該当する場合は、転科の申請を受理するものとする。

- （1） 転科の受入れ学年は、商船学科については 2 年次までとし、電子機械工学科及び情報工学科については 4 年次までとする。
- （2） 学生数は、転科先の学級の教育に支障がない範囲とする。

（転科の資格）

第 3 条 転科を希望する者は、次の各号の条件を満たした場合に申請することが出来る。

- （1） 現学年において、学則別表第 1 及び別表第 2 の所定の進級単位数を修得見込みであること。
- （2） 転科先の学科の身体基準を満たしていること。

（転科の申請）

第 4 条 転科を希望する者は、その理由を付した転科申請書（第 1 号書式）により 12 月末日までに、校長に提出しなければならない。

（転科の認定）

第 5 条 転科の認定は、転科先の学科が行う試験結果をもって教務委員会で審議し、校長が許可する。

附 則

この規則は、平成 6 年 2 月 4 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 18 年 3 月 22 日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料5 - 1 - - 3

転科学生実績

平成 14 年度 電子機械工学科 1 学年修了時に商船学科へ 1 名
 平成 14 年度 情報工学科 1 学年修了時に商船学科へ 1 名
 平成 17 年度 情報工学科 1 学年修了時に商船学科へ 1 名
 平成 17 年度 商船学科 1 学年修了時に情報工学科へ 1 名

出典：学生課

資料5 - 1 - - 4

資格試験単位認定者数(過去 5 年間)

区分	情報工学科	試験の種類
平成 13 年度	3	基本情報技術者試験
平成 14 年度	0	〃
平成 15 年度	2	〃
平成 16 年度	4	〃
平成 17 年度	2	〃

出典：学生課

資料 5 - 1 - - 5

授業科目	校内練習船実習			担当教員	豊田・永本・他		
学 科	商船学科(航海)	学 年	5年	授業期間	集中授業	単位数	1
分 野	専門	授業形態	実習・講義	履修区分	必修		
学習目標	航海に関する技術の、実船による基礎訓練及び船内勤務、船内生活を体験せしめ船員としての資質を涵養し将来に資する。						
進め方	校内練習船を用い、夜航海を含む航海実習を行う。 実習内容に応じて班編制を行い実習効果をあげる。 大型練習船に備え、船内生活及び航海技術の習熟を行う。						
学習内容	学 習 項 目 (時間数)			学習到達目標			
	<ul style="list-style-type: none"> ・実習内容のガイダンス及び航海計画の立案(実習前課外授業で3時間程度) ・船橋当直要領 (6) ・地文航法 (3) ・天文航法 (3) ・電波航法 (3) ・出没方位角の算出 (1) ・レーダー・ARPAの使用法 (6) ・船体の構造、設備、復元性等 (3) ・操船法 (3) ・船舶の出力装置 (3) ・搜索及び救助 (3) ・乗組員の管理、訓練 (3) ・レーダー・ARPA講習(課外授業) (6) 			実習内容の把握、航路選定の習熟 当直法、行船法、避航法、夜航海技術の習熟 各種航法、船位決定法の習熟 天体による、位決定法の修得 各種電波計器による、船位決定法の修得 出没方位角測定によりジャイロエラー検出 適正な使用法の習得 復元性、トリム等に関する計算法修得 操縦性能を理解し入出港操船法を修得 出力装置の作動原理、制御法を熟知 搜索、救助に関する知識を習得 安全、健康管理、災害防止対策を理解 ・レーダー・ARPAについて基本的知識を修得			
養成施設 引当て科目 &単位	航海コースのみ						
	航海計器	0.1	航海計画	0.1	衝突予防法	0.1	
	地文航法	0.1	船舶の構造	0.1	船舶の出力	0.1	
	天文航法	0.1	当直	0.1			
	電波航法	0.1	操船	0.1			
免許講習 引当て時間	レーダー観測者・講義 5時間						
	実技 3時間						
	ARPA・・・講義 1時間						
	実技 3時間						
	救命・機関救命・講義 時間						
	実技 時間						
評価方法	単位認定試験40%、実習に臨む態度40%、課題及び実習ノート20%として評価する。						
関連科目	航海系専門科目全般						
教科書等	練習船、積載航海計器、付属図面及び図書、実習ファイル、その他配布プリント						
備 考	けが、病気に注意。 授業開始及び終了時の人員確認、保護具の着用。						

出典：平成 18 年度シラバス

資料 5 - 1 - - 6

授業科目	特別講義 3			担当教員	益崎 真治		
学 科	電子機械	学 年	5	授業期間	夏期集中	単位数	1
分 野	専門	授業形態	実習	履修区分	選択		
学習目標	飛行機、自動車、船舶は陸海空それぞれの総合的技術があつまった人間に欠かせない乗り物である。本講義では、その中の船舶について本校にある練習船弓削丸を使い、その総合的技術を学ぶことが目的である。						
進め方	講義は夏休みに三泊四日で弓削丸を運航し、その中で集中講義を行いレポート、実習、テストを行うものである。同時に運航先で会社見学実習も行う。						
学習内容	学 習 項 目 (時間数)			学習到達目標			
	ガイダンス (1) 船内生活の基本 (2) 操船方法について (2) 機関制御と運転について (2) 海事規則について (2) 運航実習 (4) 工場見学 (3) 試験			(1) 船内生活の基本について学ぶ。 (2) 船舶の操船方法について学ぶ。 (2) 機関の構成と運転方法等について学ぶ。 (2) 船を運航するにあたっての諸規則について学ぶ。 (4) 実際に運航を行い実習することで理解を深める。 (3) 関連企業への訪問を行い実際の企業について学ぶ。			
評価方法	試験を 80%、レポート・実習達成度および態度を 20% として評価する。						
関連科目							
教科書等	【書名】	【著者】			【発行所】		
備 考	夏休みを使った弓削丸航海を予定している。テキストはプリント等の配布を行う。運行中の講義に加え、自習、実習時間を講義以外の時間に設け、30時間分の課題、演習等を行う。						

出典：平成 18 年度シラバス

資料 5 - 1 - - 7

授業科目	海事工学演習			担当教員	塚本		
学 科	情報工学科	学 年	5年	授業期間	集中	単位数	2
分 野	専門	授業形態	集中	履修区分	選択		
学習目標	本校の特徴設備である「弓削丸」, 「はまかぜ」を利用して船舶の運航体制, 船舶システムの仕組みを理解する。またあわせて見学する工場見学先の内容を理解する。						
進め方	2年生, 4年生で実施される航海実習において乗船中の課業および工場見学を実施する。						
学習内容	学 習 項 目 (時間数)			学習到達目標			
	ガイダンス (1)						
2年生 (1泊2日) 準備 船内課業・工場見学 課題作成			(2) (18) (5)	船舶の職制, 運航体制を理解する。 見学工場の業務内容を理解する。 レポートにまとめる			
4年生 (2泊3日) 準備 船内課業・工場見学 課題作成			(2) (28) (5)	船舶における航海系, 機関系の基本的な作業を体験理解する。 見学工場の業務内容を理解する。 レポートにまとめる			
評価方法	合計60時間の実習に参加すること。単独では船を運航しないので, 欠席者には単位は出ない。欠席者で単位が必要な者は, 申し出ること。						
関連科目	海事工学 (4年), プラント工学 (5年)						
教科書等	【書名】	【著者】			【発行所】		
備 考	(夏季, 春季休業中に研究航海が予定されているので, それに合わせて実習が可能ながある。)						

出典：平成 18 年度シラバス

資料 5 - 1 - - 8

授業科目	生物概論			担当教員	沖増 英治		
学 科	商船学科	学 年	5 年	授業期間	前 期	単位数	1
分 野	一 般	授業形態	講義	履修区分	選択必修		
学習目標	地球表面の70%は海が占め、その中に棲息する海洋生物は多種多様な生き方をしている。 海洋生物を知るためにも、まずは私達、人間を知りましょう。 「人間が海の中に忘れた宝物とは何か？探しにいこう！」 「船底塗料は付着生物の忌避物質？環境ホルモン？」						
進め方	基本的には教科書やプリントを用いて、講義方式で授業を進行する。 DVDやインターネットなどの視聴覚方式や、教室で可能な実験・実習も積極的に取り入れる。						
学習内容	学 習 項 目 (時間数)			学習到達目標			
	ガイダンス ベシック編			生物学の重要性、楽しさをピックアップ			
	1章 生物学っておもしろい？ 生物学って何かの役に立ちますか	(1)	#	ヒトの心と体を制御している細胞の構造と機能についての基礎的知識を講述する。			
	2章 こんなことも生物学 名前を覚えるだけでは意味がない	(2)					
	3章 生物は細胞から始まる 細胞が増え、そして死ぬ	(5)					
	4章 進化していく生物 生命の誕生とその進化	(2)					
	5章 生命を維持する体の働き 呼吸とエネルギー	(3)					
	6章 心と体はつながっている 感情を支配する物は？	(2)					
	ステップアップ編						
	1章 体はどうやってできるの 受精・発生から	(3)	#	受精、発生、分化、そして形態形成、完成した生物個体と環境との関わりについて、さらに海の生物学について講述する。			
	2章 遺伝子からタンパク質へ DNA - RNA - タンパク質	(4)					
	3章 身のまわりの環境と生物 環境ホルモンと生態系	(3)					
	4章 海洋生物学概論 微生物から鯨まで	(2)					
	5章 マリンバイオテクノロジー 海からの贈り物	(3)					
養成施設 引当て科目 &単位							
免許講習 引当て時間							
評価方法	定期試験得点（中間試験と期末試験の平均点）やレポート評価点に加えて、出席日数の実数を出席点として加算する。						
関連科目	化学、物理						
教科書等	【書名】	新編 生物 I	【著者】	太田次郎・本川達雄	【発行所】	啓林館	
備 考	基準に達しない学生には再試験・補講を計画する。						

出典：平成 18 年度シラバス

資料 5 - 1 - - 9

専攻科 T A 実施状況 4月1日～5月30日

学年	T A実施学生氏名	実施科目 (クラス)	実施日	実施時間
生 2		工学実験 3 (I 3)	・ 4 / 2 0 ・ 5 / 1 1 ・ 5 / 1 8 ・ 5 / 2 5	1 2 時間 (各回 3 時間)
生 2		工学実験 3 (I 3)	・ 4 / 2 0 ・ 4 / 2 7 ・ 5 / 1 1 ・ 5 / 1 8 ・ 5 / 2 5	1 5 時間 (各回 3 時間)
生 2		工学実験 (M5)	・ 4 / 2 6 ・ 5 / 1 7 ・ 5 / 2 4 ・ 5 / 3 1	1 2 時間 (各回 3 時間)
生 2		工学実験 1 (M4)	・ 5 / 1 0 ・ 5 / 1 7 ・ 5 / 2 4	9 時間 (各回 3 時間)
生 2		工学実験 1 (M5)	・ 5 / 1 0 ・ 5 / 1 7 ・ 5 / 2 4	9 時間 (各回 3 時間)
生 2		工学実験 II (M5) 卒業研究 特別研究 (M5.AP1)	・ 5 / 1 0 ・ 5 / 1 7 ・ 5 / 2 4 ・ 5 / 8 ・ 5 / 1 1 ・ 5 / 1 2 ・ 5 / 1 8 ・ 5 / 2 6 ・ 5 / 2 9	1 7 時間 (各回 3 時間) 2 時間 1 時間 1 時間 1 時間 2 時間 1 時間
生 2		工学実験 (M5)	・ 5 / 1 7 ・ 5 / 2 4 ・ 5 / 3 1	9 時間 (各回 3 時間)

出典：専攻科

資料 5 - 1 - - 10

四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」実施要項

1. 目的 四国地区高専間の連携・交流を推進するため、本校練習船を活用し、科学技術・共同生活及び海の世界等について特別講義を行い、広い視野を持った技術者の養成又、即戦力を備えた技術者の育成を目的とする。
2. 期 日 平成17年8月22日(月)～8月25日(木)
3. 会 場 弓削商船高等専門学校 練習船「弓削丸」ほか
4. テー マ 海の世界とエネルギー
5. 単 位 1単位(30時間)
6. 単位認定 単位認定は提出されたレポートで成績評価を行い、他の科目との単位互換等は各高専で行う。
7. 参加者 34名
8. 班別名簿 4班に班分け
9. 講義内容及び担当者(詳細は講義内容等を参照)
 - (1) 極低温科学技術の海洋工学への応用
(担当者:弓削高専 校長 西垣 和)
 - (2) 風力エネルギーの電氣的利用について
(担当者:阿南高専 電気電子工学科 教授 当宮辰美)
 - (3) 地球のエネルギー収支
(担当者:新居浜高専 材料工学科 教授 谷 耕治)
 - (4) 南極観測の意義と地球環境保全 ～ 南極観測体験談 ～
(担当者:高知高専 電気工学科 講師 芝 治也)
 - (5) エネルギーからみた環境問題と地球温暖化の抑制
(担当者:高松高専 電気情報工学科 講師 堀内紀充)
 - (6) 植生から見た瀬戸内海の景観 ～ 白砂青松は自然か? ～
(担当者:弓削高専 情報工学科 教授 塚本秀史)
 - (7) ① 練習船「弓削丸」演習:操船と舵
(担当者:弓削高専 練習船「弓削丸」 船長 豊田利彦)
(一等航海士 永本和寿)
 - ② 練習船「弓削丸」演習:船用機関システム
(担当者:弓削高専 練習船「弓削丸」 機関長 松永直也)
(一等機関士 渡部和美)
 - ③ 実習船「はまかぜ」操船演習
(担当者:弓削高専 商船学科 教授 友田 進)
10. 集合場所及び集合日時 弓削商船高等専門学校 第一会議室
平成17年8月22日(月) 13時30分
11. 宿泊場所 弓削商船高等専門学校青雲館及び白雲館

出典:四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」実施要項

資料5 - 1 - - 11

4. 提言

第1回会議の提言に対しては、様々な事に取り組まれており、その努力が窺えました。これからも教育研究活動の改善に努力し、さらに発展されることを期待しています。

また、今回の諮問事項に対しては以下のとおり提言いたします。

(1) 本校の社会貢献のあり方について

教育面においては、インターンシップ、キャリアサポート等を充実させ、学校と企業の協力体制を築けるよう努力してください。また、学生に福祉関係のボランティア活動を体験させることなども提案いたします。

研究面においては、産業界のニーズ、学校にシーズをお互いに把握する事が重要であると考えます。これからは技術フォーラムを開催する等、産学連携により力を注いでください。

(2) 専攻科の発足と内容の充実に向けて

専攻科が発足したことで、周辺地域の中学校からの関心も高く、注目されています。

特に海上輸送システム工学専攻においては、船舶の管理、人の管理ができ、海上だけではなく様々な物流システムに対応できる、新しい時代の高度な実践的技術者を養成していただきたいと思います。

専攻科が若者に夢を与えられるような教育機関になられることを期待しています。

観点 5 - 2 - 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。)

(観点に係る状況)

実践的技術者育成のための教育課程を展開するにふさわしい授業形態として、すべての学年で講義・演習・実験・実習をバランスよく適切に配置している(資料 5 - 2 - - 1 - (1) ~ (3))。職業上の能力育成のために、講義の中でも適宜演習を取り入れ、実習や実験では少人数グループに分けて実施し、情報処理センターや実験室を始めとする各種施設を活用して(資料 5 - 2 - - 2)、教育効果を高めている。また、複数の教員・技術職員で支援する態勢を全学科で取り、高度化かつ多様化してゆく専門分野に対応できる資質を養えるように整備している(資料 5 - 2 - - 3)。商船学科の「校内練習船実習」は、船舶職員としての資質を涵養するため、各クラスを 2 グループに分けて別日程で実施し実習効果を上げている(資料 5 - 2 - - 4)。英語教育においては、1 学年での少人数教育の実施(資料 5 - 2 - - 5)やオーラルコミュニケーション能力育成のためのマルチメディア教室での授業などを行っている。

平成 15 年度から本校の環境を活かした授業改善に努め(資料 5 - 2 - - 6)、全学科で練習船「弓削丸」を活用した実習を実施し(資料 5 - 2 - - 7 ~ 8)、基礎学力不足学生に対するオフィスアワー(資料 5 - 2 - - 9)・補講授業の実施(資料 5 - 2 - - 10)など多面的に学習指導方法の工夫を凝らしている。

(分析結果とその根拠理由)

各科目の授業内容に応じて全ての学年で、少人数グループによる授業、演習、実験や複数教員による授業など実践的技術者育成のために適切な授業形態が整備されている。また、本校の環境を活かした授業、練習船「弓削丸」を活用した実習、情報処理教育センター、マルチメディア教室を始めとする各種施設を活用しての授業、オフィスアワー、補講授業による基礎学力不足学生に対する配慮など多面的に学習指導方法の工夫がなされ教育課程が展開されている。

以上のことから、教育の目的に照らして、授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

資料 5 - 2 - - 1 - (1)

商船学科学年別授業形態一覧

商船学科 1年

授業科目	単位数	授業形態
1 国語	3	講義
2 政治・経済	2	講義
3 日本史	2	講義
4 数学1	4	講義
5 数学2	2	講義
6 化学	2	講義
7 物理	2	講義
8 保健	1	講義
9 体育	2	実技
10 音楽	2	実技
11 美術	2	実技
12 書道	2	実技
13 英語	3	講義
14 英語	2	講義
15 英語	1	講義
16 情報処理1	2	講義・演習
17 航海概論	1	講義
18 機関学概論	1	講義
19 操縦・通信	1	講義・実習
20 校内練習船実習	1	実習
21 特別活動	1	特別活動

商船学科 2年

授業科目	単位数	授業形態
1 国語	3	講義
2 世界史	2	講義
3 数学1	4	講義
4 数学2	2	講義
5 化学	2	講義
6 物理	2	講義
7 体育	2	実技
8 体育	1	実技
9 英語	2	講義
10 英語	2	講義
11 英語	1	講義
12 基礎力学	2	講義
13 情報処理2	2	講義・演習
14 電磁気学	2	講義
15 船舶工学1	1	講義
16 海事法規1	1	講義
17 図学	1	講義・演習
18 機械工作法	1	講義
19 実船実習1	2	実習・実習
20 校内練習船実習	1	実習
21 特別活動	1	特別活動

商船学科 3年

授業科目	単位数	授業形態
1 国語	2	講義
2 倫理・社会	2	講義
3 数学1	4	講義
4 体育	2	実技
5 英語	1	講義
6 英語	2	講義
7 トイソ語	2	講義
8 応用数学1	1	講義
9 材料力学1	1	講義
10 熱力学1	1	講義
11 水力学	2	講義
12 電気回路	2	講義
13 電気機器1	1	講義
14 計測工学1	1	講義
15 制御工学1	1	講義
16 船舶工学2	1	講義
17 船舶安全工学1	1	講義
18 海事法規2	1	講義
19 内燃機関工学1	1	講義
20 蒸気工学1	1	講義
21 通信工学	1	講義
22 通信法規	1	講義
23 実験実習2	2	実習
24 校内練習船実習	1	実習
25 特別活動	1	特別活動

商船学科 4年Nコース

授業科目	単位数	授業形態
1 国語	1	講義
2 経済学	2	講義
3 法学	2	講義
4 体育	1	実技
5 英語	1	講義
6 英語講義	2	講義
7 応用数学2	1	講義
8 電子工学1	2	講義
9 計測工学2	1	講義
10 船舶安全工学2	1	講義
11 校内練習船実習	1	実習
12 材料工学2	2	講義
13 熱力学2	2	講義
14 材料学1	1	講義
15 電気機器2	1	講義
16 制御工学2	2	講義
17 内燃機関工学2	2	講義
18 蒸気工学2	1	講義
19 蒸気工学3	1	講義
20 設計製図	2	講義・実習
21 水力機械学	1	講義
22 冷熱工学	1	講義
23 潤滑工学	1	講義
24 推進論	1	講義
25 専門英語1	1	講義
26 工学実験	3	実験

商船学科 4年Eコース

授業科目	単位数	授業形態
1 国語	1	講義
2 経済学	2	講義
3 法学	2	講義
4 体育	1	実技
5 英語	1	講義
6 英語講義	2	講義
7 応用数学2	2	講義
8 電子工学1	2	講義
9 計測工学2	1	講義
10 船舶安全工学2	1	講義
11 校内練習船実習	1	実習
12 材料工学2	2	講義
13 熱力学2	2	講義
14 材料学1	1	講義
15 電気機器2	1	講義
16 制御工学2	2	講義
17 内燃機関工学2	2	講義
18 蒸気工学2	1	講義
19 蒸気工学3	1	講義
20 設計製図	2	講義・実習
21 水力機械学	1	講義
22 冷熱工学	1	講義
23 潤滑工学	1	講義
24 推進論	1	講義
25 専門英語1	1	講義
26 工学実験	3	実験

商船学科 5年Eコース

授業科目	単位数	授業形態
1 生物概論	1	講義
2 体育	1	実技
3 英語講義	1	講義
4 校内練習船実習	1	実習
5 材料学2	1	講義
6 電気機器3	1	講義
7 電子工学2	1	講義
8 内燃機関工学3	2	講義
9 油圧工学	1	講義
10 専門英語2	1	講義
11 機関学演習	2	演習
12 卒業研究	4	研究
13 船舶学セミナー	1	講義・演習

商船学科 5年Nコース

授業科目	単位数	授業形態
1 生物概論	1	講義
2 体育	1	実技
3 英語講義	1	講義
4 校内練習船実習	1	実習
5 航海学2	1	講義
6 運送管理学2	1	講義
7 海上交通法2	1	講義
8 海上交通工学	1	講義
9 海運論	1	講義
10 海洋環境論	1	講義
11 専門英語2	1	講義
12 航海学演習	2	演習
13 卒業研究	4	研究
14 船舶学セミナー	1	講義・演習

出典：商船学科

は第1種養成関連科目

資料5 - 2 - - 1 - (2)

電子機械工科学年別授業形態一覽

電子機械工科学科3年

授業科目	単位数	授業形態
1 西語	2	講義
2 倫理・社会	2	講義
3 数学1	4	講義
4 数学特論	2	講義
5 体育	2	実技
6 英語	1	講義
7 英語	2	講義
8 英語	2	講義
9 情報処理	2	講義・実習
10 材料力学1	2	講義
11 材料科学	2	講義
12 機械工作法	2	講義
13 設計図面3	1	講義・実習
14 設計工学2	2	講義
15 電気回路	2	講義
16 電子工学	2	講義
17 工作実習3	2	実習
18 特別活動	1	特別活動
19 日本語	4	講義
20 日本事情	2	講義

電子機械工科学科2年

授業科目	単位数	授業形態
1 国語	3	講義
2 世界史	2	講義
3 数学1	4	講義
4 数学2	2	講義
5 化学	2	講義
6 物理	2	講義
7 体育	2	実技
8 体育	1	実技
9 英語	2	講義
10 英語	2	講義
11 英語	1	講義
12 工業力学	2	講義
13 設計図面2	2	講義・実習
14 設計工学1	1	講義
15 シーケンス制御	1	講義
16 電気磁気学	2	講義
17 電子計測機2	1	講義
18 工作実習2	2	実習
19 特別活動	1	特別活動

電子機械工科学科1年

授業科目	単位数	授業形態
1 国語	3	講義
2 政治・経済	2	講義
3 日本史	2	講義
4 数学1	4	講義
5 数学2	2	講義
6 化学	2	講義
7 物理	2	講義
8 医療	1	講義
9 体育	2	実技
10 音楽	2	実技
11 美術	2	実技
12 書道	2	実技
13 英語	3	講義
14 英語	2	講義
15 英語	1	講義
16 基礎情報工学	1	講義
17 設計図面1	1	講義・実習
18 電子計算機	2	講義・実習
19 工作実習1	2	実習
20 特別活動	1	特別活動

電子機械工科学科5年

授業科目	単位数	授業形態
1 法学	2	講義
2 生物概論	1	講義
3 体育	1	実技
4 英語講義	2	講義
5 応用数学2	2	講義
6 応用物理2	2	講義
7 設計図面5	2	講義
8 計算機制御	2	講義
9 工学実験2	3	実験
10 卒業研究	8	研究
11 数値解析	1	講義
12 応用電子工学	1	講義
13 電子回路設計1	1	講義
14 電子回路設計2	1	講義
15 システム工学	1	講義
16 ロボット工学	1	講義
17 応用電子工学	1	講義
18 電子回路特論	1	講義
19 工業英語	2	講義
20 特別講義3	1	講義
21 特別講義4	1	講義

電子機械工科学科4年

授業科目	単位数	授業形態
1 国語	1	講義
2 経済学	2	講義
3 体育	1	実技
4 英語	1	講義
5 英語講義	1	講義
6 下り数学	1	講義
7 応用数学1	2	講義
8 応用物理1	2	講義
9 概論学	2	講義
10 材料力学2	2	講義
11 流体力学	2	講義
12 熱力学	2	講義
13 設計図面4	2	講義・実習
14 制御工学	2	講義
15 電子回路	2	講義
16 工学実験1	3	実験
17 情報処理特論	1	講義・実習
18 移動工学	1	講義
19 表面工学	1	講義
20 工作機械	1	講義
21 電気電子機器	2	講義
22 特別講義1	1	実習
23 特別講義2	1	講義
24 日本事情	1	講義

出典：電子機械工科学科

資料5 - 2 - - 1 - (3)

情報工科学科年別授業形態一覧

情報工科学科3年

授業科目	単位数	授業形態
1 国語	2	講義
2 倫理・社会	2	講義
3 数学1	4	講義
4 数学特論	2	講義
5 体育	2	実技
6 英語	2	講義
7 英語	2	講義
8 ドイツ語	2	講義
9 電子工学	1	講義
10 情報理論	1	講義
11 情報回路	1	講義
12 論理回路	2	講義
13 通信工学	1	講義・演習
14 情報処理3	3	講義
15 アルゴリズム	1	講義
16 システム工学1	2	講義
17 情報工学実験3	3	実験
18 セミナー2	1	講義・演習
19 特別活動	1	特別活動
20 日本語	4	講義
21 日本語	1	講義

情報工科学科2年

授業科目	単位数	授業形態
1 国語	3	講義
2 世界史	2	講義
3 数学1	4	講義
4 数学2	2	講義
5 化学	2	講義
6 物理	2	講義
7 体育	2	実技
8 体育	1	実技
9 英語	2	講義
10 英語	2	講義
11 英語	1	講義
12 情報処理1	1	講義
13 電子計算機	2	講義・演習
14 情報処理2	3	講義
15 製図・CAD	1	講義・演習
16 情報工学実験2	3	実験
17 セミナー1	1	講義・演習
18 特別活動	1	特別活動

情報工科学科1年

授業科目	単位数	授業形態
1 国語	3	講義
2 政治・経済	2	講義
3 日本史	2	講義
4 数学1	4	講義
5 数学2	2	講義
6 化学	2	講義
7 物理	2	講義
8 保健	1	講義
9 体育	2	実技
10 音楽	2	実技
11 美術	2	実技
12 英語	2	実技
13 英語	3	講義
14 英語	2	講義
15 英語	1	講義
16 情報工学概論	1	講義
17 情報処理1	2	講義
18 情報工学実験1	3	実験
19 特別活動	1	特別活動

情報工科学科5年

授業科目	単位数	授業形態
1 法学	2	講義
2 生物概論	1	講義
3 体育	1	実技
4 英語講義	2	講義
5 卒業研究	8	研究
6 応用数学2	2	講義
7 画像処理2	1	講義・演習
8 人工知能	2	講義
9 ウェブシステム工学	2	講義
10 制御工学特論	2	講義
11 情報処理2	1	講義
12 システム工学2	2	講義
13 システム工学2	2	講義
14 情報機器	2	講義
15 機械工学	2	講義
16 プラント工学	2	講義
17 環境工学	2	講義
18 海事工学演習	2	演習
19 特別講義	2	実習

情報工科学科4年

授業科目	単位数	授業形態
1 国語	1	講義
2 経営学	2	講義
3 体育	1	実技
4 英語	1	講義
5 英語講義	1	講義
6 ドイツ語	1	講義
7 応用数学1	2	講義
8 応用物理	2	講義
9 科学技術英語	2	講義
10 電子回路	1	講義
11 データベース	2	講義
12 ネットワークシステム工学	2	講義・演習
13 ネットワークシステム工学	2	講義
14 ネットワークシステム工学	2	講義・演習
15 数値解析	2	講義
16 制御工学	1	講義
17 制御工学	2	講義
18 情報工学実験4	3	実験
19 セミナー3	1	講義・演習
20 画像処理1	2	講義
21 コンパイル	2	講義
22 プログラミング特論	1	講義
23 海事工学	2	講義

出典：情報工学科

資料 5 - 2 - - 2

実験室・演習室等を利用した授業一覧表

総合教育科

施設名	使用授業名
化学実験室	化学
物理実験室	物理
音楽教室	音楽
美術教室兼多目的室	美術
大ゼミ室	書道
マルチメディア教室	英語
アセンブリホール	合同HR, 生物概論

商船学科

電気航海計器実験室	実験実習、卒業研究
信号航法実験室	実験実習、卒業研究
レーダーシミュレーター実験室	実験実習、卒業研究
気象観測実験室	実験実習、卒業研究
海図実習室	実験実習
航海学演習室	実験実習、卒業研究
製図室	設計製図S, 設計製図2
自動制御実験室	実験実習、卒業研究
材料力学実験室	実験実習、卒業研究
工業材料実験室	実験実習、卒業研究
電気工学実験室	実験実習、卒業研究
防火・救命消火講習実技演習室	実験実習、卒業研究
運用学実験室	実験実習、卒業研究
荒天航泊実験室	実験実習、卒業研究
総合航海計器室	実験実習、卒業研究
索具実験室	実験実習
天体観測室	実験実習
補機実験室	実験実習、卒業研究
内燃機関総合実験室	実験実習、卒業研究
熱流体実験室	実験実習、卒業研究
蒸気ボイラー実験室	実験実習、卒業研究
蒸気タービン実験室	実験実習、卒業研究
ガスタービン実験室	実験実習、卒業研究
材料実験室	実験実習、卒業研究

電子機械工学科

施設名	使用授業名
機械学実験室	工学実験2、卒業研究
機械工作総合実験室	工学実験1, 2、卒業研究
応用物理実験室	工作実習3, 工学実験1, 2, 卒業研究
弾塑性実験室	工学実験1、卒業研究
計算機システム実験室	工作実習3, 工学実験1, 卒業研究
電子実験室	工作実習3, 工学実験1, 卒業研究
制御システム実験室	工学実験, 工学実験2, 卒業研究
電気基礎実験室	工作実習1, 2, 3, 工学実験2, 卒業研究
NC工作機械用パートプログラミング実験室	工作実習3, 実験実習

情報工学科

計算機システム室	情報工学実験4, 卒業研究
演習セミナー室	情報工学実験2, 3, 4 卒業研究
情報処理演習室	情報処理1, 情報処理 2, 情報工学実験1, 2, 3, 4, セミナー1, 電子回路, データベー ス, 電磁気学2
演算回路実験室	情報工学実験3, 4, 卒業研究
情報伝達実験室	情報工学実験2, 3, 卒業研究
システム工学実験室	情報工学実験3, 4, 卒業研究
ロボット工学実験室	卒業研究
画像処理実験室①	情報工学実験2, 4, 卒業研究
画像処理実験室②	情報工学実験3, 4, 卒業研究

全体

情報処理センター	ドイツ語, 設計製図3, 設 計製図4, 情報処理1S, 情報処理2S, 電子計算 機, 情報処理M, 情報処 理特論, 製図・CAD, 情 報処理3, アルゴリズム, コンパイラ, 人工知能
機関工場	実験実習1S, 工学実 験SE, 工作実習1, 工 作実習2, 工作実習3, 工学実験1, 工学実験 2, 情報工学実験3
学校棧橋施設	海事工学、海事工学演 習, 操艇・通信, 実験 実習, 校内練習船実習

出典：学生課

資料 5 - 2 - - 3

複数教員・技術職員支援による授業一覧表

総合教育科

科目名	クラス
体育	3学科1年生
英語	3学科1年生
音楽・美術・書道	3学科1年生
体育	3学科2年生
体育	3学科3年生

商船学科

操艇・通信	商船学科1学年
校内練習船実習	商船学科1学年
機械工作法	商船学科2学年
実験実習1	商船学科2学年
校内練習船実習	商船学科2学年
計測工学1	商船学科3学年
通信工学	商船学科3学年
実験実習2	商船学科3学年
校内練習船実習	商船学科3学年
海運経済論	商船学科4学年Nコース
航海学実験	商船学科4学年Nコース
校内練習船実習	商船学科4学年Nコース
潤滑工学	商船学科4学年Eコース
専門英語1	商船学科4学年Eコース
工学実験	商船学科4学年Eコース
校内練習船実習	商船学科4学年Eコース
専門英語2	商船学科5学年Nコース
航海学演習	商船学科5学年Nコース
校内練習船実習	商船学科5学年Nコース
卒業研究	商船学科5学年Nコース
内燃機関学3	商船学科5学年Eコース
専門英語2	商船学科5学年Eコース
機関学演習	商船学科5学年Eコース
校内練習船実習	商船学科5学年Eコース
卒業研究	商船学科5学年Eコース

電子機械工学科

基礎機械制御工学	電子機械工学科1学年
工作実習1	電子機械工学科1学年
工作実習2	電子機械工学科2学年
機械工作法	電子機械工学科3学年
工作実習3	電子機械工学科3学年
日本事情	電子機械工学科3学年
設計製図4	電子機械工学科4学年
工学実験1	電子機械工学科4学年
電気電子機器	電子機械工学科4学年
特別講義2	電子機械工学科4学年
日本事情	電子機械工学科4学年
設計製図5	電子機械工学科5学年
工学実験2	電子機械工学科5学年
卒業研究	電子機械工学科5学年

情報工学科

情報処理1	情報工学科1学年
情報工学実験1	情報工学科1学年
情報処理2	情報工学科2学年
情報工学実験2	情報工学科2学年
情報理論	情報工学科3学年
情報処理3	情報工学科3学年
情報工学実験3	情報工学科3学年
セミナー2	情報工学科3学年
情報工学実験4	情報工学科4学年
セミナー3	情報工学科4学年
卒業研究	情報工学科5学年

出典：学生課

資料5 - 2 - - 4

平成 1 8 年 度 弓削丸 運航予定表

出8. 2. 23. 現在

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
4月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
5月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
6月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
7月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
8月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
9月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
10月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
11月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
12月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
1月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
2月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
3月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水

出典：練習船「弓削丸」

資料 5 - 2 - - 5

授業科目	英 語			担当教員	Winfield Matthew Travis、小倉 恵実、 上江 憲治		
学 科	商船学科	学 年	1 年	授業期間	通年	単位数	3
分 野	一般	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	日常のコミュニケーションに用いられる語彙を確実に身に付け、学習者の習熟度に応じて、聞く、話すという技能の向上を目指す。						
進め方	この授業は13人から15人程度の少人数クラスで実施する。簡単な会話を語彙を変えて繰り返すことによって、英語による質問、応答のしかたを身につける。また、ワークブックを用いて簡単な聞き取り書き取りを行い、その時間のテーマを確実に身につける。毎回、授業の始めには前回学習した語彙、表現の復習を行う。進度は毎時間1課を目安とする。						
学習内容	学 習 項 目 (時間数)			学習到達目標			
	ガイダンス/Personal Information (1) Family Members I (1) Family Members II (1) North America / The World (1) Everyday Activities I (1) Everyday Activities II (1) The Classroom (1) Classroom Actions (1) Countries, Nationalities, and Language (1) Types of Housing (1) The Living Room (1) The Dining Room (1) The Dining Room: A Place Setting (1) The Bedroom (1) The Kitchen (1) Kitchenware (1) The Baby's Room (1) Baby Care (1) The Bathroom (1) Personal Care Products (1) Household Cleaning and Laundry (1) Outside the Home (1) The Apartment Building (1) Housing Utilities, Services, and Repairs (1) Tools (1) Gardening Tools and Home Supplies (1) Numbers (1) Mathematics (1) Time (1) The Calendar (1) 以下教科書目次に従って実施 (60)			授業に対する心構え、必要事項を伝達し、教材・授業内容について説明する。 テキストで使用されている語彙のうち、担当教員によって指定された、各課20～30程度の語は「使える語」となるまで覚える。 コミュニケーションに必要とされる簡単な文法項目と英文の組み立て方を口頭で練習し、身につける。 簡単な質問に対して、長考せずに応答できるようになる。			
評価方法	平素の授業における小テスト、口頭練習、授業への取り組みを総合的に評価する。定期試験は実施せず、各クラス3人の授業担当者による毎時間の評価の積み重ねを学期末の評価とする。						
関連科目	英語 (村上健二) : Surfing I 英語 (丸山義照) : Zoom						
教科書等	【書名】 Word by Word Picture Dictionary Bilingual Edition, Word by Word Basic Picture Dictionary Beginning Workbook			【著者】 Steven J. Molinsky & Bill Bliss		【発行所】 (株) ピアソン・エデュケーション	
備 考	毎回の授業への参加状況が評価の重要なポイントとなるので、授業中は積極的に発言すること。質問に対しては間違えることを恐れずに大きな声で応答すること。						

出典：平成 18 年度シラバス

資料 5 - 2 - - 6

本校の環境を活かした授業改善への取り組み

平成15年度

授業名	学科・学年	取り入れたテーマ
法学	商船学科4学年、電子機械工学科・情報工学科5学年	不動産、国家領域の構成要素、法律行為
実験実習1	商船学科2学年	旧練習船花陵丸のエンジンについて
エネルギー工学	電子機械工学科5学年	海洋エネルギー利用の現状
卒業研究	電子機械工学科5学年	ソーラーボートに関する研究
計測工学	情報工学科4学年	船の制御
卒業研究	情報工学科5学年	船舶用語の音声処理
卒業研究	情報工学科5学年	越智郡島嶼部と尾道地区の時間・料金・距離の比較
卒業研究	情報工学科5学年	来島海峡中渡島の潮位データの解析
卒業研究	情報工学科5学年	弓削丸機関室の3Dシミュレータの開発
卒業研究	情報工学科5学年	学寮における欠食Webサービスの運用
卒業研究	情報工学科5学年	瀬戸内海各地域における巻貝イボニシの環境ホルモン影響

平成16年度

授業名	学科・学年	取り入れたテーマ
蒸気工学2	商船学科4学年	四阪島の煙害の克服
卒業研究	商船学科5学年	燧灘東部の残差流観測
卒業研究	電子機械工学科・商船学科5学年	弓削島に降る酸性雨について
特別講義4	電子機械工学科5学年	地球温暖化問題、オゾン層破壊問題、砂漠化、森林の疲弊、代替エネルギー問題
数値解析	情報工学科4学年	練習船弓削丸の排水量計算
卒業研究	情報工学科5学年	船体付着生物フジツボの生態と付着防止基盤に関する研究
卒業研究	情報工学科5学年	船舶用語100単語の音声処理
卒業研究	情報工学科5学年	弓削島の樹木年輪と気候変動の相関
卒業研究	情報工学科5学年	白砂寮LANの有効活用

平成17年度

授業名	学科・学年	取り入れたテーマ
卒業研究	商船学科5学年	燧灘における底部冷水の起源
制御工学特論	情報工学科5学年	船のファジィ制御
卒業研究	情報工学科5学年	女性音声の船舶用語の音声処理
卒業研究	情報工学科5学年	自然浄化材を使用した水浄化に関する基礎実験
卒業研究	情報工学科5学年	せとうち交流館のメディア管理
国語	商船・電子機械工学・情報工学科2学年	「平家物語の世界」
応用物理2および卒業研究	商船・電子機械工学科5学年	弓削島に降る酸性雨について
卒業研究	情報工学科5学年	高齢者・障害者の海上移動に関する調査
物理学特論	専攻科1学年	環境放射線の測定
環境化学概論	専攻科1学年	海水中に含まれるイオンの定性分析
環境化学概論	専攻科1学年	地下水の汚染状況の調査

出典：教務委員会

資料5 - 2 - - 7

航海実習・工場見学実施状況一覧(平成17年度)

クラス	期間	訪問地
商船学科1学年	1月17日～19日	坂出市
商船学科2学年A	6月28日～30日	高松市・玉野市
商船学科2学年B	7月5日～7日	高松市・玉野市
商船学科3学年A	10月11日～13日	神戸市
商船学科3学年B	10月18日～20日	神戸市
商船学科4学年機関コース	5月11日～12日	高松市
商船学科4学年航海コース	5月18日～19日	高松市
商船学科4学年機関コース	11月8日～10日	神戸市
商船学科4学年航海コース	11月15日～17日	神戸市
商船学科5学年	6月13日～16日	大分市・門司市
電子機械工学科1学年	7月12日	愛媛県西条市
電子機械工学科2学年	4月27日～28日	広島市
電子機械工学科3学年	10月25日～27日	広島県呉市
電子機械工学科5学年	8月26日～28日	広島県呉市
情報工学科2学年	4月13日～14日	広島県呉市
情報工学科4学年	9月6日～8日	神戸市・大阪市

出典：学生課

資料 5 - 2 - - 8

平成 1 7 年度

商船学科第三学年航海実習

(弓削～神戸～弓削)

A班：10月11日(火)～13日(木)

B班：10月18日(火)～20日(木)

指導教員

豊田・永本

松永・渡部

金子・辻・岩崎

山下治・中根

堀・岩堀

インストラクター・生活指導

A班：湯田・野々山・多田勝

B班：湯田・野々山・石橋



緊急連絡先

☆弓削丸船舶電話

090-302-25190

☆実習係留場(昼)

0897-77-3007

☆学生係(昼)

0897-77-4621

☆学校警備員(夜)

090-3022-5190

商船学科第3学年・氏名 _____

出典：商船学科

基礎学力向上のための勉強支援サービス

低学年生の皆さんへ



“勉強が分からなくて困っている人、基礎科目について相談窓口を設けました。気楽に相談に来てください”

“基礎・基本の勉強が将来のために大事です。しっかりと身につけましょう”

“少しでも理解ができると一歩前進です。興味も沸きます。頑張りましょう”

“指定以外の教官のところへも積極的に行って、わからないことを相談する勇気を持ちましょう”

- ① 英語・数学・国語を中心に、基礎学習のお手伝いをします。
- ② 教科書・プリントなど聞きたいものを持参して、相談してください。
- ③ 担当者・指導時間は表のとおりです。
- ④ 出張・会議などで、お休みすることがあります。
(指導場所に貼り紙をしてお伝えします)



出典：教務委員会

平成 18 年度

基礎学力向上のための勉強支援サービス (担当教官割振り表)

	月	火	水	木	金
朝 8:10-8:40	上江	葛目	塚本	田房	村上知
昼 12:30-13:00	堀口	二村	長尾	瀬濤	藤井清
夕 16:10-16:40	神谷	浜中	友田	なし (大掃除)	藤本

◇ 事前連絡は、いりません。直接、各先生の研究室を訪ねてください。

◇ 細かい内容や時間の変更については、直接その時間の担当の先生と話してください。

◇ 出張・会議などにより、不在の場合もあります。

出典：教務委員会

資料 5 - 2 - - 10

平成 17 年度後期中間試験発表中の補講授業実施一覧表

	11/28 (月)		11/29 (火)		11/30 (水)		12/1 (木)		12/2 (金)	
	8 限目		8 限目		8 限目		8 限目		8 限目	
S 1	機関学概論	松永							保健 (アセ ンポリホー ル)	上岡
M 1					基礎機械制 御工学	田頭				
I 1	情報処理 1	藤井								
S 2	船舶工学 1	湯田			電子計算機 2	益崎				
M 2										
I 2										
S 3	制御工学 1	友田			船舶工学 2	湯田		数学	水力学	湯田
M 3					材料力学 1	友田			計測工学 2	大石
I 3	情報理論	徳田								
S 4 N								専門英語	湯田	高岡
S 4 E					内燃機関学 2	石橋	熱力学 2	村上 (知)		
M 4	材料力学 2	高尾			機構学	中山		表面工学	藤本	
I 4	×	×	×	×	×	×	補講	補講	高木	高木
M 5	×	×					応用物理 2		電子回路特 論	加藤
I 5	×	×								

* 空白部分の補講がある場合は後日連絡します
 の補講は希望者対象

出典：学生課

観点 5 - 2 - 教育課程の編成に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

本校のシラバスは、学科別に定められた教育課程に沿って科目別に作成され、学年ごとに一般科目と専門科目に分類され、まとめられている。

シラバスの作成に当たっては、全教員に作成要領(資料 5 - 2 - - 1)を配布し、記載内容の形式を統一している。

具体的な様式は、資料 5 - 2 - - 2 のようになっており、学習目標を掲げ、授業の進め方を示し、各時間の学習項目とその学習到達目標を明記し、成績の評価方法を具体的に示して学生の履修に役立つように配慮している。商船学科では、第 1 種船舶職員養成施設に関連する授業科目内容の該当項目を明示している(資料 5 - 2 - - 3)。

シラバスは、本校ホームページに公開され(資料 5 - 2 - - 4)、全学生にはクラスごとに抜き刷りを配布している。

学生がシラバスを活用し自主学習を推進するよう指導を心がけているが、十分とは言えない。担当教員は各期の初講時にガイダンスを行い、授業目的・内容及び評価方法についてシラバスを利用して説明を行うように努めている。

平成 17 年度から教育内容検討委員会を設置し、学生による授業評価アンケートに基づき、シラバスに記載してある講義の到達目標を配慮しながら進度が速くならないように工夫するなどの授業改善を進めている(資料 6 - 1 - - 4)。また、各学科のシラバス担当教員によって、シラバスの記載内容について点検・改善を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

本校のシラバスは、教育課程の編成に沿って配置された科目ごとに作成され、記載内容の形式が統一されている。シラバスの抜き刷りは全学生に配布されており、本校ホームページに公開されている。また、教育内容検討委員会で、シラバスに記載してある講義の到達目標を配慮しながら進度が速くならないように工夫するなどの授業改善が進められている。学生の利用度は必ずしも十分であるとは言えないが、記載内容についても点検し改善を重ねており、各教員がその活用促進に努めている。

以上のことから、教育課程の編成に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されている。

資料 5 - 2 - - 1

平成18年度シラバス作成要領について

1. 記入に当たっては、できるだけ学生が理解しやすいような平易な表現を用いてください。
2. 作成要領（サンプルを参考に記入してください）
 - ①授業科目：授業科目名を記載してください
 - ②担当教員：教員名を記載してください。多数の教員で担当する場合は代表教員の氏名を記載し、その他の教員名は学習内容の欄の中に記載してください（例えば、卒業研究、工学実験、工作実習などにおいて）
 - ③学 科：商船学科、電子機械工学科、情報工学科 などと記載してください
 - ④学 年：1年、2年、3年、4年、5年 などと記載してください
 - ⑤授業期間：通年、前期、後期 などと記載してください
 - ⑥単 位 数：1、2、3、4、5 などと記載してください
 - ⑦分 野：一般、専門 などと記載してください
 - ⑧授業形態：講義、実験、実習、演習、実技 などと記載してください
 - ⑨履修区分：必修、選択 などと記載してください
 - ⑩学習目標：学習の到達目標や概要を記述してください
 - ⑪進め方：授業の方法を記述してください
 - ⑫学習内容：学習内容の項目と時間数を記載してください。学習項目欄の最初に学習内容のガイダンスを必ず入れること。30単位時間の授業をもって1単位とする。（定期試験は除く）
 - ⑬評価方法：試験、レポート、小テスト、出席状況、授業態度などの成績評価方法を記載してください（出来るだけ具体的に数値で表現してください）
 - ⑭関連科目：本授業科目と関連性のある授業科目名を記載してください
 - ⑮教科書等：教科書、参考書など、書名・著者・発行所の順に各枠内に記載してください
 - ⑯備 考：到達目標に達しない場合の学生への対応（補習、補講など）、その他留意事項などを記述してください
3. 文章は、**Word** か **Excel** を使用し、字のスタイルはMS明朝で作成していただくようお願いします
4. ファイル名は**H18シラバス（クラス 授業科目名 担当教員名）**のスタイルで必ず**1ページ**に収まるようお願いします
5. 学科等の代表者への提出期限は**1月31日（火 utou）**とさせていただきます
6. 学科等の代表者がまとめて、フラッシュメモリで教務係に提出していただくようお願いします（学科等の代表者へは平成17年度の学科等分のシラバスをフラッシュメモリに入れてお渡します。配付・取りまとめ方よろしくお願いたします）

出典：平成18年度シラバス

資料 5 - 2 - - 2

授業科目	*****			担当教員	*****		
学 科	電子機械工学科	学 年	4 年	授業期間	通年	単位数	2
分 野	専門	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	主としてフィードバック制御系の基本的な考え方を古典制御理論の立場から明確にして、制御系の解析を中心にして制御工学の概要を学習する。						
進め方	座学の講義を基本とする。理論の理解に手助けとなるよう、項目毎に練習問題を解き、単元毎に小テストを実施する。						
学習内容	学 習 項 目		(時間数)	学習到達目標			
	<ul style="list-style-type: none"> ・○○○ガイダンス (1) ・制御工学の概念 (2) ・同上 (基本構成) (2) ・基礎数学Ⅰ (ラプラス変換) (4) ・逆ラプラス変換 (2) ・小テスト (ラプラス変換・逆ラプラス変換) (1) ・制御系の表現 (伝達関数の概念) (2) ・・・・前期中間試験・・・ (1) ・制御系の基本的要素 (比例要素、積分要素、微分要素) (2) ・同上 (一次遅れ要素、二次遅れ要素) (2) ・ブロック線図 (記号、書き方等) とその概念 (2) ・ブロック線図の簡略化 (2) ・小テスト (伝達関数、基本的要素、ブロック線図) (1) ・過渡応答特性の概念 (2) ・基本的要素の過渡応答特性 (比例要素、積分要素) (2) ・・・・前期期末試験・・・ (1) ・基本的要素の過渡応答特性 (微分要素、一時遅れ要素) (3) ・同上 (二次遅れ要素) (2) ・同上 (まとめ) (2) ・小テスト (基本的要素の過渡応答特性) (1) ・周波数応答の概念 (2) ・基礎数学Ⅱ (複素数の概念) (2) ・周波数伝達関数 (ベクトル軌跡、ボード線図) (2) ・ベクトル軌跡 (比例要素、積分要素、微分要素) (3) ・・・・後期中間試験・・・ (1) ・ベクトル軌跡 (一次遅れ要素、二次遅れ要素) (2) ・小テスト (基本要素の周波数伝達関数とベクトル軌跡等) (2) ・ボード線図 (比例要素、積分要素) (2) ・ボード線図 (微分要素、一次遅れ要素) (2) ・ボード線図 (二次遅れ要素) (2) ・小テスト (基本要素のボード線図) (1) ・実制御システムのボード線図 (2) ・演習問題 (ベクトル軌跡、ボード線図等) (2) ・・・・後期期末試験・・・ (1) 		(時間数)	<ul style="list-style-type: none"> 目標値、制御量による制御方式を知る。 制御システムの信号の流れを理解出来る。 制御工学で扱われる公式だけについて、機械的な変換公式を覚え、計算が出来るようになる。 制御工学で代表的な5個の伝達関数の特徴と働きが分かり、模擬的な回路で実現出来ることを知る。 複雑な制御システムが一個の伝達関数で置き換えられることを知る。 未知の物体の中身を知るための方法について知り、その方法は人間に対しても適用出来ることがわかる。 制御で使用される主要な伝達関数が持つ独特の性質が分かり、自然界での現象と対比して伝達関数の特徴が把握できる。 周波数応答が人間の日常生活でどのように使われているかが分かり、制御工学の考え方を生活に利用できるようになる。 主要な伝達関数の周波数領域での特性を知り、各伝達関数において図から入力振幅と周波数を与えれば、出力が即座に分かるようになる。 弓削丸の操舵システムを簡略して説明するので、ブリッジに上がったときに操舵の仕組みが良く分かるようになる。 			
評価方法	各学期の中間成績は該当の試験の成績である。 学年末成績は1年間の定期試験等8割と、レポート、小テスト等2割を含めた総合成績である。						
関連科目							
教科書等	【書名】 自動制御 自動制御理論		【著者】 中野他 樋口龍雄		【発行所】 森北出版 森北出版		
備考							

出典：シラバス記入例

資料 5 - 2 - - 3

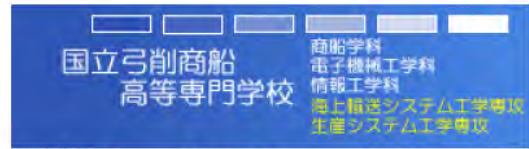
授業科目	海事法規 1			担当教官	中家 修		
学 科	商船学科	学 年	2年	授業期間	後期	単位数	1
分 野	専門	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	海事に関する法規のうち、主要な法の目的、内容、適用等を理解する						
進め方	座学の講義を基本とする。理解の手助けとなるよう、海技試験問題を例示する。						
学習内容	学 習 項 目 (時間数)			学習到達目標			
	海事法規 ガイダンス (1) 海事法規概要 (2) 船舶法及びこれに基づく命令 (10) 法の目的、船舶の概念・・・・・・・・・・ 2 船舶法が適用されない船舶・・・・・・・・ 2 日本船舶の意義、権利、義務・・・・・・ 3 船籍港、名称・・・・・・・・・・・・・・ 2 船舶のトン数・・・・・・・・・・・・・・ 3 船舶の表示、船舶国籍証書・・・・・・・・ 2 船員法及びこれに基づく命令 (I) (7) 法の目的、基本原則、概要・・・・・・・・ 2 ・・・・・・・・中間テスト・・・・・・・・・・ 1 船長の職務と権限、船内規律・・・・・・ 1 雇入契約、労働条件・・・・・・・・・・・・ 1 年少船員、女子船員の労働保護・・・・ 1 災害補償、就業規則、監督機関・・・・ 3 船員の申告、外国船舶の監督・・・・・・ 1 国際条約との関係・・・・・・・・・・・・ 1 船舶職員法及び小型船舶操縦者法 及びこれに基づく命令 (4) 海技従事者の免許、資格、履歴限定・・ 2 免許の欠格事由、免状の有効期間・・・・ 1 免許の失効、取消し、行政処分・・・・ 1 海技免状の取り扱い・・・・・・・・・・・・ 1 乗組基準・・・・・・・・・・・・・・ 2 国際条約との関係・・・・・・・・・・・・ 1 海難審判法及びこれに基づく命令 (2) 目的、適用、概要 水先法及びこれに基づく命令 (2) 目的、適用、概要 関税法及びこれに基づく命令 (2) 目的、適用、概要			海事に関する法の全体像を把握する 船舶法の概要、適用を理解する (養成施設 N船舶 1時間 E海法 1時間) (養成施設 N船舶 1時間 E海法 1時間) (養成施設 船舶 1時間) 船員法の構成、沿革、意義を理解する (養成施設 N船員 1時間 E海法 1時間) (養成施設 船員 1時間) (養成施設 船員 0.5時間) (養成施設 船員 0.5時間) (養成施設 E海法 1時間) 法の目的、適用を理解 (養成施設 E海法 1時間) (養成施設 E海法 1時間) (養成施設 E海法 1時間) 法の目的、適用を理解			
養成施設 引当て科目 & 単位	航海コース 船員法 0.1 単位 船舶法、トン測法、船舶安全法 0.1 単位			機関コース 海事国際法 0.3 単位			
免許講習 引当て時間							
評価方法	定期試験 70%、レポート等 20%、授業への取り組み 10%として評価する。						
関連科目	海事法規 2、 海事法規 3						
教科書等	【書名】 海事法		【著者】 海事法研究会 編		【発行所】 海文堂		
備 考	他人に不快感を与えない服装で出席すること。						

出典：平成 18 年度シラバス

資料 5 - 2 - - 4

弓削商船高等専門学校 - XFセクション

1/1 ページ



[HOME](#)

[ニュース](#)

[お問い合わせ](#)

[リンク集](#)

[サイトマップ](#)

弓削商船高等専門学校 ◆

☐ メインメニュー

- [ホーム](#)
- [ニュース](#)
- [学校案内](#)
- [本校の環境への取り組み](#)
- [入試情報・アドミッションポリシー](#)
- [シラバス](#)
- [学事予定表](#)
- [FAQ](#)
- [ダウンロード](#)
- [リンク集](#)
- [本校へのアクセス](#)
- [お問い合わせ](#)

☐ 学内WWWサーバ

- [情報処理教育センター](#)
- [図書館](#)
- [白砂寮](#)
- [同窓会](#)
- [WebMail](#)
- [MyWeb\(学内ポータル\)](#)
- [文書公開サーバ](#)

☐ 学生向け情報

- [学生連絡](#)
- [授業変更](#)

☐ 検索

[高度な検索](#)

[ホーム](#) » [シラバス\(H18\)](#)

シラバスとは、「授業科目名、担当教員名、講義目的、講義概要、毎回の授業内、成績評価法、教科書や参考文献、履修する上で必要な要件などを詳細に示した授業計画」と定義づけられます。

このシラバスの目的は、

- ① 担当教員が授業計画を明確にする。
- ② 学生の履修の指針にする。
- ③ 教室外における準備学習の指示をする。
- ④ 関連科目担当教員のための参考資料に供する

などであります。このほかに、

- ⑤ 編入先の大学が、編入生の既修得科目の単位を認定するための判断資料
- ⑥ 工業高校、普通高校から高専への編入生のための参考資料

にもなります。さらに、近い将来

- ⑦ 学校あるいは学科全体のアクレディテーション(認定)に際しての評価資料として重要性を増していきます。

本シラバスの作成に対しては、高松工業高等専門学校を代表校とする四国地区6高専が平成14年度に高等専門学校教育方法改善充実費の配分を受け、「教育方法改善共同プロジェクト」を組んで、「高専教育の向上に向けて」のテーマの下で、そのあり方を2年間にわたり検討しています。その教育方法改善策の一環として「シラバスの共通化」が提言されております。本校はその統一様式をいち早く取り入れ、前教員の協力の下、新たなシラバスを編集しました。

学生及び教員双方で、このシラバス集を授業および学習効果の向上に十分に活用されることを期待します。

[情報工学科\(H18\)\(5件\)](#)

[電子機械工学科\(H18\)\(5件\)](#)

[商船学科\(H18\)\(7件\)](#)

[\[戻る | カテゴリの一覧に戻る \]](#)

Copyright (c) Y.N.M.C.T 2005 . All rights reserved.
This page is Link free

出典：本校ホームページ

観点 5 - 2 - 創造性を育む教育方法（PBL など）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

準学士課程では、各学科において、講義・演習・実習科目を履修した上で、各教員の個別指導の下で卒業研究を行わせることによって、総合的に創造力を育てている（資料 5 - 2 - 1（1）～（3））。特に、最先端の技術である e-操船支援システムについては、担当教員を中心に連携を図りながら開発の研究を行い、教育との一体化を図っている。

全国レベルで優秀な成績を収めているプログラミングコンテスト（資料 5 - 4 - 8）については、単位認定を行っており（資料 5 - 2 - 2）、その指導成果は、「情報処理 3」及び「プログラミング特論」の授業においてフィードバックし（資料 5 - 2 - 3）、学生が自ら考え、創造し、柔軟に対応できる能力を養っている。各学科とも 1 学年から情報処理関係の授業を積極的に行っており、対外的にも評価される創造力の育成を図っている（資料 5 - 2 - 4）。また、平成 17 年度から創造性教育ワーキンググループのメンバーが中心になって始めた「課題学習」では、計画・実行・まとめ・報告という一連の活動を通して、主に商船学科の学生を対象に独自の創造的思考を育む試みを行っている（資料 5 - 2 - 5）。文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）に採択されている「創造性豊かな実践的技術者養成コースの開発」プロジェクト（高専 IT 教育コンソーシアム加盟校 12 高専）では、本校は中核的な役割を担い、インターネット上の膨大な教育資源を活用し、知的好奇心の高揚をめざした e-Learning コースの開発に取り組んでおり（資料 5 - 2 - 6）、今年度中には具体的な教材を作成する予定である。

インターンシップは、電子機械工学科及び情報工学科の 4 学年の夏休み期間中に「夏季実習」として実施し（資料 5 - 2 - 7）、多くの学生が履修している（資料 5 - 2 - 8）。企業等における実社会での実務を体験し、実践力の育成を図っている。実習終了後は、実習報告書の提出を義務付け（資料 5 - 2 - 9）、校内での実習報告会を行い、企業等による実習証明書（資料 5 - 2 - 10）を参考に、単位認定を行っている。なお、商船学科においては、1 年間の乗船実習とインターンシップとの関連や位置付けについて検討している。

（分析結果とその根拠理由）

本校の準学士課程では、各学科において、講義・演習・実習科目を履修した上で卒業研究を行わせることによって、総合的に創造性を育む教育が行われている。情報機器を活用した授業では、対外的に評価される創造力育成が図られている。創造性教育ワーキンググループによる試行や、e-Learning 開発プロジェクト（現代 GP）の取り組みが進められている。また、実社会における実践力の育成を目的に、企業と連携を取りながら、インターンシップが活用されている。

資料 5 - 2 - - 1 - (1)

平成 1 7 年度 商船学科 卒業研究発表プログラム

発表日：平成 1 7 年 9 月 1 2 日 (月) 場所：アセンブリホール

頁	発表時間	発表テーマ	卒研学生	指導教官	進行計時
	08:55 ~ 09:00	開会の言葉 (学科長)			
1	09:00 ~ 09:15	水エマルジョン燃料の蒸発特性	■■■■	石橋洋二 秋葉貞洋	中家修 寺町拓
2	09:15 ~ 09:30	含酸素燃料の sooting 特性	■■■■	石橋洋二 秋葉貞洋	中家修 寺町拓
3	09:30 ~ 09:45	船用ガスタービンに関する調査研究 (その 2)	■■■■	石橋洋二 秋葉貞洋	児玉敬一 中塚敦史
4	09:45 ~ 10:00	地球温暖化への対策について	■■■■	多田勝 渡部和美	児玉敬一 中塚敦史
5	10:00 ~ 10:15	燃料電池の開発に関する研究	■■■■	多田勝 渡部和美	松下邦幸 高田寛
	10:15 ~ 10:25	休憩			
6	10:25 ~ 10:40	来島海峡における航法と海難の関係	■■■■	中家修 野々山和宏	松下邦幸 高田寛
7	10:40 ~ 10:55	端島における海事史の位置付けと活用	■■■■	多田光男	多田勝 梶原弥生
8	10:55 ~ 11:10	ソーラーボートに関する研究	■■■■	松下邦幸	多田勝 梶原弥生
9	11:10 ~ 11:25	船舶の推進器における海洋生物の付着防 止について	■■■■	松下邦幸	多田勝 梶原弥生
10	11:25 ~ 11:40	PNIPA ゲルのゲル化メカニズム	■■■■	村上知弘	中哲夫 山口照実
11	11:40 ~ 11:55	リューザブル吸水シートの乾燥過程と シート材料	■■■■	村上知弘	中哲夫 山口照実
	11:55 ~ 13:00	昼食			

出典：商船学科

12	13:00 ~ 13:15	漂流実験		豊田利彦 永本和久	多田光男 寺島裕之
13	13:15 ~ 13:30	弓削商船高等専門学校におけるエネルギー収支		松永直也	多田光男 寺島裕之
14	13:30 ~ 13:45	ペロブスカイト型遷移金属酸化物を用いた光磁気機能材料の開発		柳沢修実	村上知弘 赤瀬渉
15	13:45 ~ 14:00	燧灘における底部冷水の起源について		二村彰	村上知弘 赤瀬渉
	14:00 ~ 14:05	休憩			
16	14:05 ~ 14:20	操船シミュレーターによる訓練プログラムの作成		高岡俊輔	石橋洋二 米倉正和
17	14:20 ~ 14:35	e-操船支援システムの開発 I		高岡俊輔	石橋洋二 米倉正和
18	14:35 ~ 14:50	和船の研究 — 西洋型帆船との比較について —		高岡俊輔	松永直也 中谷和明
19	14:50 ~ 15:05	FRP廃船の処理システムの開発		児玉敬一	松永直也 中谷和明
	15:05 ~ 15:210	休憩			
20	15:10 ~ 15:25	気相反応によるダイヤモンドの作成		友田進 木原米文	高岡俊輔 平山悠太
21	15:25 ~ 15:40	二枚舵に働く流体力に関する研究 — 様流中模型実験による検討 —		湯田紀男	高岡俊輔 平山悠太
22	15:40 ~ 15:55	高張力鋼板の引張り曲げ破断限界		中哲夫	高岡俊輔 平山悠太
	15:55 ~ 16:00	総評 (学科長)			

出典：商船学科

資料5 - 2 - - 1 - (2)

平成17年度 弓削商船高等専門学校 電子機械工学科
卒業研究発表プログラム

	発表時間	卒業研究題目	研究室
	8:50-9:00	学科長挨拶	
1	9:00-9:15	焼結金属の被削性-工具寿命に及ぼす樹脂含浸の影響- 柏原康利、中川裕太郎	大石
2	9:15-9:30	汎用旋盤を利用した切削試験装置の作成 石井良一、横山雅浩	
3	9:30-9:45	銀と脆性材料のラッピングに関する研究 小田祐揮、田窪晃奈	藤本
4	9:45-9:55	弾性体の微小変位特性に関する研究 村上弘治	
5	10:05-10:15	放電加工機の最適加工条件に関する研究 村上由季	
6	10:15-10:35	多孔体の損傷分布と弾塑性変形に関する研究 信岡和志、村上圭亮、シャフィク	中山
7	10:35-10:50	塑性加工における弾塑性体の変形解析 寺田正範、村上信太郎	
8	10:50-11:05	弓削周辺海域の沿岸工事による水深変化の調査研究 小林龍二、原山晋也	益崎
9	11:15-11:25	船用WEBサーバに関する研究 上園哲也	
10	11:25-11:40	弓削丸のコンピュータ制御 天野正章、左山裕太	
11	11:40-12:00	顔画像からの感情認識システムの試作 岡野隼也、村上孔介、村上竜一郎	加藤
12	12:00-12:15	マグネシウム合金AZ31Mの疲労き裂発生挙動と切欠感度 川本浩生、小村太郎	高尾
13	13:20-13:30	金属の塑性変形に及ぼす超音波振動荷重の影響 ファイルズ	
14	13:30-13:45	グリーンコンポジットの製作及び強度評価 木下つる代、白澤絵里加	
15	13:45-14:00	ものづくりにおける技能とその機械工学的評価 伊藤宗介、中野恵介、野田達也	鶴
16	14:00-14:20	ものづくりとメカトロニクス的評価について 金本健児、加納靖将	
17	14:30-14:50	赤外線通信に関する研究 英 達夫、藤川悠貴	瀬溝
18	14:50-15:05	e-操船システムに関する研究 尾後成美、前田和也、道久隆幸	
19	15:05-15:20	XP手法を用いたプログラミング学習支援システムの開発 箱崎正洋、バトバータル	長尾
20	15:20-15:30	マグネシウム合金板のFLDに及ぼす温度と速度と粒径の影響および解析的 西岡雄大	中
21	15:40-15:50	高張力鋼板の曲げ成形性 砂川隆宣	
22	15:50-16:05	程度副詞を用いた指示による上肢の運動特性 柏原康志、大西克孝	勘久保
23	16:05-16:20	手先指示に協調する知能機械に関する研究 岡田剛法、小林賢也	
24	16:20-16:40	電動機の特 安藤優介、益濱 弘、濱口 翔	田頭
	16:40-16:50	講評	

出典：電子機械工学科

資料5 - 2 - - 1 - (3)

平成17年度 情報工学科卒業研究発表プログラム

日時：平成18年 3月 1日(水曜日) 8:40より

場所：弓削商船高等専門学校 アセンブリホール

講演 番号	発表者 (出身中学)	研究テーマ	開始 時間
1		自然浄化材を用いた学寮泉水の水浄化	8:45
2		四国周辺におけるイボニシの環境ホルモン影響調査	9:01
3		ムラサキイガイの生息分布調査	9:17
4		小型自律無人ソーラーボートの製作(船体製作)	9:30
5		小型自律無人ソーラーボートの製作(動力系製作)	9:46
6		小型自律無人ソーラーボートの製作(プログラム製作)	10:02
		<休憩 10:15~10:20>	
7		因島における巨木調査	10:20
8		人口統計からみた上島町に関する調査	10:36
9		弓削商船高専のバリアフリー化に関する研究	10:49
10		3次元入力デバイスの基礎的研究	11:02
		<休憩 11:20~11:25>	
11		PICを用いた温度制御実験装置の作成	11:25
12		広島市内国道2号線における信号制御のデータ解析	11:41
13		広島市内国道2号線における渋滞長制御システムの開発	11:57
		<昼休憩 12:12~13:20>	
14		高機能エディタの研究	13:20
15		分散処理による負荷の分散法に関する研究	13:33
16		プログラミング教育支援システムの作成	13:46
17		双子型SOMを用いた骨導音声の音質改善 ～女性音声を用いた実験～	14:05
18		MATLABIによるSOMの視覚化に関する研究	14:21
		<休憩 14:36~14:41>	
19		カメラ2台による因子分解法に基づく 三次元計測システムの構築	14:41
20		せとうち交流館の情報コミュニティに関する研究 ーWebによる情報コミュニティシステムの構築ー	14:54
21		せとうち交流館の情報コミュニティに関する研究 ーメディア統合管理インターフェースの構築ー	15:07
22		XP手法を用いたプログラミング学習支援システムの開発	15:20
23		ベアプログラミングによるAIゲーム教材の開発と評価	15:36
24		バーチャルリアリティを用いた 犬の訓練体験システムの開発	15:49

出典：情報工学科

資料 5 - 2 - - 2

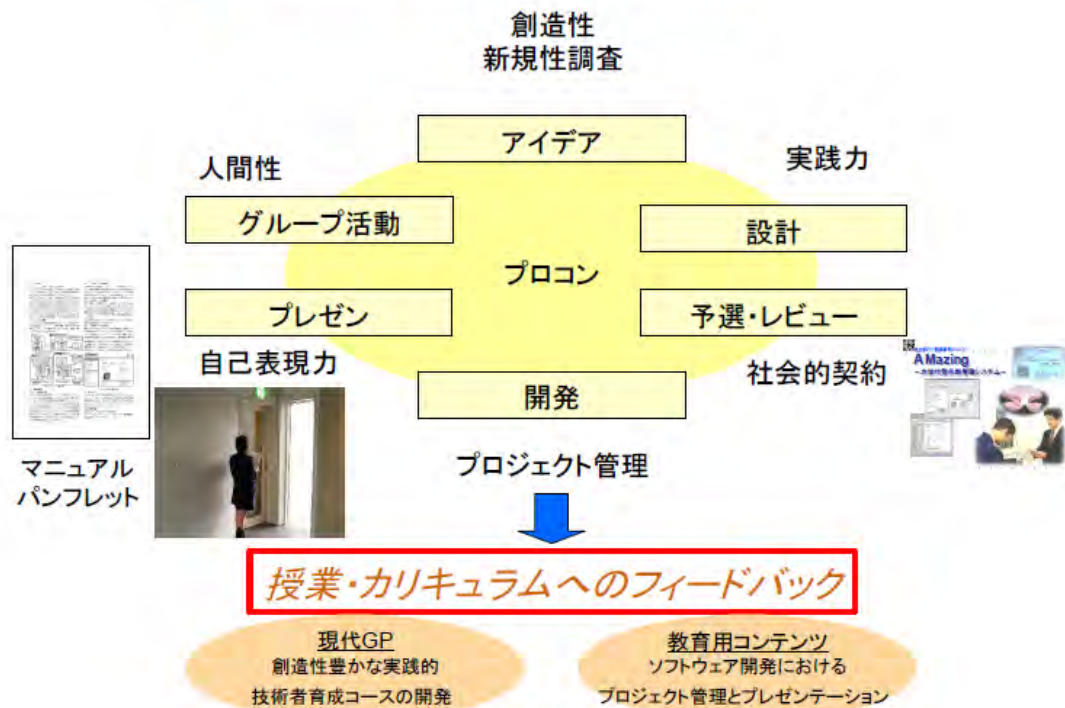
プログラミングコンテスト単位認定者数

区分	情報工学科
平成 14 年度	3
平成 15 年度	4
平成 16 年度	5
平成 17 年度	3

出典：学生課

資料 5 - 2 - - 3

授業・カリキュラムへのフィードバック



プロコンの教育へのフィードバック

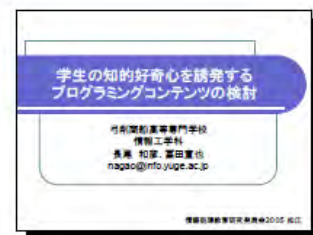
❖ 情報処理3(3年)

❖ 前期

- ・ CodeRally 学生の興味を引くテーマ

❖ 後期

- ・ ペアプログラミング
- ・ 小規模なプログラム開発



❖ プログラム特論(4年)

- ❖ グループ(ペア)によるプロジェクト開発
- ❖ プレゼンテーション

出典：第 41 回教員研究懇談会

資料 5 - 2 - - 4

授業科目	情報工学実験 2			担当教員	情報工学科教員		
学 科	情報工学科	学 年	2年	授業期間	通年	単位数	3
分 野	専門	授業形態	実験	履修区分	必修		
学習目標	座学で学習した技術を実験を通して確認すると共に、体験的に問題解決の手法を身につけさせるとともに、それを更に発展させて新たな問題を見つけ出す能力を養う。						
進め方	各テーマ毎に少人数グループで、通年10テーマの実験を全学生が行い各テーマ毎にレポートを提出させる。						
学習内容	学 習 項 目 (時間数)			学習到達目標			
	ガイダンス (3) 前期実験 葛目 ; 電磁気学基礎実験 (9) 伊藤 ; 電子部品の信頼性評価 (9) 田房 ; ホームページの作成 (9) 藤井 ; データベースの作成 1 (9) 後期実験 塚本 ; ベクトルデータとラスタデータ (9) 伊藤 ; 電圧・電流・抵抗の測定 (9) 田房 ; 合成画像によるカレンダーの作成 (9) 藤井 ; データベースの作成 2 (9) 課題整理, プレゼンテーション (15)			各自が実験内容を整理しレポートを期限までに提出する。			
評価方法	実験中の態度、レポートにより成績評価する。						
関連科目							
教科書等	【書名】 情報工学実験 2 手引き書			【著者】		【発行所】	
備 考	無断欠席者、レポート未提出者は成績を評価しない。						

出典：平成 18 年度シラバス

H17. 11. 12 愛媛新聞

幡さん・宮原さん(弓削商船高専2年)強力タッグ

HP作成やったね入賞



IT甲子園(国民文化祭・ふくい)

ホームページ(HP)の企画、構成、デザインなどを高校生、高専生が競う「IT甲子園」の審査発表がこのほど福井県勝山市であり、弓削商船高専二年、宮原亜希さん、幡三沙都さんのチームが、勝山市教育委員会賞に入賞した。

IT甲子園で入賞した弓削商船高専の幡三沙都さん(右)、宮原亜希さん

IT甲子園は八月三日から七日まで、予選を通過した全国の十チームが勝山市で対戦。参加者は、初日に与えられたテーマ「平泉寺の自然と歴史」に沿って、取材とHP作成に取り組み、その後審査が行われていた。

宮原さんと幡さんが作ったHPには、先生、アキ、ミサトの三人が登場。先生が、アキとミサトに、勝山市の平泉寺の自然と歴史をレポートさせる、という仕立てで構成されている。

テーマが発表された後二人は、ほかのチームが作っていたHPを見て圧倒されたが、頑張って案をひねり出した。二人は「受賞はあきらめなかったけど、入ってよかった」と喜んでる。

IT甲子園は、「国民文化祭・ふくい2005」の環。高校生、高専生一、二年生が二人一組のチームでHPを作り、競い合った。

出典：平成 17 年 11 月 12 日付け新聞記事

資料5 - 2 - - 5

表 1. 創造性教育の試行計画 (1)「課題学習」

1. テーマ	課題学習：地域の自然と環境を題材にした創造性教育	
2. 狙い	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でテーマを選択して、計画・実行・まとめ・報告という一通りの研究（調査）体験を通じて、興味を持ち、考え、行動することの基本を修得させる。 ・今年度は試行ということで、1クラスを対象とし、学生の反応、指導のあり方を確認する。 	
3. 対象学生と編成	<ul style="list-style-type: none"> ・対象：S1 全員 ・編成：1名または3名までのグループ（グループの場合はまとめ者を決める） 	
4. 学習時間	HR と 課外時間	
5. 担当教員と支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員：ニ村先生（クラス担任）、石橋 ・支援教員：創造性教育 WG メンバー（校長、副校長をのぞく）が学生の窓口になり指導する。また、必要に応じて適任の先生に窓口になってもらう。 	
6. 学習の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提示 ・グループ編成、テーマ決定 ・調査計画書作成（調査の具体的内容、調査方法、スケジュール、その他必要に応じて支援教員を決める。） ・課題調査 ・まとめ（パネル形式で A3 1 枚、写真やパソコンによる編集を支援） ・発表会（全員、1 題 5 分程度、OHP または P.P） 	
7. 作業場所と主な準備品	<ul style="list-style-type: none"> ・教室を主とするが、PC 利用やパネル製作は学生の希望あれば教員研究室で指導する。 ・デジカメ 3 台、プリンター 1 台（専用）、A3 ケント紙、ポスターカラーなど 	
8. スケジュール	(1) 課題提示	課題提示し、動機づけを行う。(6/23 予定)
	(2) チーム編成とテーマ探し	7/7～7/14（チームは既に勉強チーム（11ヶ）があるのでそれに従う。）
	(3) テーマ選定	7/14（決まったところから提出）
	(4) 調査計画書作成	～9/8（提出）
	(5) 調査	9月～10月中旬
	(6) まとめ	10月末
	(7) 発表会	11月のHR目標（2時間）
	(8) 評価	学生とWG教員による投票（優秀作品）

出典：創造性教育実施報告書

表 2. 創造性教育の試行計画 (2) 「ラジコン船の製作」

1.テーマ	ラジコン船の製作			
2.狙い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生自身が構想、計画したものを目標期日内に、形あるものにまとめ上げさせ、ものづくりに対する興味や楽しさを体験させる。 ・ 試行において、課題の内容、指導のありかたを確認する。 			
3.対象学生	各学科 2、3 年生希望学生			
4.チーム編成	3 チーム編成 (製作船の素材でグループ分け)			
5.ラジコン船の仕様	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弓削丸の縮小模型 			
	船	素材	動力・操縦系	備考
	弓削丸	①バルサ材 ②発泡スチロール ③紙	①マイコンキット ②ラジコンキット	・今回は船サイズ、動力能力等是不揃い。
6.支援職員	担当教員：石橋 技官：(準備が出来た段階で依頼) アドバイザー：船体関係 高岡先生、 推進関係 湯田先生 (WG 員外) 制御関係 高木先生、 加工 大石先生			
7.作業場所	実習工場 (工作机 2 個程度のスペースを確保し、黒板と衝立などで簡単な間仕切りを行う。)			
8.準備品	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラジコン船キット (2~3 隻分)、マイコンキット ・ 工作セット等 ・ 船体構造図、船の写真類、推進系の構造図、制御関連図書、その他模型 (できるだけの準備をして雰囲気盛り上げたいのでご協力お願いします。) 			
9.スケジュール	1.参加希望学生募集	5 月末		
	2.チーム編成	6 月末		
	3.作業場所整備 (実習工場奥)	6 月末		
	4.工具、材料、キット等購入	7 月上旬		
	5.製作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構想・アイデア出し ~7 月中旬 ・ 工程、製作準備 ~7 月中旬 ・ 製作 9、10 月 		
	6.試走会	商船祭目標		

出典：創造性教育実施報告書

資料 5 - 2 - - 6

教職員各位

第 2 回 e-Learning 創造性教育セミナーのライブ中継のご案内

担当者名 長尾

1 月 20 日の午前中に高知高専で行われます下記の「第 2 回 e-Learning 創造性教育セミナー」を全国高専インターネット放送局プロジェクト <http://tv.kosen-it.jp/>

に参加して、本校のビデオサーバで中継することになりました。

このセミナーをご覧になるためには、後日アナウンス致します本校のビデオサーバの URL にアクセスして頂くこととなります。

ネット配信は、Windows Media Player(500kbps)で見ることができることになる予定ですので、ご興味のある方は是非ご覧下さい。

アクセスポイント・講演資料については、本校 HP のニュースを参照ください。

<http://www.vuge.ac.jp/modules/news/article.php?storvid=73>

出典：現代 G P プロジェクトグループ

資料 5 - 2 - - 7

インターンシップ基準

1. 対象派遣先, 対象内容

- (1) 工学（電子・機械工学, 情報工学）に関する製造, 建設, 卸・小売, 運輸・通信, サービス業等の企業, および公共機関, 学校, 団体等における実務実習, 見学調査など.
- (2) (1) に準じる実務内容を行う課外活動.

2. 時間数

- (1) 30時間（ただし, 計画書・報告書作成と発表会の時間を含む） 1単位
- (2) 1件が30時間未満の場合については, 他の実習実績を加算することができる. ただし, 計画書・報告書作成と報告会は1回のみ加算する.
ここで, 他の実習実績としては, 「共同研究航海」, 「プロコン全国大会」等で, その他については教務委員会で検討する.

3. 単位認定要件（報告書等提出）

- (1) 実習計画書
- (2) 実習機関による評価報告書
- (3) 実習報告書
 - ・実習先機関の概要
 - ・実習内容
 - ・実習目的・目標と達成度
 - ・体験と感想
 - ・意義と問題点

4. 付与単位

- (1) 電子機械工学科においては4年次の特別講義1（1単位）で評価する.
- (2) 情報工学科においては特別講義（2単位）で評価する.

出典：インターンシップ基準（電子機械工学科, 情報工学科）

資料 5 - 2 - - 8

インターンシップ参加者数(過去5年間)

区分	電子機械工学科	情報工学科
平成13年度	34	18
平成14年度	41	31
平成15年度	29	17
平成16年度	33	22
平成17年度	33	25

出典：電子機械工学科、情報工学科

資料 5 - 2 - - 9

H.17 実習報告書

電子機械工学科

会社名：株式会社 堀場製作所 住所：京都市南区吉祥院宮の東町 2 TEL.075-313-8121

期間：8月22日～9月2日

実習部署：分析システム生産部（ボーダアセンブリ）

ホリバの心臓部。電気器具の回路(基板)をパートタイマさんが組み立てている。

テーマ：企業の仕事を実際に体験しよう

実習内容

22日と23日は、部品挿入

プリント基盤に部品(抵抗器やダイオードetc)を挿入し、フラックスを吹きかける機械に通す。
 フラックスとはイソプロピルアルコールの一種。比重 0.8g、分子量 60.09、沸点 82.4℃
 人体への悪影響がある。目に入ると視力障害。皮膚に付着すると炎症する。

24日～9月2日まで、ポイントソルダを使って改造やソルダリング（はんだ付け）

- ・ポイントソルダという噴流式のはんだ付けをする機械。はんだの温度は 250℃
- ・改造とは、指示書に書かれている抵抗器を別の抵抗器に変える作業のこと
- ・ソルダリングとは、自動はんだ(一次、二次)の機械ではんだ付けが出来ない部品をはんだ付けすること

25日と26日の昼の時間に工場（会社）見学

- ・ MEXA：自動車の排気ガスを測定(分析)する機械を造っているところ
 主に中国に出荷。国内にはほとんど入り込んでいる。
 ホリバの 60%はここで作られている製品
- ・ ENDA：大気の排気ガス(燃焼排気ガス)を測定する機械を造っているところ
 配管の中心のガスを取り、有害ガス(NO、SO₂、CO)の測定管理をする。
 8～9月出荷のピーク、1つの製品が出来るまでの期間は約1週間。
- ・ 電 極：pHメータを作っているところ
 ガラス管を作るのだが、これは、職人しか出来ない。ホリバにはこの職人は1人しかいない。ので、時間はかかるがロボットでやらせている。このロボットはこの1人しかいない職人さんの息の吹き込み方などのデータを元に作られている。
- ・ ビジコン：ビジュアルコンテストを略したもの
 ホリバの中で働いている人も自分達以外の部署のことはあまりよく知らないの
 他の部署の人に自分達のしていること(仕事)を理解してもらおうと、ビジコンとい
 うものを企画している。

成果と感想

ポイントソルダという今までに使ったことの無い機械で作業をしていたのだが、一通りの説明をしてくれたので、それほど難しいものではなかった。同じものを何十個としていたので少し肩が疲れた。失敗も何度かやってしまったが、その度に報告すれば改善方法を教えてくれた。実際に企業や各部署に納めるものを作っていたので緊張して手が震えることもしばしばあった。2週間という短いようで長い期間だったが、とても充実した体験だった。

出典：電子機械工学科

資料5 - 2 - - 1 0

平成17年7月29日

夏季実習証明書

弓削商船高等専門学校長 殿

会 社 名 株式会社 三和



貴校学生の夏季実習を終了しましたので、下記のとおり報告いたします。

実 習 者 氏 名	弓削商船高等専門学校 [REDACTED]
実 習 期 間	平成17年7月26日 ～ 平成17年7月28日 (3日間)
実習テーマ	船舶修繕業とは
実 習 内 容	座学 1. 安全教育 現場実習 1. 工場見学 2. 作業体験 (船舶修繕機関仕上げ)
評 価 (実習中の 態度・成果)	態度：真剣で真面目に取り組んでいた姿が、非常に印象的だった。 成果：実際に工場及び修繕船舶内の見学、又船舶の機関仕上げ作業を体験し、実習テーマである船舶修繕業について、ある程度理解できたこと。
実習担当者	管理課長 海津 賢二 造機担当員 栗岡 宏典

出典：電子機械工学科

観点 5 - 3 - 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価基準については、資料 5 - 3 - 1 に示す学業成績の評価(再試験・特別試験及び追認試験の評価を含む)並びに進級・特別進級及び卒業の認定に関する規則第 9 条及び第 10 条に規定している。合格基準点については、従前に 50 点としていたものを平成 18 年度入学生から 60 点に改正した。単位の修得については同規則第 3 条に規定し、卒業の認定については同規則第 15 条に規定している。また、学年制の前提の下で、特別進級について同規則第 13 条に規定して、追認試験について同規則第 14 条に規定している。この規則は全学生に配布している学生便覧に掲載し、新入生ガイダンス時(資料 5 - 3 - 2)やホームルームの時間を利用して周知している。

成績評価は、各教員がシラバスに示した評価方法に従って行い、全試験答案と共に成績評価表を作成して保管している(資料 5 - 3 - 3)。また、平成 17 年度に成績評価協議会を設置し、平成 18 年度から成績評価の妥当性について検証を行うことにしている(資料 2 - 2 - 8)。成績に関する学生からの意見申立の機会については、特定の期間は設けていないが、成績評価表を各学生に渡した後、不明な点があれば、各科目担当教員に申出て確認することになっている。訂正が必要な場合は、担当教員が必要事項を記載して、教務係へ連絡を行っている(資料 5 - 3 - 4)。

この規定の運用は厳格かつ慎重に行っている。進級認定は進級判定会議、卒業認定は卒業判定のための教員会議を全教員参加で開催し、審議・判定している(資料 5 - 3 - 5)。また、特別進級に伴う単位追認試験結果の判定についてもその都度、判定会議を開催している。

(分析結果とその根拠理由)

成績評価基準や進級・卒業認定基準に関する規則が制定されており、学生に周知されている。また、進級認定は進級判定会議、卒業認定は卒業判定会議で、全教員によって審議され、適切かつ厳格に実施されている。

資料 5 - 3 - - 1

○弓削商船高等専門学校学業成績の評価並びに
進級・特別進級及び卒業の認定に関する規則

制 定 昭和63年4月8日

最終改正 平成18年3月22日

第2章 履修及び修得

(履修)

第2条 授業科目の単位の履修は、欠課時数が当該授業科目（特別活動を含む。）の単位時間数の3分の1以内の場合に認めるものとする。ただし、半期で修了する授業科目及び選択科目で特に指定したものについては別に定める。

2 欠席日数及び欠課時数の換算は次の各号によるものとする。

(1) 欠課時数は、7単位時間をもって欠席1日とする。

(2) 遅刻又は早退は、3回をもって欠課1単位時間とする。

3 次の各号に該当する場合は、学生準則第13条第1項の規定にかかわらず、所定の公欠願（第1号書式）を校長に提出し、許可を受けるものとする。この場合において、その取り扱いは出席とする。

(1) 災害、交通機関の運航休止等やむを得ない事由により、その事実が確認された場合

(2) 就職活動のため会社訪問をする場合。ただし、会社訪問1回につき3日以内とする。

(3) 進学に関してその必要性を認めた場合

(4) 課外活動等で別表1に掲げるものに参加する場合

(5) 海技試験及び無線に関する国家試験を受験する場合。ただし、海技試験の受験1回につき2日とし、無線に関する国家試験は受験1回につき1日とする。

(6) 公傷と認められた場合（医師の診断書を提出した場合に限る。）

(7) 学会発表及び学会発表の聴講に出席する場合

(8) インターンシップに参加する場合

(9) ボランティア活動に参加する場合

(10) その他校長がやむを得ないと認める相当の事由がある場合

(修得)

第3条 授業科目の単位の修得は、履修が認められ、かつ、学業成績が合格の場合に認められるものとする。ただし、実技を伴う授業科目及び選択科目の単位の修得については別に定める。

2 学業成績は、当該授業科目が60点以上のものについて合格とする。

第3章 試験

(定期試験等)

出典：弓削商船高等専門学校規則集

第4条 定期試験は、各学期末ごとに1回実施する。ただし、商船学科第5学年については、9月に席上課程修了試験を実施する。

2 中間試験は、科目担当教員が必要と認めた科目について、各学期の中間において中間試験を実施することができる。

(追試験)

第5条 次の各号に掲げる事由により、定期試験又は中間試験を受けることができなかった学生は、当該未受験科目に限り1回の追試験を受けることができる。

- (1) 傷病（医師の診断書を提出した場合に限る。）
- (2) 忌引（学生準則第15条による。）
- (3) 災害、交通機関の運航休止等（その事実が確認された場合に限る。）
- (4) 出席停止（学則第25条による。）
- (5) その他校長がやむを得ないと認める相当の事由がある場合

2 追試験を受けようとする学生は、所定の追試験受験願（第2号書式）を追試験実施日の前日までに校長に提出し、校長の許可を受けなければならない。

3 追試験の実施期日等については、校長が指定する。

(再試験)

第6条 各学年成績（商船学科第5学年にあつては、席上課程修了時の成績）において次の各号に該当する学生は再試験を受けることができる。

(1) 再試験は、学年成績において合格の科目数が当該学年の修得すべき最少科目数の2/3以上の場合に受験できるものとする。

ただし、別表2の科目については、再試験は行わない。

(2) 前期で終了する授業科目の不合格科目についての再試験は、学年末を待たずに実施することができる。

2 再試験を受けようとする学生は、所定の再試験受験願（第3号書式）を再試験実施日の前日までに校長に提出し、許可を受けなければならない。

3 再試験の実施期日等については、校長が指定する。

(特別試験)

第7条 再試験において不合格の科目がある学生は、5年生に限り特別試験を受けることができる。

2 特別試験を受けようとする学生は、所定の特別試験受験願（第4号書式）を特別試験実施日の前日までに校長に提出し、許可を受けなければならない。

3 特別試験の実施期日等については、校長が指定する。

(不正行為等)

第8条 試験中に不正行為又は妨害行為をした学生は、当該行為以降の受験を停止させ、当該試験期間中の全科目の試験成績を0点とする。

2 次の各号に該当する学生は、当該試験科目の試験成績を0点とする。

- (1) 第5条第1項各号以外の事由により受験しなかった学生
- (2) 懲戒処分により受験できなかった学生
- (3) 試験開始から20分以内に入室しなかった学生又は試験開始から20分以内に退室した学生

出典：弓削商船高等専門学校規則集

第4章 成績の評価

(成績評価)

第9条 学業成績は、各科目ごとに次の各号により評価するものとする。

- (1) 学期成績は、定期試験及び中間試験の成績、平素の成績、学習態度、出席状況等を総合したものを100点法をもって評価する。ただし、卒業研究、選択科目の一部については合格・不合格をもって評価することができる。
- (2) 学年成績は、各学期成績を総合したものを100点法をもって評価する。ただし、再試験・特別試験及び追認試験の合格に対する評価は、60点とし、前学年の未修得科目がある学生については、学年成績の評価は行わない。

(成績評定)

第10条 学業成績の評定は、次の区分により学生指導要録に記載するものとする。

優	80点～100点
良	70点～79点
可	60点～69点
不可	59点以下

第5章 進級及び卒業の認定

(認定)

第11条 進級・特別進級及び卒業の認定は、教員会議の議を経て校長が行う。

(進級)

第12条 進級の認定は、次の各号の要件を満たした学生について行う。

- (1) 1年間の出席日数が、出席すべき日数(授業(特別活動、講演等を含む。)、学校行事、特別日課等の合計とし、出席停止(学則第25条)及び忌引(学生準則第15条)は含まない。第14条第4項において同じ。)の3分の2以上であること。この場合において、欠席日数の換算は第2条第3項を適用する。
- (2) 当該学年において、別表3の所定の進級単位数を修得していること。
- (3) 前学年の未修得科目がないこと。
- (4) 特別活動を履修していること。

(特別進級)

第13条 前条第2号の規定にかかわらず、次の各号の要件を満たす学生については、特に進級の認定を行うことができる。

- (1) その学年で必要な全科目を履修していること。
- (2) 特別活動を履修していること。
- (3) 別表4に示す各学年の科目を修得していること。
- (4) 1年間の出席日数が、出席すべき日数の3分の2以上であること。この場合において欠席日数の換算は、第2条第3項を適用する。
- (5) 当該学年の未修得科目数及び未修得単位数が別表5に示す数以下であること。
- (6) 前学年の未修得科目がないこと。

2 前項の進級を希望する学生は、所定の特別進級願(第5号書式)を校長に提出し、許可を受けなければならない。

(追認試験)

出典：弓削商船高等専門学校規則集

第14条 前条に規定する進級（以下「特別進級」という。）をした学生は、追認試験を受けることができる。

2 追認試験を受けようとする学生は、所定の追認試験受験願（第6号書式）を追認試験実施日の前日までに校長に提出し、許可を受けなければならない。

3 追認試験は、夏季休業前に3回実施する。

4 追認試験の実施日等については、校長が指定する。

5 追認試験に対する再試験・特別試験は行わない。

（卒業）

第15条 卒業の認定は、学則第29条の規定により、各学科ごとに次の要件を満たした学生について行う。

（1）商船学科

（ア）別表6の所定の卒業所要単位数を満たしていること。

（イ）大型練習船実習を修了していること。

（2）電子機械工学科及び情報工学科

（ア）別表6の所定の卒業所要単位数を満たしていること。

第6章 再履修

（再履修）

第16条 第11条による認定の結果、原学年にとどめられた学生は、学則第15条の規定により原学年の全科目について再履修しなければならない。

附 則

この規則は、平成18年3月22日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

2 平成17年度以前に入学した学生の学業成績の評価並びに進級・特別進級及び卒業の認定については、なお従前の例による。ただし、平成18年度以降に入学した学生と同一学年となる学生については、この規則による。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 5 - 3 - - 2

平成 18 年度当初のスケジュール (入学生)

4月6日(木)

- 9:00 出欠点検 (教室)
 9:20 入学式場へ入場 (学級担任誘導)
 9:50 保護者入場 (教務係長案内)
 10:00～ 入学式
 入学式終了後 入学生……HR (教室:学級担任)
 保護者……説明会 (アセンブリホール)。終了後直ちに学級担任との懇談会 (教室)
 ※入学生HRは午前中に終わります。

4月7日(金)

入学生 (1年生) オリエンテーション (固有教室、アセンブリホール、第二体育館)

8:40	～	9:30	HR(日程説明、自己紹介) ※学生使賃配付	クラス担任	各教室
9:40	～	10:05	教務関係説明会	教務主事	アセンブリホール
10:05	～	10:30	学生関係説明会	学生主事	

4月10日(月)

特別日課

- 8:40～ 9:30 HR
 9:40～11:30 英語学力試験 (教室:学級担任、英語担当教員)
 11:40～12:30 数学学力試験 (教室:学級担任) 「問題回収」
 13:20～14:10 国語学力試験 (教室:学級担任)
 14:20～15:10 記念撮影
 15:20～15:40 1年生級長・副級長任命式 (第1会議室:学級担任出席)

平成 18 年度当初のスケジュール (新編入学生)

4月6日(木)

- 9:15 学生課教務係に集合 (制服・制靴)
 9:20 式場へ入場 (教務主事補は、指定された座席に誘導)
 9:50 保護者入場 (教務係長案内)
 10:00～ 入学式
 入学式終了後 編入学生……学級担任との懇談 (学級担任誘導:研究室)
 保護者……説明会 (アセンブリホール)。終了後直ちに学級担任との懇談会 (研究室)

4月7日(金)

- 通常日課 (特別授業時間割)
 8:40 授業開始
 16:10 授業終了
 16:20～17:00 編入学生オリエンテーション① (第1会議室:教務主事他)

4月10日(月)

- 通常日課 (特別授業時間割)
 8:40 授業開始
 16:10 授業終了
 16:20～17:00 編入学生オリエンテーション② (第1会議室:学生主事他)

平成 18 年度当初のスケジュール (新外国人留学生)

4月7日(金)

- 通常日課 (特別授業時間割)
 8:40 授業開始
 16:10 授業終了
 16:20～17:00 外国人留学生オリエンテーション① (第1会議室:教務主事他)

4月10日(月)

- 通常日課 (特別授業時間割)
 8:40 授業開始
 16:10 授業終了
 16:20～17:00 外国人留学生オリエンテーション② (第1会議室:学生主事他)

出典: 学生課

資料 5 - 3 - - 3

成績評価一覧 (例)

授業科目	データベース	対象学年	情報4年	単位数	2			
受講者数	41	開講単位時間数	(50分×)64	実施場所	教室 情報処理演習室			
評価方法	前期期末試験は、中間と期末の割合を3:7として評価し、学年末試験は、定期試験結果を60%、Webデータベース作品の到達度を40%として、総合的に評価する。							
	前期中間	前期期末	期末評価	後期中間	後期期末(60点)	作品(40点)	合計	総合評価
1	52	45	47	79	33	30	209	60
2	87	95	92	95	48	40	325	91
3	83	80	81	89	48	40	300	85
4	73	72	72	89	54	30	288	79
5	60	61	60	56	36	33	213	61
6	82	87	85	75	51	35	295	82
7	76	88	84	100	54	40	318	89
8	72	80	78	92	48	40	292	83
9	81	80	80	86	45	30	292	80
10	50	35	39	24	21	28	130	39
11	91	96	94	95	45	40	327	92
12	44	59	54	61	45	30	209	60
13	55	54	55	43	54	33	206	60
14	62	70	67	74	33	40	239	70
15	48	53	51	45	30	35	176	53
16	53	58	56	62	39	28	212	60
17	68	57	60	49	48	40	222	65
18	68	72	71	70	48	40	258	75
19	45	36	39	79	39	36	199	59
20	73	87	83	85	48	30	293	81
21	73	92	86	98	42	40	305	86
22	70	91	85	70	42	40	273	78
23	52	55	54	46	36	30	189	55
24	71	54	59	79	48	40	252	73
25	58	61	60	59	48	30	226	64
26	77	79	78	82	54	30	292	81
27	64	78	74	83	36	30	261	73
28	56	55	56	62	21	30	194	56
29	54	44	47	62	21	30	181	53
30	68	62	64	74	39	30	243	68
31	55	63	60	52	30	35	200	59
32	72	78	76	87	30	35	267	76
33	78	74	75	95	36	33	283	79
34	55	43	47	36	24	30	158	47
35	87	83	84	100	42	40	312	88
36	68	88	82	95	51	40	302	86
37	52	33	39	18	21	35	124	40
38	60	45	50	30	39	30	174	51
39	55	76	70	42	39	35	212	62
40	41	47	45	45	36	35	169	51
41	91	97	95	95	36	40	319	90
42								
43								
	2680	2760	2736	2858	1638		9936	2838
	62.3	64.2	63.6	63.5	35.6		216.0	69.2

出典：情報工学科

資料 5 - 3 - - 4

平成 年 月 日

科目別学業成績評価及び欠課時数一覧表の訂正について

申請者名 _____

訂正内容

学 科 学 年

教 科 目

学 期 別

出 席 番 号

学 生 氏 名

成 績

正

誤

欠 課 時 数

正

誤

訂 正 理 由

出典：学生課

資料 5 - 3 - - 5

第 14 回 教員 会 議 議 事 概 要

日 時 平成 18 年 3 月 3 日 (金) 16:00～16:37
場 所 第 1 会 議 室
出席者 42 名 (別紙のとおり)

(審議事項)

1. 平成 17 年度電子機械工学科・情報工学科 5 年生の卒業認定について
教務主事から、審議資料 1-1 に基づき、卒業試験の成績結果について説明があり、科目担当教員の成績確認が行われ、再試験願の提出者全員が合格したことの確認があった。
続いて、教務主事から、審議資料 1-2 に基づき、卒業要件である卒業所要単位数等について説明があり、全員が卒業所要単位数等を満たしている事が確認され、卒業認定をすることで了承された。

出典：平成 17 年度第 14 回教員会議議事概

観点5 - 4 - 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

高専設置基準で定められている特別活動を第1～3学年において、毎週木曜日の7時限目にホームルームとして配置し(資料5 - 1 - - 4),人間性の育成・素養の涵養に努めている。各担任教員が年度当初に活動目標を設定し、年間計画を立てて(資料5 - 4 - - 1),各クラス単位でホームルームノートを活用する(資料5 - 4 - - 2)などして、特別活動を実施している(資料5 - 4 - - 3)。組織的には、学級担任委員会を通して各担任が連携し、社会的な話題やマナーとコミュニケーション向上などを共通的なテーマとして取り上げている(資料5 - 4 - - 4)。学年全体での合同ホームルームの中では、禁煙教育、性に関わる教育、同和教育を行っている(資料5 - 4 - - 5)。

また、1学年での新入生オリエンテーションの実施(資料5 - 4 - - 6)、2学年での交通安全講習会の実施(資料5 - 4 - - 7)、全校生によるキャンパスクリーンの実施(資料5 - 4 - - 8)など学校全体としての特別活動を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

本校の準学士課程では、第1～3学年において毎週1単位時間行われる各クラスごとの特別活動を中心に、学年単位及び学校全体として人間の素養の涵養がなされるように配慮している。

資料 5 - 4 - - 1

授業科目	特別活動（ホームルーム）			担当教員	田房 友典		
学 科	情報工学科	学 年	3年	授業期間	通年	単位数	1
分 野	一般	授業形態		履修区分	必修		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的習慣を身に付け、学校生活に適応できる ・自己を見つめ、他者の個性を認め、互いに尊重し合える ・進路について考え、自主的自立的に行動できるようになる 						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝5分間のショートHRを設ける ・教室を毎日掃除する ・講話や資料を聞いたり見たりし、考えたことを話し合ったりノートに記述する 						
内 容	主 題		(時間数)	備考欄			
	4/5 クラス役員とルール		(1)				
4/13 掃除と自己紹介		(1)					
4/20 ホームルーム計画		(1)					
4/27 進路について		(1)					
5/11 学級目標		(1)					
5/18 タバコの害		(1)					
5/25 スポーツ		(1)					
6/1 校則について		(1)					
6/8 中間試験と目標		(1)					
6/22 ストレス		(1)					
6/29 施設見学		(1)					
7/6 海洋実習		(1)					
7/13 心ゆたかに生きる		(1)					
7/20 夏休みに向けて		(1)					
9/8 夏休みの思い出		(1)					
9/14 スポーツ		(1)					
9/21 前期中間試験の反省と目標		(1)					
10/5 アサーション		(1)					
10/12 社会的な話題（徳育教育）		(1)					
10/19 カッター訓練		(1)					
10/26 カッター訓練		(1)					
11/2 タバコの害		(1)					
11/9 出会い		(1)					
11/16 社会的な話題（徳育教育）		(1)					
11/30 バーベキュー		(1)					
12/14 就職と進学		(1)					
1/18 新年の抱負		(1)					
1/25 理想の友達		(1)					
2/1 同和教育		(1)					
2/8 スポーツ		(1)					
2/15 性教育		(1)					
2/22 1年間の反省と来年の目標		(1)					
評価方法							
関連科目							
教科書等	【書名】 ホームルームノート		【著者】		【発行所】		
備 考	(標語等)						

出典：平成 18 年度シラバス

資料 5 - 4 - - 3

2. 学級運営の方針・計画

2. 学級運営の方針・計画

項 目	業 務 内 容	実施時期
学級運営の方針		
新入生の担任	<p>○入学式の前に、身上調書、調査書や学生の自叙伝などを読み、学生理解に努める。</p> <p>○特に留意する学生(精神的・身体的)がいる場合、父母と連絡をとり、意見交換をする必要がある。</p> <p>○ロッカー・自転車置き場等も確認しておく。</p> <p>○4月に個人面接を行ない、十分なコミュニケーションを取ることが望ましい。</p>	3月
前担任との引継ぎ	<p>○クラスの学生の性格、成績、進路希望等について、前担任との引継ぎを入念に行う。学習・生活面で問題を多く抱えている学生や留年生については、学生との面談を行うなどして、学生が新学期を落ち着いて迎えられるよう配慮する。</p>	3月
専門学科との連携	<p>○専門学科の教育方針と学級運営のあり方について、学科主任等と意見交換を行うことが望ましい。</p>	3月
同一学年の担任との連携	<p>○同一学年の学習指導、生活指導等は統一して行うことが望ましい事項が多いので、担任相互の連絡を行う。定例の学年担任会を持つことが望ましい。</p>	年度当初
学級の運営方針	<p>○前記の項目を参考にして、学級の運営方針を立案する。</p> <p>○運営方針の中で学生にクラス目標や明示したいことを整理し、年度当初のHRで周知徹底を図る。</p> <p>○外国人留学生、高校からの編入学生がいる場合は、彼らがクラスにスムーズに溶けこめるように、チューターなどと連絡を取り合い、必要な方策を立てる。また、追認試験を残している学生に対しては、受験に対する心構えなどを把握して、適切な指導を行う。</p>	年度当初
学級運営の計画		
年間HR指導計画	<p>○定期試験を節目とする学習指導、学校行事の計画・準備、長期休暇中も含む生活指導、保護者懇談会を中心とする家庭との連絡、進路毎に関する指導、HR活動等に関する年間指導計画を作成する。</p>	年度当初

出典：学級担任の手引き

資料 5 - 4 - - 4

H17.11.10
学級担任委員会
資料 - 2

マナーとコミュニケーションに関する報告 (平成17年度)

学級担任委員会

概要

1. マナーとコミュニケーションに関する指導

平成16年度に作成した資料に基づいて、HR等を活用することで、マナーとコミュニケーションに関する指導を、学級担任により実施した。
(5月)

2. マナーとコミュニケーションに関するアンケート

配布した資料のチェックリストにより、学生のマナーとコミュニケーションの現状を調査した。

回収クラス・・・S3, M4, M5, I2, I3, I4

回答数・・・233名

結果

1. あいさつ・・・できている	180名 (77%)
2. 敬語の使用・・・できている	196名 (84%)
3. 謝罪・・・できる	186名 (80%)
4. 食事マナー・・・守っている	150名 (64%)
5. 語尾を伸ばす話し方・・・していない	110名 (47%)
6. 語尾の省略・・・していない	111名 (47%)
7. 考えてから話す・・・考える	103名 (44%)
8. はっきりとした言葉の心がけ・・・心がけている	130名 (56%)
9. 不機嫌な話し方・・・していない	142名 (61%)
10. 学生らしい服装・髪型・・・している	179名 (77%)

3. コメント

約1/3の学生からのアンケートであったが、あいさつができる、敬語を使用している、謝罪が言える、および学生らしい服装・髪型をしていると答えた学生は約80%であった。しかし、現状は必ずしもそうとは思えない事実が多く直面していて、教員と学生の考え方に大きなずれがあると思われる。今後の学生指導上、注意すべき点と思われる。指導資料やチェックリストを整理して、さらに調査が必要である。

出典：学級担任委員会

H17.11.10
学級担任委員会
資料 - 3

徳育教育に関する実施報告
—社会的話題の解説—

平成17年1月7日

実施概要

1. 目的

本校の中期計画で「徳育の充実」が掲げられている。これを具体化実施するために、ホームルームを活用して「社会的な話題についての解説」を行う。

2. 実施状況

実施された報告書を別紙に示す。実施内容等は下記に示す通りである。

イ. 実施クラスと話題

商船2年 国際交流について

商船3年 日本人としての自覚を考える

情報1年 アルコールとの付き合い方

情報2年 社会的な話題とは

情報3年 生きる力

ロ. 実施時期等

9月下旬から10月下旬にかけてHRにて実施

出典：学級担任委員会

資料 5 - 4 - - 5

平成 17 年度合同ホームルーム

「1 年生」

単 元：タバコのない健康的な生活

対象クラス：商船学科、電子機械工学科、情報工学科（123名）

目 標：タバコが自分たちの生活にどのような悪影響を及ぼすのか理解する。

指導計画：①タバコの害について（1時間 VTR 学習）

②喫煙を取り巻く状況・喫煙防止（1時間 CD 学習）

実施日時：①平成 17 年 5 月 12 日 第 7 限

②平成 17 年 11 月 10 日 第 7 限

単 元：性教育

対象クラス：商船学科、電子機械工学科、情報工学科（123名）

目 標：男女の性機能についての違いを理解し、思春期における性について考えてみる。

指導計画：①思春期の性について（1時間 VTR 学習）

②ヒューマンセクソロジーについて（1時間 CD 学習）

実施日時：①平成 17 年 6 月 30 日 第 7 限

②平成 18 年 2 月 9 日 第 7 限

単 元：人権・同和教育

対象クラス：商船学科、電子機械工学科、情報工学科（124名）

目 標：差別につながる物や人の見方について理解し、差別がおこりやすい状況について確認する。

指導計画：①差別について（1時間 VTR 学習）

②差別の現実・解消について（1時間）

実施日時：①平成 17 年 9 月 8 日 第 7 限

①平成 18 年 1 月 19 日 第 7 限

「3 年生」

単 元：タバコ問題

対象クラス：情報工学科（40名）

目 標：タバコを取り巻く状況がどのようになっているのかを理解する。
自分たちのタバコに対する対処はどうあるべきかを考える。

指導計画：喫煙を取り巻く状況・喫煙防止（1時間）

実施日時：平成 17 年 5 月 19 日 第 7 限

出典：合同ホームルーム実施要領

資料 5 - 4 - - 6

平成 18 年度新入生オリエンテーション実施要領

- 1 目的 同級生との親睦を図り、学校生活及び学生としての心得を身につけることを目的とする。
- 2 実施期日 平成 18 年 4 月 7 日 (金)
- 3 実施場所 1 年生各教室
アセンブリホール
第二体育館 外
- 4 日 程 別添「平成 18 年度新入生オリエンテーション日程表」のとおり
- 5 謝金等 講 師 本校非常勤講師 岡野郁子 (国歌、校歌指導)
謝 金 5,000 円 (実技指導 2 時間まで)
旅 費 566 円 (尾道市因島土生町)
支出科目 運営費交付金 (学生指導費)

平成 18 年度新入生オリエンテーション日程表

4月7日(金)

時 間	内 容	担当教員	場 所
8:40 ~ 9:30	HR(日程説明、自己紹介) ※学生便覧配付	クラス担任	各教室
9:40 ~ 10:05	教務関係説明会	教務主事	アセンブリホール
10:05 ~ 10:30	学生関係説明会	学生主事	
10:40 ~ 11:30	学校施設紹介(図書館、情報処理教育センター、実習工場等)	クラス担任	校内
11:40 ~ 12:30	校外施設紹介(銀行、役場、郵便局、港等、学校校種の説明)	クラス担任	町内
12:30 ~ 13:20	昼食休憩		
13:20 ~ 14:10	国歌、校歌指導 集団行動等 ※体育館シューズを持参すること	学生主事 岡野郁子	第二体育館
14:20 ~ 15:10	級長、副級長決定	クラス担任	各教室
15:20 ~ 16:10	自転車登録 通学生(学生課前) 寮生(学寮)	クラス担任 原野正幸・玉宇明	

出典：新入生オリエンテーション実施要領

資料 5 - 4 - - 7

交通安全講習会実施要領

- | | |
|--------|---|
| 1 日 時 | 平成18年5月18日(木) 14:20~16:10 |
| 2 場 所 | 管理棟玄関前広場及びアセンブリホール |
| 3 対象学生 | 2学年全員(122名) |
| 4 講習要領 | (1) 指 導 者 伯方警察署交通課職員他
(2) 担 当 教 員 学生主事・学生主事補・2学年学級担任
(3) 集 合 場 所 管理棟玄関前広場
(4) 出 欠 点 呼 14:20 学級担任が出欠点呼
(5) 講 習 14:25~
① 屋外での実演による指導(管理棟玄関前広場)
② 交通安全等についての講話(アセンブリホール) |
| 5 その他 | 当日が雨天の場合は、屋外での講習は中止とし、アセンブリホールで行う。 |

出典：平成18年度交通安全講習会実施要領

資料 5 - 4 - - 8

平成 17 年 6 月 14 日

キャンパス・クリーン実施要領

日 時 平成 17 年 6 月 17 日 (金) 13:20 集合 (時間厳守)
野球場レフト側にクラスごとに集合

司 会 教務主事補

1. 校長訓辞

マイク設定 (教務係)

2. その他

担任が出欠点検を行い本部に報告願います。

できるだけ、動きやすい服装で参加してください。

必要な道具 (ゴミ袋、軍手、ゴミばさみ) 等は野球場レフト側に用意いたします。

なお、掃除終了後は元の場所に戻してください。

雨天等で中止の場合は、事前 (昼休み) に放送で連絡いたします。

今回、閉会式はありません。掃除が終了しましたら、担任の指示で解散させてください。



出典：キャンパスクリーン実施要領

観点 5 - 4 - 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

学生主事・主事補及び厚生補導委員会メンバーを中心に、学生指導方針(資料5-4-1)に沿って校外での登校指導(資料5-4-2)などを含む全面的な生活指導を行っている。

1年間を通じた特別活動は(資料5-4-3)、学生会とも連携しながら各種行事を実施・参加している。(資料5-4-4)。

クラブ活動については、全教員がいずれかのクラブ顧問に配置され(資料5-4-5)、放課後の練習指導や、土・日に開催される大会への引率を熱心に行っている(資料5-4-6)。その成果として、体育系クラブでは陸上部を筆頭に毎年、全国高専体育大会へ出場を果たしている(資料5-4-7)。文科系クラブでは、マイコン部の学生が中心になってプログラミングコンテストにおいて通算6回の文部科学大臣賞を受賞し、全国レベルで優秀な成績を残している(資料5-4-8)ほか、囲碁部の活躍(資料5-4-9)など活発である。また、特色あるクラブ活動として、ヨット部の国体出場(資料5-4-10)や平成17年度から部に昇格したソーラーボート部(資料5-4-11)などがあり、多彩な活動を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

学生の生活指導面や課外活動において、人間としての素養を涵養するための体制が整備され、各種の行事が実施されている。また、学生の自主的な活動を教職員が組織的に支援し、人間的な成長を図るよう配慮されている。

資料 5 - 4 - - 1

2006 年度学生指導方針

(06.4.4 現在)

学生主事

1. 努力目標：“規律ある行動”と“挨拶励行”

2. 指導方法

全教職員の共通理解のもと、厚生補導委員を中心メンバーとし、全員で指導にあたる。

問題行動に対してはその場で指導の上、指導連絡票を学生主事、学生主事補に提出する。

指導連絡票の扱いは下記(5)のとおりとする。

(1) 未成年者の飲酒・喫煙の一掃

成人学生は所定の場所でのみ喫煙可能

対策:校内巡視の実施

(2) 交通ルールの遵守

自転車の二人乗り、日没後の無灯火、雨天時の傘さし運転

駐輪マナーの向上(港、校内)

対策:街頭指導(腕章着用)及び自転車一時預かり

(3) 身だしなみの是正

3年生までは制服着用、3年生までは染髪、ピアスは指導する

高学年も学生らしい装い

対策:登校時指導(腕章着用)及びその都度指導する。

(4) クラブ活動の活性化

3年生までは少なくとも運動部、文化部どちらかに加入し、活動する。

対策:学生会と協議のうえ、対象学年に呼び掛ける

(5) 指導連絡票の活用と取り扱い(飲酒・喫煙)

1 回目;奉仕活動(1 回)+保護者連絡

2 回目;奉仕活動(2回)+保護者連絡

3 回目;奉仕活動(3回)+保護者召喚

4 回目;家庭謹慎(3 日)

5 回目;3 回目に戻る。

出典：学生指導方針

資料 5 - 4 - - 2

平成 17 年 4 月 10 日

教員各位

登校指導について

学生主事 上岡範雄

春の交通安全週間にあわせ、本校においても登校指導を行います。
担当は下記のようにしたいと思いますのでよろしくご協力ください。

指導内容 登校指導

日時 4月14日(木) 7:50-8:30

場所および担当者

1. 本校駐輪場(駐輪の指導も含む) 上岡先生 飯塚先生 天野学生(M5)
2. 町役場前 柳沢先生 桑田学生(S5)
3. 魚六前 益崎先生 岩本先生 西村学生(S5)
小田学生(M5)

今回は初回の学生指導ですので学生主事・主事補を中心に担当をお願いしますが、次回の学生指導からは学生主事・主事補+全教員の中からランダムに選ばれた先生で担当をお願いすることにしましたので重ねてご協力をお願いします。

何かご不明な点がありましたら、学生主事までご連絡ください。

以上

出典：登校指導実施要領

資料 5 - 4 - - 3

特別活動年間行事予定

行 事 名	期 間
新入生オリエンテーション	平成18年4月7日
瀬戸内2校定期戦	平成18年5月20日
校内体育大会	平成18年5月30日
愛媛県高等学校総合体育大会	平成18年6月2日～4日
キャンパスクリーン	平成18年6月16日
四国地区高等専門学校体育大会	平成18年7月15日～19日
全国商船高等専門学校漕艇大会	平成18年7月22日～23日
全国高等専門学校体育大会	平成18年8月5日～11日
キャンパスクリーン	平成18年10月3日
全国高等専門学校プログラミングコンテスト	平成18年10月7日～8日
瀬戸内三校漕艇大会新人戦	平成18年 月 日
リーダー研修	平成18年 月 日
全国高等専門学校ロボットコンテスト2006四国地区大会	平成18年11月5日
商船祭	平成18年11月11日～12日
四国地区高等専門学校総合文化祭	平成18年11月18日～19日
全国高等専門学校ロボットコンテスト2006全国大会	平成18年11月26日
防災訓練	平成18年12月11日
校内マラソン大会	平成18年12月21日
全国高等専門学校体育大会(ラグビー・フットボール)	平成19年1月4日・5日・7日・9日

出典：学生課

資料 5 - 4 - - 4

平成 1 8 年度学生会役員

会 長	学生会を代表し、一切の事項に関する権限と責任を負う	
副 会 長	会長を補佐し、会長に事故あるときは、その任務を代行する	
書 記 長	総会、評議会、執行委員会の記録、作成、保管並びに学生会名簿の作成保管にあたる	
会 計 長	学生会会計台帳、予算差引簿、物品管理簿の記録と保管及びこれらの出納事務にあたる	
会計監査委員長	学生会の会計に関する監査を行う	
体 育 局 長	体育行事に関することを行う	
文 化 局 長	文化行事に関することを行う	
厚 生 局 長	福利厚生に関することを行う	
報 道 班 班 長	学生会の機関誌発行に關しての全責任を負う	

出典：学生課

資料 5 - 4 - - 5

平成 18 年度クラブ・同好会顧問等名簿

平成 18 年 4 月 1 日現在

部 局	顧 問 教 員	学 生 代 表
1. 総 局	上岡	
2. 体 育 局	益崎・水崎	
陸 上 部	※村上(知)・友田・高尾	※
男子バレー部	※秋葉・瀬濤	※
女子バレー部	※中家・峯脇	※
ソフトテニス部	※久保・勘久保・加藤	※
卓 球 部	※藤井(清)・大石・坂内	※
サ ッ カ ー 部	※永本・堀口	※
男子バスケット部	※水崎・徳田	※
女子バスケット部	※多田(光)・松下・藤井温	※
柔 道 部	※葛目・松永	※
剣 道 部	※田房・山尾・岡本	※
野 球 部	※中山・多田(勝) 児玉・伊藤(芳)	※ ※
水 泳 部	※藤本・石橋	※
テ ニ ス 部	※濱中・益崎・鶴	※
ラ ク ビ ー 部	※中・渡部・伊藤(武)・上岡	※
カ ッ タ ー 部	※高岡・豊田・柳沢	※
ヨ ッ ト 部	※二村・野々山・高木・土井	※
バドミントン部	※岩本・上江・田原	※
3. 文 化 局	田原・猪川	
学 芸 部	※多田(光)	※
美 術 部	※塚本	※
茶 道 部	※勘久保	※
吹 奏 楽 部	※日下・土井・峯脇	※
軽 音 楽 部	※伊藤(芳)・伊藤(武)	※
写 真 部	※田原	※
無 線 部	※田頭	※
書 道 部	※猪川	※
マ イ コ ン 部	※長尾・徳田	※
ロボット製作部	※中山・瀬濤・田頭	※
天 文 ・ 気 象	※二村	※
将 棋 部	※神谷・土井	※
囲 碁 部	※多田(光)・児玉	※
ソーラーボート部	※松下・塚本	※
4. 同 好 会		
ゴ ル フ	※	※
イラスト・漫画	※藤本	※
マリンスポーツ	※田房	※
フィッシング	※	※
異 文 化 交 流	※	※
I T 研 究 会	※塚本・田房	※
フ ッ ト サ ル	※	※

※印は代表顧問(学生は主将)

出典：平成 18 年度クラブ・同好会顧問等名簿

資料 5 - 4 - - 6

No. _____

学生主事	学生課長	学生係長	学生係

平成 17年 8月 25日

競技結果報告書

クラブ名	陸上競技部
引率教員名	村上知弘
競技名	第60回国民体育大会陸上競技愛媛県予選
期 日	平成 17年 5月 20日 ~ 平成 17年 5月 21日
場 所	愛媛県総合運動公園陸上競技場
参加学生数	9名
結 果	成年 1500m 2位 4'16"33 成年 400m 6位 52"73 少年B 110m JrH 8位 19"78 成年女子やり投 3位 23m61 成年女子走幅跳 6位 4m61(国) 成年女子走幅跳 7位 4m31 その他予選落ち 成年 100m 11"97 成年 100m 12"38 成年 400m 55"32 小年B 200m 25"29 成年女子 100m 13"97

出典：競技結果報告書

資料 5 - 4 - - 7

第 40 回 (平成 17 年度) 全国高等専門学校体育大会出場者成績

陸上競技 (栃木県総合運動公園陸上競技場 : 担当校 小山高専) 8 月 10 日 (水)

400m	予選落ち		51秒89
800m	第7位入賞		2分01秒42
1500m	第14位		4分14秒01
5000m	第14位		16分26秒83
4×400mR	予選落ち		3分31秒82
やり投げ	第12位		42m41
砲丸投	第21位		10m12
女子走幅跳	第10位		4m26
女子砲丸投	第6位入賞		7m80

柔道 (長岡市市民体育館武道場 : 担当校 長岡高専) 8 月 6 日 (土)

90kg級	1回戦敗退	
90kg超級	1回戦敗退	

テニス (南長野運動公園テニスコート : 担当校 長野高専) 8 月 3 日 (水) ~ 5 日 (金)

女子ダブルス	1回戦敗退	
女子シングルス	1回戦敗退	


水泳競技 (群馬県営水泳場 : 担当校 群馬高専) 8 月 6 日 (土)

200m自由形	予選落ち	
---------	------	--

資料 : 学生課

資料 5 - 4 - - 8

プログラミングコンテスト成績一覧表

年度	回	部門	賞の名称	タイトル	指導教員	作成学生
平成13年度	第12回	課題部門	文部科学大臣賞 最優秀賞	Project U	長尾 和彦	
		コンテンツ部門	文部科学大臣賞 最優秀賞	自動お買物支援システム～Good BUY Days～	長尾 和彦	
平成14年度	第13回	課題部門	審査委員特別賞	Project X -Get score over 150-	長尾 和彦	
		自由部門	敢闘賞	KJ法を用いたファイルマネージャー -FlatView-	長尾 和彦	
平成15年度	第14回	課題部門	文部科学大臣賞 最優秀賞	なわとび天国 -ぼくらは跳ぶ。健康のために。-	長尾 和彦	
		自由部門	審査委員特別賞	E/R2003	長尾 和彦	
平成16年度	第15回	課題部門	敢闘賞	自転車用GPS坂見知くん -トンネルの向こうは下り坂でした-	長尾 和彦	
		自由部門	審査委員特別賞	A Mazing -次世代型名刺管理システム-	長尾 和彦	
平成17年度	第16回	課題部門	敢闘賞	わんわん散歩物語	長尾 和彦	
		自由部門	優秀賞	xpWorld -eXtremeProgrammingの勤め-	長尾 和彦	
		競技部門	1回戦敗退	マジック・ハート in Image	長尾 和彦	

出典：学生課

10/22 愛媛

全国高専プログラミングコンテスト



自由部門で優秀賞を受賞した(前列左から)片岡さん、粕嶋さん、(後列左から)郷原さん、バトバ一タルさん、雷田さん

「第十六回全国高専学校プログラミングコンテスト」(高専専門学校連合会主催)がこのほど、豊前県米子市であり、弓削商船高専マイコン部(部長 郷原雅典 十八)の二チームが、二位にあたる優秀賞などを受賞した。

弓削商船チーム健闘

優秀賞に輝いたのは、いずれも同校五年の片岡さん、郷原正彦さん、郷原麻衣子さん、バトバ一タルさん、雷田真由さんのチーム。テーマが自由の自由部門に、プログラミング学習支援システムを開発して挑んだ。同システムは、xpと呼ばれるソフトウェア開発手法を、初心者が学びやすくするもの。ネットワークを使って二人でプログラミングしたり、学習内容に合わせて演習問題に答えたりする。システム開発には約四カ月かかり、プログラムを紙に印刷すると、A4判約千三百二十枚といえ、通常の約十倍の巨大なものに仕上がった。片

岡さんは「優秀賞はうれしだが、あと二歩を一位に近づけたい」と話す。「街に活(い)きでいるコンピューター」がテーマの課題部門では、同部のチームが、数回賞と「学生が選ぶ優秀作品」二位に入った。パソコン画面に表示される街で、犬の散歩の疑似体験や、木のしっぽができるわんわん散歩物語というシステムを開発した。作ったのは、嶋野利英さん(五年)、岡三紀子さん(四年)、池田優子さん(同)、鳳翔子さん(同)。「犬の動きが自然に見えるようにするのには、何回も修正した」と池田さんが苦勞を

話す。受賞について、嶋野さんは「学生が選ぶ賞はないのだけれど」と喜ぶ。



▲ ソフト開発学習 自由部門優秀賞
▼ 犬の飼育体験 課題部門敢闘賞

▲ 学生が選ぶ優秀作品で二位に入った(左から)豊さん、池田さん、岡さん、嶋野さん

出典：平成 17 年 10 月 22 日付け愛媛新聞

資料 5 - 4 - - 9

広島県因島・瀬戸田周辺地域の週刊新聞

せとうちタイムズ

囲碁「鳳凰杯」中国予選 重井の峯松君全国大会へ

掲載号 05 年 07 月 16 日号 

プロやアマ、性別、国籍を問わず参加できる囲碁大会「鳳凰杯」(日本囲碁連盟主催)の中国地区予選が 6 月 26 日、広島市であり、重井町の峯松昌彦君＝写真＝(弓削商船)が全国大会への初切符を手にした。



全国大会は 30 日から東京・代々木で開かれる。参加する代表棋士は 64 人で、賞金は百万円。中国地方や福岡県から、小学生から高齢者まで計 40 人が出場。変則リーグ 3 回戦で出場権を争った。

峯松昌彦君は重井中学校から弓削商船に進学。現在電子機械工学科 4 年。体力づくりのために、重井と弓削を自転車通学している。囲碁を本格的に始めたのは中学校時代でメキメキ腕をあげた。物静かで落ちついた棋風。粘り強さには定評がある。

出典：平成 17 年 7 月 16 日付けせとうちタイムズ

資料5 - 4 - - 1 0

**弓削商船高等専門学校 板東卓哉さん・難波慎治さん・堀田裕司さんが
国民体育大会のセーリング（ヨット）競技に出場！**

今夏、岡山県で開催された国民体育大会のセーリング競技に、弓削商船高等専門学校の板東卓哉さん・難波慎治さん（FJ級）、堀田裕司さん（シーホッパー級スモールリーグ）が出場しました。

成績は、板東さん・難波さんが39位、堀田さんが40位と健闘およびませんでした。全国レベルで戦った経験を今後の糧として、ますます頑張ってください。



左から 難波さん・板東さん・堀田さん

2005年11月 19

出典：上島町広報「かみじま」(平成17年11月)

資料 5 - 4 - - 1 1

ソーラーボート部



自分で作って
自分で乗る！

新部員を募集しています。

ピットクルー&ドライバー

商船祭イベント

プールで試乗会

11/12-13

10:00~12:30

貴方も夏休み期間中の柳川ソーラーボート大会に出場

しませんか？



出典：平成 17 年度商船祭パンフレット

専攻科課程

観点 5 - 5 - 準学士過程の教育との連携を配慮した教育課程となっているか。

(観点到係る状況)

専攻科の教育課程と準学士課程の教育との連携は、昨年の専攻科設置時に作成した資料「未来へのひとづくりものづくり」の中で明確にしている(資料 5 - 5 - - 1 ~ 2)。

海上輸送システム工学専攻については、商船学科における航海コース・機関コースの2つの系との連携を図り、生産システム工学専攻については、電子機械工学科と情報工学科の2学科との連携を図っている。

また、専攻科の授業科目は、母体となる準学士課程の各学科の授業科目を基礎として、より高度な内容への発展・融合、応用力の育成などが図られるように連続性を考慮し配置されている(資料 5 - 5 - - 3 - (1) ~ (3))。

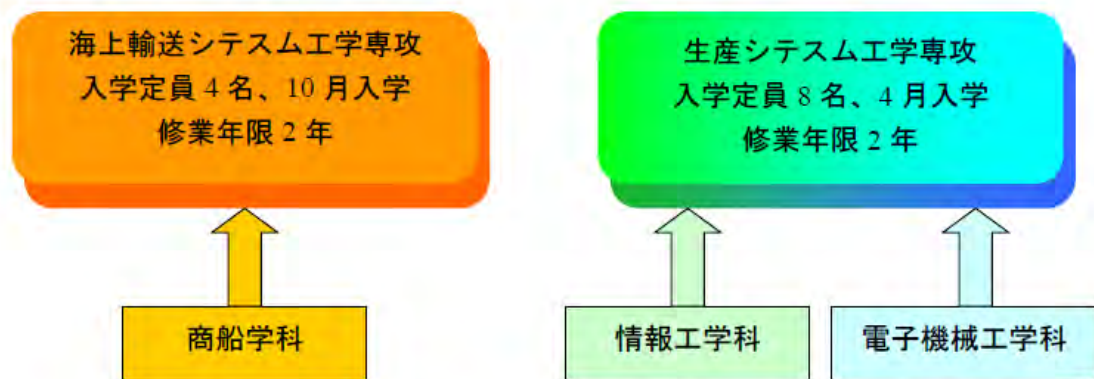
(分析結果とその根拠理由)

専攻科における教育内容と準学士課程の各コース・各学科の教育との連携は、専攻科設置時から明確にされている。また、学科・専攻科科目の関連図から、専攻科に配置される授業科目が準学士課程における授業科目を基礎として、連続性を持たせて体系的に配置されていると認められる。

以上のことから、本校の専攻科の教育課程は準学士課程の教育との連携を配慮したものとなっている。

資料 5 - 5 - - 1

教育課程



海上輸送システム工学専攻

海事管理技術者の養成

海事管理は、大きく運航管理と機関管理からなっています。一年間の航海実習を経験した上で、海上輸送システム工学専攻に進み商船学、物流管理、運航管理および機関管理を学ぶことで運航に必要な技術のみならず、管理技術・ノウハウをも身に付け陸上から船舶運航を管理、支援することのできる人材を育成します。

生産システム工学専攻

実践的な「ものづくり技術者」の養成

情報技術、ものづくり技術を柱とし、制御、電気電子系の専門知識を学ぶことで、複合領域で活躍できる人材を育成します。従来までに学んできた情報工学やものづくり技術を統合して活用できるようになれば、システムの設計・構築から解析まで幅広い分野で活躍できるようになります。

出典：専攻科資料「未来へのひとつづくりものづくり」

資料 5 - 5 - - 2

海上輸送システム工学専攻

Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course

海上輸送システム工学専攻は、本科の船員育成教育課程（航海学、機関学などの船舶運航に必要な基礎課程）と大型練習船実習（一年間の国内と遠洋航海）を修了し、国際航海に従事できるまでに出来上がった海技技術者に対して、高度の海事関連教育を行う課程です。

近年の総合物流システムはグローバル化してきており、海上輸送システムにおいても海洋環境の問題をはじめとし、多種多様な関連技術を有する技術者が求められています。

そこで、本専攻科では本科での実践的船舶運航技術に加え、高度な運航管理技術と船用機関システム管理技術を学び、高度化・高知能化された海上輸送システムの管理技術、海洋環境制御技術、さらに船用機関システム管理技術を有し、ウォーターフロント分野にも対応できる多様な技術を有する技術者の養成を行います。本専攻は航海系と機関系の2つの系に分かれており、以下に示す教育を行います。

(1) 航海系 (Navigation) の教育

- ❖ 海上輸送システム、マネジメントに関連する共通の教育
- ❖ 運送管理、海事シミュレーション、海運、法規の専門教育
- ❖ 幅広い国際的視野を持つ技術者の育成

(2) 機関系 (Engineering) の教育

- ❖ 海上輸送システム、マネジメントに関連する共通の教育
- ❖ 機関、制御、エネルギー変換、コンピュータ、材料に関する専門教育
- ❖ 幅広い独創的開発能力を持つ技術者の育成

生産システム工学専攻

Advanced Production Systems Engineering Course

最近の機械はほとんどがコンピュータによって自動的に動き、また、機械自体を作る時にもコンピュータで設計するなど情報科学の知識を利用しています。そこで、生産システム工学専攻では機械の基礎とコンピュータの基礎をもとに、コンピュータを駆使してものづくりができる技術者を養成することを目的としています。

技術者教育の基本としてきた「ものづくり」をさらに発展させ、ローテクからハイテクまでの各種テーマについて基本原理だけでなくソフトウェアエンジニアリングや、ものづくり関連の機械的および電気的・システム運用などを精深に教授し、柔軟な応用力を身につかせます。また、電子機械工学科と情報工学科を融合させることで、人工知能や画像処理などのIT化によって高知能・高精度化された「ものづくり」に対応できる技術を身につかせます。本専攻は機械工学系と情報工学系の2つの系にわかれており、以下に示す教育を行いません。

(1) 機械工学系 (Mechanical Engineering) の教育

- ❖ 本科における機械工学の基礎知識に加え、コンピュータ支援技術 (CAE) や機械制御技術の教育
- ❖ 高度な数値解析技術、制御技術に関する講義と実験・実習
- ❖ 問題解決の実行力と独創的な想像力を有する技術者の育成

(2) 情報工学系 (Information Science and Technology) の教育

- ❖ 情報科学・情報技術に必要な基礎となる工学体系と関連技術の教育
- ❖ 情報システムのソフトウェア、ハードウェア、ネットワークの研究開発に貢献する人材の育成
- ❖ 個性と創造性を持つ、国際的な視野に立つ研究開発技術者の育成

出典：専攻科資料「未来へのひとづくりものづくり」

資料5 - 5 - - 3 - (1)

商船学科と海上輸送システム工学専攻の科目対応

本科	専攻科
物理	文書表現論
化学	数理工学
応用数学	物理学特論
専門英語 1. 2	環境化学概論
情報処理 1. 2	技術英語 1. 2
航海学実験、工学実験	情報処理特論
航海学実習、機関学演習	海事科学実験
卒業研究	海事科学演習
計測工学 1. 2	特別研究
航海学概論、	環境マネジメントシステム
機関学概論	商船システム概論
船舶安全工学 1. 2	海上輸送工学
海事法規 1. 2. 3	危機管理学
船舶工学 1. 2	船舶安全工学特論
運送管理学 1. 2	海洋環境法規
航海計測学	船舶工学特論
航海学 1. 2	運送管理学特論
海上交通工学	海事シミュレーション工学
海上交通法	航海システム論
操船学	海上交通工学特論
海運経済論	海難論
海運論	操船環境論
船体運動力学	海運経済特論
熱力学 1. 2	海事国際法
材料力学 1. 2	海上労働論
材料学 1. 2	船体運動力学特論
制御工学 1. 2	エネルギー変換学
機械工作法	熱機関工学
電気機器 1. 2. 3	制御特論
内燃機関学 1. 2. 3	機械加工学
蒸気工学 1. 2. 3	弾塑性学
冷熱工学	コンピュータ機械設計
推進論	機関システム工学
潤滑工学	材料学特論
設計製図	推進特論
	潤滑工学特論

出典：専攻科

資料 5 - 5 - - 3 - (2)

電子機械工学科と生産システム工学専攻の科目対応

本科	専攻科
工業英語、	文書表現論
卒業研究	数理工学
応用数学	物理学特論
応用物理	環境化学概論
化学	技術英語 1
情報処理	技術英語 2
情報処理特論	情報処理応用論
設計製図	特別研究
工学実験	技術文献ゼミ
計測工学	生産システム工学実験
システム工学	生産システム工学演習
ロボット工学	感性工学
パワーエレクトロニクス	ロボティクス
シーケンス制御	システム L S I 設計
電子回路	信号処理理論
電気回路	センシング論
制御工学	電子回路応用
電磁気学	数値解析特論
電子工学	離散数学
電子回路特論	計算機制御システム
数値解析	精密加工学
計算機制御	エネルギー変換学
デジタル制御工学	材料強度学
工作機械	コンピュータネットワーク
熱力学	ソフトウェア工学特論
エネルギー工学	情報機器特論
工業力学	画像応用システム工学
電子計算機	環境マネジメントシステム
電気電子機器	設計工学
機構学	弾塑性学
材料力学	人工知能特論
表面力学	データ構造
材料学	CAD/CAM
	トライボロジー
	材料学特論
	マルチメディア特論

出典：専攻科

資料 5 - 5 - - 3 - (3)

情報工学科と生産システム工学専攻の科目対応

本科	専攻科
科学技術英語、	文章表現論
卒業研究	数理工学
応用数学	物理学特論
応用物理	環境化学概論
化学	技術英語 1
電子計算機	技術英語 2
情報処理	情報処理応用論
情報工学実験	特別研究
海事工学演習	技術文献ゼミ
システム工学	生産システム工学実験
オペレーションズ・リサーチ	生産システム工学演習
電子回路	感性工学
機械工学	ロボティクス
電気工学	システム L S I 設計
電子工学	信号処理理論
制御工学	センシング論
計測工学	電子回路応用
論理回路	数値解析特論
数値解析	離散数学
情報理論	計算機制御システム
アルゴリズム	精密加工学
通信工学	エネルギー変換学
オペレーティング・システム	材料強度学
プログラミング特論	コンピュータネットワーク
情報機器	ソフトウェア工学特論
画像処理	情報機器特論
環境工学	画像応用システム工学
人工知能	環境マネジメントシステム
製図・CAD	設計工学
通信工学	弾塑性学
マルチメディア工学	人工知能特論
	データ構造
	CAD/CAM
	トライボロジー
	材料学特論
	マルチメディア特論

出典：専攻科

観点 5 - 5 - 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系的性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況)

本校の専攻科の教育目的については、「実際のシステムの運用・管理や開発能力、ものづくりに必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成」と明確にしており、その下に学習目標として「早期専門教育や実験実習等の実践的教育によって培われた中堅技術者としての能力・素養を基礎として、大学卒業生とは異なる実践的能力に裏打ちされた創造力、技術開発能力あるいは工学的センスをもつ高度な実践的専門技術者を養成すること」と定めている（資料 5 - 5 - - 1）。各専攻においては、より具体的な教育目標が設定され、さらにそれぞれの系別に学習・教育目標を掲げている（資料 5 - 5 - - 2）。

これらの教育目的及び学習目標を達成するために授業科目を体系的に配置している。授業科目は、専門基礎科目、専門必修科目、専門選択科目に分類され（資料 5 - 5 - - 3 及び 4（1）～（2））、技術者としての基礎的及び発展的な能力・素養を育成するように配慮されている。また、創造的、技術開発能力を育むために 1 学年、2 学年ともに特別実験と特別研究を配置している（資料 5 - 5 - - 5）。

授業内容についてはシラバス（資料 5 - 6 - - 1）に明記されており、学習・教育目標に沿ったものとなっている。

学士の学位取得については、大学評価・学位授与機構の分類による専門分野の基準に対応して取得できるように編成している（資料 5 - 5 - - 4（1）～（2））。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の教育目的を達成するために、各専攻では専攻ごと及び系統別に学習・教育目標が定められ、適切な授業内容となるように配慮されている。また、教育目標に掲げられたレベルに到達するために段階的な履修が可能となるように授業科目が配置され、学士の学位取得が可能となるように体系的に教育課程が編成されている。

資料 5 - 5 - - 1

I 弓削商船高等専門学校専攻科の学習・設置目的

本専攻科の特徴は、最先端の知識の教授のみならず、工学の基本的知識を縦横に応用でき、問題提起能力、解析能力及び問題解決能力を高めるような教育を行うことである。すなわち、早期専門教育や実験実習等の実践的教育によって培われた中堅技術者としての能力・素養を基礎として、大学卒業生とは異なる実践的能力に裏打ちされた創造力、技術開発能力あるいは工学的センスをもつ高度な実践的専門技術者を養成することを目的としている。

出典：専攻科シラバス

資料 5 - 5 - - 2

II 学習・教育目標

本専攻科は海上輸送システム工学専攻（航海系・機関係）、生産システム工学専攻（機械系・情報系）からなる。2専攻とも、実際のシステムの運用・管理や開発能力、ものづくりに必要な基礎理論の応用力を身につけた技術者の育成を目標としている。

・ 海上輸送システム工学専攻

本専攻は、グローバル化している総合物流システムの中の、海上輸送システムに対応できる運航管理技術者と船用機関係システム管理技術者、さらに船舶運航・システム管理技術をベースに、海洋環境保全技術を踏まえた海事関連技術分野にも対応できる多種多様な関連技術を有する技術者の育成を目標とする。

(1) 航海系

本科航海コースでの実践的船舶運航技術に加え、海上輸送のシステムやマネジメントに関連する共通専門教育を行い、さらに運送管理や海事シミュレーション、海運、法規など航海系の密度の濃い専門

教育を行い、幅広い国際的視野を持った技術者の育成を目指している。

(2) 機関係

本科機関係コースでの実践的船舶運航技術に加え、海上輸送のシステムやマネジメントに関連する共通専門教育を行い、さらに機関、制御、エネルギー変換、コンピュータ、材料など機関係の濃い専門教育を行い、幅広い独創的開発能力を持った技術者の育成を目指している。

・ 生産システム工学専攻

本専攻では、技術者教育の基本としてきた「ものづくり」をさらに発展させ、ローテクからハイテクまでの各種テーマについて基本原理だけでなくソフトウェアエンジニアリングやものづくり関連の機械的及び電氣的・システム運用などにも精深に教授し、柔軟な応用力を身につけさせる。また、電子機械工学科と情報工学科を融合させることで、人工知能や画像処理などのIT化によって高知能・高精度化された「ものづくり」に対応できる技術者の育成を目指している。

出典：専攻科シラバス

(1) 機械工学系

高等専門学校における数学、力学や情報などの機械工学に関する基礎知識に加え、コンピュータ支援技術(CAE)や機械制御技術を会得するための高度数値解析技術や制御技術に関する講義と実験・実習を組み合わせ教授・研究し、課題解決の実行力と独創的な創造力を有する技術者を育成することを目指している。

(2) 情報工学系

高等専門学校における実践的技術者教育の上に、精深な程度において情報工学とその関連技術を教授・研究し、コンピュータを中心とした情報システムのソフトウェア・ハードウェア・ネットワークの研究開発に貢献する人材を育成することを目指している。

情報工学の基礎となる数学と情報科学、情報技術の基礎となる工学の体系及び情報技術者に必要な関連技術を教授し、個性と創造性を育て、国際的な視野に立つ研究開発技術者の育成を目標にしている。

出典：専攻科シラバス

資料 5 - 5 - - 3

カリキュラム

専門基礎科目

- ❖ 語学系：技術英語や文書表現論など、技術者に必須な表現力、プレゼンテーション能力を養成します。
- ❖ 理数系：数理工学、化学、物理学など、専門科目を学ぶために必要な技術と知識を深めます。

専門必修科目

- ❖ 特別研究・実験・演習：専門科目の知識だけではなく、研究能力を向上させるための実践的な力を養います。

専門選択科目

海上輸送システム工学専攻

- ❖ 航海系・機関係共通科目：環境、危機管理、安全工学など、これからの海事管理技術者に必須となる海事関連の技術を学び、総合的な力を養います。
- ❖ 航海系：海上輸送システム、船舶安全管理システム、海上社会システム（海運経済・管理・経営）などのウォーターフロント分野に関する技術と知識を養います。
- ❖ 機関係：海洋機械工学および船舶機械システムなど、船舶運航に必要かつ重要な点を認識しつつ学び、用途を熟知したものづくりができる力を身につけます。

生産システム工学専攻

- ❖ 機械系・情報系共通科目：感性工学、人工知能、画像応用工学など、機械系と情報系の分野が融合して成り立っている分野を学び、高知能化しているシステム全体をとらえる力を養います。
- ❖ 機械系：加工、エネルギー、材料、設計など、機械系の要となる技術を深く学び、自由に応用できる力を養います。
- ❖ 情報系：ネットワーク、データ構造、信号処理、環境マネジメントなど、システム全体を管理し運用するための技術を身につけます。

出典：専攻科資料「未来へのひとづくりものづくり」

資料 5 - 5 - - 4 - (1)

海上輸送システム専攻

学位授与機構 (専門・関連科目の区分)

授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当		備 考	航海コース	機関コース	担当教員
		1 年 前 期	2 年 後 期				
専 門 基 礎 科 目							
文書表現論	2	2			商船学の基礎		猪川
教理工学	2	2			商船学の基礎		藤井
物理学特論	2	2			商船学の基礎		後中
環境化学概論	2	2			商船学の基礎		飯塚
技術英語 1	2	2			商船学の周辺		上江
技術英語 2	2	2			商船学の周辺		野口
情報処理特論	2	2			商船学の周辺		田房
専門基礎科目必修単	14	6	8				
特別研究	16	2	2	3	B群：実験・演習	B群：実験・演習	講師以上 (博士)
海事科学実験	4	2	2		B群：実験・演習	B群：実験・演習	中家・松下・友田・多田光・高岡
海事科学演習	2	1	1		A群：航海学	A群：機関学	石橋・中・高岡・湯田
専門科目必修単位数	22	5	5	3			
環墳マナーシメントシス	2	2			A群：商船学	A群：商船学	塚本
高船システム概論	2	2			A群：商船学	A群：商船学	松下
海上輸送工学	2	2		2	A群：商船学	A群：商船学	猪俣・高岡
危機管理学	2	2			A群：商船学	A群：商船学	多田勝
船舶安全工学特論	2	2			A群：商船学	A群：商船学	多田光
海洋環境法規	2	2			商船学の周辺	商船学の周辺	中家
船舶工学特論	2	2			A群：商船学	A群：商船学	湯田
運送管理学特論	2	2		2	A群：航海学		児玉
海事シミュレーション	2	2		2	A群：航海学		高岡
航海システム論	2	2		2	A群：航海学		高岡
海上交通工学特論	2	2			A群：航海学		多田光
海難論	2	2		2	A群：航海学		多田光
機船環境論	2	2			A群：航海学		田原
海運経済特論	2	2			A群：航海学		中家
海事国際法	2	2			A群：航海学		山尾
海上労働論	2	2		2	A群：航海学		児玉・中家
船体運動力学特論	2	2			A群：航海学		湯田
エネルギー変換学	2	2			A群：機関学	A群：機関学	石橋
熟機関工学	2	2			A群：機関学	A群：機関学	石橋
制御特論	2	2		2	A群：機関学	A群：機関学	柳久保・友田
機械加工学	2	2			A群：機関学	A群：機関学	友田
弾塑性学	2	2		2	A群：機関学	A群：機関学	中
コンピュータ機械設	2	2			A群：機関学	A群：機関学	中山
機関システム工学	2	2		2	A群：機関学	A群：機関学	松下
材料科学特論	2	2			A群：機関学	A群：機関学	村上
推進特論	2	2		2	A群：機関学	A群：機関学	湯田
潤滑工学特論	2	2			A群：機関学	A群：機関学	塚本
専門科目選択単位数	34	16	8	8	A群：30単位以上 (2区分以上) ; 30単位以上 (各2区分以上)		
専門科目単位数計	56	21	13	11	B群：6単位以上 A+B群：40単位以上	B群：6単位以上 A+B群：40単位以上	
合 計	70	27	21	11	関連科目：4単位以上	関連科目：4単位以上	

出典：専攻科委員会

資料5 - 5 - - 4 - (2)

生産システム工学専攻

学位授与機構(専門・関連科目の区分)

授業科目	単位数	学年別配当		備考	機械工学	情報工学	担当教員
		1年前期	2年後期				
文書表現論	2	2			工学の基礎		堀川
数理工学	2	2			工学の基礎		藤井
物理工学特論	2	2			工学の基礎		藤甲
機械化学概論	2	2			工学の基礎		飯塚
技術英語1	2	2			工学の基礎		村上
技術英語2	2	2			工学の基礎		野口
情報処理応用論	2	2			A群: 知能機械・機械システム	A群: 情報工学基礎	長尾
専門基礎科目必修単位数	14	8	6				
特別講義	16	2	2	3	B群: 実験・演習	B群: 実験・演習	講師以上(博士)
技術文獻ゼミ	2	1	1		B群: 実験・演習	B群: 実験・演習	高木・藤本
生産システム工学実習	2	2			B群: 実験・演習	B群: 実験・演習	高尾・熊谷准・松本・藤田・尾藤
生産システム工学演習	2	2			B群: 実験・演習	B群: 実験・演習	
専門科目必修単位数	22	5	5	3			
感性工学	2		2		A群: 機械力学・制御	: 電気電子・通信・システム	藤久保
ゼンシンド論	2		2		A群: 機械力学・制御	: 電気電子・通信・システム	藤久保
数値解析特論	2		2		A群: 設計・要素・トライボロ	A群: 情報処理	藤
計算機制御システム	2		2		A群: 知能機械・機械システム	A群: 計算機システム	藤本
ソフトウェア工学特論	2		2		A群: 知能機械・機械システム	A群: 計算機システム	田原
画像応用システム工学	2		2		A群: 知能機械・機械システム	A群: 情報処理	長尾
人工知能特論	2		2		A群: 知能機械・機械システム	A群: 情報処理	矢野・田原
マルチメディア特論	2		2		A群: 知能機械・機械システム	A群: 情報処理	藤久保
ロボティクス	2		2		M	工学・周辺技術	
精密加工工学	2		2		A群: 機械工作・生産工学	工学・周辺技術	大石
エネルギー変換工学	2		2		A群: 熱工学	工学・周辺技術	石橋
材料強度工学	2		2		A群: 機械材料・材料	工学・周辺技術	藤
設計工学	2		2		A群: 設計・要素・トライボロ	工学・周辺技術	牛
弾塑性工学	2		2		A群: 機械材料・材料	工学・周辺技術	牛
CAD/CAM	2		2		A群: 機械工作・生産工学	工学・周辺技術	牛山
トライボロジー	2		2		A群: 設計・要素・トライボロ	工学・周辺技術	藤本
材料科学特論	2		2		A群: 機械材料・材料	工学・周辺技術	村上
システムISI設計	2		2		A群: 機械材料・材料	工学・周辺技術	藤本
信号処理論	2		2		工学・周辺技術	: 電気電子・通信・システム	藤田
電子回路応用	2		2		工学・周辺技術	: 電気電子・通信・システム	藤田
離散数学	2		2		工学の基礎	A群: 情報工学基礎	藤本
コンピュータネットワーク	2		2		工学・周辺技術	A群: 計算機システム	田原
情報機器特論	2		2		工学・周辺技術	A群: 計算機システム	田原
画像マニピュレーション	2		2		工学・周辺技術	: 電気電子・通信・システム	藤本
データ構造	2		2		工学・周辺技術	A群: 情報工学基礎	長尾
専門科目選択単位数	50	14	22	12	A群: 30単位以上(4区分以上)・30単位以上(各4単位以上)		
専門科目選択単位数計	72	19	27	15	B群: 6単位以上	B群: 6単位以上	
合計	86	27	33	15	A+B群: 40単位以上	A+B群: 40単位以上	
					関連科目: 4単位以上	関連科目: 4単位以上	

出典：専攻科委員会

観点 5 - 5 - 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

昨年の専攻科発足時に行った企業に対するアンケート結果から、本校の専攻科に対して「海事管理技術者」や「IT化されたものづくり技術者」への期待が大きいことが判明しており（資料 5 - 5 - 1）、それらの背景を踏まえて、学術の発展動向や社会からの要請に対応した教育課程を編成している（資料 5 - 5 - 2 - （1）～（2））。

他専攻の授業科目の履修や他高等教育機関での単位修得の認定については、実績はまだない。また、専攻科でのインターンシップ実施については検討中である。実践的な英語力向上については、「技術英語 2」の中で TOEIC に関連したテキストを使用し、コミュニケーション能力の育成に取り組んでいる（資料 5 - 5 - 3）。

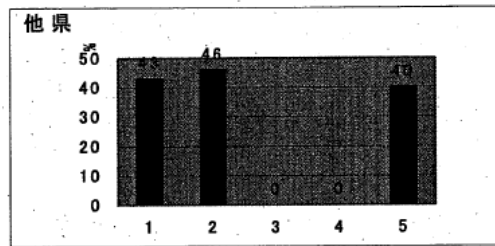
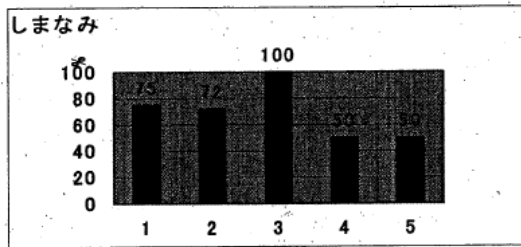
外部有識者で構成される運営諮問会議（平成 17 年 7 月第 2 回実施）において諮問事項として「専攻科の発足と内容の充実へ向けて」を挙げており（資料 5 - 5 - 4）、提言された内容について専攻科教育へ反映している。また、「専攻科だより」を発行し、本科学生や保護者へも配布して専攻科への理解を深めてもらい、ニーズを聴取して行くことにしている（資料 5 - 5 - 5）。今後、専攻科修了生を輩出した段階で、修了生や就職先企業へのアンケートを実施し、その結果を踏まえて要請された教育課程の編成に対応して行く計画である。

（分析結果とその根拠理由）

学術の発展動向や社会からの要請を考慮した上で専攻科の設置が行われている。本校の専攻科は昨年発足したばかりであり、学生のニーズに対する対応については、今後、専攻科修了生を輩出した段階で各種アンケートを実施し、更に充実した教育課程の編成に取り組んでいく計画である。

資料5 - 5 - - 1

6. 専攻科修了生の必要性



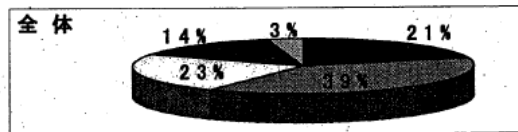
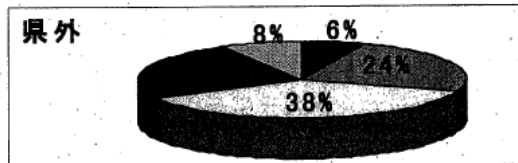
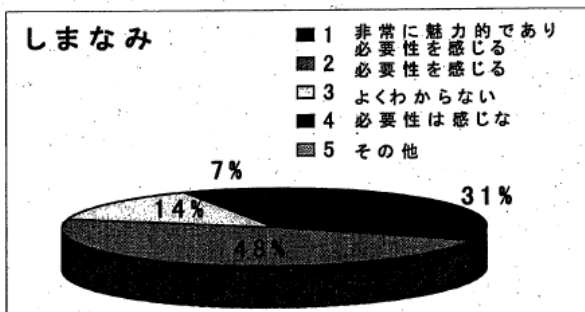
- 1 : ①製造業 (回答数 28社)
 2 : 物流・運輸業 (回答数 29社)
 3 : 電子・通信・情報サービス業 (回答数 6社)
 4 : 建設・機械産業 (回答数 4社)
 5 : その他 (回答数 4社)

- 1 : 製造業 (回答数 7社)
 2 : 物流・運輸業 (回答数 33社)
 3 : 電子・通信・情報サービス業 (回答数 3社)
 4 : 建設・機械産業 (回答数 1社)
 5 : その他 (回答数 5社)

専攻科修了生の必要性

産業分野における専攻科修了生の必要性に関する回答結果を図に示す。主な就職先となる産業分野（主に製造業と物流・運輸業）での専攻科修了生の必要性に関して、肯定的な回答（必ずある、ある）は「しまなみ海道」地域の製造業、物流・運輸業が約75%、他県の物流・運輸業が約45%であった。「しまなみ海道」地域の製造業、物流・運輸業に関しては専攻科修了生への期待度が高いことが伺える。尚その他の分野については、アンケート回答数が少ないため考察は行ななかった。

7. 専攻科修了生と地域との密着性



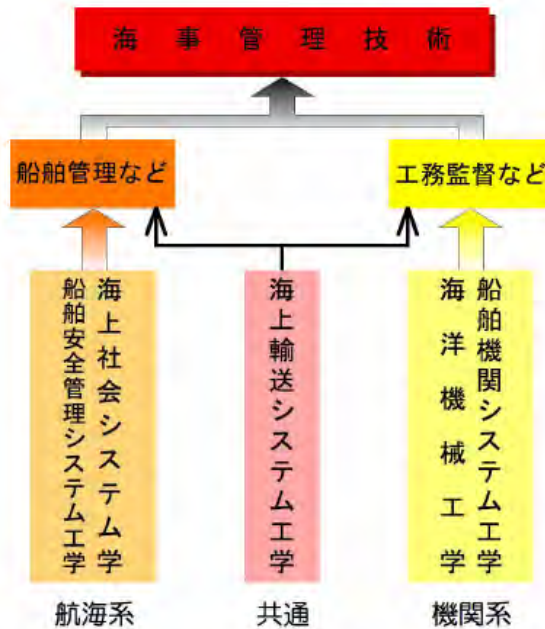
専攻科修了生と地域との必要性

図は地域の特色を心得た専攻科修了生に対する企業の考え方を問う設問の回答結果である。「非常に魅力的であり必要性を感じる」、「必要性を感じる」への回答は「しまなみ海道」地域（79%）が他県（30%）に対し大きく上回った。このことから、本専攻科で養成する「海事管理技術者」や「IT化されたものづくりの技術者」について、特にが大学工学系学部の皆無な「しまなみ海道」地域から強く要請されていることが改めて明らかになった。

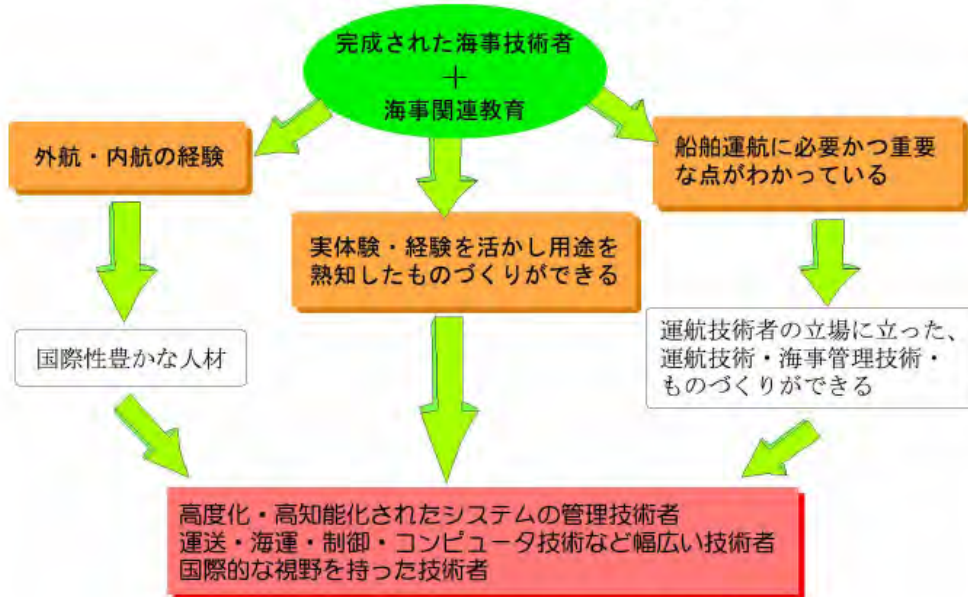
出典：専攻科概算要求書

資料 5 - 5 - - 2 - (1)

海上輸送システム工学専攻



グローバル化している海上輸送システムに対応できる技術者を目指します

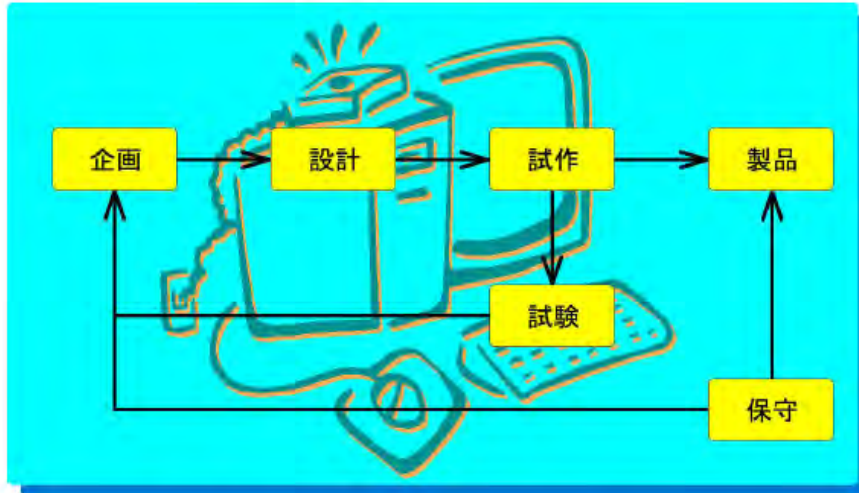


一年間の航海実習の経験が活かせるカリキュラムになっています

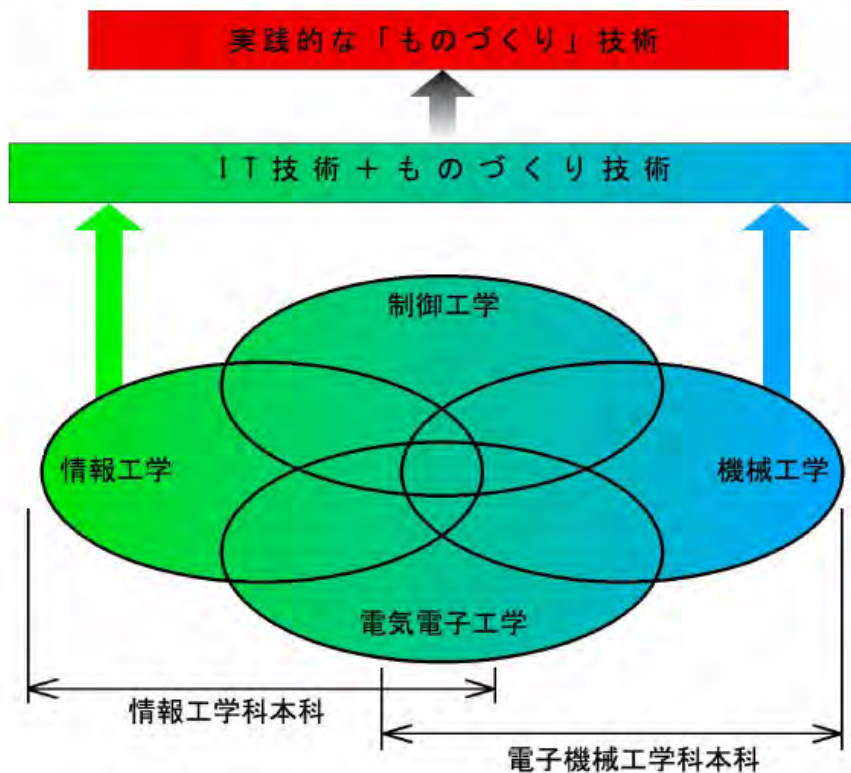
出典：専攻科資料「未来へのひとづくりものづくり」

資料 5 - 5 - - 2 - (2)

生産システム工学専攻



コンピュータはものづくりの全ての工程で使われています



情報技術とものづくり技術の融合を図ります

出典：専攻科資料「未来へのひとづくりものづくり」

資料 5 - 5 - - 3

授業科目	技術英語 2			担当教官	坂内宏行		
学 科	生産システム工学	学 年	1 年	授業期間	前期	単位数	2
分 野	専門基礎	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	技術英語に用いられる語彙や表現法を学習し、それぞれの専門分野に関連のある英文マニュアルやホーム・ページなどを素早く読みこなしていく能力を身につける。また、技術英語に限らず、全般的なコミュニケーション能力の向上を目指し、その目安として TOEIC を利用する。						
授業の進め方	教科書、プリントを用いた読解演習と、グループ・ワークや英語でのディスカッションを通じて、口頭でのコミュニケーション能力を訓練する。						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 技術英語の特徴の説明 英語の訓練法について 2. 基本動詞を用いた表現、挨拶に関する表現 3. 基本演算に関する表現、天候に関する表現 4. 分数に関する表現、買い物に関する表現 5. 比較についての表現、趣味やレジャーに関する表現 6. 位置関係を表す表現、スポーツ観戦に関する表現 7. 温度・速度に関する表現、不動産に関する表現 8. 中間試験 9. 角度・緯度・経度に関する表現、環境問題に関する表現 10. 面積・体積に関する表現、職業に関する表現 11. 長さ・幅・深さに関する表現、食事と栄養に関する表現 12. 製品説明に用いる表現、健康に関する表現 13. 論文・報告書で用いる表現、交通に関する表現 14. 仕様書・契約書で用いる表現、海外旅行に関する表現 15. 期末試験 						
教科書 参考書	5 分間技術英語 (南雲堂) TOEIC テスト実践コース Book 1 (成美堂) プリント						
評価方法	定期試験 50%、授業への参加 30%、課題など 20%。 授業以外での自主学習と授業中への積極的な参加が必要である。						

出典：専攻科シラバス

資料 5 - 5 - - 4

.

④船舶の管理、人の管理ができ、海上だけではなく様々な物流システムに対応できる、新しい時代の高度な実践的技術者の育成（資料 10）

平成 17 年 4 月に生産システム工学専攻 8 名、10 月に海上輸送システム工学専攻 11 名が入学した。専攻科においては特別研究を最も重要な授業科目としている。専門知識の総合化と深化を図り、自発的問題解決に向けて広い視野から理論的、実践的に考究、実行する能力と創造的技術開発能力を育成することを目的としている。研究成果は、関連学会及び関係論文集等に積極的に発表することを目的とし、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上を図ることとしている。

生産システム工学専攻では全学生に 8 月のオープンカレッジまでに各々の研究をポスターにした。

9 月には高松で開催された平成 17 年度電気関係学会四国支部連合会において 2 名が口頭発表を行った。12 月には専攻科 1 期生が揃い、本校の地域共同研究推進センターが協賛して日本塑性加工学会中国四国支部学生研究発表会を本校で開



学生研究発表会

催し専攻科生 5 名が口頭発表を行い、専攻科がスタートしたばかりの本校

においては、学生の意欲が高められた大変貴重で有意義な経験となった。その他、今年度内での口頭発表予定は 3 月に東京で開催される 2006 年電子情報通信学会総合大会において 2 名が発表の予定であり、広島で開催される日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生卒業研究発表講演会にて 6 名の発表が予定されている。

以上のポスター展示、口頭発表に加えて、本校の第 28 号紀要に 3 件の論文が掲載予定である。

専攻科では次年度も特別研究で行っているより高度な研究を、外部での研究発表を積極的に行う予定で指導している。

出典：平成 17 年度自己点検評価報告書

専攻科だより

— 専攻科1年をふり返って —

専攻科長 中 哲夫

生産システム工学専攻主任 葛目 幸一

海上輸送システム工学専攻主任 高岡 俊輔

☆前期を修了して

海上輸送システム工学専攻

平成17年10月3日に海上輸送システム工学専攻の1期生として10名が入学して来ましたが、早いもので半年が過ぎました。海上輸送システム工学専攻は生産システム工学専攻と違い、半年遅れのスタートのため、前期が修了したことになります。船で例えると新造船「海上輸送システム丸」の試運転が完了し、これから大洋航海に乗り出す所に来たと言った所でしょうか。この新造船に乗組んでいる10名は、船会社で実際に船に乗っていた者1名、陸上企業で働いていた者2名、本科の遠洋航海から帰って来た新卒者7名のクルーです。この内、航海系は3名、機関系7名で日々船務(研究)に励んでいます。試運転の半年間には、学会発表6回、研究論文1篇という成果が出ました。上出来であったと感じます。これから大洋に出て行く上で、常に船位確認(研究の現状把握)をして、つぎの針路(研究の方向性)を決定し Course line (研究計画)に沿って順調に進んでほしいと思います。これからの長い航海の中には時化にも幾度となく遭遇すると思います。コースから大きく外れて grounding(座礁)や Short bunker(燃料切れ)を起こすことのないように目的地(専攻科修了、学位取得)まで頑張って航海してほしいと思います。現在、この船の当面の船首目標は、3月6日に開かれる「専攻科中間発表」です。エンジンモーションを徐々に上げて行き、良い結果を出してほしいと思っています。



海事科学実験風景

表1. 海上輸送システム工学専攻研究活動実績

研究活動内容	発表人数
日本航海学会講演会発表(神戸大学)	1名
日本塑性加工学会中国・四国支部学生研究発表会(弓削高専)	2名
弓削商船高等専門学校紀要 第28号	1名
機械学会・中国支部学生研究発表会(広島大学)	1名

() 内は講演会場

☆1年をふり返って

生産システム工学専攻

生産システム工学専攻がスタートし、早いもので1年近くが経とうとしています。専攻科の特徴は「特別研究」にあり、大学学部にはない「3年間にわたる実践的な研究」に没頭できる機会が与えられることです。学生達は2月に入り、特別研究中間発表や学会発表の準備で遅くまで実験室で格闘しています。この一年間を振り返ってみると、学生全員が学会発表2回、実用新案1件、キャンパスベンチャー四国「特別賞」受賞など、我々教員の予想を超える成果を挙げました。また、英語能力向上のため週一回ネイティブを交えてのワンコインレッスン、TOEIC 受験など自ら問題意識を持ち自発的に挑戦しています。英語能力に関しては、まだまだ「及第点」には到達していませんので、学生の努力に加え専攻科独自の「英語能力向上」のための何らかの対策を講じていく必要があります。

4月に入るといよいよ大学院入試や就職活動も本格化します。1期生8名のうち大学院進学希望者、就職希望者ともに4名です。われわれ教員スタッフも新しい歴史を作るべく専攻科一期生の就職・進学の支援に全力を尽くしたいと考えています。



日本塑性加工学会中・四国支部学生研究発表会の様子

表1. 生産システム工学専攻研究活動実績

研究活動内容	発表人数
電気関係学会四国支部連合大会(四国電力)	2名
日本塑性加工学会中国・四国支部学生研究発表会(弓削高専)	4名
電子情報通信学会総合全国大会(国士館大学)	2名
機械学会・中国支部学生研究発表会(広島大学)	6名
弓削商船高等専門学校紀要 第28号	2名
実用新案	1名
キャンパスベンチャー四国「特別賞」受賞	1名

() 内は講演会場

出典:「専攻科だより」第4号

観点 5 - 6 - 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。)

(観点に係る状況)

昨年、専攻科設置時に掲げた教育目標に沿ってシラバスを作成し、それに基づいて授業を実施しており、授業形態として、講義、演習、実験、研究をバランスよく配置している(資料 5 - 6 - - 1)。1 学年では高度な知識の習得やものづくりに必要な基礎理論及び応用力を身につけるため、各専攻とも講義の比率が高いが、2 学年では特別研究の割合が増え、創造力、技術開発能力の養成にウェイトが置かれるようになっている。

専門選択科目の中では、海上輸送システム専攻で航海系と機関係に、生産システム工学専攻で機械系と情報系に分かれる科目が多く(資料 5 - 5 - - 4 ~ 5)、少人数教育が実施されている。

また、討論形式を取り入れた授業(資料 5 - 6 - - 2)、練習船「弓削丸」を活用した実験(資料 5 - 6 - - 3)、本校の環境を活かした授業の取り組み(資料 5 - 6 - - 4)、情報系の授業を中心に情報機器の活用など、各授業科目にふさわしい学習指導方法の工夫を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の教育目標を達成するために、講義科目を中心に、演習、実験、研究がバランスよく配置され、実施されている。

また、少人数授業、討論形式やフィールドスタディを取り入れた授業、情報機器の活用、練習船「弓削丸」や環境を活かした授業など、それぞれの教育内容に応じた学習指導法の工夫がなされている。

資料 5 - 6 - - 1

海上輸送 (NE共通)

1年, 前期 (10-3)

		週時間	半期単位
講義	必修	6時間	6単位
講義	選択	16時間	16単位
	小計	22時間	22単位
特別研究	必修	6時間	2単位
実験	必修	6時間	2単位
演習	必修	2時間	1単位
	小計	14時間	5単位
	合計	36時間	必修11単位
			選択16単位

1年, 後期 (4-9)

講義	必修	8時間	8単位
講義	選択	8時間	8単位
	小計	16時間	16単位
特別研究	必修	6時間	2単位
実験	必修	6時間	2単位
演習	必修	2時間	1単位
	小計	14時間	5単位
	合計	30時間	必修13単位
			選択8単位
	総計	66時間	必修24単位
			選択24単位
			48単位

2年, 前期 (10-3)

講義	選択	8時間	8単位
特別研究	必修	9時間	3単位
	小計	17時間	11単位

2年, 後期 (4-9)

講義	選択	2時間	2単位
特別研究	必修	27時間	9単位
	小計	29時間	11単位
	総計	46時間	必修12単位
			選択10単位
			22単位

62単位 - (必修36単位 + 選択34単位) = 8単位
 選択4科目受講しない場合がリミット

出典：専攻科委員会

生産（機械系）

1年，前期（4-9） 週時間 半期単位

講義	必修	8時間	8単位
講義	選択	10時間	10単位
	小計	18時間	18単位
特別研究	必修	6時間	2単位
実験	必修	6時間	2単位
文献ゼミ	必修	2時間	1単位
	小計	14時間	5単位
	合計	32時間	必修13単位
			選択10単位

1年，後期（10-3）

講義	必修	6時間	6単位
講義	選択	14時間	14単位
	小計	20時間	20単位
特別研究	必修	6時間	2単位
文献ゼミ	必修	2時間	1単位
演習	必修	4時間	2単位
	小計	12時間	5単位
	合計	30時間	必修11単位
			選択14単位
	総計	66時間	必修24単位
			選択24単位
			48単位

2年，前期（4-9）

講義	選択	8時間	8単位
特別研究	必修	9時間	3単位
	小計	17時間	11単位

2年，後期（10-3）

講義	選択	2時間	2単位
特別研究	必修	27時間	9単位
	小計	29時間	11単位
	総計	46時間	必修12単位
			選択10単位
			22単位

62単位-（必修36単位+選択34単位）=-8単位
 選択4科目受講しない場合がリミット

生産（情報系）

1年，前期（4-9） 週時間 半期単位

講義	必修	8時間	8単位
講義	選択	6時間	6単位
	小計	14時間	14単位
特別研究	必修	6時間	2単位
実験	必修	6時間	2単位
文献ゼミ	必修	2時間	1単位
	小計	14時間	5単位
	合計	32時間	必修13単位
			選択6単位

1年，後期（10-3）

講義	必修	6時間	6単位
講義	選択	14時間	14単位
	小計	20時間	20単位
特別研究	必修	6時間	2単位
文献ゼミ	必修	2時間	1単位
演習	必修	4時間	2単位
	小計	12時間	5単位
	合計	30時間	必修11単位
			選択14単位
	総計	66時間	必修24単位
			選択20単位
			44単位

2年，前期（4-9）

講義	選択	12時間	12単位
特別研究	必修	9時間	3単位
	小計	21時間	15単位

2年，後期（10-3）

特別研究	必修	27時間	9単位
	小計	29時間	11単位
	総計	46時間	必修12単位
			選択12単位
			24単位

62単位-（必修36単位+選択32単位）=-6単位
 選択3科目受講しない場合がリミット

出典：専攻科委員会

資料 5 - 6 - - 2

授業科目	エネルギー変換学			担当教官	石橋洋二		
学 科	海上輸送システム	学 年	1 年	授業期間	後期	単位数	2
分 野	専門 E コース	授業形態	講義	履修区分	選択		
学習目標	エネルギー資源を利用しやすく便利なエネルギー形態に移行させることをエネルギー変換という。本授業ではさまざまなエネルギー変換技術の概要を学ぶとともに、我々の主要エネルギー源である化石燃料を熱エネルギーに変換する燃焼工学および燃焼現象の基本を学び、エネルギー資源の有効利用や環境保全に対する技術ベースを習得することを目的とする。						
授業の進め方	各章の基本事項を講義し、関連する章の区切りごとに課題討論および演習を行いながら授業を進める。時間の大きな比率は講義 70%、課題討論、演習が 30%。						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. エネルギーの種類とエネルギー変換 2. エネルギー変換の原理 : エネルギー変換現象の基本となる熱力学第一、第二法則、エネルギー変換速度、エネルギー変換効率などを学ぶ。 3. 燃焼の基礎 : 燃焼装置の運転、管理に必要な燃焼計算の基本事項を習得する。 4. 燃焼の熱力学 : 化学反応、反応熱、エネルギーバランスなどを学ぶ。 5. 気体燃料の燃焼 : 予混合燃焼と拡散燃焼の燃焼形態、火炎構造および発火、消炎、火炎伝播などの燃焼基本現象を学ぶ。 6. 液体燃料の燃焼 : 液体燃料の燃焼形態、微粒化、油滴の蒸発・燃焼および噴霧燃焼について学ぶ。 7. 固体燃料の燃焼 : 固体燃料の燃焼形態と燃焼方式を学ぶ。 大気汚染物質の生成とその抑制 : NO_x、SO_x、一酸化炭素、未燃炭化水素、スートの生成機構とその抑制技術を学ぶ。 						
教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギー変換の工学 森康夫、塩田進著 (共立出版) ・ エネルギー基礎論 (電気学会大学講座、電気学会) 燃焼工学 水谷幸夫著 (森北出版) 						
評価方法	定期試験 60%、レポート、演習 40%						
備考							

出典：専攻科シラバス

資料 5 - 6 - - 3

授業科目	海事科学実験			担当教官	中家、松下、友田、多田光、高岡		
学 科	海上輸送システム	学 年	1 年	授業期間	前後期	単位数	4
分 野	専門共通	授業形態	実験	履修区分	必修		
学習目標	海事関連分野の基礎および応用に関するテーマを中心に、解析、シミュレーションなどを含む実験を行い実践的技術者の資質を養う。						
授業の進め方	航海学系と機関学系にわかれ、半期をローテーションに学生が選択した実験課題ごとに実験室、校内練習船「弓削丸」および共同利用施設等で実験を行う。なお、実験の実施に関しては上記の担当教官のほかに複数の補助者がつくことがある。						
授業内容	<p>[クラス別]</p> <p>実験課題としては次のようなテーマがあげられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海上輸送システム学に関するテーマ（共通）・・・高岡 90h（航海系、機関系、共通） 2. 船舶安全管理システム学に関するテーマ（航海系）・・・多田 90h（航海系選択） 3. 海上社会システム学に関するテーマ（航海系）・・・中家 90h（航海系選択） 4. 海洋機械工学に関するテーマ（機関系）・・・友田 90h（機関系選択） 5. 船舶機械システム学に関するテーマ（機関系）・・・松下 90h（機関系選択） 						
教科書 参考書	実験のテーマごとに指定する。						
評価方法	実験への取り組み姿勢と実験報告書の完成度に基づき総合的に評価する。						
備考							

出典：専攻科シラバス

資料 5 - 6 - - 4

本校の環境を活かした授業改善への取り組み

科目名：環境化学概論	学科・学年：専攻科 1 年	単位：2 単位
取り入れたテーマ：海水中に含まれるイオンの定性分析	担当教員：飯塚芳徳	

①授業等への取り入れの工夫

時期：11月

時間数：2時間

実施場所：校内、松原海岸など

実施方法：イオン結合物質の溶解平衡に関する概略を講義した後、海水を採取し、溶解度積を利用して海水中に含まれるイオンの定性分析を行う。

②具体的な実施内容

溶解度積が 0 に近いイオン結合があり、溶解度積を利用して未知試料水に含まれるイオンを検出できることを講義した。その後、松原海岸で海水を採取し、海水中に塩化物イオン、硫酸イオン、マグネシウムイオン、カルシウムイオンなどが含まれていることを確認させた。それらの結果に基づき、海水中に含まれている他のイオンについて調べさせた。

③期待される教育効果

弓削という地域、専攻科目から海水は学生たちにとって身近な自然物質であるにもかかわらず、本校の学生は高専という専門教育プログラムのため地球物理・地理学的な海水についての知識は不足している。なぜ地球は水の惑星と呼ばれ海水が存在しているのか、海水は形成時から常に同じ成分を維持してきたのかなどを教示する際（これらは本実験の後に講義した）の初歩的な知識導入の目的で実施した。

出典：総合教育科

観点 5 - 6 - 創造性を育む教育方法（PBL など）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

専攻科教育は基本的に少人数教育であり，専攻科の教育目標を達成するため，各授業科目の中で，独創的な発想・実地的な開発能力の育成（資料 5 - 6 - - 1 ），実践的な問題解決能力を身につけさせる（資料 5 - 6 - - 2 ）など学生の創造性を育む教育を実施している。

また，特別研究においては，研究テーマに対する準備，研究実施方法，研究結果の取りまとめまで，学生に主体的に取り組ませ，創意工夫を積み重ねることで創造力を育てている（資料 5 - 7 - - 1 ）。その途中段階での発表の場として，特別研究中間発表会を実施している（資料 5 - 6 - - 3 ）。対外的にも，大学・高専発のベンチャーの創出を目標に実施されている新事業の提案コンペ「キャンパスベンチャーグランプリ（CVG）」に入賞するなどの成果を上げている（資料 5 - 6 - - 4 ）。

生産システム専攻においては，準学士課程でのインターンシップの経験などを活かし，より高水準で自己解決できる実践的な研究に結びついており，実用新案登録を取得するなどの効果を上げている（資料 5 - 6 - - 5 ）。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の教育目標に沿って，各授業の中で創造性を育む教育方法が工夫されている。特別研究では個別指導により問題提起能力，創造力，実践的問題解決能力が育成されるような指導が行われ，本科での研究を進展させ，実用新案登録を取得するなどの効果が上げられている。

資料 5 - 6 - - 1

授業科目	ロボティクス			担当教官	勘久保広一		
学 科	生産システム工学	学 年	1年	授業期間	後期	単位数	2
分 野	専門科目	授業形態	講義	履修区分	選択		
学習目標	最近のロボットシステム、特に生活支援・福祉のための開発事例について、着眼から開発までを中心に紹介し、独創的なロボット開発のために必要な発想法、新しい機構の開発手法、実際的な開発研究の進め方等を修得させる。						
授業の進め方	座学が中心である。最新の研究論文を使用して輪講形式の学生による課題のプレゼンテーションも行う。						
授業内容	<p>第1章 序論</p> <p>第2章 ロボットの誕生と発達 ①自動機械からロボットへ、②生産工程でのロボットの役目</p> <p>第3章 ロボットの形態、構造、要素 ①ロボットの形態、構造、要素の歴史、②ロボットの構造上の未来</p> <p>第4章 ロボット制御の基礎 ①ロボットの運動制御と制御理論、②線形フィードバック制御とロボット制御 ③ロボットの非線形制御</p> <p>第5章 ロボットのセンサとアクチュエータ ①ロボットのセンサーの現状と未来、②ロボットのアクチュエータの現状と未来</p> <p>第6章 生活支援・福祉のための人間協調型ロボット ①生活支援と福祉の現状、②生活支援と福祉のためのテクノロジー ③人間協調型ロボットの現状、④人間支援・協調型ロボットの将来</p>						
教科書 参考書	<p>【教科書】 ロボット学会誌から資料を抜粋して配布</p> <p>【参考書】 特になし</p>						
評価方法	定期試験の結果を 30%程度、課題レポート(樹的な研究課題も含む)を 50%程度、プレゼンテーションを 20%程度とし総合評価を行う。						
備考	授業は学会で発表された研究論文を中心に進める。また、積極的な姿勢で普段から新聞、雑誌等からロボットに関する資料を収集する必要がある。						

出典：専攻科シラバス

資料 5 - 6 - - 2

授業科目	データ構造			担当教官	長尾和彦		
学 科	生産システム工学	学 年	1 年	授業期間	後期	単位数	2
分 野	専門科目	授業形態	講義	履修区分	選択		
学習目標	プログラミングは、計算機による問題解決の唯一の手段である。本講義は、プログラミング作業をできるだけ形式化した、オブジェクト指向プログラミングの概念について解説し、問題解決法の習得を目標とする。また、有用なアルゴリズム、評価方法についても触れる。						
授業の進め方	プログラム言語として Java を用い、サンプルプログラムを通して、理解を深める。						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. データ構造とアルゴリズム 基本データ型 (ADT) の概念 アルゴリズム構築のためのロジックの組み立て PAD・UMLの導入 2. Javaの概要 3. 構造化プログラミング 4. オブジェクト指向プログラミング 5. ソートアルゴリズムと評価 バブル・挿入・選択・シェル・ハッシュ・クイック・ヒープ 6. 再帰的プログラミング 階乗の計算・分割統治・フラクタル 7. 探索アルゴリズムと評価 8. 動的データ構造 スタック・キュー・リスト・ツリー・ハッシュ 9. いろいろなアルゴリズム 腕づく法、欲張り法、分割統治法、繰り返し法、NP完全な問題 						
教科書 参考書	教科書：Java によるプログラミング アルゴリズムとデータ構造 芳賀博英（森北出版） 参考書：データ構造とアルゴリズム エイホ（培風館）						
評価方法	演習におけるレポート提出、試験を実施する						
備考							

出典：専攻科シラバス

資料 5 - 6 - - 3

平成 17 年度 専攻科 特別研究中間発表会

アセンブリーホール
平成 18 年 3 月 6 日 (月)

海上輸送システム工学専攻17年度生 (司会：大塚)	
1	高岡 9:00-9:15 シミュレータ訓練による操船技術の習熟特性
2	村上 9:15-9:30 湿度調整用高分子ゲルシートの開発
3	松下 9:30-9:45 水中の音響の測定・解析に関する研究
休息	
4	湯田 9:55-10:10 低速航行時における1軸2枚舵船の操縦運動に関する研究
5	湯田 10:10-10:25 魚型水平断面舵における最適舵型形状に関する研究
6	石橋 10:25-10:40 水・エマルジョン燃料の蒸発、燃焼に関する研究
休息	
7	中 10:50-11:05 マグネシウム合金板のFLDに及ぼす温度、速度および粒径の影響
8	友田 11:05-11:20 銀とガラスの研磨特性について
9	多田 11:20-11:35 小型船のBRM訓練シナリオの作成
10	柳沢 11:35-11:50 ペロブスカイト型遷移金属酸化物を用いた光磁気機能材料の開発
工学専攻17年度生	
1	鶴 13:20-13:35 各種応力問題のFEM解析
2	勸久保 13:35-13:50 程度副詞を用いた指示による上肢の速度特性
3	大石 13:50-14:05 発泡スチロール切削用工具の開発
休息	
4	藤本 14:15-14:30 弾性体の微小変位特性に関する研究
5	塚本 14:30-14:45 離散むだ時間補償器を有するI-PD制御系の設計とその応用
6	中山 14:45-15:00 近接するボイドを含む弾塑性体の2軸圧縮変形解析
休息	
7	葛目 15:10-15:25 歯の接触音を用いた学習機能を有するハンズフリー型ユーザーインターフェースの開発
8	高尾 15:25-15:40 マグネシウム合金AZ31Mの疲労き裂発生挙動と切欠感度
総評	15:40-15:50

発表時間10分、質疑応答5分

出席：専攻科科員会

第3回CVG四国入賞者一覧

受賞名	テーマ	氏名	学校名
最優秀賞	地域密着型コミュニケーションサイト	福島 芳一	香川大学
		河野 大輔 堀谷 泰啓	
優秀賞	中小規模商店向けCRMサービス	飯田 昌憲	香川大学大学院
		平岡 康幸	香川大学大学院
特別賞	株式会社投資シミュレーターを使った売買シグナル販売	松本 秀樹 高松 慎也	高知工業高等専門学校
		高田 重也 片岡 裕雅 細原 麻衣子 箱崎 正洋	弓削商船高等専門学校
四国産業人クラブ賞	インターネット対応プログラミング学習システム	森本 猛	弓削商船高等専門学校
		歯の接触音を用いた学習機能をもつハンズフリー型マン・マシンインターフェース	
奨励賞	磁気記録媒体の新規製造方法	大西 正悟	香川大学大学院
		新しい分別ゴミ箱	院間電波工業高等専門学校
佳作	クリエイターズ・フィールド ~誰でもものづくり~	上野 直人 池上 洋行 大平 隆一郎	院間電波工業高等専門学校
		上司で選ぶアルバイト検索サイト	阿南工業高等専門学校
努力賞	人工知能を用いたエステティックシステムの開発	江村 宏幸	高松大学
		Myドレッシング自動販売機の企画	弓削商船高等専門学校

四国産業人
クラブ賞

歯の接触音を用いた学習機能をもつハンズフリー型マン・マシンインターフェース

弓削商船高等専門学校

森本 猛さん



頭部の運動機能しか残っていない重度の身体障害者のコミュニケーション機器としてさまざまなシステムがあるが、いずれも装着性や操作性、価格などの面からすべてのユーザーが容易に使用できるものはなかった。発表したラウンは歯をかみ合わせた時の接触音を利用したハンズフリーのインターフェース。装着が容易な薄型マイクで歯の接触音を検出して制御信号として利用。ユーザーの個人特性を自動的に学習するハードウェアも組み込んだ。

①小型で装着が容易②誤動作が少ない③ユーザーにとって肉体的負担が小さい④安価⑤介護者が管理しやすいなどの条件を満たしている。

そのほか、手ぶれ防止を目的にしたデジタルカメラのシャッターボタンなどの応用も視野に入れる。

出典：日刊工業新聞

資料 5 - 6 - - 5



実用新案登録証

(CERTIFICATE OF UTILITY MODEL REGISTRATION)

登録第 3 1 1 2 6 5 5 号

(REGISTRATION NUMBER)

考案の名称(TITLE OF THE DEVICE)

マグネトロン (マイクロ波) による流体加熱器

実用新案権者(OWNER OF THE UTILITY MODEL RIGHT)

愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 1 0 0 0 番地 独立行政法人国立高等専門学校機構
弓削商船高等専門学校内

高尾 健一

愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 1 0 0 0 番地 独立行政法人国立高等専門学校機構
弓削商船高等専門学校

考案者(CREATOR OF DEVICE)

高尾 健一

出願番号(APPLICATION NUMBER)

実願 2 0 0 5 - 0 0 3 8 4 3

出願年月日(FILING DATE)

平成 1 7 年 4 月 1 4 日 (April 14, 2005)

この考案は、登録するものと確定し、実用新案原簿に登録されたことを証する。
(THIS IS TO CERTIFY THAT THE UTILITY MODEL IS REGISTERED ON THE REGISTER OF THE JAPAN PATENT OFFICE.)

平成 1 7 年 7 月 1 3 日 (July 13, 2005)

特許庁長官(COMMISSIONER, JAPAN PATENT OFFICE)

小川



出典：実用新案登録証

観点 5 - 6 - 教育課程の編成に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

専攻科のシラバスは、各専攻の教育課程の編成に沿って学位授与機構の区分に該当する科目としての位置付けを明確にした上で、専攻科長から示された統一様式で担当教員が作成している(資料 5 - 6 - - 1)。

学習目標、授業の進め方、授業内容などの記載事項から、学生がその授業で習得する知識・授業レベルを理解し、学習計画を立てられるように配慮している。成績評価方法については、定期試験だけでなく課題・レポート・プレゼンテーションなどで総合評価することも具体的に記載している。

シラバスは、専攻科全学生に年度当初配布する「専攻科学生用手引き」内に収録し、本校ホームページに公開して(資料 5 - 6 - - 2)、学生に周知している。

各授業科目においては、最初の授業時にガイダンスとしてシラバスを活用し、授業開始に当たってその内容・成績評価方法を学生に説明している(資料 5 - 6 - - 3)。学生は選択授業の決定時、平素の学習、単位取得に向けての学習などにシラバスを利用しているが、本校は平成 17 年度に専攻科設置したばかりであり、シラバス活用の詳細な実情については、今後アンケートにより調査する予定である。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科のシラバスは、講義履修モデルに沿って配置された科目ごとに作成され、授業内容や成績評価方法についても明確に定められた記載内容で統一されており、適切に整備されている。

シラバス活用状況の調査は未実施であるが、専攻科設置当初としては、担当教員による授業開始時のガイダンスでシラバスの利用や、学生の計画的な学習に役立っていると判断される。

資料 5 - 6 - - 1

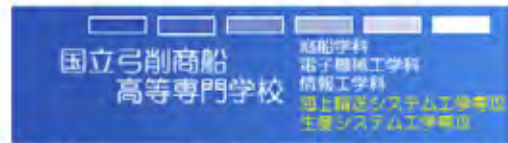
授業科目	弾塑性学			担当教官	中 哲夫		
学 科	生産システム工学	学 年	2年	授業期間	後期	単位数	2
分 野	専門科目	授業形態	講義	履修区分	選択		
学習目標	弾塑性体の力学的挙動（応力とひずみの関係）を記述する数理モデルについて連続体力学の立場から解説する。また、弾塑性体に外力（あるいは変位）が作用したときに物体内に生じる応力（およびひずみ）分布を求めるための支配方程式とその解析手法について解説し、弾塑性力学の基礎的な知識を修得させる。						
授業の進め方	標準的な弾性力学、数値弾性力学の入門、標準的な塑性力学、材料力学の延長としての塑性力学入門、数値弾性力学の入門、塑性加工学の入門について授業を進める。また、輪講形式の学生による課題のプレゼンテーションも行う。						
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 序論： 数理弾塑性力学および材料学を基礎とする結晶塑性学の役割、これらの相互の関連、塑性力学の応用分野（強度計算、塑性加工解析）などについて述べる。 単軸応力状態での応力・ひずみ関係とそのモデル化： 単軸引張り・圧縮あるいは単純せん断における応力-ひずみ関係について述べ、それを記述する数理モデルを紹介する。 単純な応力状態での弾塑性問題： はりの曲げ、丸棒のねじりなどを例にとり、単純な応力状態における弾塑性応力・ひずみ解析（材料力学的手法による）について解説する。 降伏条件： 多軸応力下の材料の降伏条件式について解説する。 構成式： 多軸応力下の塑性体の応力と塑性ひずみ（増分）の関係式（構成式）、加工硬化の表現（硬化則）について解説する。 弾塑性問題の解析： 内圧円筒、角柱の平面ひずみ圧縮などを例にとり、二次元弾塑性応力・ひずみ解析の基礎について解説する。また、弾塑性有限要素法の考え方および解析例について紹介する。 						
教科書 参考書	【教科書】 「弾塑性力学の基礎」吉田総仁 著・共立出版 【参考書】 「弾性力学」村上敬宜 著・養賢堂 「塑性学」工藤英明 著・森北出版						
評価方法	定期試験の結果を60%程度、課題レポートを20%程度、プレゼンテーションを20%程度とし総合評価を行う。						
備考	<ul style="list-style-type: none"> 授業では教科書を中心に進めるので、教科書をよく読むこと。また、微分積分など、これまで学んだ数学をよく扱うので、内容を理解しておくこと。 教科書の各章の解説を輪講形式で発表する。説明が不足している場合には教官が補足説明し、その後質疑応答を行う。また、適宜演習問題の課題を与えるので効果的に学習すること。 						

出典：専攻科シラバス

資料 5 - 6 - - 2

弓削商船高等専門学校 - ダウンロード

1/1 ページ



- [HOME](#)
- [ニュース](#)
- [お問い合わせ](#)
- [リンク集](#)
- [サイトマップ](#)

弓削商船高等専門学校 ◆

☐ メインメニュー

- [ホーム](#)
- [ニュース](#)
- [学校案内](#)
- [本校の環境への取り組み](#)
- [入試情報・アドミッションポリシー](#)
- [シラバス](#)
- [学事予定表](#)
- [FAQ](#)
- [ダウンロード](#)
- [登録する](#)
- [人気ダウンロード](#)
- [高評価ダウンロード](#)
- [リンク集](#)
- [本校へのアクセス](#)
- [お問い合わせ](#)

☐ 学内WWWサーバ

- [情報処理教育センター](#)
- [図書館](#)
- [白砂寮](#)
- [同窓会](#)
- [WebMail](#)
- [MyWeb\(学内ポータル\)](#)
- [文書公開サーバ](#)

☐ 学生向け情報

- [学生連絡](#)
- [授業変更](#)

☐ 検索

高度な検索

Downloads

メイン : 平成17年度(2005) : シラバス :

ソート順: タイトル (▲▼) 日付 (▲▼) 評価 (▲▼) ダウンロード数 (▲▼)
現在のソート順: タイトル(A→Z)

カテゴリ: 平成17年度(2005) ◆ シラバス

商船学科1年シラバス 100000000

バージョン:
掲載日: 2005-9-4

説明:
商船学科1年シラバス全科目

442 0バイト PDF http://

カテゴリ: 平成17年度(2005) ◆ シラバス

専攻科シラバス(生産システム工学専攻) 100000000

バージョン:
掲載日: 2005-9-4

説明:
専攻科生に配布するシラバスです。

1140 666.04 KB PDF http://

カテゴリ: 平成17年度(2005) ◆ シラバス

専攻科シラバス(海上輸送システム工学専攻) 100000000

バージョン:
掲載日: 2005-9-4

説明:

988 747.12 KB PDF http://

Copyright (c) Y.N.M.C.T 2005 . All rights reserved.
This page is Link free

出典 : 本校ホームページ

観点 5 - 7 - 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

（観点に係る状況）

特別研究テーマの決定は、学生が主体的に研究に取り組むために、専攻科長・専攻主任を中心として段階的な指導を行っている（資料 5 - 7 - - 1）。決定された研究テーマに関して、指導教員が研究目標・方法・授業受講科目計画に至るまで学生と密接な連携をとった上で、半期ごとに研究指導計画書を作成し、各期の終了時に研究指導報告書を提出している（資料 5 - 7 - - 2）。1 学年終了時には特別研究中間発表会を行い、研究成果の経過報告を義務付けて、各専攻全体でも研究の進捗状況を把握するように努めている（資料 5 - 6 - - 3）。技術職員による研究支援体制は行っておらず、検討の余地がある。

本校は平成 17 年度入学の専攻科 1 期生がまだ 2 学年に在学中であり、実績は少ないが（資料 5 - 7 - - 3 ~ 5）研究成果を関連学会及び関連論文集等に積極的に発表することを目標に指導を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

本校は専攻科設置 2 年目であり、研究指導体制の確立途上にあるが、研究テーマ決定を行う段階から専攻科長・専攻主任を中心にした丁寧な指導が行われ、複数教員による研究指導体制の中で指導教員と学生の綿密な連携が図られている。

以上のことから、本校では専攻科に対する現段階での研究指導が適切に行われているが、技術職員による効果的な研究支援体制の活用など検討の余地がある。

資料 5 - 7 - - 1

専攻科特別研究テーマ決定のプロセス

平成 17 年 4 月

1. 専攻科募集にあたり、教員が現在取り組んでいる研究テーマを開示。
海上輸送システム工学専攻教員
(航海系及び機関係)
生産システム工学専攻教員
(機械工学：材料力学, 制御工学, 設計工学, 機械工作, トライボロジー, 機械材料)
(情報工学：電子回路工学, 応用物理, 情報工学, ソフトウェア工学)
2. 入学願書提出前に特別研究指導教員と面談を行う。
3. 入学願書手続きの調査書の中に特別研究指導希望教員および特別研究の希望テーマを記入する項目がある。
4. 入学試験の面接試験において卒業研究及び特別研究についてプレゼンテーションを行う。
5. 入学後、手引書(p.3)に記載のように始業月の翌月までに指導教員と相談のうえ決定する。
5.特別研究
(1) 趣旨
 - ・専攻科で最も重要と考えている授業科目である。専門知識の総合化と深化を図り、自発的問題解決に向けて広い視野から理論的、実践的に考究、実行する能力と創造的技術開発能力を育成することを目指している。
 - ・研究成果は、関連学会及び関係論文集等に積極的に発表することを目標とし、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上を図ること。(2) 研究課題
研究課題及び方法は指導教員と相談のうえ、1 学年の始業月の翌月までに決定し、学生が主体的に取り組むこと。
6. 指導教員は特別研究指導計画書を 1 学年の始業月の翌月までに教務係に提出する。

出典：専攻科委員会

資料 5 - 7 - - 2

平成 17 年度 前期 研究指導計画書

平成 17 年 4 月 28 日

特別研究指導教員氏名 中山 恭秀

1. 学生氏名 (学籍番号) XXXXXXXXXX
2. 学位申請時の専門領域 機械工学
3. 研究題目
材料中のポイド成長過程の有限要素法解析
4. 研究の概要
材料の延性破壊において、材料中のポイドが成長、合体から破壊へと至る過程は、非常に重要な問題である。こうした延性破壊過程を知るには、解析モデルを大変形問題として扱う必要がある。したがって、有限要素法の手法を用い、材料中のポイドのまわりに発生する大ひずみの解析、さらに、ポイドの分布状況が延性破壊に与える影響も考慮した解析を行い、様々な負荷状態に置かれた材料中のポイドの成長、合体の過程について検討する。
5. 今期の研究目標
 - ・有限要素法必要な専門英語の習得
 - ・有限要素法解析に必要な数学的技能の習得
 - ・有限要素法に関する理論の習得
6. 今期の指導方針
 - ・研究論文の講読に重点を置いた指導
 - ・対話形式を重視した指導
7. 今期の研究実施方法
 - ・研究背景および理論について、論文の講読を中心として学ばせ、有限要素法の理論について基礎知識を身に付けさせる。
 - ・数学的理論背景を学んだうえで、有限要素法ソフトを使う技能を学ぶ
8. 主たる研究場所
指導担当者の研究室
9. 週間、または月間計画
 - 4 月 数学やプログラミングに関する基礎、有限要素法ソフトの使用方法について学ぶ
 - 5 月 簡単なモデルについて弾塑性変形解析を行う
 - 6 月 有限要素法解析の応用例をもとに、弾塑性変形の理論や応用分野について学ぶ
 - 7 月 研究テーマにおける対象について、その工学的知識を背景として、解析モデルを作成する
 - 8 月 研究テーマにおける対象について、その工学的知識を背景として、解析モデルを作成する
 - 9 月 解析対象について、有限要素法解析を行い、結果分析、必要な数値の修正を行う
10. 日報の記載方法等
(具体的に記述する。学生には研究ノート等の記入と提示を義務づけること)
 - ・各週毎に研究実施内容および研究時間を記載
 - ・研究内容は箇条書きにて記載
11. 今期の研究評価方法 (学生の研究ノート等を評価対象にすることを明記すること)
 - ・学生が作成した研究報告書
 - ・解析結果に関する考察レポート
 以上により評価する

出典：専攻科委員会

平成 17 年度前期 研究指導報告書

平成 17 年 9 月 20 日

特別研究指導教員氏名 中山 恭秀

1. 学生氏名 (学籍番号)

2. 学位申請時の専門領域 機械工学3. 研究題目 材料中のポイド成長過程の有限要素法解析

4. 研究の概要

材料の延性破壊において、材料中のポイドが成長、合体から破壊へと至る過程は、非常に重要な問題である。こうした延性破壊過程を知るには、解析モデルを大変形問題として扱う必要がある。したがって、有限要素法の手法を用い、材料中のポイドのまわりに発生する大ひずみの解析、さらに、ポイドの分布状況が延性破壊に与える影響も考慮した解析を行い、様々な負荷状態に置かれた材料中のポイド形状の変形について検討する。

5. 今期の研究実施時間 (研究ノート等を基に算出する。算出基準を明確にすること)

134 時間

6. 今期の研究の目標達成状況 (計画書に沿って具体的に、発表予稿等を活用する)

- ・ 有限要素法必要な専門英語の習得については、ある程度達成された。
- ・ 有限要素法解析に必要な数学的学力については、基礎的部分について学習した。
- ・ 有限要素法に関する理論について、初歩的部分について学習した。

7. 今期の学会発表等

なし

8. 今期の研究評価 (計画書の評価方法に沿って具体的に記述する。発表予稿等の評価を含む)

有限要素法解析による、多軸圧縮負荷状態下におけるポイドの形状変形について検討を行い、ある程度の妥当な解析結果が得られ、弾塑性変形解析についての知識、技能が多少なりとも向上したものと評価できる。

9. 備考

注：学生ごとに記入すること

出典：専攻科委員会

平成 17年度 後期 研究指導計画書

平成 17年 10月 5日

特別研究指導教員氏名 村上 知弘

1. 学生氏名 (学籍番号)

[REDACTED]

2. 学位申請時の専門領域

学士 (商船学)

3. 研究題目

深海におけるアクチュエーター材料

4. 研究の概要

ゲルは、ソフトマテリアルの一種であり、高圧中で体積が膨潤し大きくなるという特異な現象を持っている。この現象を利用して高圧下にある深海においてアクチュエータ材料として使用するための基礎的な知見を得る。

5. 今期の研究目標

ソフトマテリアルであるゲルの挙動を海水及び高圧下で調べる

6. 今期の指導方針

ゲルの基礎を文献等を読み込んで理解すると共に高圧装置の使い方と高圧を理解する。

7. 今期の研究実施方法

試料ゲルの作成及び高圧装置を用いたゲルの相転移挙動の計測

8. 主たる研究場所

熱流体実験室

9. 週間, または月間計画

10月 文献読み及びゲル作成	11月 高圧装置作成
12月 高圧下でのゲルの相転移測定	1月 高圧下でのゲルの相転移測定
2月 データ解析	3月 海水中でのゲルの相転移測定

10. 日報の記載方法等

(具体的に記述する。学生には研究ノート等の記入と提示を義務づけること)

日々行った実験の詳細を実験ノートに記述させると共に、文献検索等の日々はその文献及び検索方法も記載させる。

11. 今期の研究評価方法 (学生の研究ノート等を評価対象にすることを明記すること)

学生の研究ノートとデータを参考にすると共に、成果を定期的に研究室内で発表させる。

12. 学生の受講科目計画

14科目 (27単位) 受講予定

13. 備考

注: 学生ごとに記入すること。

出典: 専攻科委員会

平成 17 年度 後期 研究指導報告書

平成 18 年 2 月 16 日

特別研究指導教員氏名 村上 知弘

1. 学生氏名 (学籍番号)

[REDACTED]

2. 学位申請時の専門領域

学士 (商船学)

3. 研究題目

湿度調整用高分子ゲルシートの開発

4. 研究の概要

密閉空間での品質管理のために湿度調整は、必要不可欠である。本研究の湿度調整高分子ゲルシートでは特に乾燥時に、ある特定温度で保水剤から急激に水を放水することで乾燥を防止する。このためには、吸水性の高いゲルとその特定温度で早い応答速度を持つ機能性ゲルが不可欠となる。そのゲルとして相転移を持つ感温性 NIPA ゲルに着目し、NIPA ゲルのイオン濃度を変化させ、特定温度で急変する NIPA ゲルを調べる。

5. 今期の研究実施時間 (研究ノート等を基に算出する。算出基準を明確にすること)

10 月 35 時間、11 月 36 時間、12 月 36 時間、1 月 85 時間、2 月 58 時間

合計 250 時間

6. 今期の研究の目標達成状況 (計画書に沿って具体的に、発表予稿等を活用する)

吸水材として使用する NIPA ゲルに対してイオン濃度を変えたものを 14 種類準備し、種々の転移温度の違いを調べた。それらの結果から、イオン濃度が高くなるにつれ、転移温度が高くなることが明らかとなった。

7. 今期の学会発表等

なし

8. 今期の研究評価 (計画書の評価方法に沿って具体的に記述する。発表予稿等の評価を含む)

試料作成からデータ測定及び整理まで一人ですべて行ったことから、薬品等の扱いから実験器具の扱い、データ採取方法及びパソコンによるデータ整理まで一人で行えるようになった。 **合格**

9. 備考

今後の研究発表予定

1. 中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会、阿南高専、(平成 18 年 3 月 24-25 日)

2. 第 15 回日本包装学会年次大会、東京大学、(平成 18 年 7 月 6-7 日)

注：学生ごとに記入すること

出典：専攻科委員会

資料 5 - 7 - - 3

平成 17 年度 (2005 年) 専攻科生業績

口頭発表

- 1 : 「歯の接触音を用いたユーザインターフェースの開発」
平成 17 年度 電気関係学会四国支部連合大会 (高松)
平成 17 年 9 月
- 2 : 「歯の接触音を用いた学習機能を有するハンズフリー型ユーザインターフェースの開発」
2006 年 電子情報通信学会 総合大会 (東京)
平成 18 年 3 月

受賞

キャンパスベンチャーグランプリ 2005 四国地区エリア
特別賞「四国産業人クラブ賞」受賞 平成 18 年 2 月
「歯の接触音を用いた学習機能を有するハンズフリー型ユーザインターフェース」の提案

口頭発表

- 1 : 「離散むだ時間補償器を有する I-PD 制御系の一設計」
平成 17 年度 電気関係学会四国支部連合大会 (高松)
平成 17 年 9 月
- 2 : 「非線形むだ時間系に対する適応 I-PD 制御系の一設計」
2006 年 電子情報通信学会 総合大会 (東京)
平成 18 年 3 月

口頭発表

- 1 : 「弾性体の接線力方向微小変位特性に関する研究」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)
- 2 : 「弾性体の接線力による微小変位特性 (NBR ゴムによる実験的検討)」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

口頭発表

- 1 : 「非貫通孔を持つ有限体の一様引張り」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)
- 2 : 「非貫通孔を持つ有限体の一様引張り」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

論文

- 1 : 「非貫通孔を持つ有限体の一様引張り」
弓削商船高等専門学校 第 28 号 紀要 (平成 18 年 2 月)

口頭発表

- 1 : 「程度副詞を用いた指示による上肢の運動特性」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

口頭発表

- 1 : 「発泡スチロールの切削」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)
- 2 : 「発泡スチロール切削工具の開発」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

出典：専攻科委員会

口頭発表

- 1 : 「圧縮負荷状態における近接 2 円孔体の弾塑性変形解析」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)
- 2 : 「近接するポイドを含む弾塑性体の 2 軸圧縮変形解析」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

論文

- 1 : 「圧縮負荷状態における近接 2 円孔体の弾塑性変形解析」
弓削商船高等専門学校 第 28 号 紀要 (平成 18 年 2 月)

- 1 : 「マグネシウム合金の疲労き裂発生と切欠感度」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)
- 2 : 「グリーンコンポジットの製作及び強度評価」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

特許

- 1 : 実用新案登録「マグネトロン (マイクロ波) による流体過熱器」平成 17 年 7 月 13 日

口頭発表

- 1 : 「マグネシウム合金板の FLD に及ぼす温度と速度及び粒径の影響」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)
- 2 : 「Mg 合金板の FLD における解析的予測」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)
- 3 : 「マグネシウム合金板の温間 FLD の解析的予測」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)
- 4 : 「マグネシウム合金板の FLD に及ぼす温度と速度及び粒径の影響」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

口頭発表

- 1 : 「銀とガラスの研磨特性について」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)

論文

- 1 : 「弓削丸船内 LAN システムの現状と将来への拡張性について」
弓削商船高等専門学校 第 28 号 紀要 (平成 18 年 2 月)

口頭発表

- 1 : 「二枚舵に働く流体力に関する研究：一様流中模型実験による検討」
日本航海学会・平成 17 年度秋季研究発表会 (2005. 10. 30)

出典：専攻科委員会

資料5 - 7 - - 4

日本塑性加工学会中国四国支部 平成17年度 学生研究発表会 プログラム
協賛：弓削商船高専 地域共同研究推進センター

日時：発表会 2005年12月9日(金) 13:40～17:35
懇親会 2005年12月9日(金) 17:45～19:00
場所：発表会 弓削商船高等専門学校 アセンブリホール
懇親会 弓削商船高等専門学校 白雲館

※発表分、質疑応答2分

No.	発表 (可委)	講演時間		質疑 応答	所属	講演者	講演題目	共同研究者	指導教員
		開始	終了						
	受付	-	13:15	-	※座長 田屋 義士 上田 弓削商船専任員 中国四国支部 支部長 志水 廣一				
	開演・挨拶	田屋	13:40	13:45					
	開演・挨拶	田屋	13:45	13:50					
1			13:50	13:58	2分	弓削商船	高張力鋼板の引張り曲げ成形性		中哲夫(弓削商船)
2			14:00	14:08	2分	香川大 工学部	マイクロ部材における疲労強度測定に関する研究		三原 豊(香川大)
3			14:10	14:18	2分	徳山高専	球状黒鉛鋼鉄の腐食疲労強度特性		藤澤達晴(徳山高専)
4			14:20	14:28	2分	徳山高専	貫通穴を有する球状黒鉛鋼鉄の疲労強度特性		藤澤達晴(徳山高専)
5			14:30	14:38	2分	広島工大 工学部	メカニカルに活性化したメカニカルインク粉末とその利用材料プロセス		西條 卓治(広島工大)
6			14:40	14:48	2分	香川大・院	金属中空球単軸加圧焼結体におけるセル構造の異方性		品川 一成(香川大)
7			14:50	14:58	2分	香川大 工学部	中空金属球(Metallic Hollow Spheres: MHS)の形状解析		三原 豊(香川大)
8			15:00	15:08	2分	弓削商船 生産システム専攻科	圧縮成形状態における流線型円孔体の弾塑性変形解析		中山 森秀(弓削商船)
9			15:10	15:18	2分	弓削商船 生産システム専攻科	非貫通孔を有する筒状体の引張り		中山 森秀(弓削商船)
10			15:20	15:28	2分	弓削商船 生産システム専攻科	筒状体の撓曲力方向微小変位特性に関する研究		中山 森秀(弓削商船)
11			15:30	15:38	2分	岡山大学 工学部	板材スピニング成形品の局所ひずり分布に関する検討-複加工材性質の影響とプレス加工との比較-		清水 一彰(岡山山大)
	休憩		15:40	15:50	-				
12			15:50	15:58	2分	広島大 院	マイクロインテンションによる金属材料の加工機械特性回復		吉田 聡仁(広島大 院)
13			16:00	16:08	2分	広島大 工学部	二軸引張試験による軟鋼板の塑性変形挙動実験観察		吉田 聡仁(広島大 院)
14			16:10	16:18	2分	徳島大 工学部	大径穴部孔のすべり込み工程プロセスの積層要素シミュレーション		長瀬 拓志(徳島大)
15			16:30	16:38	2分	広島大 工学部	Mg合金板のFLDIにおける解析的予測		吉田 聡仁(広島大 院)
16			16:20	16:28	2分	弓削商船	マグネシウム合金板のFLDIに及ぼす温度と速度及び粒径の影響		中哲夫(弓削商船)
17			16:40	16:48	2分	熊本大学 工学部	A21鋼のレーザーフォーミング		大津 賢真(熊本大)
18			16:50	16:58	2分	広島大 院	最適化による多段階性加工の加工段数削減		吉田 聡仁(広島大 院)
19			17:00	17:08	2分	広島商船 専攻科	金属接着板の曲げ加工に及ぼす板厚の影響		堀口 三千弘(広島商船)
20			17:10	17:18	2分	弓削商船 生産システム専攻科	発泡スチロールの切削		中山 森秀(弓削商船)
21			17:20	17:28	2分	弓削商船	炭とガラスの積層特性について		友田 達(弓削商船)
	謝辞		17:30	17:35	-				
	懇親会		17:45	19:00	-		※3000人、ただし講演学生は無料、聴講学生は1000人		

出典：専攻科委員会

弾性体の接線力方向微小変位特性に関する研究

(弓削商船高専)

機正 藤本隆士 (弓削商船高専)

1 はじめに

工業分野では、高分子化合物が使用されることが多い。中でも天然ゴムや合成ゴムといったゴム材料は、自動車タイヤのみならずオイルシール、ガスケット、トランスミッションやローラなどの部品に多用されている。しかし、このような弾性体についての研究は、タイヤを目的にした動的な状態における摩擦、摩耗や劣化などが主なものであり、コピー機やプリンタの紙送り、摩擦駆動機構を用いた精密位置決め装置などの静的、準静的な状態における接触や摩擦に関する研究は数少ない。そのため、そのような部品を設計する際に指標となるようなものが必要とされている。

そこで、本研究では弾性体の静的、準静的な状態における微小なすべりや摩擦について、材料の機械的性質、接触状態との関係を調べることを目的とし、摩擦実験を行った経緯について報告する。

2 実験方法

実験には、Fig.1 に示す実験装置を用いた。この実験装置は、スプリングリーフを用いた揺りかご型のテーブルの上にホルダで固定した試料を接触させ、ホルダにもり乗せることで垂直荷重を加える。ステッピングモータとマイクロメータによりアームを介して、テーブルに接線力を与え、相対変位を生じさせる構造になっている。接線力負荷速度は 5.29N/s とし、接線力はロードセルにより、また、接線力方向、垂直方向の変位は変位センサを用いて検出し、パソコンに取り込む。

試料として、Table 1 に示すように、10t × 30 × 30mm の硬さの異なる 3 種類のニトリルゴム (NBR) を使用する。ここでは、硬いものから Hard, Mid., Soft と呼ぶ。また、硬さ、ヤング率の実測値も Table 1 に示す。

実験では、エタノールで洗浄したゴム試料をホルダに

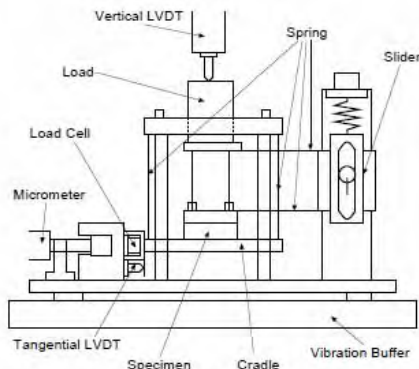


Fig.1 Micro-Displacement Elastomeric Adhesion Tester

Table 1 Shore hardness and Young's modulus (exp)

Hardness	Shore hardness (SH)	Young's modulus (MPa)
Soft	42.80	4.92
Mid.	64.77	2.17
Hard	83.20	1.40

固定し、テーブルと平行に接触させる。ホルダの上にもりにより荷重を加え 20 分放置する。その後、テーブルに接線力を加え、接線力 F_t 、接線力方向変位 D_t および垂直方向変位 D_v を同時に測定した。

3 実験結果

Fig.2 から Fig.4 に、硬さの異なる試料について接線力 F_t 、接線力方向変位 D_t と垂直方向変位 D_v を測定した結果の一例を示す。

Fig.2 は Hard タイプの試料について、垂直荷重 4.9 N を加えた場合の例である。

同図 (a) は接線力方向変位 D_t と接線力 F_t の関係を示したもので、 F_t が増加するにしたがい D_t も増加し、 F_t がある値まで増加すると急激に D_t が増加し、巨視的滑りを生じる。この図では、約 100 μm 付近で巨視的滑りを生じ、その後、スティックスリップを発生しながら D_t が増加していくことがわかる。

同図 (b) は D_v と F_t の関係であり、ゴム試料が垂直方向に増加し、厚みが増していることがわかる。

同図 (c) は D_t と D_v の関係を表しており、接線力方向変位の増加にともない垂直方向、つまり厚み方向の変

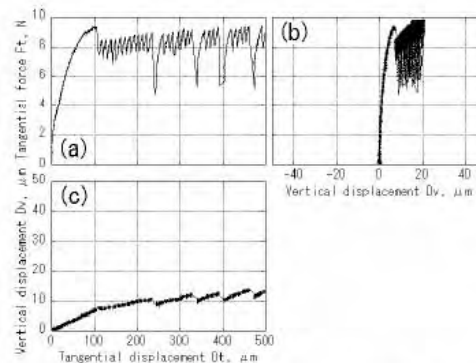


Fig.2 Relationship between Tangential, Vertical displacement and Tangential force (Hard, Load: 4.9N)

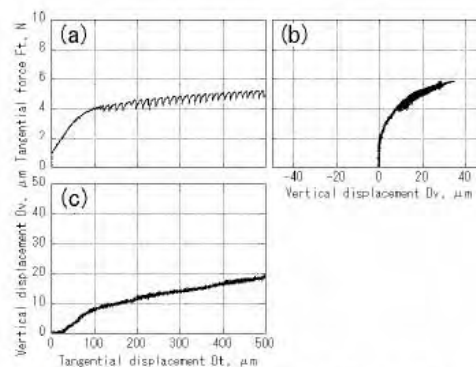


Fig.3 Relationship between Tangential, Vertical displacement and Tangential force (Mid., Load: 4.9N)

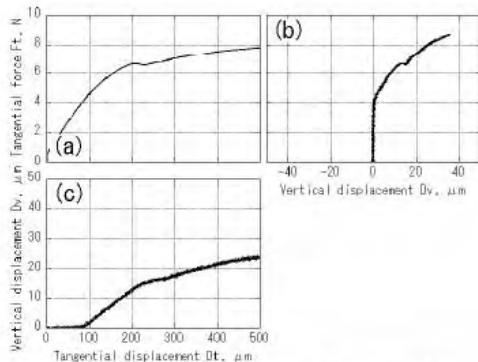


Fig.4 Relationship between Tangential, Vertical displacement and Tangential force (Soft, Load: 4.9N)

化が生じていることがわかる。

Fig.3 に、Mid. タイプの試料についての結果を示す。全体的な傾向は Hard タイプの場合と同様である。

また、同図 (b) においても、 D_v の変位が大きく、Hard タイプよりも厚みの変化が大きいことがわかる。このことは (c) から読み取れ、 D_t の変化に伴う D_v の変化が大きいことがわかる。

Fig.4 に示す Soft タイプについても同様の傾向を見られるが、同図 (a) において、巨視的なすべり領域でのスティックスリップが見られない。

4 考察

今回の実験では、Hard, Mid. タイプの場合、巨視的なすべりが生じた後にスティックスリップが生じているが、Soft タイプの場合にはほとんど見られない。スティックスリップは $D_t = F_t$ 曲線のみでなく、Fig.2, 3 (b) に示される垂直方向変位成分 D_v のグラフと (c) のグラフにも表れている。

このことから、垂直方向変位と接線力方向変位は連動して変化していることがわかる。

垂直方向の変位が生じる理由は次のように考えられる。弾性体のすべりの場合、接触面全体が均一に滑っているのではなく、部分によってすべり速度に差が生じており、固着部分とすべり部分が混在している。そのため Fig.5 のモデル図に示すように体積一定の条件を考えると、接触面積の減少に伴って厚さ方向の変位が増加することになる。したがって、接触圧力の分布形状によっては、反対に厚みが減少することも考えられる。

次に $D_t = F_t$ 曲線について、その特徴を数値化するために Fig.6 に示すような方法で、Fig.2 から 4 (a) における原点付近の曲線の傾き Angular stiffness θ を求めた。

得られた結果を Fig.7 に示す。 θ は硬い試料ほど大きな値を示し、荷重の増加に伴って大きくなる。これは、垂直荷重が大きいほど試料は圧縮応力も大きくなり試料が硬化すると同様に見えることからであると考えられる。

5 おわりに

弾性体を用いた準静的状態における微小なすべり特性は次のようなことが言える。

- 今回の実験では、接線力方向変位の増加にともない垂直方向変位が増加する傾向が得られた。

- Angular stiffness θ は、ゴムの硬さが硬いほど大きな値をとる。

参考文献

- 1) T. Fujimoto et al.: Transient Processes in Tribology (2004), 275.
- 2) D. F. Moore: Principales and applications of Tribology (1975)
- 3) T. Fujimoto et al.: Wear 241 (2000), 136.
- 4) T. Iwai et al.: Proc. Int. Trib. Conf. Nagasaki (2000), 899.

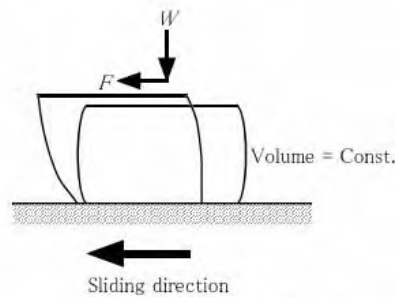


Fig.5 Model of deformation

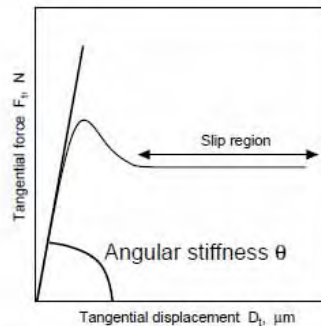


Fig.6 measurement of Angular stiffness θ

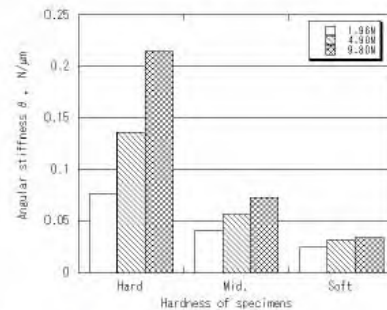


Fig.7 Changes of angular stiffness for various specimens and normal loads.

出典：専攻科委員会

圧縮負荷状態における近接 2 円孔体の弾塑性変形解析

機学

機塑正 中山 恭秀

1. 緒 言

延性材料中において、ボイドの形状変形や成長といった過程は、材料の機械的性質に影響を与える非常に重要な問題^{1)~5)}である。ボイドの形状変形においては、ボイド近傍の応力・ひずみ状態が問題となるが、これにはボイドの分布状況も大きな影響を与えることが考えられるため、ボイドが単独で存在する場合の、ボイド成長過程のみを検討するのではなく、ボイドが近接して材料中に存在している場合について、ボイドの成長、形状変形を解析・検討することも必要である。また、負荷経路によって、ボイド間の干渉やボイド成長過程が異なることも考えられ、こうした様々な要因を考慮した解析が求められる。そこで本研究では、弾塑性有限要素法解析により、延性材料中にボイドが近接して分布するソリッドモデルを設定し、これに様々な圧縮負荷経路を与えた場合の、ボイドの変形過程について検討した。

2. 有限要素法解析

2. 1. 構成式

本研究では、汎用有限要素法プログラムにより弾塑性変形解析を行う。この解析では、応力速度の定式化に Cauchy 応力の Jaumann 速度を用いるが、Cauchy 応力の Jaumann 速度 $\dot{\sigma}_{ij}$ は次式で表される⁶⁾。

$$\dot{\sigma}_{ij} = D_{ijkl} \dot{\epsilon}_{kl} \quad (1)$$

ここで D_{ijkl} は、相当応力 $\bar{\sigma}$ 、偏差応力 σ'_{ij} 、横弾性係数 G 、ポアソン比 ν 、瞬間硬化係数 H' を用いて次式のように表される。

$$D_{ijkl} = G \left\{ \delta_{ik} \delta_{jl} + \delta_{il} \delta_{jk} + \frac{2\nu}{1-2\nu} \delta_{ij} \delta_{kl} \right\} - \frac{3G \sigma'_{ij} \sigma'_{kl}}{\bar{\sigma}^2 (H' / 3G + 1)} \quad (2)$$

2. 2. 解析モデル

本研究では、材料中にボイドが近接して分布しているモデルに、圧縮負荷をかけた場合のボイド形状の変形について取り扱う。単純モデルとして、 $10 \times 10 \times 5(\text{mm})$ の立方体試験片に $\phi 1$ の円孔を中央に 2 個配列させた。円孔の中心間距離は 2mm である。要素は 6 面体 8 節点アイソパラメトリック要素であり、要素数はおよそ 12,000 である。試験片材料は工業用純アルミニウムであり、ヤング率 70GPa 、ポアソン比 0.3、加工硬化指数 0.28 とした。

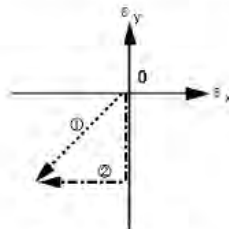


Fig.1 Loading routes

このモデルに、Fig.1 に示すような負荷経路、

① 等 2 軸圧縮、

② 第 2 軸 (y 軸) に負荷後第 1 軸 (x 軸) 方向に圧縮、でそれぞれ圧縮をかけ、ボイド近傍の応力・ひずみ状態について比較検討を行う。

3. 有限要素法解析結果

3. 1. 等 2 軸圧縮 (負荷経路①)

等 2 軸圧縮における解析結果について、相当応力分布を Fig.2、円孔近傍の形状変化を Fig.3 に示す。解析モデルには、x 軸 (紙面左右方向)・y 軸方向 (紙面上下方向) に -0.134 の圧縮ひずみを与えた状態である。モデル材料は x 軸・y 軸方向ともに等しく圧縮されるため、円孔形状は、ほぼ円孔状を保ったまま小さくなっており、円孔相互の干渉はあまり認められない。また、相当塑性ひずみの最大値は $\epsilon_{max} = 0.77$ 、応力の最大値は $\sigma_{max} = 140\text{MPa}$ を示し、これら、応力・ひずみの最大値はともに、円孔が隣接する側、かつ表面より内部において発生し、円孔近傍においては、モデル表面が板厚方向 (z 軸方向) に大きく突出していることが認められるが、円孔近傍の突出量は、どの箇所においてもそれほど差異は認められなかった。これは、円孔間の干渉がそれほど大きくないことが影響しているものと考えられる。



Fig.2 Distribution of equivalent stress



Fig.3 Deformation of void shape

出典：専攻科委員会

3. 2. 第2軸に負荷後第1軸方向に圧縮（負荷経路②）

負荷経路②による圧縮の場合、まずy軸方向にモデルを圧縮し、後にx軸方向の圧縮を与えており、それぞれ-0.134の圧縮ひずみを与えた。まずy軸方向に圧縮した場合の解析結果をFig.4に示す。モデル材料は、負荷方向に円孔がつぶれ、負荷垂直方向には円孔が伸長し、円孔相互に干渉していることが認められた。また相当応力分布からも、円孔近傍の塑性変形において、円孔相互に干渉していることがわかる。相当塑性ひずみの最大値は $\varepsilon_{max} = 0.82$ 、応力の最大値は $\sigma_{max} = 143MPa$ となり、①と同様の結果となった。次に、先ほどの状態からx軸方向に圧縮した場合の、解析結果をFig.5, Fig.6に示す。モデル材料の外形状は、x軸方向の圧縮により①と同様であるが、円孔の形状はだ円となり、①の場合とは異なっている。これは始めにy軸方向に圧縮を行っているため、円孔近傍では塑性変形が起こり、加工硬化している領域が存在するという、負荷履歴が大きく影響していると考えられる。このとき相当塑性ひずみの最大値は $\varepsilon_{max} = 0.99$ 、応力の最大値は $\sigma_{max} = 150MPa$ を示し、最終的には、負荷経路①の等2軸圧縮の場合と比べ、増大していることが認められた。また、円孔形状は、中央部が凹む形状となっており、円孔間の干渉が認められ、負荷経路①の場合と比較して、円孔形状のz軸方向に関する変形や形状変化の差が大きく、ポイドの形状の変形にも影響していることがわかった。



Fig.4 Distribution of equivalent stress



Fig.5 Distribution of equivalent stress

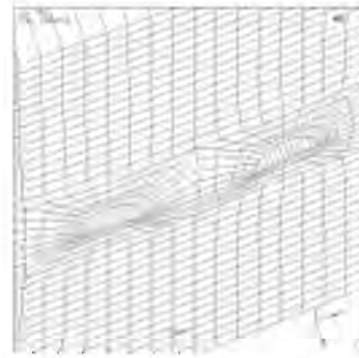


Fig.6 Deformation of void shape

4. 結 言

本研究において、ポイドを近接して含む延性材料において、2つの異なる負荷経路で圧縮負荷を与え、応力・ひずみ分布、およびポイド形状の変形について、有限要素法解析を行った。負荷経路により、モデル材料外形状、円孔形状の変形にそれぞれ違いが認められ、特に円孔近傍においては、モデル表面の突出に大きな違いが認められた。負荷経路②の場合では、円孔がだ円状となり、中央部がz軸方向に湾曲した形状に変形することがわかった。こうした傾向は、z軸方向の変位量が大きく、円孔間の干渉が最も弱い等2軸圧縮では、円孔形状の変化は認められず、中央部の湾曲もほとんどみられない。このように負荷経路によって、その負荷がポイドに与える影響は大きく異なり、それによって成長・変形過程も変化することがわかった。これは、負荷履歴が円孔近傍に塑性変形を起こし、加工硬化した領域が塑性変形初期段階において、どのような分布・発達をしているかが、大きく影響していると考えられる。

参考文献

- 1) Viggo Tvergaard : Computational Mechanics 20(1997), p.186
- 2) Viggo Tvergaard : Int. J. of Mechanical Sciences 42(2000), p.381
- 3) Viggo Tvergaard : J. of Mech. Phys. Solids Vol.24(1976), p.291.
- 4) Thomas Orts Pedersen : Computers and Structures 67(1998), p.279
- 5) John W. Hutchinson : Numerical Solution of Non-linear Structural Problems 7 (1973), ASME, New York.
- 6) 富田佳宏, 数値弾塑性力学, 養賢堂(1990)

出典：専攻科委員会

観点 5 - 8 - 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

専攻科の単位の修得については、学則第 48 条に規定し、修了の認定については同第 50 条に規定し(資料 5 - 8 - - 1)、必要事項については別に定めている(資料 5 - 8 - - 2)。これらの規則は、全専攻科生に配布される「専攻科学生用手引き」に掲載されており、専攻科入学時のオリエンテーション(資料 5 - 8 - - 3)において、専攻科長が説明して周知を徹底している。その中で、1 単位の履修時間が授業以外の学習を合わせて 45 時間であることも学生に周知している(資料 5 - 8 - - 4)。

各科目の成績評価は、シラバスに示した評価基準に従って行い、全試験答案、レポートなどと共に成績評価表を作成し、保管している(資料 5 - 8 - - 5)。

単位認定は、授業担当教員が授業完了報告書を作成・提出し(資料 5 - 8 - - 6)、専攻科委員会委員により厳格に確認の上(資料 5 - 8 - - 7)、修了認定は教員会議で適正に審議することになっている。本校は平成 17 年度に専攻科が設置され、1 期生が 2 学年に在学中であり、専攻科修了認定の実績はない。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の成績評価・単位認定基準や修了認定基準に関する規則が制定されており、学生に周知されている。授業担当教員からの授業完了報告書を受けて、専攻科委員会委員により厳格に確認の上、修了認定は教員会議で適正に審議・判定することになっている。本校では、専攻科 1 期生が未だ 2 学年に在学中であるため、修了認定実績はない。

資料 5 - 8 - - 1

1 弓削商船高等専門学校学則

制 定	昭和44年4月1日
最終改正	平成18年2月16日

第8章 専攻科

(設置)

第41条 本校に専攻科を置く。

(目的)

第42条 専攻科は、高等専門学校における教育の基盤の上に、精深な程度において商船及び工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

(専攻及び入学定員)

第43条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専 攻	入学定員
海上輸送システム工学専攻	4名
生産システム工学専攻	8名

(授業科目及び学修単位数)

第48条 専攻科の授業科目及びその単位数は、別表第3のとおりとする。

2 教育課程は、授業科目により編成するものとする。

3 履修方法については、別に定めるところによる。

4 各授業科目については、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習・ゼミについては、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験・特別研究については、45時間の授業をもって1単位とする。

(修了)

第50条 専攻科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、62単位以上を修得した者については、修了を認定する。

2 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

3 第1項に規定する単位の修得方法については、別に定める。

(準用規定)

第51条 第5条、第6条、第12条、第13条の4第1項、第19条、第22条、第24条から第26条まで、第27条第1項から第3項まで、第28条第1項、第31条から第40条までの規定は、専攻科に準用する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 5 - 8 - - 2

IV 履修要領

3. 専攻科修了に必要な授業区分別修得単位
以下の表に示す単位を修得する必要がある。
専攻科修了に必要な授業区分別修得単位数

	開設単位数			修得すべき単位数			
	必修	選択	合計	必修	選択	合計	
専 門 基 礎 科 目	14	—	14	14	—	14	
専 門 科 目	海上輸送システム工学専攻	22	34	56	22	26以上	48以上
	生産システム工学専攻		50	72			
合 計	海上輸送システム工学専攻	36	34	70	36	26以上	62以上
	生産システム工学専攻		50	86			
合 計	62以上						

4. 履修モデル

- 各専攻の学位の認定に必要な科目を履修する必要がある。そのためには、履修モデルに示された科目を選択すること。
- モデルと異なる選択を希望する場合は、専攻主任に相談すること。
- 授業時間割は、別に定める。
- 特別研究、演習、実験などは、専攻主任及び特別研究指導教員と連絡のうえ実施すること。
- 各専攻の講義履修モデルを以下に示す。

5. 特別研究

(ア) 趣旨

- 専攻科で最も重要と考えている科目である。専門知識の総合化と深化を図り、自発的問題解決に向けて広い視野から理論的、実践的に考究、実行する能力と創造的技術開発能力を育成する。
- 1年次から研究課題を決め、指導教員のもとで実施する。
(指導教員は、1学年の始業月の翌月までに決定する)
- 研究課題及び方法は指導教員と相談のうえ決定する。
- 研究成果は、関連学会及び関係論文集等に積極的に発表することを目標とし、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上を図る。

(イ) 研究課題

研究課題は学生が主体的に取り組むものであり、指導教員と相談のうえ決定する。

6. 履修手続き、試験、成績評価、再履修

(ウ) 成績評価

- 出席日数4/5以上のものに対して評価を行う。
- 成績の評価は「シラバス」表示された方法で行う。
- 評点と評価及び単位認定は100点法により評価し以下のとおりとする。

評 価	評点	100点～80点	79点～70点	69点～60点	59点以下
	評語	A	B	C	D
	判定	合 格			不合格

(エ) 再履修

- 定期試験で不合格になった授業科目は、再履修することができる。

出典：専攻科学生用引き

資料 5 - 8 - - 3

成績評価および進級認定等の新入生への説明スケジュール(ガイダンス)

- >
- > 専攻科（生産システム工学専攻）オリエンテーション
- >
- >日時：平成17年4月11日（月）13：30～
- >場所：生産システム工学専攻A教室（図書館2階中ゼミ室）
- >
- >スケジュール
- >13：30～ 専攻科ガイダンス 中専攻科長
- >14：30～ 生産システム工学専攻ガイダンス 葛目専攻主任
- >※ ガイダンス終了後写真撮影
- >
- >配付資料
- >1. 専攻科学生用手引き・シラバス
- >2. 専攻科学事予定表
- >3. 学生便覧
- >4. 履修届
- >5. 時間割
- >6. 専攻科生名簿（含：機械系・情報系および特別研究指導教員名）
- >
- >S_staff mailing list
- >S_staff@yuge.ac.jp
- >http://mail.center.yuge.ac.jp/mailman/listinfo/s_staff

出典：専攻科長からの連絡メール

資料 5 - 8 - - 4

2. 授業時間と単位

(1) 1 単位時間は 50 分を標準とし、45 時間の学修を必要とする内容で構成している。

- ・講義：15 時間を 1 単位とする
- ・演習，ゼミ：30 時間を 1 単位とする
- ・実験，特別研究：45 時間を 1 単位とする

(2) 従って，講義，演習，ゼミについては予習・復習・自主的学修が必要であり，授業はこのことを前提に進められる。

出典：専攻科学生用手引き

資料 5 - 8 - - 5

成績評価一覧(例)

授業科目	文書表現論	対象学年	1年	単位数	2
受講者数	8	開講単位時間数	(50分×)34	実施場所	教室
評価方法	定期試験結果を60%、提出課題およびレポートの到達度を40%として、総合的に評価する。				

学生氏名	受講時間	レポート(40点)	試験(60点)	教科目評価	備考
	32	30	43	73	
	32	35	39	74	
	32	30	42	72	
	34	20	47	67	
	34	20	43	63	
	34	25	42	67	
	32	35	48	83	
	32	35	38	73	

出典：担当教員

資料 5 - 8 - - 7

第 9 回専攻科委員会議事概要

日 時 平成 17 年 11 月 11 日 (金) 16:20~17:07

場 所 第 2 会議室

出席者 別紙のとおり

議 題

(審議事項)

- (1) 平成 18 年度専攻科入学者選抜試験実施要項 (案) について (学力選抜)
(生産システム工学専攻)
専攻科長から、別紙資料 1 の実施要項 (案) は前回 (第 6 回専攻科委員会) で審議了承された要項の 1. 学力検査による入学者選抜日程表のみ修正したもので、他の箇所の変更はない旨発言があり、審議の結果、原案どおり了承された。
- (2) 平成 18 年度専攻科入学者選抜試験実施要項 (案) について (推薦選抜)
(生産システム工学専攻) (社会人特別選抜)
専攻科長から、別紙資料 2 は、社会人特別選抜の推薦選抜実施要項 (案) であり、今回受験希望者がいないため、次回委員会までに熟読していただき、意見等があれば次回委員会で報告願いたい旨発言があり、了承された。
- (3) 平成 18 年度学力による選抜者の補講について
専攻科長から、平成 18 年度生産システム工学専攻への受験希望者の補講を、過去問題等を使用し、引き続き金曜日をお願いしたい旨要請があり、了承された。
- (4) 成績表のチェックについて
専攻科長から、半期毎の成績チェックは教務主事、専攻科長、専攻主任、電子・総合教育科代表 (中山、岩本教員) で行い、修了認定は教員会議に諮る旨発言があり、了承された。
- (5) 欠課時数のカウントについて
専攻科長から、公欠の場合取扱いについては、JABEE との関係もあり、公欠の時間帯の担当教員は補講またはレポートを提出させ、補講等を行った場合は出席扱いとしてカウントしたい旨発言があり、了承された。
- (6) レポート及び特別研究論文の査読委員について
専攻科長から、レポート及び特別研究論文の査読委員を、各学生の指導教員の他に 2 名配置したい旨発言があり、了承された。なお、査読委員の人選は葛目、高岡両教員が調整することとなった。
- (7) 平成 18 年度学事予定 (案) について
専攻科長から、別紙資料 3 に基づき、平成 18 年度専攻科の学事予定 (案) の説明があり、意見等は次回委員会でお願ひする旨発言があった。なお、生産システム工学の学力試験を 6 月、9 月、11 月の 3 回実施したい旨併せて発言があった。

(報告事項)

- (1) 在外研究員に伴う代替え措置について
専攻科長から、商船学科湯田教員の在外研究員 (平成 18 年 3 月から平成 19 年 1 月までの 10 ヶ月間：釜山大学) に伴う措置を次のとおり変更する旨報告があった。
 - ・ 海上輸送システム工学専攻の 2 期生の演習は二村教員が行う。
 - ・ 特別研究は高岡教員が行う。
 - ・ 湯田教員の前期の 2 科目 (船舶工学特論、推進特論) は後期に変更する。

出典：第 9 回専攻科委員会議事概要

- (2) 進路調査について（生産システム工学専攻一期生）
葛目専攻主任から、生産システム工学専攻一期生の進路希望状況が次のとおり述べられた。
- ・ 大学院進学希望者 : 5名
 - ・ 就職希望者 : 3名（情報工学科の2名は就職）
- 大学調査一覧は、次回委員会で高岡専攻科主任から報告することとなった。
- (3) 海上輸送システム工学専攻合格者の確約について（二期生）
専攻科長から、海上輸送システム工学専攻の推薦合格者の確約書提出期限は11月1日（金）であり、現在1名が未提出であるがもうしばらく提出期限を憂慮したい旨発言があった。
- (4) 生産システム工学専攻の応募状況について
専攻科長から、11月1日締め切りの生産システム工学専攻の志願者状況の報告が次のとおりあった。
- ・ 電子機械工学科から2名
 - ・ 情報工学科から3名 の 合計5名
- なお、専攻科受験者の合否判定会議に関する教員会議を11月24日（木）に開催する旨報告があった。
- (5) その他
委員長から、次のとおり報告があった。
- ・ 講義科目担当教員の変更等について
 - 海上輸送工学の猪俣教員を児玉教員に変更する。
 - 環境化学概論の飯塚教員を新規採用の教員に変更する。
 - 技術英語2の野口教員を坂内教員に変更する。
 - 特別研究指導教員のリストは、本年度講師以上の博士号を持つ教員が取り組んでいるテーマについて葛目、高岡教員が作成する。
 - ・ 情報工学科教員の応募状況について
情報工学科教授の応募者は現在のところいない。
 - ・ 平成18年度専攻科学生用手引き・シラバスの加筆修正について
平成18年度専攻科学生用手引き・シラバスの加筆修正を各委員に順次依頼しているが、チェックを速やかに行い、次の委員にまわして頂きたい。
 - ・ 専攻科設置式典について
式典当日、生産システム工学専攻学生は白雲館にてポスター展示を行い、海上輸送システム工学専攻学生は弓削丸にて来賓の案内を行う。また、専攻科生のインタビューにNHK今治の記者が来校する。
 - ・ ポスターケース購入について
ポスターケースを購入したので専攻科生に配布し、専攻科生の研究を更新したポスターを随時展示する。
 - ・ 専攻科用図書について
専攻科図書の大部分が納入されたので、教員及び学生に周知願いたい。

出典：第9回専攻科委員会議事概要

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

準学士課程

本校の教育目標に従って教育課程が編成され、全学科で練習船「弓削丸」を活用した教育、四国地区高専で連携した特別講義、本校を取り巻く環境を活かした授業など特色ある教育が実践されている。また、プログラミングコンテストなどを通して得られた知見を基に、対外的にも評価される創造性教育が行われている。

専攻科課程

該当なし

【改善を要する点】

準学士課程

学生のシラバス活用が十分に行われるように向上を図っていく必要がある。

専攻科課程

該当なし

(3) 基準 5 の自己評価の概要

準学士課程

本校の準学士課程の教育課程は、低学年では一般科目が多く、高学年になるに従って専門科目が増えるような楔型のカリキュラムとなっており、教育目標を達成できるように授業科目を体系的に適切に配置している。専門科目は、授業科目系統図に沿って必修科目と選択科目が系統的に配置されている。主に講義を通して専門基礎力を身につけ、全学年に配置している実験・実習を中心とした科目を通して職業に必要な能力を身につけ、卒業研究などを通して創造力を身につけた実践的技術者の育成を図っている。

授業内容は、教育課程の編成の趣旨に沿って、統一された形式のシラバスに明確に記載され、学生に周知されており、各期の初講時にガイダンスを行って、授業目的・内容及び評価方法について説明するように努めている。練習船「弓削丸」を活用した教育、四国地区高専で連携した特別講義、本校を取り巻く環境を活かした授業、インターンシップによる実践力の育成、プログラミングコンテストなどを通して得られた知見を基に対外的にも評価される創造力育成など特色ある教育を実践している。授業形態は、すべての学年で講義・演習・実験・実習がバランスよく適切に配置され、複数の教員・技術職員で支援する態勢を全学科で採用し、情報処理教育センターや実験室を始めとする各種施設を活用して、教育効果を高めている。

成績評価、進級基準、卒業基準に関する規則を策定し、学生に周知している。それらの判定については、全教員によって審議され、厳格かつ慎重に実施している。

高専設置基準で定められている特別活動を第1～3学年で実施し、学校全体としての特別活動、生活指導や課外活動を通して、人間の素養の涵養が図られるよう配慮している。

専攻科課程

本校の専攻科の教育課程は、昨年発足時に学術の発展動向や学生及び社会からの要請などを検討して編成されている。各専攻の教育目的の下に、系別に具体的に学習・教育目標を設定し、それらの達成に必要な内容の科目は、母体となる準学士課程の各学科の科目を基礎として、より高度な内容への発展・融合、応用力の育成などが図られるように連続性を持たせて体系的に配置されている。各授業科目は、専門基礎科目、専門必修科目、専門選択科目に分類され、講義、演習、実験、研究がバランスよく配置されている。特に、1 学年、2 学年ともに実験と特別研究を配置し、少人数教育により実践的かつ創造的な研究開発能力を持つ高度な技術者の育成を図っている。

授業内容は、統一した形式でシラバスに明記し、学生に周知している。学士の学位取得については、大学評価・学位授与機構の分類による専門分野の基準に対応して取得できるように教育課程の編成を配慮している。

専攻科の成績評価・単位認定基準及び修了認定基準に関する規則を制定し、学生に周知している。単位認定については、専攻科委員会において、授業担当教員から提出された授業完了報告書を確認して厳正かつ適切に実施されている。本校では、平成 17 年度入学の専攻科 1 期生が未だ 2 学年に在学中であるため、修了認定実績はない。

基準 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 6 - 1 - : 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

(観点に係る状況)

〔準学士課程〕

本校が育成しようとする人物像とは資料 1 - 2 - - 5 に示した通りである。学力の把握・評価については、達成状況を把握するために年 4 回の定期試験を実施し、各試験における学生の成績一覧表を全教員に配布している。また、教務委員会(教務主事)と学級担任が中心になって、成績・出席不振者と保護者に定期試験ごとに連絡と指導を実施している(資料 6 - 1 - - 1)。学年末試験及び卒業認定試験結果は、学生の成績一覧表(資料 6 - 1 - - 2)に基づいて教員会議にて審議・把握する体制を取っている(資料 6 - 1 - - 3)。

卒業研究は、卒業研究中間発表、卒業研究発表及び卒業研究論文(資料 6 - 1 - - 4)の提出に基づいて、各学科の分科会にて達成状況を把握と判定を行い、教員会議にて審議・把握している。

平成 17 年度からは、教育内容検討委員会を設置して達成状況を把握・評価するための学習達成度アンケートを実施している(資料 6 - 1 - - 5)。また、商船学科の 5 年生の航海実習では、運航計画、運航準備、運航とすべて学生自身で行う実習を行い 1 ~ 4 年次の航海実習で習得した技能の把握・評価を行っている(資料 6 - 1 - - 6)。

〔専攻科〕

専攻科課程で育成しようとする人物像は資料 1 - 2 - - 5 に示した通りであり、研究の進捗状況については専攻科委員会が、特別研究中間発表(資料 5 - 6 - - 3)で把握・評価しており、教員は研究指導報告書(資料 5 - 7 - - 2)、学生は研究計画書の提出を行っている(資料 6 - 1 - - 7)。

(分析結果とその根拠理由)

教員会議を中心にして、教務委員会(教務主事)、専攻科委員会、教育内容検討委員会、分科会、学級担任等が、達成状況を把握するために機能している。

以上のことから、学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているといえる。

資料 6 - 1 - - 1

平成 17 年 11 月 13 日

学生 保護者 殿

教務主事 友田 進

前期期末段階での出席不良について（通知）

中間・期末の各段階で出席状況が芳しくない学生につきましては、そのつど教務関係担当者として、保護者の方にこの文書を送付させていただいております。

成績通知表からもお分かりかと思いますが、また学級担任の通信欄と重複することもあると思いますが、ここに前期期末段階での結果を指導上敢えてご通知申し上げます。

ご承知のことと思いますが、学年末の結果で、各科目の欠課時数が 1 単位当り 10 回を超えますとその科目の履修が認められず、1 科目でも未履修があると進級できません。この欠課時数回数については、病気ややむを得ない事由による欠課に対する救済措置であり、この回数まで授業を休んでよいというものでは決してありません。

学生のいわゆる「ずる休み」は、学生の本分である勉学への意欲欠如の現れに外なりません。

学校としても極力留年者が出ないように、早い時期から担任ともども指導と激励をしてきておりますが、保護者におかれましても十分に認識され、ご指導くださいますようよろしくお願いいたします。

なお、学業成績が不振で悩まれておられる保護者におかれましては、学級懇談会の場や個人的に来校され担任にご相談していただけたらと思います。

記

学科・学年 商船学科〇年

氏 名 〇〇 〇〇

出席不良の科目数 2 科目

（注）出席不良：1 単位当り 10 回×1 / 2 期間＝5 回を越えた欠席

出典：学生課

平成17年11月13日

学生 保護者 殿

教務主事 友田 進

前期期末段階での成績不良について（通知）

中間・期末の各段階で勉強状況が芳しくない学生につきましては、そのつど教務関係担当者として、保護者の方にこの文書を送付させていただいております。

成績通知表からもお分かりかと思ひますし、また学級担任の通信欄と重複することもあると思ひますが、ここに前期期末段階での結果を指導上敢えてご通知申し上げます。

ご承知のことと思ひますが、学年末成績で50点未満の科目が1/3を超えますと再試験を受ける資格が無くなり、進級できないこととなります。

まだ年度の1/2が経過した時点ですので、これから本人の努力と自覚でもっていくだけでも向上が可能ですし、またそれを期待しております。

学校としても極力留年者が出ないように、早い時期から担任ともども指導と激励をしてきておりますが、保護者におかれましても十分に認識され、ご指導くださいますようよろしくお願ひいたします。

なお、学業成績が不振で悩まれておられる保護者におかれましては、学級懇談会の場や個人的に来校され担任にご相談していただけたらと思ひます。

記

学科・学年 商船学科〇年

氏 名 〇〇 〇〇

50点未満の科目数 11科目（17科目中）

出典：学生課

資料 6 - 1 - - 3

平成 18 年 2 月 17 日

教 員 各位

校 長

第 12 回教員会議の開催について（通知）

標記の会議を下記のとおり開催いたしますので、出席願います。

なお、やむを得ず欠席される場合は、事前に教務係までご連絡願います。

記

1. 日 時 平成 18 年 2 月 20 日（月） 16：20～
2. 場 所 第 1 会議室
3. 議 題

審議事項

1. 電子機械工学科・情報工学科 5 年卒業試験の成績確認について
2. その他

報告事項

1. 5 商船高専の入学志願者状況について
2. 臨時休校について
3. 四国地区高専共通試験について
4. 平成 18 年度学事予定表について
5. 平成 17 年度学生による授業評価について
6. 新単位の導入について
7. 学生の指導について
8. 特別賞について
9. 卒業式における卒業生の服装について
10. その他

出典：会議開催通知（学生課）

資料 6 - 1 - - 4

平成 17 年度 弓削商船高等専門学校 電子機械工学科

卒業研究中間発表プログラム

	発表時間	卒業研究題目	研究室
1	9:40-9:48	弾性体の微小変位特性に関する研究 村上弘治	藤本
2	9:48-9:56	放電加工機の最適加工条件に関する研究 村上由季	
3	9:56-10:11	銀と脆性材料のラッピングに関する研究 小田祐揮、田窪晃奈	
4	10:11-10:26	塑性加工における弾塑性体の変形解析 寺田正範、村上信太郎	中山
5	10:40-10:55	多孔体の損傷分布と弾塑性変形に関する研究 信岡和志、村上圭亮、シャフィック	
6	10:55-11:10	弓削丸のコンピュータ制御 天野正章、佐山裕太	益崎
7	11:10-11:18	船用 WEB サーバに関する研究 上園哲也	
8	11:18-11:33	弓削周辺海域の沿岸工事による水深変化の調査研究 小林龍二、原山晋也	
9	11:40-11:55	焼結金属の被削性－工具寿命に及ぼす樹脂含浸の影響－ 柏原康利、中川裕太郎	大石
10	11:55-12:10	汎用旋盤を利用した切削試験装置の作成 石井良一、横山雅浩	
11	12:10-12:25	手先指示に協調する機械運動に関する研究 岡田剛法、小林賢也	勘久保
12	12:25-12:40	程度副詞を用いた指示による上肢の速度特性 柏原康志、大西克孝	
13	13:20-13:35	ものづくりとメカトロニクスの評価について 金本健児、加納靖将	鶴
14	13:35-13:50	ものづくりにおける技能とその機械工学的評価 伊藤宗介、中野恵介、野田達也	
15	13:50-14:05	XP 手法を用いたプログラミング学習支援システムの開発 箱崎正洋、バトバータル	長尾
16	14:05-14:13	高張力鋼板の曲げ成形性 砂川隆宣	中
17	14:20-14:28	マグネシウム合金版の FLD に及ぼす温度と速度と粒径の影響および解析的予測 西岡雄大	
18	14:28-14:43	顔画像からの感情認識システムの試作 岡野隼也、村上孔介、村上竜一郎	加藤
19	14:43-14:58	マグネシウム合金の疲労強度 川本浩生、小村太郎	高尾
20	14:58-15:13	グリーンコンポジットの製作と強度評価 木下つる代、白澤絵里加	
21	15:20-15:28	超音波振動荷重の塑性加工への応用 ファイルズ	
22	15:28-15:43	赤外線通信に関する研究 英 達夫、藤川悠貴	瀬溝
23	15:43-15:58	e-操船システムに関する研究 尾後成美、前田和也、道久隆幸	
24	15:58-16:13	各種（交流・直流）電動機の研究 安藤優介、益濱 弘、濱口 翔	田頭
	16:13-16:20	講評	

出典：電子機械工学科

平成 17 年度 弓削商船高等専門学校 電子機械工学科

卒業研究発表プログラム

	発表時間	卒業研究題目	研究室
	8:50- 9:00	学科長挨拶	
1	9:00- 9:15	焼結金属の被削性-工具寿命に及ぼす樹脂含浸の影響- 柏原康利、中川裕太郎	大石
2	9:15- 9:30	汎用旋盤を利用した切削試験装置の作成 石井良一、横山雅浩	
3	9:30- 9:45	銀と脆性材料のラッピングに関する研究 小田祐揮、田窪晃奈	藤本
4	9:45- 9:55	弾性体の微小変位特性に関する研究 村上弘治	
5	10:05-10:15	放電加工機の最適加工条件に関する研究 村上由季	
6	10:15-10:35	多孔体の損傷分布と弾塑性変形に関する研究 信岡和志、村上圭亮、シャフィック	中山
7	10:35-10:50	塑性加工における弾塑性体の変形解析 寺田正範、村上信太郎	
8	10:50-11:05	弓削周辺海域の沿岸工事による水深変化の調査研究 小林龍二、原山晋也	益崎
9	11:15-11:25	船用 WEB サーバに関する研究 上園哲也	
10	11:25-11:40	弓削丸のコンピュータ制御 天野正章、左山裕太	
11	11:40-12:00	顔画像からの感情認識システムの試作 岡野隼也、村上孔介、村上竜一郎	加藤
12	12:00-12:15	マグネシウム合金 AZ31M の疲労き裂発生挙動と切欠感度 川本浩生、小村太郎	高尾
13	13:20-13:30	金属の塑性変形に及ぼす超音波振動荷重の影響 ファイルズ	
14	13:30-13:45	グリーンコンポジットの製作及び強度評価 木下つる代、白澤絵里加	
15	13:45-14:00	ものづくりにおける技能とその機械工学的評価 伊藤宗介、中野恵介、野田達也	鶴
16	14:00-14:20	ものづくりとメカトロニクスの評価について 金本健児、加納靖将	
17	14:30-14:50	赤外線通信に関する研究 英 達夫、藤川悠貴	瀬溝
18	14:50-15:05	e-操船システムに関する研究 尾後成美、前田和也、道久隆幸	
19	15:05-15:20	XP 手法を用いたプログラミング学習支援システムの開発 箱崎正洋、バトバータル	長尾
20	15:20-15:30	マグネシウム合金板の FLD に及ぼす温度と速度と粒径の影響および解析的予測 西岡雄大	中
21	15:40-15:50	高張力鋼板の曲げ成形性 砂川隆宣	
22	15:50-16:05	程度副詞を用いた指示による上肢の運動特性 柏原康志、大西克孝	勘久保
23	16:05-16:20	手先指示に協調する知能機械に関する研究 岡田剛法、小林賢也	
24	16:20-16:40	電動機の特性 安藤優介、益濱 弘、濱口 翔	田頭
	16:40-16:50	講評	

出典：電子機械工学科

資料 6 - 1 - - 5

平成 17 年度 学生の学習達成度アンケート

1. アンケートの目的

学生の学習達成度を調査することで、本校で実施している実践技術者教育が、その目的を達成しているかどうかを確かめることで、授業の改善、教員のFDなどに活用する。

また、本校教育に対する学生の満足度を検証しようとするものである。

2. 実施時期等

実施時期：平成 18 年 2 月下旬（クラスごとに随時実施）

対象学生：電子機械工学科 5 年生、情報工学科 5 年生

3. アンケート様式

卒業までに身につけた知識や一般素養、および身につけた知識等の活用に関する 2 項目について尋ねている。質問形式は選択方式とした。水準は「肯定」、「やや肯定」、「やや否定」、「否定」の 4 段階とした。また、回答者が本校の教育について、自由に意見が述べられる項目も設定した。

4. 主な質問内容

具体的な質問項目は別紙に示したが、質問の狙いは、

- ・本校の教育で、何をどの程度まで身につけることができたか
- ・本校で得た知識等が実社会でどの程度役立つと思っているか
- ・将来について真剣に考え始めた時期はいつか

である。

5. アンケートの回収率

アンケート総数 (87名)

電子機械工学科 5 年生 (47名) 回収率 (100%)

情報工学科 5 年生 (40名) 回収率 (100%)

出典：教育内容検討委員会

資料 6 - 1 - - 6

運航月日	平成 17 年 6 月 13 日 (月) ~ 6 月 15 日 (水)						
運航名目	商船学科第 5 学年練習船実習			運航類系	1	運航日数	3
航海時間	27-40	航海距離	347	燃料消費	6203	運航代表者	豊田
対象者及び員数	S5 学生 35 名、指導教員 3 名、乗組員 11 名						
運 航 ス ケ ジ ュ ー ル							
6 月 13 日	08:00	弓削発		6 月 15 日	06:50	関門港門司発	
	17:00	西大分着			17:20	弓削着	
14 日	07:20	西大分発					
	15:30	関門港門司着					
運航の内容 (実習・実験・研修・行事等) の概要							
実習の目標	商船学科 5 年生にとって、校内練習船実習の総復習として学生のみで運航することを目標におき、実習に取り組む。						
実習の内容	<p>(1) 出入港配置</p> <p><W/H> ① 入出港時操船法、各種オーダー及びアンサー確認</p> <p><E/R> S/B~航海状態~S/B~停泊状態への切替操作要領 (C/R) ① 発電機電動機の遠隔発停、配電盤操作 ② 航海用補機の発停、運転の確認 ③ 主機のトライエンジン、遠隔操縦</p> <p>(E/R) ① 発電機原動機の始動準備、機側発停 ② 主機の暖機ライン切替、始動準備及び終了作業</p> <p><F&P Deck> ① W/H とのマイクによる連絡 ② 甲板機器の名称、取扱い法の習得 ③ 各種係留索の取扱い法理解</p> <p>(2) 航海当直及び課業</p> <p><W/H 班> ① 航海当直法 ② 海上交通法規の習得 ③ 各種航海計器の取扱い法習得</p> <p><C/R 班> ① 機関室内の計測及び見廻り、主機及び主要補機の運転状態のチェック ② 制御室内の各電子機器、コンピュータによる運転情報の監視業務を行う ③ 軸発動機実負荷試験実施、計測解析</p> <p>(3) 課題</p> <p><N系> ① ログブックライティング (各班当直中の記事、実験実習資料参照) ② 関門港門司航路航法のまとめ及び見学の感想をまとめる (航海実習資料参照) ③ セキスタント操作法の習得 ④ ジャイロエラー検出 ⑤ 排水量計算 ⑥ 実習感想</p> <p><E系> ① 軸発電装置利用によるデータ収集・整理 ② 航海当直実習の内容に揚げてある事項、計測簿記入その他 ③ インストラクターの課題: 1 人 1 テーマ</p>						
運 航 に 関 す る ま と め							
<ul style="list-style-type: none"> ・最後の練習船実習であったせいか、皆、頑張っている姿勢が非常に良かった。(N-Inst) ・各自別個の課題を与えられて、熱心に取り組み、5 分間の発表を行った。(E-Inst) ・後期からの訓練所実習に向け、精神的に準備が整った感じを受けた。 							
備 考							
乗組員: 豊田、松永、永本、渡部、金子、山下、辻、中根、中瀬、堀、岩堀 教職員: 松下、高岡、野々山							

出典: 弓削丸年報 (平成 17 年度)

学籍 6 - 1 - - 7

10 月 平成 1 8 年度 研究日誌 (専攻科生用) 学生番号 055009 氏名 [Redacted]

月	研究内容	時間	火		水		木		金		土	日	1週間(または該当日)の研究のまとめ今後の計画(40字以上)	担当教員印
			研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間	研究内容	時間				
10/3	入学式	0	10/4	0	10/5	2	10/6	2	10/7	2	10/8	10/9	0	0 hr
10/10		0	10/11	3	10/12	1	10/13	0	10/14	0	10/15	10/16	0	6 hr
10/17	基礎研究(現象発現の再現性)	4	10/18	3	10/19	3	10/20	2	10/21	0	10/22	10/23	0	4 hr
10/24	基礎研究(現象発現と比較)	4	10/25	2	10/26	3	10/27	3	10/28	0	10/29	10/30, 31	4	12 hr
													今月の研究時間合計	38 hr
													半期累計	38 hr

注意事項：1. 基本的には毎日、担当教員の指導のもとに行なった研究について、その日のうちに研究日誌にその内容・時間を記入すること。
 2. 1年前期・後期は90時間(週あたり約6時間)以上、2年前期は135時間(週あたり約9時間)以上、2年後期は405時間(週あたり約27時間)以上のこと。
 3. 上記研究時間に自宅で行った研究時間を含めることはできない。研究日誌においても自宅で行った分(内容・時間)を書かないこと。
 4. 本研究日誌は、原則的に毎週担当教員に提出し捺印を受けること。
 * 研究日誌は、各月1枚に記入すること。
 * 最終日(30, 31日)が6週目になる月は、その月の研究日誌には最終週の分を記入せずに、例外的に最終週の分を翌月の研究日誌に記入し、その研究時間と翌月の研究時間とみなすこと。

出典：専攻科海上輸送システム工学専攻

観点 6 - 1 - : 各学年や卒業(修了)時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級状況、卒業(修了)時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

[準学士課程]

()単位取得状況

本校では、年 4 回の定期試験を実施し、単位認定を行っている。このとき不認定になり特別進級した学生については、次学年の前期に 3 回の追認試験を行うことで進級の機会を与え、留年による学生の負担を軽減しようとしている。単位不認定となった科目を有する学生の 3 年間の推移を資料に示す(資料 6 - 1 - - 1)。増減はあるものの過去 3 年間の不認定者数を徐々に減少させることに成功している。

()進級者数、原級留置及び退学者数

原級及び退学者数を減少させる取組として、追認試験制度の導入(資料 6 - 1 - - 2)、校長・教務主事による成績不良者(年度末)及び留年学生(年度始め)の面談(資料 6 - 1 - - 3)、試験毎の保護者への連絡(資料 6 - 1 - - 1)、科目担当教員による補習授業等を実施している。過去 3 年間の原級及び退学者数の推移を資料に示す(資料 6 - 1 - - 4)。総数には増減があるものの退学者数は徐々に減少している。

()資格取得等の状況

本校は、資格取得の奨励と支援のために、取得可能な資格と支援のための担当教員を年度当初に主要な場所に掲示することで学生に周知している(資料 6 - 1 - - 5)。資格取得の状況を資料に示す(資料 6 - 1 - - 6)。商船系、機械系、情報系の資格の取得が多くなっている。

()卒業研究・学会発表・学会表彰

各学科の目的に沿った研究テーマで、卒業研究計画書(資料 6 - 1 - - 7)の作成、中間発表、卒業研究発表(資料 5 - 2 - - 1)、卒業研究論文の提出、評価まで学科が中心になり、計画的かつ組織的に実施している。数件であるが、準学士課程においても学会にも発表しており(資料 6 - 1 - - 8)、優れた研究に対しては、学会表彰を受けている(資料 6 - 1 - - 9)。

(v)各種コンペティション等の受賞

情報工学実験 2 で学生が作成したホームページが I T 甲子園で入賞するなど、授業による教育の効果が表れている(資料 5 - 2 - - 4)。また、キャンパスベンチャーグランプリにおいて 2 名が努力章を受賞(資料 5 - 6 - - 4)、平成 12, 13, 15 年度の全国高専プログラムコンテストにおいて最優秀賞を受賞(平成 17 年度は優秀賞)(資料 5 - 4 - - 8)するなど、授業や卒業研究以外での創造性教育の効果もあがっている。

[専攻科]

平成 17 年度に開設し、一期生が 2 年次に在学中である。資料 6 - 1 - - 10 から資料 6 - 1 - - 12 に、単位取得状況、特別研究課題リスト、学会発表状況を示す。平成 17 年度の段階で、専攻科生 11 名中、8 名が二回以上、10 名が一回以上学会発表を行っており、研究が進捗していることがわかる。

また、研究成果がキャンパスベンチャーグランプリにおいて特別賞を受賞(資料 5 - 6 - - 4)、

研究成果を実用新案登録（資料 5 - 6 - - 5）するなど、研究の成果が表れている。

（分析結果とその根拠理由）

各学年や卒業(修了)時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、準学士課程においては、単位取得状況、進級状況、卒業(修了)時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているといえる。また、専攻科においても単位取得状況、特別研究の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているといえる。

資料 6 - 1 - - 1

単位不認定学生数

(単位:人)

学年\年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
1	9	3	7
2	25	9	18
3	18	17	5
4	31	19	18
5	0	0	0
合計	83	48	48

出典：学生課

資料 6 - 1 - - 2

(進級)

第12条 進級の認定は、次の各号の要件を満たした学生について行う。

- (1) 1年間の出席日数が、出席すべき日数（授業（特別活動、講演等を含む。）、学校行事、特別日課等の合計とし、出席停止（学則第25条）及び忌引（学生準則第15条）は含まない。第14条第4項において同じ。）の3分の2以上であること。この場合において、欠席日数の換算は第2条第3項を適用する。
- (2) 当該学年において、別表3の所定の進級単位数を修得していること。
- (3) 前学年の未修得科目がないこと。
- (4) 特別活動を履修していること。

(特別進級)

第13条 前条第2号の規定にかかわらず、次の各号の要件を満たす学生については、特に進級の認定を行うことができる。

- (1) その学年で必要な全科目を履修していること。
 - (2) 特別活動を履修していること。
 - (3) 別表4に示す各学年の科目を修得していること。
 - (4) 1年間の出席日数が、出席すべき日数の3分の2以上であること。この場合において欠席日数の換算は、第2条第3項を適用する。
 - (5) 当該学年の未修得科目数及び未修得単位数が別表5に示す数以下であること。
 - (6) 前学年の未修得科目がないこと。
- 2 前項の進級を希望する学生は、所定の特別進級願（第5号書式）を校長に提出し、許可を受けなければならない。

(追認試験)

第14条 前条に規定する進級（以下「特別進級」という。）をした学生は、追認試験を受けることができる。

- 2 追認試験を受けようとする学生は、所定の追認試験受験願（第6号書式）を追認試験実施日の前日までに校長に提出し、許可を受けなければならない。
- 3 追認試験は、夏季休業前に3回実施する。
- 4 追認試験の実施日等については、校長が指定する。
- 5 追認試験に対する再試験・特別試験は行わない。

出典：弓削商船高等専門学校学業成績の評価並びに
進級・特別進級及び卒業の認定に関する規則

資料 6 - 1 - - 3

原級学生を励ます会

平成 17 年 4 月 5 日

以下の通り実施いたしました。

実施日：平成 17 年 4 月 5 日

場所：第二会議室（10：00～）

出席者：校長、教務主事、学生主事、教務主事補（1名）

大石、野口、学生課長

出席者：

保護者（4名）

実施方法：第二会議室にて約一時間、本年度一年間の学習、生活の

遵守事項を中心に説明、その後質疑応答を実施した。

実施概要

学校から

- ・校長：原級者への励ましを行った。
- ・教務主事・学生主事：一年間の心構えを原級者に伝えた。

学生・保護者から

- ・保護者全員から家庭との連絡を十分に取ってほしいとの要望
が出された。（担任会議で周知する）

個別懇談

- ・学生と保護者が下記のように別れて、さらに個別懇談を実施
した。

出典：原級学生を励ます会実施報告書

資料 6 - 1 - - 4

平成 15, 16, 17 年度原級留置者・退学者数, 進路変更者数

(単位: 人)

項目 \ 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
原級留置者(a)	9	4	10
退学者等(b)	33	23	21
(うち進路変更者)	(20)	(12)	(14)
合計(a+b)	42	27	31

出典: 学生課

資料 6 - 1 - - 5

各種資格試験の相談窓口等

資格試験名	受験相談・指導	手続き窓口
漢字検定 (*)	神谷先生・猪川先生 (G)	神谷先生・猪川先生 (G)
実用英語技能検定	英語担当教員 (G)	坂内先生 (G)
実用数学技能検定 (*)	藤井 _清 先生 (G)	藤井 _清 先生 (G)
TOEIC	野口先生 (G)	
海技士	渡部先生 (S)	
小型船舶操縦士	多田 _光 先生 (S)	多田 _光 先生 (S)
海上無線通信士	多田 _光 先生 (S)	多田 _光 先生 (S)
ワープロ技能検定 (*)	益崎先生 (M)	情報処理教育センター
工業英語能力検定 (*)	小川先生 (I)	加藤先生 (M)
電気工事士	田頭先生 (M)	
電気主任技術者	田頭先生 (M)	
CAD検定 (*)	中山先生 (M) ・藤井 _清 先生 (I)	
パソコン利用技術認定 (*)	I 科の各先生	情報処理教育センター
基本情報技術者	I 科の各先生	情報処理教育センター
画像情報検定 (*) ・CG ・画像処理 ・マルチメディア	塚本先生 (I)	塚本先生 (I)
ボイラー技士	松永先生 (Y)	松永先生 (Y)
危険物取扱者	松永先生 (Y)	松永先生 (Y)
潜水士	松下先生 (S)	
スキューバダイバー	松下先生 (S)	
毒物・劇物取扱主任者	飯塚先生	

S: 商船学科 M: 電子機械工学科 I: 情報工学科 G: 総合教育科 Y: 練習船
 *: 本校試験会場 (ただし、小人数の場合、実施できない試験あり)

(注) 手続き窓口が明記してある資格試験の合格者については、担当の先生の方から教務係に連絡をしてもらいますが、それ以外の資格試験については、合格者本人が教務係に連絡をしてください。

出典: 学生課

資料 6 - 1 - - 6

平成16年度資格試験合格者数一覧表

(単位:人)

資格名\商船だより発行月	H16. 11	H17. 3	H17. 11	合計
海技士筆記試験(1級)	1			1
海技士筆記試験(2級)		5		5
乙種第4類危険物取扱者	4			4
潜水士	9			9
第2種電気工事士	1			1
パーソナルコンピュータ利用者技術認定試験(2級)	8			8
パーソナルコンピュータ利用者技術認定試験(3級)	31			31
初級システムアドミニストレータ	4	4		8
基本情報処理技術者	2	2		4
平成16年度CAD利用技術者試験(2級)	6	5		11
1級小型船舶操縦士		19		19
2級小型船舶操縦士		12		12
特殊小型船舶操縦士		7		7
マルチメディア(2級)		1		1
マルチメディア(3級)		4		4
コンピュータグラフィックス(2級)		1		1
コンピュータグラフィックス(3級)		1		1
画像処理(3級)		15		15
工業英検(3級)			1	1
工業英検(4級)			3	3
合 計	66	76	4	146

平成 17 年度は未集計

出典：学生課

資料 6 - 1 - - 7

平成 17 年度 卒業研究指導計画書

平成 17 年 4 月 1 日

卒業研究指導教員氏名 友田 進

1. 学生氏名 (学籍番号)



2. 研究題目

気相反応によるダイヤモンドの生成

3. 研究の概要

気相反応により工具表面にダイヤモンドを作成し、得られたダイヤモンド工具を機械加工、特に、研磨加工に応用することが目的である。具体的には、アセチレンと酸素の混合ガスによるダイヤモンドの生成条件を見出し、得られたダイヤモンドの粒度制御や基板との密着性等を追究することで、安価で最適な研磨板を作成することにある。

4. 研究目標

本年度は、アセチレンと酸素の混合ガスによるダイヤモンドの生成条件を見出し、タングステン、またはモリブデン板上にダイヤモンドを成長させることを目標とする。

5. 指導方針

実験が中心になるが、ダイヤが気相反応で生成できる意味を理解し、研究が進められるように指導する。

6. 研究実施方法

初めての卒業研究であるので、文献等の収集と講読に時間をかけ、得られた知見に基づいて、実験装置の組み立てることに重点を置く。また、本研究で得られた反応生成物を電子顕微鏡やX線回折により同定する。

7. 主たる研究場所

材料学実験室、実習工場

8. 月間計画 (学会発表予定を含む)

4月：装置の設計と組み立て	5月：ダイヤモンドの作成
6月：ダイヤモンドの作成	7月：試作した物質の観察
8月：報告書の作成	9月：報告書の作成と研究発表

9. 備考

注：卒業研究題目ごとに記入すること。

出典：平成 17 年度卒業研究計画書 (商船学科)

資料 6 - 1 - - 8

実施概要

1. 趣旨

本校で行う中期計画の「研究と教育の一体化」を実施する具体策として、「卒業研究等の学会での発表」と「プロジェクト研究及び共同研究」に学生の参加が掲げられている。これを受けて、別紙の通り実施したの中間報告を行う。

2. 実施状況(平成 16 年 1 月 7 日現在)

イ. 卒業研究等の学会での発表

学生による学会発表は 2 件実施された。

学会名 日本塑性学会

講演会名 学生研究発表会

講演等 「高張力鋼板の張出し成形性」

「マグネシウム合金版の温間成形性」

ロ. プロジェクト研究及び共同研究

学生による共同研究は 3 件実施された。

共同研究実施団体名 別紙の通り

参加学生

商船学科

電子機械

出典：研究と教育の一体化に関する実施報告

資料 6 - 1 - - 9

平成 17 年度卒業（商船学科）受賞者

賞 名	航海コース	機関コース
特別精励賞	■	■
精励賞	■	■
体育功労賞	■ (陸上部) ■ (水泳部) ■ (テニス部) ■ (ラグビーフットボール部) ■ (カッター部) ■ (カッター部)	■ (陸上部) ■ (テニス部) ■ (カッター部) ■ (カッター部) ■ (カッター部)
文化功労賞	該当者なし	該当者なし
特別賞	該当者なし	該当者なし
日本船員奨学会賞	■	■
日本航海学会奨学褒賞	■	
日本船舶海洋工学会奨学褒賞	■	■
全日本船舶職員協会賞	■	■
日本マリンエンジニアリング 学会優秀学生奨励賞「山下勇 賞」		■
軽金属学会中国四国支部奨励 賞		

出典：平成 17 年度卒業表彰者一覧（商船学科）

平成17年度卒業（電子機械工学科・情報工学科）受賞者

賞 名	電子機械工学科	情報工学科
特別精励賞	[Redacted]	[Redacted]
精励賞	[Redacted]	[Redacted]
体育功労賞	[Redacted] ラグビーフットボール部 サッカー部 サッカー部 サッカー部	[Redacted] 水泳部 サッカー部 ラグビーフットボール部 テニス部
文化功労賞	[Redacted] 将棋部 将棋部 マイコン部 マイコン部	[Redacted] マイコン部 マイコン部 マイコン部 マイコン部 マイコン部 マイコン部 マイコン部
日本機械学会畠山賞	[Redacted]	
電気学会・電子情報通信学会・情報処理学会四国支部奨励賞	[Redacted]	[Redacted]
軽金属学会中国四国支部奨励賞	[Redacted]	
弓削商船高等専門学校同窓会「会長賞」	[Redacted]	[Redacted]

出典：平成17年度卒業表彰者一覧（電子機械・情報学科）

資料 6 - 1 - - 10

生産システム工学専攻 成績一覧表 (平成17年度 後期成績)

出席番号	氏名	順位	平均	合計	後期 単位 計	単 位 計	数理工学 必修	環境 化学 概論 必修	技術 英語2 必修	特別 研究 必修	技術 文献 ゼミ 必修	生産 システ ム工 学演 習 必修	数値 解析 特論 選択	計算 機制 御シス テム 選択	人工 知能 特論 選択
							藤井 (清)	新塚	野口		高木 外	中山 外	籍	益崎	長屋
							2	2	2	2	1	2	2	2	2
		2	87.8	966	23	48	80	94	86	合	90	93	80	100	80
		3	86.8	1042	25	50	89	92	89	合	80	85	95	100	80
		4	85.3	938	23	48	86	80	93	合	90	90	80		80
		4	85.3	938	23	48	87	96	83	合	75	70	90	100	80
		8	80.2	862	25	44	87	80	79	合	70	80	75	75	80
		6	84.1	923	23	48	77	96	82	合	75	85	80	100	80
		7	81.3	976	25	44	79	92	70	合	73	80	75	80	80
		1	88.8	888	21	44	85	94	73	合	90	100	85	85	
合計			879.6				650	734	655	0	643	683	660	640	560
平均			84.9				81.3	91.8	81.9		80.4	85.4	82.5	91.4	80.0

ロボ ティクス 選択	材料 強度 学 選択	CAD /C AM 選択	トライ ボロ ジー 選択	信号 処理 論 選択	電子 回路 応用 選択	環境 マネー ジメン トシス テム選 択	デー タ 構造 選択
勤久 保	高屋	中山	藤本	葉目	瀬邊	塚本	長屋
2	2	2	2	2	2	2	2
	90	90	83				
85	90	90	87				
85	90	85	79				
	90	75	92				
				85	97	80	84
	90	90	70				
				85	100	78	84
	95	95	86				
170	545	525	477	170	197	158	168
85.0	90.8	87.5	79.5	85.0	98.5	79.0	84.0

出典：学生課

海上輸送システム工学専攻 成績一覧表 (平成17年度 前期成績)

出席番号	氏名	順位	平均	合計	前期 単位計	単 位計	数理工学 必修	環境化学 概論必修	技術英語2 必修	特別 研究	海事科学 実修必修	海事科学 演習必修	環境マネー ジメントシス テム選択	商船シス テム概 論選択	危機管理 学選択
							藤井 (清)	濱中	野口		高田	石橋 外	坂本	松下	多田 (勝)
		4	82.5	1072	27	27	69	79	91	合	80	80	92	80	85
		2	83.2	1082	27	27	82	94	79	合	82	78	90	80	85
		10	70.5	916	23	23	56 *	74	68	合	77	67	40 *	75	80
		8	79.9	1039	27	27	76	89	86	合	78	80	84	80	75
		3	82.8	1076	27	27	78	94	82	合	80	80	84	80	85
				0											
		9	74.5	969	25	25	43 *	94	77	合	79	71	64	80	70
		1	83.9	1091	27	27	84	94	98	合	80	82	84	80	70
		5	82.2	1069	27	27	80	94	75	合	81	73	94	80	90
		6	82.1	1067	27	27	74	94	91	合	78	77	80	80	75
		7	81.5	1059	27	27	75	92	86	合	79	72	84	80	80
			803.1				717	898	833	0	794	760	796	795	795
		平均	80.3				71.7	89.8	83.3		79.4	76.0	79.6	79.5	79.5

船舶安全工学特論 選択	海洋環境法規 選択	船舶工学特論 選択	海上交通工学特論 選択	海事国際法 選択	コンピ ュー タ機 械 設 計 選 択	潤滑工学特論 選択
多田 (光)	中家	湯田	多田 (光)	山尾	中山	藤本
2	2	2	2	2	2	2
80	79	80	90	87		
80	80	80			95	77
80	80	80			80	79
80	65	85	80	81		
80	80	80	90	83		
80	65	80			90	76
90	84	80			80	85
80	69	80			95	78
80	71	85			95	87
90	70	80			90	81
820	723	810	260	251	625	563
82.0	72.3	81.0	86.7	83.7	89.3	80.4

出典：学生課

資料 6 - 1 - - 11

特別研究一覧表

海上輸送システム工学専攻（1期生）

	シミュレータ訓練による操船技術の習熟特性
	湿度調整用高分子ゲルシートの開発
	水中の音響の測定・解析に関する研究
	低速航行時における1軸2枚舵船の操縦運動に関する研究
	魚型水平断面舵における最適舵型形状に関する研究
	水・エマルジョン燃料の蒸発、燃焼に関する研究
	マグネシウム合金板のFLDに及ぼす温度、速度および粒径の影響
	銀とガラスの研磨特性について
	小型船のBRM訓練シナリオの作成
	ペロブスカイト型遷移金属酸化物を用いた光磁気機能材料の開発

海上輸送システム工学専攻（平成18年10月入学予定者）

	シミュレータ訓練による操船技術の習熟特性
	湿度調整用高分子ゲルシートの開発
	水中の音響の測定・解析に関する研究
	低速航行時における1軸2枚舵船の操縦運動に関する研究
	魚型水平断面舵における最適舵型形状に関する研究
	水・エマルジョン燃料の蒸発、燃焼に関する研究
	マグネシウム合金板のFLDに及ぼす温度、速度および粒径の影響
	銀とガラスの研磨特性について

生産システム工学専攻（1期生）

	切削加工に関連した研究
	ワンチップマイコンを用いた制御に関する研究
	弾性体の微小変位特性に関するテーマ
	手の動きを利用した3次元入力インターフェースの開発
	分散型ネットワーク管理システムに関する研究
	GISに関連した研究
	高張力網の成形性
	構造物の強度評価シミュレーション

生産システム工学専攻（2期生）

	各種応力問題のFEM解析
	程度副詞を用いた指示による上肢の速度特性
	発泡スチロール切削用工具の開発
	弾性体の微小変位特性に関する研究
	離散むだ時間補償器を有するI-PD制御系の設計とその応用
	近接するボイドを含む弾塑性体の2軸圧縮変形解析
	歯の接触音を用いた学習機能を有するハンズフリー型ユーザーインターフェースの開発
	マグネシウム合金AZ31Mの疲労き裂発生挙動と切欠感度

出典：平成18年度専攻科特別研究一覧表

資料 6 - 1 - - 12

平成 17 年度専攻科生論文

口頭発表

- 1 : 「歯の接触音を用いたユーザインターフェースの開発」
平成 17 年度 電気関係学会四国支部連合大会 (高松)
平成 17 年 9 月
- 2 : 「歯の接触音を用いた学習機能を有するハンズフリー型ユーザインターフェースの開発」
2006 年 電子情報通信学会 総合大会 (東京)
平成 18 年 3 月

受賞

- キャンパスベンチャーグランプリ 2005 四国地区エリア
特別賞「四国産業人クラブ賞」受賞 平成 18 年 2 月
「歯の接触音を用いた学習機能を有するハンズフリー型ユーザインターフェース」の提案

口頭発表

- 1 : 「離散むだ時間補償器を有する I-PD 制御系の一設計」
平成 17 年度 電気関係学会四国支部連合大会 (高松)
平成 17 年 9 月
- 2 : 「非線形むだ時間系に対する適応 I-PD 制御系の一設計」
2006 年 電子情報通信学会 総合大会 (東京)
平成 18 年 3 月

口頭発表

- 1 : 「弾性体の接線力方向微小変位特性に関する研究」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)
- 2 : 「弾性体の接線力による微小変位特性 (NBR ゴムによる実験的検討)」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

口頭発表

- 1 : 「非貫通孔を持つ有限体の一様引張り」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)
- 2 : 「非貫通孔を持つ有限体の一様引張り」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

論文

- 1 : 「非貫通孔を持つ有限体の一様引張り」
弓削商船高等専門学校 第 28 号 紀要 (平成 18 年 2 月)

口頭発表

- 1 : 「程度副詞を用いた指示による上肢の運動特性」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

口頭発表

- 1 : 「発泡スチロールの切削」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)
- 2 : 「発泡スチロール切削工具の開発」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

出典：平成 17 年度自己点検評価報告書

口頭発表

- 1 : 「圧縮負荷状態における近接 2 円孔体の弾塑性変形解析」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)
- 2 : 「近接するポイドを含む弾塑性体の 2 軸圧縮変形解析」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

論文

- 1 : 「圧縮負荷状態における近接 2 円孔体の弾塑性変形解析」
弓削商船高等専門学校 第 28 号 紀要 (平成 18 年 2 月)

- 1 : 「マグネシウム合金の疲労き裂発生と切欠感度」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)
- 2 : 「グリーンコンポジットの製作及び強度評価」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

特許

- 1 : 実用新案登録「マグネトロン (マイクロ波) による流体過熱器」平成 17 年 7 月 13 日

口頭発表

- 1 : 「マグネシウム合金板の FLD に及ぼす温度と速度及び粒径の影響」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)
- 2 : 「Mg 合金板の FLD における解析的予測」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)
- 3 : 「マグネシウム合金板の温間 FLD の解析的予測」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)
- 4 : 「マグネシウム合金板の FLD に及ぼす温度と速度及び粒径の影響」
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会 (2006. 3. 7)

口頭発表

- 1 : 「銀とガラスの研磨特性について」
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会 (2005. 12. 9)

論文

- 1 : 「弓削丸船内 LAN システムの現状と将来への拡張性について」
弓削商船高等専門学校 第 28 号 紀要 (平成 18 年 2 月)

出典：平成 17 年度自己点検評価報告書

観点 6 - 1 - : 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

進学率と就職率は、希望者に対してほぼ 100%に達している(資料 6 - 1 - - 1)。求人数は商船学科が 295 (そのうち海上職が 88)、電子機械工学科が 313、情報工学科が 259 である。就職先の職種は、各学科の養成する人材像に対応していて、商船学科は海上職、電子機械工学科は機械系の職、情報工学科は情報サービス系の職の割合が最も高くなっている。進学先は、本校で学んだ専門分野を生かした大学または専攻科が中心になっている(資料 6 - 1 - - 2、資料 6 - 1 - - 3)。

(分析結果とその根拠理由)

本校の進学率と就職率は、希望者に対してほぼ 100%に達している。就職先の職種は、各学科の養成する人材像に対応している。また、進学先は、本校で学んだ専門分野を生かした大学または専攻科が中心になっている。以上のことから、教育の成果や効果が上がっているといえる。

資料 6 - 1 - - 1

平成 17 年度卒業 (予定) 者の就職・進学先一覧

平成 18 年 2 月 23 日現在

(商船学科) 卒業者数 32 名

航海コース 13 名

機関コース 19 名

イーグルマリタイム(株)	宇部興産海運(株)
川崎汽船(株)	エムオーエンジニアリング(株)
(株)神戸クルーザー	川崎汽船(株)
(株)タニエスケーイー	九州郵船(株)
(株)ダイトーコーポレーション	(株)商船三井
(株)ダイヤモンドフェリー	大東工業(株)
太洋日本汽船(株)	(株)ダイヤモンドフェリー
内海水先人会	DNPクレシジョン(株)
日東物流(株)	日本マリンテクノ(株)
神戸大学海事科学部海事技術マネジメント学課程	日本郵船(株)
東京海洋大学海洋工学部海事システム工学科航海システムコース	ハリゾン東芝ライティング(株)
弓削商船高専専攻科海上輸送システム工学専攻	神戸大学海事科学部海事技術マネジメント学課程
	豊橋技術科学大学工学部生産システム工学系
	弓削商船高専専攻科海上輸送システム工学専攻 6 名

(電子機械工学科) 卒業予定者数 47 名

(株)アイメックス	(株)日産テクノ
潮冷熱(株)	日信電子サービス(株)
(株)エクセディ	日本オーチス・エレベータ(株)
カヤバ工業(株)	日本ホイスト(株)
刀鍛冶師	(株)半導体エネルギー研究所
技研電子(株)	(株)日立ビルシステム
京セラ(株) 3 名	フジケンエンジニアリング(株)
コベルコイーグル・マリンエンジニアリング(株)	三浦工業(株)
コベルコ産機(株) 2 名	三菱重工(株) 高砂製作所
品川ロー(株)	ムラテック販売(株)
(株)シマノ	その他就職 1 名
神鋼テクノ(株)	岡山大学工学部機械工学科
新中央工業(株)	電気通信大学電気通信学部情報通信工学科
セントラルエンジニアリング(株)	豊橋技術科学大学工学部生産システム工学系 2 名
ダイキン工業(株)	豊橋技術科学大学工学部電気電子工学系
中電工(株)	長岡技術科学大学工学部建設工学課程
東芝メディカルシステムズ(株)	長岡技術科学大学工学部電気電子情報工学課程
東洋保安工業(株)	福井大学工学部機械工学科
西日本旅客鉄道(株)	弓削商船高専専攻科生産システム工学専攻 4 名

(情報工学科) 卒業予定者数 40 名

(有)AKABE i SOFT 2	(有)中本薬局
(株)アルメックス 2 名	日本海洋事業(株)
(株)エステンナイン京都	(株)ハローズ
NECフィールドディング(株)	自立ハイブリッドネットワーク(株)
(株)愛媛銀行	広島エルピーダメモリ(株)
(株)エムティサービス東日本	富士ソフトABC(株)
宗教法人大山神社	マツダ(株)
(株)沖電気カスタマアドテック	(株)マツダE&T
技研電子(株)	マルウ接装(株)
京セラ(株)	(株)リコー
京セラコミュニケーションシステム(株)	矢崎総業(株)
JFEスチール(株)	大阪大学工学部電子情報エネルギー工学科
(株)ジャパンアウトソーシング	香川大学工学部情報情報システム工学科
ジョンソンコントロールズ(株)	東京海洋大学海洋工学部流通情報工学科
(株)神鋼エンジニアリング&メンテナンス	豊橋技術科学大学工学部知能情報工学系
新生電子(株)	弓削商船高専専攻科生産システム工学専攻 4 名
総合警備保障(株)	アカデミアデルジリア (伊語専門学校留学)
(株)ダイキ	

出典：学生課

資料 6 - 1 - - 2

General Situation of Students 学生の概況

大学編入学状況

Situation of Entry in University

編入学年度 Entry in University		平成18年度 2006				平成17年度 2005				平成16年度 2004				平成15年度 2003				平成14年度 2002			
大学名 University	学科 Department	商	電	情	商	電	情	商	電	情	商	電	情	商	電	情	商	電	情		
		船	機	工	船	機	工	船	機	工	船	機	工	船	機	工	船	機	工		
国立	(図書館情報大学) Univ. of Library and Information Science																		1		
	東京海洋大学 Tokyo University of Marine Science and Technology	1		1	1				1												
	(東京商船大学) Tokyo University of Mercantile Marine													2							
	(東京水産大学) Tokyo University of Fisheries												1								
	電気通信大学 The University of Electro-Communications		1												1						
	長岡技術科学大学 Nagasaki University of Technology		2				1											2			
	信州大学 Shinshu University																	1			
	豊橋技術科学大学 Toyohashi University of Technology	1	3	1						3	1	1	2					3			
	三重大学 Mie University						1														
	大阪大学 Osaka University			1																	
	神戸大学 Kobe University	2			2				3	1											
	(神戸商船大学) Kobe University of Mercantile Marine												5			4					
	和歌山大学 Wakayama University																		1		
	福井大学 Fukui University		1																		
	岡山大学 Okayama University		1																		
	広島大学 Hiroshima University										1										
	山口大学 Yamaguchi University										1										
	香川大学 Kagawa University			1		1			1									1			
	九州工業大学 Kyushu University of Technology										2			3	1						
	公立	姫路工業大学 Himeji University of Technology							1												
私立	東京情報大学 Tokyo Joho University														1						
	立命館大学 Ritsumeikan University									1			1								
	高知工科大学 Kochi University of Technology					1															
計 Total		4	8	4	3	2	2	4	6	6	9	2	6	4	8	2					

1 大学名中(図書館情報大学)は平成14年10月1日以前の名称である。
 2 大学名中(東京商船大学、東京水産大学、神戸商船大学)は平成15年10月1日以前の名称である。

出典：平成 18 年度学校要覧

資料 6 - 1 - - 3

平成18年度専攻科入学試験実施状況

Situation of Selective Examination for Applicants in 2006

専攻名 Department	入学定員 Authorized students	全志願者数 Applicants	志願倍率 Magnification	受験者数 examinees	合格者数 Successful Applicants	入学者数 incoming students
生産システム工学専攻 Advanced Production Systems Engineering Course	8	9	1.1	9	9	8
海上輸送システム工学専攻 Advanced Marine Transportation Systems Engineering Course	4	8	2.0	8	6	(10月入学予定)

出典：平成18年度学校要覧

観点 6 - 1 - : 学生が行う学習達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

[準学士課程]

平成 17 年度は、平成 16 年度に全学生を対象にした「学生による授業評価アンケート」結果を踏まえて(資料 6 - 1 - - 1)、教員と学生が改善する点を教室に掲示して、改善目標を明確にした(資料 6 - 1 - - 2)。平成 16 年度の教員が改善すべき点としては、「講義が早くならないようにする」、「説明がわかりやすいように工夫する」、「板書を見やすくする」という 3 点であったが、平成 17 年度の評価結果(資料 6 - 1 - - 3)から十分に改善されていないことがわかった。また、学生が改善すべき点は、「積極的に授業に参加する」、「きちんとした姿勢で受ける」、「授業に対する準備を忘れない」という 3 点であったが、平成 17 年度の評価から「授業への積極的参加」、および「受講姿勢」が改善されていることがわかった。平成 18 年度は改善目標が十分に達成できなかったために、平成 17 年度の改善目標を継続して実施することとなった(資料 6 - 1 - - 4)。

平成 17 年度は、学習の達成度を評価するために 5 年生に「学習達成度アンケート」を実施した(資料 6 - 1 - - 5)。専門知識の習得の程度を問う項目では、「身についた」、「よく身についた」と回答した学生の割合が電子機械工学科、情報工学科についてそれぞれ、75%、63%であり、過半数の学生が、本校が目指す技術者として必要な知識を習得しているといえる。また、責任感、協調性、忍耐力の程度を問う項目では、「身についた」、「よく身についた」と回答した学生の割合が電子機械工学科においてはそれぞれ 53%、68%、75%、情報工学科においてはそれぞれ 60%、65%、68%であり、技術者としての倫理観が育成できているといえる。一方、英語会話・読解力の習得の程度を問う項目では、「あまり身につけていない」、「全く身につけていない」と回答した学生の割合が電子機械工学科、情報工学科についてそれぞれ、87%、85%であり、授業方法の改善が必要である。

[専攻科]

専攻科については、平成 18 年度以降に「学生による授業評価アンケート」「学習達成度アンケート」を実施予定である。

(分析結果とその根拠理由)

平成 16 年度と平成 17 年度に実施した「学生による授業評価」は、教員の改善する点に不満が残るものの、学生の授業に対する姿勢は改善されていることを示唆している。また、学習達成度調査より、本校が目指す技術者として必要な専門知識・倫理観が育成できていることがわかった。以上のことから、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているといえる。

資料 6 - 1 - - 1

取扱注意

学生による授業評価

報告書

平成16年度

平成17年10月

弓削商船高等専門学校

出典：学生による授業評価報告書（平成16年度）

『より良い授業をめざして』

教員の改善点

1. 講義の到達目標を配慮しながら、講義が速くならないように工夫する。
2. 説明がよりわかりやすくなるように工夫する。
3. 板書が見やすくなるように工夫する。

学生の改善点

1. 積極的に授業へ参加する。
(わからないことの質問など)
2. 授業はきちんとした姿勢で受ける。
(いねむり、無駄話をしないなど)
3. 授業に対する準備を忘れない。
(予習と復習、携行品のチェックなど)

出典：教育内容検討委員会

6. 授業改善についての方策

「平成16年度学生による授業評価」の結果を踏まえて、より良い授業を展開していくために掲げた項目が、工夫・改善されたかどうかを検証した。「教員の改善点」については、授業の進む速さの工夫・改善、説明をわかりやすくするための工夫・改善、黒板の文字や図表をみやすくするための工夫・改善の3項目全てにおいて、学生から「十分な工夫・改善がなされていない」と厳しく評価された。「学生の改善点」に関しては、授業への積極的な参加および学生の受講姿勢は、「改善できた」と自己評価した学生が「改善できなかった」を上回った。しかし、授業に対する準備は「十分でなかった」との反省回答を得た。つまり、学生自らは授業をまじめに受けようとする意識改革が行われつつあるが、教員による授業の改善は不十分であると言える。

平成18年度は、平成17年度に掲げた改善目標が達成できなかった反省を踏まえて、平成17年度の改善目標を継続して実施する。

教員の改善点

1. 講義の到達目標を配慮しながら、速くならないように工夫する。
2. 説明がよりわかりやすくなるように工夫する。
3. 板書が見やすくなるように工夫する。

学生の改善点

1. 積極的に授業へ参加する。
2. 授業はきちんとした姿勢（いねむり、無駄話をしないなど）で受ける。
3. 授業に対する準備（予習と復習、勉強道具の携行など）を忘れない。

出典：教育内容検討委員会

資料 6 - 1 - - 4

平成 18 年度第 1 回教育内容検討委員会議事概要

日 時 平成 18 年 5 月 16 日 (木) 16:20～17:50
 場 所 第 2 会議室
 出席者 別紙のとおり
 議 題

(審議事項)

(1) 各種のアンケートの検討について

委員長から、集計の完了している各種アンケート(4件)のチェックを分担して行っていたきたい旨発言があり、審議の結果、次のとおり行うこととなった。

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. 学生による授業評価 | 商船学科 |
| 2. 教育等改善に関するアンケート(卒業生) | 電子機械工学科 |
| 3. " (企業) | 情報工学科 |
| 4. 1年生の実力試験結果 | 総合教育科 |

また、次のとおり発言があった。

- ・ チェック後一週間以内に教務主事へ返却すること。
- ・ グラフ等を追加願いたい。
- ・ チェック後は教務主事が修正する。
- ・ 配布は全教員に行う。
- ・ 学生には学生による授業評価をクラスに数部配布する。
- ・ 教員の改善点については再度周知し徹底を図る。
- ・ 教員のFDを兼ねて授業参観を提案する。
- ・ 全教員からアンケート結果について意識調査を行い、コメント欄を設け意見を記載させる。

出典：平成 18 年度第 1 回教育内容検討委員会議事概要

観点 6 - 1 - : 卒業(修了)生や進路先などの関係者から、卒業(修了)生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

平成 17 年度に準学士課程卒業生の就職先企業と卒業生を対象としたアンケート調査を実施した。アンケートの対象は過去 2 年間に卒業生が就職した企業と過去 5 年間の卒業生である。

企業へは、卒業生の学力、資質、性向に関する 3 項目について、回答を求めた(資料 6 - 1 - - 1)。卒業生の学力については、「専門知識や実技系分野に優れる」が「一般教養知識に劣る」との回答を得た。資質については、「実践力を備えている」が「表現力や想像力に乏しい」と評価された。性向については、協調性や責任感が上位を占めたが、逆に国際性に乏しいことが指摘された(資料 6 - 1 - - 2)。

卒業生へのアンケートは、在学中に身につけた知識に関する事、就職・進学指導に関する事、寮生活に関する事である(資料 6 - 1 - - 3)。卒業生の身につけた知識については、「専門知識と一般教養知識である」に多くの回答(約 80%)が集まった。同じ時期に企業からのアンケートも実施しているが、「専門知識には優れるが一般教養知識は劣る」と回答されており、卒業生の持つ意識と企業が持つ卒業生像とは異なっていることがわかった。また、「実技系の技能」に関する評価も企業での評価とは異なっていた。自分の身につけた知識が発揮できているか否かの質問については、「どちらとも言えない」の回答を除くと、約半数の卒業生から役立っているとの回答を得た。在学中に力を入れておけばよかった分野は、回答者の約半数が語学と専門基礎学、次いで、電気・電子系応用分野と情報工学(ソフト系)であった。就職・進学指導と課外活動の経験については、「適当であった」あるいは「活かされている」の評価を得た。寮生活については、回答が少なく参考意見であったが、寮生活が「役立っている」、学寮の設備には「満足していた」との評価を得た。また、寮生活で得たものは、「友人」、「礼儀正さ」、「協調性」であると答えている(資料 6 - 1 - - 4)。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程卒業生の就職先企業と卒業生を対象としたアンケート調査を平成 17 年度より実施しており、今後は専攻科修了生も視野に入れて、意見を聴取する取組を継続して実施する計画である。企業のアンケートからは、専門的な知識を有し、実践力に優れるとの評価を得ている。また、卒業生のアンケートからは、約半数の卒業生から身につけた知識が役に立っているとの回答を得ている。実践的技術者養成の観点からは、本校の教育目的に適合しているといえる。しかし、語学力、創造力、表現力は改善すべき必要があると指摘されている。これらの改善点に関しては、既に TOEIC 受験の奨励(1 年生は TOEIC Bridge を全員受験)、英語の少人数教育、創造性 WG などにより対応している。

以上のことから、卒業(修了)生や進路先などの関係者から、卒業(修了)生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施していて、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているといえる。

資料 6 - 1 - - 1

平成 17 年度 教育改善に関する企業アンケート

1. アンケートの目的

本校で実施している実践技術者教育が、企業の求める人材育成に適合しているかどうかを検証すること、及びアンケートの結果を踏まえて、本校の実践技術者教育の改善に役立てることを目的としている。

2. 実施時期等

実施時期：平成 18 年 3 月上旬（郵送にてアンケート依頼）

対象企業：過去 2 年間に卒業生が就職した会社

3. アンケート様式

本校卒業生の学力、資質、性向に関する 3 項目について尋ねている。質問形式は選択方式としたが、回答企業が本校の教育について、自由に意見が述べられる記述式も設定した。

4. 主な質問内容

具体的な質問項目は別紙に示したが、質問は、

- ・本校卒業生の学力、資質、性向において、優れているものと劣っているもの
- ・本校の教育に対する自由意見

である。

5. アンケートの回収率

アンケート総数（177社）

回収率 61社（35%）

海事産業（37名）

海事産業外（24名）

出典：平成 17 年度教育改善に関する調査（企業編）

資料 6 - 1 - - 2

弓削商船高専「教育等改善に関するアンケート」集計表

調査依頼数	177社
回答数	61社
回収率	34.5%

1. 御社の所属する分野を選択してください。

イ、 海事産業である	37社
ロ、 海事産業でない	24社

2. 本校卒業生の学力についてお答えください。(1つ選んでください。)

・ 優れている分野は何ですか。

イ、 一般教養知識	5
ロ、 専門知識	31
ハ、 実技系	22
ニ、 その他()	

・ 劣っている分野は何ですか。

イ、 一般教養知識	36 (英語1件)
ロ、 専門知識	8
ハ、 実技系	7
ニ、 その他()	3
・ 特になし	
・ 文書力	
・ 英語、経済	

3. 本校卒業生の資質についてお答えください。(1つ選んでください。)

・ 優れている点は何ですか。

イ、 実践力	41
ロ、 創造力	3
ハ、 判断力	5
ニ、 応用力	4
ホ、 表現力	5
ヘ、 その他()	4
・ 忍耐	
・ 素直さ	
・ 前向きさ	

出典：平成 17 年度教育改善に関する調査（企業編）

・ 劣っている点は何ですか。

イ、 実践力	8
ロ、 創造力	12
ハ、 判断力	7
ニ、 応用力	9
ホ、 表現力	21 都会の高専と比較すると少し大人しい
ヘ、 その他()	2
・ 精神力	
・ 経験	

4. 本校卒業生の性向についてお答えください。(1つ選んでください。)

・ 優れている点は何ですか。

イ、 協調性	21
ロ、 積極性	16
ハ、 国際性	0
ニ、 礼儀正しさ	9
ホ、 責任感	15
ヘ、 その他()	1
・ 従順性	

・ 劣っている点は何ですか。

イ、 協調性	3
ロ、 積極性	21
ハ、 国際性	19
ニ、 礼儀正しさ	3
ホ、 責任感	4
ヘ、 その他()	2
・ 視野を広げる	
・ 社会人の自覚 (若者共通かもしれないが)	

5. 卒業時に身に付けるべき学力、資質等において要望があればご記入ください。

- ・ 語学力 (特に英会話力)
- ・ どれか一つを特記的に身に付けるのではなくバランスの取れた人材が望ましいと考えます。
- ・ 将来の志向
- ・ 問題点を把握し、その対策を立てられる能力の養成
- ・ 在籍する人物からイメージとして答えたが、御校生徒全体のイメージとしては計り知れない。
- ・ 英語力を身に付けるべき。
- ・ 技術系全般に電気の知識を求められています。電気の勉強をお願いします。

出典：平成 17 年度教育改善に関する調査 (企業編)

資料 6 - 1 - - 3

平成 17 年度 教育改善に関する卒業生アンケート

1. アンケートの目的

本アンケートの目的は、既に実社会で活躍している卒業生が本校で展開している実践技術者養成教育をどのように捉え、今後の本校の教育に望むものが何なのかを調査することにある。そして、アンケートで回答された卒業生の貴重な意見を、実践技術者養成教育に十分反映させることで、社会のニーズに合った教育プログラムの改善に役立てたい。

2. 実施時期等

実施時期：平成 18 年 3 月上旬（郵送にてアンケート依頼）

対象：過去 5 年間の卒業生

3. アンケート様式

在学中に身につけた知識、就職・進学指導、課外活動および寮生活に関することについて尋ねている。質問形式は選択方式とした。

4. 主な質問内容

具体的な質問項目は別紙に示したが、質問は、

- ・在学中、特に身につけたと思われる知識の分野、活用状況、力を入れておくべきだった分野
- ・就職・進学指導の適否
- ・寮生活の必要性、設備の充実度、及び寮生活で得たものである。

5. アンケートの回収率

アンケート総数（82 名）

回収率 32 名（39%）

* 商船学科卒業生は乗船中が多く、回収率が低くなったと思われる。

出典：平成 17 年度教育改善に関する調査（卒業生編）

資料 6 - 1 - - 4

弓削商船高専「教育等改善に関するアンケート」集計表

調査依頼数	82名
回答数	32名
回収率	39.0%

1. 卒業学科についてお答えください。

イ、商船学科	2
ロ、電子機械工学科	19
ハ、情報工学科	11

2. 本校で特に身に付けることができた知識は何ですか。

イ、一般教養知識	10	
ロ、専門知識	19	広く浅く1件
ハ、実技系の技能	5	
ニ、その他()	2	
		・ 人との接し方、環境
		・ テンション

3. 自分の身に付けた知識が、発揮できていると思いますか。

イ、発揮できている	7
ロ、発揮できていない	9
ハ、どちらとも言えない	16

4. 在学中、どの分野に力を入れて勉強すれば良かったですか。(複数回答可)

イ、語学	14	
ロ、数学	7	
ハ、物理・化学	7	
ニ、専門基礎学(力学、電気、応数など)	18	
ホ、商船学(航海系)	1	
ヘ、商船学(機関係)	1	
ト、電気・電子系応用分野	10	
チ、機械系応用分野	6	
リ、情報工学(ソフト系)	10	
ヌ、情報工学(ハード系)	8	
ル、情報工学(周辺応用技術)	7	
オ、その他()	5	
		・ 制御工学
		・ 基礎(知識だけではなく行動力、考える力が必要)
		・ 特に電気関係、力学(全般) ※ 授業が悪かった。

出典：平成17年度教育改善に関する調査(卒業生編)

- ・ CAD
- ・ 信頼性工学・品質管理

5. 在学中に受けた就職・進学指導は適切でしたか。
- | | |
|-------------|----|
| イ、適切であった | 20 |
| ロ、適切ではなかった | 2 |
| ハ、どちらとも言えない | 10 |
6. 課外活動の経験は現在活かされていますか。
- | | |
|-------------|----|
| イ、活かされている | 12 |
| ロ、活かされていない | 6 |
| ハ、どちらとも言えない | 14 |

以下は、寮生活を経験した人にお聞きします。

7. 寮生活の経験は現在役立っていますか。
- | | |
|-------------|---|
| イ、役に立つ | 5 |
| ロ、役に立たない | 0 |
| ハ、どちらとも言えない | 0 |
8. 寮の設備はどうでしたか。
- | | |
|-------------|---|
| イ、十分である | 5 |
| ロ、不十分である | 0 |
| ハ、どちらとも言えない | 1 |
9. 寮生活で得たものは何ですか。(複数回答可)
- | | |
|-----------|---|
| イ、友人 | 5 |
| ロ、礼儀正さ | 4 |
| ハ、正しい生活習慣 | 2 |
| ニ、協調性 | 6 |
| ホ、積極性 | 2 |
| ヘ、独立心 | 3 |
| ト、忍耐力 | 3 |
| チ、その他() | 0 |

出典：平成 17 年度教育改善に関する調査（卒業生編）

(2) 優れた点及び改善する点

(優れた点)

キャンパスベンチャーグランプリ，プログラミングコンテストの各種コンペティションでの実績および実用新案登録等から創造性教育の成果が表れているといえる。また，進学率と就職率は，希望者に対してほぼ 100%に達しており，本校卒業生の能力が高く評価されている。

(改善する点)

平成 17 年度の「学生による授業評価アンケート」，「学習達成度アンケート」，「準学士課程卒業生の就職先企業と卒業生を対象としたアンケート」の結果を踏まえて授業の改善を行う。

(3) 基準 6 の自己評価の概要

学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等の達成状況は，教員会議，教務委員会(教務主事)，専攻科委員会，教育内容検討委員会，分科会，学級担任等によって把握・評価されている。

各学年や卒業(修了)時などにおいて学生が身につける学力や資質・能力は，単位不認定者数，退学者数が過去 3 年間減少する傾向を示し，資格取得が平均的な水準を維持していることから，教育の成果や効果が上がっているといえる。また，各種コンペティション等の受賞などから，創造性教育の成果も上がっているといえる。

就職先の職種は，各学科の養成する人材像に対応しており，進学先は，本校で学んだ専門分野を活かした大学または専攻科が中心になっている。

また，「学生による授業評価アンケート」，「学習達成度アンケート」，「準学士課程卒業生の就職先企業と卒業生を対象としたアンケート」結果を分析して見ると，企業と卒業生では多少の相違はあるものの，本校卒業生が専門的な知識を有し，実践力に優れるとの評価結果を得たことから判断して，教育の成果や効果が上がっているといえる。

基準 7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点 7 - 1 - 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

学期の始めにはシラバスを用いて、授業の内容、進め方に関してガイダンスを行っている(資料 7 - 1 - - 1)。専攻科では各学期の開始から一週間のガイダンス期間を設け、その間に授業内容、進め方に関するガイダンスを受けた上で、履修科目を決定することが出来る(資料 7 - 1 - - 2)。

新入生に対しては入学直後にオリエンテーションを行い、その中で本校の教育システムを示し、授業形態、科目の履修、修得、進級要件等の説明を行っている(資料 7 - 1 - - 3)。

また、学級担任からも学習を進める上での指導を行うため、学級担任の手引きを作成して配布している(資料 7 - 1 - - 4)。

自主的学習の助けとなるよう、オフィスアワーを実施するとともに(資料 7 - 1 - - 5)、試験発表期間に補講授業を実施している(資料 7 - 1 - - 6)。いつでも疑問を解消できるよう電子メールによる質問の受け付けに取り組んでいる学科もある。

そのほかにも、理解度の低い学生や資格試験受験のために必要に応じて、相談、補講等を行っている(資料 7 - 1 - - 7)。

(分析結果とその根拠理由)

授業の開始時にガイダンスを行うだけでなく、学生がいつでも相談・助言を受けることが出来るよう体制が作られている。

準学士課程は、シラバスを用いて授業に関するガイダンスを学期始めに各学科ごとに実施している。専攻科は一週間のガイダンス期間を設けることで対応している。新入生に対しては、オリエンテーションを活用して教育システムを周知している。また、自主的学習にはオフィスアワーや補習授業を行うことで勉学支援を行っている。

以上のことから、学習を進める上でのガイダンスが整備・実施され、また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備されているといえる。

資料 7 - 1 - - 1

授業科目	国 語			担当教員	猪川 優子		
学 科	情報工学科	学 年	1 年	授業期間	通年	単位数	3
分 野	一般	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	1. 国語の理解に必要な基礎学力を習得する。2. 現代文学の豊かな表現にふれ、幅広い国語力を身につける。3. 古典文学読解のための基礎事項を理解し、様々な時代の作品に親しまむ。						
進め方	座学の講義を中心とする。教科書の学習を基本として、必要に応じて新聞記事や関連資料を用い、内容を発展的に学習させる。						
学習内容	学 習 項 目 (時間数)			学習到達目標			
	▽ガイダンス (1)			・学習の流れと内容の把握			
	〈現代文①〉 ・佐伯一麦「それぞれの羅針盤」 (4)			・語句や表現に注意し、国語の基礎知識を学習する。			
	・志賀直哉「清兵衛と瓢箪」 (7)			・小説の文章に親しみ、展開の面白さや登場人物の心情を読み味わう。			
	〈古典①〉 ・児のそら寝 (6)			・古文の基本事項を理解し、説話の面白さに親しむ。・漢文の基本事項を理解する。			
	・訓点 格言 (5)			・常用漢字を中心に、段階的に学習する。			
	▽漢字の学習 (5)						
	▽前期中間試験 (1)						
	〈国語表現①〉 ・通知と手紙 (3)			・書き方の基本事項を理解し、正しい敬語表現を身につける。			
	・石垣りん「シジミ」他 (5)			・詩に親しみ、鑑賞力を養う。			
	▽読書感想文の書き方 (1)			・読書感想文の書き方を学習する。			
	〈古典②〉 ・徒然草 (6)			・古文の表現に慣れ内容を理解する力を養う。			
	▽漢字の学習 (5)			・常用漢字を中心に、段階的に学習する。			
	▽前期期末試験 (10)						
	〈現代文③〉 ・芥川龍之介「羅生門」 (10)			・主題をとらえ、人間の心理について考えを深める。			
〈古典③〉 ・百人一首 (2)			・百人一首に親しむ。				
・漢詩 (6)			・漢詩の表現に親しみ、情景・心情を味わう。				
▽漢字の学習 (5)			・常用漢字を中心に、段階的に学習する。				
▽後期中間試験 (1)							
〈現代文④〉 ・鈴木孝夫「自己基準と他者基準」 (6)			・構成や展開を理解し、論旨を的確に捉える。				
〈古典④〉 ・大岡信「折々のうた」 (6)			・詩歌を読み味わい、感じ方の伝統を知る。				
▽漢字の学習 (5)			・常用漢字を中心に、段階的に学習する。				
▽後期期末試験							
評価方法	前期中間～後期中間成績は、定期試験 8 割と課題等 2 割で評価する。 学年末成績は、1 年間の定期試験 8 割と課題等 2 割の総合成績で評価する。						
関連科目	日本語を使用するすべての科目						
教科書等	【書名】 新編国語総合 級別漢字学習 (4 級～2 級)			【著者】 小町谷照彦 他 星沢哲也		【発行所】 東京書籍 とうほう	
備 考	随時、漢字検定の指導を行う。副次的に、補習・課題指導を行う。文書の作成や読書活動など 国語・日本語に関わる全般的な質問および相談を受け付ける。						

出典：平成 18 年度シラバス

資料 7 - 1 - - 2

6. 履修手続き, 試験, 成績評価, 再履修
- (1) 履修手続き
- 「弓削商船高専専攻科の授業科目の履修等に関する規則」に基づき, 各学期の授業開始日から授業第 2 週のはじめに受講科目履修届を提出する。

出典: 専攻科学生用手引き

資料 7 - 1 - - 3

4月7日(金)

8:40～

入学生(1年生)オリエンテーション(固有教室、アセンブリホール、第二体育館)

※必ず体育館シューズを持参すること

出典: 学生課

資料 7 - 1 - - 4

1. 学級担任の仕事

<学校行事>	<担任業務>	<HR活動内容例>
<p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 春季休業 	<p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 調査書等を読んで家庭の状況、学生の学力や持ち味の大まかな把握。(1年担任) ● シラバスの作成(できれば、1月末) ● 指導要録、成績一覧表で学力のおおまかな把握。旧担任との引き継ぎ。(2年以上担任) ● 特に留意する必要がある学生の保護者との連絡。 ● 学生のロッカーや自転車置き場の確認。 ● 同一学年間との連携の構築。学級運営の方針、HR活動の意見交換を通し、各担任は自らの方針やHR活動のテーマを立案する。定期的にお互いの情報を交換する。 	<p>3月</p>
<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 入学式・入寮式(1年生) ● 始業式・オリエンテーション・クラブ紹介・学力診断テスト(1年生) ● 健康診断・クラス写真撮影 ● 授業料免除申請 ● 追認試験 	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 級長と副級長・クラス役員・学生会役員の配置。 ● 留学生への配慮(チューターの配置など) ● 掃除当番の割り当て表作成。 ● 日直当番の割り当て表作成と日直日誌(工夫)。 ● 連絡網、時間割の配布。 ● 座席表(試験用・日常用)の作成。 ● 図書館の利用方法。 	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 担任自己紹介、学生自己紹介、運営方針。 ● 級長・副級長、クラス役員、学生会役員の配置。仕事の意味の理解。 ● 学生との面談 ● 「学校教育目標」を説明し、この一年間で身につけるべき能力や取得すべき資格などを理解させる。

出典：学級担任の手引き

資料 7 - 1 - - 5

平成 17 年度

基礎学力向上のための勉学支援サービス (担当教官割振り表)

	月	火	水	木	金
朝 8:10-8:40	小川	小川	田房	高木	飯塚
昼 12:30-13:00	村上知	中山	二村	藤井清 猪川	野口
夕 16:10-16:40	神谷	浜中	友田	なし (大掃除)	鈴木

- ◇ 事前連絡は、いりません。直接、各先生の研究室を訪ねてください。
- ◇ 細かい内容や時間の変更については、直接その時間の担当の先生と話してください。
- ◇ 出張・会議などにより、不在の場合もあります。

出典：教務委員会

勉強スローガン

LET'S STUDY

Learn・Express・Think

①学ぶ力 ②表現する力 ③考える力

を身につけよう

- * 分からないことは積極的に質問しよう (勉強支援サービスSSSも利用)
- * 1日1回は本や新聞を読もう
- * ものづくりにチャレンジしよう
- * 常に五感を働かせ物事に取組もう

出典：教務委員会

基礎学力向上のための勉強支援サービス

低学年生の皆さんへ

“勉強が分からなくて困っている人、基礎科目について相談窓口を設けました。気楽に相談に来てください”

“基礎・基本の勉強が将来のために大事です。しっかりと身につけましょう”

“少しでも理解ができると一歩前進です。興味も沸きます。頑張りましょう”

“指定以外の教官のところへも積極的に行って、わからないことを相談する勇気を持ちましょう”

- ① 英語・数学・国語を中心に、基礎学習のお手伝いをします。
- ② 教科書・プリントなど聞きたいものを持参して、相談してください。
- ③ 担当者・指導時間は表のとおりです。
- ④ 出張・会議などで、お休みすることがあります。
(指導場所に貼り紙をしてお伝えします)



出典：教務委員会

資料 7 - 1 - - 6

平成 17 年度後期中間試験発表中の補講授業実施一覧表

	11/28 (月)		11/29 (火)		11/30 (水)		12/1 (木)		12/2 (金)	
	8 限目		8 限目		8 限目		8 限目		8 限目	
S 1	機関学概論	松永							保健 (アセンブリホール)	上岡
M 1					基礎機械制御工学	田頭				
I 1	情報処理 1	藤井								
S 2	船舶工学 1	湯田								
M 2					電子計算機 2	益崎				
I 2										
S 3	制御工学 1	友田	英語		船舶工学 2	湯田	数学		水力学	湯田
M 3					材料力学 1	友田			計測工学 2	大石
I 3	情報理論	徳田								
S 4 N							専門英語	湯田	電波測位学	高岡
S 4 E			内燃機関学 2	石橋	熱力学 2	村上 (知)				
M 4	材料力学 2	高尾	機構学	中山			表面工学	藤本		
I 4	×	×	×	×	補講	高木	補講	高木	補講	高木
M 5	×	×			応用物理 2	藤本			電子回路特論	加藤
I 5	×	×								

* 空白部分の補講がある場合は後日連絡します
 の補講は希望者対象

出典：平成 17 年度後期中間試験発表中の補講
 実施一覧表

資料 7 - 1 - - 7

平成 16 年度補習授業の充実に関する報告
(中間報告)

平成 17 年 1 月 8 日

実施概要

1. 目的

正規の教育課程以外での教育の充実と成績不振者の学力向上を目的として、補習授業を実施する。ここで実施される補習授業と従来から行なわれている補習授業との大きな違いは、成績不振者の参加を多くするために、補習時間帯を確保したことにある。

2. 実施方法

別紙に示したように

①後期中間試験発表中(一週間)

②学年末試験発表中(一週間)

を補習時間帯と定めて、通常の授業として全学年に実施した。

出典：平成 17 年度補習授業に関する報告

観点 7 - 1 - 自主的学習環境(例えば,自主学習スペース,図書館等が考えられる。)及び厚生施設,コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され,効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

学生の自主的学習のために,放課後等,図書館,情報処理教育センター,情報演習室が開放されている。図書館,情報処理教育センターの利用規定を(資料 7 - 1 - - 1・2)に示す。図書館では夜間開放を行うとともに,閲覧室を自主的学習にも活用している(資料 7 - 1 - - 3)。

情報処理教育センター及び情報演習室は基本的には放課後のみの開放であるが,指導教員の監督の下に時間外での利用も可能となっている。どちらもクラス分の PC が用意されており,自主的学習に必要な環境が整っている(資料 7 - 1 - - 4)。

また,寮内での自主的学習を助けるために,学生寮の居室にも情報コンセントが用意され,登録,講習を受けた学生は校内ネットワークに接続し,利用することができるようになっている。

これらの施設の利用実績については,図書館が入館者数と図書の貸し出し実績を記録している(資料 7 - 1 - - 5)。図書館の利用は試験期間中に増加しており,自主的学習に利用されている。情報処理教育センター,情報演習室の利用者数は数えてはいないが,放課後は多くの学生が利用しており,今後は時間外での開放のための環境整備(係員の配置など)が必要である。

学生用の厚生施設としては,学生食堂,売店,合宿研修施設,談話用のスペースを備えた白雲館が設置されている(資料 7 - 1 - - 6)。また,校内の各所に談話用のテーブル,ベンチが設置されている(資料 7 - 1 - - 7)。

(分析結果とその根拠理由)

自主的学習を行うために,図書館,情報処理教育センター等が開放されている。特に図書館は閲覧室スペースを活用して時間外(夜間)での自主的学習を可能にしている。

また,学生用の厚生施設として,食堂,売店,合宿研修施設,談話用スペースを備えた「白雲館」が設置及び利用されている。

以上のことから,自主的学習環境及び厚生施設,コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され,効果的に利用されているといえる。

資料 7 - 1 - - 1

○弓削商船高等専門学校図書館利用規程

制 定 昭和54年 5 月 14 日

最終改正 平成16年 3 月 16 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）図書館規程第 8 条の規定に基づき、図書館の利用について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第 2 条 図書館の管理運用する図書は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 一般図書
- (2) 貴重図書及び特殊図書
- (3) 学術雑誌・その他必要とする刊行物・新聞等

(開館時間)

第 3 条 図書館の開館時間は、次のとおりとする。ただし、必要に応じてこれを変更することができる。

- (1) 平 日 午前 8 時 30 分から午後 7 時まで
(夏季休業等の休業期間中は、午後 5 時まで)
- (2) 土、日曜日 午前 8 時 30 分から午後 4 時 30 分まで
(夏季休業等の休業期間中は、閉館)

(休館日)

第 4 条 図書館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
 - (2) 年末年始（12 月 29 日から翌年の 1 月 3 日まで）
- 2 前項に規定する休館日のほかに、必要により臨時に休館日を設けることができる。

(利用者)

第 5 条 図書館の図書を利用できる者（以下「利用者」という。）は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 本校の教職員
- (2) 本校の学生
- (3) 図書館の利用を申し出た一般の利用者

(館内閲覧)

第 6 条 図書は、図書館内（以下「館内」という。）において閲覧することができる。

2 図書を館内で閲覧しようとするときは、係員に申し出るものとする。ただし、開架図書については、これを省略することができる。

3 図書の閲覧は、指定の場所で閲覧し、閲覧が終わったときは、係員に返納しなければならない。ただし、開架図書については、これを元の位置に戻すものとする。

(持出禁止)

第 7 条 館内閲覧の図書は、他人にまた貸しし、または閲覧室外に持ち出してはなら

出典：弓削商船高等専門学校規則集

ない。

第8条 閲覧者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 館内の静粛に心がけ、他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (2) 閲覧図書は、丁寧に扱うこと。
- (3) その他係員の指示に従うこと。

(館外貸出)

第9条 図書は、館外貸出手続の上、持ち出すことができる。

第10条 館外貸出できる図書の冊数は、3冊以内とし、期間は14日以内とする。ただし、館外貸出できる図書の冊数については別に定めるところにより、4冊以上とすることができる。

2 前項本文の規定にかかわらず、本校の学生は、夏季休業、冬季休業及び学年末・春季休業の期間中、図書の長期貸出を受けることができる。

3 前項の貸出期間は、各休業終了日後7日以内の指定する日までとし、指定は、その都度館内掲示によって行うものとする。

第11条 貸出を受けた図書は、所定の期限までに必ず返納しなければならない。ただし、貸出期間内であっても、図書館長が必要と認めたときは、返納を求めることがある。

(貸出手続)

第12条 図書の館外貸出を受けようとするときは、係員に申し出るものとする。

(貸出禁止図書)

第13条 次の各号に掲げる図書は、館外貸出できない。ただし、図書館長が必要と認めたときは、館外貸出を許可することがある。

- (1) 貴重図書及び特殊図書
- (2) 禁帯出の表示のある図書
- (3) 学術雑誌・その他指定された刊行物・新着雑誌・新聞等

(研究用貸出)

第14条 本校の教職員は、教育上又は研究上必要とする図書に限り、図書館長の許可を得て、1年以内の貸出を受けることができる。

第15条 本校の学生は、卒業研究、その他必要と認められた図書に限り、指導教員の承認を得た場合は、第10条の規定のほかに5冊以内、期間は30日以内で、図書の貸出を受けることができる。

第16条 貸出期間終了後も引き続き借用しようとするときは、その図書を持参したうえ、あらためて貸出の手続をしなければならない。

第17条 本校の教職員が退職又は転任する場合、本校の学生が卒業・退学・休学する場合には、貸出図書を直ちに返納しなければならない。

(貸出図書の保管責任)

第18条 貸出を受けた図書は、利用者が保管の責任を負わなければならない。

(書庫内検索)

第19条 次の各号に掲げる者は、書庫内の図書を検索することができる。

- (1) 本校の職員で教育・研究又は事務上必要ある者

出典：弓削商船高等専門学校規則集

(2) 本校の学生で卒業研究等のため職員に引率された者

(3) 図書館長が特に必要と認めた者

(規程の遵守)

第20条 図書館を利用する者は、この規程を守らなければならない。

(弁償責任)

第21条 図書を亡失又は損傷した者は、直ちに届け出て弁償しなければならない。

(貸出図書の点検)

第22条 図書館長は、必要に応じて貸出中の図書を係員に点検させることができる。

(雑則)

第23条 図書を利用者の閲覧に供するため、図書の目録及びこの規程を常時閲覧室内に備え付けるものとする。

附 則

1 この規程は、昭和54年6月1日から施行する。

2 弓削商船高等専門学校図書館利用規程（昭和42年6月1日規則第5号）は、廃止する。

3 弓削商船高等専門学校各科研究室及び教官研究室備付図書貸付内規（昭和45年1月20日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成12年6月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年3月15日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 7 - 1 - - 2

○弓削商船高等専門学校情報処理教育センター利用規則

制 定 平成 9 年 3 月 17 日

最終改正 平成 12 年 3 月 2 日

(目的)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校情報処理教育センター規則第 8 条の規定に基づき、情報処理教育センター（以下「センター」という。）の利用について、必要な事項を定める。

(利用者の範囲)

第 2 条 センターを利用することができる者は、次に掲げる者とする。

- 一 弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員
- 二 本校の学生
- 三 その他情報処理教育センター長（以下「センター長」という。）の許可を受けた者

(利用の手続き)

第 3 条 センターを利用しようとする者は、電子計算機利用申込書（別記様式）に所要事項を記入のうえ、センター長に提出し、その許可を得なければならない。

(機器の操作)

第 4 条 機器を操作することができる者は、次に掲げる者とする。

- 一 本校の教職員で、センター長が認めた者
- 二 本校の学生。ただし、前号に規定する者の指導のもとで行わなければならない。

(利用の方法)

第 5 条 センターを利用する者は、別に定める「センター利用の手引」を遵守しなければならない。

(利用の制限)

第 6 条 センター長は、次の各号の一に該当する場合は、利用の許可を取消し又は使用を中止させることがある。

- 一 利用内容が、センターの目的に反するとき。
- 二 センターを利用する者が、この規則に違反し、センターの管理運営に支障を生じさせ又は生じさせるおそれのあるとき。
- 三 その他センターを利用することが不相当と認めたとき。

(利用の時間)

第 7 条 センターの開館は、月曜日から金曜日（祝日法による休日及び年末年始における休日を除く。）までとし、利用時間は 8 時 30 分から 17 時までとする。ただし、特に必要があると認められる場合は、センター長の許可を得て利用することができる。

(利用の経費)

第 8 条 センターの利用にかかる経費については別に定める。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 7 - 1 - - 3

図書館 Library



閲覧室

図書館は一般教養図書、専門図書、参考図書（辞書・事典・年鑑等）など約72,000冊を所蔵する。その他新聞8種類、文庫本、JIS規格、新書、購入雑誌90種類、寄贈雑誌約35種類等をもつ。図書館蔵書資料は著作権法で許される範囲において、有料で複写することができる。

開館時間は、平日は8時30分から19時、土曜日と日曜日は9時から16時である。館外貸出は、1人3冊、2週間の期限で利用できる。

なお、平成5年4月からは地域住民へのサービス提供の一環として図書館の開放を行っており、ほぼ本校の学生と同じ条件で閲覧および貸出の利用ができる。

蔵書冊数（平成18年4月1日現在）

Japanese & Chinese Books

和漢書 69,756

洋書 2,127

計 71,883



雑誌の種類

Kind of Magazines

和雑誌 116種類

洋雑誌 8種類

新聞 8種類



図書館利用状況（貸出冊数）

Situation of Users of College Library

年度 Year	貸出冊数 Number of Lending				学生1人当りの貸出冊数 Number of Lending per student
	学生 Student	教職員 Faculty	学外者 Outsider	計 Total	
平成17年 2005	3,301	695	172	4,168	5.6
平成16年 2004	2,837	540	253	3,630	4.8
平成15年 2003	2,615	703	189	3,507	4.4
平成14年 2002	2,544	712	146	3,402	4.4

College Information (2008)

出典：平成18年度学校要覧

資料 7 - 1 - - 4

情報処理教育センタ

演習用PC	48台	Windows, Linux
LBP	1台	
プロジェクタ	2台	
ポスター用プリンタ	1台	

情報演習室

演習用PC	48台	Windows, Linux
LBP	1台	
プロジェクタ	2台	

出典：情報処理教育センター

資料 7 - 1 - - 5

図書館入館・閲覧人調

(平成18年4月分)

区分 日	学 生				計	区分 日	学 生			
	学 生	教 職 員	学 外 者	計			学 生	教 職 員	学 外 者	計
1 (土)	—	—	—	—	—	18 (火)	51	8	0	59
2 (日)	—	—	—	—	—	19 (水)	71	3	1	75
3 (月)	0	11	0	11	20 (木)	5	0	0	5	
4 (火)	3	6	0	9	21 (金)	75	9	2	86	
5 (水)	23	3	0	26	22 (土)	2	0	0	2	
6 (木)	31	8	0	39	23 (日)	62	2	0	64	
7 (金)	173	7	0	180	24 (月)	7	2	0	9	
8 (土)	4	1	0	5	25 (火)	—	—	—	—	
9 (日)	—	—	—	—	26	16	0	0	16	
10 (月)	61	5	0	66	27 (木)	—	—	—	—	
11 (火)	12	1	0	13	28	14	0	0	14	
12 (水)	60	6	1	67	29	81	5	0	86	
13 (木)	7	0	1	8	30 (日)	6	2	0	8	
14 (金)	50	5	0	55	25 (火)	69	7	0	76	
15 (土)	12	0	0	12	26 (水)	12	1	0	13	
16 (日)	59	7	0	66	27 (木)	72	3	0	75	
17 (月)	10	0	0	10	28 (金)	10	0	0	10	
18 (火)	53	6	0	59	29 (土)	83	9	1	93	
19 (水)	6	1	0	7	30 (日)	8	0	0	8	
20 (木)	—	—	—	—	28 (金)	116	7	0	123	
21 (金)	—	—	—	—	29 (土)	12	0	0	12	
22 (土)	—	—	—	—	30 (日)	—	—	—	—	
23 (日)	—	—	—	—	計	1287	121	5	1413	
24 (月)	—	—	—	—	1日平均	198	16	6	220	
25 (火)	—	—	—	—	9月	64.4	6.1	0.3	70.7	
26 (水)	—	—	—	—	開館日数	14	0	1	15	
27 (木)	—	—	—	—		94	4	0	98	
28 (金)	—	—	—	—		8	1	0	9	
29 (土)	—	—	—	—		—	—	—	—	
30 (日)	—	—	—	—		—	—	—	—	
31 (月)	—	—	—	—		—	—	—	—	

※ 網かけ 内は時間外利用

出典：図書館

図書貸出人員冊数集計調(平成18年4月分)

学科 区分	商船学科		電子機械工学科		情報工学科		学生合計		教員		職員		学外者		合計	
	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人
1	17	9	6	6	40	29	63	44								
2	4	3	3	2	5	5	12	10								
3	24	15	18	12	10	6	52	33								
4	10	6	17	16	44	24	71	46								
5	26	18	6	5	32	20	64	43								
海上 1	1	1	2	2	2	3	5	6								
生産 1							2	2								
海上 2							1	1								
生産 2							4	2								
合計	81	51	50	41	131	84	268	180	73	23	1	1	15	3	357	207
	6	4	6	4	8	9	21	18	2	2	0	0	0	0	23	20

※網かけ内は時間外利用

分類別貸出冊数調

分類別 区分	0 総記		1 哲学		2 歴史		3 社会科学		4 自然科学		5 工学		6 産業		7 芸術		8 語学		9 文学		その他		合計	
	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人
学生	19	5	0	0	3	3	19	4	4	80	2	4	0	0	3	0	9	122	0	0	0	0	268	
教員	1	2	0	1	1	4	3	1	17	33	0	0	0	0	0	0	0	14	12	0	0	0	21	
職員	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73	
学外者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	20	8	4	4	4	23	21	113	4	9	2	4	0	0	9	0	10	145	0	0	0	0	357	
	3	0	0	0	0	3	1	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	23	

※網かけ内は時間外利用

視聴覚設備利用状況

区分	人数		備考
	学生	教員	
学生	0	0	
教員	0	0	
職員	0	0	
学外者	0	0	
合計	0	0	

※網かけ内は時間外利用

出典：図書館

資料 7 - 1 - - 6

Welfare Facilities 厚生補導施設等

「青雲館」

Welfare Facilities "Seiun Kan"

「青雲館」は、教職員の福利厚生を図るとともに、校外者の宿泊を目的とした施設で、宿泊室・多目的室・ホール等がある。



青雲館ロビー



宿泊室内

学生相談室

Counseling Room

学生の個人的な悩み事等の相談に応じ、学生生活を豊かで充実したものとするため、以下のとおり、専門のカウンセラーによるカウンセリングを行っている。

開設場所	学生課南
開設時間	毎週水・木曜日 12時15分～17時15分

「白雲館」

Welfare Facilities "Hakuun Kan"

「白雲館」は、学生の憩いの場及び学生教職員相互のふれあいの場として親しまれ、学生食堂・売店・和室・多目的室等の施設があり、食堂の他に合宿・集会・会議等に利用している。

また、ホールにはテレビが設置されており、学生たちが食後のひとときをすごしている。



食堂



白雲館

観点 7 - 1 - 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講，外国留学等に関する学習支援が考えられる。）が適切に把握されているか。

(観点に係る状況)

学習支援に関する学生のニーズの把握は，年に二回，学級担任による保護者懇談会と各種資格試験の担当教員が中心になって行われている。保護者懇談会での学習支援体制に対する要望，資格試験や留学等の相談内容は，学級担任から三主事に報告され，学級担任委員会，厚生補導委員会，寮務委員会等を通して全教員に周知している（資料 7 - 1 - - 1）。また，入学時にもアンケートを行い，どのようなことに興味を持っているのか調査を行っている（資料 7 - 1 - - 2）。

各種資格試験の支援は，担当教員を当該資格免許等の保持者から個別に選出し，担当教員を学内に掲示することで学生に周知し，資格試験に関する窓口となり，相談と試験への対応を行っている（資料 7 - 1 - - 3）。

また，留学生との懇談会を開催し，学習支援についての要望を把握している（資料 7 - 1 - - 4）。

(分析結果とその根拠理由)

学習支援に関する学生のニーズの把握は，保護者懇談会と個々の教員が中心に実施され，各種委員会等を活用して教員に周知している。特に資格試験に関する支援は多岐にわたり，支援内容も充実している。

以上のことから，学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているといえる。

資料 7 - 1 - - 1

平成 17 年度後期学級懇談会状況（教務係関係）

質問・要望・相談事項	返答内容	主事等回答
進級規定について質問があった（M1）	ルール通り説明した	
今回の成績票をもっと早く保護者に郵送して欲しかったとの要望があった（M1）		
進級できるか心配です（I1）	普通に授業に出て講義を聴き与えられた宿題をしていれば大丈夫です	
個人の欠席、欠課数について（S2）	成績表に基づき説明	
個人の成績について（S2）	成績表に基づき説明	
成績不良学生に対する指導（S2）	学習支援サービスについて説明	
ここを3年でやめて、芸術大学を受験したいと本人が言うが親はここを卒業して欲しい（I2）	3年修了で高卒の資格になり大学は受験できるが、今の成績では受験料の無駄になるかも知れず、まず、基礎科目の成績を向上させるよう言っ て聞かせてはどうか	
風邪などで休むとき、わざわざ学校へ連絡することない子供から言われたが（I2）	休むときは、是非学校へ連絡してください	学級担任委員会にて、先生方に「休む時は学校に連絡するように」周知してもらいます
大学、専攻科についての相談（S3）	知りうる範囲で回答	教務委員会で学生へのPR方法を検討中です
成績不振、将来の目標が定まらず、退学希望相談（S3）	個人懇談の実施	
なんでもも勉強するように接気よく言ってやってほしいという要望（M3）	そうするように努力すると返答	試験発表中の補習授業を活性化させます
成績を上げるために何とかして欲しいという要望（M3）	試験中に各先生に質問に行くこと。友達と勉強をいっしょにすることを薦めると返答	
大学進学の可能性について（M3）	質問のあった学生は成績がよいので可能と返答	
専攻科への進学の可能性（M3）	希望があればほぼ進学可能と返答	
専門科目における資格取得について（I3）	科目担当の教員から個々の資格についての説明があるので、在学中にとれる資格をとっておいた方がよい	
成績不良者に対する注意（S4）	実施中です	
国家試験受験のすすめ（S4）	実施中です	
専攻科へ進学する場合、成績はどの程度なら入れるか（M4）	クラスで中間あたりまでなら問題ない	教務委員会で学生へのPR方法を検討中です
学校で筋める資格試験の種類を増やして欲しい（I4）	色々な試験を調べ、紹介する試験の数を増やし、対策についても考えていきたい	
欠課数が多い（I4）	学生に注意を促しているが、自分で生活を管理できるよう、家庭でも指導して欲しい	
専攻科の英語教育についてネイティブを入れるなどコミュニケーション能力の向上に力を入れて欲しい（生産システム工学専攻）	ネイティブの授業を専攻科で実施するのは教員審査があり無理である旨説明。英語能力向上対策として更に学校で努力していく旨説明	英語の検定試験を受験させるなど、語学力向上のための対策を行っています

出典：平成 17 年度後期学級懇談会状況

平成17年度後期学級懇談会状況（学生係関係）

質問・要望・相談事項	返答内容	主事等回答
子供がピアスをしている（S1）	指導します	
授業料免除の基準について質問があった（M1）	家計の基準に関しては即答できないので、とにかく一度申請してみることを勧めた	
授業料免除の応募を学校から家庭に連絡して欲しいとの要望があった（M1）		
制服を着て登校しない日があるが大丈夫なのか（I1）	SHRの時着ていない学生には注意をしています	大丈夫ではありません。制服着用をお願いします
制服の中はどんな服装でも良いのか？学校で購入はしていない（I1）	カッターシャツだと思いますが確認しておきます	特に決めておりません
喫煙の状況と指導状況（S2）	学生主事管轄の連絡表に基づき説明	度重なる場合は保護者召喚、家庭謹慎もあり得ます
個人の交友関係について（S2）	担任の知りうる範囲で説明	
因島付近の就職先を知りたい。また、どの運動部が良いか（I2）	弓削商船だよりで紹介。就職担当者の名前を知らせる。テニス、陸上、ラグビーなど、全国大会に出場している運動部がいくつかある	
情緒不安定学生の母親より学内での状況確認（S3）	現状では落ち着いている。今後も見守る方針	
最近元気がなくなった等2人相談（S3）	個人懇談の実施	
きびしくなってよかった（M3）		
自覚ができたようだと言われる親がいた（M3）		
冬休休暇中のアルバイトについて（I3）	届け出を必ずするようにしてほしい。学業との両立をはかるように注意してほしい	届け出により学生としてふさわしいものは許可します
就職活動はいつ頃から始まるか（M4）	推薦書は5年生になってからだが、それまでに希望する分野、職種、企業などをできるだけ明確にしておいた方がよい	早い子は4年のインターンシップから
就職活動について（I4）	学科での指導体制を説明し、大まかな活動の流れ、活動に際しての心得を説明した	

平成17年度後期学級懇談会状況（寮務係関係）

質問・要望・相談事項	返答内容	主事等回答
フロ（湯船）が汚い。変なものが入っている。毎日水を変えて欲しい（S1）	寮務主事と相談します	月、木曜日のお湯抜きする掃除を徹底させます。毎日水の入替えは経費上困難です
パソコンをつなげたら、電話が通じなくなった（S1）	寮務主事と相談します	パソコンは電話コンセントではなく、情報コンセントにつないでください
通学がしたい（I1）	お子様とよく相談をされてから決めてください	通学は可能です。願いを提出してください
朝の遅刻について（S2）	成績表に基づき説明	
寮内における喫煙、飲酒の状況と指導状況（S2）	後ほど資料を用意すると説明	できるだけ早く連絡します
女子寮生の部屋で、ドアの通気口から廊下の冷たい空気が入って寒いので通気口を塞ぎたい（I2）	寮務主事に相談します	塞ぎたい場合は係に連絡ください。基本的に許可する予定です
（寮の部屋数が不足することを心配して）向島出身の寮生だが、チューターをすれば寮を出ずに済むか（I2）	弓削に近い順に出るとは限らないが、チューターが必ず寮生とも限らない	チューターなら出なくても良いとは限りません
寮内の各部屋からの海外通話は可能にならないのか（S3）	寮に問い合わせると回答	外線契約をしていれば可能です
処分されて寮をだされることを心配する親から相談（M3）	当然なにかあればそうなるという返答	
一限目の授業に遅刻しがちである（I3）	寮の起床・点呼に従うことが基本。夜更かしをしない	

出典：平成17年度後期学級懇談会状況

資料 7 - 1 - - 2

C : アンケート結果

1. あなたの出身地と出身中学校を教えてください。

省略

2. あなたは弓削商船高専以外にどんな高校を受験しましたか。

(県立普通高、私立普通高、県立工業高、私立工業高、他高専、その他：)

	商船	電子機械	情報	全体
県立普通高	6名	8名	12名	26名
私立普通高	18名	11名	10名	39名
県立工業高	2名	4名	0名	6名
私立工業高	0名	1名	1名	2名
他高専	0名	1名	0名	1名
受験せず	18名	18名	23名	59名

コメント：およそ半数の学生が本校のみを受験していること、また、併願受験者の大半は普通高校であることがわかる。併願先に関する学科によるバラツキは認められない。

3. あなたは弓削商船高専という学校を何で知りましたか。(複数回答可)

- 近くに住んでいるので：23 (S=2 M=9 I=12)
- 保護者から：45 (S=19 M=12 I=14)
- 兄弟から：26 (S=7 M=8 I=11)
- 親戚の人から：14 (S=3 M=4 I=7)
- 同級生の友人から：19 (S=6 M=11 I=2)
- 商船の先輩から：25 (S=7 M=8 I=10)
- 他の高校の先輩から：13 (S=11 M=1 I=2)
- 商船の卒業生から：3 (S=1 M=0 I=2)
- 中学校の先生から：36 (S=8 M=15 I=13)
- 学習塾の先生から：24 (S=8 M=9 I=7)
- 家庭教師から：0 (S=0 M=0 I=0)
- 学生募集ポスター：2 (S=0 M=1 I=1)
- 学校案内パンフレット：33 (S=14 M=10 I=9)
- 学校説明会のお話を聞いて：28 (S=4 M=10 I=14)
- ホームページを見て：13 (S=4 M=5 I=4)

出典：平成 16 年度新入生アンケート結果

- 体験入学に参加して：13 (S=3 M=6 I=4)
- 学校見学会に参加して：6 (S=1 M=2 I=3)
- 弓削丸の体験航海に参加して：4 (S=2 M=0 I=2)
- 商船祭を見て：7 (S=1 M=2 I=4)
- ロボコンのテレビを見て：6 (S=0 M=4 I=2)
- プロコンのテレビを見て：0 (S=0 M=0 I=0)
- 他のテレビを見て：0 (S=0 M=0 I=0)
- 新聞記事を見て：2 (S=0 M=1 I=1)
- 中学のスポーツ大会で商船を知って：1 (S=0 M=0 I=1)
- その他 ()

コメント：保護者、中学の先生、学校案内パンフレット、学校説明会等より、本校の情報を得ているようである。逆に、ポスター、ロボコン、プロコン、学校見学会は情報源になっていないと思われる。

1. あなたが弓削商船高専を受験した理由は何ですか。(複数回答可)

- 保護者・親戚に勧められて：37 (S=14 M=9 I=14)
- 先輩の勧めで：6 (S=0 M=2 I=4)
- 兄弟・先輩が通っているから：17 (S=4 M=4 I=9)
- 友人と相談して：13 (S=2 M=5 I=6)
- 中学校の先生の勧めで：23 (S=6 M=8 I=9)
- 学習塾の先生の勧めで：11 (S=4 M=3 I=3)
- 家庭教師の勧めで：0 (S=0 M=0 I=0)
- 設備が充実しているから：45 (S=10 M=14 I=21)
- 弓削丸に興味があるから：9 (S=7 M=2 I=0)
- 学校が大きいから：12 (S=4 M=2 I=6)
- 学寮がきれいだから：8 (S=4 M=2 I=2)
- 寮生活をしてみたいから：23 (S=7 M=11 I=5)
- 専門の勉強に興味があるから：45 (S=18 M=12 I=15)
- 大学にいけるから：14 (S=6 M=3 I=5)
- 就職先や就職率がよいから：67 (S=30 M=15 I=22)
- プロコンやロボコンに参加したいから：0 (S=0 M=0 I=0)
- 授業料免除や奨学金を受けたいから：9 (S=1 M=5 I=3)

出典：平成 16 年度新入生アンケート結果

- したいクラブがあるから：17 (S=6 M=6 I=5)
- 家から近いから：23 (S=2 M=9 I=9)
- 他高校と併願が出来るから：6 (S=3 M=0 I=3)
- バイクの免許が取れるから：23 (S=14 M=14 I=10)
- いろいろな資格を取りたい：60 (S=26 M=18 I=16)
- その他 (自由である。なんとなく。物につられて)

コメント：受験理由は、保護者・親戚に勧められて、設備が充実しているので、専門の勉強に興味がある、就職先や就職率がよいから、いろいろな資格を取りたいが主なものと推測できる。逆に、他高校と併願が可能や学習塾の先生の勧めは低い値を示している。

出典：平成 16 年度新入生アンケート結果

7 - 1 - - 3

各種資格試験の相談窓口等

資格試験名	受験相談・指導	手続き窓口
漢字検定 (*)	神谷先生・猪川先生 (G)	神谷先生・猪川先生 (G)
実用英語技能検定	上江先生 (G)	上江先生 (G)
実用数学技能検定 (*)	藤井 _清 先生 (G)	藤井 _清 先生 (G)
TOE I C	野口先生 (G)	
海技士	中先生 (S)	
小型船舶操縦士	多田 _光 先生 (S)	多田 _光 先生 (S)
海上無線通信士	多田 _光 先生 (S)	多田 _光 先生 (S)
ワープロ技能検定 (*)	中山先生 (M)	情報処理教育センター
工業英語能力検定 (*)	小川先生・葛目先生 (I)	小川先生・葛目先生 (I)
電気工事士	田頭先生 (M)	
電気主任技術者	田頭先生 (M)	
CAD検定 (*)	中山先生 (M) ・藤井 _温 先生 (I)	
パソコン利用技術認定 (*)	I科の各先生	情報処理教育センター
基本情報技術者	I科の各先生	情報処理教育センター
画像情報検定 (*) ・CG ・画像処理 ・マルチメディア	塚本先生 (I)	塚本先生 (I)
ボイラー技士	松永先生 (Y)	松永先生 (Y)
危険物取扱者	松永先生 (Y)	松永先生 (Y)
潜水士	松下先生 (S)	
スキューバダイバー	松下先生 (S)	

S : 商船学科 M : 電子機械工学科 I : 情報工学科 G : 総合教育科 Y : 練習船
* : 本校試験会場

(注) 手続き窓口が明記してある資格試験の合格者については、担当の先生の方から教務係に連絡をしてもらいますが、それ以外の資格試験については、合格者本人が教務係に連絡をしてください。

出典：学生課

資料 7 - 1 - - 4

外国人留学生との懇談会における懇談概要

- | | |
|--------|--|
| 1. 日 時 | 平成17年2月3日(木) 16:20~17:25 |
| 2. 場 所 | 第一会議室 |
| 3. 出席者 | 外国人留学生(7名)
教務主事・学生主事・寮務主事・商船学科長・電子機械工学科長・
情報工学科長・総合教育科長・M3指導教官(中山), M4指導教
官(瀬濤)・I5指導教官(葛目)・S5実指導教官(児玉)・学生
課長・専門員 |
| 4. 欠席者 | I4指導教官(矢野) |

外国人留学生からの意見・要望(○留学生・先生)

1. 学寮での生活面

- ① C棟のシャワー室の利用する学生が増えて、時間がかかる。
(ユニットバスを使用している学生が比較的時間がかかっている。)
- ② ごみ当番のローテーションの中に外国人留学生も組み込んでほしい。
- ③ 休み中のインターネット接続出来るようにしてほしい。
(去年は停電の後、インターネットがなかなか復旧しなかった。)
- ④ 調理室の換気フードを修理してほしい。

- ・ シャワー室の使用について、日本人学生に注意する。
- ・ ゴミ当番は留学生もローテーションに組み込む。
- ・ 換気フード状態を後で確認する。
- ・ 調理室のごみをもう少しきれいにしたらどうか。
- ・ 休み中の行動予定を明確にしておく。

2. 授業面

- ① 数学・物理もう少し深く教えてほしい(レベルをあげてほしい)。
(1~3年微分積分・変微分まで進めてほしい。)
- ② 留学生における日本語授業等のところで数学・物理の授業をしてほしい。

- ・ 以前では中学生でやってきた内容を高専1年生でやらなくてはならない。そのたその分遅れてきている。
- ・ 補習授業をやっているのをそれを活用してほしい。
- ・ クラスの中ぐらいの者をターゲットにして授業内容を決めているため、今すぐにレベルをあげるのは難しい。
- ・ 進学資料が少ないため、学生自身のネットワークで過去の問題を収集しているが、以前から進学資料を集めてほしいとの要望がある。
学生支援コーナーを白雲館2階に設置する予定であり、そこに留学生・就職・進学関係資料等を置く予定。
- ・ 学校として数学・物理等の補講(留学生だけではなく日本人を含めて)を開設したらどうか。(例えば夏季等に開設)

出典：外国人留学生との懇談会の懇談概要

観点 7 - 1 - 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。
(観点に係る状況)

各種資格試験のガイダンスは海技試験受験を中心に実施している(資料 7 - 1 - - 1)。その他の資格試験支援は前述(7 - 1 -)したように、試験の受験相談・指導の窓口となる教員を決め、学内に掲示している(資料 7 - 1 - - 2 再掲)。本校への入学動機として、資格試験を目指す学生が少なくない(資料 7 - 1 - - 2)。受験者数と合格者数を資料(7 - 1 - - 3)に示す。入学後、相当数の学生が資格試験を受験している。なお、合格率を高めることを目的に、資格取得により単位認定を行う科目も設けている(資料 7 - 1 - - 4)。

商船学科の教育課程を修了すれば、三級海技士試験の筆記試験が免除される。本科で受講した科目の内容と船舶職員養成施設として教授すべき要件との整合性をシラバスに明記し、口述試験や上級海技士試験受験のための学習目標を設定しやすくなるよう配慮している(資料 7 - 1 - - 5)。

外国留学に関する支援は緒についたところで、平成 17 年度に国際交流委員会を設置し、学生のニーズを調査中である(資料 7 - 1 - - 6)。

(分析結果とその根拠理由)

資格試験受験のために受験相談・指導を行う担当教員の選出、資格取得学生への単位の認定、商船学科におけるシラバスの活用などの支援体制を備えている。

以上のことから、資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているといえる。

資料 7 - 1 - - 1

友田先生
御苦勞様です。

H.17年度の夏休み明け以降、練習船弓削丸内に於て
2級海技士(機関)取得希望の学生に小職が受験指導を
行っております。

指導日：週3日(月・水・木曜を基準、本船運航時は別の
曜日に移行)

時間：19時～21時の2時間

内容：学生本人が勉強したい科目を自習させる。
その上で不明な点とその程度、小職が解説して
いる。

備考：参加は学生の自由で、一切の強制はしておりません。
希望者が1名でも13限り継続して行ないます。

以上です。

練習船 弓削丸
一等機関士 渡部和美

出典：教務主事

平成17年10月 2級海技士(航海) 国家試験対策

試験科目 航海 運用 法規 英語

法規に対する国家試験対策として

補講期間	時間	場所	対象学生	受講者数
10月6日(木)	8校時	N4 教室	N4 学生	10人
↓ 過去23年分の問題と解答説明				
10月17日(月)				
10月18日(火)	10月出題予想問題提示			
10月24日(月)～25日(火)	筆記試験			

試験対策詳細

	補講済 問題総数	絞り込み 問題数	10月試験 出題数	約中 問題数
海上衝突予防法	34問	14問	4問	4問(100%)
海上交通安全法	19問	8問	3問	3問(100%)
港則法	25問	8問	2問	1問(50%) (1問補講済)
船員法	9問	4問	1問	1問(100%)
労安則	13問	6問	1問	0 00% (1問補講済)
海洋汚染防止法	6問	2問	1問	0 00% (1問 新問題)
総評			12問	9問(75%)

絞り込み問題 42問の中から
12問中9問(75%)出題され、
補講済問題の中から12問中11問(92%)出題された

出典：商船学科

資料 7 - 1 - - 2

各種資格試験の相談窓口等

資格試験名	受験相談・指導	手続き窓口
漢字検定 (*)	神谷先生・猪川先生 (G)	神谷先生・猪川先生 (G)
実用英語技能検定	上江先生 (G)	上江先生 (G)
実用数学技能検定 (*)	藤井 _清 先生 (G)	藤井 _清 先生 (G)
TOEIC	野口先生 (G)	
海技士	中先生 (S)	
小型船舶操縦士	多田 _光 先生 (S)	多田 _光 先生 (S)
海上無線通信士	多田 _光 先生 (S)	多田 _光 先生 (S)
ワープロ技能検定 (*)	中山先生 (M)	情報処理教育センター
工業英語能力検定 (*)	小川先生・葛目先生 (I)	小川先生・葛目先生 (I)
電気工事士	田頭先生 (M)	
電気主任技術者	田頭先生 (M)	
CAD検定 (*)	中山先生 (M) ・藤井 _温 先生 (I)	
パソコン利用技術認定 (*)	I 科の各先生	情報処理教育センター
基本情報技術者	I 科の各先生	情報処理教育センター
画像情報検定 (*)	塚本先生 (I)	塚本先生 (I)
・CG ・画像処理 ・マルチメディア		
ボイラー技士	松永先生 (Y)	松永先生 (Y)
危険物取扱者	松永先生 (Y)	松永先生 (Y)
潜水士	松下先生 (S)	
スキューバダイバー	松下先生 (S)	

S : 商船学科 M : 電子機械工学科 I : 情報工学科 G : 総合教育科 Y : 練習船

* : 本校試験会場

(注) 手続き窓口が明記してある資格試験の合格者については、担当の先生の方から教務係に連絡をしてもらいますが、それ以外の資格試験については、合格者本人が教務係に連絡をしてください。

出典 : 学生課

資料 7 - 1 - - 3

教育：各種検定試験の奨励

中期計画目標：電子機械工学科の 40% の学生が在学中に何らかの資格試験を受験する

目標達成年度：平成 20 年度

(1) CAD 利用者技術者試験

本校は CAD 利用者技術試験の指定会場に認定されており、「CAD 利用者技術試験 1・2 級」の本校での受験が可能である。

本校では、4, 5 年の高学年を対象として検定試験の受験と資格取得を奨励している。受験者数は以下の通りである。

CAD 利用技術者 2 級 受験者 25 名 合格者 2 名

(2) ワープロ検定試験

技術者としての仕事で求められるコンピュータリテラシーの教育の一環として、本校のカリキュラムでは「電子計算機 1・2」が設けられており、こうした学習の成果目標として「ワープロ検定試験」の受験を奨励している。受験者数は以下のとおりである。

ワープロ検定 2 級 受験者 2 名 合格者 2 名

ワープロ検定 3 級 受験者 1 名 合格者 1 名

(3) ホームページ作成検定試験

電子機械工学科は、機械系、電気電子系、情報系のカリキュラムが設けられた複合学科であり、工学技術者の教育機関として総合的な技能を修得させることを目標としている。情報系の科目として「情報処理」「情報処理特論」がある。

この学習目標として「ホームページ作成検定」の受験を奨励している。

ホームページ作成検定 3 級 受験者 1 名 合格者 1 名

ホームページ作成検定 4 級 受験者 37 名 合格者 36 名

出典：電子機械工学科

(4)電気工事士・電気主任技術者試験

即戦力となりうる技術者を養成する教育機関として、電気系企業へ就職する学生が求められる技能試験である。受験者数は以下の通りである。

第 1 種電気工事士 受験者 3 名 合格者 0 名

第 2 種電気工事士 受験者 12 名 筆記試験合格者 8 名 免状取得者 3 名

第 3 種電気主任技術者 受験者 3 名 合格者 0 名

(5)工業英検

近年、英語能力を求められることが多く、これは技術者としても同様であり、本校においても一般教養としての英語授業のほかに、「工業英語」を設けている。こうした教育の学習成果目標のひとつとして、「工業英検」の受験を奨励している。受験者数等は以下の通り。

工業英検 3 級 受験者 5 名

工業英検 4 級 受験者 2 名

以上、各種検定試験の受験結果は、次の通りである。

資格試験受験 延べ人数 91 名 電子機械工学科学学生数 213 名

受験率 = 42.7%

現在は、中期計画目標を達成しているが、今後も受験率 40%以上を維持、向上させていきたい。また、学習内容の成果として、合格率に反映されるものと考えられるため、合格率をいっそう向上させてることを目指したい。

出典：電子機械工学科

平成17年度 資格試験の実施報告

1. 受験資格試験

平成17年度、情報工学科学生が受験した検定および資格試験を表1に示す。

表1 検定および資格試験

資格試験名	主催団体	会場	開催日時
情報処理技術者試験	独立法人情報処理推進機構	全国	4月17日, 10月16日
CAD利用技術者試験	財団法人 日本パーソナル コンピュータソフトウェア協会	本校	6月19日, 11月20日
画像処理検定	財団法人 画像情報教育振興協会	全国	11月28日
パーソナルコンピュータユーザ利用技術試験	社団法人 パーソナルコンピュータ ユーザ利用技術協会	本校	7月11日, 12月5日
工業英語検定試験	社団法人日本工業英語協会	本校	6月13日
パソコン検定試験	パソコン検定協会	本校	10月26日, 2月21日
日本語ワープロ検定試験	日本情報処理検定協会	本校	10月7日, 12月2日 2月17日
ホームページ作成検定試験	日本情報処理検定協会	本校	10月11日, 2月17日

2. 受験者と合格者

平成17年度、情報工学科学生が受験したすべての検定および資格試験の受験者数と合格者数ののべ人数を表2に示す。

表2 平成17年度 資格試験受験者数と合格者数

受験者数	合格者数
219	93

出典：情報工学科

資料 7 - 1 - - 4

授業科目	特別講義			担当教員	塚本		
学 科	情報工学科	学 年	5年	授業期間	集中	単位数	2
分 野	専門	授業形態	実習・自習	履修区分	選択		
学習目標	学内の講義演習でなく、学外の実習や試験等の参加、受験により学外の評価を受けることにより、学内の講義演習の目標を明確化や、各自の絶対的な到達点を確認する。						
進め方	4年次の夏季実習（インターンシップ）の参加。5カ年間の外部資格試験の取得を評価する						
学習内容	学 習 項 目 (時間数)			学習到達目標			
	<p>4年生 夏季実習（インターンシップ）2単位（60時間程度）の実習相当で評価する。実習後は実習期間の内容をまとめて報告すること。60時間程度（8時間/日×10日） 実習報告レポート作成、報告</p> <p>5年生 終了時までに外部資格試験を自習勉学の到達点として評価する。現在は「基本情報処理技術者」合格を標準としている。新たな資格試験については申告により、学科の審議により認定することもある。</p> <p>上記のような現在想定している内容以外でも、特別単位で認めている内容に相当すると考えられる場合は各自申告すること。学科の審議により認定することもある</p>			<p>実際に企業、大学での仕事、研究を体験することにより、各自の将来の進路決定に参考とする。また本校のカリキュラムに含まれていない多くの技術分野があることを体験する。</p> <p>学内の授業と定期試験だけでなく、一般的な外部試験を受験し、絶対的な到達レベルを確認する。また各自の進路選択、就職試験に有効な資格を取得する。</p>			
評価方法	卒業までのインターンシップあるいは外部資格試験の取得により評価する。						
関連科目							
教科書等	【書名】		【著者】		【発行所】		
備 考	インターンシップを引き受けている企業、大学はそれぞれの本業の時間をさいて対応して頂いていることを十分に意識すること。実習先決定に関しては、各自が興味を持った内容を優先し、相手先の受入条件等にとらわれないこと						

出典：平成 18 年度シラバス

資料 7 - 1 - - 5

授業科目	内燃機関学 1			担当教員	石橋洋二		
学 科	商船学科	学 年	3年	授業期間	通年	単位数	1
分 野	専門	授業形態	講義	履修区分	必修		
学習目標	内燃機関の種類、基本構造ならびに作動原理を理解する。						
進め方	講義を基本とする。理解の手助けになるように実物や模型を取り入れた授業を行う。						
学習内容	学 習 項 目		(時間数)	学習到達目標			
	1. ガイダンス		(1)	・授業内容について理解する。			
	2. 内燃機関の分類		(2)	・内燃機関の分類、特徴を学ぶ。			
	3. ディーゼル機関の構成と作動 (船舶の出力装置) (出力装置)		(4)	・ディーゼル機関の基本構成と作動原理を理解する。			
	4. 内燃機関の基本熱サイクルと熱効率 (出力装置)		(9)	・内燃機関の熱力学の概要と基本熱サイクルおよびその熱効率を理解する。			
	5. 燃料噴射装置、调速機、吸排気・過給機等		(5)	・ディーゼル機関の燃料系統、调速機、吸排気系統の構成と動作を理解する。			
	6. 内燃機関の構成 (主体部・回転・往復運動部、 潤滑、冷却等) と作動 (出力装置)		(5)	・主要の構造および動作ならびに潤滑、冷却系統を理解する。			
	7. 内燃機関に関する各種効率		(4)	・内燃機関の性能および各種効率の基礎を理解する。			
養成施設引 当て科目 & 単位	航海コース 船舶の出力装置		0.1	機関コース 出力装置		0.3	
免許講習引 当て時間							
評価方法	定期試験 70%、レポート等 30%として評価する。						
関連科目	水力学、制御工学、船舶工学、熱力学、計測工学、航海学概論						
教科書等	【書名】 船用ディーゼル機関教 範		【著者】 長谷川静音			【書名】 成山堂	
備 考							

出典：平成 18 年度シラバス

資料 7 - 1 - - 6

○弓削商船高等専門学校国際交流委員会規則

制 定 平成17年3月16日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第15条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校国際交流委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 外国の大学等との交流に関する事項
- (2) 外国の大学等への学生の派遣に関する事項
- (3) その他国際交流に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 各主事
- (3) 各学科長，総合教育科長及び専攻科長
- (4) 各学科及び総合教育科から選出された教員各1名

2 前項第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、庶務課及び学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

観点 7 - 1 - 特別な学習支援が必要なもの（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には、学習支援体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

留学生の教育や学習支援について検討するために留学生委員会が設置されている（資料 7 - 1 - 1）。留学生には留学生指導教員とチューターを配置し、生活、授業のサポートを行っている（資料 7 - 1 - 2）。入学直後には主事によるオリエンテーション（資料 7 - 1 - 3）、英文による科目案内（資料 7 - 1 - 4）の配布を行っている。留学生は一部の授業を日本語、日本事情に振り替えて、語学力の向上に努めている（資料 7 - 1 - 5）。

また、留学生が日本固有の文化に触れ日本の習慣を理解し、同級生や地域社会に溶け込めるよう、年に一度、留学生を対象とした国内旅行を行っている（資料 7 - 1 - 6）。

編入学生については、留学生と同様に主事によるオリエンテーションと所属学科を中心にした補習授業などの支援を行っている（資料 7 - 1 - 7）。

(分析結果とその根拠理由)

留学生に対しては、留学生委員会を設置し、留学生に係る諸問題を検討している。具体的な支援として、オリエンテーションの実施、英文科目案内の配布、国内旅行などが行われている。また、編入学生にはこれらに加えて補習授業も実施している。

以上のことから、特別な学習支援が必要なものに対する学習支援体制が整備されているといえる。

資料 7 - 1 - - 1

(外国人留学生委員会)

第 5 条 外国人留学生に関する必要な事項を審議するため、外国人留学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 6 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 留学生の受入に関する事項
- (2) 留学生の教育指導に関する事項
- (3) 留学生の厚生補導に関する事項
- (4) 留学生の寮務に関する事項
- (5) その他校長が必要と認めた事項

(組織)

第 7 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 各主事
- (2) 各学科長及び総合教育科長
- (3) 第 8 条第 1 項に定める留学生指導教員
- (4) 学生課長

2 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

3 委員長は、委員会を主宰する。

出典：弓削商船高等専門学校外国人留学生規則

資料 7 - 1 - - 2

弓削商船高等専門学校

チュートリアル報告書

留学生氏名	_____
チューター氏名	_____
報告年月日	H17年10月4日 前期期末試験 後期期末試験

留学生の教育についての個別の課外指導等の実施について
 特にはしてはないが
 質問には答えている。

留学生への日本語指導・日常生活のケアについて
 日本語の意味を少々指導
 寮生活の整理

チューター自身の国際理解の向上について
 国の人気スポーツなどを知った。

レクリエーション等の実施について

特になし

この報告書は、チューターが年2回（前期期末試験 後期期末試験）作成し、試験最終日に担任に提出すること。

出典：チュートリアル報告書

資料 7 - 1 - - 3

- 4月7日（金） 通常日課（特別授業時間割）
8:40 授業開始
16:10 授業終了
16:20～17:00 外国人留学生オリエンテーション①（第1会議室：教務主事他）
- 4月8日（土） 寮生：入学生・編入学生・新外国人留学生歓迎スポーツ大会（本校グラウンド）
- 4月10日（月） 通常日課（特別授業時間割）
8:40 授業開始
16:10 授業終了
16:20～17:00 外国人留学生オリエンテーション②（第1会議室：学生主事他）

出典：平成 18 年度第 1 回教員会議資料

資料 7 - 1 - - 4

2004
SYLLABUS
 - ENGLISH -

Maritime Technology Department

Yuge National College of Maritime Technology

2004
SYLLABUS
 - ENGLISH -

Electronic Mechanical Engineering
 Department

Yuge National College of Maritime Technology

2004
SYLLABUS
 - ENGLISH -

Information Science and Technology
 Department

Yuge National College of Maritime Technology

Subject	Japanese		Instructor	Yuko IKAWA
Class	S1	Credit 2	Semester	Spring · Winter
Course Plan	1. Essays 1 2. The Japanese classics 1 3. Novels 1 4. The Japanese classics 2 5. Essays 2 6. The Japanese classics 3 7. Novels 2 8. The Japanese classics 4			

Subject	Japanese		Instructor	Kazumaro KAMEYAMA
Class	S1	Credit 1	Semester	Spring · Winter
Course Plan	1. Introduction 2. Chinese classics 3. Contemporary literature 4. Practice of Japanese expressions			

Subject	Politics & Economics		Instructor	Tokuo YAMAO
Class	S1	Credit 2	Semester	Spring · Winter
Course Plan	1. What is democracy? 2. Sovereignty and rule of law 3. Parliamentary democracy and separation of power 4. The constitution of Japan, its basic principles 5. Party politics and election system 6. League of nations and United nations			

Subject	History of Japanese society		Instructor	Yoshiharu Kusaka
Class	S1	Credit 2	Semester	Spring · Winter
Course Plan	1. Prehistory 2. Ancient history 3. Medieval history 4. Modern history 5. Contemporary history			

出典：英文シラバス

資料 7 - 1 - - 5

授業科目	日本語			担当教官	田中 昌俊		
学 科	電子機械工学科	学 年	3年留学生	授業期間	通年	単位数	4
分 野	一般	授業形態	講義	履修区分	必修	必修	
学習目標	1 日本語を的確に理解し、適切に表現する能力を養う。 2 日本事情を理解し、日本と母国との交流に貢献できる能力を養う。 3 日本の伝統文化を学習し、「日本らしさ」の原点への理解を深める。						
進め方	1 日本語の読解力を高めるため、朗読と語句の意味の理解を徹底する。 2 小テスト・課題を毎回実施し、基礎・基本の習得に努めさせる。 3 毎回、作文とその添削指導をし、学習の徹底を図る。						
学習内容	学 習 項 目 (時間数)			学習到達目標			
	日本語の特徴と学習方法	(4)	日本語の特質と学習方法を理解する。	日本語	あなた	(4)	代名詞の使い方を理解する。
説明文	「が」と「は」の区別	(4)	格助詞と係助詞との相違を把握する。	涼しい	(4)	形容詞の使い方を理解する。	
	「こそあど」の原理	(4)	指示詞の使い方を理解する。	敬語の使い方	(4)	敬語の正しい使い方を見に付ける。	
主張・随想	言葉の感じ	(4)	漢語と和語との語感の相違を理解する。	鯉	(4)	日本近海の状態と日本人の食生活を考える。	
	大陸は動く	(4)	大陸の変化の跡を科学的に理解する。	砂漠	(4)	説明文の構成の特徴を把握する。	
科学・技術	黒四ダム	(4)	大自然に挑んだ人々の苦闘を理解する。	南極の氷	(4)	内容の構成を把握し、科学の偉大さを理解する。	
	またとない天敵	(4)	主題を把握し、自分の考えをまとめる。	貝塚が教える謎・眠りについて	(4)	石器時代人の生活を理解する。文章構成をつかむ。	
日本・日本人	食物保存の方法・会話と電話	(4)	生活の知恵の重要性を理解する。	考える	(4)	人間の本性について考える。	
	アドベンチャー	(4)	作者の主張にしたがって、主題を探究する。	大志を抱け・物を大切に	(4)	作者の生活指針を理解する。	
	自然を守る・映像を見る目	(4)	自然破壊を考える。映像への対処のしかたを考える。	チームワーク・対話	(4)	日本人らしさの一端を知る。よい対話の条件を考える。	
	技術とは	(4)	科学と技術との関係について理解する。	よみがえる帆船	(4)	省エネルギーについて考える。	
	省エネルギー乗用車	(4)	日本と省エネルギーについての理解を深める。	天気と雲・バイオテクノロジー	(4)	日本語の表現のおもしろさを理解する。	
	海鳥の急降下・雷と電車	(4)	生物学や科学の世界への関心を深める。	さわる・フロンガス	(4)	人体の機能を理解する。オゾン層破壊を考える。	
	手・ことばの区別	(4)	「手」という言葉を使った慣用句を習得する。	遊びの役割・三七一一	(4)	日本人の生活態度を考える。数字の使い方を理解する。	
	お疲れさま・西欧崇拜	(4)	あいさつについて考える。外来語について考える。	散ったままの花が美しい	(4)	日本人の美意識への理解を深める。	
評価方法	定期試験、小テスト、課題テスト、作文、授業への取組み (出席・授業態度)						
関連科目	国語、日本史、世界史、倫理・社会、政治・経済、日本事情						
教科書等	【書名】 高専留学生の日本語		【著者】		【発行所】 国立奈良工業高等専門学校		
備 考							

出典：平成 18 年度シラバス

授業科目	日本事情			担当教員	高尾, 田頭, 加藤		
学 科	電子機械	学 年	4 (留学生)	授業期間	通年	単位数	1
分 野	専門	授業形態	講 義	履修区分	必修		
学習目標	一般に電気を取り扱ううえに必要な基礎知識を身につけ、実際に測定器を使用して、電気の諸量を測定する技術を身につける。						
進め方	小容量電路の測定用に設計された、学習用の携帯テスターを制作することにより、テスター(回路計)の基礎知識を身につけ、使用・活用技術を取得する。						
学習内容	学 習 項 目 (時間数)			学習到達目標			
	ガイダンス (1)						
	メータの原理を理解する。 (2)			メータの動作原理およびフレミング左手の法則			
	ハンダの特性について (1)			ハンダの特性を理解する。			
	ハンダ付けの方法 (2)			ハンダ付けの練習			
	組み立て・配線 (7)			カラー抵抗の見方・回路の構成について			
	動作試験とチェック (1)			簡易動作チェック			
	テスターの校正 (4)			直流電圧回路 直流電流回路 交流電圧回路 抵抗値測定回路			
テスターの活用について (1)			実際の活用方法を取得する。				
メデューサⅡの制作 (4)			抵抗・コンデンサの取り付け コンデンサマイクの取り付け 歩行機構部組み立て				
メディスターⅡの各種センサー (2)			コンデンサマイクについて				
電動機について (3)			直流・交流電動機の原理				
1年間を通してのまとめ (2)			全般の総まとめ				
後期末試験							
評価方法	後期末試験及び1年間を通しての製作状態及びその理解 定期試験 70%, 製作品の評価・出席点 30%として評価する。						
関連科目							
教科書等	【書名】メディスターⅡ回路説明書 sanwa回路計の制作実習			【著者】		【発行所】イーケイ ジャパン	
備 考							

出典：平成 18 年度シラバス

授業科目	日本語			担当教員	高木 洋		
学 科	情報工学科	学 年	3 年, 留学生	授業期間	通年	単位数	2
分 野	専門	授業形態	対話形式	履修区分	必修		
学習目標	授業の中で使われる用語, 言い回しなどを理解するとともに, 本校の教育システム, 日本の生活, 風習を理解する。また 1, 2 年の専門科目についても授業をうけるうえで支障がないよう補習を行う。これらの作業の中で自然なコミュニケーション能力を養う。						
進め方	夏休み前までは授業で理解できなかった内容を中心に解説し, その後は主としてプログラミングについて補習を行う。						
学習内容	学 習 項 目 (時間数)			学習到達目標			
	ガイダンス (5) 日本の生活, 風習, もの考え方 本校の教育システム カリキュラム			日本の生活に対する疑問を解決する。日本での習慣, 日本人のものの考え方を母国と比較し, そのメリット, デメリットを考える。本校で効率よく学習するために教育システムを理解する。カリキュラムを調べ, これから 3 年間の学習計画を立てる。また, 1, 2 年次の科目で不足している部分を調べる。			
	他の授業の補習 (15) 理解できなかった部分を解説 時間は状況によって調整する			授業の中でできた理解できなかった部分を復習する。授業をその時間内で理解するための能力を見につける。			
	専門科目の補習 (30) コンピュータとプログラム 機械語と二進数 手続き型言語 C			1, 2 年次の科目で不足している部分を理解する。時間に余裕があれば, 興味対象の知識を吸収する。			
評価方法	授業をとおして理解度をはかり, 評価する。						
関連科目							
教科書等	【書名】			【著者】		【発行所】	
備 考							

出典：平成 18 年度シラバス

資料 7 - 1 - - 6

留学生研修旅行の行動予定

1. 実施日

平成17年3月25日（金）

2. 場所

倉敷美観地区、福山はきもの博物館、福山郷土玩具博物館

3. 集合場所

尾道駅（弓削発9：35の尾道行き高速船に乗船すること）

4. 旅費等

交通費は後日各自の預金通帳に学校から支払われますので、当日は交通費のみ自分で支払ってください。

5. 昼食

引率の先生のプレゼント

出典：学生課

資料 7 - 1 - - 7

編入学生への支援

H17.4

電子機械工学科

1. 支援項目

- ・学習支援：授業の不足部分に対しての個別補修
- ・進路指導：進学，就職に対する個別支援
- ・生活一般相談支援：課外学生生活の問題に対する相談支援

2. 平成17年度の支援内容

・学習支援

4月 材料力学補習 1回

5月 材料力学補習 1回

夏休み個別指導 1回

オフィスアワー 機械系科目の個別指導 適宜

オフィスアワー 電気系科目の個別指導 適宜

・進路指導

オフィスアワー 進学，就職情報提供 適宜

・生活指導・激励

4/7 学科教員との相互紹介・顔合わせ

4月 編入生激励 1回

7月 編入生激励 1回

オフィスアワー 部活，生活指導 適宜

3. 今後の支援計画

・学習支援

編入生へのアンケート実施 11月中旬 「補修希望のアンケート」

アンケートに基づく一般科目補習の要請

アンケートに基づく学科内教員による専門科目補習

・進路指導

オフィスアワーの活用

・生活指導

オフィスアワーの活用

出典：電子機械工学科

観点 7 - 1 - 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校の学生会は、「学校の指導の下に学生の自発的な活動を通じて、その人物形成を助成し高等専門教育の目的の達成に資する」ことを目的に設けられており、全学生がその会員になっている(資料 7 - 1 - - 1)。

まず、クラブ活動に関しては、全教員が必ず何らかのクラブ顧問を担当しており、日常の活動では、時間の許す限り放課後の練習における技術指導や支援を行っている(資料 5 - 4 - - 5 ~ 11, 7 - 1 - - 2)。職員に関しても、技術指導が可能な者を副顧問に任命し、クラブ活動を支援することを検討している(資料 7 - 1 - - 3)。さらに、大会や練習試合への参加の際には、顧問による学生引率だけでなく、船舶免許を有する教職員により実習船「はまかぜ」を利用した移動面での支援も行っている(資料 7 - 1 - - 4)。また、本校では、体育系クラブのキャプテンを対象に、クラブを運営していくために相応しいトレーニングについての基礎知識と、クラブ員の人間の成長を助けることが出来る能力を身に付けることを目的として、年 1 回リーダー研修を実施している(資料 7 - 1 - - 5)。施設面では、野球専用グラウンドや、第五種陸上競技場を備えており、非常に充実している(資料 7 - 1 - - 6, 7)。さらに、AED(半自動除細動器)を導入するなど、全教職員が、学生の不測の事態に、適切に対処できるような体制作りにも努めている(資料 7 - 1 - - 8)。各クラブは、長期休暇中の合宿において、顧問等の宿直のもとで、福利厚生施設「白雲館」を利用した宿泊や自炊が可能である(資料 7 - 1 - - 9)。また、クラブの部費は、毎年配分の見直しが行われており、各部の主将及び学生会役員が中心になって原案が作成され、学生総会において決定されている(資料 7 - 1 - - 10 ~ 12)。

学生会は、毎年学校が行う商船祭、校内体育大会、新入生の歓迎会などの推進母体となり、学生生活をより潤いのあるものにするよう努めている。本校では、学生会専用の部屋を設けており、学生主事および同主事補が中心となって、学生会長を始めとする役員の活動をサポートしている(資料 5 - 4 - - 4, 7 - 1 - - 13)。

(分析結果とその根拠理由)

本校におけるクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制は整備され、機能していると判断される。その根拠として、以下の 4 項目に代表されるように、十分な人的支援体制が整っていることが挙げられる。

- 全教員がクラブ顧問を担当している
- 技術指導が可能な職員による支援を実施している
- クラブの代表学生にリーダー研修を実施している
- 全教職員を対象に救急救命講習会を実施している

また、施設面における支援についても、次に挙げられる 5 項目のように非常に優れている。

- 実習船による移動支援がなされている

- 野球専用グラウンドを保有している
- 第 5 種陸上競技場を保有している
- 合宿時に福利厚生施設が利用できる
- 学生会専用の部屋を設けている

さらに、体育系と文化系を問わず、多くの課外活動において優れた成績を修めていることも、充実した支援体制による成果の表れである。

資料 7 - 1 - - 1

○弓削商船高等専門学校学生会会則

制 定 昭和44年 4 月 1 日

最終改正 平成18年 2 月 16 日

弓削商船高等専門学校学生会会則

第 1 章 総則

第 1 条 本会は弓削商船高等専門学校学生会（以下「本会」という。）と称する。

第 2 条 本会は学校の指導のもとに学生の自発的な活動を通じて、その人物形成を助長し、高等専門教育の目的の達成に資することを目的とする。

第 3 条 本会は前条の目的を実現するために、次の目標の達成に努めなければならない。

- (1) 学生生活を楽しく、豊かで規律正しいものにし、よい校風をつくる。
- (2) 健全な趣味と豊かな教養を養い、個性の伸長を図る。
- (3) 心身を練磨し、余暇を活用する。
- (4) 学校生活における集団の活動に積極的に参加し、自主性を育てるとともに、親和協力の精神を養う。
- (5) 学校生活において自治的能力を養うとともに、公民としての資質を向上させる。

第 4 条 学生会活動を行うに当たっては、法令及び学則、学生準則その他学校の定める諸規則に違反してはならない。

第 5 条 本会は、弓削商船高等専門学校の席上課程の学生全員をもって構成し学生は入学と同時に本会の会員となるものとする。

第 6 条 会員はすべて一定の会費を納入しなければならない。ただし、休学者については、別に定める。

第 7 条 本会の各局又は各部には、校長の任命した顧問教員を置く。

第 2 章 組織

第 8 条 本会の目的達成のために次の組織を置く。

- (1) 総会
- (2) 評議会
- (3) 執行委員会
- (4) 局及び部
- (5) 報道班
- (6) 会計監査委員会
- (7) 選挙管理委員会

本会の会議、会計、局及び部、選挙に関する細則は、別に定める。

（総会）

第 9 条 総会は本会の最高議決機関であり、会員はこれに出席する権利と義務を有する。

2 定例総会は年 2 回、原則として 5 月及び 10 月に開く。

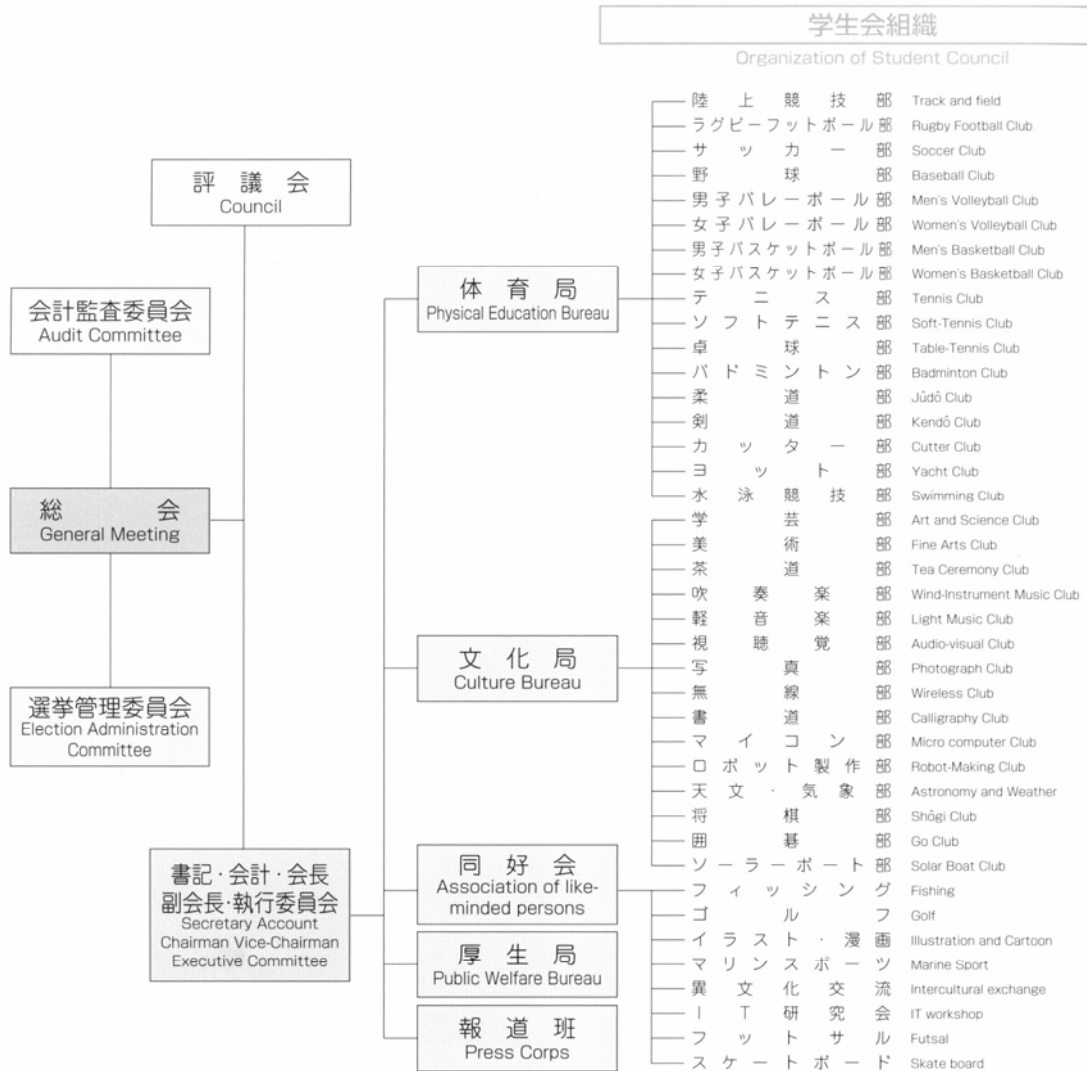
3 臨時総会は次の場合に開く。

- (1) 評議員の 2 / 3 以上の要請があったとき。
- (2) 会員の 1 / 2 以上の要請があったとき。

出典 弓削商船高等専門学校規則集

資料 7 - 1 - - 2

学生会
Student Association



出典 平成 18 年度学校要覧

資料 7 - 1 - - 3

平成17年度第1回クラブ顧問会議議事概要

日 時 平成17年4月25日(月) 16:23~16:52
 場 所 第1会議室
 出席者 23名(別紙のとおり)
 議 題 1. 学外者によるクラブ指導について
 2. その他
 (1) 副顧問制について
 (2) 愛媛県高校総体について

議 事

1. 学外者によるクラブ指導について

学生主事から、議題資料1に基づき、課外活動に伴う指導謝金の支出について過去3年間の推移及び今回調査した本年度の指導計画の説明があった。昨年度の支出額は非常に少なくなっており、現状では本年度の指導計画は予定どおり実施できないと思われるため、指導計画を提出しているクラブに対して指導回数等縮減の提案が出された。これにより審議した結果、独法化後における予算は厳しい状況であるが、本校中期計画にある上位入賞を目標としたクラブ活動の活性化を行うためにも、各クラブの技術指導を依頼し強化する必要があるため、四国地区高専体育大会に向けた早期実施を含め、予算の増額要求を行うことで了承された。なお、予算が昨年程度であった場合は、各クラブへの指導謝金は少額となるが調整して配分することが確認された。

2. その他

(1) 副顧問制について









学生主事から、事務系職員のクラブ指導について、現在、時間外にボランティアで指導を行っているクラブがあり、遠征試合にも同行して指導を願いたいとの要請がある旨の説明があった。続いて男子バスケットボール部顧問教員から、昨年秋場より実験実習第一係(弓削丸)中瀬技術職員に時間外においてコーチを依頼し、公式試合等にも同行願い指導しており、旅費もないため今後は副顧問として認められないかとの詳細説明があった。これに対し、事務系職員の学生指導業務の命令及び出張の命令、事故の場合の労災への対応等の問題もあり、早急に関係課と検討することで了承された。なお、検討するために現状を把握する必要があることから、事務系職員が指導をしているクラブ及び今後予定しているクラブにおいては、5月9日(月)までに学生係へ申し出ることとなった。

(2) 愛媛県高校総体について

学生主事から、愛媛県高校総体の宿泊及び帰路の選手団輸送については弓削丸を使用しているが、選手団の宿泊利用で弓削丸を松山港まで運航することが問題化されている旨の説明があった。これに伴い、本年度については弓削丸を使用しないで、

出典 学生課

資料 7 - 1 - - 4

校 長	学生主事	商船学科長	事務部長	学生課長	実験実習 第1係長	起 案 年月日	平成 17 年 10 月 25 日	
		/				学生係長		係員 
						許 可 年月日	平成 17 年 10 月 27 日	
下記について許可してよろしいか伺います。								
は ま か ぜ 使 用 許 可 願 平成 17 年 10 月 24 日 弓削商船高等専門学校長 殿 使用責任者氏名 徳田 誠 								
下記のとおり、はまかぜを使用したいので許可くださるようお願いいたします。 記								
使用団体等名	男子バスケットボール部							
使用目的	平成17年度東予地区バスケットボール2年生大会出場の為							
行先・航行距離	新居浜港(住友金属鉱山)							
使用日時	自 平成17年10月29日(土曜日) 8時00分 至 平成17年10月29日(土曜日) 18時30分							
船長等名 (1級小型船舶操縦士有資格者)	岩崎和志							
乗組員氏名	徳田 誠							
備 考								

出典 学生課

資料 7 - 1 - - 5

平成17年度 リーダー研修実施要項

1. 目的 体育系クラブのリーダーとして、クラブを運営していく上での役割及びトレーニングについての基礎知識を身につけることを目的とする。
2. 実施期日 平成17年10月29日(土)
3. 実施場所 弓削商船高等専門学校 白雲館・第1体育館
4. 日程 別紙のとおり
5. 研修内容 講義及び実技による研修
「リーダーとしての役割」
講師 弓削商船高等専門学校 教授 横田 臣博
「トレーニング論」
講師 愛媛大学教育学部 教授 杉山 允宏
「筋力トレーニング」
講師 弓削商船高等専門学校 教授 上岡 範雄
6. 対象 体育系クラブ・同好会の次期リーダー(主将等)となる学生
陸上 部(2名) 水泳 部(2名)
男子バレー部(2名) テニス 部(2名)
女子バレー部(2名) ラグビー部(2名)
ソフトテニス部(2名) カッター部(2名)
卓球 部(2名) ヨット 部(2名)
サッカー部(2名) バドミントン部(2名)
男子バスケット部(2名) マリンスポーツ同好会(2名)
女子バスケット部(2名) ゴルフ同好会(2名)
柔道 部(2名) フットサル同好会(2名)
剣道 部(2名) スケートボード同好会(2名)
野球 部(2名)
学生計42名
7. 学生の服装 (1) 服装 スポーツウェア
及び携行品 (2) 携行品 屋内用運動靴, 筆記用具

出典 学生課

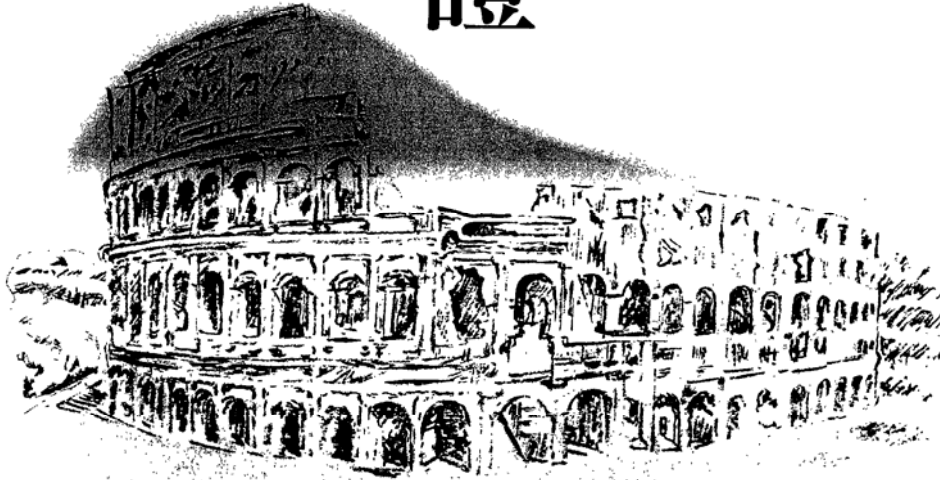
資料 7 - 1 - - 6



出典 会計課

資料 7 - 1 - - 7

證



第 7097 号

場 所 愛媛県越智郡弓削町下弓削1000番地
競技場名 弓削商船高等専門学校 陸上競技場
所 有 者 弓削商船高等専門学校長 西垣 和
竣工期日 昭和46年3月20日
一周の距離 400m
有効期間 自平成16年 7月 1日
至平成19年 6月30日

但し改変造した時は無効とする

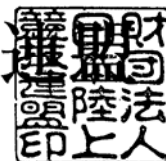
上記実測調査の結果第5種競技場
として公認する

平成16年8月12日



財団法人

日本陸上競技連盟



出典 会計課

資料 7 - 1 - - 8

平成17年度救急救命講習会実施要領

1. 目的 授業中又は課外活動中における学生・教職員等の不測の事態が生じた際に冷静・沈着・迅速、かつ、適切に対処するための救急救命法を習得することを目的とする。
2. 日時 平成17年9月26日(月) 13:30～15:30 (1回目)
9月29日(木) 13:30～15:30 (2回目)
3. 場所 第1体育館
4. 対象者 本校教職員全員
5. 実施方法 講習会の種類は救命基礎講習とし、2回のうち、いずれか1回を受講すること。
①基本的心肺蘇生法の実技講習
基本的心肺蘇生法が実施できるように、心肺蘇生訓練人形(レサシアン)を用いて呼気吹き込み人工呼吸、心臓マッサージ等の実技講習を行う。
②半自動除細動器(AED)の取扱説明及び実技講習
本校に設置した半自動除細動器(AED)の取扱説明を行い、心臓発作等の適切な応急手当が迅速にできるように実技講習を行う。
6. 指導者 上島町消防本部職員

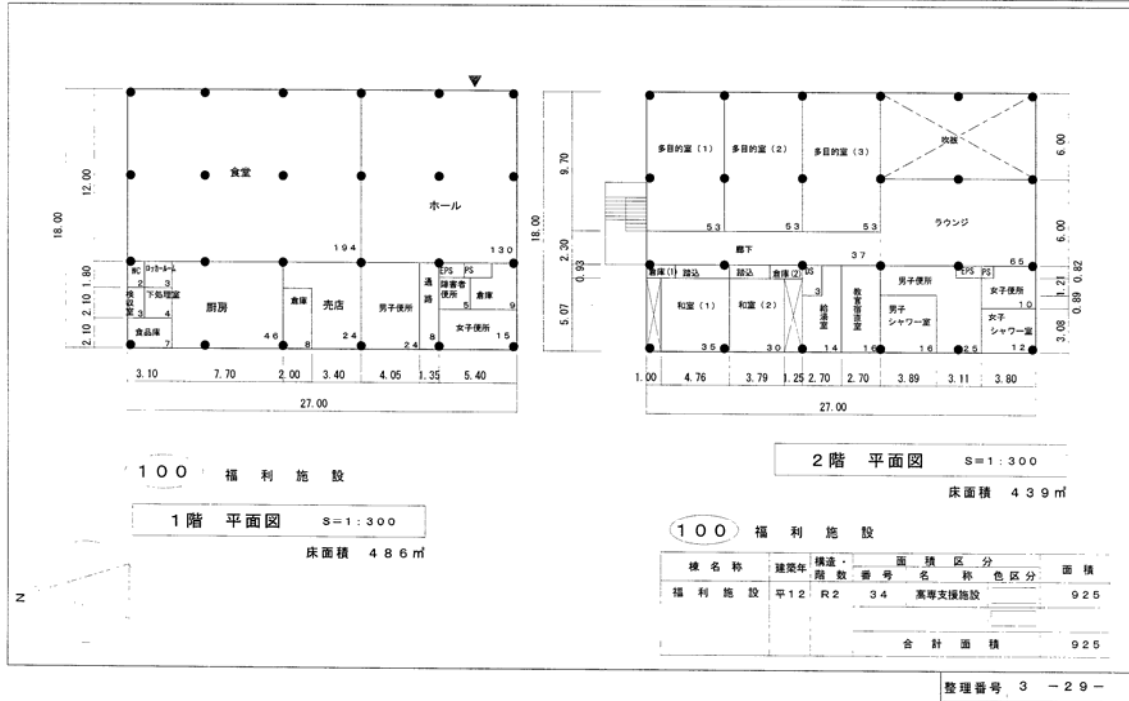
出典 学生課

資料 7 - 1 - - 9

棟別平面図

国立大学等施設実態調査(様式3)

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
6684	弓削商船高等専門学校	001	下弓削	100



出典 会計課

資料 7 - 1 - - 10

平成16年度学生会決算書

(収入)		(単位:円)		
科目	予算額	収入済額	差引過不足額	備考
前年度より繰越	297,716	297,716	0	
学生会入会金	190,500	190,500	0	@1,500×127名
学生会費	2,987,400	2,969,200	△ 18,200	@2,600×前期590名
預金利息	0	17	17	@2,600×後期552名
合計	3,475,616	3,457,433	△ 18,183	

(支出)		(単位:円)		
科目	予算額	支出済額	差引過不足額	備考
体育局	1,730,000	1,697,977	32,023	
1. 陸上部	250,000	250,000	0	
2. ラクビー部	180,000	180,000	0	
3. サッカー部	140,000	140,000	0	
4. 野球部	105,000	105,000	0	
5. 男子バレー部	50,000	50,000	0	
6. 女子バレー部	40,000	40,000	0	
7. 男子バスケット部	60,000	60,000	0	
8. 女子バスケット部	45,000	45,000	0	
9. 硬式テニス部	150,000	150,000	0	
10. ソフトテニス部	90,000	90,000	0	
11. 卓球部	100,000	100,000	0	
12. 柔道部	70,000	69,860	140	
13. 剣道部	155,000	155,000	0	
14. カッター部	100,000	100,000	0	
15. ヨット部	35,000	33,117	1,883	
16. 水泳部	35,000	35,000	0	
17. バドミントン部	95,000	95,000	0	
体育予備費	30,000	0	30,000	
文化局	362,768	328,885	33,883	
1. 学芸部	3,000	0	3,000	
2. 美術部	30,000	30,000	0	
3. 茶道部	35,000	35,000	0	
4. 吹奏楽部	52,040	52,040	0	運営費から22,040円振替
5. 軽音楽部	112,728	112,728	0	運営費から17,728円振替
6. 書道部	15,000	0	15,000	
7. マイコン部	15,000	14,530	470	
8. ロボット製作部	40,000	37,200	2,800	
9. 写真部	2,000	1,831	169	
10. 天文・気象部	5,000	2,556	2,444	
11. 将棋部	10,000	10,000	0	
12. 囲碁部	10,000	0	10,000	
13. 視聴覚部			0	
14. 無線部	3,000	3,000	0	
文化予備費	30,000	30,000	0	
厚生局	1,382,848	1,276,739	106,109	
報道班	5,000	0	5,000	
商船祭	1,100,000	1,100,000	0	
運営費	247,848	176,739	71,109	吹奏楽・軽音楽へ39,768円振替
予備費	30,000	0	30,000	
合計	3,475,616	3,303,601	172,015	

収入	3,457,433
支出	3,303,601
差引	153,832

通帳・帳簿照合の結果適当と認めます。

平成17年 4月27日

学生会会計監査委員長 三宅 淳

学生会会計長 高田 寛



出典 学生課

資料 7 - 1 - - 11

平成17年度学生会予算

収入の部

科目	当初予算	備考
前年度より繰越	¥153,832	
学生会入会金	¥195,000	新入生入会金 1,500×130名= 195,000
学生会費	¥2,974,400	会費 前期分 2,600×589名=1,531,400
合計	¥3,323,232	後期分 2,600×555名=1,443,000

支出の部

科目	人数	16年度予算	17年度予算
体育局	382	¥1,730,000	¥1,790,000
1 陸上部	26	¥250,000	¥250,000
2 ラグビー部	30	¥180,000	¥210,000
3 サッカー部	37	¥140,000	¥123,000
4 野球部	44	¥105,000	¥120,000
5 男子バレー部	23	¥50,000	¥75,000
6 女子バレー部	13	¥40,000	¥90,000
7 男子バスケット部	22	¥60,000	¥60,000
8 女子バスケット部	12	¥45,000	¥50,000
9 硬式テニス部	26	¥150,000	¥150,000
10 ソフトテニス部	18	¥90,000	¥60,000
11 卓球部	32	¥100,000	¥50,000
12 柔道部	9	¥70,000	¥50,000
13 剣道部	12	¥155,000	¥100,000
14 カッター部	31	¥100,000	¥112,000
15 ヨット部	10	¥35,000	¥35,000
16 水泳部	8	¥35,000	¥35,000
17 バドミントン部	29	¥95,000	¥150,000
体育予備費		¥30,000	¥70,000
文化局	134	¥362,768	¥362,728
1 学芸部	4	¥3,000	¥5,000
2 美術部	13	¥30,000	¥28,000
3 茶道部	18	¥35,000	¥40,000
4 吹奏楽部	17	¥52,040	¥65,000
5 軽音楽部		¥112,728	¥82,728
6 書道部		¥15,000	¥12,000
7 マイコン部	18	¥15,000	¥15,000
8 ロボット製作部	9	¥40,000	¥40,000
9 写真部	12	¥2,000	¥10,000
10 天文・気象部	5	¥5,000	¥5,000
11 将棋部	18	¥10,000	¥12,500
12 囲碁部	5	¥10,000	¥7,500
13 無線部	2	¥3,000	¥0
14 ソーラーボート部	13		¥10,000
文化予備費		¥30,000	¥30,000
厚生局		¥1,382,848	¥1,170,504
報道班		¥5,000	¥5,000
商船祭		¥1,100,000	¥980,000
運営費		¥247,848	¥155,504
予備費		¥30,000	¥30,000
合計	516	¥3,475,616	¥3,323,232

出典 学生課

資料 7 - 1 - - 12

部費の決定について

平成 16 年 7 月 7 日 変更
学生会

今年は昨年までが曖昧だったので新たに話し合っただけで決めることにしました。方針としては各クラブにアンケートをとりそれらが必要な理由をプレゼンしてもらい他の部に意見をだしてもらいました。それらを考慮して学生会である程度の予算案を各部に提示して意見を出して合意してもらい決定しました。昨年までの金額にはとらわれず今年を決めたので多少上下しているところはありますがそのところはご了承ください。

またユニホームを購入するところがあったのでその部に対しては来年度の予算を減らすということで合意しています。(女子バレー部、女子バスケット部、カッター部)

今年の部長会で決定したことを下記に記します。

部費に含むもの : 練習に必要な最低限必要なもの、消耗品 (衣料品は除く)
ピブス・ユニホーム (代々部内で使い回す物のみ)、スコアシート
高専大会用の氷代

部費に含まないもの : 交通費 (はまかぜ燃料代含む)、飲み物、高専大会以外の氷代、冷蔵庫など電化製品、文房具、医療消耗品 (個人・予防用)

- * 医療消耗品については年度始め、事前に保健室から配布されているのでもし足りなくなった場合には予備費から購入しておいて配布する予定です。
- * 柔道部については部費で購入したいものが医療消耗品しかなかったため、各部合意のもとで特別に交通費の補助を出すということで決定。(毎週土曜日に因島の道場に行っているためその補助)
- * ロボット製作部、マイコン部、ソーラーボートについては主事から学校から別枠でお金が出ているのでいらないのではという意見も出ましたが部の代表と話し合い、マイコン部はマイコンの予備費、ロボット製作部は総文の展覧用のロボットの材料費、ソーラーボートは大会参加費補助という形で決定し、主事にも了解を得ました。
- * 昨年までもそうだったと思うのですが部費を使用する際は会計長の承認の印がないと学生係の方では認めないという形をとりたいと思います。ご協力お願いします。

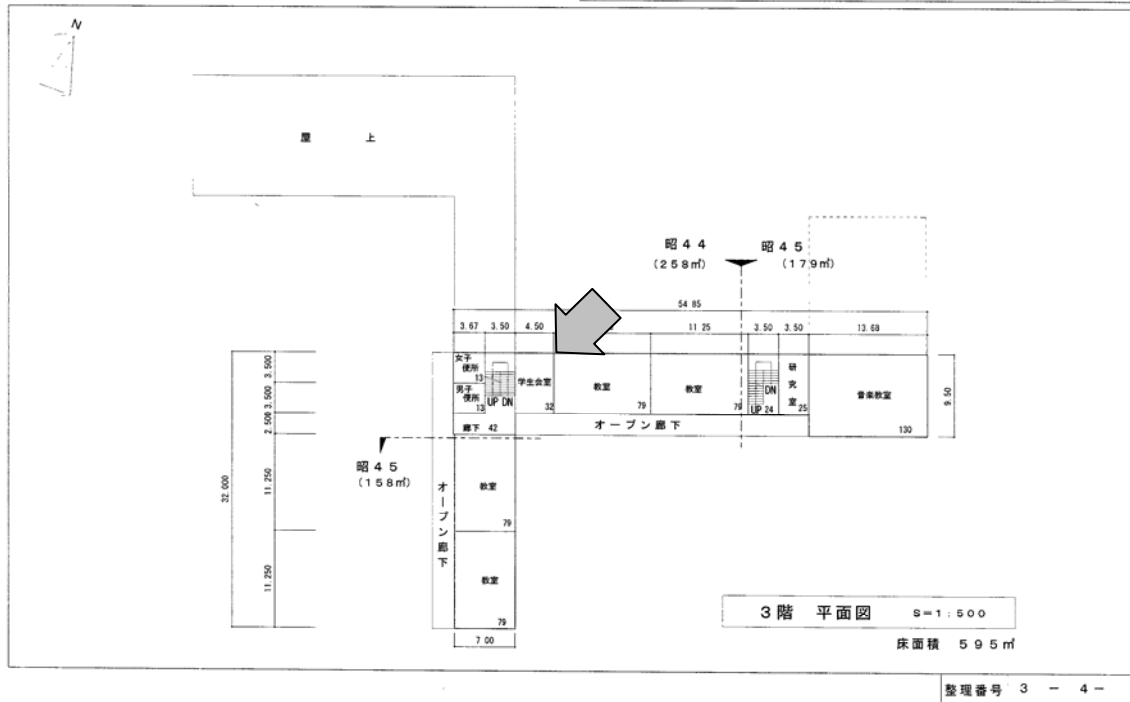
出典 学生課

資料 7 - 1 - - 13

棟別平面図

国立大学等施設実態調査(様式3)

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
6684	弓削商船高等専門学校	001	下弓削	065



出典 会計課

観点 7 - 2 - 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生指導は、学生主事および同主事補を中心に全教職員が当たり、学生が安心して学校生活を送ることが出来るように、厚生補導委員会(委員長:学生主事)での審議事項に基づいて、様々な指導を行っている(資料 5 - 4 - - 1, 7 - 2 - - 1, 2)。厚生補導委員会では、全学級担任が含まれているなど、教員、職員、及び学生間の情報交換が円滑に行えるよう配慮がなされている(資料 7 - 2 - - 3)。また、学級担任は、学級単位や学生一人一人に対して、学習指導、生活指導、連絡事項の伝達、相談や要望を聞くなどの役割を果たし、当該教職員や保護者と緊密に情報交換を行っている(資料 7 - 2 - - 4, 5)。

本校では、学生の心身に係わる悩み事に対応するために、保健室に看護師、学生相談室に非常勤のカウンセラーをそれぞれ配置しており、資料 7 - 2 - - 6 及び 7 のような利用実績を得ている(資料 7 - 2 - - 8 ~ 11)。さらに、セクシャル・ハラスメントについても規定を設け、被行為者や行為者への対応が整備されている(資料 7 - 2 - - 12)。

一方、経済的な問題を有する学生に対しては、学級担任からの連絡、ポスター等の掲示物、学生便覧への記載などを通じて、授業料免除・徴収猶予制度、各種団体による奨学金制度の告知がなされている(資料 7 - 2 - - 13 ~ 16)。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、厚生補導委員会において学校全体の教育方針を検討し、その決定に基づいて、主として学級担任が学級単位や個別の指導を行っている。さらに、それを当該教職員がサポートする体制が確立しており、良好に機能している。また、学生相談室と保健室の利用実績、ならびに奨学金受給状況から、それぞれの施設や制度が十分に活用されており、学生の精神面と経済面の両面を支援できていると思われる。以上のことから、学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能していると判断される。

資料 7 - 2 - - 1

第 2 章 組織及び運営 (弓削商船高等専門学校厚生補導委員会規則)

○弓削商船高等専門学校厚生補導委員会規則

制	定	昭和58年9月20日
最	終	改正 平成17年2月21日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第15条第 2 項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校厚生補導委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 生活指導に関する事項
- (2) 課外活動に関する事項
- (3) 補導及び懲戒に関する事項
- (4) 入学料、授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料の免除に関する事項
- (5) その他福祉厚生に関する事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 各主事
- (2) 各主事補
- (3) 各学級担任
- (4) 学生課長

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、学生主事をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を主宰する。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第 6 条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、昭和58年9月20日から施行する。
- 2 この規則施行の際、現に従前の厚生補導委員会委員長及び委員である者は、この

資料 7 - 2 - - 2

平成17年度第9回厚生補導委員会議事概要

日 時 平成17年11月8日(火) 16:25～16:55
 場 所 第1会議室
 出席者 20名(別紙のとおり)
 議 題 (1) 平成17年度後期分授業料免除について
 (2) 平成17年度近藤記念海事財団奨学生の選考について
 (3) その他

議 事

1. 平成17年度後期分授業料免除について

学生主事から、資料1に基づき、平成17年度後期分授業料免除の実施可能額及び選考方法等について説明があり、原案どおり承認された。

- (1) 全額免除者 31名
半額免除者 1名
- (2) 超過免除申請者
全額免除申請者 19名
半額免除申請者 21名
- (3) 不許可者 22名

2. 平成17年度近藤記念海事財団奨学生の選考について

学生主事から、議題資料2に基づき、平成17年度近藤記念海事財団奨学生の募集人員1名に対し2名の申請があったこと等の説明があり、審議した結果、選考調書の評点の高い者を選考することで承認された。

3. その他

(1) 学生の指導について

学生主事から、喫煙による指導が4回目となる学生が2名おり、第1回厚生補導委員会で審議した飲酒・喫煙の取り扱いで指導が4回目となった場合は3日間の家庭謹慎とすることで了承されているので、審議はせずに事務的に行いたい旨の報告があり、了承された。

(2) 第35回商船祭について

学生主事から、商船祭実施要領及び各係割振表をすでに配付しているが、準備、片付けを含み商船祭期間中の学生指導及び学生の自転車は指定された駐輪場に置くことの指導について協力依頼があった。

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 3

厚生補導委員会委員名簿(17年度)

番号	役 職	氏 名	備 考	電話番号
1	委員長 学生主事	上岡 範雄		4669
2	委 員 教務主事	友田 進		4634
3	" 寮務主事	藤井 清治		4674
4	" 教務主事補	鈴木 利幸		4678
5	" "	高岡 俊輔		4636
6	" "	中 哲夫		4638
7	" "	村上 知弘		4637
8	" "	高木 洋	I 4 担任	4662
9	" "	藤本 隆士		4651
10	" "	中山 恭秀		4653
11	" 学生主事補	岩本 豊	M 2 担任	4676
12	" "	飯塚 芳徳		4667
13	" "	猪川 優子	I 3 担任	4670
14	" "	柳沢 修実	S 2 担任	4626
15	" "	渡部 和美		4629
16	" "	益崎 真治	M 3 担任	4652
17	" "	田原 正信		4660
18	" 寮務主事補	上江 憲治		4675
19	" "	久保 康幸	I 2 担任	4677
20	" "	野口 隆	M 1 担任	4690
21	" "	坂内 宏行		4668
22	" "	松永 直也		4644
23	" "	二村 彰	S 1 担任	4639
24	" "	田房 友典	I 1 担任	4656
25	" "	藤井 温子		4665
26	" "	徳田 誠		4659
27	" S 3 担任	湯田 紀男		4625
28	" S 4 担任	中家 修		4633
29	" M 4 担任	大石 健司		4654
30	" S 5 担任	児玉 敬一		4627
31	" M 5 担任	勘久保 広一		4649
32	" I 5 担任	葛目 幸一		4661
33	" 学生課長	前山 卓		4618

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 4

授業科目	特別活動（ホームルーム）			担当教員	田房 友典		
学 科	情報工学科	学 年	1 年	授業期間	通年	単位数	1
分 野	一般	授業形態		履修区分	必修		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的習慣を身に付け、学校生活に適応できる ・自己を見つめ、自主的自立的に行動できるようになる ・他者の個性を認め、互いに尊重できるようになる 						
進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝10分間のショートHRを設ける ・教室を毎日掃除する ・講話や資料を聞いたり見たりし、考えたことを話し合ったりノートに記述する 						
内 容	主 題		(時間数)	備 考 欄			
	1年生オリエンテーション			誕生日チェーン、自己紹介ゲーム			
	4/12 久司山登山		(1)				
	4/15 学級目標		(1)				
	4/21 身体測定		(1)				
	5/12 タバコの害 (合同)		(1)				
	5/19 スポーツ (合同)		(1)				
	5/26 体育大会種目		(1)				
	6/9 中間試験について		(1)				
	6/23 私の身近な人		(1)				
	6/30 性教育 (合同)		(1)				
	7/7 自分の個性を知る		(1)	エゴグラム			
	7/14 夏休みに向けて		(1)				
	9/1 心ゆたかに生きる		(1)	ビデオ資料			
	9/8 人権について (合同)		(1)				
	9/15 スポーツ (合同)		(1)				
	9/22 人は見かけじゃない?!		(1)	校則について考える			
	9/29 商船祭の係		(1)				
	10/6 カッター訓練		(1)				
	10/27 カッター訓練		(1)				
	11/10 タバコの害 (合同)		(1)				
	11/17 スポーツ		(1)				
	11/24 マナーとモラル		(1)	携帯電話について考える			
	12/1 勉強方法		(1)				
	12/15 男女交際		(1)				
	12/22 進学と就職		(1)	葛目先生講話			
	1/12 新年の抱負		(1)				
	1/19 同和教育 (合同)		(1)				
	1/26 ストレスとうまくつきあおう		(1)				
	2/2 であい		(1)	ビデオ教材			
	2/9 性教育 (合同)		(1)				
	2/16 他律から自律へ		(1)				
	2/23 1年間の反省と来年度の目標		(1)				
評価方法							
関連科目							
教科書等	【書名】 ホームルームノート			【著者】		【発行所】	
備 考	(標語等)						

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 5

平成17年10月12日

保護者 各位

弓削商船高等専門学校長

西 垣 和

(公印省略)

保護者懇談会について (ご案内)

拝啓 初秋の候 皆様にはますますご清祥のことと拝察いたします。

さて、保護者懇談会を商船祭(11月12日・13日)の開催に合わせて下記のとおり実施いたしますので、ご多用中のこととは存じますが、ご出席くださるようご案内申し上げます。

なお、準備の都合上、出欠を同封のハガキで10月28日(金)までにご返送くださいますようお願い致します。

敬具

記

- | | | |
|-------|----------------|-------|
| 1 日 時 | 平成17年11月13日(日) | 9:00～ |
| 2 受 付 | 学生課教務係 | 8:30～ |
| 3 会 場 | 教室又は研究室等 | |

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 6

■資料1 相談・助言の体制の利用実績について

表1 月別の相談者件数(12/7現在。カッコ内は開室日数)

月	4月(4)	5月(3)	6月(5)	7月(2)	8月(1)	9月(4)	10月(4)	11月(4)	12月(1)
実数	8	1	6	3	0	5	7	4	5
延べ数	12	2	12	5	0	9	11	8	5
	計								
	23								
	64								

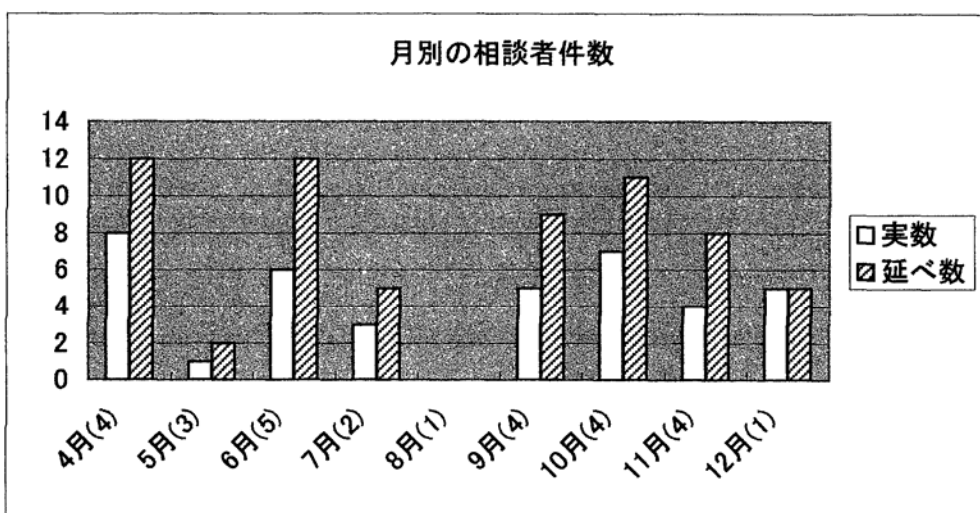


表2 男女別の件数

	男性	女性	計
実数	12	11	23
延べ数	36	28	64

表3 相談内容内訳

内容	計
性格	2
対人関係	3
学校生活	9
精神障害	1
抑うつ	1
心理検査	7
	23

資料 7 - 2 - - 7

平成17年11月30日

平成16年度 保健室における健康相談窓口利用状況

1 月別利用状況

内容/月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
内科的	頭痛	19	25	21	23	0	12	12	6	7	42	22	5	194
	感冒症状	21	35	19	12	0	33	72	29	72	87	66	18	464
	下腹痛	10	17	7	8	0	22	14	9	26	15	11	11	150
	胃部症状	5	4	8	6	0	15	15	9	41	39	22	11	175
	皮膚症状	0	0	1	0	0	1	0	2	2	1	2	2	11
	眼症状	9	3	4	3	0	8	1	1	0	1	5	5	40
	体調不良	3	4	19	12	0	15	11	29	19	22	33	11	178
外科的	怪我 打撲・筋肉痛 等	15	12	12	20	0	27	15	14	15	15	11	10	166
		38	46	115	166	66	38	34	22	7	1	33	15	581
その他	性関連	0	0	0	3	0	5	4	11	20	11	20	5	79
	精神面	0	8	10	11	0	50	55	51	50	50	54	10	349
合計		120	154	216	264	66	226	233	183	259	284	279	103	2387

2 学年別性別利用状況

内容/学年・性別		1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		専攻科生		合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
内科的	頭痛	23	16	28	21	23	16	21	15	18	13			194
	感冒症状	44	21	62	38	64	44	58	38	55	40			464
	下腹痛	23	5	28	3	26	5	18	8	22	12			150
	胃部症状	20	8	31	11	22	8	18	6	29	22			175
	皮膚症状	0	0	8	0	0	0	0	0	1	2			11
	眼症状	6	1	12	2	6	1	4	0	8	0			40
	体調不良	22	10	21	4	21	30	22	8	28	12			178
外科的	怪我 打撲・筋肉痛 等	29	2	33	4	33	3	25	1	35	1			166
		77	20	104	21	87	20	89	29	105	29			581
その他	性関連	0	8	0	12	0	33	0	10	0	16			79
	精神面	68	31	59	26	46	32	25	10	34	18			349
合計		312	122	386	142	328	192	280	125	335	165			2387

出典 保健室

学生相談室

ちょっと話をしたい

心理テストを受けてみたい

息抜きに、休憩室に

心配事、悩みがある、困っている

進路、将来のことを考えたい

自分のことを知りたい、友達関係の悩み

どんなことでも構いません。気軽に来室してみてください。

学生相談室では、ちょっと気になることや、悩んでいること、困ったことなど、どんなことでも、カウンセラーと1対1で自分のペースで話し合い、どうしたら良いかをカウンセラーと一緒に考えていきます。**秘密は固く守られます。**談話室としても利用できます。

🕒 開室時間

毎週 水・木 曜日 12:15~17:15

(長期休暇中は休みになります)

📍 場所

場所が変わりました

学生相談室 (1階学生課の隣)

出典：学生相談室の案内

資料 7 - 2 - - 9

学校医等新規依頼理由書

カウンセラー

カウンセラーについては、近隣地区に定期的に依頼できる人がいないため、信用面からして広島大学大学院教育学研究科附属心理臨床教育研究センターの紹介、または前任者の紹介の形式をとってきている。

現在のカウンセラーである大島崇徳氏は、自己都合により平成17年度は引き受けられないとのことであり、後任については大島氏から西村寛氏の紹介があった。

西村氏は現在、山崎神経科内科医院に非常勤で勤務しており、十分に学生のカウンセリングを行える人物であると思われる。また、週1回の勤務も可能であるとのことから、同氏が適任であると判断される。

よって、平成17年度は週1回の勤務形態で西村氏に委嘱をお願いするものである。

学校医、学校歯科医及び学校薬剤師については、平成17年度も引き続き委嘱することで現職者に了承を得ている。

出典 庶務課

資料 7 - 2 - - 10

承 諾 書

平成 17 年 3 月 22 日

弓削商船高等専門学校長

西 垣 和 殿

氏 名 西 村 寛



私は、下記のとおり就任することを承諾します。

記

職 名	カウンセラー（弓削商船高等専門学校）
職務内容	スクールカウンセリング
期 間	平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日

出典 庶務課

資料 7 - 2 - - 11

■資料 2 相談・助言の対応例**(1) 相談例**

多くのケースでは、学生はその話題の中で不安や無力感、怒り、孤独感などを表現してくることが多い。どのような相談事例においても、それらの感情を言葉にして返していく共感的な対応は共通している。

また、学生から自発的に話されることは少ないが、カウンセラーから日常生活がきちんと送れているかを尋ねることもある。食事、睡眠が取れているか、家や寮での生活、授業の出席についてなど。もちろん全員に聞くわけではなく、話していくうちにこれらの生活習慣が乱れている可能性が感じられたとき、特に聞いていく。

よくある相談例について以下に示す。

①クラスや寮での大変さ

その中でも何が大変なのか、どんな気持ちになるのかなど、状況を明確にしていく。カウンセラーが感情面を言葉にして返しなが、現実的な解決方法を考えていく。カウンセラーから提案することもあるが、その場合は必ず、その方法が有効であるかを確認する。

②対人関係・自分自身の性格について

どのような場面で、どのような気持ちになるのか、どう振舞うのかなどを聞きながら、対人関係の持ち方や性格についてフィードバックしていく。いくつかわかってきたことを、関連させて伝えることもある。これらにより自己理解を深められるよう援助する。

③具体的な訴えがなく、単に話をしたいというとき

日頃溜まったストレスを吐き出したいようであれば、聞くことと感情面の応答に専念する。人と話すことで、人とのつながりを実感して寂しさを満たしたいようであれば、聞くだけでなく、カウンセラーから積極的に話すこともある。

(2) 心理検査

心理検査を希望してくることもある。TEG（質問紙法の性格検査）を施行。客観的に性格を把握できるようにすることを目的としている。その場で施行するか、または持ち帰って後日持ってきてもらう。

施行後は、この検査でわかる性格特徴についてまず説明し、結果を伝える。そして、本人が自覚している性格と比較してどうであったかを話し合う。結果の中で、本人が特に気になった点や、意識している点について、現実場面での行動と関連させて話をする。そうやって自己理解を深めていく。

資料 7 - 2 - - 12

弓削商船高等専門学校セクシュアル・ハラスメント防止等規則

制 定 平成 11 年 7 月 8 日
最終改正 平成 17 年 12 月 26 日

(趣旨)

第 1 条 弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）におけるセクシュアル・ハラスメントの防止及び排除のための措置並びにセクシュアル・ハラスメントに起因する問題が生じた場合に適切に対応するための措置（以下「セクシュアル・ハラスメントの防止等」という。）に関しては、独立行政法人国立高等専門学校機構セクシュアル・ハラスメント防止等に関する規則に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(定義)

第 2 条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) セクシュアル・ハラスメント 教職員が他の教職員、学生（研究生、聴講生及び科目等履修生を含む。以下同じ。）及び関係者（学生の保護者、関係業者等の職務上の関係を有する者をいう。以下同じ。）を不快にさせる性的な言動、学生及び関係者が教職員を不快にさせる性的な言動並びに学生が他の学生を不快にさせる性的な言動
- (2) セクシュアル・ハラスメントに起因する問題 セクシュアル・ハラスメントのため就労上又は修学上の環境が害されること及びセクシュアル・ハラスメントへの対応に起因して就労上又は修学上の不利益を受けること。

(教職員の責務)

第 3 条 教職員は、文部科学省が定めた「セクシュアル・ハラスメントの防止等のために文部科学省職員が認識すべき事項についての指針」に従い、セクシュアル・ハラスメントをしないように注意しなければならない。

(学生に対する指導)

第 4 条 教員は、学生に対して、前条に規定する指針を参考にし、かつ学生の心身の発達段階等を考慮して適切な指導を行い、セクシュアル・ハラスメントのない良好な修学環境が維持されるよう努めなければならない。

(校長の責務)

第 5 条 校長は、教職員及び学生に対して、ポスターの掲示、広報誌等への掲載、研修会・講演会の実施その他の必要な啓発活動を行い、セクシュアル・ハラスメントの防止等に努めなければならない。

(苦情相談)

第 6 条 本校に、セクシュアル・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談（以下「苦情相談」という。）が教職員、学生及び関係者からなされた場合に対応するため、次表のとおり苦情相談窓口を設け、苦情相談に当たる教職員（以下「苦情相談員」という。）を置く。

出典 弓削商船高等専門学校規則集

資料 7 - 2 - - 13

平成 17 年 4 月 5 日

クラス担任各位

弓削商船高等専門学校
学生課学生係

各種奨学金の募集について

このことについて、下記のとおり募集しますので、学生に周知願います。

記

1 募集する奨学金の種類及び対象

日本学生支援機構 (第一種)奨学金	第1学年を中心としますが、第2学年以上を推薦する場合があります。
日本船員奨学会奨学金	商船学科学生
近藤記念海事財団奨学金	全学生

※ 金額等詳細については、学生課学生係に問い合わせ下さい。

2 書類提出期限

平成 17 年 4 月 22 日 (金)

3 その他

関係書類は学生課学生係にありますので、希望する学生は、直接、学生課学生係へ申し出下さい。

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 14

平成 17 年 7 月 1 日

学生・保護者 各位

学生課学生係

平成 17 年度後期分授業料免除申請の受付について

このことについて、下記の要領で実施いたしますので、希望者は期限厳守のうえ学生係まで申請してください。

記

1 対象者

(1) 経済的理由による免除……下記①, ②の条件を満たしていること。

① 経済的理由により納付が困難な者。

② 前期末試験の席次が、本人の属する学級の上位 1 / 3 以内である者。

(2) 特別の理由による免除

6ヶ月以内において学資負担者が死亡、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、学資の納付が困難と認められる者。

2 提出期限

9月30日(金) 期限厳守

3 提出先

学生課学生係

4 出願書類及び添付書類

別紙一覧表

5 授業料後期分金額

117,300円

6 授業料納付について

選考の結果は、申請のあった保護者宛に通知しますが、選考が11月上旬になりますので申請された方は、授業料免除決定までは授業料の納付をしないようお願いいたします。また、免除されなかった場合は通知後、会計課出納係まで納付願います。

7 授業料免除願の理由欄について

詳細にご記入下さい。記入がない場合は受理できません。

8 授業料免除関係に関する照会

学生課学生係 TEL 0897-77-4621

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 15

奨学金受給状況

	15年度	16年度	17年度
日本学生支援機構	71	88	79
日本船員奨学会	28	33	32
近藤記念海事財団	8	11	14
愛媛県	8	11	18
広島県	1	1	2
京都府	1		
因島市	1	1	1
鹿児島県			1
島根県			1
大阪府	1	1	1
豊中市	1	1	1
吹田市			1
伯方町	1		
土佐町	1	1	
関育英奨学会		1	2
いよぎん福祉奨学金	1	1	1
あしなが育英会	2	2	1
計	125	152	155

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 16

§ III 奨学金制度

- 1 日本学生支援機構奨学金
- 2 日本船員奨学会奨学金
- 3 近藤記念海事財団奨学金
- 4 その他地方公共団体奨学金

出典 平成17年度学生便覧

観点 7 - 2 - 特別な支援が必要な者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）がいる場合には、生活面での支援が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

本校には、毎年 2、3 名の留学生が編入学しており、彼らが生活面、学習面、及び精神面で安心して学校生活を送れるような支援体制が整備されている（資料 7 - 2 - - 1, 2）。例えば、日本人の寮生と異なり、宗教的な理由から食べ物の制限を持つ学生が多いため、寮内に留学生専用の調理室を設置している（資料 7 - 2 - - 3）。また、留学生指導教員及び担当事務職員を配置し、チューター学生を任命している（資料 7 - 2 - - 4, 5）。チューター学生には、年 2 回、チュートリアル報告書を作成させ、留学生の修学支援体制の改善に努めている（資料 7 - 2 - - 6）。さらに、学生会主催の留学生交流会や旅行、教職員有志主催のチャットパーティなどを行っている（資料 7 - 2 - - 7, 8）。

障害者用施設に関しては、校内に、スロープ（7 箇所）、自動ドア（2 箇所）、専用トイレ（3 箇所）を設置している（資料 7 - 2 - - 9）。これらを利用することで、校内 1 階部分においては、運動機能障害者であっても大きな負担を強いることなく、学校生活を送ることが可能である。しかしながら、本校にはエレベータを設置した棟がないことから、現在、検討中である（資料 7 - 2 - - 10）。

（分析結果とその根拠理由）

留学生に対する支援体制として、学寮における専用調理室の設置、留学生指導教員及び担当事務職員の配置、チューター学生の任命、及び交流会の開催などがある。これらにより、留学生の充実した学校生活に関する環境作りが図られている。

本校内の施設には、多数の障害者用設備が設けられている。また、今後建設を予定している専攻科棟には、エレベータの設置計画があり、これにより校内のバリアフリー化が一層進み、身体障害学生の受け入れ態勢が整うものと期待される。

以上のことから、留学生に対する生活面での支援は、既存の施設や制度が十分に活用されており支援が適切に行われている。一方、障害者の受け入れ態勢は、既存の設備では不十分であるが、改修に向けた計画がなされている。

資料 7 - 2 - - 1

平成17年度弓削商船高等専門学校外国人留学生一覧表 (平成17年4月1日現在)

氏 名	国 籍	学 科・学 年	受入期間	経費の区分	相談員	指導教員
	ベトナム	商船学科 5年実	H14.4.1~H17.9.30	国 費		児玉 敬一
	マレーシア	商船学科 5年実	H14.4.1~H17.9.30	マレーシア 政府派遣		児玉 敬一
	マレーシア	電子機械工学科 5年	H15.4.1~H18.3.31	マレーシア 政府派遣		勘久保 広一
	マレーシア	電子機械工学科 5年	H15.4.1~H18.3.31	マレーシア 政府派遣		勘久保 広一
	モンゴル	電子機械工学科 5年	H15.4.1~H18.3.31	国 費		勘久保 広一
	スリランカ	情報工学科 5年	H15.4.1~H18.3.31	国 費		葛目 幸一
	マレーシア	電子機械工学科 4年	H16.4.1~H19.3.31	マレーシア 政府派遣		大石 健司
	マレーシア	電子機械工学科 4年	H16.4.1~H19.3.31	マレーシア 政府派遣		大石 健司
	マレーシア	電子機械工学科 3年	H17.4.1~H20.3.31	マレーシア 政府派遣		益崎 真治
	マレーシア	電子機械工学科 3年	H17.4.1~H20.3.31	マレーシア 政府派遣		益崎 真治
	マレーシア	電子機械工学科 3年	H17.4.1~H20.3.31	マレーシア 政府派遣		益崎 真治
	ラオス	情報工学科 3年	H17.4.1~H20.3.31	国 費		猪川 優子

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 2

(審議事項)

第6条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 留学生の受入に関する事項
- (2) 留学生の教育指導に関する事項
- (3) 留学生の厚生補導に関する事項
- (4) 留学生の寮務に関する事項
- (5) その他校長が必要と認めた事項

(組織)

第7条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 各主事
 - (2) 各学科長及び総合教育科長
 - (3) 第8条第1項に定める留学生指導教員
 - (4) 学生課長
- 2 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。
- 3 委員長は、委員会を主宰する。
- 4 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
- 5 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(留学生指導教員)

第8条 留学生に対する学習及び生活に必要な指導を行うため、留学生指導教員（以下「指導教員」という。）を置く。

- 2 指導教員は、学科長及び総合教育科長の推薦により、校長が任命する。
- 3 指導教員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、指導教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(留学生相談員)

第9条 留学生に対し学習及び生活に必要な個別の指導助言を行わせるため、留学生相談員（以下「相談員」という。）を置く。

- 2 相談員は、指導教員の推薦により、学生の中から校長が任命する。
- 3 相談員は、第1項の指導助言に関し、定期的に指導教員に連絡して、その指導を受けるものとする。
- 4 相談員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、相談員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(住居)

第10条 留学生は、原則として学寮に居住するものとする。ただし、閉寮期間中はこの限りでない。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、留学生に関し必要な事項は、学則及び学内諸規則を準用する。

出典：弓削商船高等専門学校外国人留学生規則



資料 7 - 2 - - 4

外国人留学生相談員（チューター）の役割

1. チューターは、指導教官（クラス担任）の指導のもとに、留学生の教育について個別の課外指導を行い、留学生の学習効果の向上を図る。
2. チューターは、留学生の学習指導(予習・復習)の手伝いを中心に、日本語指導、日常の世話をを行う。
3. チューターは、留学生の家庭教師として、また学校における最初の学友として、留学生のわが国での学習の大きな支えとなると同時に、チューターとなった日本人学生にも国際理解、国際協力への関心を芽生えさせる機会とする。
4. チューターは、留学生に日本の文化、習慣または留学生の息抜きとしてのレクリエーション等の計画を年度初めに立てて、友好親善を図る。

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 5

(学生課)

第7条 学生課に次の係を置く。

教務係

学生係

寮務係

実験実習第一係

実験実習第二係

2 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 教務に関し連絡調整すること。
- (2) 学科、学級及び学生定員に関すること。
- (3) 専攻科に関すること。
- (4) 外国人留学生に関すること。
- (5) 教育課程及び授業に関すること。
- (6) 学生募集及び入学者の選抜に関すること。
- (7) 進級及び卒業の認定に関すること。
- (8) 学生の入学、編入学、転科、休学、復学、退学、留学及び卒業に関すること。
- (9) 学生の試験及び成績に関すること。
- (10) 学生の欠課及び欠席に関すること。
- (11) 学籍簿の整理保存に関すること。
- (12) 教科書及び補助教材に関すること。
- (13) 学生の在学、卒業及び成績の証明等に関すること。
- (14) 学生の大学編入学等に関すること。
- (15) 学生の校外実習及び見学に関すること。
- (16) 海技試験に関すること。
- (17) 学生の住所変更、転籍及び保証人変更等の諸届に関すること。
- (18) 教室の管理に関すること。
- (19) 広報に関すること（庶務係の所掌に係るものを除く。）。
- (20) 所管物品の管理等に関すること。
- (21) 所掌事務の調査及び統計報告に関すること。
- (22) その他教務に関する事務を処理すること。

出典：弓削商船高等専門学校事務分掌規則

資料 7 - 2 - - 6

弓削商船高等専門学校

チュートリアル報告書

留学生氏名	[REDACTED]
チューター氏名	[REDACTED]
報告年月日	2005年10月4日 <u>前期期末試験</u> 後期期末試験

留学生の教育についての個別の課外指導等の実施について
 ・前期中間試験の勉強を指導した。

留学生への日本語指導・日常生活のケアについて
 ・日々の生活でわからないことがあれば、質問を受ける毎に指導した。

チューター自身の国際理解の向上について
 ・宗教上の教義に厳格なことに驚いた。

レクリエーション等の実施について
 ・交流を深めるために室屋に遊びに行った。

この報告書は、チューターが年2回（前期期末試験 後期期末試験）作成し、試験最終日に担任に提出すること。

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 7

団体名 弓削商船高等専門学校

開催年月日	国際交流事業名	事業の概要	留学生数
H.15. 10. 26	歩け城下町探検隊 国際ウォーグリー	日本人参加者と留学生でチームを作り今治城周辺を歩いて回る。	8
H.15. 12. 11	因島ロータリークラブ家族会との交流	因島ロータリークラブ家族会との親睦会	8
H.16. 2. 9	留学生送別会	学生寮入寮の留学生及び日本人学生の卒業送別会	8
H.16. 3. 8	外国人留学生との懇談会	外国人留学生と本校関係職員との交流の場を設け相互理解と親睦を深める。	8
H.16. 5. 8	チャットパーティー	各留学生がお国自慢の料理を作り、日本人学生・教職員及び町民等と昼食を共にし、おしゃべりを楽しむ会	9
H.16. 6. 1	留学生歓迎会	学生寮入寮の留学生及び日本人学生の歓迎会	9

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 8

平成17年5月9日
留学生一同

第14回 チャットパーティのご案内

留学生主催により「チャット・パーティ(留学生とのおしゃべりの会)」を下記要領で開催いたします。今回は、今治明德短大の中国人留学生も参加予定です。奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

日時 平成17年 5月 14日 (土)

11:30~13:30

場所 才の木亭

内容 *「お国自慢料理」の試食

マレーシア、スリランカ、モンゴル、ラオスからの留学生
による手料理

*「中華饅頭、韓国風太巻き」の料理講座

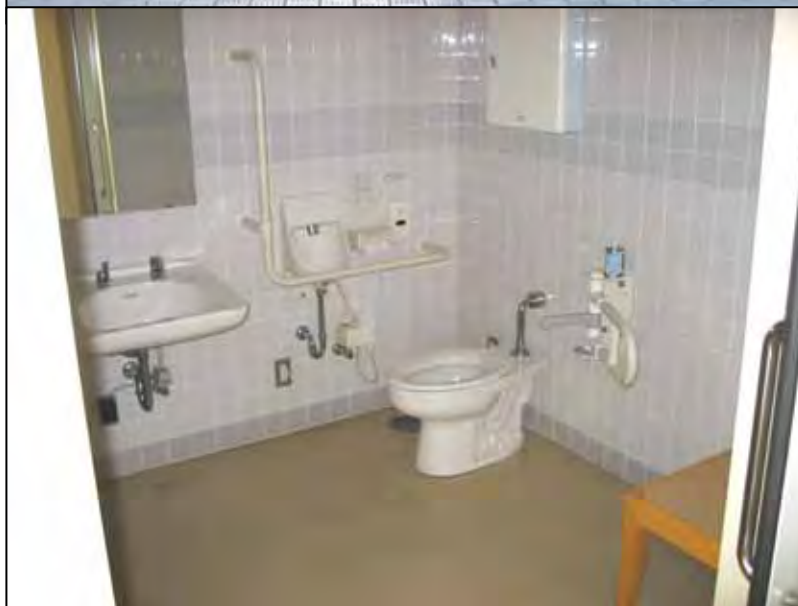
今治明德短大、中国人留学生による料理教室



連絡先: 弓削商船高専・葛目<<くずめ>> (0897-77-4661)

出典 葛目幸一教授

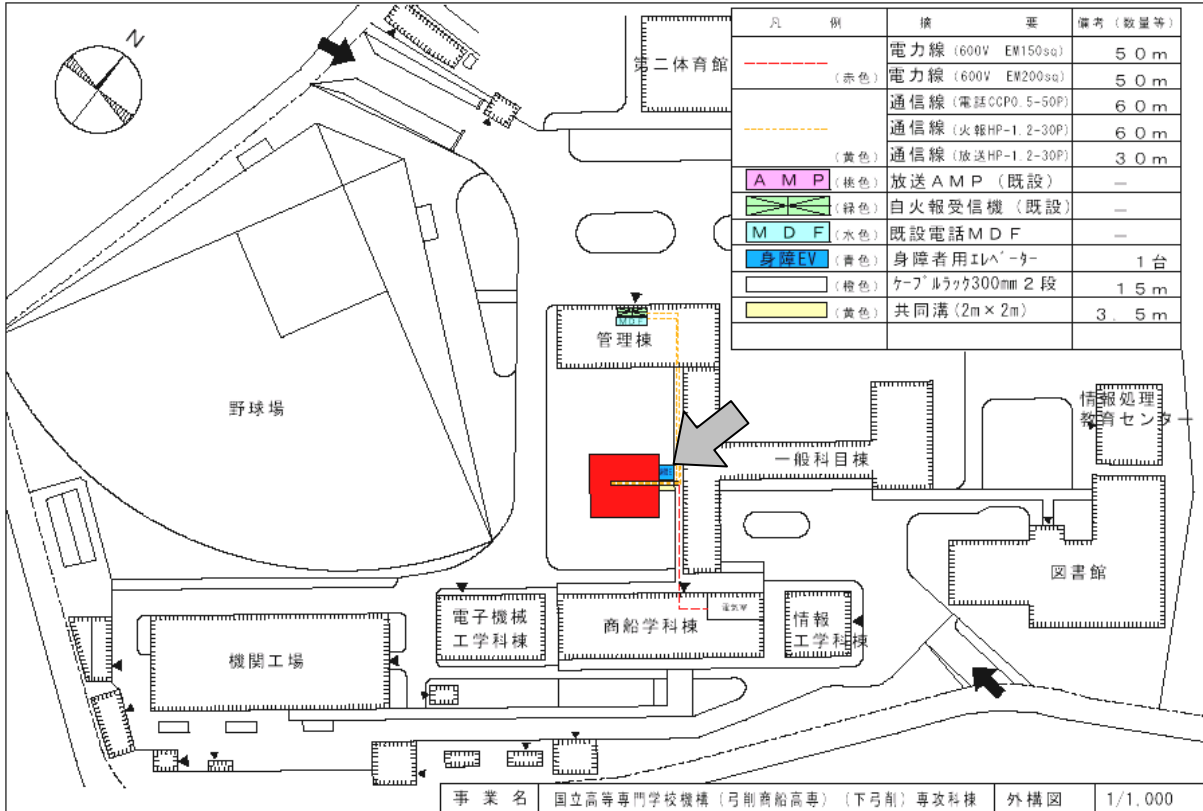
資料 7 - 2 - - 9



出典 会計課

資料 7 - 2 - - 10

(様式A-2)



事業名 国立高等専門学校機構(弓削商船高専) (下弓削)専攻科棟 外構図 1/1,000

出典 会計課

観点 7 - 2 - 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

本校の学生寮は、寮務主事および同主事補を中心に「団体生活を通して、友愛、協調及び自主性の精神を培い、責任と規律ある習慣を体得させ、将来にわたる人間形成に資する」ことを目的に運営されている(資料 7 - 2 - - 1)。

男子 1, 2 年生は、原則として全寮制であり、それ以外の学生については、許可入寮制となっている。また、男子 1 年生には 2 人部屋、3 年生以上と女子寮生には個室が与えられている。各棟各階には、補食談話室が設けられており、寮生は簡単な調理が可能であり、また交流の場としても利用されている。各居室には、勉強机が設置されているため、寮生は、平日の自習時間等を利用して、自室で勉学に集中できる環境になっている(資料 7 - 2 - - 2, 3)。また、宿直教員が自習時間の見回りを行うなど、きめ細かな指導・支援体制を採っている。さらに、寮生は、各棟の PC 室に備えられたパソコンだけでなく、居室からも個人で購入したパソコンを使ってインターネットへ接続が可能であり、自習環境の充実を図っている(資料 7 - 2 - - 2 ~ 4)。寮生の指導には、全教員が当たることを原則としており、輪番で宿日直を担当している(資料 7 - 2 - - 5 ~ 7)。

学生寮運営及び寮生に関する事項を審議するために、寮務委員会が設置されている(資料 7 - 2 - - 8)。また、事務系職員 2 名からなる寮務係が、寮内事務室に置かれており、学生寮の管理運営に関する事務、施設、設備、会計の事務処理を行っている(資料 7 - 2 - - 4)。さらに、寮生会は全寮生をもって構成され、寮務関係教員と連絡をとりながら、寮生活が健全にかつ有意義に営まれることを目的とし、寮生会役員を中心とした活動が行われている(資料 7 - 2 - - 9)。

近年、入寮希望者が増加傾向にあるため、若干ながら最大収容人数を上回る状況にある。そのため、部分改修が 17 年度補正予算で予算措置され、18 年度秋頃完成の予定で、19 年度の増加に対応できることになった(資料 7 - 2 - - 10)。

(分析結果とその根拠理由)

学生寮が、学生の生活及び勉学の場として有効に機能していると判断できる。

その根拠としては、各棟各階にある補食談話室、各居室に設置された勉強机、居室から利用可能なインターネットといった設備面の充実や、宿直教員による自習時間の巡回、寮内に常駐する事務系職員などの生活の支援体制が整っていることが挙げられる。また、入寮希望者の増加は、学生寮の生活・学習支援体制が円滑に営まれ、高く評価されていることの裏付けと考えられる。それらに対応して、入寮希望者全員を収容できるよう施設の部分改修が予定され、19 年度の増加に対応できることになった。

資料 7 - 2 - - 1

○弓削商船高等専門学校学寮管理運営規則

制 定 昭和63年 3月28日

最終改正 平成18年 3月22日

弓削商船高等専門学校学寮管理運営規則（昭和42年 6月 1日制定）の全部を改正する。

（趣旨）

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校学則（以下「学則」という。）第48条第3項の規定に基づき、学寮の管理運営について、その円滑かつ適正な運用を図るために必要な事項を定める。

（学寮の目的）

第2条 学寮は、本校の教育施設であって、第1学年及び第2学年を全寮制、第3学年以上を許可入寮制とし、団体生活を通して、友愛、協調及び自主の精神を培い、責任と規律ある習慣を体得させ、将来にわたる人間形成に資することを目的とする。

（学寮の管理運営等）

第3条 学寮の管理運営は校長が行う。

2 寮務主事は、校長の命を受けて、学寮の管理運営及び学寮における学生（以下「寮生」という。）の厚生補導に関することを掌理する。

（寮監及び寮生指導教員）

第4条 学寮に、寮監及び寮生指導教員を置く。

2 寮監は、寮務主事をもって充てる。

3 寮生指導教員は、全教員をもって充てる。

4 寮生指導教員は、寮生の生活指導に当る。

（寮務委員会）

第5条 学寮の運営及び寮生に関する事項を審議するため、寮務委員会を置く。

2 寮務委員会について必要な事項は、別に定める。

（寮生指導教員会議）

第6条 寮務主事は、寮生の生活指導について、特に重要と思われる事項を審議するため、必要に応じ、寮生指導教員全員による会議を開催することができる。

（入寮）

第7条 第1学年及び第2学年の学生は、学寮に入寮しなければならない。ただし、女子及び校長が特別な事情があると認めた者については、これを免除することができる。

2 前項のただし書きの規定により、入寮の免除を受けようとする者は、保証人連署の入寮免除願（別記様式第1号）を提出し、校長の許可を受けなければならない。

3 前項の規定により入寮を免除された者が、入寮免除期間中において、その事由の

出典 弓削商船高等専門学校規則集

資料 7 - 2 - - 2

寮生活のしおり

白砂寮

(男子寮生)

学科：商船、電子機械、情報 氏名 _____

弓削商船高等専門学校

出典 寮生活のしおり


資料 7 - 2 - - 3

学寮の現状と課題

自己点検・評価報告書

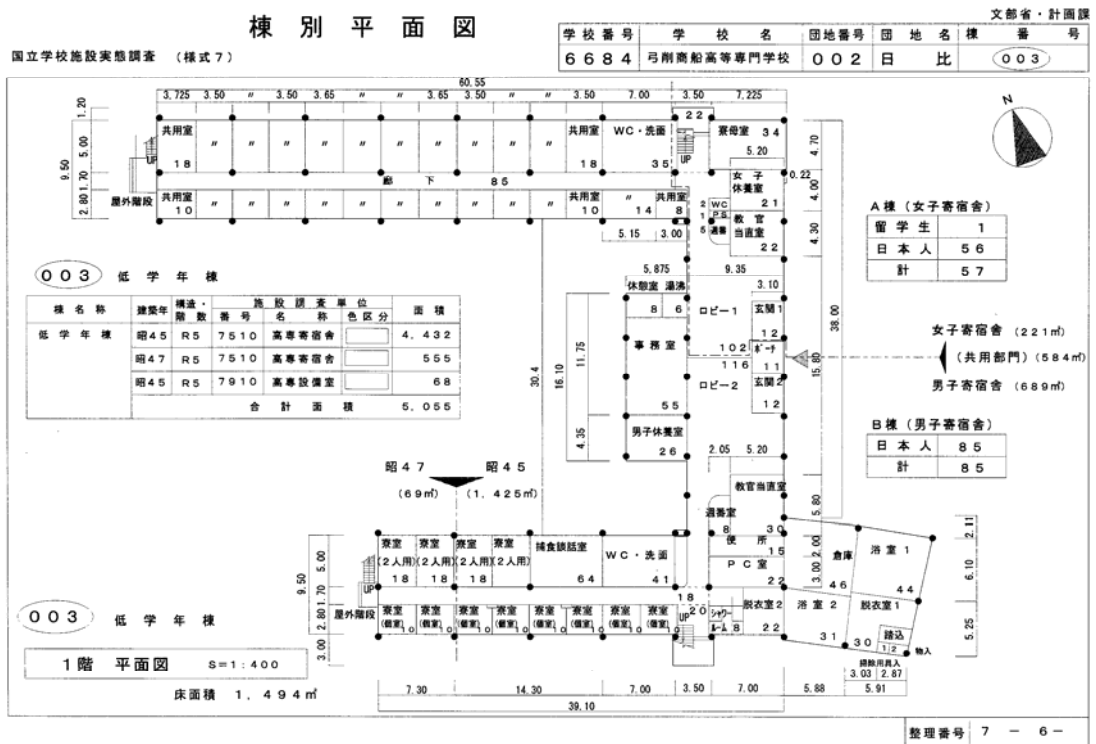
2001年1月



 弓削商船高等専門学校

出典 学寮の現状と課題

資料 7 - 2 - - 4 (A棟1階部分は, 改修予定)



出典 会計課

資料 7 - 2 - - 5

第 7 章 学寮 (弓削商船高等専門学校学寮宿日直規則)

○弓削商船高等専門学校学寮宿日直規則

制 定 昭和46年 1 月 1 日

最終改正 平成18年 3 月 22 日

(趣旨)

第 1 条 弓削商船高等専門学校学寮における宿日直勤務 (以下「宿日直」という。) に関しては、独立行政法人国立高等専門学校機構学生寮教員宿日直規則に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(目的)

第 2 条 教員の学寮における宿日直勤務 (以下「宿日直」という。) は寮生の教育指導及び生活指導を行うことを目的とする。

(勤務体制)

第 3 条 男子低学年棟及び男子高学年棟の宿日直は、原則として教員 2 名が輪番で従事するものとする。

2 女子棟の宿日直は、1 週間につき 2 日の宿日直勤務とし、教員 1 名が輪番で従事するものとする。

3 前 2 項にかかわらず、校長が特に必要と認める場合は、臨時に増減することができる。ただし、当該勤務に従事する回数が 1 月当たり 5 回を超えないものとする。

(宿日直日)

第 4 条 宿日直は、弓削商船高等専門学校学則第 5 条第 1 項第 4 号ないし第 7 号に規定する休業日を除く日とする。ただし、特別の事情により宿日直の実施が必要又は困難と認められる場合は、この限りでない。

(仮眠時間及び休憩・仮眠施設)

第 5 条 宿日直における睡眠時間は、原則として午後 11 時 30 分から翌日の午前 6 時 30 分までとする。

2 休憩仮眠施設は、次のとおりとする。

- 一 低学年棟については、低学年当直室
- 二 高学年棟については、高学年当直室
- 三 女子棟については、女子棟当直室

(宿日直の命令及び割振り)

第 6 条 宿日直は校長が命ずる。

2 健康上やむを得ない理由により校長が特別に認めた者については、宿日直に従事することを要しないものとする。

3 当該学校に着任又は採用後 1 月を経過しない者は、宿日直を免除する。

4 宿日直の割振りは、寮務主事が定め、校長の決裁を得たうえ、実施する月の前月の末日までに各教員に通知するものとする。

(宿日直の交代)

第 7 条 やむを得ない理由により勤務日に勤務できないときは、あらかじめ、校長の

出典 弓削商船高等専門学校規則集

資料 7 - 2 - - 6

日	曜日	寮日直	寮 宿 直			備 考
			女子寮	低学年棟	高学年棟	
1	日					元日、冬季休業
2	月					振替休日、冬季休業
3	火					冬季休業
4	水					冬季休業
5	木					冬季休業
6	金					冬季休業
7	土					冬季休業
8	日					
9	月	久保	(寮母)	徳田	野口	成人の日、寮生帰寮
10	火		大石	山尾	松下	全校集会(午前中短縮授業、午後平常授業)、授業開始
11	水		(寮母)	二村	湯田	創立記念日(授業なし)
12	木		猪川	横田	神谷	
13	金		(寮母)	飯塚	藤井清	
14	土	児玉	(寮母)	松永	石橋	
15	日	坂内	(寮母)	葛目	上岡	
16	月		(寮母)	岩本	上江	
17	火		多田勝	加藤	勸久保	S1 練習船実習
18	水		(寮母)	久保	高尾	S1 練習船実習
19	木		藤井温	鈴木	高岡	S1 練習船実習
20	金		(寮母)	坂内	高木	M-1 卒業試験時間割発表
21	土	鈴木	(寮母)	多田光	田房	
22	日	田房	(寮母)	瀬濤	児玉	推薦入学面接
23	月		(寮母)	田頭	徳田	
24	火		上江	塚本	田原	
25	水		(寮母)	野口	友田	
26	木		猪川	長尾	中家	
27	金		(寮母)	中山	二村	教員会議
28	土	瀬濤	(寮母)	藤井清	中	
29	日	高尾	(寮母)	浜中	松下	
30	月		(寮母)	野々山	久保	
31	火		大石	藤本	益崎	

出典：学生寮宿日直勤務割り振り表

資料 7 - 2 - - 7

校長	寮務主事	寮務主事補					事務部長	学生課長	寮務係長
平成 年 月 日 曜日						天候			
当直時間 自 時 分 ~ 至 時 分						当直者		印	
巡回の記録		A2F	1階	2階	3階	4階	5階	特記事項	
入直	廊下・階段								
	補食談話室								
	トイレ								
	洗面所								
	1階ホール								
	外回り								1階PC製図室
巡検	廊下・階段								
	補食談話室								
	トイレ								
	洗面所								
	1階ホール								
	風呂								1階PC製図室
出直	廊下・階段								
	補食談話室								
	トイレ								
	洗面所								
	1階ホール								
	外回り								1階PC製図室
凡例: 良く出来ている=○、まあまあ=△、さらに指導が必要=×									
本日の当直学生		1年生			2年生			明日の当直学生	
								1年生	
								2年生	

B棟教官日誌

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 8

第 7 章 学寮 (弓削商船高等専門学校寮務委員会規則)

○弓削商船高等専門学校寮務委員会規則

制 定 昭和63年 3月28日

最終改正 平成17年 2月21日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校学寮管理運営規則第 6 条第 2 項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校寮務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 寮生の生活指導に関する事項
- (2) 学寮内の規律保持に関する事項
- (3) 寮生の入寮及び退寮に関する事項
- (4) 寮生の離寮措置に関する事項
- (5) 学寮内諸行事の指導に関する事項
- (6) 学寮内の環境整備に関する事項
- (7) 寮生の健康及び安全管理に関する事項
- (8) その他寮生の指導に関する事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 寮務主事及び学生主事
- (2) 寮務主事補及び学生主事補
- (3) 各学科及び総合教育科から選出された教員各 1 名
- (4) 学生課長

2 前項第 3 号の委員の任期は 1 年とし、再任は妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、寮務主事をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第 6 条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別

出典 弓削商船高等専門学校規則集

資料 7 - 2 - - 9

(2) 弓削商船高等専門学校寮生会会則

(制定 平成元年 4 月 1 日)

(名称)

第 1 条 本会は、弓削商船高等専門学校寮生会（以下「本会」という。）と称する。

(目的)

第 2 条 本会は、学校指導のもとに、寮生活が健全にかつ、有意義に営まれることを目的とする。

(構成)

第 3 条 本会は、弓削商船高等専門学校の全寮生をもって構成する。

(運営機関)

第 4 条 本会は、第 2 条の目的を達成するために、次の機関を置く。

- 一 寮生総会
- 二 役員会
- 三 指導寮生会
- 四 専門委員会
- 五 会計監査委員会
- 六 選挙管理委員会

2 前項の定める各機関の会議は、その構成員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立し、決議には出席者の過半数の同意を必要とする。

(寮生総会)

第 5 条 寮生総会は、本会最高の決議機関であり、寮生会長がこれを招集する。

(定期総会)

第 6 条 定期寮生総会（以下「定期総会」という。）は、年 2 回開くものとする。

(臨時総会)

第 7 条 臨時寮生総会（以下「臨時総会」という。）は、次の場合に開くことができる。

- 一 全寮生の 3 分の 1 以上が必要と認めたとき。
- 二 役員会が必要と認めたとき。

(総会の招集)

第 8 条 寮生会長は、総会の 7 日前までに議題等について告示し、また寮務主事に届け出なければならぬ。

(総会の審議事項)

第 9 条 寮生総会は、次の事項について審議する。

- 一 会則の改正
- 二 予算及び決算の承認
- 三 活動計画及び活動報告
- 四 役員承認
- 五 会計監査報告
- 六 その他の重要事項

(議長の選出方法及び書記の設置)

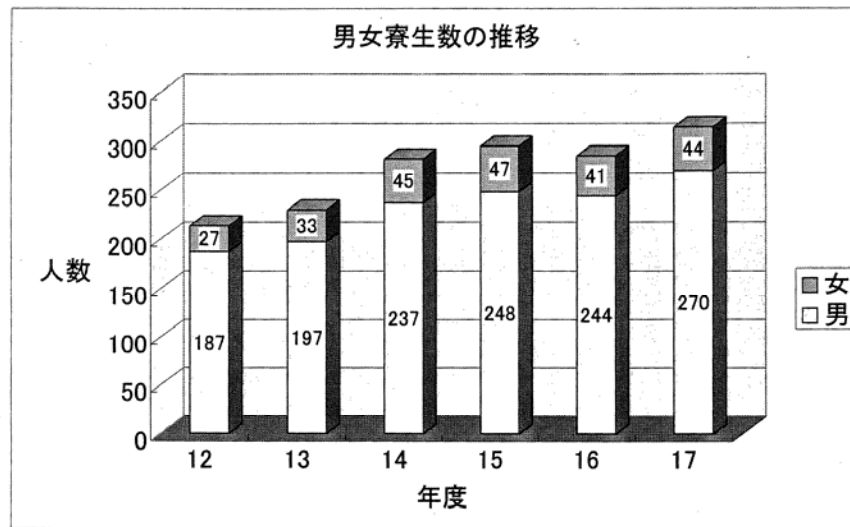
第 10 条 議長は寮生会長が指名し、出席者の過半数の承認を受けるものとする。また、別に書記を置く。書記は役員会の書記がこれに当たる。

(役員会の構成及び職務)

第 11 条 役員会は次の役員をもって構成し、総会につぐ決議機関であり、寮生会の運営に当たる。

- 一 寮生会長 1 名
- 二 寮生副会長 2 名
- 三 書記 1 名
- 四 会計 1 名

資料 7 - 2 - - 10



出典 学生課

観点 7 - 2 - 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校の準学士課程では、教務委員会が進学指導に関する事項を管轄している(資料 7 - 2 - - 1 , 2)。具体的な進学希望学生への支援としては、大学教員を招いた説明会などがあり、学生の進学相談には、進路指導主任を中心に学科単位で支援を行っている(資料 7 - 2 - - 3)。

一方、就職指導に関しては、各学科の進路指導主任が主な実務に当たる就職指導委員会が担当しており、進路指導主任が中心となり就職に関係する会社の訪問等も行っている(資料 7 - 2 - - 4 ~ 8)。また、学科ごとに、進学や就職に必要な資料が整理・保管されており、自由に閲覧することが可能である(資料 7 - 2 - - 9)。就職指導の一環として、4年次のインターンシップ報告会や、年に数回企業等の人事部に属する外部講師を招いた講演会が実施されている(資料 7 - 2 - - 10 ~ 12)。さらに、電子機械工学科と情報工学科は、5年次春に行われる保護者を交えた進路懇談会以外に、毎年2回行われる定期懇談会においても、保護者と学級担任の間で進路に関する情報交換が行われている(資料 7 - 2 - - 5 , 7 - 2 - - 13)。

本校の専攻科課程では、学校推薦などに関する就職指導を、主として準学士課程の進路指導主任と専攻科長が行い、各専攻主任やその他の教員がサポートに当たる。また、大学院進学に関する相談や、推薦書等の書類作成には、専攻主任や特別研究指導教員が主体となって指導に当たっている(資料 7 - 2 - - 14)。

(分析結果とその根拠理由)

就職が厳しい状況にあっても、本校は毎年ほぼ 100%の就職率を達成している。このことは、大学教員を招いた説明会、インターンシップ報告会、企業等の人事部に属する外部講師による講演会などのような学校単位や学科単位の指導体制と、進路指導主任による学生や保護者へのきめ細かな個別対応の成果である。従って、就職や進学などの進路指導を行う体制が十分に整備され、円滑に機能していると判断される。

ただし、専攻科課程については、平成 17 年度に設置されたばかりであるため、企業や大学に関する資料、及び進路指導に必要な様々なノウハウを充実させる過渡期にある。従って、今後は、これらの情報収集に務め、指導体制を確立させることが課題である。

資料 7 - 2 - - 1

○弓削商船高等専門学校教務委員会規則

制 定 昭和58年9月20日

最終改正 平成17年3月1日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第15条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育計画の立案に関する事項
- (2) 進級及び卒業等に関する事項
- (3) 進学に関する事項
- (4) その他教務に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科長及び総合教育科長
- (3) 教務主事補
- (4) 学生課長

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則





1 この規則は、昭和58年9月20日より施行する。

2 この規則施行の際、現に従前の教務委員会委員長及び委員である者は、この規則により任命されたものとみなす。

出典 弓削商船高等専門学校規則集

資料 7 - 2 - - 2

平成17年5月17日

学生課長  教務係長  教務係員 
 教務主事 

起案：平成17年5月17日

決裁：平成17年5月18日

記 録
 下記のとおり してよろしいか伺います。
 各委員に配布

平成17年度第3回教務委員会議事概要

日 時 平成17年5月16日(月) 16:20～16:59
 場 所 第2会議室
 出席者 別紙のとおり
 議 題

(審議事項)

1. 大学編入学推薦者について

- ・ 委員長から、資料1及び資料2に基づき説明があり、審議の結果原案どおり了承された。

なお、校長面談は来週に実施するよう校長と調整する。また、プハヌディンについては既に実施済である旨、報告があった。

- ・ 情報工学科長から、校長面談は大学推薦者のみでなく就職推薦者にも実施するなど平等に扱って頂きたい旨要望があり、校長に伝える旨、回答があった。
- ・ 委員長から、校長からの伝言として、本校の工業系専攻科の推薦についても考慮願いたい旨、発言があった。

なお、学科長から専攻科の進路関係について、次のとおり発言があった。

- ・ 就職が見えない。
- ・ 企業からの求人状況がわからない。
- ・ 大学院をためらう。(これ以上勉強したくない。)
- ・ 委員長から、本校専攻科の推薦の取扱いについて、今後検討する旨、発言があった。
~~に~~ ~~関~~ ~~する~~ ~~委員会~~ ~~を~~ ~~開催~~

2. 平成17年度商船学科卒業生の表彰について

委員長から、資料2に基づき説明があった。引き続き商船学科長から補足説明があり、審議の結果原案どおり了承された。

(報告事項)

1. その他

公開授業について

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 3

平成18年2月9日

各高等専門学校長 殿

豊橋技術科学大学長

西 永 頌 (公印省略)

平成18年度学校訪問に係る訪問時期等について (照会)

平素は、本学の教育・研究に対し御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本学では平成18年度も下記のとおり学校訪問を実施させていただきたく計画しております。

については、御多用中恐縮ですが、貴校の御都合等を別紙により記入の上、2月24日(金)までにFAXにて御回答くださるよう、よろしくお願い申し上げます。

記

1 概 要

本科生及び専攻科生を対象に、本学の教育・研究の内容、第3年次編入学制度及び修士課程入学制度の概要等を紹介するとともに、貴校進路指導の先生方との交流を図ります。

2 訪問時期等

別紙の回答書に基づき、訪問時期及び訪問教員を調整させていただきます。

本件連絡先

〒441-8580 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

豊橋技術科学大学教務部入試課調査研究係

電 話 : 0532-44-6581

F A X : 0532-44-6582



出典 学生課

資料 7 - 2 - - 4

第 2 章 組織及び運営 (弓削商船高等専門学校就職指導委員会規則)

○弓削商船高等専門学校就職指導委員会規則

制	定	昭和46年9月1日
最	終	改正 平成17年2月21日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第15条第 2 項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校就職指導委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 求人調査及び就職開拓に関する事項
- (2) 学生の就職調査に関する事項
- (3) 学生の就職指導に関する事項
- (4) 学生の就職推薦に関する事項
- (5) その他学生の就職に関する事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学生主事
- (2) 各学科長
- (3) 学生主事補の中から 1 名
- (4) 各学科から選出された教員各 1 名
- (5) 進路指導主任
- (6) 学生課長

2 前項第 3 号の委員は、委員長が指名する。

3 第 1 項第 4 号の委員の任期は 1 年とし、再任は妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、前条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第 6 条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

資料 7 - 2 - - 5

H17. 4. 18
就職指導委員会
議題 資料 2

平成16年度就職関係会社訪問先一覧表

番号	会社名	訪問年月日	訪問者(学科)	会社所在地	備考
1	大成丸訪船	H16.5.8	児玉敬一	大阪市	
2	オーシャン東九フェリー(株)	H17.1.6	多田勝	徳島市	
3	沖野海運(株)	H17.1.7	"	小松島市	
4	(社)全日本船舶職員協会	H17.1.6	児玉敬一	東京都	
5	日本郵船(株)	H17.1.6	"	東京都	
6	商船三井(株)	H17.1.7	"	東京都	
7	(株)川崎汽船	H17.1.7	"	東京都	
8	日本丸訪船	H17.1.8	"	横浜市	
9	日本丸訪船	H17.3.8	多田勝	東京都	
10	青雲丸訪船	H17.3.9	"	東京都	
11	郵船商事(株)	H17.3.8	"	東京都	
12	前川製作所(株)	H17.3.9	"	東京都	
13	ダイトーコーポレーション(株)	H17.3.9	"	東京都	
14	鶴丸海運(株)	H17.3.29	児玉敬一	北九州市	
15	(株)安川ロジスティック	H17.3.30	"	北九州市	
16	富士ソフトABC(株)広島事業所	H16.6.7	田頭 章司	広島市	○
17	中電工(株)	H16.6.7	"	広島市	○
18	内海造船(株)	H16.6.15	"	豊田郡瀬戸田町	
19	因島鉄工(株)	H16.6.15	"	因島市	○
20	三和ドック(株)	H16.6.15	"	因島市	
21	日昇無線(株)	H16.6.15	"	因島市	
22	三菱電機(株)福山製作所	H16.6.16	"	福山市	○
23	(株)ユニタック	H16.6.16	"	尾道市	○
24	内海造船(株)	H16.7.28	瀬濑 喜信	豊田郡瀬戸田町	
25	(株)ユニタック	H16.7.28	"	尾道市	○
26	三菱電機(株)福山製作所	H16.7.28	"	福山市	○
27	中電プラント(株)	H17.3.1	田頭 章司	広島市	
28	中電工(株)	H17.3.1	"	広島市	○
29	中国電力(株)	H17.3.1	"	広島市	
30	マツダ(株)	H17.3.2	"	安芸郡府中町	
31	(株)ユニタック	H17.3.2	"	尾道市	○
32	OA研究所(株)	H17.3.15	"	鎌倉市	
33	富士ソフトABC(株)	H17.3.15	"	横浜市	
34	サイバーコム(株)	H17.3.15	"	横浜市	
35	翼システム(株)	H17.3.16	"	東京都	
36	富士電機システム(株)	H17.3.16	"	東京都	
37	コニカ(株)	H17.3.17	"	東京都	
38	オリンパス(株)	H17.3.17	"	東京都	
39	富士ソフトKCS(株)	H17.3.18	"	東京都	
40	東証コンピュータシステム(株)	H17.3.18	"	東京都	
41	(株)ユニテック	H17.3.23	高尾 健一	東京都	
42	(株)テクモ	H17.3.24	"	神奈川県藤沢市	
43	JFE環境(株)	H17.3.24	"	横浜市	
44	三興コントロール(株)	H17.3.25	"	東京都	○
45	(株)新興セルビック	H17.3.25	"	東京都	

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 6

就職・進学へのプロセス

進路指導 1

1. 就職・進学活動計画

2005年11月	職種・会社研究・自己分析	第1回 SPI 模試
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・求人票の見方 ・職種の紹介 ・SE とは 	第2回 SPI 模試
2006年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・会社選びの基準 ・自由応募と学校推薦 	第3回 SPI 模試
	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの活用 ・過去の就職実績企業 	第4、5回 SPI 模試
2、3月	3者（保護者・学生・就職指導担当教官）懇談会の開催 受験企業・受験大学 最終決定	
3月末	就職試験開始	
4月	就職試験ピーク	
5月	就職試験ピーク	
6月	大学編入学試験（推薦）	
↓		
8月	就職試験終息	大学編入学試験（学力）

* 高専生の SPI の最低点は40点

* SPI 対策用参考書の購入 ￥2000程度

* 就職・進学活動ノートをつくる。

・新聞のスクラップ ・企業研究 ・先輩、相談者の話をメモする。

* 就職・進学は自分自身こと。受身の姿勢では絶対に望みは叶わない。

見合い結婚？のようなもの。自分の意識をいかに高めるかが内定の鍵。

* 自分を知る。5年間の学生生活を振り返る。（自分を売り込め）

* プログラミングが不得意 → 情報関連の仕事はできなかな？

No!!

* ことばづかい。ビジネスマナー。ため口には要注意

1. 人生設計

就職か進学かの選択

高専の特徴を知る。

進学したい。可能か？

① 経済的要素を考える。

② 大学へ行くか専攻科に行くかそれとも専門学校？

③ 自分のやりたいこと

出典 情報工学科進路指導主任

資料 7 - 2 - - 7

就職試験受験の流れ H16. 2作成

- ① 受験する会社を決定する
- ② 就職書類作成依頼（葛目教官室にある）——>学生係り
成績証明書、卒業見込み証明書
学校長推薦書
- ③ 健康診断書 ——>秦医院に依頼
（5時以降、¥1000必要です）
4/17以前に書類を提出する場合は、各自が病院で
健康診断を受けること（公欠扱いとなりますので公欠
届けを学生係に提出する。また会社との交渉により別途郵送する
場合もあるので就職指導教官の指示に従うこと）
- ④ 推薦状・教官所見（就職指導教官が作成）
- ⑤ 全ての書類を学生係に提出し会社へ送付依頼
- ⑥ 公欠届の提出（教官の印鑑が必要）——>教務係り
- ⑦ パーチャル就職調査書を書きあげる
- ⑧ 第1回模擬面接；希望者は申し出ること（葛目教官）
- ⑨ 直前模擬面接；希望者は申し出ること
- ⑩ 就職試験
交通費等が会社より支給される場合は
印鑑を持参すること
- ⑪ 就職試験報告書の作成
- ⑫ 就職指導教官に試験の状況を報告
- ⑬ 内定通知書

注意事項

- 1) 就職試験終了後すみやかに受験報告書を作成すること
すぐ忘れてしまいます。後輩のためになるべく詳しく書いてください。
- 2) 試験状況等については極力早く就職指導教官に報告すること（会社より電話がある
ことがある）
- 3) 何らかの事情により試験に遅刻しそうな場合、すみやかに就職指導教官に連絡
し指示を仰ぐこと

連絡先：0897(77)4661 学校 携帯 09011807105
08452(2)4778 自宅

出典 情報工学科進路指導主任

資料 7 - 2 - - 9



出典 情報工学科

資料 7 - 2 - - 10

研修先 因の島ガス株式会社

期間 8月1日～12日

氏名 XXXXXXXXXX

内容

- 1日目 各家庭・企業・店舗へLPガスの配送、ガス栓の開閉
- 2日目 各家庭・企業・店舗へLPガスの配送、ガス栓の開閉、LPガスの充填
- 3日目 各家庭へLPガスの配送、配管工事（弓削営業所）
- 4日目 各工場へ溶材（一般高圧ガス、溶接材料等）の配送・点検
- 5日目 各工場へ溶材（一般高圧ガス、溶接材料等）の配送・点検、タンクローリー（液体酸素）の受け入れ
- 6日目 各工場へ溶材（一般高圧ガス、溶接材料等）の配送・点検
- 7日目 液体窒素の充填、ガスについての講習
- 8日目 医療・介護用品の配送・取付
- 9日目 医療・介護用品の配送・取付、介護保険についての講習
- 10日目 医療・介護用品の配送・取付

成果

このインターンシップを終えてまず感じたことは、働くということの厳しさである。このインターンシップでは、講習も多少あったが因の島ガスの皆様がいつもこなしている仕事を一緒にこなすということで、現場を直に体験できた。そのことで、働いてお金を儲けるということの大変さを感じました。

また、職場では人間関係も大事だと感じました。一緒に仕事をこなしていく中で因の島ガスの皆様とうまくコミュニケーションが取れたので、楽しく仕事ができ、2週間もあっという間に過ぎました。

このインターンシップで数週間ではあったが社会に出る機会を得て、また多くの貴重な体験ができた。

感想

因の島ガスにインターンシップに行ってみてまず驚いたことは、ガス会社なのにガスとは全く関係のない仕事もあるということだ。例えば、溶接材料（溶接棒、ワイヤー等）の販売、医療・介護・福祉部門（介護用具のレンタル、住宅改修等）だ。

特に、医療・介護・福祉部門は興味深いものだった。今、日本では高齢化社会ということもあって、介護・福祉は注目されているもののひとつだ。また、今の日本にはなくてはならないもので、その重要な役割を因の島ガスというガス会社が担っているのである。そのような会社でインターンシップを行うことができ本当によかったと思う。この貴重な体験を私の将来に生かせるよう、これからの学生生活を有意義なものにしたい。

出典 インターンシップ報告会

資料 7 - 2 - - 11

別紙

就職講演会実施要領

日 時 平成17年2月14日(月) 13:20~15:10

会 場 アセンブリホール

講 師 坂本 達也(平成11年度商船学科卒業)
郵船商事(株) 広島支店

Alistair Legua (アリスター レグア) (平成9年度電子機械工学科卒業)
前川食肉トータルシステム(株)

川原 のぞみ (平成12年度情報工学科卒業)
富士通サポート&サービス(株)
中部本部 リューション技術統括部 ネットワークインテグレーション部 東海NI課

対象学生 4年生全員 (126名)

日 程 別紙1のとおり

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 12

弓船専学第498号
平成17年1月 日

郵船商事株式会社
常務取締役 植村 隆久 殿

弓削商船高等専門学校長
西 垣 和

講師の派遣について (依頼)

拝啓 時下益々清祥のこととお慶び申し上げます。

本校の教育及び就職活動については、平素から格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本校では、下記のとおり就職講演会を計画しております。

については、ご多忙中の折誠に恐縮ですが、貴社社員の派遣について、ご配慮下さるようよろしくお願い申し上げます。

なお、ご承諾の際は、同封の承諾書を、折り返し送付下さいますよう併せてお願いいたします。

敬具

記

- | | |
|-----------|------------------------------|
| 1. 日 時 | 平成17年2月14日 (月) 13時20分～15時10分 |
| 2. 場 所 | 弓削商船高等専門学校 アセンブリホール |
| 3. 対 象 者 | 本校4年生 |
| 4. 派遣依頼社員 | 広島支店 坂本 達也 氏 |
| 5. 謝 金 | 支給する |
| 6. 旅 費 | 支給する |

(担当)

学生課学生係

TEL 0897-77-4621

FAX 0897-77-4693

出典 学生課

資料 7 - 2 - - 13

情報工学科 5 年
進級予定学生
保護者 各位

平成 16 年 2 月 20 日
情報工学科・進路指導担当
葛 目 幸 一
TEL : 0897(77)4661

就職 3 者懇談会開催について

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
日頃は、本校教育に多大な御協力いただきありがとうございます。

今春、高等専門学校第 5 年に進級（予定）し、いよいよ最終学年を迎え、各自が就職或いは進学にと決断し、進路を決める時期となりました。
進路決定は、高専生活の最終章であり最も重要で避けては通れない行事です。
進路は、学生自身が決めることですが、決定のプロセスでは、保護者の協力が不可欠です。つきましては、下記日程で 3 者懇談会を実施する予定ですので、出席いただきたくよろしくお願いいたします。

就職に関して、来年度の求人は、本年同様大変厳しい状況が予想され、特に女子学生にとって、高専といえども「超氷河期」に変わりはありません。また就職試験が、ほとんどの企業で 4、5 月に実施される予定で、志望する会社を早く決め、企業研究、就職試験の勉強、面接など早めの対策が必要です。

1. 実施予定日

平成 15 年	3 月	14 日	(日)
	3 月	15 日	(月)
	3 月	16 日	(火)
	3 月	20 日	(土)
	3 月	21 日	(日)

2. 懇談内容

- a. 平成 15 年度就職状況の説明
- b. 個別就職相談

なお、上記日程で都合の悪い場合は、個別に相談に応じますのでご連絡下さい。
また、懇談会に先立ち、進路について学生と十分に話し合う時間を持っていただきたく重ねてお願い申し上げます。

出典 情報工学科進路指導主任

資料 7 - 2 - - 14

2 奨学金制度

日本学生支援機構の規定により、学資の支弁が困難と認められ、かつ、学業成績・人物ともに優れ健康である者に対し、本人の申請に基づき選考のうえ日本学生支援機構から貸与する制度がある。

区 分	貸与月額
自宅通学者	44,000 円
自宅外通学者	50,000 円

3 学生寮

本校には、男子寮、女子寮があり、およそ250名（内女子40名）の学生が生活しています。専攻科科の学生も「入寮願」に基づき、審査のうえ入寮が許可されることになります。

4 学生講義室

図書館2階、中ゼミ室及び旧教員研究室にて講義、演習、ゼミ等を行う。

5 就職斡旋・進学指導

- ・就職における学校推薦は、本科の就職担当教員と専攻科長の協議のもとに行われる。
- ・大学院進学のための推薦書等の必要な手続きは、専攻主任、特別研究指導教員に相談すること。

出典 専攻科学生用手引

(2) 優れた点と改善する点

(優れた点)

学生の自主的学習のための施設として、図書館の時間外利用も可能にしている。学生寮は入寮希望者が増加しており、学生の生活及び学習の場として学生、保護者から高く評価されている。さらに、進路指導体制が有効に機能し、就職率と進学率がほぼ 100% を維持している。

(改善する点)

バリアフリーという点で、エレベータが設置されていないため、専攻科棟の建設時には設置予定である。

(3) 基準 7 の自己評価の概要

学生が学習する上での指針は、入学時に全体像が示され、個々の科目については年度当初に学習内容や進め方についてガイダンスがあるとともに、いつでも相談、支援を受けることの出来る体制が整っている。また、自主的学習をおこなうためのスペースや設備も用意されている。留学生、編入学生、及び資格試験受験者への学習支援体制も整備されている。

学生の生活指導や課外活動については厚生補導委員会を中心にした適切な支援体制が整っている。

学生寮は生活の場としてだけでなく、勉学の場として機能するために全教員による宿日直指導が行われ、自主的学習を支援するための環境整備も充実している。

就職、進学希望者には適切な指導を行うことにより、毎年ほぼ 100% の就職率、進学率を保っている。

基準 8 施設・設備

観点 8 - 1 - 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

学校施設として、教室、研究室、実験室、運動場、体育館、情報処理教育センター、マルチメディア教室、図書館、実習工場などが設置されている（資料 8 - 1 - - 1）。

教室は定員を上回るクラスもあったため、72 m²に拡張された。同工事に伴い、夏季、冬季にも快適に学習できるよう全教室にエアコンが設置された。

運動施設として日本陸連公認の 400mトラックを備えた運動場のほかに、野球場やテニスコート 5 面が整備されている。また、バレーコートが二面取れる体育館が二棟設置されており、第一体育館の二階には筋力トレーニングを行うための機器が整備されている。さらに柔道と剣道のための武道場と剣道場が個別にあり、25mの屋外プールも設置されている。

勉学支援施設として、情報処理教育センター、図書館、実習工場などがある。情報処理教育センターには、サーバ室、端末室のほか、座学が行える教室と事務室が設置されている（資料 8 - 1 - - 2）。図書館では約 70000 冊の蔵書があり、自主的学習のためのスペースや資料館も併設されている。さらに時間外の開館や地域住民への開放も行われている（資料 8 - 1 - - 3）。実習工場では、NC 加工機など各種工作機械が整備され各学科の実習や研究で使用されている（資料 8 - 1 - - 4）。

本校は遠方からの入学者が多いことと団体生活を学ぶことの重要性のために学寮が設置されている（資料 8 - 1 - - 5）。1, 2 年生は全寮制をとっており、寮生活を通じて技術者としての資質を育成するために役立っている。

福利厚生施設として白雲館、青雲館が設置されている。白雲館はおもに食堂や研修、合宿のために利用されている。一方、青雲館は非常勤講師など学外者の宿泊に利用されている。

また、本校の特徴として三級海技士の第一種養成施設として非常に有用な練習船、実習船等を整備している。この練習船等を係留するために実習船係留所が設置されており、多数の舟艇を管理するために艇庫、舟艇管理室が整備されている。

特に練習船弓削丸は海技技術者育成のためだけでなく、電子機械工学科や情報工学科などの工業系学生にとっても一つの完結したシステムを学習するために、航海実習や授業、卒業研究等で利用されている。さらに、他大学等との共同研究、韓国海洋大学との交流、体験公開や地域イベントへの参加による海事技術、知識の普及など多方面で活用されている（資料 8 - 1 - - 6）。

これらの施設は授業や実験実習で利用されており（資料 8 - 1 - - 7）、情報処理教育センターなど非常に利用率が高くなっている。また、図書館、体育館、運動場、実習工場など、課外活動や放課後に自主的学習でも大いに利用されている。

(分析結果とその根拠理由)

教育課程実現のために必要な施設、設備が整っている。特に練習船「弓削丸」は海技技術者育成のためだけでなく、工業系学生の教育、実習、教員の研究や国際交流、地域交流等さまざまな分野で活用されている。その他施設も利用率が高く、有用に活用されている。

資料 8 - 1 - - 1

施設の概況 General Situation of Facilities

建物配置図

Arrangement Map of Buildings

(1) 校舎地区 College Buildings



(2) 実習船係留場地区 Moorings for Training Ship



(3) 学寮地区 Dormitories



College Information 2006

出典：平成 18 年度学校要覧

資料 8 - 1 - - 2

Computer Education Center 情報処理教育センター

情報処理教育センターは、昭和50年に開設され、情報処理教育、学術研究および事務処理等に幅広く利用されてきている。

平成7年度末の構築された校内LANシステムは、平成13年度末にレイヤ3スイッチを核とするギガビットネットワークに増強された。

また、平成17年度に、学習演習用計算機システムが更新された。OSにはWindowsXPとLinuxが用意されており、アプリケーションの利用やプログラム開発・研究に使い分けることができる。また、ネットワークブートに対応し、停電などの障害にも強いシステムとなっている。

近隣小中学校・家庭を接続した弓削島ネットワークシステムの運用実験やIT講習会、公開講座の実施、技術相談窓口の設置など、地域に開かれた施設として活動を行っている。



情報処理教育センター



IT講習会

出典：平成18年度学校要覧

資料 8 - 1 - - 3

図書館 Library



閲覧室

図書館は一般教養図書、専門図書、参考図書（辞書・事典・年鑑等）など約72,000冊を所蔵する。その他新聞8種類、文庫本、JIS規格、新書、購入雑誌90種類、寄贈雑誌約35種類等をもつ。図書館蔵書資料は著作権法で許される範囲において、有料で複写することができる。

開館時間は、平日は8時30分から19時、土曜日と日曜日は9時から16時である。館外貸出は、1人3冊、2週間の期限で利用できる。

なお、平成5年4月からは地域住民へのサービス提供の一環として図書館の開放を行っており、ほぼ本校の学生と同じ条件で閲覧および貸出の利用ができる。

蔵書冊数（平成18年4月1日現在）

Japanese & Chinese Books

和漢書	69,756
洋書	2,127
計	71,883



雑誌の種類

Kinds of Magazines

和雑誌	116種類
洋雑誌	8種類
新聞	8種類



図書館利用状況（貸出冊数）

Situation of Users of College Library

年度 Year	貸出冊数 Number of Lending				学生1人当りの貸出冊数 Number of Lending per student
	学生 Student	教職員 Faculty	学外者 Outsider	計 Total	
平成17年 2005	3,301	695	172	4,168	5.6
平成16年 2004	2,837	540	253	3,630	4.8
平成15年 2003	2,615	703	189	3,507	4.4
平成14年 2002	2,544	712	146	3,402	4.4

College Information 2006

出典：平成18年度学校要覧

資料 8 - 1 - - 4

Training Workshop 実習工場

主な設備

NCフライス盤、NC放電加工機、NCワイヤカット放電加工機、ボール盤、形削り盤、万能工作器、旋盤、木工旋盤、ラジアルボール盤、溶接機、エアープラズマ切断機、自動溶接器、メタルソー、糸鋸盤、精密卓上旋盤、フライス盤、ロボット（溶接）、YAGレーザー切断・溶接兼用機、冷凍・空調実験装置



ロボット（溶接）



NCワイヤークット放電加工機（実習風景）

出典：平成 18 年度学校要覧

資料 8 - 1 - - 5

Welfare Facilities 厚生補導施設等

学寮

Dormitory

本校における学寮は、第1学年及び第2学年は原則として全寮制、第3学年以上は許可入寮制であり、海技技術者及び工業技術者として必要な資質を身に付けさせることを目的とする教育施設である。

団体生活を通じて、友愛、協調と自主の精神を養い、責任と規律ある生活を体得させ、技術者としての適性を効果的に育成するものである。



学寮（白砂寮）



女子棟



学寮全景

College Information 2005

33

出典：平成 18 年度学校要覧

資料 8 - 1 - - 6

平成 1 8 年度 弓削丸運航予定表

旧 8. 2. 23. 現在

4月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	<p style="text-align: center;">1 2 航海実習</p> <p style="text-align: center;">S 5 M 2 存積 航海実習</p>																														
5月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	<p style="text-align: center;">S 5 S 4 E 存積 練習船実習</p> <p style="text-align: center;">S 4 N 練習船実習 定期航</p> <p style="text-align: center;">M 1 航海実習</p>																														
6月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	<p style="text-align: center;">S 2 航海実習 研修航海</p> <p style="text-align: center;">S 5 練習船実習</p> <p style="text-align: center;">S 1 練習船実習</p> <p style="text-align: center;">S 2 A 練習船実習</p>																														
7月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	<p style="text-align: center;">S 2 B 練習船実習</p> <p style="text-align: center;">体験航海 (1日船長)</p> <p style="text-align: center;">研究航海 (増兵隊・二柱・豊大)</p>																														
8月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	<p style="text-align: center;">研究航海 弓削丸 (体験航海)</p> <p style="text-align: center;">(増兵隊・豊大)</p> <p style="text-align: center;">PR航海 (体験航海)</p> <p style="text-align: center;">四国地区高専 交流事業</p> <p style="text-align: center;">練習船実習 (定期航海)</p>																														
9月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	<p style="text-align: center;">M 5 特別講義</p> <p style="text-align: center;">1 4 航海実習</p>																														
10月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	<p style="text-align: center;">S 3 S 4 N ① 練習船実習 実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 A S 4 N ② 練習船実習 実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 B 練習船実習</p>																														
11月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	<p style="text-align: center;">S 4 E 航海実習 (体験航海)</p> <p style="text-align: center;">S 4 N 練習船実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ② 実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ③ 実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ④ 実習</p>																														
12月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	<p style="text-align: center;">S 4 E ① 実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ② 実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ③ 実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ④ 実習</p> <p style="text-align: center;">M 3 航海実習</p> <p style="text-align: center;">S 4 E ③ 実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ④ 航海実習</p> <p style="text-align: center;">S 4 E ④ 実習</p>																														
1月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	<p style="text-align: center;">S 3 ① 実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ② 実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ③ 実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ④ 航海実習</p> <p style="text-align: center;">M 3 航海実習</p> <p style="text-align: center;">S 4 E ③ 航海実習</p> <p style="text-align: center;">S 4 E ④ 航海実習</p>																														
2月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	<p style="text-align: center;">S 3 ① 航海実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ② 航海実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ③ 航海実習</p> <p style="text-align: center;">S 3 ④ 航海実習</p> <p style="text-align: center;">M 3 航海実習</p> <p style="text-align: center;">S 4 E ③ 航海実習</p> <p style="text-align: center;">S 4 E ④ 航海実習</p>																														
3月	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
	<p style="text-align: center;">練習船実習 (定期航海)</p> <p style="text-align: center;">入渠</p>																														

備考 〰 固々は定期試験、●●●●● 固々は追認試験。

出典：学生課

観点 8 - 1 - 教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

情報コンセントは各実験室，研究室だけでなく教室や学生寮の居室にも用意されている。さらに校舎内のほぼ全域で無線 LAN が利用可能である(資料 8 - 1 - - 1)。

本校のセキュリティポリシーとして，セキュリティを確保するため，対外接続部分にはファイアウォールとアンチウイルス機器を設置し，外部からのウイルスの進入や不正アクセスを防いでいる(資料 8 - 1 - - 2)。また，万一，学内 LAN でウイルスが発生した場合でも，外部に漏らさないようになっている。各端末ではウイルス対策ソフトウェアを用意し，導入を義務付けている(資料 8 - 1 - - 3)。さらに，学生，教職員にセキュリティ意識を持たせるため，新入生，新たに採用された教職員にはセキュリティに関するガイダンスを行っている(資料 8 - 1 - - 4)。これらのセキュリティ対策を適切に実行し，確認するために情報セキュリティ委員会を設置し，その決定に従って，情報処理教育センター運営委員会，情報ネットワーク運営専門部会がネットワークの運用に当たっている。さらに，ネットワークが正しく運用されているかチェックするために情報セキュリティ評価専門委員会が設置されている(資料 8 - 1 - - 5)。

また，一斉授業で利用できる PC は情報処理教育センターの TSS 室と情報演習室，システム工学実験室に設置されている。これらの PC はホームディレクトリを共有しており，ソフトウェア環境も一部を除き共通のため，どの教室，PC でも同じ環境で作業が可能となっている(資料 8 - 1 - - 7)。

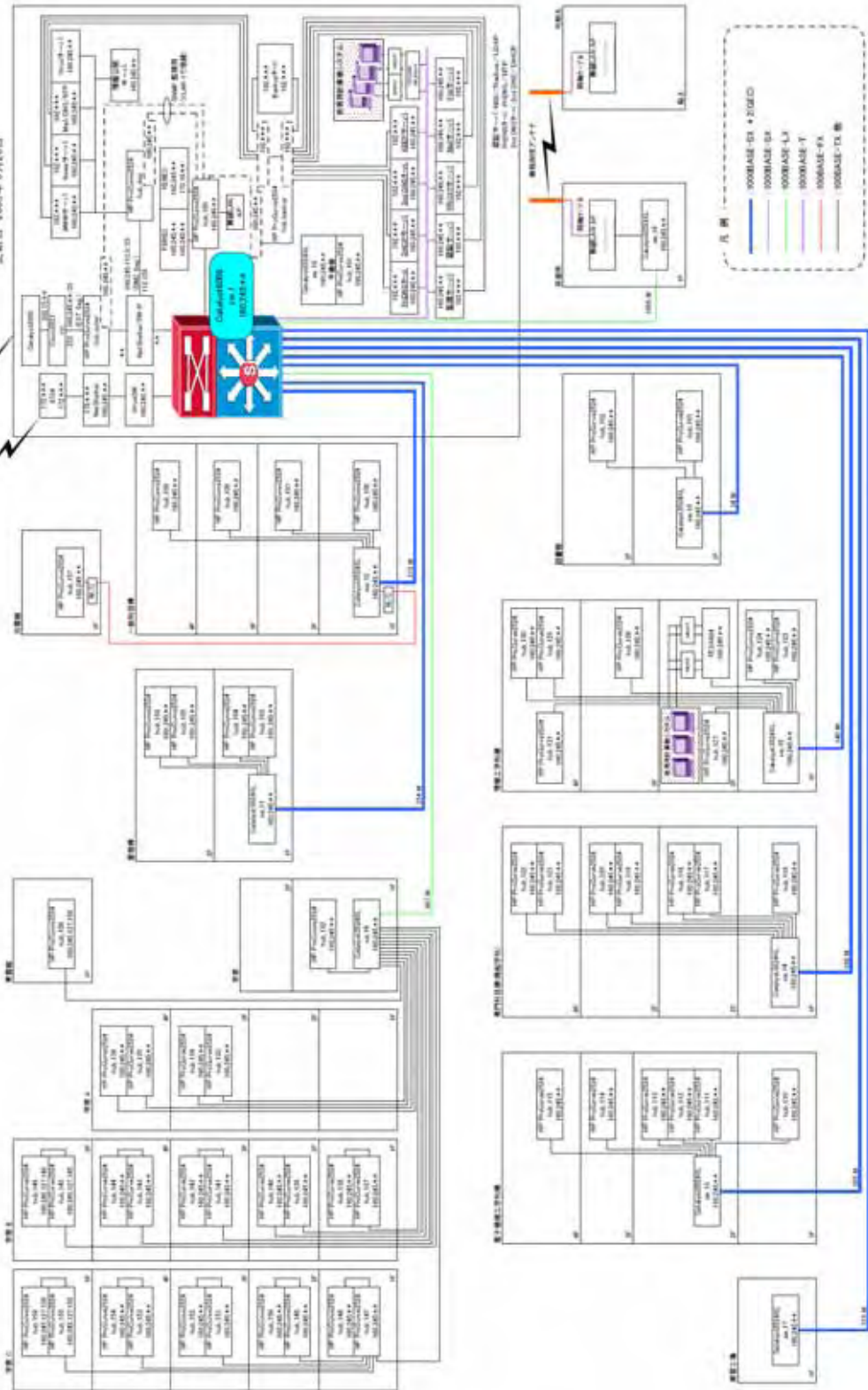
(分析結果とその根拠理由)

対外接続は島という地域条件から若干能力不足と思われるが，十分なセキュリティ管理の下，教育，研究に必要なネットワークが構築されている。特に情報セキュリティ委員会を設置し，情報処理教育センター運営委員会，情報ネットワーク運営専門部会及び情報セキュリティ評価専門委員会が設置されており，有効に活用されているといえる。

資料 8 - 1 - - 1

弓削商船高等専門学校 設
築理構成図

作成日 2002年3月5日
更新日 2002年3月11日
更新日 2002年3月13日
更新日 2002年3月18日
更新日 2002年3月29日
更新日 2004年2月3日
更新日 2005年3月21日
更新日 2005年6月20日



出典：情報処理教育センター

資料 8 - 1 - - 2

I. ポリシー

1. 情報セキュリティ基本方針

(1) 情報セキュリティの基本方針

弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）における情報資産について、「情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（平成12年7月18日情報セキュリティ対策推進会議決定）」における「政府の情報セキュリティの基本的な考え方」を踏まえ、本校における継続かつ安定的な教育・研究及び行政事務の実施を確保するとともに、高度な安全を確保し、利用者の信頼を得るためにふさわしいセキュリティ水準を達成するよう適切な情報セキュリティ対策を実施することが必要不可欠である。

このため、本校においては情報セキュリティ対策の包括的な規定として、次の事項を内容とする情報セキュリティポリシーを策定し、本校の情報資産をあらゆる脅威から守るために必要な情報セキュリティの確保に最大限取り組むこととする。

また、本校のすべての職員（常勤職員、非常勤及び臨時職員）は、この目的を果たすため、ポリシーの実施に責任を負うとともに、ポリシーを尊重し、遵守しなければならない。

①組織・体制

情報セキュリティの確保のための組織・体制は、幹部が率先して推進することが不可欠であることから、本校一体として情報セキュリティ対策を推進するための組織・体制を定めるものとする。

②情報の分類と管理

本校の情報システムにおいて取扱う情報について、重要な情報を重点管理する考え方から、重要度に応じた情報分類の定義、情報の管理責任、管理の方法について定める。

③物理的セキュリティ

情報システムの設置場所について、不正な立入り、損傷又は妨害から情報資産を保護するため、管理区域を設置する等の物理的な対策について定める。

④人的セキュリティ

情報セキュリティに関する権限や責任を定め、すべての職員にポリシーの内容を周知徹底する等、十分な教育及び啓発が講じられるように必要な対策について定める。

⑤技術的セキュリティ

本校の情報資産を外部からの不正なアクセス等から適切に保護するため、情報資産へのアクセス制御、ネットワーク管理等の必要な対策について定める。

⑥運用

ポリシーの実行性を確保するため、また、不正アクセス及び不正アクセスによって他の情報システムに対する攻撃に悪用されることを防ぐため、ポリシーの遵守状況の確認、ネットワークの監視といった運用面に関して必要な措置について定める。（また、緊急事態が発生した際の迅速な対応を可能とするため、緊急時対応計画を規定する。）

⑦評価・見直し

ポリシー及び情報セキュリティ対策の評価、情報システムの変更、新たな脅威等を踏まえ、定期的な対策基準の評価・見直しを実施することとし、このための必要な措置について定める。

(2) 定義

このポリシーの用語の定義については、「情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」（平成12年7月18日情報セキュリティ対策推進会議決定）に定める定義と同様、次のとおり定める。

①情報セキュリティ

情報資産の機密性、完全性及び可用性を維持すること。

②情報資産

情報（電磁的に記録されたものに限る）及び情報を管理する仕組み（情報システム及びシステム開発、運用及び保守のための資料等）の総称。

③情報システム

本校内において、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、記録媒体で構成されるもの

であって、これら全体で業務処理を行うもの。

④情報セキュリティポリシー（以下「ポリシー」という。）

本校が所有する情報資産の情報セキュリティ対策について、総合的・体系的かつ具体的にとりまとめたもので、どのような情報資産をどのような脅威から、どのようにして守るのかについての基本的な考え方並びに情報セキュリティを確保するための体制、組織及び運用を含めた指針であり、情報セキュリティ基本方針及び情報セキュリティ対策基準から構成される。

(3) 対象範囲

ポリシーの対象範囲は、本校の業務に使用するハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、記録媒体等の情報システム等（システム構成図等の文章を含む。）及び全ての情報のうち情報システムに電磁的に記録される情報、並びにすべての職員及び委託事業者とする。

(4) 実施手順の作成

ポリシーの具体的な実施手順を定めなければならない。

II. 対策基準

1. 組織・体制

(1) 最高情報セキュリティ責任者

①校長を本学の情報セキュリティ対策に関する事項を総括する最高情報セキュリティ責任者とする。

(2) 情報セキュリティ委員会

①情報セキュリティポリシーの承認等重要事項の決定を行い、重要事項に関する関係部署との連絡及び調整を行うため、情報セキュリティ委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(3) 情報セキュリティ評価専門委員会

①情報セキュリティ対策等の評価を行うため、情報セキュリティ評価専門委員会を置く。

(4) 情報セキュリティ担当官等

①情報処理教育センター主任を教育研究組織の情報セキュリティに関し、また事務情報化推進室長を事務部の情報セキュリティに関し総括するため情報セキュリティ担当官とする。

②各学科、総合教育科、図書館、練習船、学生寮、情報処理教育センター及び各課（以下「各学科等」という。）内に当該各学科等の情報セキュリティに関する業務に従事する情報セキュリティ担当者を置く。

(5) システム管理官

①情報処理教育センター長を本校全体に係る情報システムの設定の変更、運用、更新等を行う管理者権限を有するシステム管理官とする。

2. 情報の分類と管理

(1) 情報の管理責任

①管理責任

情報は、当該情報を作成等した各学科等が管理責任を有する。ただし、各学科等において、特別の定めがある場合はこの限りではない。

②利用者の責任

情報を利用する者は、情報の分類に従い利用する責任を有する。

③重要性の効力

情報が複製又は伝送された場合には、当該複製等も原本と同様の分類に基づき管理しなければならない。

(2) 情報の分類と管理方法

①情報の分類

このポリシーの対象となる本校内すべての情報は、各々の情報の機密性、完全性を踏まえ、次の重要性分類に従って分類する。

資料 8 - 1 - - 3

情報処理教育センター - 操作マニュアル-ウイルス対策 McAfee VirusScanEnterprise7.1

1/2 ページ



弓削商船高等専門学校

情報処理教育センター

検索

:: メインメニュー

ホーム
 ニュース
 操作マニュアル
 記事の投稿
 人気の記事
 高評価の記事
 ダウンロード
 リンク集
 お問い合わせ

:: 弓削商船公式HP



ネットワーク設定: ウィルス対策 McAfee VirusScanEnterprise7.1

執筆者: webmaster
 発行日付: 2005/2/19
 閲覧数: 1052
 サイズは 6.14 KB



ウイルス対策ソフトウェア McAfee VirusScanEnterprise 7.1 の導入

弓削商船高等専門学校情報処理教育センター
2004.

□ 本校のウィルス対策の現状

- ウィルス対策用ゲートウェイサーバ (対ネットワーク用対策)
 本校では、校内ネットワークと外部組織のネットワークの接続点にファイアーウォール装置を設置し、不正なアクセス排除するようにしています。また、電子メールなどの流通されるファイルにコンピュータウィルスが混在していないかチェックしており、組織内へのウィルス混入をできるだけ阻止するような体制をとっています。但し、このような対策も、フロッピーディスクやノートPCの持込にはまったく無力であり、個々の端末は各自で管理することが必要です。
- 端末用ウィルス対策ソフトウェア
 本校では、情報処理教育センターがWindows用(※)のウィルス対策ソフトウェアを一括導入し、学内で使用する全末(学寮の個人PC含む)に提供しています。ウィルス対策は、本校のセキュリティポリシーにもその導入が義務付けられています。

※センターで提供するものはWindows版だけ

一般に利用されているOSには、MacOSやLinuxなどがありますが、ウィルスが対象としているのが主としてWindowsることと費用面から、センターではWindows版のみの提供となっています。その他のOSを利用されている方は、個対応をお願いします。

□ McAfee VirusScanEnterprise 7.1 の特徴

従来、本校では別のウィルス対策ソフトウェアを提供しておりましたが、サポート期間の終了に伴い、2004年度からMcAfee社(日本代理店 ネットワークアソシエイツ社)のウィルス対策ソフトウェア VirusScanEnterprise7.1(以下VSE7.1)に更新を行っています。

VSE7.1は次のような特徴をもち、本校のセキュリティ対策に十分な機能を有しています

- オンアクセススキャン
 コンピュータがファイルにアクセスする際に、自動的にウィルスチェックが行われます。
- オンデマンドスキャン
 必要に応じて、システム全体のウィルスチェックが実行できます。
- タスクスケジュール機能
 毎週金曜12:00など、スケジュールによりオンデマンドスキャンを実行することができます。
- 監視サーバによる集中管理
 スキャン処理の状況、ウィルス発生の様子など、各端末の状態を監視サーバで収集し、一括管理が可能です。必要に応じて、ウィルス駆除などの処理をサーバから実行することも可能です。また、各端末のウィルス監視に関する設定をサーバ側で調整することができ、システム全体の効率化が図れます。
- ゲートウェイサーバとの連携
 本校に導入されているゲートウェイサーバとの連携が可能であり、効率的なセキュリティ対策が図れます。

□ VSE7.1のインストール

このような機能を持つソフトウェアも、本校の全端末に導入されなければ、効果がありません。自分のPCを守るだけでなく、学校全体のネットワークを守るため、早急なインストールをお願いします。

- EPO Agentのインストール
 EPO Agentは端末の状態を監視し、定期的に監視サーバと通信を行い、ウィルス対策ソフトウェアの設定を行います。
- EPO Agentのダウンロード

出典: 本校ホームページ

資料 8 - 1 - - 4

平成 18 年 4 月 1 日

各新任教職員 殿

情報処理教育センター長
長 尾 和 彦

ネットワーク利用に関する説明会の開催について（通知）

標記の説明会を下記のとおり開催しますので、御出席くださるようお願いします。

記

- 1 日 時 平成 18 年 4 月 4 日（火）
9 : 00 ~ 10 : 00
- 2 場 所 情報処理教育センター 電算機室
電 話 4725
- 3 議 題 (1) ネットワーク利用及びセキュリティポリシーに関する事項
(2) その他

〔備考〕

本信連絡先：庶務課専門職員（情報システム担当）
電 話 4617

出典：ネットワーク利用に関する説明会開催通知

ネットワーク利用に関する説明会対象者

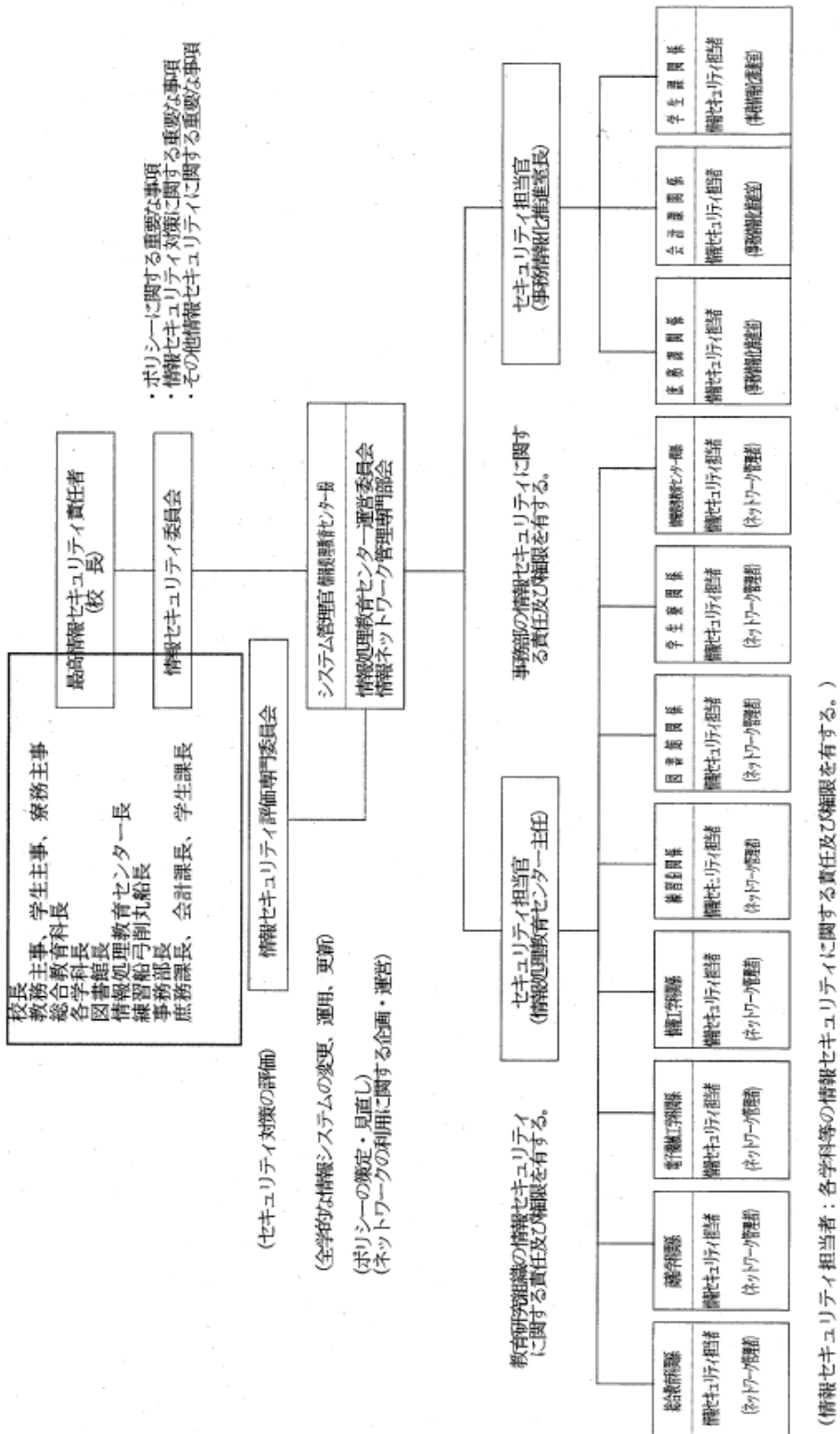
漢字氏名	カナ氏名	所属・役職	
土井 正好	トイ マサヨシ	商船学科	助手
伊藤 芳浩	イトウ ヨシヒロ	情報工学科	助教授
峯脇 さやか	ミネワキ サヤカ	情報工学科	助手
堀口 正之	ホリグチ マサユキ	総合教育科	講師
水崎 一良	ミヅサキ カズヨシ	総合教育科	講師
伊藤 武志	イトウ タケシ	総合教育科	講師
阿部 奈央子	アベ ナホ	庶務課 庶務係	事務補佐員
根間 奈々	ネノ ナナ	庶務課 図書係	事務補佐員
久米 綾子	クミ アヤコ	会計課 総務係	一般職員
長曾我部 昭寿	チソゲイベ アキラ	会計課 用度係	一般職員
中本 忠輔	ナカモト タツシ	会計課 施設係	施設係長
菅野 敏也	スガノ トシヤ	学生課	学生課長
松下 昌史	マツタ マサフミ	学生課 教務係	入試主任
渡邊 弘昇	ワタナベ ヒロノリ	学生課 学生係	一般職員
青木 康真	アキモ ヤスマキ	学生課 実験実習第一係	練習船甲板員
原田 香代子	ハラダ コロコ		後援会経費
谷崎 千恵美	タニザキ チエミ		学寮生活費
菊川 禪	キクカワ シズキ	庶務課 庶務係	一般職員
刈谷 彰司	カヤ ショウジ	庶務課 人事係	一般職員
浅野 佳文	アサノ ヨシフミ	会計課 出納係	一般職員
井口 努	イノチ ノブ	会計課 用度係	一般職員
大野 和也	オノ ワカヤ	学生課 教務係	一般職員
小笠原 尚史	オガサハラ ナガフミ	学生課 学生係	一般職員
井本 琢哉	イモト タクヤ	学生課 実験実習第一係	技術職員
原田 崇広	ハラダ タカヒロ	学生課 実験実習第二係	技術職員

出典：庶務課

8 - 1 - - 5

平成14年12月12日
情報セキュリティ委員会
資料 2

情報セキュリティ対策組織体制図



出典：情報セキュリティ委員会資料

観点 8 - 2 - : 図書, 学術雑誌, 視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され, 有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館には, 閲覧室, 書庫, 視聴覚コーナーがあり, 約 70000 冊の図書のほか, 学術雑誌, 視聴覚資料等を備えている(資料 8 - 2 - - 1)。特徴として, 図書検索用パソコンを設置していることや上島町図書館とネットワークで接続されて, 地域住民へのサービスも行っていることである。特に, しまなみ海道地域で最も多くの海事関係資料を有している。

平成 17 年度の教職員・学生利用状況は, 年間貸出冊数 3170 冊(うち学生 2433 冊), 一日平均入館者数は 70 人である。利用者数は, 年間を通してあまり大きな変動は認められないが, 学校生活に慣れる 6 月が多くなっている。(資料 8 - 2 - - 2)。

図書館の利用を促進するために, 図書の受入には教員による図書の選定及び学生のための購入希望図書申込用紙の館内設置(資料 8 - 2 - - 3)を行っている。さらに, 地域住民への開放, 学生への夜間・休日開放, 資料館の併設, 読書コンクール(資料 8 - 2 - - 4)等を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

本校の図書館は, 閲覧室, 書庫, 視聴覚コーナー, 蔵書数等, 教育研究上必要な資料が系統的に整備されている。特に, 豊富な海事関係資料, 地域とのネットワーク接続などは本校図書館の特徴といえる。図書館の利用を促進するために, 図書の受入には教員による図書の選定及び学生による図書の選定, 地域住民への開放, 学生への夜間・休日開放, 資料館の併設, 図書コンクールなどを行っている。また, 学生のための図書検索用パソコンを設置している。

資料 8 - 2 - - 1



出典: 平成 18 年度学校要覧

資料 8 - 2 - - 2

平成18年3月31日現在

図書館統計表

1. 図書館蔵書数

(1) 図書の冊数

図書	単位:冊											
	総計	記哲	学歴	史学	社会科学	自然科学	工学	学産	農業	術語	学文	学会
冊数	6,138	1,836	5,301	5,666	9,310	20,751	1,140	4,422	3,945	13,374	71,883	
%	8.5%	2.6%	7.4%	7.9%	13.0%	28.9%	1.5%	6.2%	5.4%	18.6%	100.0%	

※ 網掛け 内は洋書の内数を示す

(2) 雑誌の種類数

設置場所	単位:冊										
	000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	計
研究室	7	0	0	4	4	18	2	9	0	0	44
図書館	5	0	0	2	1	16	1	10	0	0	35
計	12	0	0	6	5	34	3	19	0	0	79
合計	12	1	0	7	5	40	3	19	0	0	87

2. 最近3ヶ年の図書増加状況

年度別	単位:冊											合計
	000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	学文	
平成15年度	129	23	54	204	97	159	26	76	24	197	989	
平成16年度	229	14	43	63	42	250	26	22	18	117	824	
平成17年度	206	18	57	127	154	276	15	233	222	275	1,583	
%	13	1.2	3.6	8	9.7	17.4	1	14.7	1.4	17.4	100.0	

比冊：図書館

3. 図書館利用状況
(1) 入館者数

月別 事項	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
学 生 (人)	1,171 (162)	1,317 (271)	2,114 (359)	1,140 (183)	435 (24)	1,559 (246)	1,511 (288)	1,610 (340)	1,781 (232)	1,000 (129)	1,554 (260)	1,127 (78)	16,319 (2,572)
教職員 (人)	122 (10)	122 (6)	134 (13)	138 (6)	121 (0)	150 (4)	147 (12)	151 (16)	130 (6)	148 (11)	165 (15)	139 (3)	1,667 (102)
学外者 (人)	15 (11)	11 (12)	7 (8)	17 (5)	111 (0)	7 (6)	7 (15)	7 (44)	4 (7)	7 (3)	8 (11)	23 (0)	224 (122)
計 (人)	1,308 (183)	1,450 (289)	2,255 (380)	1,295 (194)	667 (24)	1,716 (256)	1,665 (315)	1,768 (400)	1,915 (245)	1,155 (143)	1,727 (286)	1,289 (81)	18,210 (2,796)
開館日数 (人)	20 (21)	19 (23)	22 (30)	20 (14)	23 (3)	20 (26)	20 (29)	20 (28)	19 (20)	19 (20)	20 (26)	22 (9)	244 (249)
1日平均 (人)	65.4 (8.7)	76.3 (12.6)	102.5 (12.7)	64.8 (13.9)	29.0 (8.0)	85.8 (9.8)	83.3 (10.9)	88.4 (14.3)	100.8 (12.3)	60.8 (7.2)	86.4 (11.0)	58.6 (9.0)	75.2 (10.9)

(2) 館外個人貸出者数

月別 事項	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
学 生 (人)	127 (16)	190 (29)	202 (24)	144 (20)	54 (0)	131 (24)	215 (34)	220 (32)	131 (12)	140 (28)	180 (25)	68 (5)	1,802 (249)
教職員 (人)	32 (0)	22 (0)	14 (1)	28 (1)	13 (0)	25 (1)	21 (1)	15 (0)	10 (0)	12 (0)	23 (0)	15 (1)	230 (5)
学外者 (人)	6 (2)	4 (1)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	2 (1)	1 (3)	5 (0)	2 (0)	4 (0)	5 (1)	3 (0)	42 (8)
合計 (人)	165 (18)	216 (30)	219 (25)	176 (21)	70 (0)	158 (26)	237 (38)	240 (32)	143 (12)	156 (28)	208 (26)	86 (6)	2,074 (262)

(3) 館外個人貸出冊数

月別 事項	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
学 生 (人)	212 (30)	295 (52)	340 (40)	223 (39)	96 (0)	220 (46)	356 (48)	327 (49)	189 (24)	212 (52)	270 (42)	126 (13)	2,866 (435)
教職員 (人)	97 (0)	61 (0)	36 (1)	71 (5)	35 (0)	69 (1)	41 (5)	46 (0)	23 (0)	48 (0)	82 (0)	72 (2)	681 (14)
学外者 (人)	17 (8)	6 (2)	11 (0)	8 (0)	11 (0)	4 (4)	4 (9)	18 (0)	9 (0)	17 (0)	25 (4)	15 (0)	145 (27)
合計 (人)	326 (38)	362 (54)	387 (41)	302 (44)	142 (0)	293 (51)	401 (62)	391 (49)	221 (24)	277 (52)	377 (46)	213 (15)	3,692 (476)

* () 内は時間外利用

出典：図書館

(4) 図書貸出状況 (分類別)

分類 月別	0 0 0		1 0 0		2 0 0		3 0 0		4 0 0		5 0 0		6 0 0		7 0 0		8 0 0		9 0 0		その他	合計	貸日 出数	1日平均 貸出冊数
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	学術	産業	芸術	語学	文学	学	学	学	学	学	学	学	学	学				
17年4月	21 (4)	0 (0)	7 (1)	35 (7)	21 (1)	114 (11)	6 (0)	9 (0)	12 (0)	101 (14)	0 (0)	326 (38)	20 (21)	16.3 (1.8)										
5	8 (0)	1 (0)	4 (0)	15 (8)	13 (10)	207 (29)	4 (0)	7 (0)	10 (0)	93 (7)	0 (0)	362 (54)	19 (23)	19.1 (2.3)										
6	22 (1)	2 (0)	5 (1)	10 (3)	28 (7)	173 (15)	1 (0)	8 (0)	13 (1)	125 (13)	0 (0)	387 (41)	22 (30)	17.6 (1.4)										
7	21 (2)	1 (0)	7 (0)	14 (1)	24 (8)	111 (23)	0 (0)	4 (0)	7 (0)	113 (10)	0 (0)	302 (44)	20 (14)	15.1 (3.1)										
8	3 (0)	1 (0)	3 (0)	8 (0)	12 (0)	50 (0)	1 (0)	1 (0)	4 (0)	59 (0)	0 (0)	142 (0)	23 (3)	6.2 (0)										
9	18 (1)	7 (1)	3 (0)	19 (0)	12 (8)	109 (13)	1 (0)	4 (5)	5 (0)	115 (23)	0 (0)	293 (51)	20 (26)	14.7 (2.0)										
10	4 (0)	1 (0)	3 (0)	8 (0)	16 (2)	151 (36)	2 (0)	2 (1)	25 (0)	189 (23)	0 (0)	401 (62)	20 (29)	20.0 (2.1)										
11	6 (1)	3 (1)	4 (0)	9 (0)	12 (4)	166 (34)	5 (0)	7 (0)	10 (0)	169 (9)	0 (0)	391 (49)	20 (28)	19.6 (1.8)										
12	1 (1)	0 (0)	4 (1)	7 (1)	8 (1)	84 (13)	2 (1)	0 (0)	27 (0)	88 (6)	0 (0)	221 (24)	19 (20)	11.6 (1.2)										
18年1月	22 (3)	4 (0)	4 (0)	17 (2)	11 (0)	74 (15)	3 (0)	2 (0)	11 (4)	129 (28)	0 (0)	277 (52)	19 (20)	14.6 (2.6)										
2	15 (0)	3 (0)	7 (0)	17 (1)	19 (0)	163 (27)	6 (1)	4 (0)	17 (3)	125 (14)	1 (0)	377 (46)	20 (26)	18.9 (1.8)										
3	16 (1)	0 (0)	5 (0)	27 (9)	20 (6)	52 (10)	7 (0)	4 (0)	20 (0)	49 (2)	0 (0)	213 (15)	22 (9)	9.7 (1.7)										
合計	157 (14)	23 (2)	56 (3)	186 (32)	196 (47)	1,454 (226)	38 (2)	52 (6)	161 (8)	1,355 (149)	1 (0)	3,692 (476)	244 (249)	15.1 (1.9)										
百分率 (%)	4.3 (2.9)	0.6 (0.4)	1.5 (0.6)	5.1 (6.6)	5.3 (9.6)	39.5 (46.2)	1.1 (0.4)	1.4 (1.2)	4.4 (1.6)	36.8 (30.5)	0.0 (0.0)	100 (100)												

* () 内は時間外利用

出典：図書館

8 - 2 - - 3

図 書 原 簿 (甲)		受入年月日	18年3月20日		受入種別	購 入	受 入 先	小野 明敏	
著 編 者 名	書 名	発 行 所	冊数	受入価格	登録番号	請 求 番 号	備 考		
北方 謙三	水滸伝 2	集英社	1	1,596	51998			図書	
北方 謙三	水滸伝 3	集英社	1	1,596	51999			図書	
北方 謙三	水滸伝 4	集英社	1	1,596	52000			図書	
北方 謙三	水滸伝 5	集英社	1	1,596	52001			図書	
北方 謙三	水滸伝 6	集英社	1	1,596	52002			図書	
北方 謙三	水滸伝 7	集英社	1	1,596	52003			図書	
北方 謙三	水滸伝 8	集英社	1	1,596	52004			図書	
北方 謙三	水滸伝 9	集英社	1	1,596	52005			図書	
北方 謙三	水滸伝 10	集英社	1	1,596	52006			図書	
北方 謙三	水滸伝 11	集英社	1	1,596	52007			図書	
北方 謙三	水滸伝 12	集英社	1	1,596	52008			図書	
北方 謙三	水滸伝 13	集英社	1	1,596	52009			図書	
北方 謙三	水滸伝 14	集英社	1	1,596	52010			図書	
北方 謙三	水滸伝 15	集英社	1	1,596	52011			図書	
北方 謙三	水滸伝 16	集英社	1	1,596	52012			図書	
北方 謙三	水滸伝 17	集英社	1	1,596	52013			図書	
北方 謙三	水滸伝 18	集英社	1	1,596	52014			図書	
北方 謙三	水滸伝 19	集英社	1	1,596	52015			図書	
白木 正規	百万人の天気教室	成山堂	1	2,793	52016			図書	
翻訳・編註	エルニーニョと地球環境	成山堂	1	3,791	52017			図書	
近藤 洋輝	地球温暖化予測がわかる本	成山堂	1	2,594	52018			図書	
井上たかひこ	水中考古学への招待	成山堂	1	1,995	52019			図書	

弓 削 商 船 高 等 専 門 学 校 図 書 館

出典：図書原簿

購 入 希 望 図 書

学科学年		氏名	
書名		著者	
出版社		金額	

出典：図書購入希望
申込用紙

8 - 2 - - 4

読書感想文入賞作リスト

入賞作

S	1	[Redacted]	「甲子園への遺言」を読んで 「ボーイズビー」を読んで 「プロジェクトXリーダーたちの言葉」を読んで
M	1		「吾輩は猫である」を読んで 「モモ」を読んで 「海底二万マイル」を読んで 「老人と海」を読んで 「博士の愛した数式」を読んで
I	1		「大東亜戦争報國隊引率教師の日記」を読んで 「バッテリー」を読んで 「天竺漫遊記」を読んで 「坊ちゃん」を読んで
S	2		「バカの壁」を読んで 「いま、会いにいきます」を読んで 「走れメロス」が語るもの 「蹴りたい背中」を読んで
M	2		「木のいのち 木のこころ」を読んで 「存在の耐えられない軽さ」を読んで 「毎日が贈りもの」を読んで
I	2		「世界がもし100人の村だったら」を読んで 「こころ」を読んで 「キノの旅」を読んで 「ビタミンF」を読んで 「ちいさなちいさな王様」を読んで

貸出冊数上位者リスト (後期分)

1.	情報工学科	3年	[Redacted]	84冊
2.	"	4年	[Redacted]	48冊
3.	"	3年	[Redacted]	46冊
4.	"	3年	[Redacted]	45冊
5.	"	4年	[Redacted]	42冊
6.	電子機械工	" 2年	[Redacted]	38冊
7.	商船	" 4年	[Redacted]	33冊
8.	"	2年	[Redacted]	29冊
9.	"	3年	[Redacted]	24冊
10.	"	3年	[Redacted]	20冊

出典：図書館

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

練習船「弓削丸」は海技技術者育成のためだけでなく、工業系学生の教育、教員の研究、国際交流、地域交流等さまざまな分野で活用されている。また、図書館は、図書検索用パソコンを設置していることや上島町図書館とネットワークで接続されて、地域住民へのサービスも行っている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準 8 の自己評価の概要

学校施設として、教室、研究室、実験室、運動場、体育館、情報処理教育センター、マルチメディア教室、図書館、実習工場、練習船、学寮、福利厚生施設などが設置されている。

教室は、快適に学習できるようにエアコンが設置されている。運動施設としては、日本陸連公認運動場のほかに、野球場、テニスコート、体育館、武道場、剣道場、屋外プールが整備され、学生の教育や課外活動等に活用されている。図書館は、閲覧室、書庫、視聴覚コーナーがあり、約 70000 冊の図書のほか、学術雑誌、視聴覚資料等を備えている。特徴として、図書検索用パソコンを設置していることや上島町図書館とネットワークで接続されて、地域住民へのサービスも行っていることである。なお、しまなみ海道地域で最も多くの海事関係資料を有している。練習船弓削丸は、海技技術者育成のためだけでなく、電子機械工学科や情報工学科などの工業系学生にとっても一つの完結したシステムを学習するために活用されている。情報ネットワークは、十分なセキュリティ管理の下、教育・研究に必要なシステムが構築されている。組織的には、情報セキュリティ委員会を設置し、有効に活用されている。福利厚生施設として「白雲館」、「青雲館」が設置されている。校舎地区に設置されている白雲館は、学生の食堂、研修・合宿施設等のために大いに利用されている。

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9 - 1 - : 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

平成 16 年度までは、教育活動の大部分は教務委員会で審議・実施してきたため、教育活動の実態を示す議事録等のデータは所掌部署である学生課で保管している。また、学籍簿等の重要な書類は学生課にて保管・蓄積している。教育改善に関するアンケート、例えば学生による授業評価等は実施担当者(主に教務主事)が収集保管している。試験問題・解答は、科目担当者が保管するように周知している(資料 9 - 1 - - 1)。卒業研究論文等の学科が主体で行われる教育活動を示すデータは当該学科で保管している(資料 9 - 1 - - 2)。平成 16 年度以降の中期計画に基づいて実施された教育活動は、中期計画関係のための保管場所を設置し(第 3 会議室)、データまたは写しを収集・蓄積している。

教育活動の評価は、自己点検・評価委員会(自己点検・評価報告書)と教務委員会に加えて、教育内容検討委員会を平成 17 年度に設置し、教育に関する各種アンケートや教育課程を検討・評価する体制を取り始めている。

(分析結果とその根拠理由)

教育活動の実態を示すデータの収集・貯蓄する体制は整備されており、評価を実施する体制は平成 17 年度より、教育内容検討委員会を設置するなどして整備されつつある。

以上のことから、教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているといえる。

資料 9 - 1 - - 1

H18. 3. 15
運営委員会
議題 資料 2-5

「弓削商船高等専門学校文書管理規則」の一部を改正する規則の新旧対照表（案）

現 行 (旧)	改 正 (新)
弓削商船高等専門学校文書管理規則	(同左)
(趣旨)	(略)
第1条 この規則は、「行政機関の保有する情報の公開に関する法律」(平成11年法律第42号。以下「法」という。)第37条、「行政機関の保有する情報の公開に関する法律施行令」(平成12年政令第41号。以下「施行令」という。)第16条及び「行政文書の管理方策に関するガイドラインについて」(平成12年各省庁事務連絡会議申合せ)に基づき、弓削商船高等専門学校(以下「本校」という。)における行政文書の適正な管理について、必要な事項を定めるものとする。	第1条 この規則は、「独立行政法人の保有する情報の公開に関する法律」(平成13年法律第140号。以下「法」という。)第23条に基づき、弓削商船高等専門学校(以下「本校」という。)における法人文書の適正な管理について、必要な事項を定めるものとする。
(定義)	(略)
第2条 この規則において「行政文書」とは、法第2条第2項に規定するものをいう。	第2条 この規則において「法人文書」とは、法第2条第2項に規定するものをいう。
2 この規則において「行政文書ファイル」とは、施行令第13条第2項第1号に規定するものをいう。	2 この規則において「文書等ファイル」とは、「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律施行令」第3条に規定するものをいう。
3 この規則において「学科等」とは、各主事、各学科、総合教育科、図書館、練習船弓削丸及び情報処理教育センターをいう。	3 この規則において「学科等」とは、各主事、各学科、総合教育科、 <u>専攻科</u> 、図書館、練習船弓削丸、 <u>情報処理教育センター</u> 及び <u>地域共同研究推進センター</u> をいう。
(作成)	(略)
第3条 本校の意思決定に当たっては、原則として文書(図画及び電磁的記録を含む。以下同じ。)を作成して行うものとする。ただし、意思決定と同時に文書を作成することが困難である場合は、事後に文書を作成するものとし、処理に係る事案が軽微な場合は、文書を作成しないことができる。	第3条 同左
2 本校における事務及び事業の実績については、原則として文書を作成するものとする。ただし、処理に係る事案が軽微な場合は、文書を作成しないことができる。	(略)
(管理体制)	(略)
第4条 本校に総括文書管理者を置き、事務部長をもって充てる。	第4条 略
2 本校の課及び学科等に、文書管理者及び文書管理担当者を置く。	略
3 文書管理者は、課にあつては課長を、学科等にあつては当該学科等の長をもって充てる。	略
4 文書管理担当者は、文書管理者が指名する者をもって充てる。	略

出典：文書管理規則新旧対照表

資料 9 - 1 - - 2

平成 17 年度
卒業研究論文発表会
～ プログラムおよび予稿集 ～

発表日時 平成 17 年 9 月 12 日 (月) 8:55～16:00
発表会場 アセンブリホール
弓削商船高等専門学校 造船学科

平成 17 年度
電子機械工学科
卒業研究発表会
— プログラム —

発表日 : 平成 18 年 3 月 2 日 (Thu.)
発表時間 : 8:50 ~ 16:50
発表会場 : アセンブリホール

弓削商船高等専門学校
電子機械工学科

平成 17 年度

卒業研究発表会
プログラムおよび概要

平成 18 年 3 月 1 日 (水) 8 時 40 分～
アセンブリホールにて

弓削商船高等専門学校
情報工学科

平成 17 年度
専攻科特別研究中間発表概要集

Abstract of Thesis Research of
the Advanced Engineering Course

平成 18 年 3 月

弓削商船高等専門学校専攻科
海上輸送システム工学専攻
生産システム工学専攻

出典：各学科，専攻科

観点 9 - 1 - : 学生の意見の聴取(例えば,授業評価,満足度評価,学習環境評価等が考えられる。)が行われており,教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

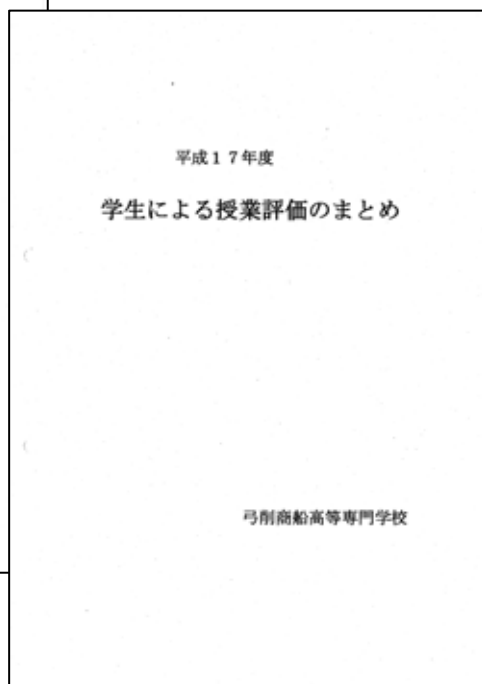
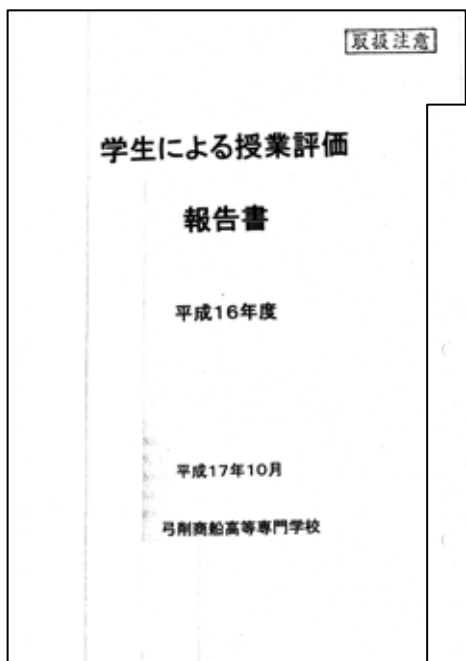
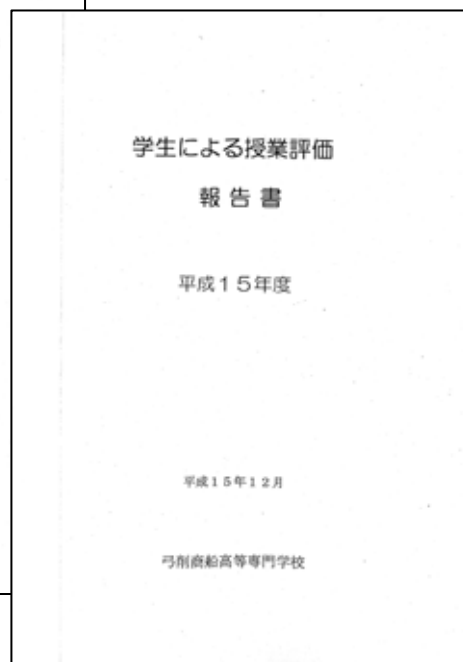
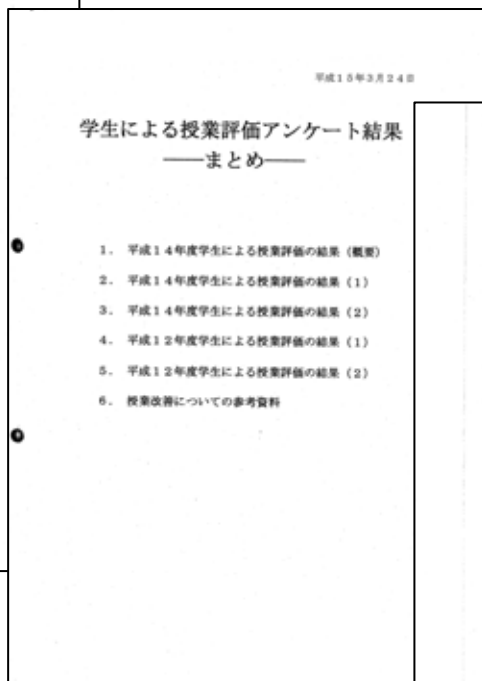
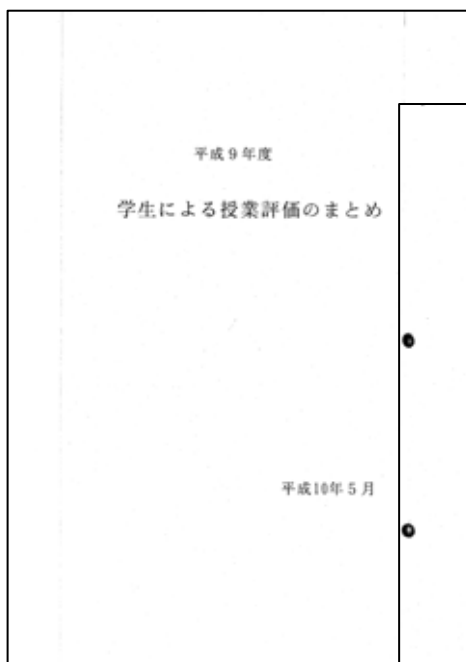
平成 9 年度より,教務委員会を中心に,学生による授業評価を実施してきた(資料 9 - 1 - - 1)。平成 16 年度からは,中期計画で毎年実施することを明確に示し,授業の改善に役立てるために具体的な方針を教育内容検討委員会で審議している(資料 9 - 1 - - 2)。その概要は,教員に評価と改善点を提出してもらい,学校全体としての教員の改善目標及び学生の改善目標を示した(資料 9 - 1 - - 3)。平成 17 年度の授業評価には,これらの目標について達成できたかどうか検証した。また,学生指導の観点に立って,マナーに関するアンケートを実施し(資料 9 - 1 - - 4),教員と学生のマナーに関する捉え方の違いを調査した。今後の学生指導に役立てていきたい。さらに,教員個々のアンケートも実施して,当該授業に即した学生の意見の聴取を行い,教育改善を行っている(資料 9 - 1 - - 5)。

(分析結果とその根拠理由)

授業評価等を通して,学生の意見の聴取が行われており,「学生による授業評価」を報告書として教員及び学生に公表している。

以上のことから,学生の意見の聴取が行われており,教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているといえる。

資料9 - 1 - - 1



資料 9 - 1 - - 2

平成 17 年度第 1 回教育内容検討委員会議事概要

日 時 平成 17 年 9 月 29 日 (木) 15:40～16:43

場 所 第 2 会議室

出席者 別紙のとおり

議 題

(審議事項)

- (1) 平成 16 年度「学生による授業評価アンケート」の取扱いについて
- ・ 委員長から、平成 16 年度学生による授業評価の今後の取扱いについては、教育内容検討委員会で検討するよう校長から指示があった旨、発言があった。
 - ・ 委員長から、平成 16 年度学生の授業評価(案)について、昨年度は科目を中心に、本年度は教員を主体に行った旨、報告があった。引き続き、原案精査について審議願いたい旨、発言があり、審議の結果、各委員が持ち帰り、意見等を 10 月 5 日(水)までに委員長に報告することとなった。なお、授業評価(案)の取扱いは十分注意願いたい旨、依頼があった。
 - ・ 委員長から、他高専の公表方法が次のとおり述べられた。
 - ・ 都城高専：各高専に配布
 - ・ 高松高専：学内だけであるが全てオープン
 - ・ 本校：昨年は教員に名前をふせたものを配布
 - ・ 成績の悪い教員には授業プランの提出を求めている。
 - 以上の発言により、審議に入り次のとおり意見がなされた。
 - ・ 学生には、全体を集約(個人名をふせたもの)したものを配布する。
 - ・ 原案(まとめを付けたもの)を教員に配布する。(名前があるもの)
 - ・ 委員長から、教育に還元されたかどうかの検証をどのようにするか、審議願いたい旨、発言があり、審議入り次のとおり意見がなされた。
 - ・ 次回のアンケート調査を実施するとすれば問題点を洗い出す必要があるのではないか。
 - ・ 前回と今回の結果を対比する必要があるのではないか。
 - ・ 改善点の多い事項について検証する必要があるのではないか。(全体像、分析結果を踏まえて学生に問う)
 - ・ アンケート(各委員から出てきた事項に基づき)改善事項(意見が多い)の目標を定める。
 - ・ 委員長から、重点項目(実施項目)を教員会議で報告する旨、発言があった。

出典：学生課

『より良い授業をめざして』

教員の改善点

1. 講義の到達目標を配慮しながら、講義が速くならないように工夫する。
2. 説明がよりわかりやすくなるように工夫する。
3. 板書が見やすくなるように工夫する。

学生の改善点

1. 積極的に授業へ参加する。
(わからないことの質問など)
2. 授業はきちんとした姿勢で受ける。
(いねむり、無駄話をしないなど)
3. 授業に対する準備を忘れない。
(予習と復習、携行品のチェックなど)

資料 9 - 1 - - 4

マナーとコミュニケーションに関する報告
(平成17年度)

学級担任委員会

出典：学級担任委員会

礼儀作法の基本的な行動の指導に関する検討
(平成16年度)

厚生補導委員会

出典：厚生補導委員会

アンケート
 番号 () 氏名 ()

前期末試験の後、各個人の学力の向上を目指して、プリント学習を続けてきました。前期末試験の結果、このクラスは学力の差がとても大きいことがはつきりしました。微分法の基礎的な計算を理解しないままでは、次の積分法は当然理解できません。これまでのプリント学習の目的は、

A. 基礎学力に不安がある人でも、例題を見ながらの計算練習を通して、計算力をアップさせること
 B. 基礎学力に不安がある人でも、時間を計った正答率を見ることで、集点と確実な計算力をアップさせること (以前話したように、他人との競争ではありません。自分との勝負です。)
 C. 新しい単元については、2年生までの基礎知識を穴埋め形式でまとめたり、教科書を調べれば埋められる問題をやることで、「まず、自分でやってみる」習慣を身につけてもらうこと
 D. 進度の遅い人には、発展問題のプリントを用意して、自分のペースで学習してもらうことなどでした。

これらの目的がどの程度達成できたのか、今後どうしたらいいか、みんなの考えを教えてください。選択式の質問については、該当するものの番号1～4を○で囲んで下さい。

- Q1. 授業最初の「今日の計算ドリル」にどのように取り組みましたか？
1. 集中して取り組んだ
 2. 大体やっていた
 3. あまりやらなかった
 4. ほとんどやらなかった
- Q2. 基礎プリントについて、授業中にどのように取り組みましたか
1. 自分で調べたり、友達に聞いたりしながら、積極的に取り組んだ
 2. 自分からはあまりやらなかったが、黒板の正解はだいたい写した。
 3. 自分でもやらないうし、黒板の正解もあまり写していないが、あとで友達に借りて写すつもりでいる
 4. 授業中もやらなかったし、これからもやる気はない
- Q3. 発展プリントについて
1. 発展プリントの問題は全部やっているが、まだ物足りない。もっと高度な問題に挑戦したい。
 2. 発展プリントの問題はだいたいやったが、一部手を付けていない(解けない)ものもある
 3. 発展プリントはだいたいもったが、なかなか自分で解くところまではいけない
 4. 自分からは、発展プリントをほとんど取りにいない
- Q4. この約1ヶ月のプリント学習で、あなた自身の数学1の学力は向上したと思いますか？
1. 十分向上した
 2. けっこう上がった
 3. あまり上がっていない
 4. ほとんど上がっていない

- Q5. 自分自身のことだけでなく、クラス全体のことを考えて答えて下さい。上に書いた、プリント学習の目的A～Dはどの程度達成できたと思いますか？
- A. 基礎学力に不安のある人も計算力アップ:
1. 十分達成した
 2. 大体達成した
 3. あまり達成できてない
 4. ほとんど達成できてない
- B. 基礎学力のある人の計算力アップ:
1. 十分達成した
 2. 大体達成した
 3. あまり達成できてない
 4. ほとんど達成できてない
- C. それぞれの人が、まずは自分でやってみること
1. 十分達成した
 2. 大体達成した
 3. あまり達成できてない
 4. ほとんど達成できてない
- D. 進度の遅い人は自分のペースで先へ進んでいくこと:
1. 十分達成した
 2. 大体達成した
 3. あまり達成できてない
 4. ほとんど達成できてない
- Q6. これまでのプリント学習についての感想や意見を自由に書いて下さい。

Q7. 私は、みんなに数学の力をつけてもらいたいと願っています。(教師の言うことなど信用できませんか?) しかし、勉強するのは私ではありません。あなた方自身が「出来るようになりたい」と願う、それに向けて努力しない限り数学の力はずきません。「勉強しても出来ない」というのは、言葉の使い方を間違えています。「出来るようになるまでやる」ことが勉強なのです。出来るようになるまでに必要な努力の量は、(これまでの蓄積の結果)人によって異なります。しかし、自分が出来るようになるまでに必要な努力の量は、続けているうちにどんどん軽減化されていきます。今日は2時間掛けなければ出来なかったことが、1ヶ月後には1時間で、2ヶ月後には10分で出来るようになっていたりすることがあるのです。今日まであまり勉強して来なかった人たちが、どうしたら勉強するようになるでしょうか? 何かいいアイデアはありませんか?

観点 9 - 1 - 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

本校では、保護者懇談会（年 2 回実施）、学外有識者で構成される運営諮問会議（年 1 回実施）、就職先企業アンケート調査、卒業生アンケート調査などを通して、学外関係者からの意見を聴取している（資料 7 - 2 - - 5、9 - 1 - - 1 ~ 3）。

運営諮問会議で審議された内容などを参考に、自己点検評価委員会において教育水準の向上が図られている（資料 9 - 1 - - 4 ~ 6）。例えば、平成 16 年度に開催された第 1 回運営諮問会議での提言を受けて、平成 17 年度において、練習船「弓削丸」を活用した個性的な教育活動の充実として、四国地区高専連携・交流事業「特別講義」の実施や、適正な入学生の確保と個性伸長のための教育改善を目指して、中学校や高等学校の教職員などを対象とした公開授業を実施するなど多くの改善を行っている（資料 9 - 1 - - 7、8）。

次に、教育内容検討委員会が実施するアンケート調査は、従来の教育システムを点検し、教育のより一層の活性化、個性化と質の向上を図り、高等教育機関としての信頼性を高めることを目的としている（資料 9 - 1 - - 9）。第 1 回目のアンケートが、平成 18 年 2 月に就職先企業と卒業生を対象に実施され、今回明らかになった長所を伸長し、かつ短所を改善するべく、継続的な教育の見直しに取り組む予定である（資料 9 - 1 - - 10, 11）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、学外有識者などの提言を参考に教育改善を行った結果を「自己点検・評価報告書」として毎年公表している。また、平成 17 年度より卒業生や就職先企業からの意見聴取を目的としたアンケートを実施するなど、継続的な教育システムの見直しに取り組んでいる。

以上のことから、学外関係者の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されていると判断される。

資料 9 - 1 - - 1

第1回運営諮問会議報告書



弓削商船高等専門学校

平成 17 年 2 月

出典 第1回運営諮問会議報告書

資料 9 - 1 - - 2

弓削商船高専「教育等改善に関するアンケート」

1. 御社の所属する分野を選択してください。
イ、海事産業である ロ、海事産業でない

2. 本校卒業生の学力についてお答えください。(1つ選んでください。)
 - ・優れている分野は何ですか。
イ、一般教養知識 ロ、専門知識 ハ、実技系 ニ、その他()

 - ・劣っている分野は何ですか。
イ、一般教養知識 ロ、専門知識 ハ、実技系 ニ、その他()

3. 本校卒業生の資質についてお答えください。(1つ選んでください。)
 - ・優れている点は何ですか。
イ、実践力 ロ、創造力 ハ、判断力 ニ、応用力 ホ、表現力 ヘ、その他()

 - ・劣っている点は何ですか。
イ、実践力 ロ、創造力 ハ、判断力 ニ、応用力 ホ、表現力 ヘ、その他()

4. 本校卒業生の性向についてお答えください。(1つ選んでください。)
 - ・優れている点は何ですか。
イ、協調性 ロ、積極性 ハ、国際性 ニ、礼儀正しさ ホ、責任感 ヘ、その他()

 - ・劣っている点は何ですか。
イ、協調性 ロ、積極性 ハ、国際性 ニ、礼儀正しさ ホ、責任感 ヘ、その他()

5. 卒業時に身に付けるべき学力、資質等において要望があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

出典 学生課

資料 9 - 1 - - 3

弓削商船高専「教育等改善に関するアンケート」

1. 卒業学科についてお答えください。
イ、商船学科 ロ、電子機械工学科 ハ、情報工学科
 2. 本校で特に身に付けることができた知識は何ですか。
イ、一般教養知識 ロ、専門知識 ハ、実技系の技能 ニ、その他()
 3. 自分の身に付けた知識が、発揮できていると思いますか。
イ、発揮できている ロ、発揮できていない ハ、どちらとも言えない
 4. 在学中、どの分野に力を入れて勉強すれば良かったですか。(複数回答可)
イ、語学 ロ、数学 ハ、物理・化学 ニ、専門基礎学(力学、電気、応数など)
ホ、商船学(航海系) ヘ、商船学(機関系) ト、電気・電子系応用分野 チ、機械系応用分野
リ、情報工学(ソフト系) ヌ、情報工学(ハード系) ル、情報工学(周辺応用技術) オ、その他()
 5. 在学中に受けた就職・進学指導は適切でしたか。
イ、適切であった ロ、適切ではなかった ハ、どちらとも言えない
 6. 課外活動の経験は現在活かされていますか。
イ、活かされている ロ、活かされていない ハ、どちらとも言えない
- 以下は、寮生活を体験した人にお聞きします。
7. 寮生活の経験は現在役立っていますか。
イ、役に立つ ロ、役に立たない ハ、どちらとも言えない
 8. 寮の設備はどうでしたか。
イ、十分である ロ、不十分である ハ、どちらとも言えない
 9. 寮生活で得たものは何ですか。(複数回答可)
イ、友人 ロ、礼儀正さ ハ、正しい生活習慣 ニ、協調性 ホ、積極性 ヘ、独立心
ト、忍耐力 チ、その他()

ご協力ありがとうございました。

出典 学生課

資料 9 - 1 - - 4

第 2 章 組織及び運営 (弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会規則)

○弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会規則

制 定	平成 4 年 5 月 14 日
最終改正	平成 16 年 12 月 27 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）内部組織規則第 15 条第 2 項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、本校の教育水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成することを目的とする。

- (1) 自己点検評価の実施方法等に関する事項
- (2) 自己点検評価の項目の設定に関する事項
- (3) 自己点検評価の結果の活用に関する事項
- (4) その他自己点検評価の実施に関する事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 各主事
- (3) 各学科長，総合教育科長及び専攻科長
- (4) 図書館長
- (5) 情報処理教育センター長及び地域共同研究推進センター長
- (6) 各学科及び総合教育科から選出された教官各 1 名
- (7) 事務部長

2 前項第 6 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、前条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を主宰する。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事)

第 6 条 委員会に幹事を置き、各課長をもって充てる。

(庶務)

- 1 -

出典 弓削商船高等専門学校規則集

資料 9 - 1 - - 5

自己点検・評価報告書

－本校の現状と課題－

平成16年11月

弓削商船高等専門学校

出典 平成15年度自己点検・評価報告書

資料 9 - 1 - - 6

自己点検・評価報告書

－第1回運営諮問会議の提言を中心にして－

平成18年3月
弓削商船高等専門学校

出典 平成16年度自己点検・評価報告書

資料 9 - 1 - - 7

第2回四国地区高専連携・交流事業について

－ 特別講義 －

「海の環境とエネルギー」

弓削商船高等専門学校

1. 連携交流事業の目的

本連携交流事業は、四国地区高専間の連携・交流を推進するため、弓削商船高専の施設と練習船を活用し、科学技術、共同生活及び海の環境等について特別講義を行い、広い視野を持った技術者の養成又、即戦力を備えた技術者の育成を目的とする。なお、本事業は、「学校の枠を超えた学生の交流活動事業（国立高等専門学校機構）」平成17年度予算に基づいて実施された。

2. 連携交流事業の概要

平成17年度は、弓削商船高専(以下、本校と略す)が世話校になり、8月22日から8月25日の4日間、本校を会場にし、練習船「弓削丸」を活用して交流事業を実施した。テーマは、本校が最も得意とし、かつ四国地区高専で既に開設されている科目との関連が深いと考えられる、「海の環境とエネルギー」を選択した。実施した講義と実習は表1に示したように、海の環境とエネルギーに関する講義が6テーマ、海洋に関する実習が3テーマである。実施した講義等の取扱いは、受講生より提出されたレポートに基づき、各高専で1単位相当の単位を認定する。募集定員は各高専5名程度として、主に4年生と5年生を対象とした。

表1. 講義と実習の内容及び担当校

		講義と実習の内容	担当校
講 義	A	地球のエネルギー収支	新居浜高専
	B	風力エネルギーの電氣的利用について	阿南高専
	C	植生から見た瀬戸内海の景観	弓削高専
	D	エネルギーからみた環境問題と地球温暖化の抑制	高松高専
	E	南極観測の意義と地球環境保全	高知高専
	F	極低温科学技術の海洋工学への応用	弓削高専
実 習		練習船「弓削丸」演習：操船と舵	弓削高専
		練習船「弓削丸」演習：舶用機関システム	弓削高専
		実習船「はまかぜ」操船演習	弓削高専

3. 実施状況

受講を希望した学生は、4年生が14名、5年生が17名、専攻科生が1名の計32名であった。所属は、機械関係、電気関係、建設関係、情報工学関係、物質・材料関係の工業系学科であって、幅広い学科からの受講者が得られた。

講義は2時間を1コマとして、参加者全員が一緒に受講する形式で行われた。本年度の事業で特筆する点は、本校校長による「極低温科学技術の海洋工学への応用」と題した講義が盛り込まれ、超伝導と超流動の物理現象が幅広い分野で実用化されている例をわかりやすく解説し、受講生に新たな認識を持たせたことである。また、講師を担当した各校の先生方が、自作のビデオを紹介したり、ペンギンのぬいぐるみまで持ち込み講義にアクセントを付けるなどのきめ細かい配慮や工夫が随所で行われた結果、

出典 学生課

資料 9 - 1 - - 8

公開授業実施要領

1. 目的 教育研究活動の高度化、活性化、個性化及び地域との連携強化を目指し、特に本年度は、地域社会との連携強化（社会に開かれた高専）の一環として地域の生徒の方を対象に公開授業を行う。
2. 日時 平成18年2月3日（金） 11:00～16:30
（予備日：平成18年2月10日（金））
3. 場所 練習船「弓削丸」及び弓削商船高等専門学校各実験室等
4. 参加対象 今治市立美須賀中学校生徒及び教職員
生徒：51名
引率教諭：6名
計：57名
5. 授業内容等 別紙のとおり
6. その他
 - ・ 船内の危険な場所には絶対に立ち入らないで下さい。
 - ・ 乗船・下船時は、必ず人員の確認をお願いします。
 - ・ 見学や実習に必要な資料は、本校で用意します。

出典 学生課

資料 9 - 1 - - 9

第2章 組織及び運営 (弓削商船高等専門学校教育内容検討委員会規則)

○弓削商船高等専門学校教育内容検討委員会規則

〔制 定 平成16年12月27日〕

(設置)

第1条 弓削商船高等専門学校に、教育内容・水準を達成するための具体的方策を検討するため、弓削商船高等専門学校教育内容検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、教育内容の向上に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学科の構成の在り方に関する事項
- (2) 学級の編成に関する事項
- (3) その他教育内容等の向上に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科長及び総合教育科長
- (3) 各学科及び総合教育科から選出された学級担任代表者各1名

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成16年12月27日から施行する。

資料 9 - 1 - - 10

教育改善に関する調査

－企業編－

平成17年度

教育内容検討委員会

出典 学生課

資料 9 - 1 - - 11

教育改善に関する調査

－卒業生編－

平成17年度

教育内容検討委員会

出典 学生課

観点 9 - 1 - 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価が考えられる。）の結果を教育上の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校では、教務委員会、自己点検・評価委員会、及び教育内容検討委員会などを設置しており、教育上の質の向上や、問題点を改善するための組織が整備されている（資料 7 - 2 - - 1, 9 - 1 - - 4, 9）。

また、教育内容検討委員会の下部組織として、カリキュラム検討ワーキンググループを設置し、5～6年を1周期（次年度入学生から新カリキュラムを適用するため）として具体的かつ継続的な教育課程の見直しがなされている。これまでの実績として、平成 11 年度には、平成 10 年に大学審議会の答申「21 世紀の大学像と今後の改革方針 競争的環境の中で個性が輝く大学」がなされたのを受けて、本校の個性を活かした特色ある教育課程への見直しに取り組んだ結果、生物概論、海事工学、及び海事工学演習といった海洋や船舶に関係する選択科目を新設するに至った（資料 9 - 1 - - 1, 2）。さらに、平成 17 年度には、大学単位（一単位当たり 45 時間の学修が必要な科目）の導入に向けた検討がなされた（資料 9 - 1 - - 3）。これは、平成 18 年度に試行的に実施し、学生や教員の意見を反映させてカリキュラムの改定に着手するためである。

さらに、図書館長の所掌のもとで、教育改善（FD）の一環として年 4 回程度実施される教育懇談会があり、平成 17 年度末現在で、通算 42 回開催されている（資料 9 - 1 - - 4）。

（分析結果とその根拠理由）

本校では、資料 9 - 1 - - 5 にあるように、教育課程の見直しに関する委員会等が継続的に開催されている。また、カリキュラム検討ワーキンググループでは、本校の特徴を活かした教育課程への見直しとして新科目の設置や、大学単位の導入の検討などの実績を有している。さらに、教育懇談会などを通して、継続的な教育改善に取り組んでいる。以上のことから、各種の評価の結果を教育上の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられていると判断できる。

資料 9 - 1 - - 1

平成12年度のカリキュラム改定に伴う新設・改定科目

授業科目	上段：学科・学年・履修区分 / 下段：学習内容		
生物概論	全学科	5年	選択必修
	細胞の構造と機能について基礎知識を習得し、それを踏まえて、生物と環境との関わり、及び海洋生物について学習する。		
特別講義3	電子機械工学科	5年	選択
	練習船「弓削丸」を使い船舶に関する総合的な技術を学ぶ。3泊4日の航海実習や、工場見学を含む。		
特別講義4	電子機械工学科	5年	選択
	地球環境とエネルギー問題や、近年話題になっている工学倫理について事例を挙げて学習する。		
海事工学	情報工学科	4年	選択
	海、船、さらにそれらに付随する様々な社会環境についての理解を深める。練習船「弓削丸」での簡単な実習を取り入れる。		
海事工学演習	情報工学科	5年	選択
	練習船「弓削丸」などを利用して、船舶の運航体制、船舶システムの仕組みを理解する。工場見学も合わせて実施する。		

出典 学生課

資料 9 - 1 - - 2

弓削商船高等専門学校の 現状と課題



平成 11 年 11 月

弓削商船高等専門学校

出典 弓削商船高等専門学校の現状と課題

資料 9 - 1 - - 3

第1回カリキュラム検討WG議事録

日時 平成17年12月2日(金) 15:20~17:30

場所 第2会議室

出席者 友田進(教務主事)、藤本隆士(電子機械工学科)、田房友典(情報工学科)、鈴木利幸(教務主事補) [敬称略]

平成17年9月9日に公布された高等専門学校設置基準の一部を改正する省令

(1) 一単位当たり45時間の学修が必要な授業科目を定めることができる

- ・ 講義および演習は15時間から30時間までの範囲
- ・ 実験、実習および実技については30時間から45時間までの範囲でそれぞれ高専が定める時間の授業をもって一単位と計算できる

(2) 上記の規定で計算できる授業科目の単位数の合計は60単位を超えない

(*) 新たに規定した単位の計算方法について、その導入および適用する単位数は、各学校において適切に判断されるものであるが、その運用に際しては、教室外での自学自習を促すための指導上の工夫や総授業時間数の維持・確保に特に留意すること。

について議論した。

議事内容

1. 「一単位当たり45時間の学修が必要な科目」(便宜上、「大学単位」と略称する)を平成18年度から導入する。導入にあたっては、教育のレベルをより向上させるように新制度を活用する事を前提とする。
2. 平成18年度については、試行的に電子機械工学科と情報工学科の5年生についてのみ大学単位を導入する。商船学科については、第一種養成施設としての関係から、平成18年度は大学単位を導入しない。
3. 選択科目を中心に5科目程度を目安とし、「30時間の授業+15時間の自学自習」の科目と「15時間の授業+30時間の自学自習」の科目の両方を設ける。必修科目に大学単位を導入する場合は、前者の形とする。どの科目に大学単位を導入するかは各科で検討してもらう。
4. 自学自習の学修について、Evidenceを残す。

出典 学生課

資料 9 - 1 - - 4

第40回教員研究懇談会の開催について 2005/09/16 16:27:46 +0900 To:higasi@office.yuge.ac.jp

To: S_staff@yuge.ac.jp,
M_staff@yuge.ac.jp,
I_staff@yuge.ac.jp,
G_staff@yuge.ac.jp
Subject: 第40回教員研究懇談会の開催について
Reply-To: higasi@office.yuge.ac.jp
Fcc: OUTBOX
Message-Id: <20050916162746higasi@mail.center.yuge.ac.jp>
Mime-Version: 1.0
X-Mailer: WeMail32 [2.08D] ID:1F0028
From: higasi@office.yuge.ac.jp
Date: Fri, 16 Sep 2005 16:27:46 +0900

平成17年9月16日

教員各位

図書館長

第40回教員研究懇談会の開催について

このことについて、今回は、商船学科の友田進先生、総合教育科の神谷正彦先生、上江憲治先生、山尾徳雄先生、及び電子機械工学科の藤本隆士先生により下記のとおり行います。
多数ご出席下さいますよう、ご協力願います。

記

- 1. 日時 平成17年9月30日(金) 13:30~15:30
- 2. 場所 アセンブリホール
- 3. 報告 四国地区共同事業FD研修会報告
 - (1) 友田 進先生 四国地区教員研究集会に参加して
 - (2) 神谷 正彦先生 四国地区FD研修会 「国語科目」
 - (3) 上江 憲治先生 " 「英語科目」
 - (4) 藤本 隆士先生 " 「電気・情報系科目」
 - (5) 山尾 徳雄先生 " 「社会科目」

〒794-2593
愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地

弓削商船高等専門学校
庶務課 図書係長 東 嘉美

電話 0897-77-4608(庶務課図書係)
FAX 0897-77-4691(庶務課)
Eメール higasi@office.yuge.ac.jp

出典 庶務課

資料 9 - 1 - - 5

教育課程見直しに関する組織の年間開催回数

	平成16年度	平成17年度
教務委員会	11回	10回
自己点検・評価委員会	3回	2回
教育内容検討委員会※		3回
カリキュラム検討WG※		2回

※ 平成17年度途中より設置

出典 庶務課・教務課

観点 9 - 1 - 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

学生による授業評価アンケートの結果から、各教員が自身の授業内容を検討し、改善すべき課題を自己分析し、教務主事に報告している(資料 9 - 1 - - 1)。これらの自己分析結果を「学生による授業評価」報告書に記載し、全教員に配布している(資料 9 - 1 - - 2)。さらに、教育内容検討委員会では、学校全体での改善目標(「教員の改善点」と「学生の改善点」)を見出し、教員会議及び教室へ改善目標を貼り出すことで教員及び学生に周知している(資料 9 - 1 - - 3)。さらに、平成 17 年度は目標が達成できたかを確認するためアンケートを行っている(資料 9 - 1 - - 4)。

(分析結果とその根拠理由)

P D C A (計画, 実行, チェック, フィードバック) を念頭において、学生による授業評価を学生、個々の教員、学校(教育内容検討委員会)が一体になって改善活動を展開しようとしている。

個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行い、また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているといえる。

資料 9 - 1 - - 1

平成 17 年 10 月 3 日

教務主事殿

学生による授業評価について

* 教員別評価の分析結果

次のようなことの検証をしてはどうか。

1. 授業進度が速いというのが多い。
これは学生の能力にも関係するが、学生の理解力を優先して取り組むべきことと思う。
1 年後にはこの進度について問い直し、また学生の理解度も調査すべきである。
2. 授業内容がわかりにくいということについても、授業方法の改善がなされているかどうか。対話形式の授業や図面等を多様に用いて、理解力を向上させることも提案してはどうか。
3. 先生の熱意・意欲については、学生の目線に立って授業をし、興味を持たせることが最初に取り組むべきもののように思われる。学生を引き付ければ、先生の熱意が伝わるのではないか。

出典：教育内容検討委員会

資料 9 - 1 - - 2

	質問 1				質問 2				質問 3				質問 4				質問 5				質問 6			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
材料学 1 (E 4)	0	0	4	15	0	9	5	2	0	0	7	12	0	2	6	11	1	4	6	7	0	0	3	16
材料学 2 (E 5)	0	0	5	13	1	4	12	1	0	1	9	8	1	2	8	7	1	3	10	4	0	1	11	6
潤滑工学 (E 4)	0	0	2	18	0	8	5	3	0	1	7	12	0	2	6	12	0	3	10	6	0	0	4	16
制御工学 1 (S 3)	0	0	6	19	0	17	7	1	0	2	15	8	0	5	15	5	1	7	11	6	1	2	13	9
材料学 (M 3)	0	0	18	21	0	16	23	0	0	2	22	15	0	1	25	13	1	12	20	6	0	1	27	10

教員による分析

全体的に高い評価が得られたと思う。

今後の課題

授業に対する評価は高かったが、この結果に比例して学生の実力が身についたかどうか不安である。テストの結果などを参考にして確認したい。

	質問 1				質問 2				質問 3				質問 4				質問 5				質問 6			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
安全工学 (S 4)	4	11	9	5	13	12	2	2	11	9	7	2	6	10	9	4	9	13	3	4	5	7	13	4
海上交通工 (N 5)	0	5	8	0	0	10	3	0	1	6	5	1	1	2	9	1	1	4	8	0	1	2	10	0
航海学 2 (N 5)	0	7	6	0	0	9	4	0	3	6	4	0	0	5	8	0	0	8	5	0	0	5	8	0
安全工学 1 (S 3)	0	3	16	8	2	16	6	3	0	12	10	5	0	5	14	8	0	10	12	5	2	3	16	6
航海学 1 (N 4)	0	1	10	4	10	3	2	0	11	1	2	0	0	11	4	0	2	9	2	1	2	3	6	1

教員による分析

「授業進度が速い」と答える評価や「授業内容がわかりにくい」という評価については授業方法の工夫を行い改善していきたい。海技試験受験に間に合うようにという配慮から、進度はスピードアップしたものと考え、また、内容については同様な理由で計算例を中心に行っているの、導入部で難しく感じている可能性がある。

今後の課題

上記について改善していきたい。

出典：学生による授業評価報告書(平成 16 年度)

資料 9 - 1 - - 3

平成 17 年度第 2 回教育内容検討委員会議事概要

日 時 平成 17 年 10 月 20 日 (木) 16:30~18:08

場 所 第 2 会議室

出席者 別紙のとおり

議 題

(審議事項)

(1) 学生による授業評価の取扱いについて

- ・ 委員長から、前回の委員会では依頼していた意見等が 4 名の委員から別紙のとおりあった旨、報告があった。
- ・ 委員長から、平成 16 年度授業評価 (案) 教員用及び学生による授業評価アンケート結果、学生用の編集方法が述べられた。
- ・ 委員長から、学生による授業評価アンケート結果、学生用 5. 授業改善についての方策、教員の改善点の記述内容について審議願いたい旨発言があり、審議の結果、次のとおり変更することとなった。なお、平成 16 年度授業評価 (案) 教員用の 5. 授業改善についての方策についても変更することとなった。
 1. 授業を進める速度が速いと指摘された。講義の到達目標を配慮しながら速くならないように工夫する。を 講義の到達目標を配慮しながら速くならないように工夫する。
 2. 説明がわかりにくいと指摘された。改善したい。を 説明がよりわかりやすくなるように工夫する。
 3. 板書が見やすくなるように心がけたい。を 板書が見やすくなるように工夫する。
 4. その他の改善点を 削除する。
- ・ 委員長から、公表方法について審議願いたい旨発言があり、審議の結果、従来どおりペーパーで公表することとなった。なお、取扱い注意の表示をする旨、委員長から発言があった。
- ・ 委員長から、氏名の公表について審議願いたい旨発言があり、審議の結果、氏名を記載したものを公表することとなった。
- ・ 委員長から、原案を持ち帰り、問題点等があればお知らせ願いたい旨、依頼があった。

出典：学生課

資料 9 - 1 - - 4

1. 学生による授業評価アンケート

—アンケートの実施要領—

(1) 実施時期

アンケート調査は、平成 18 年 3 月中旬に実施した。この時期の実施は、学生が教員の授業のやり方、性格、癖なども十分に熟知し、回答しやすいことなどの利点がある。

出典：教育内容検討委員会

(2) アンケートの内容

「平成16年度学生による授業評価」の結果を踏まえて、より良い授業を展開していくための、「教員の改善点」および「学生の改善点」を学内に周知した。具体的には、

教員の改善点

1. 講義の到達目標を配慮しながら、速くならないように工夫する。
2. 説明がよりわかりやすくなるように工夫する。
3. 板書が見やすくなるように工夫する。

学生の改善点

1. 積極的に授業へ参加する。
2. 授業はきちんとした姿勢（いねむり、無駄話をしないなど）で受ける。
3. 授業に対する準備（予習と復習、勉強道具の携行など）を忘れない。

である。

本年度は、これらについて、改善がなされたかどうかを検証することをアンケートの目的とした。

回答の評価区分は、各質問に対して、1.「肯定」、2.「どちらとも言えない」、3.「否定」の3段階とし、該当する番号を○で囲むこととした。アンケートの質問用紙を本報告書の最後に示す。

(3) 実施方法

アンケートの対象は、前年度に受講経験がある2年生から4年生までの9クラスとし、調査はクラス担任や教務主事・主事補を中心にして、授業の一部や特別活動（ホームルーム）の時間に実施した。5年生は学習達成度アンケートを別に実施した。

アンケートの実施にあたり、学生には、「本アンケートは、授業方法や授業内容の改善を図り、よりよい授業を提供するために行うものであること」、「本アンケート結果は、学生の学業成績に影響を及ぼすことがないこと」を伝え、真摯な回答をお願いした。

(4) 参加学生数

アンケートに参加した学生数は、商船学科 86 名、電子機械工学科 112 名、情報工学科 110 名であった。

(5) アンケート結果の取り扱い

アンケートは教務主事を中心にして集計したデータに基づいて、教育内容検討委員会にて十分に検討した後、作成した本報告書は全教員に配布し、今後の教育改善に活用してもらうこととした。学生には学生用を教室に掲示することにした。

(6) 評価対象

評価の対象は、教員個々の授業評価ではなく、全教員から受ける授業の印象を問うこととした。従って、アンケート対象授業科目は、特に定めず全教科となる。

出典：教育内容検討委員会

観点 9 - 1 - 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

個々に教員の研究活動は、文学、工学、海洋科学などの幅広い分野で不断に行われている（資料 A - 1 - - 1）。個々の教員の研究成果は、各教員の指導する卒業研究・特別研究に多く取り入れられている（資料 9 - 1 - - 1）。教員の研究分野と卒業研究が関連することで、社会が求めている教育研究に関する情報に触れる機会が多くなり、教育の質の改善につながっている。特に、専攻科の特別研究では、学会での発表を推奨しており、プレゼンテーション能力の向上につながっている。

本校では平成 15 年度から「本校の環境を活かした授業改善への取り組み」を行っており、各教員の研究を授業等に取り入れることで授業改善に結び付けている（資料 9 - 1 - - 2）。

また、弓削丸での共同研究に学生を参加させることにより、学生に学習内容との関連を示し、学習への動機付けを行っている（資料 9 - 1 - - 3）。

専攻科では授業に個々の教員の専門分野の論文を取り上げることも多く（資料 9 - 1 - - 4）、学生に対して新しい話題を提供することで、学習意欲の向上につなげるようにしている。

(分析結果とその根拠理由)

教員の研究テーマと卒業研究、授業に内容が連動しており、さらに研究内容を授業に取り込む努力も行われている。

教員の研究は卒業研究や特別研究を中心に教育への還元がなされている。また、「本校の環境を活かした授業改善への取り組み」も学校全体として奨励している。

以上のことから、研究活動が教育の質の改善に寄与しているといえる。

資料 9 - 1 - - 1

卒業研究、特別研究	教員の専門分野	授業科目	主な実験装置
	中古文	国語、文章表現論	
	幾何学的トポロジー	数学、数学特論、離散数学	
	集合論的位相空間論	数学、数理工学	
	物理	物理、物理学特論	シャイブ式ウェーブマシン、電子の比電荷測定器 オプト実験シリーズ、原子力安全教育設備
操船シミュレーターによる訓練プログラムの作成 e-操船支援システムの開発 和船の研究－西洋型帆船との比較について－ 気相反応によるダイヤモンドの作成	船舶の運動性能	航海計測学、電波測位学 海事シミュレーション	スベリー式及び北辰式ジャイロコンパスとオートパイロット 時差修正実習装置等航海計器 レーダーシミュレーター装置、ARPA装置
地球温暖化への対策について 燃料電池の開発に関する研究 燧灘における底部冷水の起源について	精密加工 蒸気工学 沿岸海洋物理	材料学、機械加工学 設計製図、蒸気工学 危機管理学 海洋気象学、天文測位学 海事科学演習	全自動蛍光X線分析装置、X線回折装 イオンクロマトグラフ 蒸気ボイラー実験装置、蒸気タービン実験装置 船用ガスタービン実験装置 総合気象観測装置、検潮儀
高張力鋼板の曲げ成形性 高張力鋼板の引っ張り曲げ破断限界 マグネシウム合金板のFLDにおよぼす 温度、速度及び粒径の影響 マグネシウム合金板のFLDにおよぼす温度と 速度と粒径の影響及び解析的予測	弾塑性工学	材料力学、水力機械学 弾塑性学	応力凍結装置、光弾性実験装置、万能材料試験機
マグネシウム合金AZ31Mの 疲労き裂発生挙動と切欠感度 マグネシウム合金の疲労強度 グリーンコンポジットの製作と強度評価 超音波振動荷重の塑性加工への応用	機械工学、材料強度学	材料力学、流体力学 材料強度学	電気油圧サーボ疲労試験機、ダイナミック超微小硬度計
弾性体の微小変位特性に関する研究 放電加工機の最適加工条件に関する研究 銀と脆性材料のラッピングに関する研究	トライボロジー	電子工学、応用物理 トライボロジー	X線装置、走査電子顕微鏡
手先指示に協調する機械運動に関する研究 程度副詞を用いた指示による上肢の速度特性	制御工学	制御工学、感性工学 デジタル制御工学	多変数プロセス制御システム、メガスラストモータ
赤外線通信に関する研究 e-操船システムに関する研究	非線形現象の解析	電気回路、電子回路 電気磁気学、電子回路応用	プリント基板加工システム、3D入出力装置
発泡スチロール切削用工具の開発 焼結金属の被削性 －工具寿命に及ぼす樹脂含浸の影響－ 汎用旋盤を利用した切削試験装置の作成	切削加工	設計製図、計測工学 機械工作法、精密加工学	バルス回路実習装置、論理回路実習装置
因島における巨木調査 統計から見た上島町に関する調査 弓削商船高専のバリアフリー化に関する研究	沿岸海洋学	画像処理、システム工学 環境マネージメントシステム	画像処理装置
歯の接触音を用いた学習機能を有する ハンズフリー型ユーザインタフェースの開発 3次元の入力デバイスの基礎的研究	ウェーブレット変換理論と その応用	電気工学、信号処理論 マルチメディア工学	ロジックアナライザー、FPGA開発装置
XP手法を用いた プログラミング学習支援システムの開発 バーチャルリアリティを用いた 犬の訓練体験システムの開発	人工知能	アルゴリズム、コンパイラ データ構造	ワークステーション、ネットワークサーバー
せとうち交流館の情報コミュニティに関する研究 －Webによる情報コミュニティシステムの構築－ せとうち交流館の情報コミュニティに関する研究 －メディア統合管理インタフェースの構築－ カメラ2台による因子分解法に基づく 三次元計測システムの構築	画像処理	情報処理、データベース 画像応用システム工学	レーダーデータ解析システム

出典：認証評価WG

資料 9 - 1 - - 2

平成 17 年度

本校の環境を活かした授業改善への取り組み

弓削商船高等専門学校

取り組み事例一覧表

教員名	関連分野	対象科目	学科等
二村	海洋	卒業研究	商船
矢野	制御	制御工学特論	情報
矢野	音声処理	卒業研究	情報
小川	環境	卒業研究	情報
田房	情報処理	卒業研究	情報
神谷	古典文学	国語	一般教養
藤本	環境	応用物理	電子
塚本	障害者支援	卒業研究	情報
浜中	環境	物理学特論	専攻科
飯塚	海洋環境化学	環境化学概論	専攻科
飯塚	環境化学	環境化学概論	専攻科

本校の環境を活かした授業改善への取り組み

本校を取り巻く自然、文化、歴史、商、船、科学などに関する現象・事象・事実等を取り入れた
座学授業、実験実習、卒業研究などの内容紹介

科目名：卒業研究	学科・学年：商船5年	単位：
取り入れたテーマ：暖帯における底層冷水の起源	担当教官：二村 彰	

①授業等への取り入れの工夫（時期、時間数、実施場所、実施方法など）
 時期：平成 17 年 2 月～9 月
 時間数：商船 4 年「実験実習」の授業時間（1 月～2 月）
 商船 5 年「卒業研究」の授業時間（4 月～9 月）
 実施場所：暖帯、舊後藤の海域（観測実験）および気象観測実験室（解析）
 実施方法：実習船「はまかぜ」により観測データを取得し、様々なグラフを使った解析を行う。解析は、プログラミングにより計算、作図を実施する。

②具体的な実施内容（授業内容の概要など）
 暖帯東部海域において夏期になると底層冷水が発達することが分かっている。この底層冷水は貧酸素化し魚介類などの底棲生物に影響を与えていると考えられている。本研究では、底層冷水の発生機構を調べる第一段階として、その起源水を解明することを目的としている。そのために必要なデータを観測実験により取得し、底層冷水の位置や大きさを把握し、底層冷水の特性の季節変動を解析する。

③期待される教育効果（当該授業効果、他の授業・社会への波及効果）
 海洋観測の技術の習得、プログラミング能力の向上、プレゼンテーション能力の向上の分野で効果があると期待できる。
 暖帯および他の海域でも多くみられる底層冷水の発達機構を解明することにつながり、海域の海洋構造や流れのパターンの発達時期や期間が推定できる。このことは、長期的な生物生産を制御したり、海洋汚染を最小に防ぐなどの効果が期待することができる。

出典：本校の環境を活かした授業改善
への取り組み（平成 17 年度）

資料 9 - 1 - - 3

運航月日	平成 17年 8月 7日(日) ~ 8月 10日(水)							
運航名目	研究航海				運航類系	2	運航日数	4
航海時間	40-00	航海距離	338	燃料消費	7043	運航代表者	多田ミ	
対象者及び員数	京都大学20名、教員1名、乗組員9名、							
運 航 ス ケ ジ ュ ー ル								
8月 7日	08:30	弓削発 海洋観測		9日	05:45	高松発 海洋観測		
	17:00	高松着			18:20	高松着		
8日	06:50	高松発 海洋観測		10日	06:10	高松発 海洋観測		
	17:10	高松着			15:00	弓削着		
運航の内容(実習・実験・研修・行事等)の概要								
運航の目的	大学(京都大学農学研究科応用生物科学専攻海洋生物環境学分野等)との共同研究により海洋・海事学の発展に寄与することはもちろん、研究者本人並びに本校の発展に寄与する。							
研究内容	<p>「瀬戸内海の有機物および窒素の挙動の調査」</p> <p>昨年の弓削丸調査では瀬戸内海の窒素・リン等の栄養塩の分布を測るとともに、懸濁物の炭素・窒素同位体比の調査を行った。この調査により、陸起源の有機物・懸濁物が備讃瀬戸に集積し、この海域の濁度の経年的上昇の原因となっていることが明らかになった。また播磨灘では窒素が還元され気体となって除去されていること(脱窒)が示唆された。</p> <p>脱窒は海水の自然浄化機能として非常に重要であろうとは考えられていたが、実際に起きていることを直接的に示すことは難しく、その例は少ない。新しい測定法である同位体測定によって初めて直接的に示すことが可能となった。</p> <p>本調査では、この窒素同位体法と脱窒細菌の遺伝子測定法を用いることにより、瀬戸内海で脱窒の起きている場所の特定を行う。</p> <p>瀬戸内海の脱窒過程の解明は、瀬戸内海の水質管理において極めて重要な課題である。特に近年問題となっている富栄養化対策による窒素負荷の削減と、ノリ養殖場における窒素不足(ノリの色落ち問題)のジレンマを解決するためには、脱窒の起きている場所とその強さを明らかにすることが不可欠である。</p> <p>そこで本観測では次に記す調査を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 備讃瀬戸から播磨灘を横断・縦断する測線において採水を行い、植物プランクトンと懸濁物を採取する、これの窒素同位体比から、脱窒素化の起きている海域を明らかにする。 2) 海水および底泥を採取し、脱窒細菌について調べる。 							
運 航 に 関 す る ま と め								
天候に恵まれ、予定していた測点すべてのデータが良好に採取することができた。								
備 考								
乗組員：豊田、松永、永本、渡部、金子、山下、辻、中根、中瀬 教職員：多田ミ								

出典：弓削丸年報

資料 9 - 1 - - 4

授業科目	ロボティクス			担当教員	勘久保広一		
学 科	生産システム工学	学 年	1年	授業期間	後期	単位数	2
分 野	専門科目	授業形態	講義	履修区分	選択		
学習目標	最近のロボットシステム、特に生活支援・福祉のための開発事例について、着眼から開発までを中心に紹介し、独創的なロボット開発のために必要な発想法、新しい機構の開発手法、実際的な開発研究の進め方等を修得させる。						
授業の進め方	座学が中心である。最新の研究論文を使用して輪講形式の学生による課題のプレゼンテーションも行う。						
授業内容	<p>第1章 序論</p> <p>第2章 ロボットの誕生と発達 ①自動機械からロボットへ、②生産工程でのロボットの役割</p> <p>第3章 ロボットの形態、構造、要素 ①ロボットの形態、構造、要素の歴史、②ロボットの構造上の未来</p> <p>第4章 ロボット制御の基礎 ①ロボットの運動制御と制御理論、②線形フィードバック制御とロボット制御 ③ロボットの非線形制御</p> <p>第5章 ロボットのセンサとアクチュエータ ①ロボットのセンサーの現状と未来、②ロボットのアクチュエータの現状と未来</p> <p>第6章 生活支援・福祉のための人間協調型ロボット ①生活支援と福祉の現状、②生活支援と福祉のためのテクノロジー ③人間協調型ロボットの現状、④人間支援・協調型ロボットの将来</p>						
教科書 参考書	<p>【教科書】 ロボット学会誌から資料を抜粋して配布</p> <p>【参考書】 特になし</p>						
評価方法	定期試験の結果を 30%程度、課題レポート(樹的な研究課題も含む)を 50%程度、プレゼンテーションを 20%程度とし総合評価を行う。						
備考	授業は学会で発表された研究論文を中心に進める。また、積極的な姿勢で普段から新聞、雑誌等からロボットに関する資料を収集する必要がある。						

出典：専攻科シラバス

観点 9 - 2 - : ファカルティ・ディベロップメントについて組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

本校は商船系学科と工業系学科を有していて、入学してくる学生が多様であり、また離島という特殊な立地条件から地域の様々なニーズに応えなくてはならない。教員自身の教授能力を向上させるためにもファカルティ・ディベロップメントは欠かせない。組織としての取り組みとして、新任教員に対して年度初めに新任教員研修を行っている(資料 9 - 2 - - 1)。また、本校練習船「弓削丸」を様々な分野で利用していくため、商船学科の教員のみならず、他学科の教員や新任教員、研究で「弓削丸」を利用する教員に対して弓削丸利用説明会を開催している(資料 9 - 2 - - 2)。さらに、教員相互の資質向上のため本校教員のみならず、近隣の中・高校の教員に対しても公開授業が行われている(資料 3 - 2 - - 3, 資料 3 - 2 - - 4)。

また平成 9 年 7 月より図書館が主体となって教員研究懇談会を毎年 4 回程度開催し、本年 3 月の開催で 42 回目を数える(資料 9 - 2 - - 3)。この教員研究懇談会は、各教員の最新研究テーマの発表(資料 9 - 2 - - 4)や四国地区教員研究集会(資料 9 - 2 - - 5)など他の機関で得てきた情報をその他の教員へ報告することによって、多くの教員から広く意見を交換し合い教員同士の資質向上及び情報の共有に大いに役立てている。

また、平成 9 年度から授業評価アンケートを定期的に行っている(資料 3 - 2 - - 2)。

(分析結果とその根拠理由)

本校の組織としてのファカルティ・ディベロップメントは、新任教員研修、公開授業、教員研究懇談会、弓削丸利用説明会等を取り組んでいる。特に教員研究懇談会は平成 9 年より 42 回を重ねる本校教員の資質の向上に繋げる重要な研修会となっている。

以上のことから、ファカルティ・ディベロップメントについて組織として適切な方法で実施されているといえる。

資料 9 - 2 - - 1

平成 17 年度 弓削商船高等専門学校新任教員研修会実施要領

1 目的

本校のファカルティ・ディベロップメントの一環として、新任教員に対し高等専門学校の教育制度、組織、運営、教育研究等の基本的な事項を理解させ、もって教育の一層の改善、業務能率の向上等に資することを目的とする。

2 対象者

平成 17 年 4 月 1 日付け新任教員
(総合教育科 講師)
(商船学科 助手)
(電子機械工学科 助手)
(情報工学科 助手)
(練習船弓削丸 助手)

3 日時

平成 17 年 4 月 5 日 (火) 13:30~17:15

4 場所

第 2 会議室

5 日程

別紙のとおり

出典：庶務課

資料 9 - 2 - - 2

弓削丸利用説明会実施報告書

平成16年度

中期計画に伴う「弓削丸利用説明会」開催要項

1. 目的 練習船「弓削丸」の有効活用、および船舶高等の教員としての資質を高めるために、練習船教育とは関係の薄い教員に対して、船舶に関する一般的な知識を身につけてもらうことを目的とする。研修者の練習船を活用した研究への一助となること、および工業系航海実習学生に船内生活等に関して担任教員としての適切な指導が行える効果が期待できる。
2. 期 日 平成16年12月1日(水)
3. 会 場 弓削商船高等専門学校 練習船「弓削丸」
4. テーマ 弓削丸を活用した「船舶の一般的知識」の修得
5. 参加者 5名
6. 研修内容および担当者(詳細は弓削丸利用説明資料を参照)
 - (1) 乗船時の注意事項 (担当: 一等航海士)
 - (2) 航海系の研修 (担当: 航海系乗組員)
 - (3) 機関系の研修 (担当: 機関系乗組員)
7. 集合場所および集合時間 弓削丸
平成16年12月1日(水) 13時20分

日 程

12月1日(水)

時間	事 項	場 所	担 当	備 考
13:30 ~13:35	乗組員紹介	弓削丸教室	教務主事補 (高岡)	
13:40	出港見学	船 橋	乗組員	
13:50 ~14:00	乗船時の注意	弓削丸教室	一等航海士	
14:00 ~14:50	航海系の研修	船 橋	乗組員	
15:00 ~15:30	機関系の研修	機関制御室	乗組員	
15:30	入港見学	機関制御室	乗組員	
15:45	船長講評	弓削丸棧橋	船 長	

練習船利用説明資料

I. 練習船利用説明会の目的

本校には平成6年に建造された練習船「弓削丸」があり、主に学生の航海実習に使用されている。この練習船を今後、有効活用して行く上で、学校組織全体が弓削丸という利用価値のある船をよく理解しておくことが必要である。本練習船利用説明会では、教員においては、乗船時の学生指導の基礎知識を得ることを、職員においては、弓削丸の概要を知り、海への親密感と理解を得ることを目的として実施する。

II. 実施日、実施時間および場所

実施日: 平成16年12月1日(水)
時 間: 13:30~15:45(約2時間程度)
場 所: 弓削丸

III. 参加者

電子機械工学科: 大石健司、田頭章司
情報工学科 : 葛目幸一
総合教育科 : 村上健二、鈴木利幸

合計 5名

IV. 指導教員

弓削丸乗組員および船舶学科教員

V. 弓削丸乗船時の注意事項

弓削丸に乗船した時には、つぎの事項を守ってください。(付図1、2参照)

* 災害防止の為に

- ① ポケットハンドをしない
- ② 室外では帽子を着用する
- ③ 職務上の指示、命令には明確に復唱してから作業にかかる(換船研修など)
- ④ 緊急時以外は、船内をみだりに走らない
- ⑤ 作業時にはヘルメット等、安全具を着用する

出典: 弓削丸利用説明会実施報告書

資料9 - 2 - - 3

平成17年11月 日

教 職 員 各 位

図 書 館 長

第41回教員研究懇談会の開催について

このことについて、今回は、情報工学科の長尾和彦先生、及び商船学科の野々山和宏先生により下記のとおり行います。

多数ご出席下さいますよう、ご協力願います。

記

1. 日 時 平成17年12月6日(火) 13:30～15:30
2. 場 所 弓削商船高等専門学校アセンブリホール
3. 演題及び講演者

「プログラミングコンテストを通じた創造性教育の実践」

長尾 和彦

「経済学の体系と国土計画研究について」

野々山 和宏

(担 当)

庶務課図書係 東

内 線 4608

出典：庶務課

資料 9 - 2 - - 4

第41回教員研究懇談会 報告

経済学の体系と国土計画研究について

商船学科 野々山 和宏
(2005.12.6)

1. 経済学とは

- 経済現象を研究する学問。理論経済学・経済史学・経済政策等に分れる。旧称、理財学。(岩波書店「広辞苑 第四版」)
- 人間社会の経済現象、特に、財貨・サービスの生産・交換・消費の法則を研究する学問。法則を抽出する理論経済学。理論の応用である政策学、経済現象を史的に捉える経済史学に大別される。(三省堂「大辞林 第二版」web版)
- サミュエルソンの定義
「経済学とは、
① 複数の代替可能な希少な生産資源をいかに使うか
② 時間を通じて種々の製品をいかに生産するか
③ 現在と将来の消費のためにどのように分配するか
について、貨幣を使用し、あるいは使用せずに
いかなる選択を行うかの学問」

2. 経済学のアプローチ

理論経済学 (理論研究) 複雑な現実社会の経済的側面を抽象化・単純化し、その法則性を見つけ本質を探る

応用経済学 (実証研究) 複雑な現実社会の特定分野について、その特徴を抽出し、問題解決にあたる

3. 経済学の体系

- 理論経済学** 複雑な現実社会の経済的側面を抽象化・単純化し、その法則性を見つけ本質を探る
- 応用経済学** 複雑な現実社会の特定分野について、その特徴を抽出し、問題解決にあたる
- 経済史** 歴史を経済的側面から捉え、その社会的意義等を考察する
- 経済学史** 経済学自体の歴史、人物や時代背景との関係を考える
- 分析手法** 現実社会の経済動向等を把握し、その動向を予測する

3. 経済学の体系

- 理論経済学**
 - 近代経済学
 - ミクロ経済学(価格理論)
 - マクロ経済学(国民所得理論)
 - 政治経済学
 - マルクス経済学
- 経済史**
 - 日本経済史
 - 西洋経済史
- 経済学史**
 - 経済学史
 - 社会思想史
- 応用経済学**
 - 経済政策論
 - 財政学
 - 金融論
 - 日本経済論
 - 地域経済論
 - 海運経済論 など
- 分析手法**
 - 経済統計
 - 計量経済学

4. 主流派経済学における主体と市場

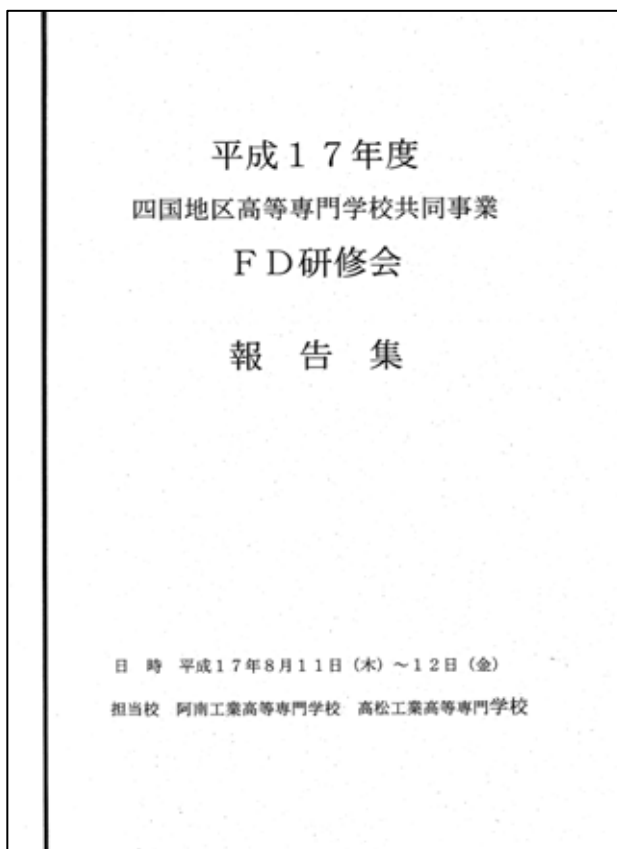
主体: モデル化する上で用いられる概念で同じ性質をもったグループ

家計 自己の効用や利潤を最大化しようとする利己的な存在

政府 社会の福祉水準などを最大化しようとする利他的な存在

出典：庶務課

資料 9 - 2 - - 5



平成17年度 四国地区高等専門学校FD研修会(英語科)日程表

平成17年8月11日(木)

13:00～13:20	受付		
13:20～13:30	開会挨拶	高松工業高等専門学校長	塩谷 幾雄
13:40～14:05	「英文多読授業の取り組みについて」	高松工業高等専門学校	市川 緑
14:10～14:35	「全校一斉英語学力試験結果分析と英作文の指導法」	新居浜高専高等専門学校	鴻上 政明
14:40～15:05	「少人数クラスでのオーラルの授業」	弓削商船高等専門学校	上江 憲治
15:05～15:25	休憩		
15:25～15:50	「基礎力の養成に配慮した授業実践について」	高知工業高等専門学校	大崎 秀樹
15:55～16:20	「英語合宿」	詫間電波工業高等専門学校	森 和憲
16:25～16:50	「高専におけるリーディング指導について」	阿南工業高等専門学校	勝藤 和子
	「学生による自己評価を用いたリスニング活動の取り組みと成果」	阿南工業高等専門学校	藤井 浩美
18:00～	懇親会		

平成17年8月12日(金)

9:00～12:00	四国高専共通試験検討会		
9:00～10:00	桐原書店・ELPA担当者による第一回四国高専共通試験の実施結果説明		
10:00～10:30	質疑応答		
10:45～12:00	四国高専共通試験についての意見交換		

出典：四国地区高等専門学校共同事業
FD研修会報告集

観点 9 - 2 - : ファカルティ・ディベロップメントが教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

教員の資質の向上のために本校教員のみならず近隣の中学・高校の教員に対しても公開授業が行われ、それに対するアンケート調査を行った(資料 9 - 2 - - 1)。また、平成 16 年度の授業評価アンケートでは、その結果を各教員に自己分析と改善点を指摘してもらい、教員の授業改善に対する関心を深めてもらった。これら冊子まとめとして各教室に配布した(資料 3 - 2 - - 2)。これに伴い、教育内容検討委員会において学生及び教員に改善点を明確にし(資料 9 - 2 - - 2)、その改善を促すために各教室に掲示した。さらに平成 17 年度にその改善点が見られたかというアンケートを行った(資料 9 - 2 - - 3)。

また、四国地区教員研究集会(資料 9 - 2 - - 5)など本校以外でも行われたものは、担当教員が得てきた情報をその他の教員へ報告する。さらに本校の教員研究懇談会に参加した教員に対してアンケートを行い(資料 9 - 2 - - 4)、四国地区での研究集会に不参加であった教員にも情報が行き渡り、教員同士の資質向上及び情報の共有に大いに役立っている。

(分析結果とその根拠理由)

ファカルティ・ディベロップメントに関する事業実施後は必ずアンケートを行い、教育の質の向上等に結びつけようと努力している。

授業評価アンケートを行った結果は、改善策を学生及び教員に冊子や教室に掲示するなど周知徹底させ、改善を図った。その改善策に対するアンケートも行われた。

以上のことからファカルティ・ディベロップメントが教育の質の向上や授業の改善に結び付いているといえる。

資料 9 - 2 - - 1

弓削商船高等専門学校公開授業に関するアンケート集計表

A. 参加者について

- | | |
|---------|---------|
| 1. 中学生 | [4 8] |
| 2. 引率教諭 | [5] |

B. 公開授業に参加して、全体としての感想はどうでしたか。

- | | |
|------------|---------|
| 1. よかった | [2 8] |
| 2. まあまあだった | [2 3] |
| 3. よくなかった | [1] |

○ よかった点

- ・ 実習内容(コンピュータ、金属加工)
- ・ 科の名前は知っていても実際にどういったことをするのかわかってなかったのが、今日の公開授業でよくわかりました。
- ・ 機械などいろんなシステムが目の前で見られて大変よくわかった。
- ・ いろいろな体験ができて今後の参考になった。
- ・ いろいろなことをしてとてもよかった。
- ・ 寮があつていいなと思った。

出典：教育内容検討委員会

- ・ 珍しくきれいだった。
- ・ 珍しい体験ができた。 2件
- ・ 機械のことがよくわかった。
- ・ 機械を動かしたてよかった。
- ・ エンジンなどがすごかった
- ・ たのしかった。 2件
- ・ 身近でできなかったことを体験できた。
- ・ おもしろかった 3件
- ・ いろいろな機械が見れた
- ・ ものを作った 2件
- ・ いろいろな点で勉強になった
- ・ 授業の様子が見れてよかった
- ・ 初めての体験ができてよかった
- ・ レーダーのときおもしろかった
- ・ 船の舵取りがおもしろかった 5件
- ・ シミュレーションが楽しかった 2件
- ・ 公開授業に参加してよかった
- ・ いろいろわかった 2件
- ・ 理解できた
- ・ 勉強になった
- ・ 船の操縦 3件
- ・ NC加工機での作成がおもしろかった
- ・ 実際に体験できたこと
- ・ 実習があったため内容的に関心をもつことができた
- ・ 授業の様子など参観できてよかった
- ・ 詳しく説明してくれた
- ・ いろんな事があった
- ・ 知らないことがたくさん知れてたのしかった
- ・ 色々普段体験できない様な事を体験できた
- ・ いろんなことができた

○ よくなかった点

- ・ もう少し機械化や商業化を拝見したかった。
- ・ みんなに何かをするとき見えなかった。
- ・ 階段の所でお菓子の袋があった。
- ・ 時間がなかった。 3件
- ・ 船に乗る時間が長かった。 2件
- ・ 高校生の服装が悪い。
- ・ 意味がわからなかった。 3件
- ・ 難しすぎた所もあった
- ・ 前の人で見えなかったところもある 2件
- ・ 「心」のプレートがもらえなかった
- ・ くさかった
- ・ 機械の操作とか難しそう
- ・ つかれた 2件
- ・ 歩き疲れた
- ・ バカには理解しにくい
- ・ 生徒がこわかった
- ・ あっかった、話ばかりでつらかった
- ・ 話ばかりだった
- ・ あっかった、授業がうるさい
- ・ 授業見るやつ
- ・ あっかった

出典：教育内容検討委員会

資料 9 - 2 - - 2

5. 授業改善についての方策

平成15年度は「学生による授業評価アンケート」の結果を踏まえて、今後の授業改善を積極的に推進するために、

(文系・理系授業共通)

1. 学生に向かって授業を行い、黒板相手に話をしない。
2. はっきりとした声で、分かりやすく話す。

(文系授業)

1. 国語や英語等は、辞書を引かせながら学習させる。

(理系授業)

1. 模型を見せたり、実際のサンプルに触れさせながら説明を行う。
などの「授業改善の具体的方策」を示した。(平成15年度報告書より抜粋)

平成16年度は、既に述べたように学生からの評価結果を、担当教員に自己分析と改善点を指摘してもらうことで、教員の授業改善に対する関心をさらに深めてもらうことにした。また、評価結果は、教員だけでなく、学生へも周知することにした。以下に、平成17年度に向けて、教員自らが提出された授業の改善指針を要約する。

1. 講義の到達目標を配慮しながら、講義が速くならないように工夫する。
2. 説明がよりわかりやすくなるように工夫する。
3. 板書が見やすくなるように工夫する。

教員から提出された授業の改善計画の実施状況は、本年度の学生による授業評価にて検証する予定である。

出典：教育内容検討委員会

資料 9 - 2 - - 3

7. アンケート用紙

学生による授業評価アンケート(平成17年度)

教育内容検討委員会

「より良い授業」を目指して、下記のような改善点を掲げて授業を実施してきました。本年度は、これらの点が改善できたかどうか、検証することになりました。平成18年度に受審する「機関別認証評価」に深く関係することになりますので、まじめに回答してください。

教員の改善点

1. 講義の到達目標を配慮しながら、講義が速くならないように工夫する。
2. 説明がよりわかりやすくなるように工夫する。
3. 板書が見やすくなるように工夫する。

学生の改善点

1. 積極的に授業へ参加する。(わからないことの質問など)
2. 授業はきちんとした姿勢で受ける。(いねむり、無駄話をしないなど)
3. 授業に対する準備を忘れない。(予習と復習、携行品のチェックなど)

以下、アンケートです。

質問1から質問3は、少し難しいかもしれませんが、個人の評価でなく教員全体の評価をしてください。

質問1. 授業の進む速さに、工夫・改善がされていると感じられましたか。

1. 改善された
2. どちらとも言えない
3. 改善されていない

質問2. 説明をわかりやすくするために、工夫・改善がされていると感じられましたか。

1. 改善された
2. どちらとも言えない
3. 改善されていない

質問3. 黒板の文字や図表の書き方に、工夫・改善がされていると感じられましたか。

1. 改善された
2. どちらとも言えない
3. 改善されていない

質問4から質問6は、あなた自身の評価をしてください。

質問4. 積極的に授業へ参加するようにしましたか。(わからないことの質問など)

1. 参加するようになった
2. どちらともいえない
3. 参加しなかった

質問5. 授業はきちんとした姿勢で受けるようにしましたか。(いねむり、無駄話をしないなど)

1. 受けるようになった
2. どちらともいえない
3. 受けなかった

質問6. 授業に対する準備はどうでしたか。(予習と復習、携行品のチェックなど)

1. 良くなった
2. どちらともいえない
3. 良くなっていない

ありがとうございました。

出典：教育内容検討委員会

資料 9 - 2 - - 4

教員研修会アンケート結果

1. 本日のFD研修報告会は有意義でしたか。

参考になった	…10名 // 名
参考にならなかった	…なし
どちらとも言えない	…3名

2. どのような点が参考（有意義）になったか。
 - ・FDに関する研究報告会は長い間開かれておらず、参加者の報告が学内に周知されていなかった。その意味で一步前進したと思われる。
 - ・各高専がどのような取り組みをしようとしているか、おおまかに把握できた。特に、FD教育システムにどのように取り入れているかと言う点、参考になった。
 - ・各校、各専門により様々な取り組みがなされているが、ノウハウや工夫の例が、具体的に知ることができた。自身の講義や実験、さらには学科や学校全体に適用できるものも多かった。
 - ・他校での取り組み状況が多少理解できた。
 - ・学科での授業への取り組み方法のみならず、学内の他学科の先生方の取り組み姿勢がわかり参考になった。
 - ・他高専の取り組みや他の先生の工夫している点、気になっていることを知ることができたから。
 - ・他高専の実態が少しわかった。
 - ・四国地区高専の状況がわかって参考になった。
 - ・他の高専の教育システムの現状に少しでも近づくことができた。
 - ・各高専でかなりシビアなFD運営が行われていることがわかった。
 - ・習熟度別クラスなど、他校での取り組みを参考にしている。

3. 参考にならなかった理由

なし

4. その他の意見
 - ・トップダウンでFD教育システムをドンと立ち上げる方法もあるが、個人ベースが数人単位で有機的に集まって新しい教育システムを創り出していくような環境、雰囲気づくりが大切ではないか。
 - ・個人的なFDも重要であるが、システムとして全学科、全学的に実施するのが重要であると感じた。全教員の平均的意識の向上が必要である。
 - ・教員の負担だけが増大するような感じがする。

出典：教務主事

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

図書館が主体となって教員研究懇談会が平成9年7月に第1回目を行なわれ、その後毎年4回程度開催し、本年3月の開催で42回目を数える。各教員の最新研究テーマの発表や四国地区教員研究集会など高専機構や他の機関で得てきた情報をその他の教員へ報告することによって、多くの教員から広く意見を交換し合い教員同士の資質向上及び情報の共有に大いに役立てている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準9の自己評価の概要

教育活動の実態を示すデータの収集・貯蓄する体制は整備されており、評価の実施体制は教務委員会が中心であったが、平成17年度より、教育内容検討委員会を設置するなどして充実されつつある。また、学内外の教育に関する意見の聴取については、「学生による授業評価」、「学習達成度評価」、「卒業生・企業によるアンケート」を実施し、報告書として教員及び学生に公表している。学外関係者の意見については、学外有識者などの提言を参考に教育改善を行った結果を「自己点検・評価報告書」として毎年公表し、継続的な教育状況の見直しに反映させている。

教育改善のための組織としては、教務委員会、自己点検・評価委員会、教育内容検討委員会が設置されていて、それぞれの下部組織であるワーキンググループと協力して教育の改善に努力している。さらに、平成9年7月より、毎年4回程度開催される教員研究懇談会がある。

個々の教員の改善活動とその状況の把握は、学生による授業評価アンケートを中心に、平成9年度より行われており、授業の改善に役立っている。

研究活動と教育の質の改善については、教員の研究テーマと卒業研究、授業の内容が連動しており、さらに研究内容を授業等に取り込む努力も行われている。

教員自身の教授能力を向上させるためのファカルティ・ディベロップメントに関しては、組織としての取り組みとして、年度初めに新任教員研修、教員相互の資質向上のため本校教員のみならず、近隣の中・高校教員に対しても公開授業が行われ、それに対するアンケート調査も行った。また、練習船「弓削丸」を様々な分野で活用していくため、商船学科以外の教員に対して弓削丸利用説明会を開催している。さらに、教員研究懇談会は、多くの教員から広く意見を交換し合い教員同士の資質向上及び情報の共有に大いに役立てられている。

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点10-1- : 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

本校の資産については、文部科学省から出資された土地及び建物・設備等を有しており、過大な債務はない(資料10-1--1, 資料10-1--2)。

(分析結果とその根拠理由)

良好である。

旧国有財産台帳記載分の土地、建物、設備については、全て出資金として引継がれている。

資料10-1--1

貸借対照表(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

資産科目	資産金額	負債・資本科目	負債・資本金額
[資産の部]	4,183,147,485	[負債の部]	203,558,756
流動資産	133,980,638	流動負債	109,266,014
現金及び預金	53,581,441	運営費交付金債務	0
現金	0	授業料債務	69,089,700
当座預金	0	承継剰余金債務	0
普通預金	53,581,441	預り施設費	455,000
定期預金	0	預り補助金等	0
その他預金	0	預り寄附金	16,118,500
有価証券	0	前受受託研究費等	1,500,000
有価証券	0	前受受託事業費等	0
受取手形	0	短期借入金	0
受取手形	0	1年以内返済予定長期借入金	0
未収学生納付金収入	68,848,350	未払金	2,569,819
未収学生納付金収入	68,848,350	未払消費税等	0
棚卸資産	1,244,830	未払費用	8,544,788
未成研究支出金	1,244,830	給与	3,911,468
未成事業支出金	0	法定福利費	39,216
貯蔵品	0	賃借料	0
未収入金	0	水道光熱費	1,629,292
未収入金	0	未払利息	0
前渡金	342,486	その他未払費用	2,964,812
前渡金	342,486	前受金	0
前払費用	9,359,491	預り金	10,988,207
前払費用	9,088,172	科学研究費	1,979,143
法定福利費	9,083,662	社会保険料	0
未経過賃借料	0	源泉所得税等	1,812,900
未経過保険料	4,510	職員宿舍貸付料	0
未経過支払利息	0	その他預り金	7,196,164
その他の前払費用	271,319	前受収益	0
未収収益	0	前受利息	0
未収収益	0	その他前受収益	0
短期貸付金	0	引当金	0
短期貸付金	0	賞与引当金	0
その他の流動資産	601,000	修繕引当金	0
仮払金	601,000	損害補償損失引当金	0
仮払消費税	3,040	その他の引当金	0
旅費仮払	0	その他の流動負債	0
立替金	0	仮受金	0
その他流動資産	0	その他の流動負債	0
徴収不能引当金	0	固定負債	94,292,742
徴収不能引当金	0	資産見返負債	90,015,703
貸倒引当金	0	資産見返運営費交付金等	45,904,730
貸倒引当金	0	資産見返運営費交付金	45,904,730
固定資産	0	資産見返授業料	0
有形固定資産	0	資産見返補助金等	0
建物	2,146,623,100	資産見返寄附金	1,217,965
建物	1,542,260,750	資産見返物品受贈額	42,893,008
建物附属設備	604,362,350	建設仮勘定見返運営費交付金等	0
建物減価償却累計額	-244,215,096	建設仮勘定見返運営費交付金	0
構築物	265,486,000	建設仮勘定見返授業料	0
構築物減価償却累計額	-84,087,276	建設仮勘定見返施設費	0
機械装置	0	建設仮勘定見返補助金等	0
機械装置減価償却累計額	0	建設仮勘定見返寄付金	0
船舶	415,587,050	長期預り金補助金等	0
船舶減価償却累計額	-64,603,662	長期預り金寄附金	4,277,039
車両運搬具	4,874,717	長期前受受託研究費等	0
車両運搬具減価償却累計額	-1,033,309	長期前受受託事業費等	0
工具器具備品	108,458,985	長期借入金	0
工具器具備品減価償却累計額	-26,793,163	長期未払金	0
土地	1,513,650,000	引当金	0
建設仮勘定	0	退職給付引当金	0

その他の有形固定資産	9,563,501	追加退職給付引当金	0
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	その他の引当金	0
無形固定資産	297,000	その他の固定負債	0
特許権	0	[資本の部]	3,979,427,928
借地権	0	資本金	4,310,788,000
実用新案権	0	政府出資金	4,310,788,000
意匠権	0	その他出資金	0
ソフトウェア	0	資本剰余金	-362,720,408
電話加入権	297,000	資本剰余金	31,750,501
その他の無形固定資産	0	資本剰余金施設費	15,015,000
著作権	0	資本剰余金運営費交付金	0
特許権仮勘定	0	資本剰余金授業料	0
投資その他の資産	5,359,000	資本剰余金補助金等	0
投資有価証券	0	資本剰余金寄附金	0
長期貸付金	5,359,000	資本剰余金目的積立金	0
長期前払費用	0	資本剰余金譲与	9,860,501
未収財源措置予定額	0	その他の資本剰余金	6,875,000
敷金・保証金	0	損益外減価償却累計額	-394,470,909
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順ずる債権	0	損益外固定資産除売却差額	0
その他の投資その他の資産	0	利益剰余金	32,537,836
[本支店勘定]	-160,801	前中期目標期間繰越積立金	0
[本支店]機構本部	-160,801	目的積立金	0
		目的積立金	0
		目的積立金	0
		目的積立金	0
		積立金	0
		当期末処分利益	32,537,836
		繰越欠損金	0
		当期末処理損失	0
		その他の有価証券評価差額金	0
資産科目合計金額	4,182,986,684	負債・資本科目合計金額	4,182,986,684

資料10 - 1 - - 2

資産保有状況一覧

固定資産保有状況一覧

	類型	面積又は数量	資産勘定科目額
弓削商船高等専門学校	土地	108,861.67 m ²	1,513,650,000
	建物	31,378.61 m ²	1,726,500,651
	建物附属設備	-	617,488,249
	構築物	-	265,486,000
	機械装置	-	0
	船舶	30 隻	415,587,050
	車両運搬具	-	4,874,717
	工具器具備品	-	111,593,985
	ソフトウェア	-	1,025,325
	電話加入権	-	297,000

建物の面積は延べ面積である。
平成18年3月末現在の保有状況である。

観点10 - 1 - : 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

機構本部から配分される運営費交付金・施設整備費補助金等の確保に加えて、寄附金(奨学寄附金)、共同研究、受託研究、科学研究費補助金等の外部資金の獲得により経常的収入を確保するこ

ととしている。そのため、「外部資金獲得に関する説明会」を開催したり、特に科学研究費補助金については、学内説明会を開き、申請の呼びかけ及び申請書の査読を行い、ブラッシュアップ後に申請を行うなど採択に向けた取り組みをしている（資料10-1-1、資料10-1-2）。

（分析結果とその根拠理由）

確保の状況は良好である。；運営費交付金及び施設整備費補助金等の基本的財源の確保は出来ている。各種競争的資金及び外部資金の獲得については、積極的に取り組んでいるものの、件数・金額共に伸び悩みの状態にある。安定した教育研究活動を展開する体制にするためには、競争的資金及び外部資金の安定確保に加えて、科学研究費補助金の採択率を向上させる等、今以上に競争的資金の積極的な獲得の必要がある。

資料10-1-1

国費関係 予算額（年度）別 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
金額	1,279,833	1,349,155	2,044,801	1,213,321	1,354,246

(千円)

国立学校	1,205,784	1,307,472	1,417,765		
運営費交付金				1,168,271	1,152,083
施設整備費	74,049	41,683	627,036	45,050	202,163

資料10-1-2

収入の確保等の状況(授業料等，外部資金等)

寄附金（奨学寄附金） (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	21	16	15	10	11
受入金額	8,133	10,775	10,005	12,162	7,223

共同研究 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	0	0	1	1	3
受入金額	0	0	1,000	1,000	1,720

受託研究 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	0	0	0	2	0
受入金額	0	0	0	924	0

受託事業 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
受入件数	0	0	0	0	0
受入金額	0	0	0	0	0

科学研究費補助金 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
交付件数	4	4	5	6	3
交付金額	6,600	5,200	6,600	7,000	2,600

授業料 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
金額	109,187	114,512	126,400	125,226	132,256

入学料及び検定料 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
金額	14,936	14,389	14,252	15,233	17,335

講習料 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
金額	73	99	71	50	38

学校財産貸付料 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
金額	618	551	509	952	452

職員宿舍貸付料(公務員宿舍貸付料) (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
金額	6,339	5,550	6,221	8,441	8,479

寄宿料 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
金額	2,025	2,473	2,557	2,532	2,787

刊行物売払代 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
金額	0	0	0	0	0

不用物品売払代 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
金額	0	0	0	0	0

学校災害共済掛金保護者負担金 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
金額	851	891	929	906	955

雑入 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
金額	0	0	90	18,832	1

労働保険料被保険者負担金 (千円)

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
金額	17	38	68	5,044	5,737

観点10 - 2 - : 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

高専機構会計規則第17条(訪問調査時に資料提示)において、理事長は年度計画に基づき予算実施計画を作成し、これに基づいて収入、支出を管理することになっている。これに伴い本校では、自己収入を含め、配分された運営交付金を予算の範囲内として効率的・効果的かつ適切な執行に努めている。年間の収入見込額及び所要額を概算要求書(訪問調査時に資料提示)にまとめ機構本部に提出している。収入見込額の内訳は、授業料・入学検定料と雑収入に大きく2分され、雑収入には、施設使用料等の外に受託研究、共同研究、寄附金、科学研究費等があり、受託研究等については、「運営委員会」で明示し、審議、決定の上、承認されて受け入れることになっている。一方、支出については、基本給等人件費の見込額及び手当、旅費等所要額を見込み計上している。これらを基本に機構本部から当初配分(訪問調査時に資料提示)があり、本校の当初配分(案)を試算し、運営委員会(訪問調査時に資料提示)で審議後、学内に配分している。運営委員会の決定は分科会を通じて学内に周知されている。収入、支出のバランスについては、四半期毎に「職員基本給等所要額調」(訪問調査時に資料提示)を作成している。内容は、これまでの支出実績と今後の所要額見込み、及びこれまでの収入実績と今後の収入見込額を報告することにより、収支のバランスを考慮しながら適正な執行に努めるようにしている。

(分析結果とその根拠理由)

収入見込、支出見込を的確に把握することで、収支のバランスは適正に保たれているのが現状である。

観点10 - 2 - : 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

平成17年度の収支については以下のとおりである(資料10 - 2 - - 1, 資料10 - 2 - - 2)。

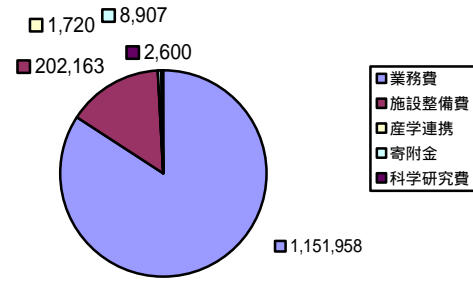
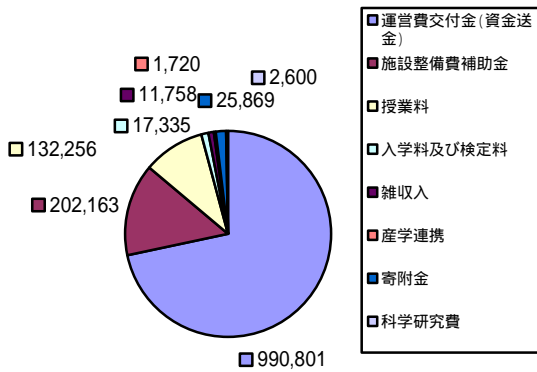
(分析結果とその根拠理由) 適正な予算管理がなされている。

資料10 - 2 - - 1

平成17年度の収入額及び支出額（単位：千円）

総収入額 1,384,502

総支出額 1,367,348



前年度繰越の寄附金18,646を含む

資料10 - 2 - - 2

損益計算書(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

勘定科目表示名称	明細金額	金額	合計金額	勘定科目表示名称	明細金額	金額	合計金額
[経常費用]				[経常収益]			
業務費				[経常収益]運営費交付金収益			985,986,811
教育・研究経費				[経常収益]授業料収益			
消耗品費		48,044,370		[授業料収益]授業料収益		143,457,900	
備品費		18,486,878		[授業料収益]講習料収益		38,400	143,496,300
印刷製本費		3,309,838		[経常収益]入学金収益			13,705,200
水道光熱費				[経常収益]検定料収益			363,000
電気料	16,924,877			[経常収益]受託研究等収益			
ガス料	297,883			受託研究収益		0	
水道料	1,713,811	18,936,571		共同研究収益		1,720,000	1,720,000
旅費交通費		10,399,921		[経常収益]受託事業等収益			0
通信運搬費		1,467,481		[経常収益]補助金等収益			0
賃借料		13,600		[経常収益]寄附金収益			8,026,514
車両燃料費		6,256,496		[経常収益]施設費収益			9,217,450
福利厚生費		0		[経常収益]資産見返負債戻入			
保守費		118,430		資産見返運営費交付金等戻入		12,192,795	
修繕費		24,595,747		資産見返補助金等戻入		85,444	
損害保険料		0		資産見返寄附金等戻入		1,376,830	
広告宣伝費		0		資産見返物品受贈戻入		11,811,092	
行事費		0		特許権仮助定見返運営費交付金戻入		0	25,466,161
諸会費		371,797		[経常収益]財務収益			
会議費		850		受取利息		757	
委託調査研究費		0		その他の財務収益		0	757
文献複写費		0		[経常収益]雑益			
支払派遣費		0		財産貸付料収入		11,718,467	
プログラム開発費		0		文献複写料		0	
支払報酬		0		物品受贈益		0	
諸謝金	1,063,536	1,063,536		債権受贈益		0	
奨学費				承継剰余金債務戻入		0	
奨学交付金		10,967,550		その他の雑益		0	11,718,467
留学生給与		0	10,967,550	[経常収益]合計			1,202,967,660
減価償却費		13,641,077		経常利益			912,206
貸倒損失		234,600		[臨時損失]			
貸倒引当金繰入額		0		[臨時損失]固定資産除却損			1,085,577
徴収不能引当金繰入額		0		[臨時損失]固定資産売却損			0
雑費				[臨時損失]災害損失			0
備船料		0		[臨時損失]その他の臨時損失			0
特許出願費		0		[臨時損失]合計			-1,085,577
移設撤去費		0		[臨時利益]			
損害賠償費		0		[臨時利益]固定資産売却益			0
雑役務費	6,536,987	6,536,987	164,445,729	[臨時利益]貸倒引当金戻入			0

教育研究支援費				[臨時利益]徴収不能引当金戻入	0
消耗品費		5,384,458		[臨時利益]退職給付引当金戻入	0
備品費		517,348		[臨時利益]資産見返負債戻入	
印刷製本費		261,840		資産見返運営費交付金等戻入	0
水道光熱費				資産見返補助金等戻入	0
電気料	2,263,385			資産見返寄附金戻入	0
ガス料	0			資産見返物品受贈額戻入	0
水道料	303,951	2,567,336		[臨時利益]その他引当金戻入	0
旅費交通費		5,743,693		[臨時利益]その他の臨時利益	0
通信運搬費		6,585,955		[臨時利益]合計	0
賃借料		6,095,250		[当期純利益(純損失)]	-173,371
車両燃料費		0		[目的積立金取崩額]	0
福利厚生費		0		[当期総利益(総損失)]	-173,371
保守費		3,308,474			
修繕費		53,550			
損害保険料		0			
広告宣伝費		0			
行事費		0			
諸会費		234,130			
会議費		0			
支払派遣費		0			
プログラム開発費		0			
支払報酬					
謝礼金	0	0			
減価償却費		9,798,722			
貸倒損失		0			
貸倒引当金繰入額		0			
徴収不能引当金繰入額		0			
雑費					
移設撤去費	0				
損害賠償費	0				
雑役務費	106,050	106,050	40,656,806		
受託研究費					
謝金		0			
旅費交通費		324,140			
人件費		46,953			
物件費		1,330,907			
減価償却費		0			
その他の受託研究費		0	1,720,000		
受託事業費					
謝金		0			
旅費交通費		0			
人件費		0			
物件費		0			
減価償却費		0			
その他の受託事業費		0	0		
教員人件費					
常勤教員給与					
常勤教員給与	324,304,396				
常勤教員賞与	121,479,658				
常勤教員賞与引当金繰入額	0				
常勤教員退職給付費用	45,378,597				
常勤教員法定福利費	7,187,254	498,349,905			
非常勤教員給与					
非常勤教員給与	16,063,100				
非常勤教員賞与	0				
非常勤教員賞与引当金繰入額	0				
非常勤教員退職給付費用	0				
非常勤教員法定福利費	81,106	16,144,206	514,494,111		
職員人件費					
役員報酬					
役員報酬	0				
役員賞与	0				
役員賞与引当金繰入額	0				
役員退職給付費用	0				
役員法定福利費	0	0			
常勤職員給与					
常勤職員給与	209,385,490				
常勤職員賞与	7,254,698				
常勤職員賞与引当金繰入額	0				
常勤職員退職給付費用	37,743,120				
常勤職員法定福利費	4,700,787	324,378,095			
非常勤職員給与					
非常勤職員給与	8,542,260				
非常勤職員賞与	508,022				
非常勤職員賞与引当金繰入額	0				
非常勤職員退職給付費用	55,320				
非常勤職員法定福利費	598,369	9,703,971	334,082,066		
一般管理費					
一般管理費					
消耗品費		9,041,887			
備品費		398,850			
印刷製本費		1,131,210			
水道光熱費					
電気料	1,447,722				
ガス料	0				
水道料	171,084	1,618,806			
旅費交通費		9,461,407			
通信運搬費		5,061,100			
賃借料		3,611,200			
車両燃料費		2,675,945			
福利厚生費		348,087			
保守費		7,797,905			
修繕費		341,254			
損害保険料		17,542			
広告宣伝費		0			
行事費		0			
諸会費		124,400			
会議費		0			
委託調査研究費		0			
支払派遣費		0			
プログラム開発費		0			
謝礼金		204,000			
支払手数料					
銀行手数料	431,905				
その他手数料	0	431,905			
租税公課					
自動車重量税	22,000				
固定資産税	2,047,300				
収入印紙代	0				
消費税等	0				
その他の租税公課	0	13,200			

固定資産税	2,047,300		
収入印紙代	0		
消費税等	0		
その他の租税公課	0	2,069,300	
減価償却費		1,322,385	
貸倒損失		0	
貸倒引当金繰入額		0	
徴収不能引当金繰入額		0	
雑費			
環境整備費	82,452,796		
移設撤去費	1,865,325		
雑役務費	16,681,438	100,999,559	146,656,742
財務費用			
財務費用			
支払利息		0	
その他の財務費用		0	0
雑損			
雑損			0
[経常費用]合計			1,202,055,454

観点10 - 2 - : 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点到に係る状況）

学内の予算配分においては、教育研究活動の活性化を図るため、校長裁量経費を設けている。校長裁量経費は、年度毎に重点事項に対する措置対応経費を決定し、運営費交付金保留額から優先的に使用できるように配分している。又、教育研究業績を基に校長に選抜された優秀教員に対して別途支援経費が配分される等傾斜配分している（訪問調査時に資料提示）。

（分析結果とその根拠理由）

優れている。；校長のリーダーシップのもと教育研究活動の活性化を図るために競争的環境を設け、研究の質の向上等に応じた有効な配分がなされている。重点事項経費を優先的に配分することにより、施設、設備等の環境も改善されている。

観点10 - 3 - : 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点到に係る状況） 独立行政法人通則法第38条により、国立高等専門学校機構は、全国高専を集計した財務諸表を作成し、当該事業年度終了後、三月以内に文部科学大臣に提出し、承認を受けることになっている。それを受けて、財務諸表は公表されることになっている。（前述資料10 - 2 - - 2）。

（分析結果とその根拠理由） 機構本部が全国高専を集計した連結決算として公表する予定である。

観点10 - 3 - : 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

（観点到に係る状況）

監査機能の充実に関する具体的方策として、外部評価を含め定期（年1回）及び必要に応じ随時監査を行うこととしている。平成17年度においては、四国地区高専間での相互監査を詫間電波高専と平成18年3月に実施した（資料10 - 3 - - 1）。

(分析結果とその根拠理由)

高専間での相互監査が実施出来、内部牽制及び財務会計上の処理の適正を確認した。

資料10 - 3 - - 1

平成18年3月実施

四国6高専相互監査事項一覧

留舎規則	・留舎選考基準の有無	【 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他() 】	11条	委任事項
	・留舎貸与の申請及び承認手続き状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	14条	委任事項
	・閉鎖前手留舎の有無及び措置状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	18条・20条	委任事項
	・留舎選定記録の備付の有無及びその状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	23条	委任事項
会計規則	・振込定元帳等の整理状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	13条・会計事務取扱規則第8条	
	・総勘定元帳及び補助簿における関係勘定科目の残高との照合	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	14条	
	・予算実施計画の作成の有無	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	17条・会計事務取扱規則第10条	委任事項
	・予算実施計画に基づく契約担当校及び出納命令校への連絡	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	18条	委任事項
	・預金口座又は貯金口座の名義(出納命令校)	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	19条	
	・収入金の収納期支払いへの充当の有無	【 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他() 】	23条	
	・収納金の払い込みに対する督促状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	24条・出納事務取扱規則第9条	
	・不良債権の処理状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	26条・出納事務取扱規則第9条	
	・未払金の回収記録及びその他の記録書類の取扱い・整理状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	27条・会計事務取扱規則第7条	
	・前払金の適否(前払い可能な経費等)	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	28条・会計事務取扱規則第15条	
	・前払いの適否(前払い可能な経費等)	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	29条・会計事務取扱規則第16条	
	・固定資産の管理状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	31条	
	・契約方法の適否(一般競争・指名競争・簡易契約)	【 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他() 】	32条～34条・契約取扱規則9条～14条	
・予定価格の適切な算定	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	36条・契約事務取扱規則16条～17条		
会計事務取扱規則	・事務の引継ぎの状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	3条	
	・科目等の訂正の状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	14条	

四国6高専相互監査事項一覧

出納事務取扱規則	・口座開設・廃止の手続き状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	3条	委任事項
	・現金、預金簿帳等の保管状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	4条	
	・収入金の請求、徴収、収納場所の状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	6条	
	・小切手の取扱状況	【 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	12条	
	・証憑書類の整理、保管状況(目付簿・番号簿)	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	16条	
不動産管理規則	・不動産の登記又は登録の状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	13条	
	・不用品の決定の状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	15条	委任事項
	・不動産の貸付手続き状況(貸付目的・使用料算定等)	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	20条	委任事項
	・無償貸付の状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	21条	
	・不動産の賃貸の状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	25条	
	・固定資産台帳の整理状況	【 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他() 】	26条	
物品管理規則	・有償貸付の状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	26条	
	・無償貸付の状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	27条	
	・不用品の決定の状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	28条・30条	委任事項
	・資産管理台帳・物品管理台帳・図書管理台帳等の整理状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他() 】	32条	
	・検査の状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	35条	委任事項
契約事務取扱規則	・見積書の取扱い状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	18条	
	・入札の公告の状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	19条	
	・検査調書の作成の状況	【 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	46条	
	・代金の支払の約定の状況	【 <input checked="" type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	54条	

四国6高専相互監査事項一覧

大型設備の調達に係る仕様策定等に關する取扱規則	・仕様策定委員会の設置の状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	3点
	・仕様策定委員会の構成員の状況	【 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	6点
	・委員の委嘱の状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	6点
機種選定規則	・委員会の設置の状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	3点
	・委員会の構成員の状況	【 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他(事例なし) 】	4点
金庫管理規則	・1号金庫の保管中の書類等の状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	4点
	・1号金庫の鍵の保管の状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	5点
	・学課室等の鍵の保管の状況	【 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> その他() 】	5点
	・金庫閉鎖点検確認簿の状況	【 <input type="checkbox"/> 適 <input type="checkbox"/> 否 <input type="checkbox"/> その他() 】	8点

平成18年3月3日に四国地区高専相互監査を実施しました。

監査員

新開電気工業高等専門学校

会計課 相原保良

会計課 船務係主任 平尾育子

大場 幸三郎
平尾 育子

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

いずれの観点においても、教育目標を達成するための財源の確保並びに予算の適正配分、及び適正かつ効率的予算執行に対する努力がなされている。

(改善を要する点)

運営費交付金等基本的財源は確保されているものの、戦略的競争基金や外部資金である寄付金、受託研究、共同研究の受入件数を増加させること、又、科学研究費等の申請件数及び採択率をあげること等が改善を要する

(3) 基準10の自己評価の概要

学校の目的を達成するための教育研究活動を円滑に行うには、継続的な財源の確保が必須であると考えている。本校における基本的財務の状況としては、「収支に関する計画」及び「その執行状況」とともに基準を満たしていると自己評価している。前述のとおり、教育研究活動を進めるために必要な資産を有している状況、授業料等の収入状況、機構本部からの運営費交付金等の予算配分の状況からみて、経常的な収入は確保されていると考えている。今後の国の財政を考慮すれば、機構本部からの予算配分額が減額されることは明確であることから、現在、伸び悩み状態にある科学研究費補助金、共同研究、受託研究費等の外部資金の獲得増を図ること、限られた財源を効率よく有効に使用するための経費削減が急務であると考えている。

基準 11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点 11 - 1 - 1 : 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点にかかるとの状況)

本校では、校長のリーダーシップの下、迅速な意思決定が行える態勢となっている(資料 11 - 1 - 1 - 1)。

学則第 9 条第 1 項により教務主事、学生主事、寮務主事を配置し、同第 2 項から 4 項でその役割を明確に定めている(資料 11 - 1 - 1 - 2)。また、委員会等においても、内部組織規則第 15 条により設置され、それぞれ規則を定めている(資料 11 - 1 - 1 - 3)。

各種委員会は、平成 16 年 12 月にそれまでの委員会組織を見直し、より効率的に意思決定が行えるよう、それらを整理統合、廃止並びに改正を行った(資料 11 - 1 - 1 - 4)。

また、内部組織規則第 13 条により運営委員会を設置し、校長を委員長に、各主事、各学科長、専攻科長、図書館長、情報処理教育センター長、地域共同研究推進センター長、各学科から選出された教員各 1 名、事務部長を委員に組織され、学則や規則、予算、管理運営等、学校の重要事項を審議することとしている(資料 11 - 1 - 1 - 5)。

さらに、本校の「校報第 58 号」で、校長、各主事、専攻科長、学科長、学級担任、各種委員会、事務組織について、それぞれ設置根拠、役割等について掲載し、本校の教職員全員に周知した(資料 11 - 1 - 1 - 6)。

(分析結果とその根拠理由)

本校は、校長のリーダーシップの下に、教務主事を副校長として、学生主事、寮務主事を校長補佐として配置し、迅速な意思決定ができる態勢になっている。

また、各種委員会においては、平成 16 年度に組織の見直しを行い、効率的で責任ある意思決定が行えるように改善された。

さらに、校長、各主事、学科長、学級担任や各種委員会等について、その役割を明確にして全教職員に周知している。

以上のことから、本校は校長、各主事、委員会等に役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える態勢であるといえる。

資料 11 - 1 - - 1

組織 Organization

組織図

Organization Chart



資料 11 - 1 - - 2

(教職員組織)

第8条 本校に、校長、教授、助教授、講師、助手、事務職員及び技術職員を置く。

2 教職員の職務は、学校教育法その他法令の定めるところによる。

(教務主事、学生主事及び寮務主事)

第9条 本校に教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

3 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

4 寮務主事は、校長の命を受け、学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

(事務部)

第10条 本校に庶務、会計及び学生の厚生補導に関する事務を処理するため事務部を置く。

(その他内部組織)

第11条 前2条に規定するもののほか、本校の内部組織は、別に定めるところによる。

出典：弓削商船高等専門学校学則

資料 11 - 1 - - 3

(運営委員会)

第13条 本校に、管理運営を円滑に行うため、運営委員会を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(教員会議)

第14条 本校に、校務の円滑な運営に資するため、教員会議を置く。

2 教員会議に関し必要な事項は、別に定める。

(各種委員会)

第15条 本校に、特定の事項を審議するため、必要に応じて委員会を置く。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

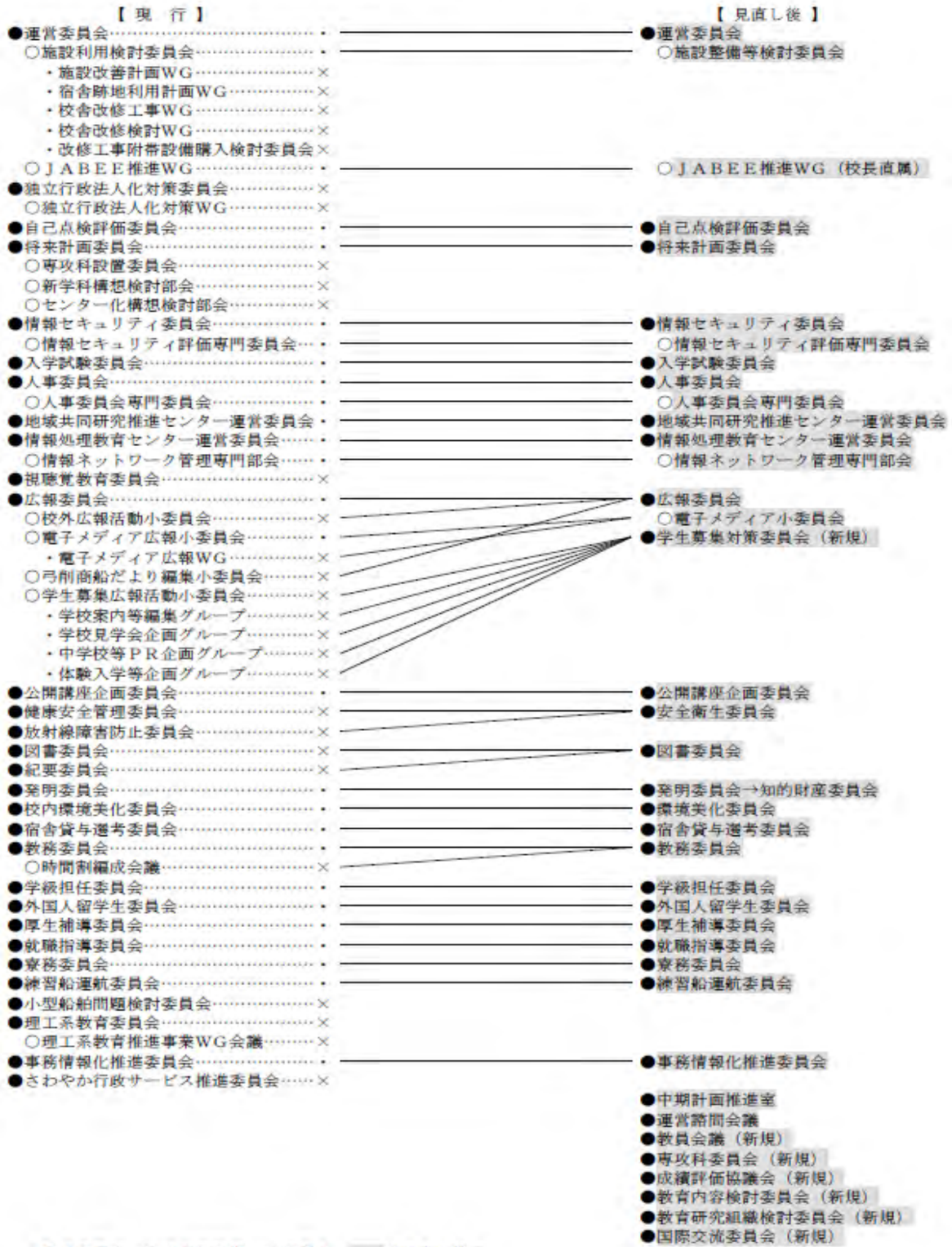
1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2 弓削商船高等専門学校学科長及び総合教育科長並びに進路指導主任に関する内規（昭和57年3月11日制定）は、廃止する。

出典：弓削商船高等専門学校内部組織

資料 11 - 1 - - 4

各種委員会整理・統合、廃止並びに改正 相関図



出典：庶務課

資料 11 - 1 - - 5

○弓削商船高等専門学校運営委員会規則

制 定 平成16年12月27日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第13条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じて、次の各号に掲げる重要事項について審議する。

- (1) 学則その他諸規則の制定改廃に関する事項
- (2) 予算に関する事項
- (3) 施設及び設備に関する事項
- (4) その他管理運営に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 各主事
- (3) 各学科長、総合教育科長及び専攻科長
- (4) 図書館長
- (5) 情報処理教育センター長及び地域共同研究推進センター長
- (6) 各学科及び総合教育科から選出された教員各1名
- (7) 事務部長

2 前項第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号に掲げる委員をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を主宰する。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、各課長をもって充てる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 弓削商船高等専門学校運営委員会規則（昭和53年12月22日施行）は、廃止する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 11 - 1 - - 6

管理運営

◇弓削商船高等専門学校の管理運営

高等専門学校には、校長の下に教員組織と事務組織があり（このことは、大学においても同様である。）、両者の有機的・効率的な連携のもとに、学校の運営組織が形成されている。

ちなみに、大学における管理運営機関としては、学長、学部長などのいわゆる独任制の機関と、教育研究評議会、教授会などの合議制の機関がある（大学には、重要な事項を審議するため、教授会が必置とされている。（学校教育法第59条）が、高等専門学校にはこの種（合議制）の規定はない。

したがって、高等専門学校は校長による独任制の機関であり、学校に置かれている運営委員会、教員会議を含む各種の会議（委員会）は、法令上の審議・議決機関、管理執行機関ではなく、校長の補助機関に当たるものであり、この点において校長の責任と権限は広くかつ重いものであると言える。

それゆえ、校長は各主事及び各種の会議等での意見を聴き、慎重な判断のもとに責任と権限を執行しているのである。

高等専門学校の組織の設置、構成、権限などについては、学校教育法、同法施行規則、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則、同本部事務局の組織等に関する規則などにより定められており、本校の管理運営については以下のとおりである。

校長

校長は、学校教育法第70条の7第1項に基づき置かれるものであり、同条第3項により「校務を掌り、所属職員を監督する。」ことが職務とされている。このことは、「独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則」（第5条第2項）にも同様に規定されている。

このほか、学校教育法施行規則に基づき、①学生の懲戒（退学、停学、訓告）②課程の修了又は卒業の認定③卒業証書の授与④授業終始の時刻の定め⑤学期及び休業日の定め⑥入学の許可⑦休学又は退学の許可などについて校長が行うこととなっている。

さらに、重要事項を審議する委員会等を主宰するとともに、国立の教育機関の長として、人事、会計などに関し、機構理事長から委任された事務を処理している。

主事

教員組織においては、教務主事、学生主事及び寮務主事が置かれ、それぞれ校長の命を受け、特定の範囲の校務を掌理している。（「学校教育法施行規則第72条の3」及び「独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第5条」）

教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理し、教授をもって充てることとなっている。

学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導（寮務主事の所掌に属するものを除く。）に関することを掌理、寮務主事は、校長の命を受け、寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理し、いずれも教授又は助教をもって充てることとなっている。

このほか、「弓削商船高等専門学校内部組織規則」（平成17年4月1日施行予定）第5条に基づき、教務主事に副校長を、学生主事及び寮務主事に校長補佐を命じ、校長の職務を補佐するとともに、校長から指示された特命事項を処理している。

また、別に定めるところにより、各種委員会の委員長の職務などを分担・処理している。

専攻科長、学科長、学級担任等

本校内部組織規則において、専攻科長、専攻主任、学科長、主事補、学級担任及び進路指導主任等の設置を規定し、校長等の命を受け、それぞれ特定の範囲の校務を処理している。

また、学内共同の教育研究施設を置き、その長の設置を規定し、校長のもとで特定の範囲の校務を処理している。

このように、学生の年齢層が若年であることもあって、学生の教育指導、生活指導に対して大きな配慮が払われており、大学に比較すればはるかに濃密な学生の指導が行われている。

各種委員会

高等専門学校の管理運営についての審議機関として、先に述べた機関のほかに全学的な各種委員会がある。

各種委員会は、より慎重な検討を必要としたり、また、専門的な判断を必要とする場合などに、それぞれ別に規則を定めて十分検討することとしている。

出典：校報第58号

実質的には、これらの委員会が重要な役割を果たしていることは、言うまでもない。

事務組織

事務組織においては、事務部長のもとに、学校の管理その他の事務を遂行するために課が置かれ（「国立高等専門学校機構の事務局の組織等に関する規則第9条」）、それぞれ課長（「国立高等専門学校機構の組織に関する規則第5条」）を置いて処理している。

今日の高等専門学校の業務が、複雑化・多様化し、校長の職務も極めて広範囲にわたり、かつ重要となっていることから、その職務を分担し、言うなれば「全学意思を速やかに結集し、校長がリーダーシップを発揮しやすい条件・環境を整え、全学の管理運営の効率化を図る。」ことが重要であり、各主事、部課長を始めとする各役職者はこれらのことを自覚し、有機的な連携を図り、校長のリーダーシップのもと、誤りのない方向へ導いていくことが必要である。

事務部長 白石健二

出典：校報第 58 号

観点 11 - 1 - 1 : 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

（観点到に係る状況）

管理運営に関する各種委員会については、校長が運営委員会、将来計画委員会等を、教務主事が教務委員会等、学生主事が厚生補導委員会等、寮務主事が寮務委員会をそれぞれ所掌し、役割を分担している。また、平成 16 年 12 月に、それまでの委員会組織を見直し、それらの規則を整理統合、廃止並びに改正を行い、役割をより明確にするとともに、さらに効果的に活動できるよう改善した（資料 11 - 1 - 1 - 1）。

事務組織は、事務組織規程に基づき、事務部長が置かれ、事務部長の下に庶務課、会計課、学生課の 3 課が置かれている。各課の事務分掌は、同規程により明確かつ適切に役割が分担され機能している（資料 11 - 1 - 1 - 2）。また、「部課長会」を定期的開催し、各課の懸案事項等を協議することによって、各課の横の連携をとっている。

（分析結果とその根拠理由）

管理運営に関する各種委員会は、校長、各主事がそれぞれ役割を分担し所掌している。また、平成 16 年度に組織が見直され、各委員会規則が整理統合等されており、その役割の明確化、効率化が図られている。事務組織においても、事務組織規程により各課の役割は明確にされ果たされている。

以上のことから、本校は管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動していると言える。

資料 11 - 1 - - 2

第 3 章 庶務 (弓削商船高等専門学校事務組織規程)

第 3 章 庶 務

○弓削商船高等専門学校事務組織規程

制 定 昭和48年4月1日

最終改正 平成18年3月22日

(目的)

第 1 条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則第 5 条及び独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第 9 条の規定に基づき、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び所掌事務の範囲を定めることを目的とする。

(事務組織)

第 2 条 本校に事務部を置く。

第 3 条 事務部に庶務課、会計課及び学生課を置く。

第 4 条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受け、事務部の事務を処理する。

第 5 条 庶務課、会計課及び学生課にそれぞれ課長を置く。

2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

第 6 条 課に課長補佐を置くことができる。

2 課長補佐は、課長の職務を補佐する。

第 7 条 庶務課、会計課及び学生課に専門員及び専門職員を置くことができる。

2 専門員は、上司の命を受け、高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を処理するとともに専門的見地から課長を補佐する。

3 専門職員は、上司の命を受け、専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を処理する。

第 8 条 学生課に技術専門職員を置く。

2 技術専門職員は、高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行う。

第 9 条 庶務課、会計課及び学生課に係を置く。

2 係にそれぞれ係長を置く。

3 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

4 係に主任を置くことができる。

5 主任は、係長の職務を助ける。

(所掌事務)

第 10 条 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

(1) 本校の事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。

(2) 機密に関すること。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

- (3) 儀式その他諸行事及び会議に関する事。
- (4) 学則その他諸規程等の制定及び改廃に関する事。
- (5) 学校の将来構想についての企画・立案の事務に関する事。
- (6) 中期計画及び年度計画に関する事。
- (7) 学校運営の点検評価に関する事。
- (8) 組織の設置及び改廃に関する事。
- (9) 地域との連携並びに学術交流及び研究協力の推進に関する事。
- (10) 事務機構の改善に係る企画・立案及び連絡調整に関する事。
- (11) 事務の情報化の推進に関する事。
- (12) 情報公開に関する事。
- (13) 個人情報保護に関する事。
- (14) 渉外に関する事。
- (15) 公文書類の接受、発送、編集及び保管に関する事。
- (16) 公印の管守に関する事。
- (17) 教職員の任免、解雇、懲戒及び服務等に関する事。
- (18) 教職員の給与に関する事。
- (19) 教職員の定員に関する事。
- (20) 教職員の研修及び勤務評定に関する事。
- (21) 教職員の健康管理、福祉及び災害補償に関する事。
- (22) 退職者の退職手当及び共済組合の長期給付に関する事。
- (23) 栄典及び表彰に関する事。
- (24) 人事記録に関する事。
- (25) 図書館の管理運営に関する事。
- (26) 図書館資料の受入れ並びに整理及び保存等に関する事。
- (27) 図書館資料の閲覧及び貸出し等利用に関する事。
- (28) 図書館における参考奉仕（検索指導及び読書相談等）に関する事。
- (29) 調査統計その他諸報告に関する事。
- (30) 校内警備取締りに関する事。
- (31) その他他の課の所掌に属しない事務を処理する事。

第11条 会計課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 予算及び決算に関する事。
- (2) 財務諸表に関する事。
- (3) 債権の管理に関する事。
- (4) 物品の管理に関する事。
- (5) 会計の監査に関する事。
- (6) 支出契約決議及び契約に関する事。
- (7) 収入、支出に関する事。
- (8) 現金及び有価証券に関する事。
- (9) 所得税等の徴収に関する事。
- (10) 不動産の管理及び処分に関する事。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

- (11) 土地及び建物の借入れに関する事。
- (12) 宿舎に関する事。
- (13) 科学研究費補助金等の経理に関する事。
- (14) 寄附金経理事務に関する事。
- (15) 共済組合の短期給付に関する事。
- (16) 会計諸規程に関する事。
- (17) 会計機関の公印の管守に関する事。
- (18) 土地、建物及び工作物の整備復旧に関する事。
- (19) 土地、建物及び工作物の維持保全に関する事。
- (20) 学校環境の整備保全に関する事。
- (21) その他会計経理及び管轄に関する事務を処理する事。

出

第12条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関する事。
- (2) 学生の修学指導に関する事。
- (3) 専攻科に関する事。
- (4) 外国人留学生に関する事。
- (5) 教育課程の編成及び授業に関する事。
- (6) 学生の学業成績の整理及び記録に関する事。
- (7) 学生の学籍に関する事。
- (8) 学生の実習に関する事。
- (9) 学生の課外活動に関する事。
- (10) 学生の補導及び相談に関する事。
- (11) 学生団体に関する事。
- (12) 学生の入学料、授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料免除に関する事。
- (13) 学生の奨学金に関する事。
- (14) 学生の厚生補導施設の管理運営及び厚生事業に関する事。
- (15) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関する事。
- (16) 学生の進路指導に関する事。
- (17) 学生の乗車（船）運賃割引証に関する事。
- (18) 学寮の管理運営に関する事。
- (19) 学生の入退寮に関する事。
- (20) 寮生の生活指導及び生活相談に関する事。
- (21) その他教務、厚生補導及び寮務に関する事務を処理する事。

（事務分掌）

第13条 事務分掌及び係の名称については、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、昭和48年4月1日から施行する。
- 2 弓削商船高等専門学校事務組織規程（昭和42年6月1日制定）は、これを廃止する。

附 則

出典：弓削商船高等専門学校規則集

この規程は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年10月27日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年3月22日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

観点 11 - 1 - : 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

管理運営に関する諸規定は、内部組織規則第 13 条 2 項及び 15 条 2 項に基づき、運営委員会規則及び各種委員会規則が定められている(資料 11 - 1 - - 1 ~ 3)。

なお、諸規則は独立行政法人化に伴い、高等専門学校機構規則との整合性が取れるよう整備した。

(分析結果とその根拠理由)

管理運営の諸規定は整備されていると言える。

資料 11 - 1 - - 1

(運営委員会)

第13条 本校に、管理運営を円滑に行うため、運営委員会を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(教員会議)

第14条 本校に、校務の円滑な運営に資するため、教員会議を置く。

2 教員会議に関し必要な事項は、別に定める。

(各種委員会)

第15条 本校に、特定の事項を審議するため、必要に応じて委員会を置く。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

出典：内部組織規則

資料 11 - 1 - - 2

第 2 章 組織及び運営 (弓削商船高等専門学校運営委員会規則)

○弓削商船高等専門学校運営委員会規則

制 定 平成16年12月27日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第13条第 2 項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、校長の諮問に応じて、次の各号に掲げる重要事項について審議する。

- (1) 学則その他諸規則の制定改廃に関する事項
- (2) 予算に関する事項
- (3) 施設及び設備に関する事項
- (4) その他管理運営に関する事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
 - (2) 各主事
 - (3) 各学科長，総合教育科長及び専攻科長
 - (4) 図書館長
 - (5) 情報処理教育センター長及び地域共同研究推進センター長
 - (6) 各学科及び総合教育科から選出された教員各 1 名
 - (7) 事務部長
- 2 前項第 6 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、前条第 1 項第 1 号に掲げる委員をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を主宰する。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事)

第 6 条 委員会に幹事を置き、各課長をもって充てる。

(庶務)

第 7 条 委員会の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成17年 4 月 1 日から施行する。
- 2 弓削商船高等専門学校運営委員会規則（昭和53年12月22日施行）は、廃止する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 11 - 1 - - 3

規則番号	規則等の題名	制定	最終改正
	第1章 学則		
1-1	弓削商船高等専門学校学則	S.44.1.1制定	H.18.2.16
	第2章 組織及び運営		
2-1	弓削商船高等専門学校運営委員会規則	H.16.12.27廃止制定	
2-2	弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会規則	H.4.5.14制定	H.16.12.27
2-3	弓削商船高等専門学校人事委員会規則	H.14.10.18制定	H.17.3.1
2-4	弓削商船高等専門学校人事委員会専門委員会設置要項	H.14.10.18制定	H.17.3.1
2-5	弓削商船高等専門学校教務委員会規則	S.58.9.20制定	H.17.3.1
2-6	弓削商船高等専門学校入学試験委員会規則	S.61.5.30制定	H.17.3.1
2-7	弓削商船高等専門学校厚生補導委員会規則	S.58.9.20制定	H.17.2.21
2-8	弓削商船高等専門学校学級担任委員会規則	S.46.4.1制定	H.17.2.21
2-9	弓削商船高等専門学校練習船運航委員会規則	S.45.11.1制定	H.17.2.21
2-10	弓削商船高等専門学校就職指導委員会規則	S.46.9.1制定	H.17.2.21
2-11	弓削商船高等専門学校情報処理センター規則	H.6.2.4制定	H.17.2.21
2-12	弓削商船高等専門学校情報ネットワーク管理専門部会規則	H.8.2.1制定	H.17.2.21
2-13	弓削商船高等専門学校情報セキュリティ規則	H.14.10.18制定	H.18.3.22
2-14	弓削商船高等専門学校情報セキュリティ委員会規則	H.14.10.18制定	H.17.3.1
2-15	弓削商船高等専門学校情報セキュリティ評価専門委員会規則	H.14.10.18制定	H.17.3.1
2-16	弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター規則	H.14.10.18制定	H.17.2.21
2-17	弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター運営委員会規則	H.14.10.18制定	H.17.2.21
2-18	弓削商船高等専門学校図書委員会規則	H.16.12.27廃止制定	
2-19	弓削商船高等専門学校安全衛生委員会規則	H.16.3.16制定	
2-20	弓削商船高等専門学校将来計画委員会規則	S.58.9.20制定	H.17.2.21
2-21	弓削商船高等専門学校広報委員会規則	H.2.3.6制定	H.16.12.27
2-22	弓削商船高等専門学校校内環境美化委員会規則	S.60.4.23制定	H.17.2.21
2-23	弓削商船高等専門学校寮務委員会規則	S.63.3.28制定	H.17.2.21
2-24	弓削商船高等専門学校事務情報化推進委員会規則	H.10.10.30制定	H.17.2.21
2-25	弓削商船高等専門学校中期計画推進室規則	H.16.11.18制定	
2-26	弓削商船高等専門学校運営諮問会議規則	H.16.4.21制定	
2-27	弓削商船高等専門学校環境マネジメント委員会規則	H.18.2.16制定	
2-28	弓削商船高等専門学校専攻科委員会規則	H.16.12.20制定	
2-29	弓削商船高等専門学校施設整備備検討委員会規則	H.17.2.21制定	
2-30	弓削商船高等専門学校国際交流委員会規則	H.17.3.16制定	
2-31	弓削商船高等専門学校内部組織規則	H.16.12.27制定	
2-32	弓削商船高等専門学校教員会議規則	H.16.12.27制定	
2-33	弓削商船高等専門学校学生募集対策委員会規則	H.16.12.27制定	
2-34	弓削商船高等専門学校教育研究組織検討委員会規則	H.16.12.27制定	
2-35	弓削商船高等専門学校成績評価協議会規則	H.16.12.27制定	
2-36	弓削商船高等専門学校教育内容検討委員会規則	H.16.12.27制定	
	第3章 庶務		
3-1	弓削商船高等専門学校事務組織規程	S.48.4.1制定	H.18.3.22
3-2	弓削商船高等専門学校事務分掌規則	S.48.4.1制定	H.18.3.22
3-3	弓削商船高等専門学校事務情報化推進室内規	H.11.8.27制定	
3-4	弓削商船高等専門学校文書管理規則	H.13.3.30制定	H.18.3.22
3-5	弓削商船高等専門学校文書処理規程	H.13.3.30制定	H.18.3.22
3-6	弓削商船高等専門学校公印規則	H.13.3.30制定	H.17.1.26
3-7	弓削商船高等専門学校公開講座規則	S.62.2.27制定	H.17.3.1
	第4章 人事		
4-1	弓削商船高等専門学校名誉教授称号授与規則	S.50.2.1制定	H.5.3.22
4-2	弓削商船高等専門学校名誉教授称号授与規則施行細則	S.50.2.1制定	H.17.12.14
4-3	弓削商船高等専門学校教員選考規則	H.14.10.18制定	H.17.11.24
4-4	弓削商船高等専門学校教員選考細則	H.14.10.18制定	H.17.11.24
4-5	弓削商船高等専門学校放射線障害防止管理規則	H.3.3.6制定	H.16.4.1
4-6	弓削商船高等専門学校職員の財産形成貯蓄等関係事務取扱要項	S.63.8.1制定	H.17.12.14
4-7	弓削商船高等専門学校職員の財産形成貯蓄等関係事務取扱要項細則	S.63.8.1制定	H.17.12.14
4-8	弓削商船高等専門学校セクシャル・ハラスメント防止等規則	H.11.7.8制定	H.17.12.26
4-9	弓削商船高等専門学校非常勤講師選考内規	H.6.6.16制定	H.17.11.24
	第5章 会計		
5-1	弓削商船高等専門学校宿舍貸与規則	S.49.4.1制定	H.17.1.18
5-2	弓削商船高等専門学校防火管理規則	H.17.1.18廃止制定	
5-3	弓削商船高等専門学校金庫管守規程	H.17.1.18廃止制定	
5-4	弓削商船高等専門学校債権管理事務取扱要領	S.63.4.1制定	H.17.1.18
5-5	弓削商船高等専門学校寄附金事務取扱規則	H.17.1.18廃止制定	

出典：庶務課

5-6	弓削商船高等専門学校授業料等徴収事務取扱要領	H.1.4.1制定	H17.1.18
5-7	弓削商船高等専門学校被服貸与規則	S.55.4.1制定	H17.1.18
5-8	弓削商船高等専門学校における大型設備の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項	H.3.8.20制定	H17.1.18
5-9	弓削商船高等専門学校における大型設備の調整に係る仕様策定等に関する取扱要項実施細目	H.3.8.20制定	H17.1.18
5-10	弓削商船高等専門学校青雲館使用規則	H.8.2.27制定	H17.1.18
5-11	弓削商船高等専門学校における購入物品の機種選定に関する取扱	S.59.12.20制定	H17.1.18
5-12	弓削商船高等専門学校野球場照明設備並び施設開放管理センター使用規程	S.55.4.1制定	H17.1.18
5-13	弓削商船高等専門学校野球場照明設備並び施設開放管理センター使用者心得	S.55.4.1制定	H17.1.18
5-14	弓削商船高等専門学校学術論文誌投稿取扱要項	S.62.2.25制定	H17.1.18
5-15	弓削商船高等専門学校毒物及び劇物取扱要領	H17.1.18廃止制定	
5-16	弓削商船高等専門学校出納役等の役職指定に関する規則	H.9.3.21制定	H16.7.5改正
5-17	弓削商船高等専門学校出納員の指定に関する要項	H16.7.5制定	
5-18	弓削商船高等専門学校会計機関の補助者の指定に関する規程	H16.7.5廃止制定	
5-19	弓削商船高等専門学校物品管理役等の役職指定に関する規則	H16.7.5制定	
5-20	弓削商船高等専門学校旅費規則	H16.12.10制定	
5-21	弓削商船高等専門学校在勤地等旅費支給基準	H16.12.10制定	
5-22	弓削商船高等専門学校在勤地等旅費支給事務の取扱	H16.12.10制定	H.18.4.1
5-23	弓削商船高等専門学校共同研究実施規則	H17.11.28廃止制定	
5-24	弓削商船高等専門学校受託研究実施規則	H17.11.28廃止制定	
5-25	弓削商船高等専門学校建設コンサルタント選定委員会要項	H17.1.18制定	
5-26	弓削商船高等専門学校取引金融機関選考要領	H17.1.18制定	
5-27	弓削商船高等専門学校公正人札調査委員会要項	H17.1.18制定	
5-28	弓削商船高等専門学校競争参加資格審査委員会要項	H17.1.18制定	
5-29	弓削商船高等専門学校支払日の指定に関する要項	H17.1.18制定	
5-30	弓削商船高等専門学校発注工事請負契約の保証に関する取扱規則	H17.1.18制定	
5-31	弓削商船高等専門学校不動産管理規則	H17.1.18廃止制定	
5-32	弓削商船高等専門学校不動産貸付取扱要領	H17.1.18廃止制定	
5-33	弓削商船高等専門学校施設管理運営委員会規程	H17.1.18制定	
5-34	弓削商船高等専門学校知的財産権取扱規則	H17.1.18廃止制定	
5-35	弓削商船高等専門学校会計実地監査規則	H17.1.18制定	
5-36	弓削商船高等専門学校教育研究施設の有効活用に関する要項	H17.1.18制定	
5-37	レーダーシミュレーターを利用した受託研修取扱要領	H.17.12.15制定	
5-38	弓削商船高等専門学校預り金事務取扱要項	H18.4.18制定	
	第6章 教務、学生		
6-1	弓削商船高等専門学校以外の教育施設における学修等に対する単位の認定に関する規則	H.6.2.4制定	H.18.3.22
6-2	弓削商船高等専門学校における留学に関する規則	H.6.2.4制定	H.18.3.22
6-3	弓削商船高等専門学校転科に関する規則	H.6.2.4制定	H.18.3.22
6-4	弓削商船高等専門学校学生準則	S.42.6.1制定	H.18.3.22
6-5	弓削商船高等専門学校学業成績の評価並びに進級・特別進級及び卒業の認定に関する規則	S.63.4.8制定	H.18.3.22
6-6	弓削商船高等専門学校編入学規則	H.5.3.22制定	H.18.3.22
6-7	弓削商船高等専門学校校外国人留学生規則	S.63.10.13制定	H.17.3.1
6-8	弓削商船高等専門学校研究生規則	H.3.7.10制定	H.18.3.22
6-9	弓削商船高等専門学校聴講生規則	S.63.10.13制定	H.18.3.22
6-10	弓削商船高等専門学校科目等履修生規則	H.5.2.10制定	H.18.3.22
6-11	弓削商船高等専門学校学生表彰規則	S.60.6.5制定	H.18.3.22
6-12	弓削商船高等専門学校服制規則	S.63.3.28制定	H.18.2.16
6-13	弓削商船高等専門学校入学料、授業料の免除及び徴収猶予並びに寄宿料免除規則	S.42.6.1制定	H.18.2.16
6-14	弓削商船高等専門学校実習船(はまかぜ)使用規則	S.53.6.23制定	H.18.2.16
6-15	弓削商船高等専門学校福利施設白雲館使用規則	H.13.1.4制定	H.18.2.16
6-16	弓削商船高等専門学校福利施設白雲館使用心得	H.13.1.4制定	H.18.2.16
6-17	弓削商船高等専門学校水泳プール使用内規	S.49.4.1制定	H.18.2.16
6-18	弓削商船高等専門学校水泳プール使用心得	S.49.4.1制定	H.18.2.16
6-19	日本学生支援機構弓削商船高等専門学校委員部規則	H.18.4.21廃止	H.18.3.22
6-20	弓削商船高等専門学校日本学生支援機構奨学生推薦選考内規	H.18.3.22廃止制定	
6-21	弓削商船高等専門学校近藤記念海事財団奨学金貸与規則	S.55.4.1制定	H.18.2.16
6-22	弓削商船高等専門学校学生の車両の運転免許取得及び使用等に関する規則	S.57.3.18制定	H.18.2.16
6-23	交通関係法令違反学生の指導基準	S.57.3.18制定	H.18.2.16
6-24	弓削商船高等専門学校無料船員職業紹介業務運営規則	H.17.12.26制定	
6-25	弓削商船高等専門学校無料職業紹介業務運営規則	H.17.12.26制定	
6-26	弓削商船高等専門学校職業紹介事業に係る個人情報適正管理規則	H.17.12.26制定	
6-27	弓削商船高等専門学校学生相談室規則	H.18.3.22制定	
	第7章 学寮		
7-1	弓削商船高等専門学校学寮管理運営規則	S.63.3.28制定	H.18.3.22
7-2	弓削商船高等専門学校学寮宿日直規則	S.46.1.1制定	H.18.3.22
7-3	弓削商船高等専門学校学寮指導要項	S.46.1.1制定	H.18.3.22

出典：庶務課

	第8章 図書館		
8-1	弓削商船高等専門学校図書館規則	H.16.12.27廃止制定	
8-2	弓削商船高等専門学校図書館利用規程	S.54.5.14制定	H.16.3.16
8-3	弓削商船高等専門学校図書館学外者利用内規	S.63.12.14制定	H.18.3.22
8-4	弓削商船高等専門学校図書館文献複写規程	S.63.12.14制定	H.18.3.22
8-5	弓削商船高等専門学校紀要編集等に関する申合せ	S.54.6.1制定	H.18.2.16
8-6	弓削商船高等専門学校紀要の投稿に対する留意事項	S.62.4.1制定	H.18.2.16
	第9章 共同利用施設		
9-1	弓削商船高等専門学校情報処理教育センター利用規則	H.9.3.17廃止制定	H.12.3.2
	第10章 学生会		
10-1	弓削商船高等専門学校学生会会則	S.44.4.1制定	H.18.2.16
10-2	弓削商船高等専門学校学生会細則	S.44.4.1制定	H.18.2.16
	第11章 その他		
11-1	弓削商船高等専門学校校章の制定について	S.59.2.6制定	

出典：庶務課

観点 11 - 2 - : 外部有識者の意見が管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

本校では、管理運営及び教育研究活動の状況を審議し、学校運営の一層の発展に資することを目的に、平成 16 年 4 月に運営諮問会議規則を制定し、同年 11 月 30 日に「第 1 回運営諮問会議」を開催した(資料 11 - 2 - - 1 ~ 2)。第 1 回会議で受けた提言は、「第 1 回運営諮問会議報告書」を作成し、全教員及び各課長に配布して提言内容の周知を図った(資料 11 - 2 - - 3)。さらに、関係の大学、中四国地区高専、近隣の教育委員会へ配布し、同時に本校ホームページへも掲載し公表した(資料 11 - 2 - - 4)。また、平成 17 年 7 月には「第 2 回運営諮問会議」を開催し、諮問事項の他に、第 1 回会議で受けた提言に対する本校の対応についても諮問委員によって審議された。第 2 回会議で受けた提言は、全教職員に電子メールにて送付し、さらに「第 2 回運営諮問会議報告書」を作成し、第 1 回会議同様、学内外へ公表した(資料 11 - 2 - - 5)。

運営諮問会議での提言は運営委員会で報告されたのち、自己点検評価委員会において本校の対応方法が検討され、各学科や各種委員会において実行されている。

具体例を挙げると、第 1 回会議で受けた提言「練習船『弓削丸』を活用した個性的な教育活動の充実」に対して、本校では「e-操船支援システムの開発」を個性的な教育活動の大きな柱として取り組んでいる(資料 11 - 2 - - 6)。

(分析結果とその根拠理由)

運営諮問会議において受けた提言は、運営委員会において報告され、全教職員へも周知されている。提言に対する学校の対応についても自己点検評価委員会において検討され、各学科や各種委員会において実行されている。

以上のことから、本校は、外部有識者の意見が管理運営に反映されているといえる。

資料 11 - 2 - - 1

○弓削商船高等専門学校運営諮問会議規則

制 定 平成16年4月21日

(設置)

第1条 弓削商船高等専門学校(以下「本校」という。)に弓削商船高等専門学校運営諮問会議(以下「会議」という。)を置く。

(目的)

第2条 会議は校長の諮問に応じ、本校の管理運営及び教育研究活動の状況について審議し、学校運営の一層の発展に資することを目的とする。

(組織)

第3条 会議は精深な学識を有すると認められる学外の委員をもって組織する。

2 前項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 会議に委員長を置き、校長が指名する。

2 委員長は、会議を主宰する。

(会議)

第5条 会議は、年1回以上開催する。

(資料)

第6条 会議に必要な資料は、弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会が準備する。

(結果の報告)

第7条 会議は、審議の結果を校長へ報告しなければならない。

(公表等)

第8条 校長は、前条の報告を受けたときは、学内外へ公表するとともに、本校の目的及び社会的使命の達成を図るものとする。

(庶務)

第9条 会議の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、校長が定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月21日から施行する。

2 この規則施行後最初に任命される第3条第1項の委員の任期は、同条第2項本文の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 11 - 2 - - 2

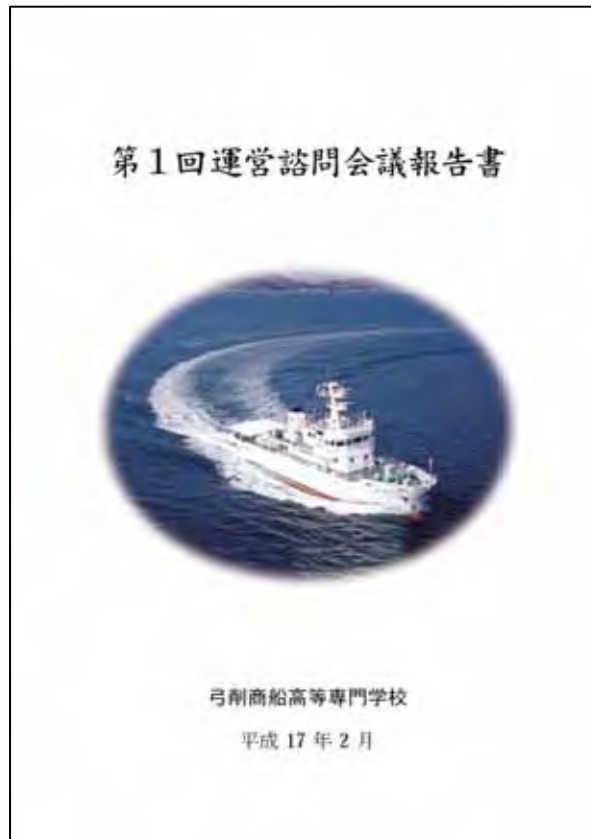
運営諮問会議委員名簿

	氏 名	現 職	分 野
委員長	にしだ おさみ 西 田 修 身	国立大学法人 神戸大学 理事 副学長	高等教育機関代表
委 員	うえむらとしゆき 上 村 俊 之	上島町長	地域社会代表
委 員	うまこしよしふみ 馬 越 義 文	今治市立伯方小学校長 愛媛県教育研究協議会今治・越智支部長	地元地域小中学校代表
委 員	おだわらてるあき 小田原 照 明	弓削商船高専同窓会長 (坂田汽船㈱代表取締役)	同窓会及び海運界代表
委 員	しらいしはるみ 白 石 春 美	財団法人 えひめ産業振興財団専務理事	産業界（工業）代表
委 員	むらかみゆうじ 村 上 祐 司	因島商工会議所会頭	産業界（商業）代表

(任 期) 平成16年8月1日～平成18年3月31日

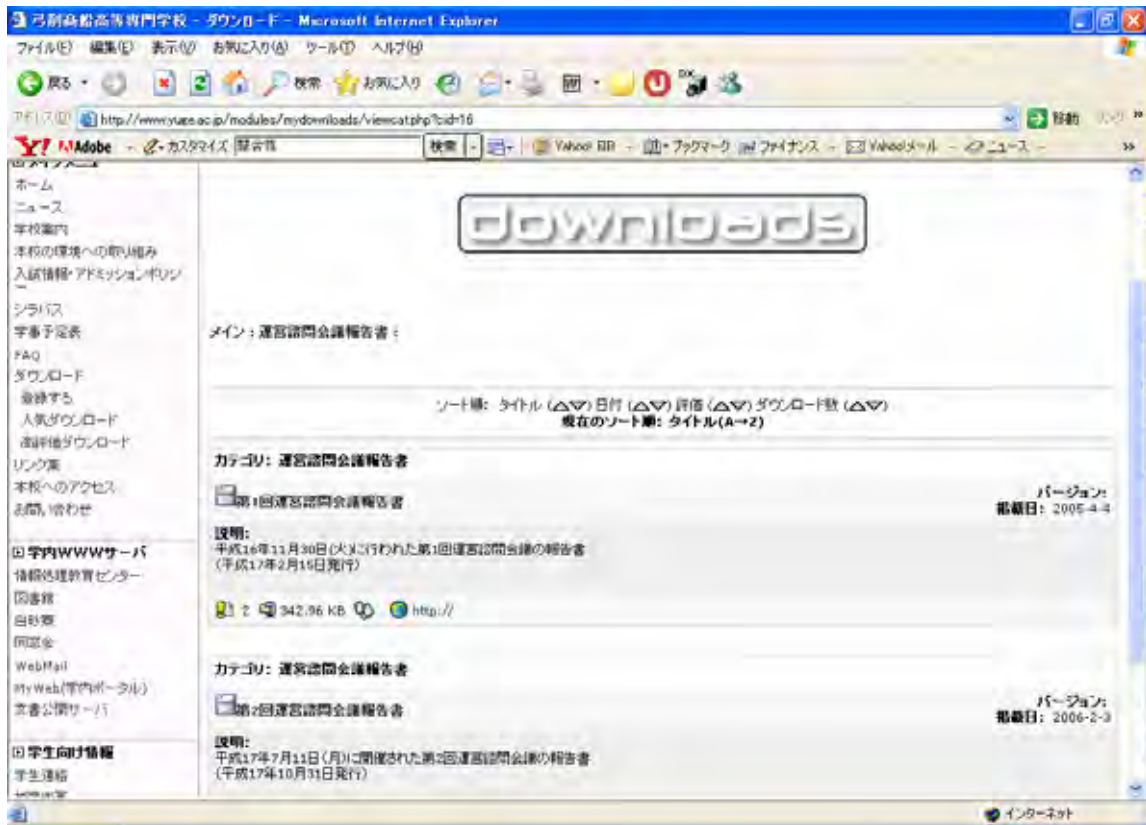
出典：庶務課

資料 11 - 2 - - 3



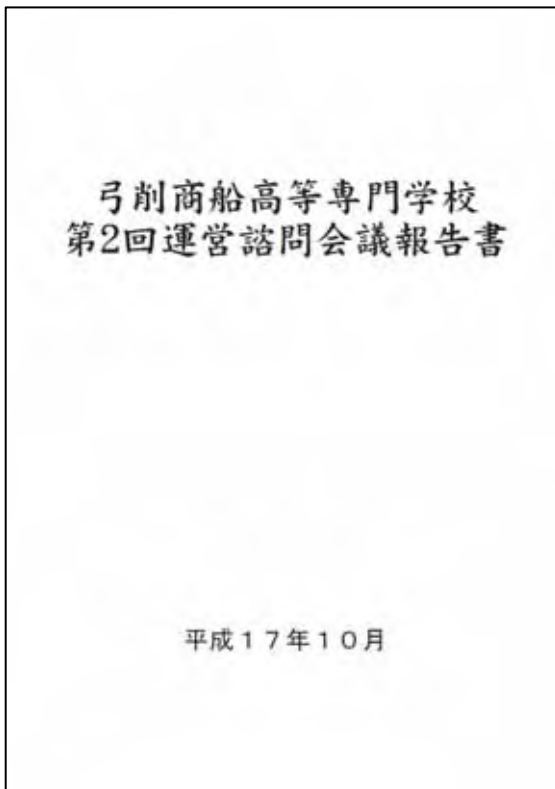
出典：第1回運営諮問会議報告書

資料 11 - 2 - - 4



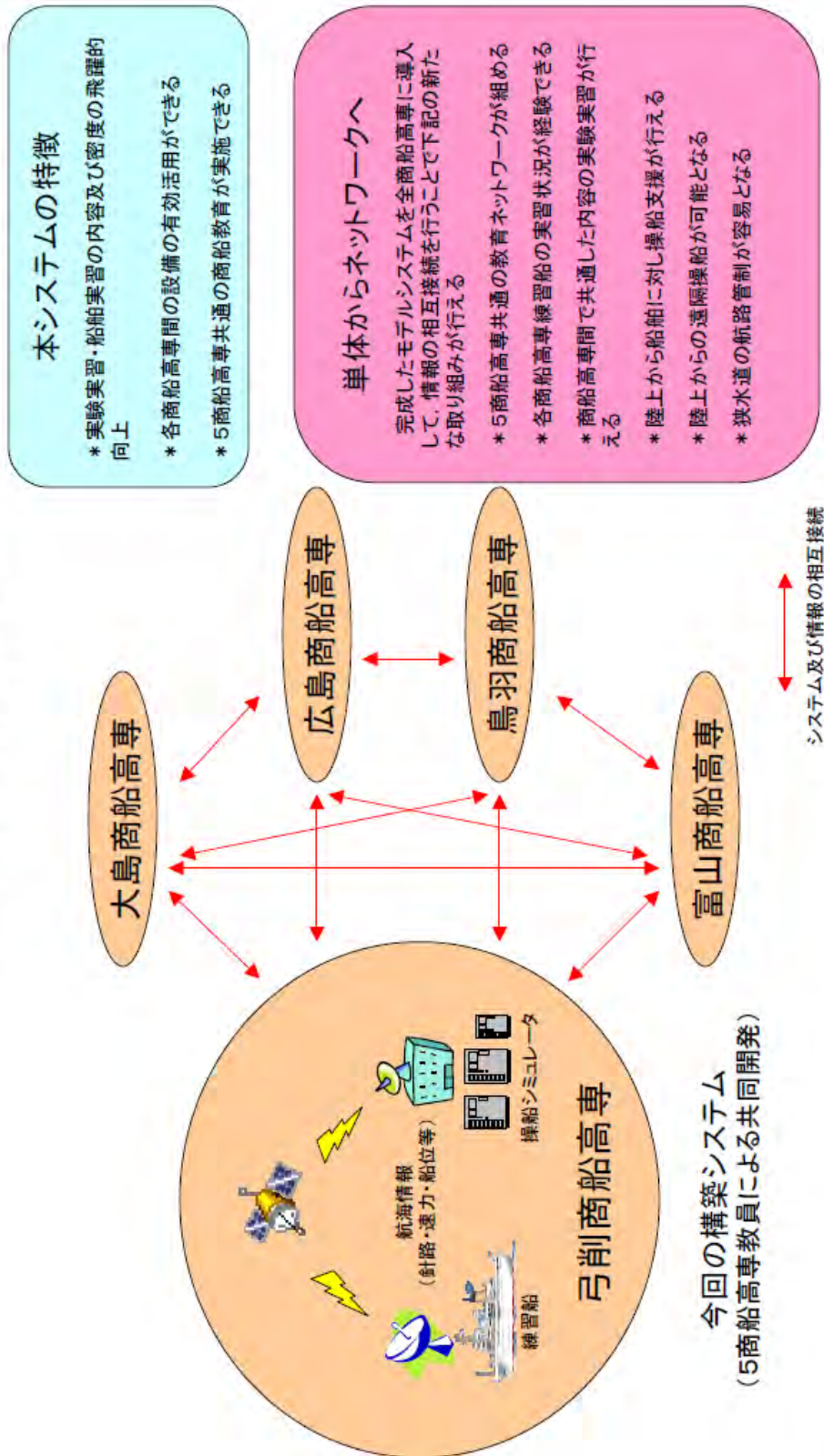
出典：本校ホームページ

資料 11 - 2 - - 5



出典：第2回運営諮問会議

図1 e—操船支援システムの概要— —5商船高専共同事業—



出典：商船学科

観点 11 - 3 - : 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では平成 4 年に自己点検・評価委員会を発足させ、教育研究、管理運営等の学校活動について自己点検・評価報告書を作成し公表してきた（資料 11 - 3 - - 1 ~ 2）。

平成 16 年度には、自己点検・評価委員会において学校の総合的な状況について「本校の現状と課題」を発行し、同年設置された「第 1 回運営諮問会議」ではその資料として活用した。また、高専機構本部、関係大学・高専、近隣の教育委員会等へ送付し公表した（資料 11 - 3 - - 3）。

平成 17 年度には、「第 1 回運営諮問会議」で受けた提言に対する本校の対応と結果について、自己点検・評価委員会で検討し、その内容をまとめた、「第 1 回運営諮問会議の提言を受けて」を発行し、平成 16 年度同様に公表した。

また、外部評価においても、平成 16 年 4 月に設置後、2 回に渡り、「個性的教育の進め方について」、「学生募集について」、「社会貢献について」、「専攻科について」を諮問し、提言を受けている。受けた提言については「運営諮問会議報告書」としてまとめ、学内外へ発送するとともに、本校のホームページへも掲載し公表している（資料 11 - 2 - - 4）。

（分析結果とその根拠理由）

平成 4 年に自己点検・評価委員会発足後、不断に自己点検・評価を実施してきている。平成 16 年度には、学校の総合的な状況に対し、「自己点検評価報告書 - 本校の現状と課題 - 」を発行し、関係機関や近隣の教育委員会等へ送付し公表している。また、平成 17 年度には、運営諮問会議で受けた提言について、学校の対応とその結果を自己点検評価委員会で検討し、「自己点検評価報告書 - 第 1 回運営諮問会議の提言を受けて - 」を発行し、平成 16 年度同様、関係機関へ送付し公表している。

以上のことから、自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、その結果が公表されていると言える。

資料 11 - 3 - - 1

○弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会規則

制 定 平成4年5月14日

最終改正 平成16年12月27日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）内部組織規則第15条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、本校の教育水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成することを目的とする。

- (1) 自己点検評価の実施方法等に関する事項
- (2) 自己点検評価の項目の設定に関する事項
- (3) 自己点検評価の結果の活用に関する事項
- (4) その他自己点検評価の実施に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 各主事
- (3) 各学科長、総合教育科長及び専攻科長
- (4) 図書館長
- (5) 情報処理教育センター長及び地域共同研究推進センター長
- (6) 各学科及び総合教育科から選出された教官各1名
- (7) 事務部長

2 前項第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、各課長をもって充てる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 11 - 3 - - 2

<p>平成7年度 自己点検評価委員会報告</p> <p>弓削商船高等専門学校</p>	<p>弓削商船高等専門学校の 現状と課題</p>  <p>平成11年11月 弓削商船高等専門学校</p>	<p>学寮の現状と課題 自己点検・評価報告書 2001年11月</p>  <p>＊ 弓削商船高等専門学校</p>
<p>自己点検・評価報告書 — 教務関係を中心として —</p> <p>平成14年3月 弓削商船高等専門学校</p>	<p>弓削商船高等専門学校自己点検・評価報告書 — 開かれた明るい環境を目指した学生指導 —</p> <p>2003年3月</p>	<p>自己点検・評価報告書 — 本校の現状と課題 —</p> <p>平成16年11月 弓削商船高等専門学校</p>
	<p>自己点検・評価報告書 — 第1回運営諮問会議の提言を中心にして —</p> <p>平成18年3月 弓削商船高等専門学校</p>	<p>出典：自己点検評価報告書</p>

資料 11 - 3 - - 3

自己点検・評価報告書、運営諮問会議報告書 送付先一覧

送 付 先	部数	備 考
高専機構本部	(5)	
理事長	1	
理事	1	
監事	1	
事務局長	1	
総務課	1	
(大学)	(7)	
東京海洋大学	1	
神戸大学海事科学部	1	
長岡技術科学大学	1	
豊橋技術科学大学	1	
愛媛大学	1	
広島大学	1	
九州工業大学	1	
(高専関係)	(9)	
四国地区高専	5	
商船高専	4	
(その他)	(1 6)	
運営諮問委員	6	
愛媛県教育委員会	2	上島町、今治市、
広島県教育委員会	4	因島市、尾道市、向島町、瀬戸田町
後援会長	1	
弓削商船高専同窓会	1	
愛媛県小・中学校長会	1	
(財)えひめ産業振興財団	1	
(校内)	(8 1)	
校長	1	
教員	5 3	
事務部長	1	
3課長	3	
事務保管	2 3	
計	1 2 0	

出典：庶務課

観点 11 - 3 - : 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような、システムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

自己点検評価や外部評価の評価結果はそれぞれ報告書にまとめ、全教職員に配布し周知している。また、自己点検評価委員会において、評価結果について対応方法を審議し、各学科や各種委員会において担当し実施している(資料 11 - 3 - - 1)。

他方、平成 16 年度に、高等専門学校機構の中期計画に沿った本校独自の中期計画・年度計画を策定し、実施に努めている。平成 16 年 11 月には中期計画推進室を設置し、年度計画の策定、実施を推進している(資料 11 - 3 - - 2)。年度計画の策定にあたっては自己点検評価結果や外部評価の結果を踏まえ策定し、実施についてはその進捗状況をまとめ、全教職員あて電子メールにて通知し、学内専用ホームページに掲載している(資料 11 - 3 - - 3)。

(分析結果とその根拠理由)

自己点検評価や外部評価の評価結果は、自己点検評価委員会において学校の対応について検討され、学科や各種委員会において改善に取り組んでいる。

さらに評価結果は年度計画にも反映され、中期計画推進室を通じて改善策への取り組みの推進とその結果をフィードバックしている。

以上のことから、本校では評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような、システムが整備され、有効に運営されていると言える。

資料 11 - 3 - - 1

平成 17 年度第 2 回自己点検評価委員会議事概要

日 時	平成 18 年 1 月 16 日 (火) 16:20~17:30
場 所	第一会議室
出席者	別紙名簿のとおり
配布資料	別添資料のとおり
議 題	1. 平成 17 年度自己点検評価報告書の作成について 2. 第 2 回運営諮問会議の提言について

議題 1 平成 17 年度自己点検評価報告書の作成について

委員長から、今年度の自己点検評価報告書の内容について、第 1 回運営諮問会議の提言に対する本校の対応及び第 2 回運営諮問会議の提言に対する本校の現状と対策を中心に作成したい旨の提案があり、了承された。

次に、第 1 回運営諮問会議の提言に対する本校の対応についての原稿作成担当者を審議した結果、下記 7 つの項目について、次のように決定した。

1. 練習船「弓削丸」を活用した個性的な教育活動の充実	教務主事
2. 地域社会のニーズを取り入れた実践的技術者の育成	＃
3. 入試制度の改善、ビデオメッセージなどを活用したPR活動	＃
4. マスメディアを活用した教育的成果の公開	＃ (情報処理教育センター長)
5. 公開授業の実施	教務主事
6. 専攻科教育を活かした地域産業への貢献	地域共同研究推進センター長 (専攻科長)
7. 県教委主催の会議、学警連等の会議や連絡会への参加	学生主事

また、上記以外で自己点検評価報告書に掲載すべき事柄について審議した結果、共同で実施されている現代G.P「創造性豊かな実践的技術者育成コースの開発」、WGで検討実施されている「創造性教育の実践」等を、上記7項目とは章を変えて掲載することで了承された。

なお、原稿提出については、資料2を参考に、2月17日（金）までに庶務課へ提出することとなった。

議題2. 第2回運営諮問会議の提言について

委員長から、第2回運営諮問会議において受けた提言について資料3に基づいて説明があった。それぞれの事項について対応すべき担当者を審議した結果、次のとおり決定した。

インターンシップ、キャリアサポート等を充実させ、学校と企業の協力体制の構築	各学科長
学生に福祉関係のボランティア活動を体験させるなどの社会教育の実践	学生主事
産業界のニーズ、学校のシーズをお互いに把握するための技術フォーラムなどの開催	地域共同研究推進センター長
船舶の管理、人の管理ができ、海上だけではなく様々な物流システムに対応できる、新しい時代の高度な実践的技術者の育成	専攻科長

なお、資料3の項目「若者に夢を与えられるような専攻科として、実績を残す」は、具体性に乏しく、対象の幅が広すぎるため、4つ目の項目と合わせることとなった。

また、上記の4つの項目についても、議題1の「第1回運営諮問会議の提言に対する本校の対応」同様に、各項目の担当者は本校の取り組み状況、今後の課題等について原稿を提出し、自己点検評価報告書の最後の章に「平成18年度の重点事項（仮称）」として掲載することとなった。

なお、原稿提出の期限については2月17日（金）となった。

出典：平成17年度第2回自己点検評価委員会議事概要

資料 11 - 3 - - 2

第 2 章 組織及び運営 (弓削商船高等専門学校中期計画推進室規則)

○弓削商船高等専門学校中期計画推進室規則

制 定 平成16年11月18日

(設置)

第 1 条 弓削商船高等専門学校に、中期計画、年度計画の実施を推進するため弓削商船高等専門学校中期計画推進室（以下「推進室」という。）を置く。

(業務)

第 2 条 推進室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 中期計画、年度計画の実施に関する事項
- (2) その他校長が指示する事項

2 推進室は、中期計画、年度計画の進捗状況について、関係学科等に指示できるものとする。

(組織)

第 3 条 推進室は、次の各号に掲げる室員をもって組織する。

- (1) 各主事
- (2) 事務部長
- (3) 校長が指名した教員 4 名
- (4) 庶務課長
- (5) 事務部から選出された者 3 名

2 前項第 3 号及び第 5 号の室員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(室長及び副室長)

第 4 条 推進室に室長及び副室長を置く。

- 2 室長及び副室長は、前条第 1 項第 1 号の室員の中から校長が指名する。
- 3 室長は、推進室に関する業務を総括する。
- 4 副室長は、室長の業務を補佐する。
- 5 室長に事故があるときは、副室長がその職務を代行する。

(庶務)

第 5 条 推進室に関する庶務は、庶務課において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成16年11月18日から施行する。
- 2 この規則の施行後最初に任命される第 3 条第 1 項第 3 号及び第 5 号の室員の任期は、同条第 2 項本文の規定にかかわらず、平成18年 3 月 31 日までとする。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 11 - 3 - - 3



出典：本校学内専用ホームページ

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準 11 の自己評価の概要

本校は、校長のリーダーシップの下に、教務主事を副校長として、学生主事、寮務主事を校長補佐として配置し、迅速な意思決定ができる態勢になっている。

各種委員会は、平成 16 年度に組織が見直され、各委員会規則が整理統合等されており、その役割の明確化、効率化が図られている。事務組織においても、事務組織規程により各課の役割は明確にされ、果たされている。

自己点検評価に関しては、平成 4 年に自己点検・評価委員会を発足させて以来、教育研究、管理運営等の学校活動について自己点検・評価報告書を作成し公表してきた。平成 16 年度には、学校の総合的な状況に対し、「自己点検評価報告書 - 本校の現状と課題 - 」を発行し、関係機関や近隣の教育委員会等へ送付し公表している。また、平成 17 年度には、外部有識者からなる運営諮問会議で受けた提言について、学校の改善策とその結果を自己点検評価委員会で検討し、その内容をまとめた「自己点検評価報告書 - 第 1 回運営諮問会議の提言を受けて - 」を発行し、平成 16 年度同様、関係機関へ送付し公表している。

また、外部評価については、平成 16 年 4 月に運営諮問会議規則を制定し、同年 11 月に第 1 回運営諮問会議を開催した。会議で受けた提言内容は、運営委員会において報告された後、全教職員に対し電子メールでその内容を周知するとともに、自己点検・評価委員会において学校の対応について検討し、改善に取り組んでいる。

さらに、平成 16 年度には、高専機構の中期計画に沿った本校独自の中期計画を策定し、同年 11 月には中期計画推進室を設置し、評価結果を踏まえた年度計画を策定し、推進している。

選択的評価事項に係る目的

選択的評価事項A 「研究活動の状況」に係る目的

本校は、学術の進展に即応した教育の質の向上、地域社会及び地域の産業の発展に貢献することを主な目的として、関連する研究活動を行うとともに、他研究機関との連携や共同研究、技術相談なども推進することになっている。中期計画の中では、特に以下の事項を掲げている。

研究の教育への還元に関する具体的方策として、「弓削丸」を活用した研究及び地域に根差した研究の還元、研究と教育の一体化（教育の一環としての研究）

地域の産業界からの技術相談、共同研究に対応するための研究の在り方や領域として、地域共同研究推進センターによる他機関との連携などの研究活動、研究テーマ、実績及び設備の広報活動

選択的評価事項B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本校は、地域住民等に対して練習船「弓削丸」や公開講座を活用することで、地域社会に開かれた高専づくりを目指している。地域社会との連携の基本的な考え方として、小学生から社会人まで幅広く教育サービスが提供できるように、「地域との交流を主眼においたテーマ」と「本校の特徴を活かしたテーマ」を念頭において実施している。また、中期計画において、社会のニーズに応えるために、以下の事項を掲げている。

地域社会等との連携・協力・社会サービス等に係る具体的方策（地域社会に対する技術紹介の促進・公開講座やセミナーの実施・施設及び設備の開放）

選択的評価事項A 研究活動の状況

(1) 観点ごとの分析

観点A-1- : 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校は商船学科、電子機械工学科、情報工学科の3学科及び総合教育科の55名の教員体制の中で、博士の学位取得の奨励及び学位を所持している者を新規に採用することで、学位取得教員が急増しており、これらを中心に各分野において幅広い研究を推進している。全教員の研究テーマや発表論文の状況については、教育研究者総覧を刊行し、広く社会に公表している(資料A-1- -1)。

練習船「弓削丸」を本校教員の研究や他研究機関との共同研究に有効に利用し、海洋及び船舶に関する研究の拠点として活用している(資料A-1- -2)。「弓削丸」の年間利用計画については、練習船運航委員会で立案している(資料A-1- -3)。

平成17年度から具体的に着手した全国5商船高専の連携によるプロジェクト研究「e-操船支援システムの開発」では、本校が中心となり、学科の枠を越えて選出された研究メンバーが各開発部門を担当し、卒業研究(資料5-2- -1-(1))など研究と教育の一体化を図りながら事業を進めている(資料A-1- -4)。

研究費の特別支援として、平成14年度より校長裁量経費を優れた研究課題、若手教員の奨励、本校の環境を活かした授業改善研究などへ重点的に予算配分している(資料A-1- -5)。

地域社会及び地域の産業の発展に貢献する研究の推進と本校における研究の活性化を図るため、平成14年10月に地域共同研究推進センターを設置した。同センターは、民間等外部の機関との連携を深め、地域産業の発展・育成に関わる技術分野について、技術相談、技術指導、共同研究等の要請に応え、かつ、リフレッシュ教育の積極的推進を図り、併せて、本校における研究水準の向上に寄与することを目的に活動している(資料A-1- -6)。主な活動内容は、共同研究の実施、受託研究・試験の実施、技術情報の提供、技術コンサルティング、相談の実施、保有設備の利用、技術教育・研修の実施、講演会・セミナーの実施などである。

校内組織としては、地域共同研究推進センター規則を定め、センター長、センター主任、センター研究員を配置している(資料A-1- -7)。同センターの円滑な運営を図るため地域共同研究推進センター運営委員会を設置し、センター長を委員長としてその下にセンター主任、各学科長、事務部長、各学科代表教員を委員とし、各課長を幹事とした体制を整備している(資料A-1- -8)。

同センター主催による外部資金獲得に関する説明会の実施(資料A-1- -9)、「因島ものづくり企業見学ツアー」への参加(資料A-1- -10)などの教員の研究活動の支援も行っている。

平成17年度には、同センター紹介の冊子を新たに作成・配布し(資料A-1- -6)、商船祭と連携して研究成果・シーズ公開のパネル展示を行い(資料A-1- -11)、その概要をまとめた冊子を配布するなど広報活動に努めている。また、四国地区6高専の研究者情報検索システム(四国地区6高専研究者データベース)が構築され、常時公開されている。

今年度の計画として、本校の技術と人材を活用し、愛媛県と広島県の沿岸と島嶼地域「しまなみ海道」エリアの産業界との連携を密にし、地場産業の技術の振興と地域社会の発展に寄与することを目的として、「弓削商船高等専門学校技術振興会(仮称)」の設立を予定している(資料A-1- -12)。

事務組織による研究活動支援としては、校内メールによる各種助成の応募案内、文部科学省科学研

研究費補助金の案内と説明会（資料 A - 1 - - 13）, 文部科学省の内地研究員制度及び在外研究員制度の事務サポートなどを行っている。

(分析結果とその根拠理由)

本校の研究の目的の達成のために、練習船「弓削丸」の共同研究利用、プロジェクト研究「e-操船支援システムの開発」の推進などが組織的に行われている。また、研究費の特別支援として、校長裁量経費が重点的に配分され、事務的な支援も適切に実施されている。地域社会及び地域の産業の発展に貢献する研究の推進のため地域共同研究推進センターが設置され、校内の教員と地域及び産業界との連携を図ることができる研究体制、支援体制が整備されており、技術振興会設立へ向けての準備を進めている。

以上のことから、本校の研究の目的に照らして、研究活動の実施や支援のための体制が整備され、機能している。

資料 A - 1 - - 1



出典：教育研究者総覧

資料 A - 1 - - 2

弓削丸を利用した共同研究

研究題目	燈灘西部の残差流観測	研究題目	瀬戸内海の有機物および窒素の挙動の調査
研究期間	平成 16 年 7 月 29 日(木) ～平成 16 年 8 月 1 日(日) 平成 16 年 8 月 9 日(月) ～平成 16 年 8 月 11 日(水)	研究期間	平成 17 年 8 月 7 日(日) ～平成 17 年 11 月 30 日(水)
研究代表者	情報工学科 教授 塚本 秀史	研究代表者	商船学科 教授 多田光男
研究者	商船学科 教授 多田 光男	研究者	弓削丸船長・助教授 豊田利彦
〃	商船学科 助手 二村 彰	〃	弓削丸機関長・助教授 松永直也
〃	第一実習係 技官 岩崎 和志	〃	情報工学科・教授 塚本秀史
共同研究者	愛媛大学沿岸環境科学研究センター 助教授 郭 新宇	共同研究者	京都大学農学部 教授 藤原建紀 助手 吉永郁生 博士課程 1 田口二三生 修士課程 2 國井麻妃 他 養殖研究所・主任研究員 阿保勝之
研究題目	瀬戸内海の豊かさを支える生物生産性の維持機構	共同研究費	100 千円
研究期間	平成 16 年 8 月 2 日(月) ～平成 16 年 8 月 3 日(火)	研究題目	伊予灘の底部冷水に伴う残差流
研究代表者	商船学科 教授 多田 光男	研究期間	平成 17 年 7 月 26 日(火) ～平成 17 年 8 月 30 日(火)
研究者	情報工学科 教授 塚本 秀史	研究代表者	商船学科 講師 二村 彰
〃	商船学科 助教授 地本 直弘	共同研究者	弓削丸船長・助教授 豊田利彦
〃	商船学科 助手 豊田 利彦	〃	弓削丸機関長・助教授 松永直也
〃	商船学科 助手 二村 彰	〃	弓削丸一等航海士・助手 永本和寿
共同研究者	京都大学大学院農学研究科 応用生物科学専攻 教授 藤原 建紀	〃	弓削丸一等航海士・助手 渡部和美
研究題目	伊予灘の底部冷水に伴う残差流観測	共同研究者	愛媛大学沿岸環境科学研究センター 助教授 郭新宇 COE 研究員 張弼勳 他
研究期間	平成 16 年 8 月 23 日(月) ～平成 16 年 8 月 27 日(金)	共同研究費	20 千円
研究代表者	情報工学科 教授 塚本 秀史	研究題目	伊予灘の底部冷水に伴う残差流Ⅱ
研究者	商船学科 助教授 地本 直弘	研究期間	平成 17 年 12 月 5 日(火) ～平成 17 年 12 月 28 日(木)
〃	商船学科 助教授 松永 直也	研究代表者	商船学科 講師 二村 彰
〃	商船学科 助手 豊田 利彦	共同研究者	弓削丸船長・助教授 豊田利彦
〃	商船学科 助手 二村 彰	〃	弓削丸機関長・助教授 松永直也
共同研究者	愛媛大学沿岸環境科学研究センター 助教授 郭 新宇	〃	弓削丸一等航海士・助手 永本和寿
研究題目	伊予灘の底部冷水に伴う残差流	〃	弓削丸一等航海士・助手 渡部和美
研究期間	平成 17 年 7 月 26 日(火) ～平成 17 年 8 月 30 日(火)	共同研究者	愛媛大学沿岸環境科学研究センター 助教授 郭新宇 COE 研究員 張弼勳 愛媛大工学部・4 回生 大井美沙
研究代表者	商船学科 講師 二村 彰	共同研究費	20 千円
共同研究者	弓削丸船長・助教授 豊田利彦		
〃	弓削丸機関長・助教授 松永直也		
〃	弓削丸一等航海士・助手 永本和寿		
〃	弓削丸一等航海士・助手 渡部和美		
共同研究者	愛媛大学沿岸環境科学研究センター 助教授 郭新宇 COE 研究員 張弼勳		
共同研究費	20 千円		

出典：庶務課

資料 A - 1 - - 3

○弓削商船高等専門学校練習船運航委員会規則

制 定 昭和45年11月1日

最終改正 平成17年2月21日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第15条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校練習船運航委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 練習船の年間運航計画に関する事項
- (2) 練習船の臨時運航計画に関する事項
- (3) 練習船の維持保全に関する事項
- (4) 練習船の予算に関する事項
- (5) その他、練習船の運航に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科長及び総合教育科長
- (3) 弓削丸船長及び機関長
- (4) 地域共同研究推進センター長
- (5) 各課長

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1号及び第2号の委員のうち、校長が指名する商船学科所属の者をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

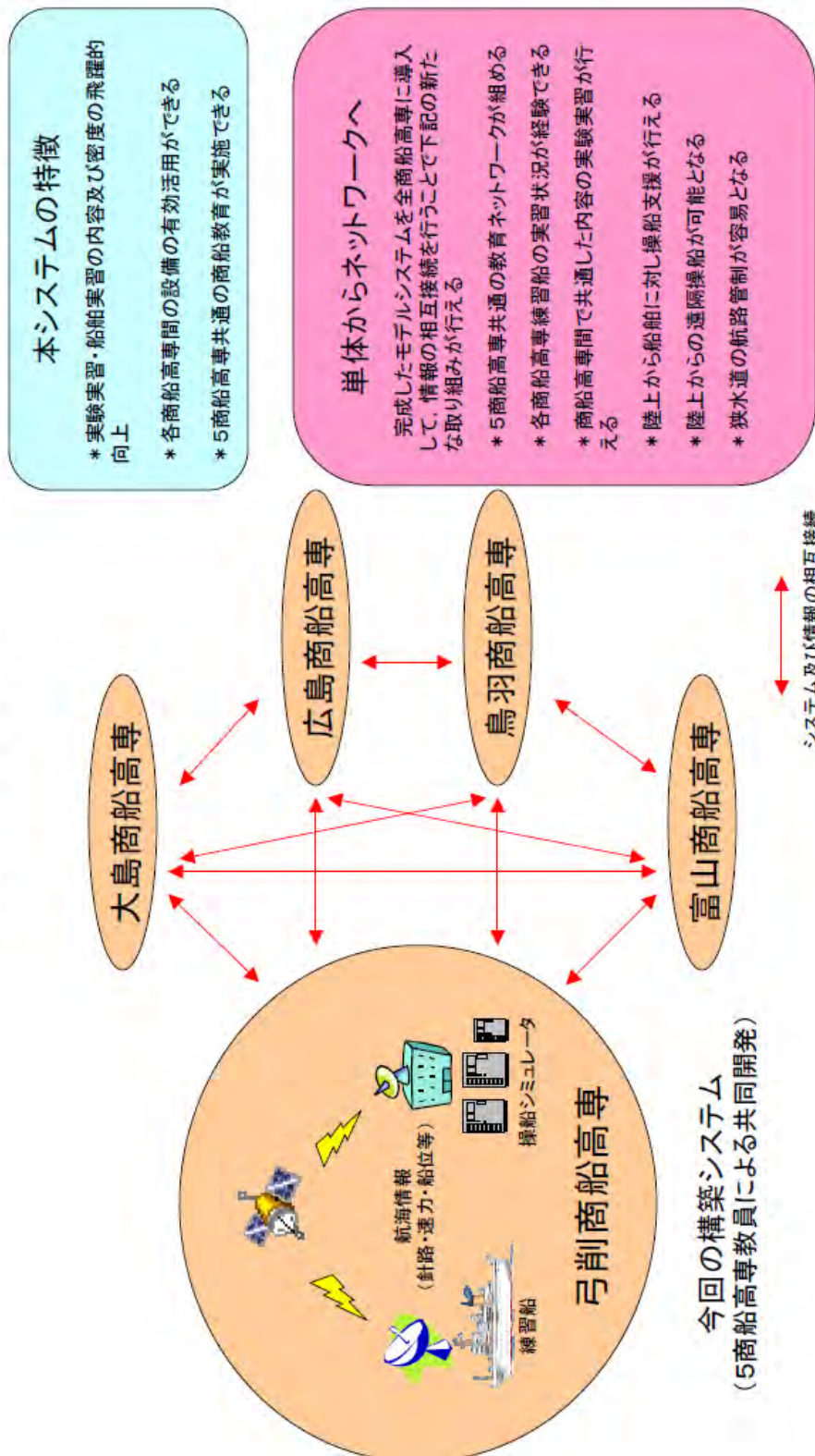
(雑則)

第7条 この規則の定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が定める。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 A - 1 - - 4

図1 e—操船支援システムの概要— —5商船高専共同事業—



出典：平成17年度自己点検評価報告書

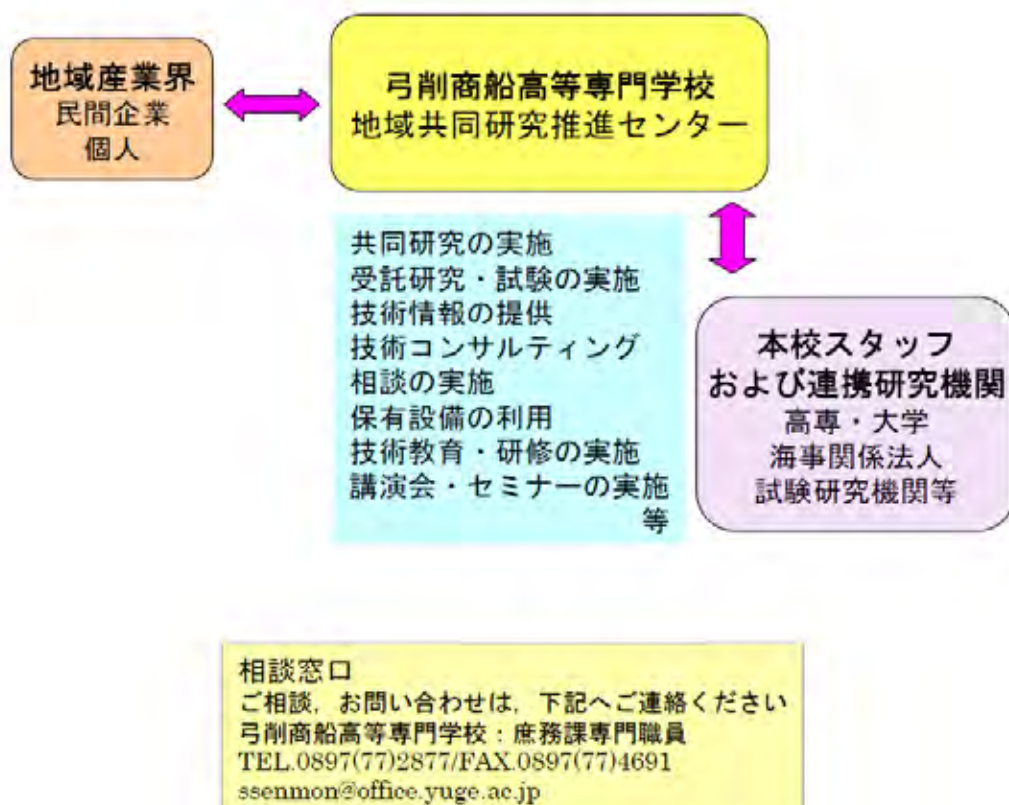
資料 A - 1 - - 6

1. 推進センターってどんなところ？

地域共同研究推進センター

本推進センターは、民間等外部の機関との連携を深め、地域産業の発展・育成に関わる技術分野について、技術相談、技術指導、共同研究等の要請に応え、かつ、リフレッシュ教育の積極的推進を図り、併せて、本校における研究水準の向上に寄与することを目的に平成14年10月に設立しました。

推進センターの活動内容



出典：地域共同研究推進センターパンフレット

資料A - 1 - - 7

○弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター規則

制 定 平成14年10月18日

最終改正 平成17年2月21日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）内部組織規則第3条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、民間等外部の機関との連携を深め、地域産業の発展・育成に関わる技術分野について、技術相談、技術指導、共同研究等の要請に応え、かつ、リフレッシュ教育の積極的推進を図り、併せて、本校における研究水準の向上に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本校と地域産業との交流に関すること。
- (2) 共同研究、研究協力等の推進に関すること。
- (3) 技術相談に関すること。
- (4) 技術に関する講演会、講習会、研修会等の開催及び情報誌の発行に関すること。
- (5) 企業社員の研修等育成支援事業に関すること。
- (6) 本校の教育研究の振興に関すること。
- (7) その他、センターの目的達成に必要な事業に関すること。

(組織)

第4条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
 - (2) センター主任 1名
 - (3) センター研究員 若干名
- 2 センター長は、本校の教授又は助教授の中から校長が任命する。
- 3 センター主任は、本校の教授又は助教授の中からセンター長の推薦により、校長が任命する。
- 4 研究員は、本校教員の中からセンター長の推薦により、校長が任命する。
- 5 センター職員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長及びセンター主任に欠点が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター長及びセンター主任の職務)

第5条 センター長は、センターの管理運営に関し総括する。

2 センター主任は、センター長を補佐する。

(センター運営委員会)

第6条 センターの円滑な運営を図るため、弓削商船高等専門学校地域共同研究推進

センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関し必要な事項は別に定める。

（庶務）

第7条 センターに関する庶務は、庶務課において処理する。

（雑則）

第8条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成14年10月18日から施行する。

2 この規則施行後最初に任命される第4条第1項第1号及び第2号の職員の任期は、同条第3項本文の規定にかかわらず、平成15年3月31日までとする。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 A - 1 - - 8

○弓削商船高等専門学校地域共同研究推進
センター運営委員会規則

制 定 平成14年10月18日

最終改正 平成17年2月21日

（趣旨）

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター規則第6条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

（審議事項）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理運営の基本方針に関する事項
- (2) センターの事業計画に関する事項
- (3) 研究組織に関する事項
- (4) 研究テーマに関する事項
- (5) その他センターの運営に関する事項

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) センター主任
 - (3) 各学科長、総合教育科長及び専攻科長
 - (4) 事務部長
 - (5) 各学科及び総合教育科から選出された教員各1名
- 2 前項第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を主宰する。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

- 第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事)

- 第6条 委員会に幹事を置き、各課長をもって充てる。

(庶務)

- 第7条 委員会の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

- 第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成14年10月18日から施行する。
- 2 この規則施行後最初に任命される第3条第1項第5号の委員の任期は、同条第2項本文の規定にかかわらず、平成15年3月31日までとする。

附 則

- この規則は、平成17年4月1日から施行する。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

資料 A - 1 - - 9

平成17年10月14日

教職員各位

地域共同研究推進センター長
勸久保 広一

第二回外部資金獲得に関する説明会の開催について

第二回外部資金獲得に関する説明会を下記のとおり開催いたします。
外部資金獲得に当たり文部科学省の科学研究費以外にもいろいろなファンドがあり、今回は経済産業省の方を講師にお迎えし、経済産業省の考え方や補助制度についてお話を伺う機会を得ました。

何かとご多忙中とは存じますが、万障繰り合わせの上、御出席願います。

記

目 的： 外部資金獲得に当たり文部科学省以外にも多くの資金があります。資金獲得に当たりそれぞれの資金に関する理解を深め、最適な資金に応募して頂くため、経済産業省のファンドについて省の考え方や補助制度の解説を受ける。

また、本講師は四国地区の産学官連携の経済産業省の担当官であり今後の本校の産学官連携の増大に向けた貴重なご意見を頂き、併せて、本校の学術研究の進展に寄与することを目的とする。

対象者： 本校教職員

日 時： 平成17年10月27日（木）16時30分～17時30分

場 所： 第一会議室

日程等： ①『産学官連携の課題と現状』

講師：四国経済産業局産学連携推進担当 参事官 林 克寛

②質疑応答

出典：地域共同研究推進センター

資料 A - 1 - - 10

平成 17 年 11 月 21 日

教員各位

地域共同研究推進センター
勘久保 広一

「因島ものづくり企業見学ツアー」の開催について

先日、このことについて、参加を募りましたが、未だ多くの先生方に参加して頂きたく、募集しておりますので、ご希望の先生は今日中に 勘久保までご連絡下さい。

当日（12月8日）は
公務出張扱い（旅費は個人負担ではありません）です

出典：地域共同研究推進センター

資料 A - 1 - - 11

開催日：17/11/13(日)
場所：白雲館1階

開催時間：10:00-15:00



弓削商船高等専門学校
地域共同研究推進センター

研究成果・シーズ 公開

in shosensai

本校では、約50名の教員が教育・研究活動に従事しています。その分野は、商船学だけでなく、工学（機械、材料、電気電子、制御、情報等）の分野に及び、さまざまな研究成果を報告しています。今回は、専攻科設置を記念して、教員が有する技術をポスター展示致します。

★ 企業の皆様と、必要な技術や知識などの技術相談、共同研究や受託研究などの地域の貢献に取り組めれば幸いです。

展示テーマ（概略）

- (1) 再利用可能ゲル吸水シート
- (2) 高速度カメラ1000分の1
- (3) 歩行動作の三次元計測
- (4) 人間に協調する知能機械
- (5) 軽金属の温間プレス成型
- (6) 切削加工技術
- (7) 潮汐・フロント観測
- (8) Webアプリケーション開発
- (9) 水中音響診断

その他、20テーマ以上が公開予定！！

問い合わせ先: 0897-77-4649
担当：勘久保広一（かんくぼこういち）
Email: kankubo@mech.yuge.ac.jp

担当スタッフ

商船学科	多田光男, 村上知弘
電子機械工学科	中山 恭秀
情報工学科	田原 友典

★

出典：地域共同研究推進センター

資料A - 1 - - 12

弓削商船高等専門学校技術振興会設立趣意書

弓削商船高等専門学校（以下「弓削商船高専」という。）は、明治34年に弓削村外ヶ村学校組合立「弓削海員学校」として越智郡弓削村に設置以来、幾多の変遷を経て昭和42年に国立弓削商船高等専門学校として設置され、平成16年4月には独立行政法人化されました。今日までの104年間に6,250名の実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な技術者を輩出されています。

弓削商船高専は「しまなみ海道地域」唯一の高等教育機関であり、平成17年4月には学士の称号を持った、より高度な幅広い独創的開発能力と国際的視野を持つ技術者を卒業生として輩出する専攻科（2年課程）を設置されました。

同校では高専の持っている資産（人・知・物）を、住民には公開講座による生涯学習の実施、企業の方々には共同研究や受託研究など研究や相談の実施という形で還元しておられます。平成14年度には「地域共同研究推進センター」を設置し、民間等外部機関との連携を深め、地域産業の発展・育成のために、技術相談、技術指導、共同研究等の要請に応え、かつ、リフレッシュ教育の積極的推進を図り、併せて、弓削商船高専における研究水準の向上に取り組んでおられます。

また、弓削商船高専は、今治市と国土交通省が今治地域の造船産業の振興を図るための、平成16年度都市再生プロジェクト「自立型地方都市再生のための地域力整備」に、17年度には上島町造船振興計画検討委員会に参画されておられます。

このように、弓削商船高専は、若く有為な技術者の育成と研究活動等を通して、地域産業と連携・交流を積極的に推進されておられますが、独立行政法人化された事もあり、厳しい競争の時代を向かえておられます。今後とも益々これらの活動を活発に行っていただくには、地域産業界からの協力も今まで以上に必要と考えます。

つきましては、弓削商船高専における教育研究活動に対し、より一層の協力を図るとともに、地域産業界との連携・交流を深めることを目的に、僭越ながら、私ども弓削商船高専に関係ある者が相諮り「技術振興会」の設立を計画いたしました。

何卒、以上の趣旨にご賛同くださいますと、格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年2月吉日

発 起 人

今治商工会議所
 (財)今治地域地場産業振興センター
 因島商工会議所
 (株)愛媛銀行
 愛媛県情報サービス産業協議会
 (財)えひめ産業振興財団
 愛媛内航海運組合連合会
 尾道商工会議所
 上島町商工会設立委員会
 弓削商船高等専門学校同窓会
 (五十音順)

会 頭	檜垣 俊幸
理事長	越智 忍
会 頭	村上 祐司
頭 取	中山 紘治郎
会 長	赤松 民康
理事長	麻生 俊介
会 長	真木 克朗
会 頭	佐藤 忠男
委員長	澤田 年光
会 長	小田原 照明

出典：地域共同研究推進センター

資料A - 1 - - 13

科研費補助金説明会を開催（弓削商船高専）

弓削商船高等専門学校では去る十月五日科学研究費補助金に関する説明会を教職員を対象に、科学研究費補助金制度の啓蒙と採択率の向上を目的に開催した。

初めて科研申請をめざす若手研究者を中心に五十名程度の参加があった。

説明会は事務部長の科研制度の概要説明の後、西垣校長自ら応募の実例をあげ若手研究者の奮起を期待する熱意あふれる講話や、本校採択者の「研究の推進・応募・採択への道」と題した体験談の披露を受け、参加者は今後の研究推進に一段と意欲を見せていた。



熱弁を奮う西垣校長



体験談を熱く語る採択者

出典：会計課

観点A - 1 - : 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

本校の研究の目的の一つである練習船「弓削丸」を利用した共同研究などで得られた知見を基に卒業研究・特別研究テーマへの取り込みや(前述資料5 - 2 - (1)~(2)及び5 - 7 - 3), 四国地区高専が連携した特別講義での活用(前述資料5 - 1 - 10)など教育への還元を行っている。「e - 操船支援システムの開発」については、平成 17 年度は「弓削丸」側のワークステーションと陸上側のパソコンを携帯電話通信で結び、「弓削丸」の遠隔操船に成功している。平成 18 年度からは特別教育研究経費として採択され、文部科学省からの予算の支援も受けられることとなり、練習船の航海情報の忠実な表現とバーチャル景観映像での遠隔操船を計画している(資料A - 1 - 1)。

高専 IT 教育コンソーシアム加盟校 12 高専を中心とした、全国の高専で使える e-learning による「創造性豊かな実践的技術者養成コースの開発」は、文部科学省の現代的教育ニーズプログラム(現代 GP)において、平成 17 年度から 3 ヶ年計画で採択されている。この計画には、本校が作成した創造性教育 WG 報告書の内容及び豊富なプロコン指導により得られた知見が多く反映されており、本校は今年度、具体的なコンテンツ作成に取り組むなどプロジェクトの中核的な役割を担い、教育内容を学術の進展に即応させる研究を行っている(前述資料5 - 2 - 3)。

地域共同研究推進センターは本格的な活動を始めており、受託・共同研究や助成研究、寄付金の件数や金額、科学研究費補助金の申請件数と採択件数などは、波があるものの全体的には伸びる傾向にある(資料A - 1 - 2~3)。他大学や関連企業・研究所との定期的な研究の連携・交流も重ねているが(資料A - 1 - 4)、全体としてはまだ不十分であり、校内の教員と産業界や他研究機関が連携しやすくなるように様々な取り組みを重ねながら、今後ともさらに充実していく必要がある。

同センターによる大学及び地域社会との共催事業としては、岡山大学及び上島町と連携して、「工工学際研究・交流会」を毎年開催し、異なった分野での研究・交流を深めている(資料A - 1 - 5)。人文社会学分野においても、弓削生涯学習講座を開催するなどして、地域住民を対象に研究の還元を行い、地域の知的拠点として貢献している(資料A - 1 - 6)。また、同センター研究員が中心となって、産学官交流会での発表を行うなど外部での活動も強めている(資料A - 1 - 7)。

研究論文及び学会での発表実績は、資料A - 1 - 8に示す通りであり、様々な分野で研究発表を行い、レベルアップを図っている。校長裁量経費が配分された課題においては、その成果を年度末に、校長裁量経費実施報告書にて報告している。また、専攻科課程の特別研究においては、指導教員による細やかな指導の下で 1 期生全員が活発に学会発表を行っている(前述資料5 - 7 - 2~5)。

特許の取得数については、十分な件数になっていないが(資料A - 1 - 9)、外部講師による知的財産に関する講演会を実施し、地域共同研究推進センターが中心になって教員の特許申請の推進を検討している。

教員の学協会からの表彰や研究成果についての新聞記事への取り上げ等の事例は数少ないものの、文部科学省の内地研究員制度及び在外研究員制度を積極的に活用しており、教員のポテンシャルは高まっている(資料A - 1 - 10~11)。

(分析結果とその根拠理由)

研究の目的に沿った活動として、商船系の高専として特色ある研究活動や地域との連携、教育への還元が行われている。全国高専 12 校共同プロジェクト「創造性豊かな実践的技術者養成コースの開

発」(現代GP)の中で、本校は、具体的な e-learning コンテンツ作成に取り組むなど、中核的な役割を担い、教育内容を学術の進展に即応させる研究を行っている。研究論文及び学会発表については、様々な分野で研究発表が行われ、レベルアップが図られている。また、地域共同研究推進センターが中心になって、受託・共同研究や助成研究の推進及び外部資金受入や特許取得の増加に努めている。

以上のことから、研究の目的に沿って、教員の研究活動及び地域社会・産業界との連携の実績が着実に得られてきている。

資料 A - 1 - - 1

○組織

「e-操船支援システムの開発」の研究を行なうために、資料7図2の組織構成を提案している。

○進行状況

平成17年12月中旬に、陸上側パソコンと弓削丸側ワークステーションを携帯電話通信(FORMAカード通信)で結び、弓削丸の遠隔操船(操舵装置稼働、CPP出力変更)に成功した。また、上記、弓削丸を使用しての研究と並行して、模型実験が行なえるように、FOMAカード通信で遠隔操船のできる1人乗り「模型船」を現在製作中である。

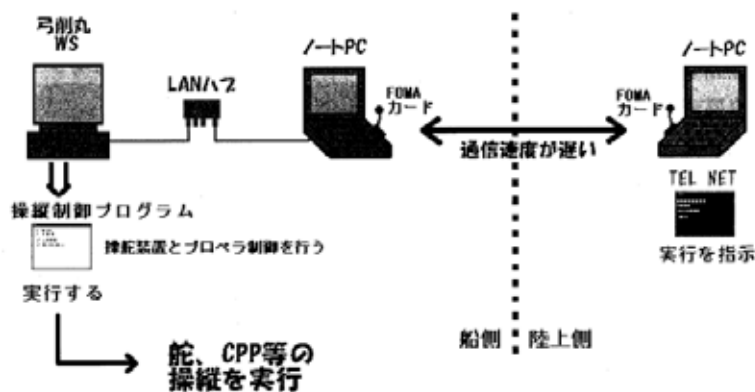
なお、このプロジェクトに関しては概算要求を行っていたが、平成18年度予算内示を受けている。

○今後のスケジュール

3年を目処に練習船の航海情報の忠実な表現とバーチャル景観映像での遠隔操船を計画している。さしずめ平成18年度計画は以下の項目を予定している。

平成18年度

- 1) 船舶からの情報取得システムの構築
- 2) 船舶側と陸上側との航海情報の通信実験
- 3) 操船シミュレータ上で航海情報のモニタリング



弓削商船高等専門学校における現在の状況<弓削丸遠隔操船の概要>

出典：自己点検評価報告書

資料A - 1 - - 2

外部資金受入状況(科研費を除く)

	15年度		16年度		17年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	1	¥1,000,000	1	¥1,000,000	4	¥1,720,000
受託研究	0	¥0	2	¥874,000	0	¥0
受託事業	0	¥0	0	¥0	1	¥50,000
研究助成金	4	¥1,100,000	1	¥400,000	4	¥1,610,000
合計	5	¥2,100,000	4	¥2,274,000	9	¥3,380,000

寄付金の推移

年度	13	14	15	16	17
件数	21	16	15	10	13
金額(千円)	8,133	10,775	10,005	12,162	7,223

出典：会計課

資料A - 1 - - 3

科学研究費補助金申請採択状況

		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
基盤研究B	申請件数	0	1	1	0	1
	採択件数	0	0	0	0	0
	採択金額	0	0	0	0	0
基盤研究C	申請件数	2	7	5	4	7
	採択件数	2(1)	2(2)	3(2)	1(1)	1
	採択金額	2100(500)	1400(1400)	3200(1000)	1400(1400)	1600
萌芽的研究	申請件数	0	0	0	6	2
	採択件数	0	0	0	0	1
	採択金額	0	0	0	0	700
若手研究A	申請件数	1	1	0	0	0
	採択件数	0	0	0	0	0
	採択金額	0	0	0	0	0
若手研究B	申請件数	2	6	5	8	9
	採択件数	2(1)	3(1)	3(2)	2(2)	2(1)
	採択金額	3100(600)	5200(600)	3800(1200)	1200(1200)	1500(600)
全体	申請件数	5	15	11	18	19
	採択件数	4(2)	5(3)	6(4)	3(3)	4(1)
	採択金額	5200(1100)	6600(2000)	7000(2200)	2600(2600)	3800(600)

※ () 内は継続に係る件数または金額 (内数)

出典：会計課

資料 A - 1 - - 4

○ 国立高等専門学校間交流、大学・高等専門学校間交流推進に関する具体的方策

平成 17 年度

12 月 26 日

広島大学にて広島大学・大阪府立大学・弓削商船高専との今年度研究打ち合わせ。

「マグネシウム合金板の成形性試験および評価について」

「高張力鋼板の成形性試験および評価について」

出席者

広島大学大学院工学研究科機械システム工学専攻知能化生産工学講座弾塑性工学研究室

教授：吉田総仁 学部 4 年生：繁樹弘典

大阪府立大学大学院工学研究科材料工学分野材料基礎講座材料プロセス学研究グループ

講師：高津正秀

弓削商船高等専門学校商船学科

教授：中哲夫 電子機械工学科 5 年生：西岡雄大，砂川隆宣

海上輸送システム工学専攻 1 年：早柏正幹

共同研究：

マグネシウム合金の研究について広島大学：繁樹学生，大阪府立大学：学部生は弓削商船の学生と協力して行った。繁樹学生は毎月 10 日程度弓削にて実験を本校学生と行った。また，繁樹学生も弓削での実験を基に広島大学の卒業論文を作成し，研究成果は弓削商船で平成 17 年 12 月に開催された塑性加工学会中国四国支部学生研究発表会にて発表（繁樹，西岡の 2 件）及び平成 18 年 3 月に広島大学で開催される日本機械学会中国四国支部学生研究発表会にて発表（繁樹，早柏の 2 件）の予定である。

高張力鋼板については広島大学：繁樹学生が弓削にて実験の協力を行い，学部 4 年生の三登，修士 1 年生の市丸学生が広島大学で主に実験・解析を行い，年数回弓削にて打ち合わせを行っている。弓削商船の学生は商船学科の岡崎，山口学生及び電子機械工学科の砂川学生が実験および解析を行い卒業論文を作成する。また，彼らも弓削商船で平成 17 年 12 月に開催された塑性加工学会中国四国支部学生研究発表会にて発表（砂川の 1 件）及び平成 18 年 3 月に広島大学で開催される日本機械学会中国四国支部学生研究発表会にて発表（砂川の 1 件）の予定である。

口頭発表

- 1：「マグネシウム合金板の FLD に及ぼす温度と速度及び粒径の影響」◎西岡，早柏，繁樹
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会(2005. 12. 9)
- 2：「Mg 合金板の FLD における解析的予測」◎繁樹，西岡，早柏
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会(2005. 12. 9)
- 3：「高張力鋼板の引張り曲げ成形性」◎砂川，繁樹
日本塑性加工学会中国四国支部第 6 回学生研究発表会(2005. 12. 9)
- 4：「マグネシウム合金板の温間 FLD の解析的予測」◎繁樹，西岡，早柏
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会（2006. 3. 7）
- 5：「マグネシウム合金板の FLD に及ぼす温度と速度及び粒径の影響」◎早柏，西岡，繁樹
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会（2006. 3. 7）
- 6：「高張力鋼板の引張り曲げ成形性」◎砂川，繁樹
日本機械学会中国四国学生会第 36 回学生員卒業研究発表講演会（2006. 3. 7）

出典：地域共同研究推進センター

資料A - 1 - - 5

平成17年11月10日

各位

第5回医工学際研究・交流会のご案内

主催 医工学際研究・交流会
 共催 岡山大学医学部保健学科
 弓削商船高専地域共同研究推進センター
 上島町
 電子情報通信学会四国支部

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 さて、昨年に引き続き本年も下記の予定で第5回医工学際研究交流会を開催いたします。
 今回は、昨年に引き続き上島町において、「高齢者の健康維持、介護、医療」をキーワードに、離島における医療・介護のあり方を考えてみたいと思っています。
 お誘い合わせの上、気楽にご参加ください。よろしくお願いいたします。

記

1. 開催日時 平成17年11月23日(水) 13時30分～16時30分
2. 開催場所 せとうち交流館多目的ホール「和楽」(越智郡上島町弓削下弓削 1037-2)
3. プログラム

13:30	開会挨拶 医工学際研究・交流会代表 上島町長	住本 哲宏 上村 俊之
司会 松下邦幸(弓削商船高専)		
13:40-14:00	演題1「周辺旅客船のバリアフリー化の現状について」 講師：弓削商船高等専門学校商船学科(商船学)	多田 光男 教授
14:00-14:20	演題2「高齢者の健康維持対策」 講師：弓削商船高等専門学校総合教育科(保健体育)	横田 臣博 教授
14:20-14:40	演題3「温泉などの地下水に含まれるラドンについて」 講師：弓削商船高等専門学校総合教育科(物理)	濱中 俊一 教授
14:40-14:55 (休憩)	ディスカッション(自由討論)	
司会 住本 哲宏(岡山大学医学部)		
15:10-15:30	演題4「離島における高齢者医療の現状と問題点」 講師：上島町魚島国民健康保険診療所長	長井 志津佳 医師
15:30-15:50	演題5「食道がんに対する治療の動向と看護」 講師：岡山大学医学部保健学科(看護学専攻)	森 恵子 助手
15:50-16:10	演題6「高齢者の介護」 講師：岡山大学医学部保健学科(看護学専攻)	西田 眞壽美 教授
16:10-16:25 16:25	ディスカッション(自由討論) 閉会挨拶 弓削商船高専地域共同研究推進センター長 勘久保広一	
4. 参加費など 無料(多数の参加をお待ちしています)
5. 問い合わせ 医工学際研究交流会事務担当
弓削商船高等専門学校 多田光男(商船学科)
TEL 0897-77-4635, FAX 0897-77-4691
mitsuo@ship.yuge.ac.jp

出典：地域共同研究推進センター

資料A - 1 - - 6

平成18年度 弓削公民館生涯学習講座計画

- 講座名 「古典文学を学ぶ講座」
- 講座対象者 弓削地区一般住民（約20名程度）
- 講座日程 平成18年4月～平成19年3月
月1回（夜間 毎月第3火曜日）約2時間程度
- 講座会場 弓削中央公民館 大会議室
- 講師 弓削商船高等専門学校 猪川優子先生
- 講師料 5,000円/回

出典：庶務課

資料 A - 1 - - 8

研究業績の推移

(件数)

年度	15	16	17
著書	4	1	2
論文発表	26	23	20
学会発表	54	19	31
紀要投稿	18	10	9

出典：会計課

資料 A - 1 - - 9

特許等出願状況

出願日	名 称	出願番号
2005.4.14	マグネトロン（マイクロ波）による流体加熱器	実願 2005-003843
2005.12.7	プレス成形における成形割れ予測方法および予測装置	特願 2005-352771

出典：庶務課

資料A - 1 - - 10

研究業績に対する各種受賞業績と新聞記事

平成 7 年 5 月	日本航海学会賞
平成 8 年 5 月	テレポート '96 東京優秀賞
平成 12 年 3 月	エレキテル尾崎財団 源内賞
平成 12 年 5 月	日本航海学会奨励賞
平成 14 年 5 月	平成 13 年度日本マリンエンジニアリング学会技術賞
平成 17 年 7 月	日本包装学会論文賞
平成 18 年 2 月	エレキテル尾崎財団 源内奨励賞



弓削商船高専は操船シミュレーターを他校にも開放する

練習船を遠隔操作

来年度にも
開発着手
商船高専5校計画

国内の全商船高等専門学校五校は共同で陸上から遠隔地の船舶を操船できるシステム開発に取り組み、弓削商船高等専門学校（愛媛県上島町）が呼びかけ、二〇〇五年年度にも事業を始める。練習船の動きを地上からモニタリングすることや、実際の船の動きを反映したシミュレーター訓練も可能に

なる。各校の連携強化で教育研究体制の拡充も狙う。二月三日に千葉県で開く商船高専校長会議で正式な協議に入る。会議には広島（広島県）、大島（山口県）、鳥羽（三重県）、富山（富山県）の四校が参加、弓削商船高専が表案を提出する。従来、商船高専間の協力は情報交換程度で、具体的事業に共同で取り組むのは今回が初めて。開発するシステムは「e-船舶支援システム（仮称）。操船と機関の両シミュレーター装置を、実際の練習船と組み

合わせる運用する。装置は陸上で機関室などの状況を再現するもの。船上と陸上で相互に通信して計器や気象などの情報を交換、指令室から船の運航を支援するほか、操作室で行えるよう、機関室などで発生したトラブル解決策の指示も容易になる。開発が順調に進めば、産業への応用も視野に入れる。新システムを使い陸上からの情報提供や支援を手厚くすれば、少人数で大規模な船団運航が可能になるとみている。弓削高専は既に保有している操船シミュレーターを他校に開放する方針。「各校の特色を生かした広域的な研究を目標とし」（西垣和校長）、連携強化に乗り出す。

出典：庶務課

資料A - 1 - - 11

内地研究員及び在外研究員の数

年 度	14	15	16	17	18
内地研究員	1	1	1	0	1
在外研究員	1	1	0	1 [*]	1

※18年度へ継続

出典：庶務課

観点A - 1 - : 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校は、平成 17 年度に修業年限 2 ヶ年の専攻科（生産システム専攻、海上輸送システム専攻）を設置し、研究環境の更なる整備・改善を行っているところである。このような状況の中で、研究活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図るために以下のような体制を整備している。

練習船「弓削丸」を共同研究や卒業研究・特別研究などに利用することに関しては、練習船運航委員会で審議・計画し有効活用を図っている（資料 5 - 2 - - 4）。

地域共同研究推進センターにおいて、研究活動の活性化、研究水準の向上、地域社会及び地域の産業の発展に貢献する研究の推進における問題点の把握やその改善策を検討している。研究活動に対する教職員からの意見は、同センター運営委員会のメンバーを通して報告される体制を採っている（資料 A - 1 - - 1）。

学生からの意見の汲み上げについては、本科の卒業研究及び専攻科の特別研究において、担当学生とコミュニケーションを取るよう努めている（資料 5 - 7 - - 1）。

学外有識者による外部評価体制として、平成 16 年度から運営諮問会議を開催し、本校の研究活動に関連して専攻科の状況や地域共同研究推進センターの問題点や今後の課題についても報告しており、改善に結び付けている。審議内容については、毎回、報告書を作成している（資料 A - 1 - - 2）。

自己点検・評価委員会においては、学術の進展に即応した教育の質の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動全般にわたって点検及び評価を行っている。総括内容については、自己点検・評価報告書をまとめ（資料 A - 1 - - 3）、それらを受けて関係の部署で課題の整理、改善に努めている。

平成 16 年度から、中期計画、年度計画を推進するために中期計画推進室を設置し（資料 A - 1 - - 4）、年度ごとの進捗状況を確認し、遅延している事項については指示を行って、着実な実施と改善を図っている。

(分析結果とその根拠理由)

練習船運航委員会、地域共同研究推進センター運営委員会、自己点検・評価委員会、中期計画推進室などの組織が設置され、自己点検・評価報告書等が公表されている。また、平成 16 年度から運営諮問会議が設置され、外部有識者による点検体制も導入されおり、研究活動の改善に役立てられている。

以上のことから、研究活動等の実施実況や問題点の把握等が行われており、改善を図っていくための体制が整備され、機能している。

資料 A - 1 - - 1

平成 17 年度第 2 回地域共同研究推進センター運営委員会議事概要

日 時	平成 17 年 11 月 4 日 (金) 16 時 20 分～17 時 15 分
場 所	第 2 会議室
出 席 者	別添のとおり
配付資料	別添資料のとおり
議 題	1. 本校または上島町内で開催される研究会等への 地域共同研究推進センターとして共催、協賛等について 2. その他

議事等

1. 本校または上島町内で開催される研究会等への地域共同研究推進センターとして共催、協賛等について

- ・ 委員長から、「第 5 回医工学際交流・研究会」について、地域共同研究推進センターとして共催することの提案があり、審議の結果承認された。なお、講義内容が決まる前に、事前に教職員に周知する必要があるため、今後はその点を徹底してほしい旨の意見があった。

第 5 回医工学際研究・交流会

日時 平成 17 年 11 月 23 日 (水)

場所 せとうち交流館

- ・ 委員長から、「日本塑性加工学会中国・四国支部学生発表会」を本校で開催することについて提案があり、今後も含め、地域共同研究推進センターとして助賛していくことので承された。

日本塑性加工学会中国・四国支部学生研究発表会

日時 平成 17 年 12 月 9 日 (金)

場所 本校アセンブリホール

出典：地域共同研究推進センター

資料A - 1 - - 2

求めている人材育成の要請に充分応えられるものと思われる。

○募集単位の検討を含めた入試制度の改善、ビデオメッセージなどのAVを活用したPR活動の充実

平成18年度の入学試験に向けて、新入生の学力テストと在校生の追跡調査を行い、入試方法の改善を検討された結果、平成18年度の入試は、「入試方法に関するWG」の検討結果を踏まえて、昨年度と同様に実施することとなった。

なお、電子機械工学科及び情報工学科については、入学志願者数が右肩下がりであるため、今後更にPR等に努める必要があるということである。

○マスメディアを活用した教育的成果の公開

平成17年3月に学校のホームページを刷新されている。学校のイメージアップとアクセス数増加の効果を期待できる。さらに、記事の更新をしやすくするため、記事の投稿を簡単にし、将来的には教員レベルでの更新を可能にする。また、記事をデータベース化することにより、全ての記事に検索を行う機能が追加されるということである。

○公開授業の実施

平成16年度は、本校教員の教授能力を向上させるために、モデル授業による公開授業を実施されている。総合教育ではホームルーム、化学及び音楽などで、専門科目では情報工学科を中心に情報処理、データベースなどの科目で開催されている。参加した教員のアンケートも踏まえて、今年度も継続して開催することを、各学科に奨励されている。

平成17年度は外部の教職員（中学校・高等学校を中心に）を対象にした公開授業を積極的に開

催して、授業の改善に役立てる計画である。既に、商船学科では船員教育の看板である「操縦・通信」の授業を取り上げて、近隣の中学・高校教員を対象に授業参観を実施されている。また、電子機械工学科においては、「工学実験」の公開授業を近隣中学校の生徒を対象に行なわれる予定である。

○専攻科教育を活用した地域産業への貢献

今治市における「自立型地方都市再生のための地域力整備検討委員会」に校長が委員長として参加されている。また、上島町における「上島町造船産業振興計画検討委員会」に教授1名が委員として参加されている。さらに、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に、独自のテーマで「自立型地方都市再生のための人材育成支援プログラム」を申請されている。

なお、現在行っている受託研究は1件、共同研究は3件ということである。

○県教委主催の会議、学警連等の会議や連絡会への参加について

地元地域の連絡協議会等へ積極的に参加されている。各連絡協議会に参加することによって得られた情報を、学生への生活指導として実践し、改善に努力されている。



3. 第2回運営諮問会議諮問事項

平成17年7月11日(月)開催の運営諮問会議において、諮問された事項は以下のとおりである。

(1) 本校の社会貢献について

国立の高等教育研究機関の大きな使命の一つに社会貢献がある。特に高専では地域に密着して社会に貢献することが大きな目標となっている。本校は瀬戸内海のほぼ中央に位置し、しまなみ海道沿いの唯一の国立の高等教育機関である。この地域は古くから海事・海運・造船の盛んな地域として知られており、海事クラスターの連携組織が形成されている。

本校が行っている公開講座・共同研究及び受託研究等(企業等からの委託を受けて行う教育・研究業務)などの活動状況を知って頂き、社会貢献として望ましいあり方についてご提言頂きたい。

(2) 専攻科の発足と内容の充実に向けて

平成17年4月1日付けで、海上輸送システム工学専攻と生産システム工学専攻の2専攻が設置されました。専攻科の特徴は、最先端の知識の教授のみならず、工学の基本的知識を縦横に应用でき、問題提起能力、解析能力及び問題解決能力、を高めるような教育を行うことでもあります。すなわち、早期専門教育や実験実習等の実践的教育によって培われた中堅技術者としての能力・素養を基盤として、大学卒業生とは異なる実践的能力に裏打ちされた創造力、技術開発能力あるいは工学的センスをもつ高度な実践的専門技術者を養成することを目的としています。

専攻科は発足したばかりですので、専攻科としての特徴を出し、本科の学生・保護者・地域の人々・企業に理解していただき、より良い学生の確

保に務めなければなりません。特別研究においては、地域共同研究推進センターと共同し地域における唯一の高等教育機関として、企業よりテーマを提供して貰い、地域への貢献に務めなくてはなりません。また、弓削商船高専専攻科の存在を社会・企業及び大学院等に認識してもらい、修了生をより良い進路に導けるよう努力していかねばなりません。

専攻科は、本年4月にスタートしたばかりですが、専攻科の内容の充実及び今後のあり方についてご提言頂きたい。

4. 審議内容

(1) 第1回提言に対する本校の対応

- ・「弓削丸」を活用した教育活動や公開授業、5商船連携等、良くやっていると思う。
- ・学生指導については、これからも開かれた学校という方向でご努力いただきたい。また、学生同士で戒め合うというような体制づくりにも力を入れていただきたい。
- ・公開講座について、もう少しアピールが必要だと思う。

(2) 本校の社会貢献について

- ・インターンシップ、キャリアサポート、協力講座等を作って、企業と組んで講義を行ってはどうか。
- ・社会教育に同窓会をもっと利用したらどうか。
- ・福祉関係の現場をボランティアで体験してほしい。
- ・産業界のニーズ、学校のシーズを分かり合えることをより重視することが必要である。
- ・研究テーマをパネルにして、技術フォーラムを開いていただきたい。

(3) 専攻科の発足と内容の充実に向けて

- ・船舶管理、人の管理ができる技術者を養成して
いってほしい。
- ・海上だけではなく、陸上等様々な荷役の方法に
対応できる等、社会のニーズに合うようにやっ
てほしい。
- ・中学生に対して、夢を与えられるようになって
もらいたい。
- ・若い人の目をいかにこちらへ向けさせるかとい
うことが大事であると思う。

特に海上輸送システム工学専攻においては、船
舶の管理、人の管理ができ、海上だけではなく様
々な物流システムに対応できる新しい時代の高度
な実践的技術者を養成していただきたいと思いま
す。

専攻科が若者に夢を与えられるような教育機関
になられることを期待しています。

平成17年10月31日

5. 提言

第1回会議の提言に対しては、様々な事に取り
組まれており、その努力が窺えました。これから
も教育研究活動の改善に努力し、さらに発展され
ることを期待しています。

また、今回の諮問事項に対しては以下のとおり
提言いたします。

(1) 本校の社会貢献のあり方について

教育面においては、インターンシップ、キャリ
アサポート等を充実させ、学校と企業の協力体制
を築けるよう努力してください。また、学生に福
祉関係のボランティア活動を体験させることなど
も提案いたします。

研究面においては、産業界のニーズ、学校のシ
ーズをお互いに把握する事が重要であると考えま
す。これからは技術フォーラムを開催する等、産
学連携により力を注いでください。

運営諮問会議

委員長 神戸大学理事・副学長 西田修身
委員 上島町長 上村俊之
〃 今治市立伯方中学校長 馬越義文
〃 弓削商船高専同窓会長 小田原照明
坂田汽船㈱代表取締役
〃 (財)えひめ産業振興財団専務理事 白石春美
〃 因島商工会議所会頭 村上祐司

**(2) 専攻科の発足と内容の充実に向けて**

専攻科が発足したことで、周辺地域の中学校か
ら関心を持ってみられ、注目されています。

資料A - 1 - - 3

自己点検評価報告書抜粋

◎専攻科を活用して地域産業に貢献

○現在までの取り組みと効果

地元、上島町における「上島町造船産業振興計画検討委員会」に本校教授が委員として参加した。平成17年度に2回の会議に出席し、委員会としての結論を出すに至っていない。また、平成16年度に今治市における「自立型地方都市再生のための地域力整備検討委員会」に本校校長が委員長として参加し、委員会から出された検討結果を17年度には実施している。



パネル展示の様子

また、11月の商船祭には、本校教員の研究内容を学生、保護者および地域住民への紹介という目的で、教員による「パネルフォーラム」を開催した。商船学科から7テーマ、電子機械工学科から9テーマ、情報工学科から6テーマ、総合教育科から5テーマ、専門3学科共通で1テーマ、合計28テーマのパネルが展示された。

因島市商工会議所が主催した「因島ものづくり企業見学ツアー」に、本校から教職員9名が参加した。

効果としては、各委員会では船舶の専門家としての知識を有効に発揮できた。また、「パネルフォーラム」では、各教員の授業だけでは得られない、研究を通して教員の一面を多くの学生に対して知らしめたといえる。「因島ものづくり企業見学ツアー」への参加では、市内の各企業の特徴ある製品作りの現場を見学して、使用されている設備システム、装置等を認識することによって、企業で使用されているシステムの再構築の可能性の有無、装置での可能な訓練等を校内で検討する体制作りの必要性を認識した。

○問題点と今後の課題

現在までの方法では、地元企業のニーズを知り、教員のシーズを企業等に紹介する方法が不十分である。したがって、今後は特に地元地域の中小企業をはじめとした生産現場におけるニーズを掌握し、それらと本校教員が持つシーズの整合性等を鑑みながら、地場産業に対する産学連携の強化を一層推進していくべきものと考えている。

このような観点から、地域産業界との連携・交流を深めることを目的とし、さらに本校における教育・研究活動に対して、地域産業界からのより一層の協力を得ることを念頭において、「技術振興会」の設立を計画し、現在、10団体の発起人からなる「技術振興会設立準備委員会」を開催して、平成18年度前半には発足会を行う予定である。

出典：平成17年度自己点検評価報告書

③産業界のニーズ、学校のシーズをお互いに把握するための技術フォーラムなどの開催（資料9）

平成14年度に「地域共同研究推進センター」を設置し、民間等外部機関との連携を深め、地域産業の発展・育成のために、技術相談、技術指導、共同研究等の要請に応え、かつ、リフレッシュ教育の積極的推進を図り、併せて、本校における研究水準の向上に取り組んできた。

○産業界のニーズの掌握と、学校のシーズの紹介について

因島市商工会議所が主催した「因島ものづくり企業見学ツアー」に、本校

から教職員9名が参加した。市内の各企業の特徴有る製品作りの現場を見学して、使用されている設備システム、装置等を認識することによって、そのシステムの再構築の可能性の有無、装置での可能な訓練等を校内で検討する体制作りの必要性を認識した。

また、本校の商船祭において、本校教員の研究内容を学生、保護者および地域住民への紹介という目的で、教員による「パネルフォーラム」を開催した。商船学科から7テーマ、電子機械工学科から9テーマ、情報工学科から6テーマ、総合教育科から5テーマ、専門3学科共通で1テーマ、合計28テーマのパネルを展示した。



パネル展示の様子

○共同研究等の実績

平成16年までの3年間の実績としては、共同研究6件、助成研究3件、技術相談20件。平成17年度においては、共同研究8件、受託研修2件となり、共同研究においては順調な伸びを示している。

○将来への展望

本校では、若く有為な技術者の育成と研究活動等を通して、地域産業と連携・交流を積極的に推進してきている。しかし、その成果は上述した通り、必ずしも充分とは言えず、今後は特に地域の中小企業をはじめとした生産現場におけるニーズを掌握し、それらと本校教員が持つシーズの整合性等を鑑みながら、地場産業に対する産学連携の強化を一層推進していくべきものと考えている。また、平成16年度に独立行政法人化されたこともあり、厳しい競争の時代に立ち向かう必要が生じている。

このような観点から、本校における教育・研究活動に対して、地域産業界とのより一層の協力を図ると共に、連携・交流を深めることを目的とした「技術振興会」の設立を計画し、現在、10団体の発起人からなる「技術振興会設立委員会」を開催して、平成18年度前半には発足会を開催する予定である。

出典：平成17年度自己点検評価報告書

資料A - 1 - - 4

○弓削商船高等専門学校中期計画推進室規則

制 定 平成16年11月18日

(設置)

第1条 弓削商船高等専門学校に、中期計画、年度計画の実施を推進するため弓削商船高等専門学校中期計画推進室（以下「推進室」という。）を置く。

(業務)

第2条 推進室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 中期計画、年度計画の実施に関する事項
- (2) その他校長が指示する事項

2 推進室は、中期計画、年度計画の進捗状況について、関係学科等に指示できるものとする。

(組織)

第3条 推進室は、次の各号に掲げる室員をもって組織する。

- (1) 各主事
- (2) 事務部長
- (3) 校長が指名した教員4名
- (4) 庶務課長
- (5) 事務部から選出された者3名

2 前項第3号及び第5号の室員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(室長及び副室長)

第4条 推進室に室長及び副室長を置く。

- 2 室長及び副室長は、前条第1項第1号の室員の中から校長が指名する。
- 3 室長は、推進室に関する業務を総括する。
- 4 副室長は、室長の業務を補佐する。
- 5 室長に事故があるときは、副室長がその職務を代行する。

(庶務)

第5条 推進室に関する庶務は、庶務課において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成16年11月18日から施行する。
- 2 この規則の施行後最初に任命される第3条第1項第3号及び第5号の室員の任期は、同条第2項本文の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。

出典：弓削商船高等専門学校規則集

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

練習船「弓削丸」を活用した共同研究や本校が中心になって推進している全国 5 商船高専共同プロジェクト「e - 操船支援システムの開発」など、商船系の高専として特色ある研究活動を展開している。また、現代 GP「創造性豊かな実践的技術者養成コースの開発」の中で、本校は、e-learning コンテンツ作成に取り組むなどプロジェクトの中核的な役割を担い、教育内容を学術の進展に即応させる研究を行っている。

(改善を要する点)

外部資金の獲得増や特許の取得増へ向けてより一層の改善に努める必要がある。

(3) 選択的評価事項 A の自己評価の概要

学術の進展に即応した教育の質の向上、地域社会及び地域の産業の発展に貢献するため、平成 14 年度に設置された地域共同研究推進センターが中心的な役割を果たして、研究活動を推進している。本校は、平成 17 年度に専攻科を設置し、教員の学位取得者が飛躍的に増加しており、様々な分野で研究の結果発表を行っている。練習船「弓削丸」を活用した共同研究や本校が中心になって推進している全国 5 商船高専共同プロジェクト「e - 操船支援システムの開発」など商船系の高専として特色ある研究活動を組織的に展開している。それらの研究活動で得られた知見を基に、卒業研究・特別研究テーマへの取り込みなど教育への還元にも努めている。また、高専 IT 教育コンソーシアム加盟校 12 高専共同プロジェクト「創造性豊かな実践的技術者養成コースの開発」(現代 GP)の中で、本校は、今年度、具体的な e-learning コンテンツ作成に取り組むなど、中核的な役割を担い、教育内容を学術の進展に即応させる研究を行っている。地域社会及び大学との共催事業開催による地域の知的拠点としての貢献、他大学や関連企業・研究所との定期的な研究の連携・交流も重ねている。今年度は、「弓削商船高等専門学校技術振興会(仮称)」の設立を予定しており、本校の技術と人材を活用し、愛媛県と広島県の沿岸と島嶼地域「しまなみ海道」エリアの産業界との連携を密にし、地場産業の技術の振興と地域社会の発展に寄与出来るように計画を進めている。

また、校長裁量経費の重点的な配分、庶務課企画調査担当職員を軸にした事務的なサポートなど研究活動の支援を行っている。

外部資金の獲得増や特許の取得増へ向けてより一層の改善に努める必要があるが、受託・共同研究や助成研究の拡充を図っており、文部科学省の内地研究員制度及び在外研究員制度を積極的に活用するなどして、教員のポテンシャルも高まっている。

研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制として 練習船運航委員会、地域共同研究推進センター運営委員会、自己点検・評価委員会、中期計画推進室などの組織を設置し、自己点検・評価報告書等を公表している。また、平成 16 年度から運営諮問会議を設置し、外部有識者による点検体制も導入しており、研究活動等の改善に結び付けている。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

(1) 観点ごとの分析

観点B-1- : 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点到に係る状況)

公開講座の企画・運営は、教務主事を委員長とする公開講座委員会で行うこととしている(資料B-1- -1)。年度当初に各学科等から提出された計画を公開講座委員会で審議し、当該年度計画の大筋を決めている。公開講座の対象は小学生から一般人まで幅広く、実施時期は夏季休業中に集中している。内容は、地域との交流を主眼においたテーマと本校の特徴を活かしたテーマをバランスよく開催できるように努力している。

過去3年間に開催した講座数は、平成17年度10講座、平成16年度6講座、平成15年度5講座である。

地域との交流を主眼においたテーマは、テニス教室、ゴルフ教室、水泳教室、健康講座、絵画教室等で、本校の特徴を活かしたテーマとしては、洋上講座、コンピュータ教室、電子工作、ロボット作成等がある。特に、洋上講座は、練習船「弓削丸」、本校教員の講演及び史跡の見学を盛り込んだ人気が高い講座で、平成18年度で18回目を数える。健康講座やコンピュータ教室は上島町との連携を図り、受講者の確保とサービスの充実に努めている。また、本校は「海の記念日」の意義を地域住民に広く知ってもらうために、練習船「弓削丸」を活用した「一日船長」等の教育サービスも実施している(資料B-1- -2)。

参加者の募集に関しては、各テーマごとの案内資料の作成・配布(資料B-1- -3)、ホームページへの掲載(資料B-1- -4)、上島町との話し合い等を行い、周知に努めている。また、平成17年度より、愛媛県教育委員会生涯学習課が行う「学び舎えひめ悠々大学運営事業」に協力・実施機関として登録している(資料B-1- -5)。平成18年度からは、今治市海事都市構想の一環で実施される「海洋に関する市民講座(仮)」への講師の派遣を行うことになっている。

(分析結果とその根拠理由)

本校では、公開講座の企画・運営を公開講座企画委員会で行うことで、組織的かつ計画的に実施している。内容は、「弓削丸」を多用する等の本校の特色を活かしたテーマと地域との交流を目的にしたテーマをバランスよく配置している。また、受講対象者も小学生から一般人まで幅広く募っている。

以上のことから、高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているといえる。

資料B - 1 - - 1

○弓削商船高等専門学校公開講座規則

制 定 昭和62年2月27日

最終改正 平成17年3月1日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）学則第52条第2項の規定に基づき、公開講座に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 公開講座は、本校の専門的、総合的な教育・研究機能を地域社会に開放することにより、生活上、職業上の知識・技術及び一般教養を身につけるための学習の機会を広く社会人等に提供することを目的とする。

(委員会)

第3条 公開講座の企画及び運営等を審議するため、公開講座委員会(以下「委員会」という)を置く。

(審議事項)

第4条 委員会は次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 公開講座の開設計画に関する事項
- (2) その他公開講座に関する事項

(組織)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
 - (2) 各学科及び総合教育科から選出された教員各1名
 - (3) 庶務課長及び学生課長
- 2 前項第2号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員会に委員長を置き、第1項第1号の委員をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を主宰する。
- 5 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。
- 6 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(開設場所)

第6条 公開講座は、本校の施設を利用して行う。ただし、必要がある場合は、本校以外で実施することができる。

(講師)

第7条 公開講座の講師は、本校の職員とし、校長が委嘱する。ただし、必要がある場合は、本校以外の学識経験者を講師として委嘱することができる。

(開設)

第8条 公開講座の開設は、運営委員会の議を経て行う。

(修了証書)

第9条 公開講座において、所定の時間の3分の2以上出席した者には、修了証書を授与することができる。

(講習料)

第10条 公開講座講習料の額は、「独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則（平成16年4月1日規則第35号）」第14条の規定に基づき定められた額とする。

2 講習料は、公開講座の受講者を決定した際に速やかに徴収する。

3 既納の講習料は、還付しない。

(庶務)

第11条 公開講座の庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、公開講座に関し必要な事項は、校長が別に定める。

出典：弓削商船高等専門学校規則

資料B - 1 - - 2

「海の日」記念事業（1日船長）の予定表

日時	事項	業務内容	担当
7月22日(金) 13:00～	弓削丸へ関係資料等を搬入	パンフ等、横断幕、チラシ、 証明書発行用紙等一式 PR資料等、カメラ、 麦茶、紙コップ。	担当教員 及び 庶務課
7月23日(土) 8:30～ 9:00 11:30 12:00 12:30 12:50 13:00 15:00 15:30 17:30	出港準備 弓削港出港 丸亀港着 受付準備 受付開始 開会挨拶等 丸亀港出港 丸亀港入港、解散 丸亀港出港 高松港入港	名簿チェック、 写真撮影（小中学生のみ） 挨拶、本事業の説明、注意事項 船長証明書発行準備 証明書の交付、開会挨拶	多田勝、友田 中、児玉、 野々山、三村 学生5名 三村、 学生 多田勝 中 多田勝
7月24日(日) 9:00 9:30～ 9:50 10:00 12:00 12:30 16:00	受付準備 受付開始 開会挨拶等 高松港出港 高松港入港、解散 高松港出港 弓削港入港 後片付け	名簿チェック、 写真撮影（小中学生のみ） 挨拶、本事業の説明、注意事項 船長証明書発行準備 証明書の交付、開会挨拶	多田勝、友田 中、児玉、 野々山、三村 学生5名 多田勝 中 多田勝

出典：庶務課

資料B - 1 - - 2

第2回弓削商船高等専門学校「海の日」記念事業実施要項

「一日船長」貴方も船長になってみませんか

目的 海の日記念日は、海上交通、海上安全の確保、海洋の開発・利用と環境の保全など、海洋国家日本にとって海の果たす役割とその重要性について、広く国民に理解と認識を深めてもらうことを目的とする。

期日 平成17年7月23日(土) 坂出地区
平成17年7月24日(日) 高松地区

参加費 無料

定員 50名

修了証書 参加者には全員「弓削丸船長証明書」を交付します。

日 程	集 合	行 程
7月23日(土)	12:30 丸亀港(外堀岸壁) 弓削丸横 集合	13:00 出港 15:00 入港
7月24日(日)	9:30 高松港(2万トンバース) 弓削丸横 集合	10:00 出港 12:00 入港

申込方法 申込書に必要事項をご記入のうえ、7月15日(金)までにお送りください。FAX、はがき、メールでの申込みもできます。保護者の方が参加される場合は保護者欄もご記入ください。
なお、受付は先着順とし、定員になり次第締め切らせていただきます。また、お申込みの際いただきます個人情報は本件以外に使用することはありません。

申込み及び問い合わせ先

〒722-2324 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 1000
弓削商船高等専門学校庶務課専門職員
TEL0897-77-2877 FAX0897-77-4691 Mail kikaku@office.vuge.ac.jp

----- キリトリ -----

第2回弓削商船高等専門学校「海の日」記念事業参加申込書

ふりがな

氏 名 _____ 性別 男・女

生年月日 平成 年 月 日 小・中学 年生 年齢 歳

ふりがな

保護者氏名 _____ 性別 男・女

保護者生年月日 昭和 年 月 日 年齢 歳

住 所 _____

電 話 番 号 _____

出典：海の日記念事業実施要項

資料B - 1 - - 2



海の日 弓削商船高等専門学校練習船

平成17年7月23日(土)
於：丸亀港

平成17年7月24日(日)
於：高松港

弓削丸

YUGE MARU

「一日船長」

お～い！
小学生
中学生集合！

貴方も
船長になって
みませんか

あなたの写真入り「船長証明書」をお渡しします。
申込・問合せ先：弓削商船高等専門学校・庶務課
TEL 0897-77-2877 FAX 0897-77-4691

出典：「一日船長」案内(表)

資料B - 1 - - 2



「海の日」

海の日記念日は、海上交通、海上安全の確保、海洋の開発・利用と環境の保全など、海洋国家日本にとって海の果たす役割とその重要性について、広く国民に理解と認識を深めてもらうことを目的としたもので、昭和16年に当時の通信大臣、村田省蔵氏の提唱により次官会議を経て決定されました。この海の記念日の由来は、明治9年、明治天皇が東北・北海道ご巡幸の帰途、青森から函館を経て汽船「明治丸」で、横浜港にご安着された日（7月20日）にちなんだものです。軍艦以外の汽船で当時の最優秀新造船であった明治丸をお召船としたことが将来の海洋国日本を予言するものとして、国の記念日とするにふさわしい日とされました。なお、明治丸は当時の姿をそのままに今も越中島の東京海洋大学（旧東京商船大学）に保存公開されています。

体験乗船

平成17年7月23日(土)

13:00～15:00

丸亀港

(港町 外堀岸壁)



「一日船長」

平成17年7月24日(日)

10:00～12:00

高松港

(2万トンバース)



乗船ご希望の方は、弓削商船高等専門学校・庶務課まで
お申込み下さい。弓削丸の乗船定員により、同伴の保護者
の方も含めて先着50名様までとさせていただきます。
出発の30分前より弓削丸前で乗船手続きをいたします。

〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地
弓削商船高等専門学校・庶務課
TEL0897-77-2877 FAX0897-77-4691

出典：「一日船長」案内（裏）

資料B - 1 - - 3

平成17年度弓削商船高等専門学校公開講座募集要項

第18回弓削丸洋上講座「技術と文化」

弓削商船高等専門学校練習船「弓削丸」で瀬戸内海をクルージングしながら、
歴史、環境、文化について考える、1泊2日の公開講座です。今年の目的地は呉です。

講師 総合教育科 講師 坂内 宏行「国際語としての英語とその歴史」
電子機械工学科教授 大石 健司「ものづくりとダイヤモンドーダイヤモンド工具あれこれ」
情報工学科 講師 徳田 誠 「震災時におけるレスキューロボットの開発について」
商船学科 助教授 児玉 敬一「船舶の測度の歴史と変遷ートン数とはー」
" 教授 多田 光男「瀬戸内海の海上交通と海難」

期 日：平成17年9月23日（金）～24日（土）

対 象：市民一般（高校生以上）

定 員：20名程度

受講料：無料（ただし、諸経費として損害保険料、船内食事代、寝具クリーニング代等
2千円いただきます。また、現地での入館料、夕食代が別に必要です。）集 合：9月23日（金） 8時15分 弓削商船高等専門学校（学校棧橋）
10時00分 今治港第1棧橋

宿 泊：9月23日（金）呉で船中泊。

解 散：9月24日（土）16時00分 今治港第1棧橋
17時30分 弓削商船高等専門学校（学校棧橋）

主な見学地：長門の造船歴史館（倉橋島）、大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）など。

備 考：保険証（写しでも可）、洗面用具、バスタオル、寝間着、スリッパ等をご用意ください。
23日（金）の船内夕食はありませんので、各自上陸して取ってください。
23日（金）は全員船内に泊まっていただきます。申込方法：住所、氏名、生年月日、電話番号を明記し、諸経費2千円を添えて9月15日（木）
までに下記へ申し込んでください。高校生の方は保護者の同意書を添えて申しこんで
ください。受付は先着順とし、定員になり次第締め切らせていただきます。
（損害保険料は事前に申込みますので、直前のキャンセルができない場合があります。）

22日（木）宿泊希望される方はお問い合わせください。

なお、個人情報は本目的以外には使用しません。

問合せ先：〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地

弓削商船高等専門学校庶務課 三村 TEL0897-77-2877 FAX0897-77-4691

E-mail kikaku@office.yuge.ac.jp

平成17年度弓削丸洋上講座受講申込み書

氏 名 _____

住 所 _____

生年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 年齢 _____ 歳

電 話 _____

出典：公開講座募集要項

資料B - 1 - - 5

平成 17 年 11 月 22 日

弓削商船高等専門学校
校長 西垣 和 殿

学び舎えひめ悠々大学事務局長



実 施 機 関 登 録 通 知 書

学び舎えひめ悠々大学へ参加申込みいただき、ありがとうございました。
貴機関を実施機関として登録しましたので通知いたします。
登録許可番号（ID）及び暗証番号（パスワード）をお知らせいたしますので、責任をもって管理してください。
情報の登録等にあたりましては、愛媛県生涯学習情報提供システム管理運営要綱を遵守してください。

1 機 関 ・ 団 体 名	弓削商船高等専門学校		
2 機関・団体名（ひらがな）	ゆげしょうせんこうとうせんもんがっこう		
3 郵 便 番 号	〒794-2593		
4 所 在 地	越智郡上島町弓削下弓削1000番地		
5 電 話 番 号	0897-77-2877		
6 F A X 番 号	0897-77-4691		
7 ホームページURL	http://www.yuge.ac.jp/		
8 電子メールアドレス	kikaku@office.yuge.ac.jp		
9 連 絡 担 当 者	職 名	庶務課専門職員	氏 名
			三 村 秀 樹



登録許可番号（ID）	EMC260001
暗証番号（パスワード）	EMC260001

出典：庶務課

観点B - 1 - : サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。
また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校は、公開講座等の実施に当たって、ほとんどの講座でアンケートを行い、活動の成果を調査している。過去3年間に開催した参加者数は、平成17年度132名、平成16年度88名、平成15年度67名である。平成17年度に実施された公開講座及びアンケート結果は以下の通りである(資料B - 1 - - 1)。

公開講座名と参加者数

ヨット教室：参加者数 6名

小学生テニス教室：参加者数 19名

子供絵画教室：参加者数 9名

ロボット製作教室：参加者数 10名

コンピュータを使って楽しもう：参加者数 14名

第18回弓削丸洋上講座：参加者数 27名

ものづくり教室：参加者数 2名

中高年の健康教育講座：参加者数 11名

パソコン教室：参加者数 27名

ゼロから始めるインターネット・PRホームページ開設講座：参加者数 7名

その他の公開講座

一日船長(高松港周辺,丸亀港周辺):参加者数 93名

アンケート結果

全体の意見として、全ての講座で「満足した」「良かった」「次回も参加したい」等の開講に対して肯定的な結果となった(資料B - 1 - - 2)。

改善のためのシステムとしては、講座終了後に公開講座実施報告書を公開講座企画委員会に提出し、より良い公開講座を実施するための改善を行っている。

(分析結果とその根拠理由)

本校の公開講座は、少子化が進む島嶼部の環境で講義内容の精選、練習船「弓削丸」の活用、出張講座、上島町との連携等により、参加者の確保に努めている。都市部に隣接した高専と比較すると参加者数にやや不満が残るが、概ね良好に実施されている。また、事後のアンケート結果から、参加者は満足している状況である。

以上のことから、サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっており、改善のためのシステムも機能しているといえる。

資料B - 1 - - 2

平成17年度公開講座実績

講座名称	総開設時間数	受講対象者	受講定員	受講者数	有効回答者数(A)	左の内満足回答者数(B)	満足度率(B/A)
ヨット教室	10	社会人一般	15	6	6	6	100.0%
小学生テニス教室	10	小学生	10	19	11	8	72.7%
子供絵画教室	6	小学生	10	9	8	7	87.5%
ロボット製作教室	3	小中学生	10	10	10	9	90.0%
コンピュータを使って楽しもう	3	小中学生	10	14	13	9	69.2%
第18回弓削丸洋上講座	10	高校生以上	20	27	24	24	100.0%
ものづくり教室	3	中学生	10	2	2	2	100.0%
中高年の健康教育講座	6	社会人一般	10	11	6	5	83.3%
パソコン教室	12	社会人一般	40	27	24	22	91.7%
ゼロから始めるインターネット・PRホームページ開設講座		中学生以上		7	7	7	100.0%

出典：庶務課

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の公開講座は、練習船「弓削丸」を随所に活用するなどして、海洋に関する教育サービスを展開していることは優れているといえる。これに加えて、工業系2学科は「ものづくり」や「コンピュータ」をテーマに幅広い公開講座を実施しようとしている。また、講座内容も「地域との交流を主眼においたテーマ」と「本校の特徴を活かしたテーマ」の2つテーマを念頭において、公開講座が学校PRや単なる遊びの場にならないように配慮している。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 選択的評価基準の自己評価の概要

本校では、正規課程の学生以外に対する教育サービスが実施できるように、公開講座企画委員会を設置して、組織的かつ計画的に実施している。内容は、「弓削丸」を多用する等の「本校の特色を活かしたテーマ」と「地域との交流を目的にしたテーマ」をバランスよく配置している。また、受講対象者も小学生から一般人まで幅広く募っていて、事後のアンケート結果から、参加者は満足している状況である。さらに、少子化が進む島嶼部の環境下での参加者確保については、講義内容の精選、練習船「弓削丸」の活用、出張講座、上島町との連携を図る等して努力している。

以上のことから、正規課程の学生以外に対する教育サービスは、活動の成果が十分に上がっていると言える。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が優れている。